はじめに

文責；地理　鈴木達人

①　地理とは何か

地理の講座を担当する鈴木です。下の名前はたつじんと言います。たつじん先生あるいはたつじんと呼んでくれると，とても嬉しいです。

さて，地理とは何なのでしょう。地理は社会の一部です。我々を取り巻くものが社会なわけですが，そのうち人間の手の及ばないもの，人間の力を超えたものが地理なのです。歴史や倫理，政治は人間が作ったものです。それに対し，地理とは「風が吹き，雨が降り，作物が実り，人口が増えていく」ことであり，「お金が巡り，人が移動し，貿易がなされ，都市が形成されること」なのです。これらは全て人間の意志によってなされる現象ではなく，自然科学や社会科学と呼ばれるものです。そう，地理は科学（サイエンス）なのです。さまざまな事象について科学的な視点で解析し，そこに法則性や論理性を見出していくことが重要です。科学的な目を養うことを地理学習の目標にしましょう。

②　講座について

この「地理」講座では，共通テスト対策を中心としつつも，広く地理全般をカバーしています。みなさんの中には共通テスト対策だけではなく，私大や国公立二次の対策として本講座を受講している人も多くいると思いますが，もちろん大歓迎です。この講座を通じ，地理という科目の全体像を捉え，地理的な思考法を身につけることができると思いますし，それは全受験生にとって非常に重要なことです。言うまでもなく，私大の場合は地名や都市名もしっかり覚えないといけませんし，国公立二次ならば論述の力も鍛えないといけませんが，まずはこの講座をきっかけとして「サイエンス」としての地理の世界を楽しんでください。ベースを固めてこそ，発展への飛躍があるのです。

もちろん共通テストでのみ地理を受験するみなさんにとっては，よりジャストミートな内容になっています。共通テストは旧来のセンター試験の内容を引き継ぎ，さらに思考力が重視されながらも，大きく傾向が変わったところはありません。これまでに行われた共通テストのみでなく，それ以前に実施されたセンター試験の問題を含め分析と研究の対象とし，さらに深い理解へとつなげていきましょう。

本講座では，入試に必要となる地理のエッセンスを全 20 講に過不足なくまとめました。地理は容易に満点が取れる科目ではありませんが，この講座の内容をしっかり理解すれば，必ずや貴方の目標とする点数に達することができるはずです。心して取り組んでください。

③　授業について

　この講座は20の講から成り立っており，地理のエッセンスが凝縮されています。原則としてそれぞれの講は独立しており，どれから受講しても構わないのですが,「１人当たりＧＮＩ」の概念を掴むことは大切ですので，まず第１講からスタートすることをお勧めします。また第４講と第５講は地球規模の気候の話ですが，連続して受講した方が理解しやすいと思います。授業は練習問題の解説を中心に進んで行きます。とはいえテキスト部分も重要ですので，あらかじめしっかり読んでおいてください。また練習問題についても，解く必要はありませんが，事前に目を通しておいてください。問題の内容を把握しておかないと，授業に付いて来れなくなりますよ。また，それぞれの講は３つのチャプターから成り立っていますが，説明が複数のチャプターにまたがっていることも多いので,必ず順番に全てのチャプターを視聴してくださいね。

④　準備するもの

　赤ペン，青ペン，蛍光ペン，定規といった作業道具を用意してください。授業は練習問題の解説を中心に進みますが，その中に多くの文章，グラフ，図が登場してきます。文章ならば，ポイントとなる語句を強調しましょう。グラフならば，より読み取りがスムーズになるよう補助線を描いてみましょう。図ならば，重要な国や地形，都市の位置を直接書き込んでみましょう。もちろん本番の試験ではそういった色ペンや定規の類は持ち込むことはできませんが，今は訓練の段階です。問題の中に直接書き入れることによってイメージをふくらませ，理解を助ける手段とするのです。地理の問題は即答できるものは少なく，いずれも解答に十分な時間を必要とするものばかりです。一つ一つの問題について，線を書き入れ，着色し，作業することによって深い洞察力を養うことが大事なのです。

　なお，教科書，地図帳，統計要覧，資料集などについてはとくに必要としません。テキストに集中し，その内容を全て吸収するつもりで受講してくれると大変嬉しいです。

⑤　予習・復習について

　授業を受けるにあたり，必ず予習はしてくださいね。まずテキスト部分をじっくり読み込みましょう。語句を暗記することが学習のポイントではありませんので，あえて語句を太文字や下線部で強調しているようなことはしていません，それより，文章をしっかり読み込み，内容を理解することが最優先です。[知っておこう］や「チェック！」についても，直接テストで問われる事項が説明されているので，ぜひ読んでおきましょう。テキストを一つの読み物として楽しんでもらえるととても嬉しいです。事前に内容を把握しておけば，授業の中で「あ，たつじん先生は今この部分についてしゃべっているんだな」というように,授業の流れが掴みやすくなると思います。

　さらに，練習問題にも目を通して置いてください。各講について10問程度の練習

問題がつけられています。発展的な内容を含むものもあり，解くのは難しいかも知れませんが，簡単で構いませんので内容だけは事前に確認しておいてください。授業は問題解説が中心になりますので，問題内容を把握しておいた方が学習効果が高くなります。おもしろい問題ばかりなので，楽しみながら勉強できると思いますよ。

なお，それぞれの問題には出典が示してあります。過去30年分以上のセンター試験（共通一次を含む）・共通テストから選りすぐった問題ばかりです。共通テスト地理の傾向はセンター地理と変わりませんので，センター試験の過去問研究は非常に有効な対策となります。さらに，いずれの問題も質が高く，私大や国公立二次の内容にも対応しているので安心してください。また，中には年次の古い統計を利用した問題もありますが，これについても気にしないでください。統計についても一つ一つを暗記するのではなく，その傾向や特徴を分析することが重要であり，古い統計であっても十分に価値があります。

さらに受講後はぜひとも確認問題にチャレンジしてみてください。授業の内容で十分に解答できるものが主ですが，一部には発展的な内容を含むものもあります。解説を読みながら，細部までしっかり理解してくださいね。そしてある程度マスターできたなと実感できたら，もう一度テキストをじっくり読み返し，さらに練習問題に再度チャレンジしてみましょう。地理に関する様々な事象が頭の中でつながって，「なるほど,そういうことなのか」と気づくことが多いと思いますよ。地理はあくまで「社会」すなわち身の周りのことを学習する科目です。今日習ったことを，自分の周囲の状況に当てはめて,一つ一つ納得しながら,先に進んでください。この授業で得たこと，そして地理的な思考が，君たちにとって最高の宝物にならんことを期待しています。

⑥　最後に

この授業を通じて，「地理っておもしろいな」って少しでも思ってもらえたら最高です。みなさんの知的好奇心を刺激し，さらなるモチベーションアップへとつなげることも目標の一つにしています。もちろん授業は受験に特化した内容であるので，時には演出効果も狙って極端な物言いになっている部分もあります。世間一般的な常識や事実とは異なった発言もしているかも知れません。でもそれは許してくださいね。たつじん先生はあくまで地理の思考法をみなさんに提示しているのです。純然たる地理学や学校の教科書の内容とは異なっているので，そこを疑問に思う人もいるかも知れません。しかしそういった人はぜひ大学に入ってから専門の本を読んで，本当の地理の世界を勉強してみてください。それはとても素晴らしいことです。

とにかく「受験突破」。この言葉をひたすら心に念じて，勉強に取り組みましょう。大学合格は決して簡単なことではありません。時には打ちひしがれ，気持ちが乱れることもあると思います。しかし。たつじん先生はいつでも君たちの味方です。授業を通じて，君たちに情熱とパワーを送ります。一緒にがんばりましょう！

目　次

第１講　人口・１人当たりＧＮＩ・ＧＮＩ ……………………………… p6

第２講　人口移動 …………………………… p38

第３講　経済地理・産業構造の高度化 …………………………… p66

第４講　天体としての地球 …………………………… p88

第５講　大気の大循環・風系の移動 …………………………… p108

第６講　季節風・東岸と西岸の気候 …………………………… p138

第７講　海流・土壌・植生 …………………………… p162

第８講　大地形 …………………………… p182

第９講　特殊な地形・海岸地形 …………………………… p204

〈 ***Note*** 〉

第１講
人口・１人当たりＧＮＩ・ＧＮＩ

共通テスト地理で統計は重要視される。基本的な統計として，人口と１人当たりＧＮＩ，そして両者の積であるＧＮＩについて学ぼう。さらに人口に関する様々なデータをひもときながら世界を俯瞰していく。統計に対する理解が，地理学習の根底を成すのだ。

１．１　日本に関する数字

人口；1.2億人　1.3億と考えてもいいが，人口減少傾向にある日本は将来的にも1.3億人に達することはない。1.2億人という数字で頭に入れておくといい。

面積；38万㎢　四国＝２万㎢を一つの単位として，九州が四国×２，北海道が四国×４，本州が四国×12。

人口密度；326人／㎢　人口密度は，人口に比例し，面積に反比例する。人口大国であり，なおかつ面積はさほど大きくない日本の人口密度は，高い。

以下の公式を理解しておく。

(人口密度)＝(人口)÷(面積)

(人口)＝(人口密度)×(面積)

(面積)＝(人口)÷(人口密度)

１．２　人口上位10か国

それぞれ次のような数値で覚えておくと使いやすい。

１位；インド(14.8億人)　多産を奨励するヒンドゥー教徒が多い。

２位；中国(14.3億人)　人口増加率は世界平均を下回る。

３位；アメリカ合衆国(3.4億人)　移民の流入が多く，彼らの出生率も高い。

４位；インドネシア(2.7億人)　世界最大のイスラム教徒人口。

５位；パキスタン(2.3億人)　乾燥した国土。外来河川インダス川を有する。

６位；ブラジル(2.1億人)　混血が進む「人種のるつぼ」。南米大陸の半分を占める人口と面積。

７位；ナイジェリア(2.1億人)　アフリカ最大の人口。GNIもアフリカで１位。

８位；バングラデシュ(1.7億人)　面積が狭く人口密度が高い。

９位；ロシア（1.5億人）　人口密度は10人／㎢に満たない。

10位；メキシコ（1.3億人）　カトリックが主に信仰され，人口増加率は高め。

１．３　人口規模を知っておくといい国

・韓国は巨大都市ソウルを有する国であるが，総人口は5000万人と多くない。

・東南アジアはインドネシア以外でもフィリピンとベトナムの人口が多く，１億人規模。タイはやや少なく7000万人，マレーシアはさらに少なく3000万人。都市国家シンガポールの人口は少なく，500万人程度。

・新大陸には面積に比べ人口の少ない国が多い。カナダが4000万人，オーストラリアが2500万人，ニュージーランドが500万人。

＜チェック！＞

人口は農業すなわち気候条件との関係が大きい。冷涼なカナダ，少雨のオーストラリアは農業が困難な地域が多く，人口過疎国となる。

１．４　西ヨーロッパの主な国の人口

主要国については次のような概数で覚えておく。

8000万人；ドイツ

7000万人；イギリス

6500万人；フランス

6000万人；イタリア

4500万人；スペイン

それ以外の国々（スウェーデンやベルギー，オランダ，ポルトガルなど）についてはいずれも1000万人規模と考えれば十分。上記の主要５か国との間には決定的な違いがある。

西ヨーロッパ最大の国がドイツである。ＧＮＩや貿易額においても西ヨーロッパ最大となっている。東ヨーロッパではポーランドが4000万人，ルーマニアが2000万人。オランダなどの国は人口規模が小さい小国。

＜チェック！＞

共通テスト地理で一般に「大都市」と言われる場合は、人口1000万人規模とそれ以上の人口を有する都市を考える。東京やシャンハイ，ニューヨークなどは

1000万人を遥かに上回る人口規模。西ヨーロッパの多くの「国」はそれら「大都市」より規模が小さいのだ。

１．５　面積と人口密度

面積上位７か国については，日本（38万㎢）の何倍の面積を有するかが重要。

１位；ロシア（日本の45倍）

２位；カナダ（日本の26倍）

３位；アメリカ合衆国（日本の26倍）

４位；中国（日本の24倍）

５位；ブラジル（日本の22倍）

６位；オーストラリア（日本の20倍）

７位；インド（日本の９倍）

面積は，人口密度の計算に用いる。人口密度が，人口に比例し，面積に反比例することを利用する。

とくに日本を基準に考えるといい。

（人口密度）＝（人口）÷（面積）　だが

（人口密度）＝（日本の人口密度）×（日本との人口比）÷（日本との面積比）　である。

韓国は，人口が日本の５分の２（5000万人），面積が同じく４分の１（10万㎢）なので，以下の計算式が成り立つ。

（韓国の人口密度）＝326×（２／５）÷（１／４）≒522　と算出される。

オーストラリアならば，

（オーストラリアの人口密度）＝326×（１／５）÷20≒３　となる。

１．６　１人当たりＧＮＩ

共通テスト地理で最も重要な指標が「１人当たりＧＮＩ」。なおＧＮＩとは国民総所得のことで，ＧＮＰ（国民総生産），ＧＤＰ（国内総生産）と同じ意味と考えていい。

１人当たりＧＮＩとは「経済レベル」のこと。具体的には「物価」「賃金水準」の目安となる。これが高い国は先進国と呼ばれ，福祉が充実したり，金融業が発達したりする。教育水準も高い。これに対し，１人当たりＧＮＩが低い国は発展途上国と称され，社会基盤が整わず，就学率・識字率が低い。

また先進国では研究開発を必要とする先端産業などが発達するのに対し，１人当たりＧＮＩの低い国では安価な労働賃金をいかした組立工業などが発達しやすい。

（１人当たりＧＮＩ）＝（ＧＮＩ）÷（人口）で算出されるため，人口規模に反比例する傾向があることを意識する。人口が少ない北欧諸国などで高い値となり，人口大国の中国やインドでは低い。ただしアメリカ合衆国や日本など人口大国でありながら１人当たりＧＮＩも高い国があるが，これらは極めてＧＮＩの規模が大きいということ。ＧＮＩについては後述。

［１人当たりＧＮＩ］

おおまかな数値 （ドル／人）	ヨーロッパの国々 ●・・・ＥＵ	それ以外の国々 ◎・・・ＡＳＥＡＮ △・・・ＵＳＭＣＡ ×・・・ＯＰＥＣ
70000	スイス（88910） ●ルクセンブルク（88190） ノルウェー（83190） ●デンマーク（68300）	△アメリカ合衆国（70900）
65000		◎シンガポール（63000）
60000	●スウェーデン（60210）	カタール（62370）
55000	●オランダ（55180）	オーストラリア（57170） ホンコン（54370）
50000	●ドイツ（51660）	△カナダ（48720） イスラエル（49280）
45000	イギリス（44790） ●フランス（44160）	ニュージーランド（45770） ×アラブ首長国連邦（43460） 日本（43450）
40000		
35000	●イタリア（36130）	韓国（35110） ×クウェート（33780） 台湾（33708）
30000	●スペイン（29690）	
25000	●チェコ（24530） ●ポルトガル（23880）	×サウジアラビア（23920）
20000	●ハンガリー（17780）	
15000	●ポーランド（16850） ●ルーマニア（14200）	
10000	ロシア（11820）	中国（11930） アルゼンチン（9960） トルコ（9920） ◎マレーシア（10710） △メキシコ（9590） ブラジル（7900）
5000		◎タイ（7090） 南アフリカ共和国（6530） ◎インドネシア（4170）
3000		×アルジェリア（3680） ◎ベトナム（3590） ×イラン（3530） エジプト（3520） バングラデシュ（2570）
2000		インド（2150） ×ナイジェリア（2120） ケニア（2080）
1000		◎ミャンマー（1170） エチオピア（940）

統計年次は2021年『データブック　オブ・ザ・ワールド2024』により作成。
単位は「ドル」が一般的だが，数値の意味を考え，本表では「ドル／人」を使用している。

すでに国境を越えた経済活動が自由に行われているＥＵではあるが，国ごとに経済レベルの差は大きい。全体的には，北欧でとくに高く，南欧でやや低め，東欧でとくに低いといった地域ごとの差異を意識すること。

ＯＰＥＣ諸国はいずれも原油の輸出がさかんだが，経済レベルの差は大きい。西アジアのアラブ国家（サウジアラビアなど）で高く，また人口小国でも高い水準となっているが，ナイジェリアなど人口規模の大きな国では低い値にとどまっている。

『高い方から低い方へ工場が移動する』

１人当たりＧＮＩの高い国から低い国へと，工場が進出する。安価な労働賃金を利用するため機械工業や繊維工業などの労働集約型工業が中心である。

アメリカ合衆国からカナダへ自動車工場が進出し，ドイツやフランスからスペイン，チェコへやはり自動車工場が進出する。日本からマレーシアへと電気機械工場が進出し，同じく日本から中国やベトナムへと電気機械工場や衣類工場が進出する。製品価格と１人当たりＧＮＩの間に関係があることも意識してほしい。

『低い方から高い方へと労働者が移動する』

１人当たりＧＮＩの低い国から高い国へと，労働者が移動する。高い賃金と多くの雇用機会を求め，経済活動の活発な先進国へと発展途上国から出稼ぎ労働者が流入する。

ドイツでは戦後復興期にトルコからの出稼ぎ労働者が多く流入した。日本でも1990年代に自動車工業などに従事するブラジル人の数が増加した。南アジアの国々から西アジアの産油国へと建設業の労働者として移動する人々も多い。

[知っておこう]

１人当たりＧＮＩの概念は，統計問題だけではなく，文章正誤問題でも登場するので注意。「ロシアから外国へ企業がさかんに進出している」「中国は外国人労働力が多く流入している」という選択肢が文章正誤問題で取り上げられたことがあるが，いずれも誤り。

また日本の工場が進出する主な国は，80年代は韓国，90年代前半がマレーシア，90年代後半が中国，現在はベトナムというように，次第に経済レベルが低い国へと移行している。これも１人当たりＧＮＩに対応させて考えるといい。

一般的に，１人当たりＧＮＩが３万ドルより高い国が「先進国」，２万〜１万ドル程度までが「ＮＩＥｓ（中進国）」，数千ドルに達しない国が「発展途上国」。

１．７　ＧＮＩ

１人当たりＧＮＩと人口の積が「ＧＮＩ」。国民総所得である。「経済規模」を表し，具体的にはその国が全体で有する「お金」のことだと考えればいい。工業が発達した国で大きくなる傾向が強いが，１人当たりＧＮＩと人口に比例する指標であることも理解しよう。（ＧＮＩ）＝（１人当たりＧＮＩ）×（人口）　である。

１位；アメリカ合衆国（70000 × 3.4億）　世界全体のＧＮＩの25％を占める。
２位；中国（11000 × 14.3億）　経済レベルは低いが，経済規模は大きい。
３位；日本（43000 × 1.2億）
４位；ドイツ（51000 × 0.8億）　ヨーロッパ最大のＧＮＩ。
５位；インド（2000 × 14.1億）
６位；イギリス（44000 × 0.7億）
７位；フランス（44000 × 0.7億）
８位；イタリア（36000 × 0.6億）
統計年次は2021年。

＜チェック！＞

「１人当たりＧＮＩ」と「ＧＮＩ」の違いを明確にしておこう。前者は「相対的な数（割合）」であり「高い」「低い」で表現するのに対し，後者は「実数」で「多い」「少ない」で表現する。

１人当たりＧＮＩ・・・経済レベル。ＧＮＩを人口で割った商であり，原則として人口規模に反比例する。単位は「ドル」が用いられることが多いが，厳密には「ドル／人」である。思わぬ小国で高い値となってしまったりするため，順位付けはあまりされない。「賃金水準」や「物価」の目安となる。工場の進出や労働者の移動と関連づけて考えることが多い。

ＧＮＩ・・・経済規模。１人当たりＧＮＩと人口の積であり，原則として人口規模に比例。単位は「ドル」。「国内市場の規模」を関連づけて考えればよく，この値が大きい国は工業生産や貿易なども大きくなる傾向にある。

例えば中国は，１人当たりＧＮＩは低く，ＧＮＩは大きい国である。2010年代には，安価な労働賃金水準を目的に日本などから工場が進出する一方，巨大な国内市場を当て込んで，中国向けの現地生産を行う工場も多数進出した。

<チェック！>

練習問題［５］はＧＮＩを計算する問題であることが分かるだろうか。ＯＤＡ供与額と，ＧＮＩに対するＯＤＡ供与額の割合からＧＮＩを計算してみよう。

候補となる４か国のＧＮＩについては十分に想像ができるだろう。いずれの国も先進国であり１人当たりＧＮＩは高いが，人口には明確な差がある。人口を基準にＧＮＩを考える。

１．８　世界全体の人口

世界全体の人口は，2000年に60億人を突破し，それからおおよそ１年ごとに１億人ずつ増加していると考えよう。2020年代には80億人を突破する。世界全体の人口増加率についても，年１％と考える。

１．９　大陸ごとの人口と人口増加率

世界の人口分布には大きな偏りがある。高温多雨で米の栽培が多い（米はカロリーと栄養価がともに高く，多くの人口を支えることができる）アジアに過度に人口が集中している。人口密度も高い。

アジア；45億

アフリカ；14億

ヨーロッパ；7.5億

南北アメリカ；10億

オセアニア；0.5億

以上のように、アジアに圧倒的な人口が集中し，それ以外の地域は平均的な分布であることを考える。

年人口増加率は世界平均で１％ほど。なお，後述するが，人口増加には自然増加と社会増加の２つがある。国や大陸の人口増加は主に自然増加で考える。

＜年人口増加率＞

	地域(大陸)	状況
とくに高い	アフリカ	子どもが重要な労働力と考えられ，出生率が高い。
高い	南アジア	女性の地位が低く，早婚のため多産となる。
	ラテンアメリカ	カトリック地域で中絶が禁じられ，出生率が高い。
低い	アングロアメリカ	移民が流入し，先進地域としては出生率が高い。
	東アジア	中国は一人っ子政策の影響で少産。
とくに低い	日本・ヨーロッパ	高齢化による若年層の割合低下などで出生率低下。

原則として，人口増加率は経済レベル(１人当たりＧＮＩ)と反比例する。所得水準が高くなっていくほど，子どもが少なくなっていくということ。

例外は中国とアングロアメリカ。中国は経済レベルが低いのに，人口増加率も低い。これは一人っ子政策によって社会制度的に出生率を低く抑えた影響である。アングロアメリカは先進地域としては例外的に人口増加率が高い。ヒスパニックなど移民の受け入れが多く，さらにその出生率も高い。

＜チェック！＞

図表を見る場合は，最初に割合ではなく実数に注目することが重要。**練習問題[７]**も，最初に割合である人口増加率を考えてしまうと**B**を北アメリカ，**C**をヨーロッパと勘違いする。実数に注目し，それでもわからない場合は割合を考える。この手順は重要。

１．１０　自然増加率と社会増加率の関係

以下の公式を理解する。

(人口増加)＝(自然増加)＋(社会増加)

(自然増加)＝(出生)－(死亡)

(社会増加)＝(転入)－(転出)

世界全体・大陸別・国別の人口増減に関しては自然増加中心で考える。古い時代に比べればさかんになったとはいえ，国境を越えた人口移動は出生数や死亡数に比べて規模は小さい。

日本国内の人口増減に関しては社会増加中心で考える。日本全体の人口は停滞(やや減少)しており，地域ごとの人口変化は転入と転出のバランスが主な原因である。

１．１１　人口増加率と出生率の関係

アフリカ大陸で人口増加率が高いメカニズムを考えてみよう。

アフリカ大陸は経済レベルが低く，多くの出稼ぎ労働者を他大陸へと送り出しているなど，社会増加率はマイナスとなっているはず。しかし，それは全体からみればわずかな数字に過ぎない。原則として，大陸や国の人口増加率については社会増加率は考慮に入れなくていい。

アフリカでは経済レベルが低いことに起因するさまざまな理由で多産であり，出生率が高い。死亡率については，低いとはいえないが，突出して高いわけではない（＊）。老年人口割合の高い先進国の方がむしろ高い場合もあり，死亡率の値は発展途上国と先進国の間に大きな差はない。

（人口増加率）＝（出生率）－（死亡率）＋（社会増加率）　であるが，社会増加率は無視でき，死亡率もどの国・地域も似た様な値となるので，人口増加率を決定付けるファクターは出生率そのものになる。

「アフリカ大陸は，出生率が高いので，人口増加率が高い」と言い切ってしまっていい。

（＊）「死亡率」と「乳幼児死亡率」を区別しておこう。死亡率は高齢化が進んだ先進国で高くなる傾向がある。つまり１人当たりＧＮＩに比例する傾向がある。一方の乳幼児死亡率は０～５歳児の死亡率であり，社会基盤が整わず衛生環境などが劣悪な発展途上国でとくに高くなる。こちらは１人当たりＧＮＩに反比例する指標。

＜チェック！＞

出生率は，高い国々（アフリカなど）で４％程度，低い国々（ヨーロッパなど）で１％程度と地域によって差は大きい。一方，死亡率はどの大陸も１％に近い水準であり（戦争・疫病・飢餓などの場合を除き），大差はない。

[知っておこう]

中国では1980年頃から一人っ子政策が実施されてきた（2015年に終了）。全人口の90％を占める漢民族は，原則として一組の夫婦は１人の子どもしかもうけられず，これにより人口増加率は低下した。ただし，男児と女児の新生児数に片寄りがあるなど，さまざまな問題点が生じている。

なお，インドでも子どもを２人までにしようという家族計画が実施されてきた

が，中国ほどの効果はみられていない。

１．１２　合計特殊出生率

１人の女性が一生涯に産む子どもの数の平均。この値が2.1人を下回ると，将来的に人口が減少すると予測される。現在の日本の合計特殊出生率は1.3で極めて低い。

<チェック！>

人口増加率を出生率の高低と結びつけ，さらに年齢別人口構成に関連づけよう。出生率の高い国は０～14歳までの年少人口率も高くなる。［８］では人口ピラミッドが取り上げられているが，年少人口率を読み取ろう。また［９］では３つの年代の割合が問われている。［８］のグラフを参考に，それぞれの年代の割合の高低を考えてみよう。人口増加率と出生率，年少人口率の関係を読み取る。

［９］のグラフが読み取れたら，［10］の読解も難しくない。ポイントはＸとＹだが，医療の発達などで世界全体で平均寿命が伸びていることを考える。つまり高齢者の割合は今後さらに上昇し，それに対し，若年層の相対的な減少によって出生率の低下が生じることを考えよう。

１．１３　産業別人口構成

第１次産業は農林水産業，第２次産業は鉱工業，第３次産業はその他。

最も収益性が低いのが第１次産業で，最も高いのが第３次産業，経済レベルの低い国や地域では第１次産業就業人口割合が高く，経済レベルの高い国や地域では第３次産業就業人口割合が高い。

とくに第１次産業就業人口割合を中心に考える。１人当たりＧＮＩと反比例する傾向があるものの，特徴的な国も存在する。

・**先進国**・・・産業構造が高度化し，第１次産業就業人口割合が低い。ただし国ごとに差がみられる。イギリス；1.0％，ドイツ；1.3％，アメリカ合衆国；1.7％，オーストラリア；2.4％，フランス；2.5％，日本；3.2％，イタリア；4.1％。

　農業が大規模機械化されているアメリカ合衆国やオーストラリアの値が低く，小規模な家族経営が中心の日本で高い。ヨーロッパでは「北で低く，南で高い」傾向がはっきりしている。イギリスなど北部の国で合理化された農業が営まれ，南部のイタリアでは大土地所有制が残るなど生産性の低い農業がみられる。イ

ギリス，ドイツ，フランスなどが小麦輸出国であるのに対し，イタリアは輸入国。

・**発展途上国**・・・１人当たりＧＮＩの低い国で第１次産業就業人口割合は高い。また，農業が「企業的」に営まれている新大陸で比較的低く，「家族中心の零細経営的」なアジアやアフリカでとくに高い。

重要な地域は東南アジア。タイは１人当たりＧＮＩが7000ドルであり，経済レベルがとくに低い国でもないのだが，第１次産業就業人口割合は30％に達している。東南アジアのような高温湿潤な米作地域で，この値はとくに高くなる傾向が強い。

１．１４　都市人口割合

人口のうち，都市に居住する人口の割合。先進国で高く，発展途上国で低くなる傾向がある。都市人口の反対語は農村人口で，都市人口と農村人口を合計すると，その国の総人口となる。

先進国は第１次産業就業人口割合が低く，農村人口も相対的に少ない，よって都市人口割合が高くなる。

発展途上国は第１次産業就業人口割合が高く，農村人口も相対的に多い。よって都市人口割合が低くなる。

特徴的な国としてタイを知っておこう。都市人口割合は50％程度であり高い値ではない。米作国においては都市人口割合はとくに低めの値となる。

＜チェック！＞

発展途上国では都市人口率そのものは低いが，その増加の度合いは著しい。農村から都市へと仕事を求めて多くの人々が移動している。しかし十分な仕事が都市にあるわけではなく，多くの人々はスラムで劣悪な生活を強いられる。先進国はかつてはこのような急激な人口移動を経験したが，現在はその勢いは抑えられている。

ワンポイント

人口に関する指標は相関関係が強い。１人当たりＧＮＩを基準にして以下の関係を理解しよう。

A．１人当たりＧＮＩと人口増加率・・・ほぼ反比例　（中国とアングロアメリカなどは例外）

B．１人当たりＧＮＩと第１次産業就業人口割合・・・ほぼ反比例　（東南アジアなどは例外）

C．１人当たりＧＮＩと乳幼児死亡率・・・反比例

Ａについて。人口増加率と出生率が比例。同じく人口増加率と幼年人口率が比例し，人口増加率と老年人口率が反比例することから，以下のような関係が成立。

Ａ１.１人当たりＧＮＩと出生率・・・ほぼ反比例

Ａ２.１人当たりＧＮＩと年少人口率・・・ほぼ反比例

Ａ３.１人当たりＧＮＩと老年人口率・・・ほぼ比例

Ｂについて。第１次産業就業人口割合と都市人口率が反比例することから，以下の関係が成立。

Ｂ１.１人当たりＧＮＩと都市人口率はほぼ比例。

大陸	１人当たりＧＮＩ	人口増加率	第１次産業就業人口割合	都市人口率
アジア（中国）	低	中	高	低
アフリカ	低	高	高	低
ヨーロッパ（西欧）	高	低	低	高
ヨーロッパ（東欧）	中	低	中	中
アングロアメリカ	高	中	低	高
ラテンアメリカ	中	中	中	中

アフリカ，ヨーロッパ，ラテンアメリカについてはパターンに当てはまり理解が容易。以下の国・地域に関しては注意しながら上の表を参照してほしい。

１）中国・・・一人っ子政策を実施してきた。１人当たりＧＮＩが低いにも関わらず，人口増加率は高くない。

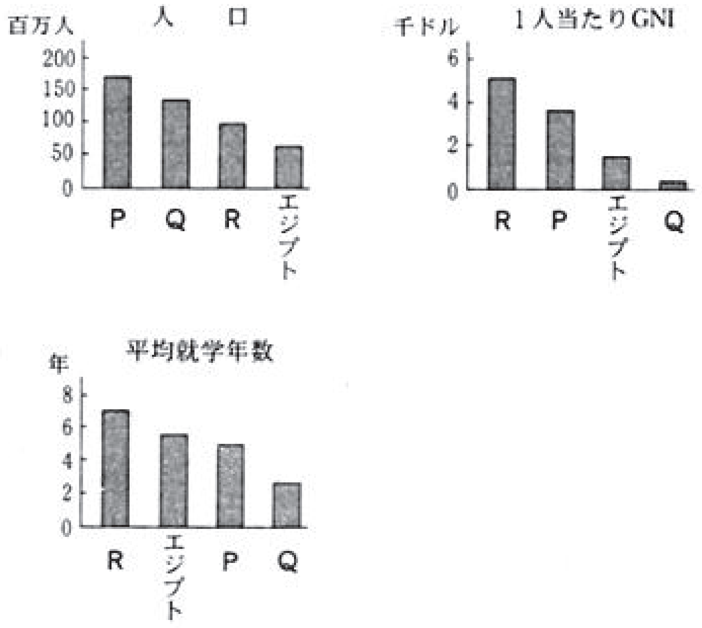
２）東南アジア・・・米作が盛んな地域。とくにタイは比較的工業が発達した国でありながら，第１次産業就業人口割合は大変高く，都市人口割合は大変低い。

３）アングロアメリカ・・・１人当たりＧＮＩが高い先進地域であるが，人口増加率も高い。移民の流入が顕著で，またそうした移民の間での出生率も高い。

第１講
人口・１人当たりＧＮＩ・ＧＮＩ［練習問題］

［１］　次の図２は，エジプトを含む４か国の人口，１人当たりＧＮＩ(国民総所得)，平均就学年数を示したものである。図２中のＰ～Ｒは，バングラデシュ，ブラジル，メキシコのいずれかである。Ｐ～Ｒと国名との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

(2004年度地理Ｂ追試験第４問問５)



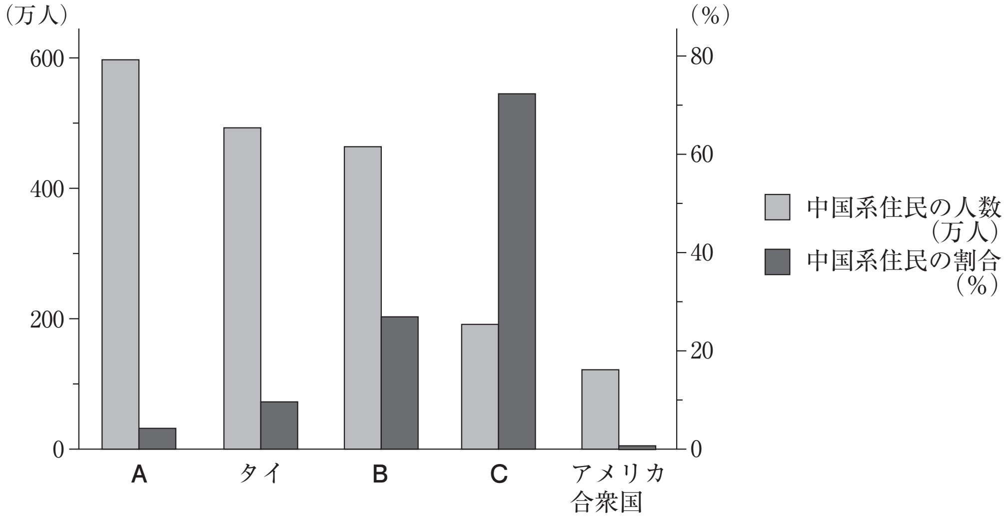
統計年次は2000年。
World Bank, *World Development Indicators* により作成。

図２

	Ｐ	Ｑ	Ｒ
①	バングラデシュ	ブラジル	メキシコ
②	バングラデシュ	メキシコ	ブラジル
③	ブラジル	バングラデシュ	メキシコ
④	ブラジル	メキシコ	バングラデシュ
⑤	メキシコ	バングラデシュ	ブラジル
⑥	メキシコ	ブラジル	バングラデシュ

［２］　次の図１は，1990年前後における中国国外の中国系住民の人数（推計値）と各国人口に占める割合を，人数の多い上位５か国について示したものであり，A～Cはインドネシア，シンガポール，マレーシアのいずれかである。A～Cに該当する国名の組合せとして正しいものを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2003年度地理Ｂ本試験第４問問１）



游仲勲編『世界のチャイニーズ』などにより作成。

図１

	A	B	C
①	インドネシア	シンガポール	マレーシア
②	インドネシア	マレーシア	シンガポール
③	シンガポール	インドネシア	マレーシア
④	シンガポール	マレーシア	インドネシア
⑤	マレーシア	インドネシア	シンガポール
⑥	マレーシア	シンガポール	インドネシア

［**3**］　人口密度と都市人口率は，人口分布の状態を示す重要な指標である。次の表**1**中の①～④はアメリカ合衆国，インド，インドネシア，日本のいずれかの人口密度と都市人口率を示したものである。インドネシアに該当するものを，表**1**中の①～④のうちから一つ選べ。

（2002年度地理Ｂ本試験第４問問５）

表**1**

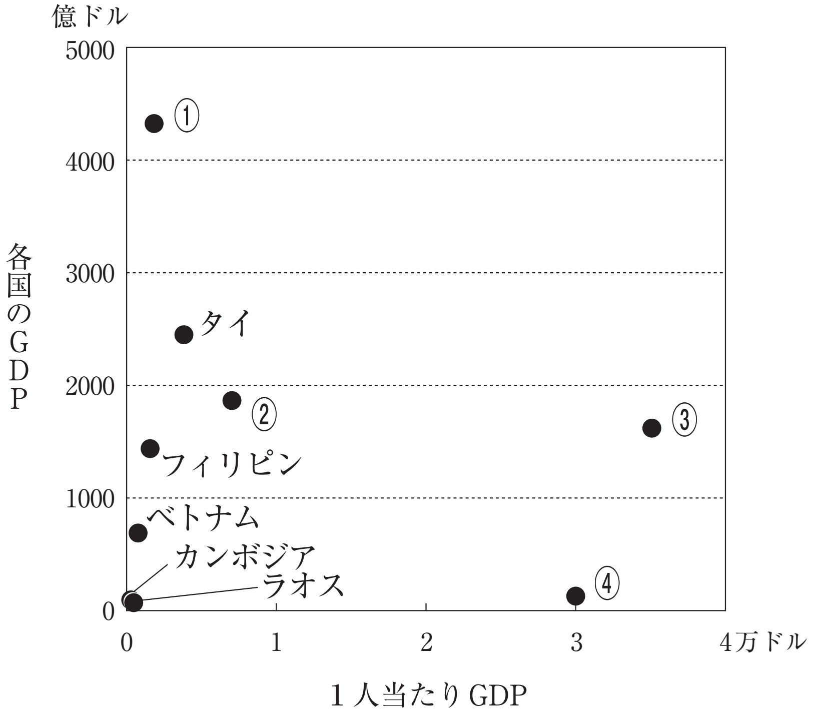
	人口密度（人／㎢）	都市人口率（%）
①	335	91
②	383	31
③	128	50
④	33	82

統計年次は，人口密度については2012年，都市人口率については2010年。
『世界国勢図会』により作成。

（編集部注：本問については統計年次を最新のものに改定してある。）

［4］　次の図４は，ＡＳＥＡＮ加盟国のＧＤＰ(国内総生産)と１人当たりＧＤＰを示したものであり，①～④は，インドネシア，シンガポール，ブルネイ，マレーシアのいずれかである。マレーシアに該当するものを，図４中の①～④のうちから一つ選べ。

(2012年度地理Ｂ追試験第４問問６)



統計年次は，ブルネイが2006年，それ以外が2007年。
ミャンマーはデータなし。
『世界国勢図会』により作成。

図４

［５］　地球的課題の解決には，先進国の国際協力における貢献が期待されている。次の表２は，1995年と2004年に行ったODA（政府開発援助）の実績と，GNIに対するODAの割合を示したものであり，①～④は，アメリカ合衆国，イギリス，日本，フランスのいずれかである。日本に該当するものを，表２中の①～④のうちから一つ選べ。

（2007年度地理Ｂ本試験第５問問６）

表２

	1995年		2004年	
	ODAの実績（百万ドル）	GNIに対するODAの割合	ODAの実績（百万ドル）	GNIに対するODAの割合（%）
①	14,489	0.28	8,859	0.19
②	8,443	0.58	8,475	0.42
③	7,367	0.10	18,999	0.16
④	3,157	0.28	7,836	0.36

『世界国勢図会 CD-ROM』により作成。

［６］　次の表１は，2018年と2030年におけるメガシティ*の数を地域別に示したものであり，Ｊ～Ｌは，アジア，アフリカ，北アメリカのいずれかである。また，メガシティの現状と課題に関する文章中の空欄ａには，文**カ**と**キ**のいずれかが当てはまる。Ｋに該当する地域と空欄ａに当てはまる文との組合せとして最も適当なものを，後の①～⑥のうちから一つ選べ。

*人口1000万人以上の都市や都市圏。

（2022年度地理Ａ本試験第４問問３）

表１

	2018年の メガシティ数	2030年の メガシティ数(予測値)
Ｊ	20	27
中央・南アメリカ	6	6
Ｋ	3	5
Ｌ	2	2
ヨーロッパ	2	3
オセアニア	0	0

The World's Cities in 2018 により作成。

世界各地のメガシティの特性を比較すると，発生する都市問題は地域によって異なる傾向がみられる。例えば，中央・南アメリカのメガシティでは，（　ａ　）が顕著な問題となっており，対策が求められている。

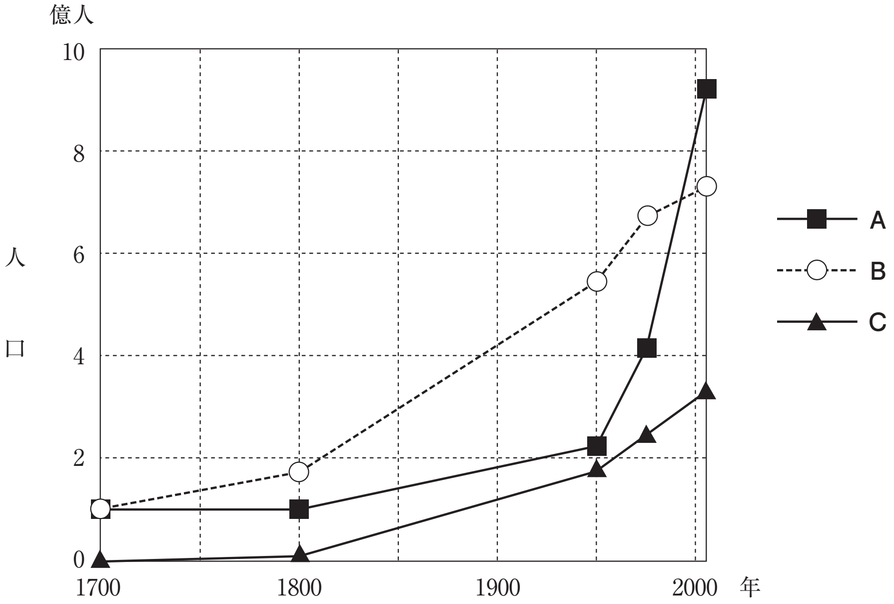
カ　急速に進む高齢化と社会基盤の老朽化
キ　人口増加に伴って生じるスラムの拡大と居住環境の悪化

	①	②	③	④	⑤	⑥
Ｋ ａ	アジア **カ**	アジア **キ**	アフリカ **カ**	アフリカ **キ**	北アメリカ **カ**	北アメリカ **キ**

［７］　現代世界の大きな課題として急激な人口増加があり，その過程は地域により異なる。次の図１中の**Ａ**～**Ｃ**は，アフリカ，北アメリカ(＊)，ヨーロッパのいずれかの地域における1700年から2000年の人口の推移を示したものである。**Ａ**～**Ｃ**と地域名との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

(＊)アメリカ合衆国とカナダ。

(2011年度地理Ｂ本試験第５問問１)



国立社会保障・人口問題研究所の資料による。

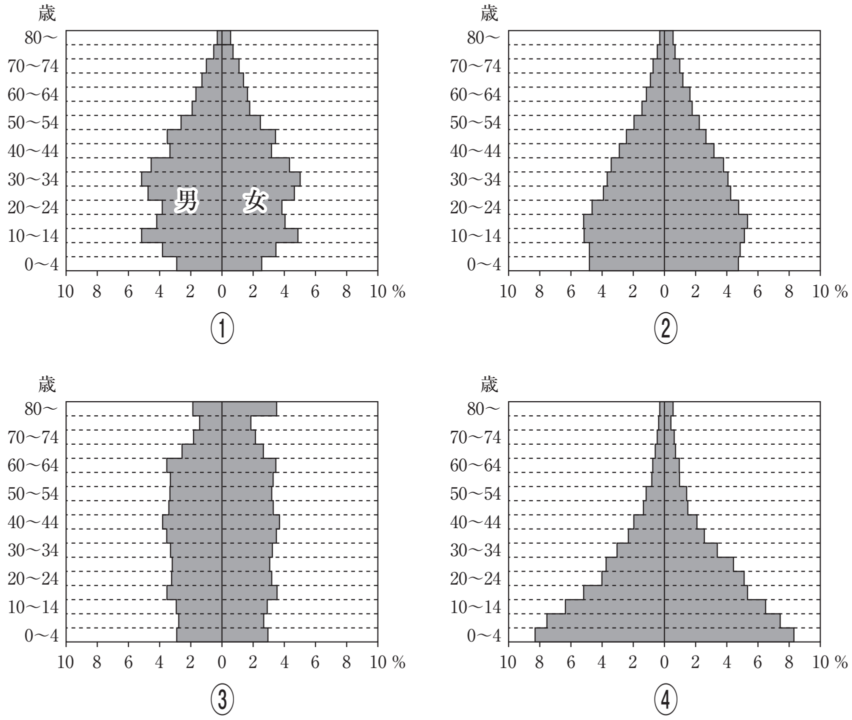
図１

	A	B	C
①	アフリカ	北アメリカ	ヨーロッパ
②	アフリカ	ヨーロッパ	北アメリカ
③	北アメリカ	アフリカ	ヨーロッパ
④	北アメリカ	ヨーロッパ	アフリカ
⑤	ヨーロッパ	アフリカ	北アメリカ
⑥	ヨーロッパ	北アメリカ	アフリカ

［8］　世界各国では，人口の急速な増加や年齢構成のかたよりが問題となっている。次の図1は，いくつかの国における人口ピラミッドを示したものであり，①～④はスウェーデン，タンザニア，中国(＊)，ブラジルのいずれかである。ブラジルに該当するものを，図1中の①～④のうちから一つ選べ。

(＊)台湾，ホンコン，マカオを含まない。

（2013年度地理A本試験第4問問1）

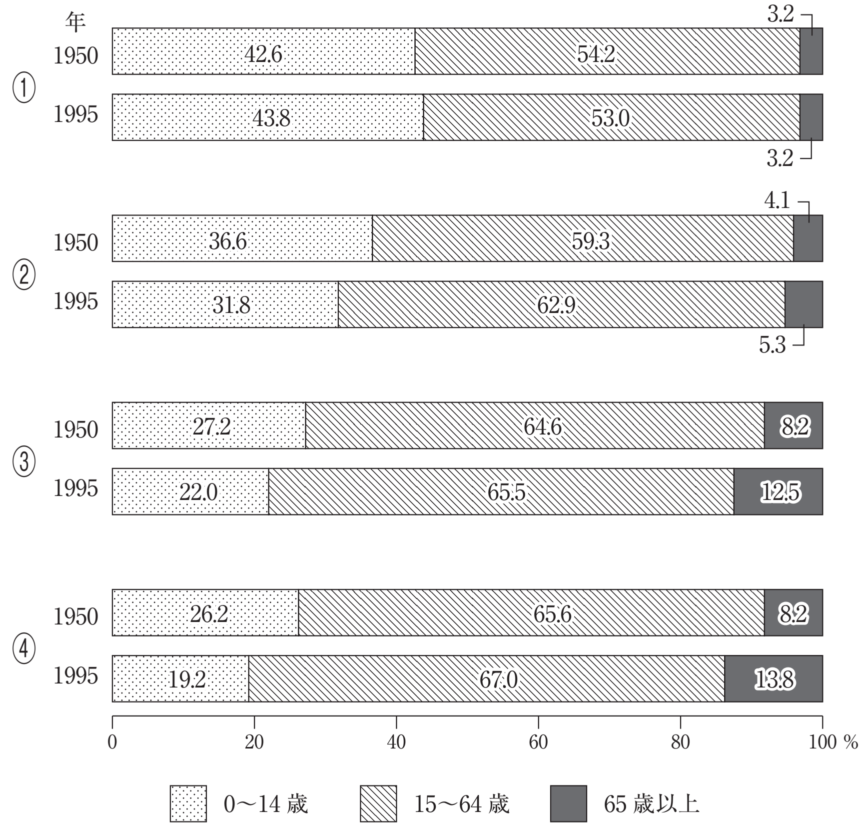


統計年次は，スウェーデンが2008年，タンザニアが2002年，中国とブラジルが2000年。
UN, Demographic Yearbook により作成。

図1

［９］ 次の図２は，アジア，アフリカ，アングロアメリカ，ヨーロッパについて，1950年と1995年の年齢３階級別人口構成を示したものである。アジアに該当するものを，図２中の①〜④のうちから一つ選べ。

（2000年度地理Ｂ本試験第４問問２）



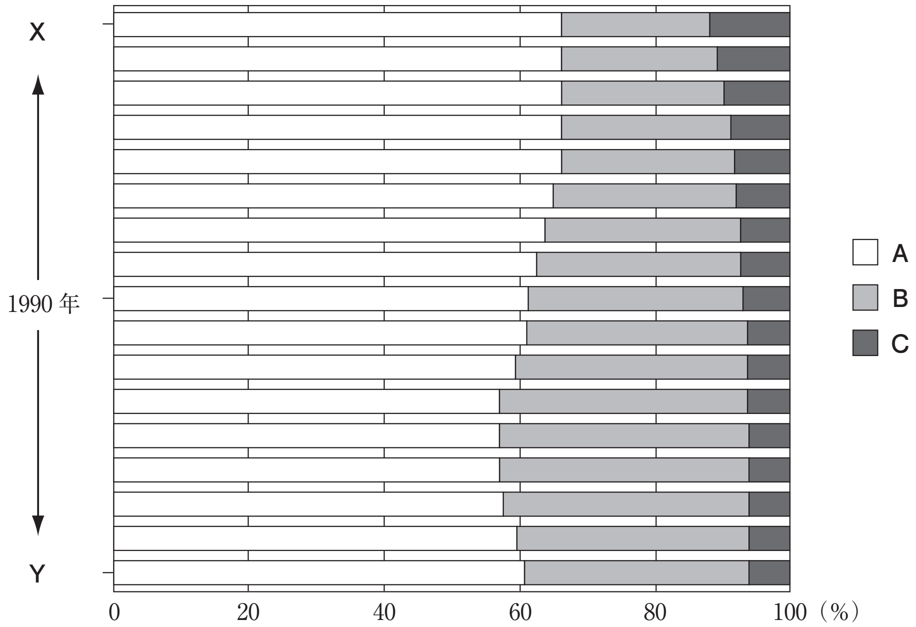
『1998 人口の動向』により作成。

図２

［10］　次の図２は，1950年から2030年に至る80年間の世界の人口構成の推移（＊）を５年ごと，年齢３区分別にみたものである。図２中のＡ～Ｃは，15歳未満，15歳以上65歳未満，65歳以上のいずれかの人口割合に，ＸとＹは，1950年，2030年のいずれかの年次に該当する。ＢとＸに該当するものの組合せとして正しいものを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（＊）2000年以降は将来推計値。

（2002年度地理Ｂ本試験第４問問３）



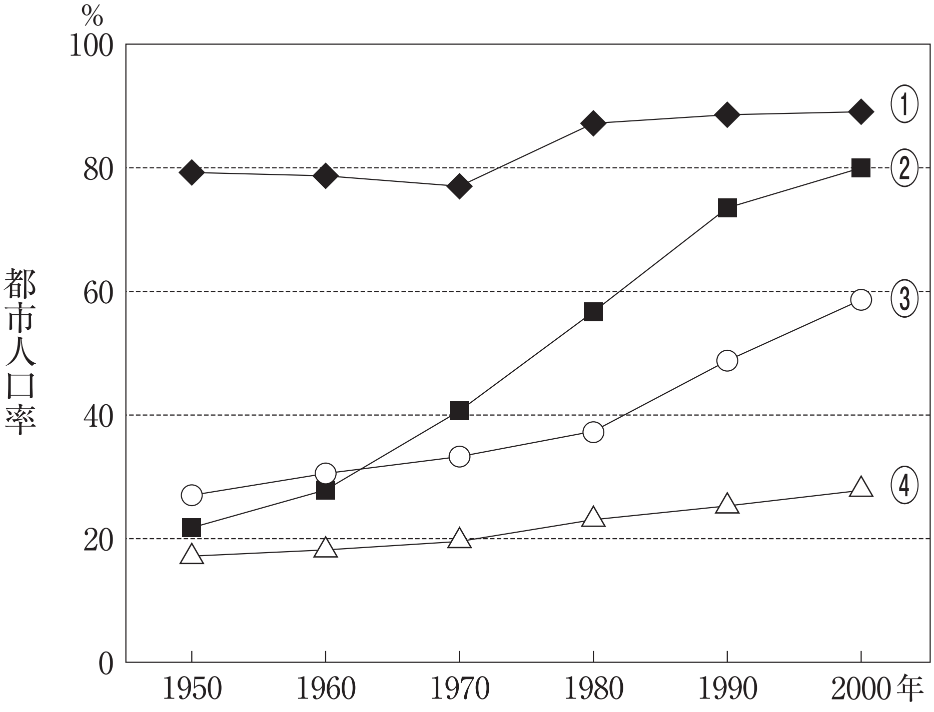
United Nations, World Population Prospects により作成。

図２

	Ｂ	Ｘ
①	15歳未満	1950年
②	15歳未満	2030年
③	15歳以上65歳未満	1950年
④	15歳以上65歳未満	2030年
⑤	65歳以上	1950年
⑥	65歳以上	2030年

［11］　次の図1は，都市人口率の推移を国別に示したものであり，①～④はイギリス，インド，韓国，フィリピンのいずれかである。イギリスに該当するものを，図1中の①～④のうちから一つ選べ。

（2008年度地理Ｂ本試験第３問問３）



『世界国勢図会 CD-ROM』により作成。

図1

［12］　次の表１は，都市人口率と都市および村落の65歳以上の人口割合を国別に示したものであり，①～④は，インドネシア，カナダ，日本，ペルーのいずれかである。カナダに該当するものを，表１中の①～④のうちから一つ選べ。

（2011年度地理Ｂ追試験第３問問３）

表１

（単位：％）

	都市人口率	65歳以上の人口割合	
		都市	村落
①	80.1	13.8	13.4
②	71.1	6.3	6.7
③	66.0	19.5	24.1
④	48.1	4.0	5.1

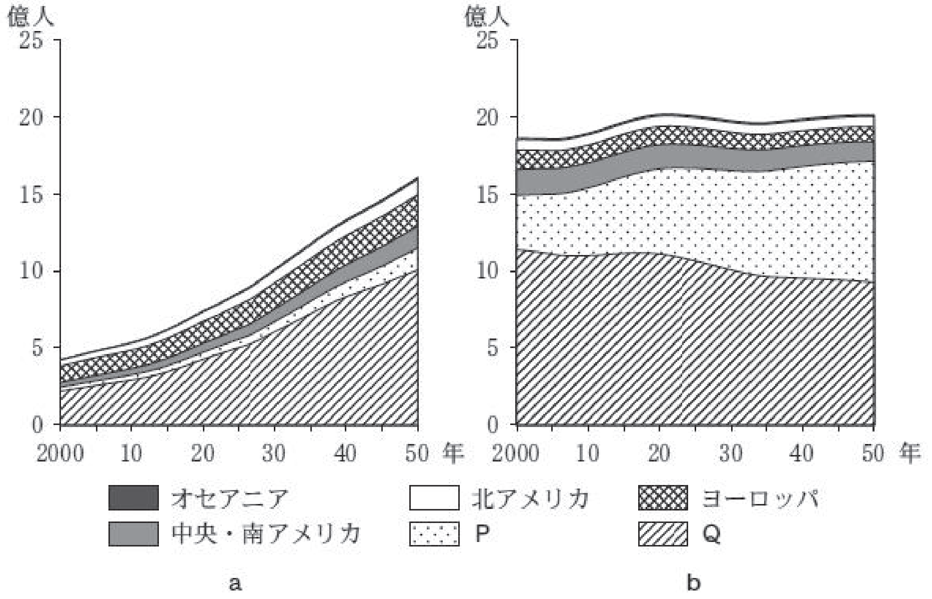
統計年次は，都市人口率が2005年，65歳以上の人口割合が2005年～2007年のいずれか。

UN, *Demographic Yearbook* などにより作成。

第１講
人口・１人当たりＧＮＩ・ＧＮＩ［確認問題］

［１］　世界の人口を考える上では，人口数と年齢構成の地域差を考慮する必要がある。次の図４は，世界の地域別の人口推移とその予測値を示したものであり，ａとｂは０～14歳人口と65歳以上人口のいずれか，凡例ＰとＱはアジアとアフリカのいずれかである。０～14歳人口とアフリカとの正しい組合せを，後の①～④のうちから一つ選べ。

（2024年度地理Ａ本試験第４問問４）



2022～2050 年の人口は予測値。*World Population Prospects* により作成。

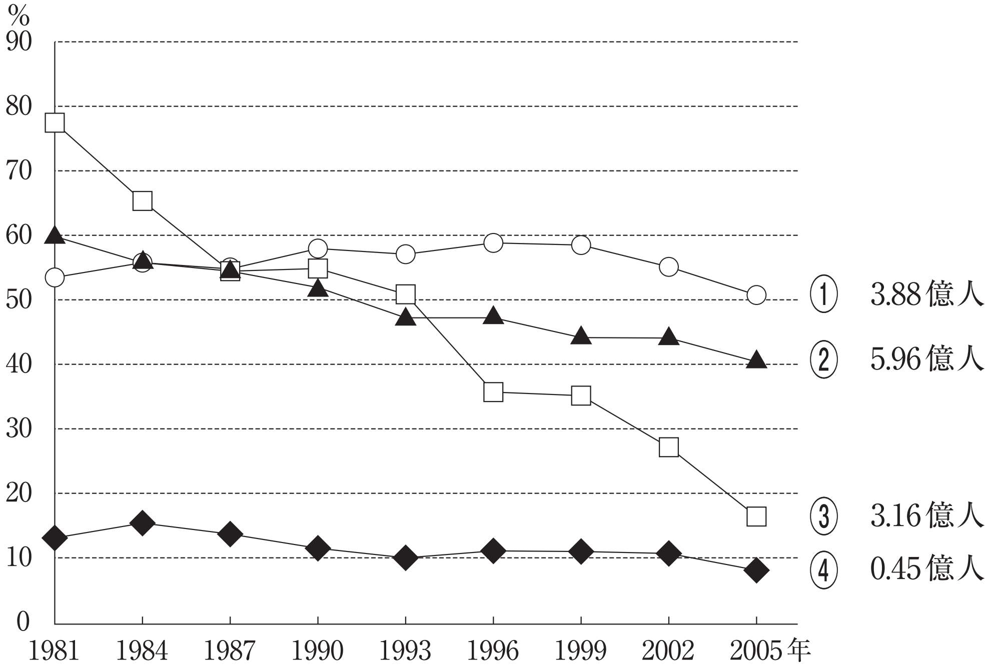
図４

	①	②	③	④
０～14歳人口	ａ	ａ	ｂ	ｂ
アフリカ	Ｐ	Ｑ	Ｐ	Ｑ

［2］　次の図１は，いくつかの地域における1981年から2005年までの貧困人口(＊)の割合の推移を示したものであり，①～④は，サハラ以南アフリカ，中央・南アメリカ，東アジア・東南アジア・オセアニア，南アジアのいずれかである。東アジア・東南アジア・オセアニアに該当するものを，図１中の①～④のうちから一つ選べ。

(＊) １人１日当たり1.25ドル未満で生活する人口。

(2013年度地理Ａ追試験第４問問１)



グラフ右側の数値は，2005年におけるそれぞれの地域の貧困人口を示す。
World Development Indicators により作成。

図１

［３］　次の表１は，人口密度，成人識字率（＊），平均寿命を地域別に示したものであり，**ア**～**ウ**は，東南アジア，西アジア（＊＊），南アジアのいずれかである。表１中の**ア**～**ウ**と地域名との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（＊）15歳以上人口の識字率。

（＊＊）アゼルバイジャン，アルメニア，グルジア（ジョージア）を含む。

（2008年度地理Ａ追試験第４問問２）

表１

	ア	イ	ウ
人口密度（人／㎢）	123.6	43.5	323.9
成人識字率（％）	89.6	74.7	55.2
平均寿命（歳）	67.2	68.7	63.2

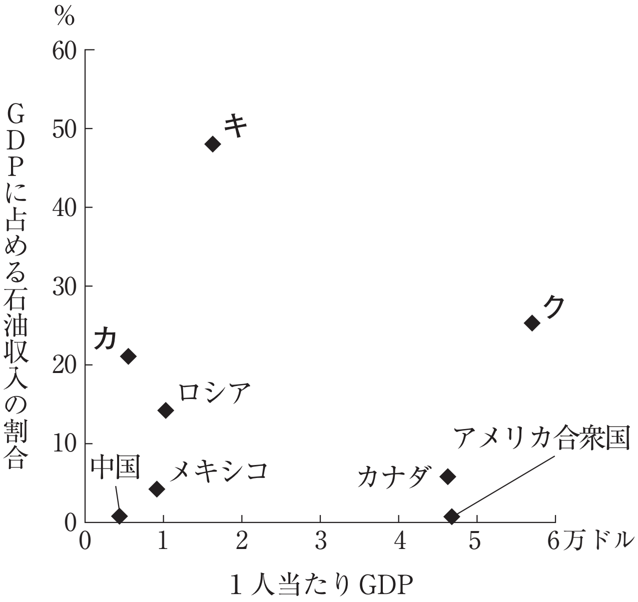
統計年次は，人口密度が2005年，成人識字率が2001年，平均寿命が2000～2005年の平均値。

ユネスコなどの資料により作成。

	①	②	③	④	⑤	⑥
ア	東南アジア	東南アジア	西アジア	西アジア	南アジア	南アジア
イ	西アジア	南アジア	東南アジア	南アジア	東南アジア	西アジア
ウ	南アジア	西アジア	南アジア	東南アジア	西アジア	東南アジア

［４］　次の図３は，石油の生産量上位８か国について，１人当たりＧＤＰ（国内総生産）とＧＤＰに占める石油収入の割合を国ごとに示したものであり，**カ～ク**はアラブ首長国連邦，イラン，サウジアラビアのいずれかである。**カ～ク**と国名との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2014年度地理Ｂ本試験第４問問３）



中国には台湾，ホンコンを含まない。
統計年次は2010年。
World Economic Outlook により作成。

図３

	①	②	③	④	⑤	⑥
アラブ首長国連邦	カ	カ	キ	キ	ク	ク
イラン	キ	ク	カ	ク	カ	キ
サウジアラビア	ク	キ	ク	カ	キ	カ

［５］　地球的課題を解決する枠組みの一つとしてＯＤＡ（政府開発援助）があり，その拠出状況は国により異なる。次の表２は，ＯＤＡ総額，ＧＮＩ（国民総所得）に対するＯＤＡ総額の比率，供与額が最大となる地域（＊）を，拠出国別に示したものであり，①～④は，イタリア，オランダ，日本，フランスのいずれかの国である。オランダに該当するものを，表２中の①～④のうちから一つ選べ。

（＊）ＯＥＣＤの地域区分によるもので，内訳は，サハラ以南のアフリカ，西アジアおよび北アフリカ，南・中央アジア，東・東南アジアおよびオセアニア，ヨーロッパ，ラテンアメリカおよびカリブ海諸国の６地域。

（2011年度地理Ｂ本試験第５問問４）

表２

	ODA総額（億ドル）	GNIに対するODA総額の比率(%)	供与額が最大となる地域
①	109.6	0.39	サハラ以南のアフリカ
②	93.6	0.18	東・東南アジアおよびオセアニア
③	69.9	0.80	サハラ以南のアフリカ
④	44.4	0.20	西アジアおよび北アフリカ

統計年次は，ＯＤＡ総額とＧＮＩに対するＯＤＡ総額の比率が2008年，供与額が最大となる地域が2007～2008年。

ＯＥＣＤの資料により作成。

［６］　次の表１は，いくつかの地域における都市人口率と人口500万人以上の都市(＊)数を示したものであり，①～④はアジア，アフリカ，オセアニア，ヨーロッパのいずれかである。アフリカに該当するものを，表１中の①～④のうちから一つ選べ。

(＊)郊外を含めた都市域の人口が500万人以上の都市を含む。

(2014年度地理Ｂ本試験第３問問１)

表１

	都市人口率(%)	人口500万人以上の都市数
①	72.9	3
②	70.7	0
③	45.0	26
④	39.6	2

統計年次は，都市人口率が2011年，人口500万人以上の都市数が1991年～2010年のいずれか。
UN, *Demographic Yearbook* などにより作成。

〈 ***Note*** 〉

第２講
人口移動

人口について経済学的な視点からとらえていこう。ここでポイントとなるのは経済的な概念である。経済レベルの低い地域から高い地域へと人々が流動する様子を考察する。

２．１　「金」を求めての移動

現代の人口移動の鉄則は「経済レベルの低いところから高いところへ」。同じ国内からは地方の農業地域から商工業の発達した都市への人口移動がみられ，国境を越えた国際的な移動ならば発展途上国から先進国への出稼ぎが顕著となる。

＜チェック！＞

アメリカ合衆国における人口移動。独立以前にはイギリス植民地としてイギリスからの移民が多かった。例えば，アメリカ合衆国のエリート層のことをワスプ（ＷＡＳＰ）というが，これは最初に北アメリカ大陸に移住してきた主にイギリス系の人々の子孫。反対に独立以降に移住してきたイタリア系などカトリック教徒は社会的に低い立場に置かれている。

19 世紀後半以降は，東から西への移動。とくに，衰退する工業地域を抱える北東部は人口減少地域であり，サンベルト（北緯 37 度以南の地域）や太平洋岸など南西側の地域へと大きく人口が流動していった。

また，20 世紀後半はメキシコ系の移民（ヒスパニック）の流入により，カリフォルニア州などメキシコ国境沿いの人口増加率の高さが際立った。

ただし，北東部にもボストンやニューヨークなどの大都市が並び，一概に「経済レベルの低いところから高いところに人口が移動する」パターンには該当しない点に特徴がある。

２．２　人口移動の理由

人口移動の理由については，出稼ぎなど商工業労働者としての移動を考慮する。ただし，これをさらに拡大解釈してさまざまな人口移動の目的を考える。

まず重要なキーワードとなるものが「留学」。出稼ぎと同様に（あるいはそれ以上に）経済レベルの低いところから高いところへの移動の向きがはっきりして

いる。またイギリスやオーストラリアなど英語を使用する国への留学が多いのも特徴的。

また，現在ではみられないが，農業や鉱業の労働者としての移動というパターンもある。この典型的なものとしては，天然ゴム園などで労働のためにマレーシアへと移民した中国人やインド人である。またアメリカ合衆国南部の綿花プランテーションにおける黒人奴隷のように，強制的に移動させられた例も当時はあった。

＜チェック！＞

金鉱の発見は，それを採掘しようとする人々の流入を促すものであるが，さらに白人がそれを独占しようとすることによって差別政策の遠因ともなる。

・アメリカ合衆国・・・カリフォルニア州における金鉱の発見→白人の太平洋岸への移動→ネイティブアメリカンの迫害
・オーストラリア・・・金鉱の発見→中国人の流入を制限→白豪政策
・南アフリカ共和国・・・金鉱の発見→移民と先住民の迫害→アパルトヘイト

２．３　日本とブラジル

日本とブラジルの関係について強調しておきたい。明治から昭和にかけての時代，日本からブラジルに多くの農業移民が生じた（古い時代なので，工業などではなく，農業である点に注目）。日本の国籍を持ちながらブラジルに永住する者も多かった。またその２世３世である日系人の数も多く，ブラジルには世界最大の日系人社会が形成されている。なお，日系人の多くはすでに現地の国籍を有しており，これは「日本人の数が多い」という意味ではないので注意。

近年はこれとは逆にブラジルから日本への人口移動（出稼ぎ）が生じた。1990年に出入国管理法など移民に関する法令が改定され，日系人に限り単純労働者の日本国内での就業が可能となった。もともとも日系人人口の大きなブラジルからの入国者が90年代前半に一気に増加した。現在は，日本国内の登録外国人の国籍としては，ブラジルが５位（１位中国，２位韓国・朝鮮，３位ベトナム，４位フィリピン）。彼らの多くは自動車工業を中心とした製造業に従事している。

[知っておこう]

地理は「年号」と「法律」に関する話題はあまり出題の対象にならない。しかし「1990～1991年に生じた３つの法制的な変化」は頻出なので，知っておこう。

１）出入国管理法（移民法）改正

外国人単純労働者の入国・滞在は制限されていたが，1990年の法律の改正によって緩和された。主に日本人の移民たちの子孫である日系人に関しては，単純労働目的であっても日本国内での就業が可能となった。これにより最大の日系人人口を持つブラジルからの入国者が90年代前半に急増した。

２）オレンジ・牛肉の輸入自由化

1980年代の貿易摩擦の時代を経て，赤字国であるアメリカ合衆国は日本に対し農産物の市場開放を求めた。1991年にオレンジと牛肉については貿易が自由化され，安価な海外産の農畜産物が流入する一方，国内の農家は経営に窮した。生産物の高級化などによって対抗する農家もあったが，廃業に追い込まれた者も多い。

３）アパルトヘイトの撤廃

黒人や有色人種に対する人種隔離政策（アパルトヘイト）に関する法律が，南アフリカ共和国で撤廃されたのも1991年。居住場所や職業選択の自由など経済的には解放された黒人であったが，生活水準は低く，富を未だ独占するヨーロッパ系白人との経済格差は大きい。

２.４　現代の日本人の移動

「１人当たりＧＮＩの高い地域への移動」が大原則であり，日本からはアメリカ合衆国への移動に特徴がある。

海外在留邦人数（外国に滞在する日本人の数）が最大であるのはアメリカ合衆国。ビジネス目的以外に留学生の割合も高い。

また，日本人の海外旅行の行き先としては中国や韓国などが目立つが，アメリカ合衆国への旅行者も多い。とくにアメリカ本土のみでなく，ハワイやグアムも合わせると，中国や韓国への旅行者数を上回る。

＜チェック！＞

外国に滞在する日本人を海外在留邦人という。長期滞在者と永住者に分かれ，永住者の割合が高いのはブラジルなどかつて日本から農業移民が生じた国。長期滞在者のうち，留学の割合が高いのは先進国で，とくに英語圏における邦人の数は多い。

２．５　地域別にみた国際的な人口移動

・中国・・・経済発展を続ける沿海部への出稼ぎ労働者の流入は著しいが，その出身地は同じ中国の内陸部。１人当たりＧＮＩが高くない中国へは原則として外国人の流入はない。

・西アジア・・・オイルマネーで栄えるＯＰＥＣ諸国へと，南アジアなど周辺地域から労働者が流入。彼らは主に建設業に従事する。そうした外国人労働者への依存度が高い地域でもある。

・ドイツ・・・戦後復興・高度経済成長期にトルコなどから出稼ぎ労働者を迎え入れる。オイルショック後の不況によってトルコ人たちは帰国を促されたが，彼らの多くはドイツ国内にとどまった。人種的・宗教的な対立に起因する排斥運動も。

・フランス・・・旧植民地である北アフリカ諸国からの労働者の流入が多く，国内におけるムスリム人口も増加している。

・アメリカ合衆国・・・メキシコからの移民（ヒスパニック）が多いが，近年は太平洋沿岸地域を中心に中国などアジアからの移民も増加している。

・オーストラリア・・・1970 年代の白豪政策撤廃後はアジアからの移民が増加し，経済的にもつながりを深めている。

＜チェック！＞

「ヒスパニック」は直訳すれば「スペイン語話者」であるが，とくにメキシコやカリブ海地域からのアメリカ合衆国への移民を指す。彼らの行き先としては近接するアメリカ合衆国が主で，カナダやオーストラリアへの移民は多くない。

２．６　マレーシアにおける人口流入の歴史とブミプトラ政策

マレーシアは移民によって成り立った多民族国家である。独立以前のマレー半島には農園（天然ゴム）・鉱山（銅鉱）労働力として中国やインドから多くの移民が流入した。このためマレーシアは，先住のマレー系に加え，中国系，インド系住民も比較的多い複族（多民族）国家となっている。当初は移民として流入しながらも徐々に経済的な力を蓄え，現在は主に都市部で富裕層を形成する中国系住民に対し，マレー系住民はとくに農村において多数を成し，経済的には恵まれていない。このため，政府はマレー系住民を優遇するブミプトラ政策を実施し，企業融資や奨学金の付与，農場への入植など様々な面においてマレー系住民の権利が尊重されている。ただし，都市部を中心に他民族集団からの反発も強い。

<チェック！>

マレーシアとシンガポールの関係は重要。シンガポールはマレーシアから分離独立した国。中国系住民が人口の４分の３を占めるが，公用語はマレー語，中国語，タミル語（インド南部の言語），英語の４つ。一方，マレーシアはマレー系住民が過半数だが，中国系住民，インド系住民の割合も比較的高い。公用語はマレー語であり，イスラームが国教に指定されている。

２.７　人口移動の問題点

出稼ぎ労働者が現地の国籍を得るケースは少ない。ペルシャ湾岸など経済レベルの高い小国では，外国人労働者の数が自国民の数を上回ることもある。また，ドイツにおけるトルコ人など，宗教や生活習慣が異なるため，さまざまな社会問題が生じることもある。

先進国と発展途上国との間の格差，あるいは発展途上国の中でも資源を持つ国と持たざる国との間の格差は，さらに拡大しつつあり，人口流動の勢いも激しさを増している。

２.８　難民の移動

内戦によって多くの難民が生じているが，国連や先進国による救援体制は十分に整えられていない。難民は自分の力で隣国に逃げ延びるしかない。たとえそこが本国と同様に経済レベルが劣悪であったり政情が不安定であったりしても。

また欧米には難民の受け入れに積極的な国もみられるが，日本における難民受け入れ数はそれらより少ない。

[知っておこう]

練習問題［14］が取り上げている年代は，20 世紀後半であり，21 世紀に入ってから顕著になった対外戦争（アメリカ合衆国によるアフガニスタンへの攻撃など）は含んでいない。ルワンダ内戦を典型的な例として捉えよう。1990 年代に勃発したルワンダ内戦はツチ族とフツ族の対立に起因するもの。国連の平和維持活動も行われたが十分ではなく，多数生じた難民は自らの足で隣国のコンゴ民主共和国などへと流出した。例えば，日本における難民受け入れ問題など，先進国による難民保護はまだまだ課題が多い。

<チェック！>

ロシアやジョージア，アゼルバイジャンなどが国境を接するカフカス地域は民族・宗教構成が複雑で，古い時代より紛争や内戦が絶えない。またカフカス山脈の北に接するチェチェン共和国（ロシア連邦を構成する共和国の一つ）はイスラム教徒が多い地域で，独立の気運も高い。凄惨なテロ行為も頻発している。

２．９　（参考）古い時代の人口移動

古い時代の人口移動には，「金を求めて」の移動という側面は少なく，より多様なパターンがみられる。**練習問題［15］**を参考に，それらについて整理しよう。

①；アイルランドからアメリカ合衆国への移動；イギリスの支配を逃れ，信教の自由を求め，新大陸への移民が生じた。

②；イベリア半島からラテンアメリカへの移動；スペインやポルトガルから当時植民地だったラテンアメリカへと多くの人々が移動した。宣教師も含まれる。

③；ギニア湾岸から南北アメリカ大陸への移動；奴隷が新大陸のプランテーションに送られた。強制的な移住の例。

④；シベリアへの移動；流刑地だったシベリアに囚人が送られた。同様の例にオーストラリア大陸がある。

⑤；華南から太平洋沿岸地域への移動；人口過剰地域である華南から東南アジアや北アメリカ大陸太平洋岸などへ多くの移民が生じた。彼らは華僑と称されるが，現地人化した者は華人とよばれる。

ワンポイント

古い時代の人口移動の例として，華僑について知っておくといいだろう。

中国南部の華南地域は山がちな地形で耕地に恵まれず，人口支持力が低い。このため，かつてこの地域から東南アジアを中心に太平洋沿岸地域へと多くの移民が流出した。これが華僑である。多民族国家マレーシアでは人口の20％以上（３割として覚えておくといい）が中国系住民（華人）によって占められているが，彼らは農園・鉱山労働者として流入した華僑の子孫である。とくに東南アジアの中国系住民は経済的な実権を握っているが，移民がこのような経済的強者になる例は他にはほとんどみられない。

なお，華南は現在は内陸部から多くの出稼ぎ労働者を迎え入れる人口流入地域へと転化している。複雑な海岸線をもち港湾に恵まれ，経済特区も設けられた。多くの外国系企業が進出することで，経済発展が著しい「世界の成長センター」。

第２講
人口移動［練習問題］

［１］ 人の空間的な動きは，居住地の移動を伴う人口移動と，居住地の移動を伴わない人口移動に大別される。前者は，さらに国際的な移動と，国内の地域的移動とに分けられる。居住地の移動を伴わない日常的な人口流動の範囲には距離上の限界がある。この人口流動を引き起こす各種の施設・機関は，主として都市に集積する。このため，都市を中心にさまざまな人口流動圏が成立しており，これらが，都市圏を設定する際の重要な指標となっている。

下線部について述べた次の文①～④のうちから，下線部に**誤りのあるもの**を一つ選べ。

（1988 年度地理本試験第４問問１）

① 第二次世界大戦後，多くの発展途上国においては，人口は主として農村から都市へ移動している。
② アメリカ合衆国への移民は，合衆国独立以前の東ヨーロッパ・南ヨーロッパからの農業移民に始まったが，19 世紀末からは西ヨーロッパからの移民が主に都市に流入した。
③ わが国の国内人口移動は，第二次世界大戦後の高度経済成長期には，地方から三大都市圏への移動が主であったが，近年では，その流れは多様化している。
④ 国際的な出稼ぎの場合，労働力は一般に賃金水準の低い国から高い国へ移動する。

［２］　世界の各地域において発生した人口移動を説明した次の文①～⑤のうちから，**誤っているもの**を二つ選べ。ただし，解答の順序は問わない。

（1998 年度地理Ｂ追試験第２問問２）

①　アメリカ合衆国では，最近，西海岸から東海岸へ多くの企業が移転して，それに伴う人口移動が活発となった。

②　香港では，中国への返還を控え，1980 年代以降カナダなどの先進諸国への移民が増加した。

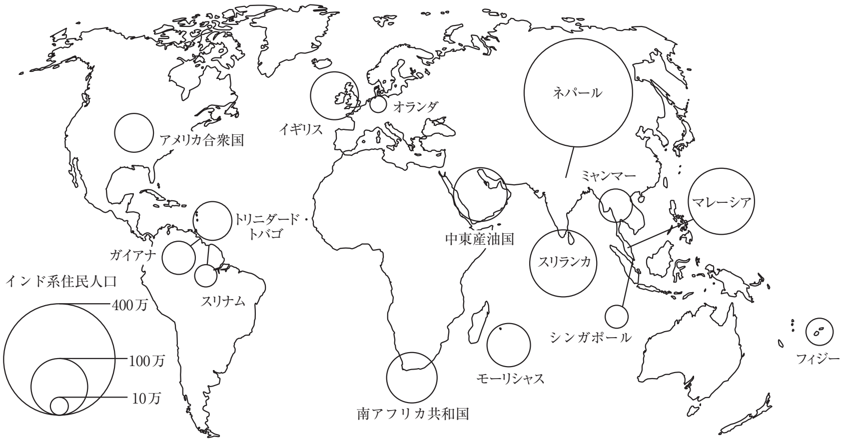
③　人口を吸収してきた中南米の大都市では，最近，農村部への人口逆流の方が多くなり，農村部での人口爆発が生じている。

④　ベトナム戦争終了時，ベトナムやその周辺地域からボートピープルとして日本に漂着する難民がみられるようになった。

⑤　第二次世界大戦後の西ドイツでは，地中海沿岸やトルコなどから大量の外国人労働者が流入した。

［3］ インド系住民は，世界の多くの国々に居住する。次の図4は，インド系住民の国・地域別分布を示したものである（インド，パキスタン，バングラデシュを除く)。図4に関する説明文として**誤っているもの**を，下の①～④のうちから一つ選べ。

（2000年度地理Ｂ本試験第2問問7）



インド系住民が10万人以上の国・地域のみを表示。データは1980年代。
『アジア読本 インド』により作成。

図4

① 中東産油国には，工業化や社会資本の整備に伴って生じた労働力不足を補うため流入したインド系住民が多く居住する。

② マレーシアには，イギリスの植民地時代にゴム農園の労働者として移住したインド人の子孫が多く居住する。

③ 南アフリカ共和国には，アパルトヘイト廃止後に，労働者として移住したインド系住民が多く居住する。

④ ガイアナやスリナムには，奴隷制の廃止に伴って，新たな労働力として移住したインド人の子孫が多く居住する。

［4］ 20世紀の後半になると，経済成長が著しい地域と停滞している地域との経済格差の拡大に伴って，国際的労働力移動が世界各地で発生した。こうした労働力移動について述べた次の文章①～④のうちから，下線部が**適当でないもの**を一つ選べ。

（1999年度地理A本試験第2問問2）

① 1960年代には，地中海沿岸の国々からドイツとフランスへの移動が目立っていた。その多くは，<u>両国の工業発展で不足した農業労働力を補うものであった</u>。

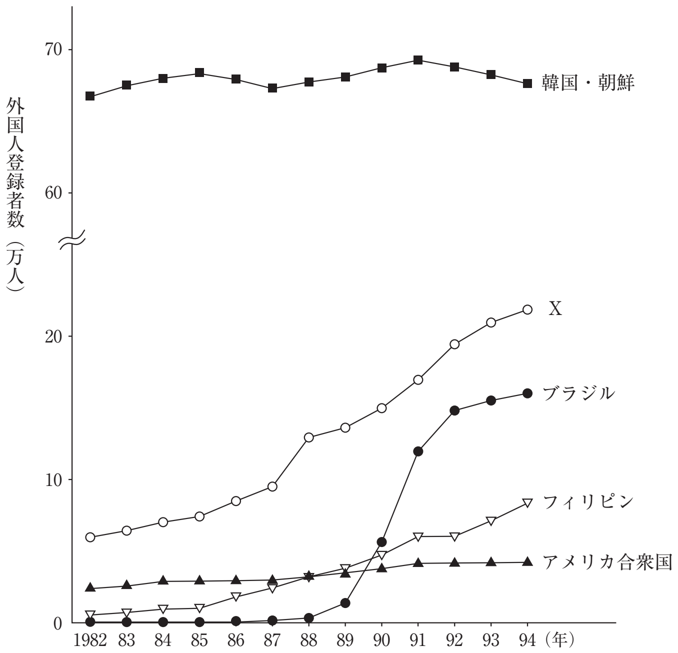
② 1970年代後半には，東南アジアや南アジアから中東地域への移動が目立つようになった。その多くは<u>石油収入の増大で建設ブームとなったこの地域の建設労働力として募集されたもの</u>であった。

③ 1980年代以降，アメリカ合衆国には東南アジアからの移動が顕著になった。その背景の一つには，1970年代後半以降に受け入れてきた<u>インドシナ難民による家族の呼び寄せ</u>があった。

④ 1990年ごろ，それまで中東に向けて多くの労働力を送り出していた東南アジアでは，域内での流動が目立つようになった。これは，<u>同地域内での急速な工業化</u>を反映している。

［５］（１）　次の図１は，1994 年における国籍別の外国人登録者数の上位五つの国籍について，最近 12 年間の登録者数の変化を示したものである。次の図１中のＸに該当するものを，下の①～④のうちから一つ選べ。

（1997 年度地理Ａ追試験第２問問２）



「出入国管理統計年報」により作成。

図１

①　イラン　　②　タイ　　③　中国　　④　バングラデシュ

（２）　図１を見ると，1990 年以降，ブラジル人の登録者数が急速に増加していることがわかる。その理由について述べた次の文①～④のうちから，最も適当なものを一つ選べ。

（同・問３）

①　ブラジルの日系人は，単純労働者としても合法的に滞在できるようになったから。

②　ブラジルから流出した政治難民を，日本は多く受け入れているから。

③　ブラジルへ移住して現地の国籍を取得した日系人が高齢化し，そのほとんどが日本へ帰ってきたから。

④　サッカー選手などのように，専門的な就労資格を取得したブラジル人が，近年多く入国するようになったから。

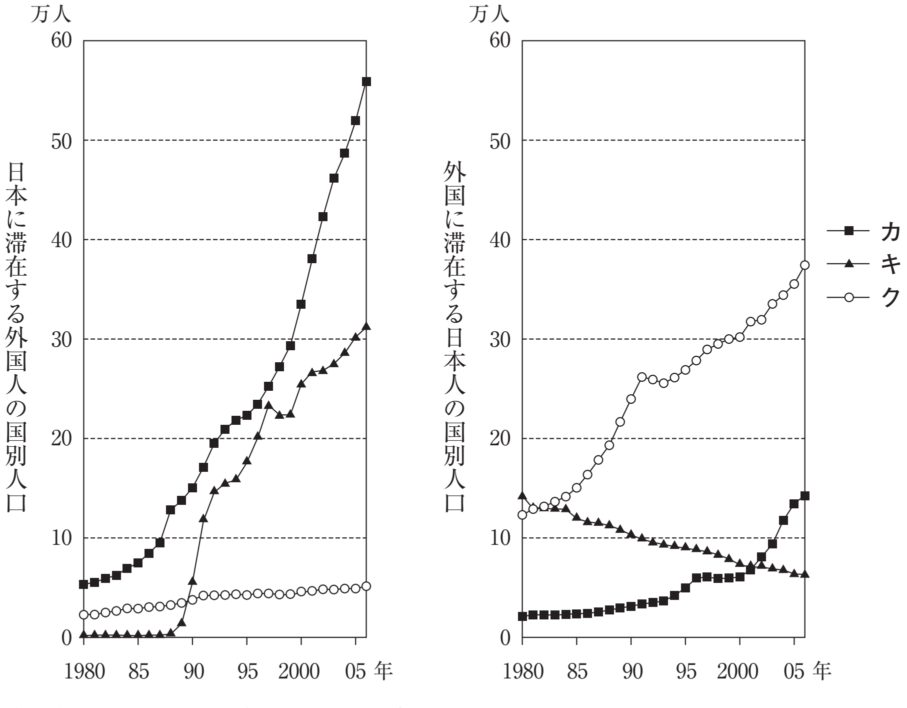
［６］ 次の図**３**は，日本に滞在する外国人の国別人口（＊）と外国に滞在する日本人（＊＊）の国別人口の変化を示したものであり，**カ**～**ク**はアメリカ合衆国，中国（＊＊＊），ブラジルのいずれかである，図**３**中の**カ**～**ク**と国名との正しい組合せを，次の①～⑥のうちから一つ選べ。

（＊）国籍別外国人登録者数。

（＊＊）日本国籍を有し，外国に３か月以上滞在または永住する者。

（＊＊＊）台湾，ホンコン，マカオを含む。

（2009 年度地理Ａ本試験第３問問３）



法務省入国管理局の資料などにより作成。

図３

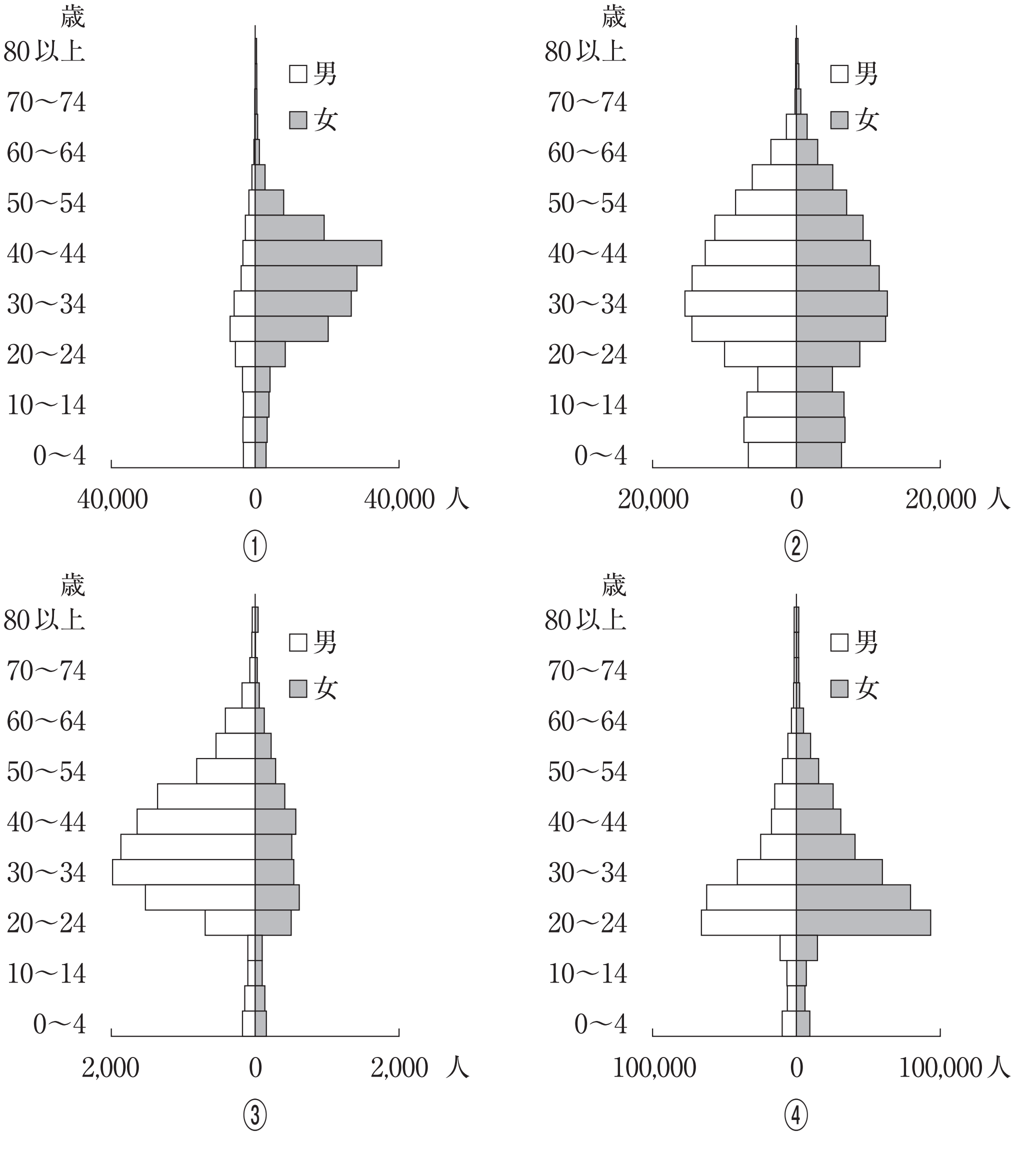
	カ	**キ**	**ク**
①	アメリカ合衆国	中国	ブラジル
②	アメリカ合衆国	ブラジル	中国
③	中国	アメリカ合衆国	ブラジル
④	中国	ブラジル	アメリカ合衆国
⑤	ブラジル	アメリカ合衆国	中国
⑥	ブラジル	中国	アメリカ合衆国

［７］　次の図３は，2010 年の日本に在住する外国人について，男女別年齢構成（＊）を示したものであり，①～④はイギリス，中国（＊＊），フィリピン，ブラジルのいずれかである。ブラジルに該当するものを，図３中の①～④のうちから一つ選べ。

（＊）国ごとに横軸の目盛りの最大値が異なる。

（＊＊）台湾，香港，マカオを含む。

（2014 年度地理Ａ本試験第２問問６）



法務省の資料により作成。

図３

［8］　次の表３は，海外のいくつかの都市に在留する日本人について，永住者（＊）と長期滞在者（＊＊）の男女別人数を示したものであり，①～④は，カイロ，サンパウロ，シドニー，バンコクのいずれかである。バンコクに該当するものを，表３中の①～④のうちから一つ選べ。

（＊）在留国より永住権を認められている人。

（＊＊）３か月以上その国に在留する人（永住者は除く）。

（2012 年度地理Ａ追試験第２問問５）

表３

（単位：人）

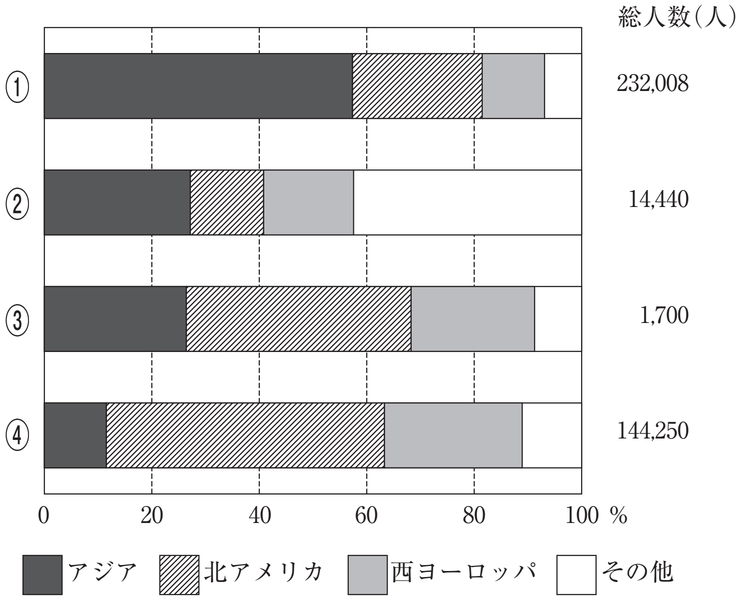
	永住者		長期滞在者	
	男性	女性	男性	女性
①	6632	5742	741	489
②	4433	7632	5236	8946
③	392	248	20299	11344
④	49	110	320	353

統計年次は 2008 年。

外務省『海外在留邦人数調査統計』により作成。

［９］　次の図４は，海外に長期滞在する日本人の職業のいくつかについて，それぞれの総人数と滞在地域別の割合を示したものであり，①～④は，政府関係職員，報道関係者，民間企業関係者，留学生・研究者・教師のいずれかである。政府関係職員に該当するものを，図４中の①～④のうちから一つ選べ。

（2011 年度地理Ａ本試験第２問問６）



アジアには西アジアを含まない。北アメリカはアメリカ合衆国およびカナダ。
統計年次は2007年。
『海外在留邦人数統計調査』により作成。

図４

［10］　国境を越える労働者の移動は，国家間や地域間の経済的格差を背景とすることが多い。アジアとオセアニアにおける労働者の移動について述べた文章として**適当でないもの**を，次の①～⑥のうちから二つ選べ。ただし，解答の順序は問わない。

（2006 年度地理Ａ追試験第２問問２）

①　インドは，サウジアラビアなどの産油国に多くの労働力を送り出している。また，旧宗主国のイギリスに向かう労働者もみられる。

②　オーストラリアでは，1970 年代半ば以降，白豪主義政策が廃止され，アジア系の労働者が増加した。これに加えて近年では，ヒスパニック系の労働者の増加がめざましい。

③　タイは，主にアジアの国々や地域へ労働者を送り出してきた。近年では経済発展にともなって，逆に隣接するミャンマーなどから多くの労働者が流入している。

④　中国は，世界各地に多くの労働者を送り出してきた。しかし，近年の急速な経済発展は，逆に近隣の国々から出稼ぎのために流入して低賃金で働く労働者によって支えられている。

⑤　日本では，明治以降，南北アメリカ大陸などへの移民が盛んに行われた。近年では企業の海外進出とともに，アジア諸国で暮らす日本人の数が増加している。

⑥　フィリピンでは，近年になって工業生産が活発になっている。しかし，国民の中の所得格差は大きく，西アジアやアメリカ合衆国などへ働きに出る人々も多い。

［11］　次の文章①～④は，サウジアラビア，シンガポール，ドイツ，日本のいずれかの国における外国人労働者について述べたものである。サウジアラビアに該当するものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

（2004 年度地理Ａ本試験第３問問４）

① 1960 年代以降の経済成長期に外国人労働者が増加した。しかし，その後の不況や失業率の上昇を背景に，排斥運動などが発生している。
② 1970 年代の建設ブーム時に，多数の外国人労働力を受け入れた。現在は労働力の約半数が外国人によって占められている。
③ 1970 年代の中継貿易の発展と工業化を契機として，外国人労働力を受け入れた。ただし，その受け入れには政府による制約が設けられている。
④ 1990 年ごろから外国人労働者が急増した。この国からかつて送り出された移民の子孫が就労するケースもある。

［12］　労働力の国際移動が活発になっているが，国・地域によって外国人の受入状況は様々である。次の①～④の文は，クウェート，ドイツ，日本，マレーシアにおける現在の状況を説明したものである。日本に該当するものを，①～④のうちから一つ選べ。

（2008 年度地理Ａ追試験第２問問６）

① 外国からの労働者にも自国民とほぼ同程度の社会保障制度が適用されるが，外国人排斥運動もみられる。
② 周辺諸国からの労働者が多いが，こうした労働者には，国民としての権利が認められず，自国民との生活格差も大きい。
③ 単純労働を目的とした外国人の入国を原則として認めていないが，かつて他国へ移住した自国民の子孫に対する例外措置がある。
④ 特定の国からの移住者の経済的な影響力が強いために，多数派民族の生活向上を図る政策が行われている。

[13]　日本と同様に出稼ぎ労働者が多くみられる国として，サウジアラビアやアラブ首長国連邦などのアラブ産油国がある。これらの国々の外国人出稼ぎ労働者について述べた次の文①～④のうちから，**誤っているもの**を一つ選べ。

（1997 年度地理Ａ追試験第２問問４）

① 出稼ぎ労働者の出身地の多くは，イエメン・エジプト・インドなど，アフリカやアジアの発展途上国である。

② アラブ産油国の中には，総人口の半数以上を出稼ぎ労働者が占める国もある。

③ アラブ産油国に出稼ぎ労働者が集まるのは，石油収入に基づく豊かな経済があるからである。

④ サウジアラビアやクウェートでは，流入してきた出稼ぎ労働者の中で現地の国籍を取得する人々が急増している。

[14]　20 世紀後半には難民の国際的移動も数多く発生したが，それに関する文として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

（1999 年度地理Ａ本試験第２問問４）

① 近年の難民の国際的移動は，国内の民族対立や経済問題よりも国家間の紛争に起因している。

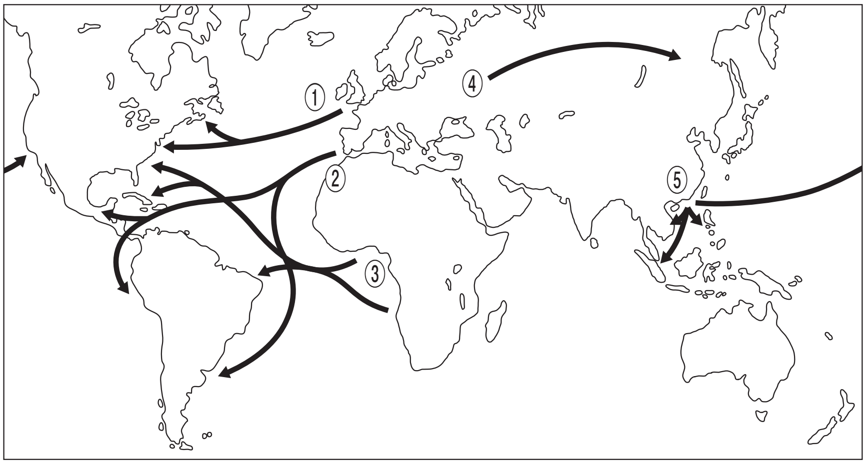
② グルジア（ジョージア）などのカフカス地方では，旧ソ連からの分離・独立によって難民問題は解決し，難民の国際的移動はほとんどみられなくなった。

③ 難民の国際的移動は，受け入れ余地の大きい先進国よりも，近隣の発展途上国へ向かう場合が多数を占めている。

④ 近年，多くのボートピープルが日本の沿岸に到着したが，現在，これらの経済難民の大部分は日本に定住している。

［15］　次の図２中の①～⑤は，16 世紀以降における世界の主な人口移動を示している。また，下の文章Ａ・Ｂは，かつて多くの移住者がみられた国について述べたものである。Ａ・Ｂの文章と関係が深い人口移動を，図中の移動①～⑤のうちから，それぞれ一つずつ選べ。

（1995 年度地理追試験第６問問３）



Ogden，P.「Migration and Geographical Change」(1984)の図を簡略化。

図２

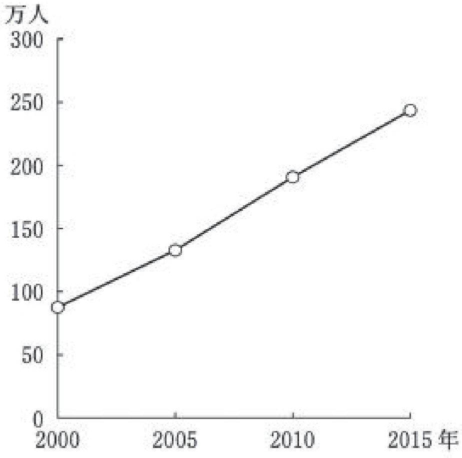
Ａ　この国南部の海岸地域は人口が過剰で，経済的活路を求めて国外に移住するものが多くみられた。移住先では主に都市に住んで，商業や飲食業などに従事し，これらの人々が国民の多数を占める国もある。

Ｂ　ケルト系民族からなるこの国では，19 世紀初期に隣国に併合されると地主制が強化され，19 世紀中ごろの飢饉を契機として，大量の難民が国外に流出した。

第２講
人口移動［確認問題］

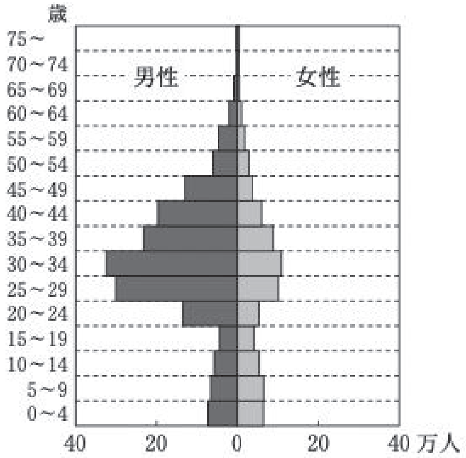
［１］　次の図５は，アラブ首長国連邦のドバイにおける人口の推移を示したものであり，図６は，2015 年のドバイにおける人口ピラミッドを示したものである。図５と図６をもとに考えられる，2000 年以降のドバイの人口増加に寄与している要因として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。

（2021 年度地理Ｂ追試験第４問問４）



Dubai Statistics Centerの資料により作成。

図５



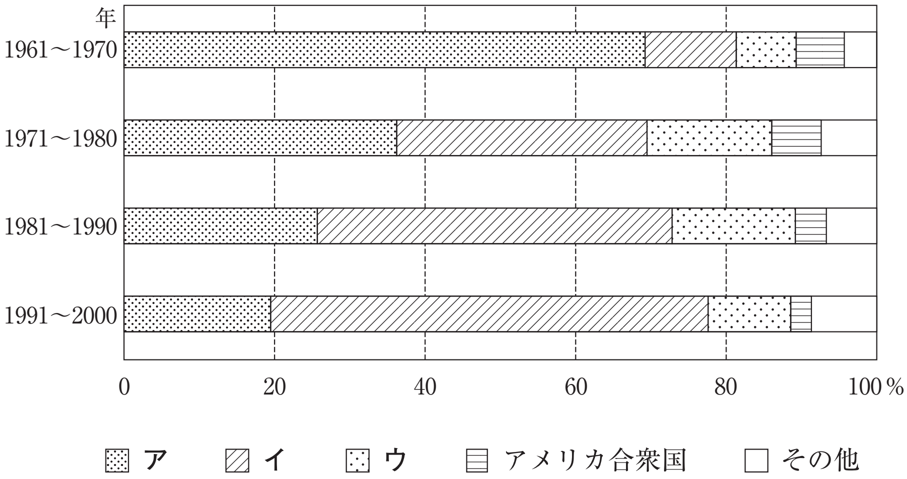
Dubai Statistics Centerの資料により作成。

図６

①　イスラーム（イスラム教）の聖地への外国からの巡礼
②　外国出身者における高い出生率
③　建設工事の増加に伴う外国からの労働者の流入
④　都市と農村の所得格差に伴う国内の人口移動

［２］　次の図２は，カナダへの移民の出身地域・国別割合の推移を10年ごとに示したものであり，**ア**～**ウ**はアジア，中央・南アメリカ，ヨーロッパのいずれかである。図２中の**ア**～**ウ**と地域名との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2009年度地理Ｂ本試験第５問問４）



*Census of Canada*により作成。

図２

	ア	イ	ウ
①	アジア	中央・南アメリカ	ヨーロッパ
②	アジア	ヨーロッパ	中央・南アメリカ
③	中央・南アメリカ	アジア	ヨーロッパ
④	中央・南アメリカ	ヨーロッパ	アジア
⑤	ヨーロッパ	アジア	中央・南アメリカ
⑥	ヨーロッパ	中央・南アメリカ	アジア

［３］ 次の文章は，国際的な労働力の移動について説明したものである。文章中の下線部①～④のうちから，**適当でないもの**を一つ選べ。

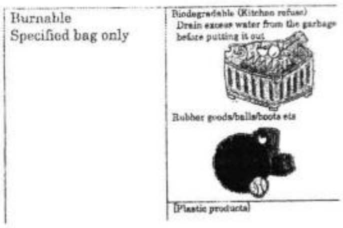
（2010年度地理Ｂ本試験第６問問３）

労働者は，よりよい雇用機会を求めて国際的に移動することがある。例えば，①南アジアからは，多くの人々が西アジアの産油国へ出稼ぎ労働者として移動しており，最近では，②インドのソフトウェア技術者の先進国への移動もみられる。③ブラジルでは，かつて工業技術者として受け入れた日本人の子孫が，出稼ぎ労働者として日本に移動する例も多い。このため，外国人労働者の多い自治体では，④日本語教育の機会を設けたり，多言語表示を増やしたりするなど，様々な対策に取り組んでいる。

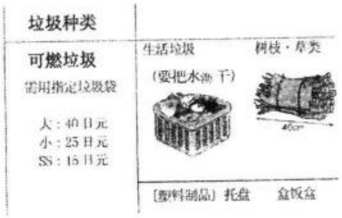
［4］ ユカさんは，佐賀市から配布される家庭ゴミの分類表の中に，外国語で表記されたものを見つけ，身近な地域に多くの外国人が生活していることを知った。次の図6中の**カ**～**ク**は，家庭ゴミの分類表の一部と，そこに記載されたそれぞれの言語や文字を使用する韓国・朝鮮，中国，フィリピンを国籍とする外国人のいずれかについて述べた文である。また，次ページの図7中の**P**～**R**は，それらの外国人について，佐賀県における国籍別の外国人登録者数の年次推移を示したものである。**カ**～**ク**と**P**～**R**との正しい組合せを，次ページの①～⑥のうちから一つ選べ。

（2011年度地理Ｂ本試験第6問問6）

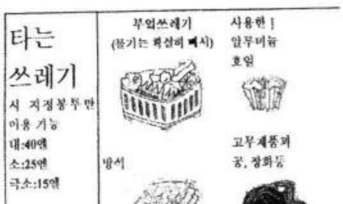
カ　サービス業を中心に，多くの労働者が流入したが，2000年代半ば以降，外国人の就労に関する入国審査の厳格化により登録者数が減少した。



キ　近年の著しい経済成長により，日本との経済的な結びつきを強めるとともに，留学生や研修生などとして多くの人々が来日している。

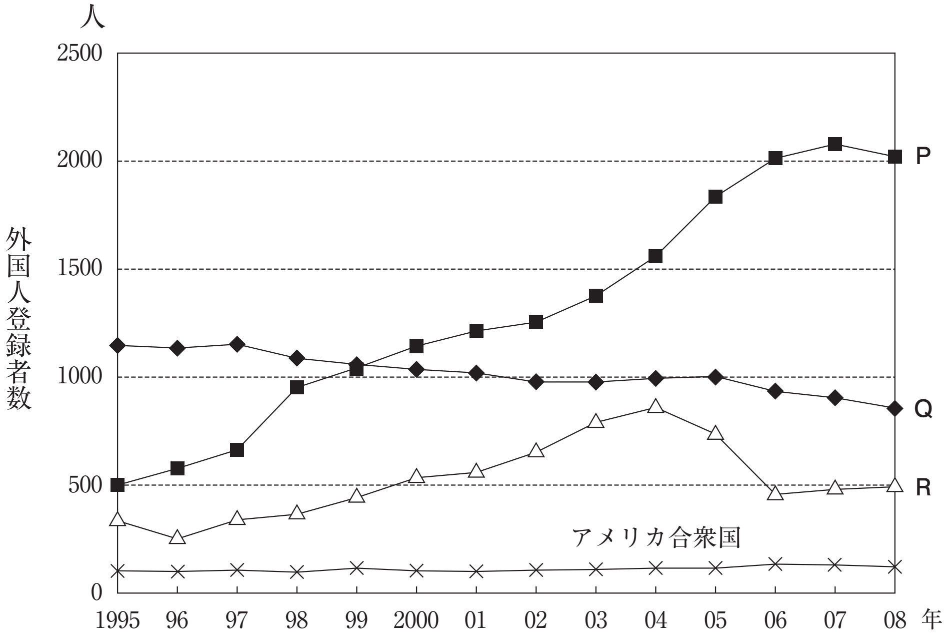


ク　近代以降，日本に移り住んだ人々が数世代にわたって暮らしているが，近年では，日本国籍を取得する者も増えつつある。



佐賀市のゴミ分類表の一部を引用。

図6



佐賀県国際課の資料により作成。

図7

	①	②	③	④	⑤	⑥
カ	P	P	Q	Q	R	R
キ	Q	R	P	R	P	Q
ク	R	Q	R	P	Q	P

［**5**］　次の写真**1**中の**サ**～**セ**は，図**1**中の都市**K**における特徴的な景観を撮影したものである。写真**1**中の**サ**～**セ**が示していることがらとその背景について述べた文章として下線部が**適当でないもの**を，下の①～④のうちから一つ選べ。

（2014年度地理Ｂ本試験第4問問4）

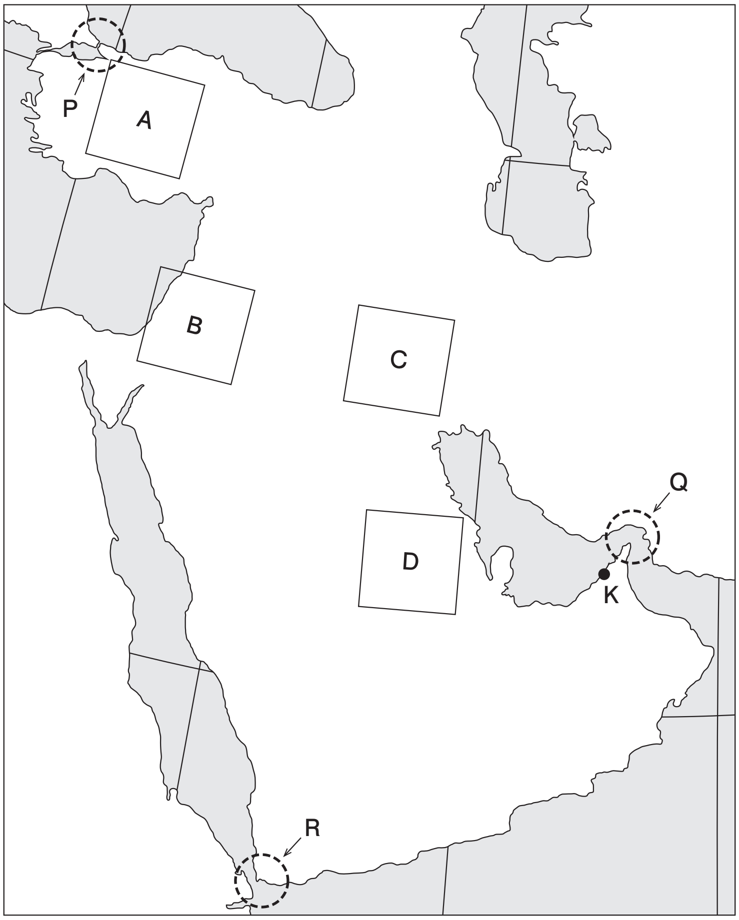


図**1**

サ

シ

ス

セ

写真１

（編集部　追記：編集上の都合により代替写真に差し替えております。）

① **サ**は，林立する高層ビル群を示したものである。国際的な金融拠点としての発展にともない，世界中から多くの投資が集中している。

② **シ**は，臨海部に整備された人工港を示したものである。輸出指向型の工業化の結果，西アジア最大の自動車生産・輸出拠点が形成されている。

③ **ス**は，海上に建設された居住・リゾート施設を示したものである。非石油部門での経済発展をめざし，大規模な観光開発が急速にすすめられている。

④ **セ**は，外国人労働者が働く建設現場を示したものである。不動産開発ブームを背景に労働力需要が高まり，国外から多くの労働者が採用されている。

［６］ 次の図１中のａ～ｃは，16 世紀以降の南北アメリカ大陸への国際的人口移動のいくつかを示しており，下の文Ｐ～Ｒは，ａ～ｃのいずれかの移動の特徴について説明したものである。それぞれの移動とその説明の組合せとして正しいものを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（1999 年度地理Ａ本試験第２問問１）

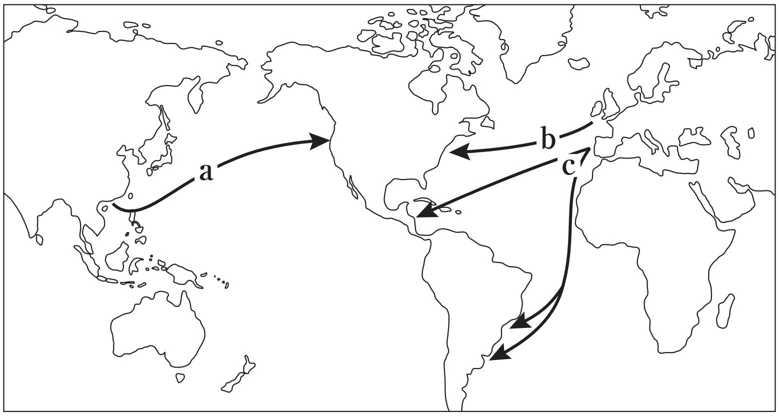


図１

Ｐ　初期の移動は，キリスト教の布教や貴金属を求めての移動であり，先住民との混血が進んだ。

Ｑ　主に鉱山・農園労働者としての移動であったが，現在では，彼らの子孫は商業・金融分野で活躍している。

Ｒ　主に信教の自由を求めての移動であり，また農業開拓移民としての移動でもあったが，現在ではその移動数はわずかである。

	①	②	③	④	⑤	⑥
Ｐ	a	a	b	b	c	c
Ｑ	b	c	a	c	a	b
Ｒ	c	b	c	a	b	a

〈 ***Note*** 〉

第３講
経済地理・産業構造の高度化

経済の面から地理を解析していこう。自給自足と貨幣経済，社会主義と資本主義など，経済に関するキーワードが地理において重要になることがある。さらにその発展として，産業別就業人口についても考察しよう。第１次産業から第２次産業，さらに第３次産業へと，より高収入が期待される産業が志向されていく。人間は経済原則にのっとって行動する存在なのだ。

３．１　自給自足から貨幣経済へ

高度に資本主義経済の発達した現在においては，都市部だけでなく，いわゆる「辺境」とよばれるような地域においても貨幣経済が浸透している。これまでの自給自足を営んでいた少数民族の状況も変化しつつある。

＜チェック！＞

アボリジニーはオーストラリアの先住民。農耕や牧畜は行われておらず，狩猟や採集による原始的な生活を営んでいた。しばしばアボリジニーについては「羊や牛を遊牧していた」のような説明文の正誤を求める問題が問われるが，これはもちろん誤り。そもそも羊や牛が外来種であり，この大陸には存在していなかったことも知っておこう。

３．２　社会主義から資本主義へ

資本主義と対立する概念として社会主義がある。国家の利益が優先される傾向にあり，産業の発展が国民の豊かさには結びつかない側面もある。また社会主義経済は計画経済である。生産活動は計画的に進められるが，競争がなく，生産性は低い。労働者にはノルマが課せられ，生産意欲も上がらない。

＜チェック！＞

自由な経済活動が認められない社会主義国家においては，経済は停滞する。2000年代にＥＵに新たに加盟した国の多くはかつての社会主義国だが，１人当たりＧＮＩが低いことから，労働者の流出や企業の進出など大きな社会変化が生じている。アジアではベトナムが代表的な社会主義国だが，1980年代後半に市

場開放を進め，米やコーヒーなど一次産品の輸出が増えただけでなく，現在は衣類や電気機械など工業の発展もみられる。

３．３　国営（国有）から民営（私有）へ

「社会主義から資本主義へ」というベクトルの向きとも重なるのだが，現代社会において「国営（国有）から民営（私有）へ」というベクトルの向きも絶対的なものである。

さらに，原則として平等である社会主義から，競争原理が前提である資本主義へと転換することによって，経済的な格差は必ず拡大する傾向にある。生産性が上昇することと格差の拡大は同義語とも言えるのだ。

[知っておこう]

「国営→民営」の例外としてプランテーションがある。キューバのプランテーションを考えてみよう。最初はアメリカ人の資本家によって開かれ，サトウキビが植えられた。やがて革命によりキューバに社会主義政権が成立し，アメリカ人たちはこの島を去る。プランテーションは国有化され，砂糖はキューバ経済を支える重要な輸出品目となった。「民営→国営」というベクトルを理解しよう。

３．４　政治と経済は別物である

政治と経済を混同してはいけない。政治的平等が与えられたからといって，それがそのまま経済的平等を意味するものではない。むしろ政治的な自由によって，経済的な自由がもたらされたと考えるべきであり，それは「職業選択の自由」や「居住地の自由」であるが，同時に貧富の格差や治安の悪化という問題を助長する要因ともなっている。

３．５　「金が人を動かす」

人口移動のセオリーを考える。現在社会において人口移動は必ず「経済レベルの低いところから高いところへ」である。労働者が高賃金の仕事を求め移動することをイメージしよう。農村から大都市へ，発展途上国から先進国へと，人口は流動する。

＜チェック！＞

社会主義の理念は「平等」であるが，それが故に経済成長が鈍化した。競争の

原理が持ち込まれた資本主義により経済は成長するが，それは同時に「格差」を生むものである。現代社会は資本主義が徹底しているがゆえ，富める者はますます富み，貧しいものはさらに貧しく，貧富の差は拡大している。

３．６　野菜

たいへん経済的な特徴のはっきりした品目に「野菜」がある。野菜は鮮度が重要であるため，できるだけ出荷に適した都市近郊で生産されることが多く（近郊農業），国内での自給率が高く（80％），輸入するとしても近隣国からが多い（主に中国。一部は韓国からも）。

＜チェック！＞

今回取り上げた問題はいずれも「鮮度」が重要となっている。「新鮮なものは近くから」というセオリーを重要視しよう。そのうえで，野菜の価格が高いことにも注目してほしい。都市に近い比較的高地価の農地で生産しても採算が取れる。また，ビニールハウスを利用した輸送園芸農業については，高速道路を用いた輸送が行われるが，これも野菜の価格が高いから成り立つことである。とくに端境期（本来の収穫期と外れた時期）には野菜は高価格で取り引きされ，遠方からの輸送がさらに活発となる。

３．７　第１次産業，第２次産業，第３次産業

農林水産業が「第１次産業」，鉱業と工業（製造業と建設業）が「第２次産業」，それ以外が「第３次産業」。一般的に最も収益性が低いと考えられているのが第１次産業であり，経済レベルの低い地域ではこれに従事する人の割合が高い。発展途上国や農村で第１次産業就業人口割合が高く，先進国や都市部で第３次産業就業人口割合が高い。

３．８　第１次産業就業人口割合

第１次産業就業人口割合については具体的な数値で知っておくべき。発展途上国でこの値は高いが，とくに米作地域である東南アジアで極めて高くなる。例えばタイは１人当たりＧＮＩが7000ドルに達し工業も発達する国であるが，第１次産業就業人口割合は30％を超える，後発発展途上国（とくに経済レベルが低い国々）と変わらない水準である。

一方，先進国でこの値は低くなるが，国ごとの差異も大きい。農業が合理化

されているイギリス（1.0％）やアメリカ合衆国（1.7％）でとくに低い値となり，日本（3.2％）やイタリア（4.0％）でやや高めの数値となる。

[知っておこう]

練習問題［10］の表では土地利用の割合もテーマとされている。土地利用で最も重要なものは「牧場・牧草地」であり，これは草原と考える。半乾燥国でこの割合が高く，モンゴルやカザフスタン，南アフリカ共和国，オーストラリアなど。

他にはパンパとよばれる温帯草原が広がるアルゼンチン，熱帯草原サバンナのケニア，大陸氷河によって大きく土壌が削り取られてしまい樹木の生育が困難なイギリスとアイルランド，開発の過程で森林が牧草地に変えられてしまったニュージーランドなど。

＜チェック！＞

練習問題［12］の選択肢①で「過疎化」というキーワードが登場している。過疎化とは人口減少に加え，若年層の流出により高齢者の割合が極めて高い状態となり，社会生活に影響が出る状態のこと。例えばタイは，そもそもの都市人口割合が約50％と低い国であり（大都市は首都バンコクのみ），農村で人口減少が際立っているとは思えない。また，発展途上国でもあり国全体として高齢化がさほど深刻な問題ともなっていない。農村において若年層の流出は確かに生じているとは思うが，日本など先進国の状況とは異なっていると考えるのが自然だろう。判定も迷う選択肢であるが，感覚的に捉えることも大切である。

３．９　時代による産業別就業者数の変化

日本における産業構造の変化を読み取る。1960年代を中心とする高度経済成長期がポイント。

それまでは就業者の過半が第１次産業に従事していた。しかし高度経済成長期，それらの労働力は太平洋ベルト地帯へと移動し，工業を支える労働力となった。この時期，わが国における第２次産業就業人口割合は急激に高くなる。

高度経済成長が終わり，国内における人口流動も収まりをみせた70年代以降は，減り続ける第１次産業，横ばいの第２次産業に対し，第３次産業就業人口割合のみが上昇を続ける。「１次：２次：３次」については「５％：30％：65％」と覚えておくと使いやすい（最新のデータでは「3.2％：24.0％：72.8％」である）。

＜チェック！＞

練習問題［13］のデータは古いが，とくに問題にはならない。日本の産業構造の大きな変化については，1960 年代の高度経済成長と 1970 年代のオイルショックがターニングポイントになるのであり，この時期の産業構造の変化を確実に理解することが大切なのだ。

ただし，難問であるので，以下にヒントを記す。ア～キまでの産業の特徴を読み取る。

ア・・・最初の数が最も多い。しかし以降は減少を続ける。
イ・・・60 ～ 70 年は急増。しかしそれ以降は増えていない。
ウ・・・上昇を続ける。サービス業と同じ動きだが，こちらの方が人数が多い。
エ・・・上昇を続ける。しかし人数は少ない。
オ・・・イと同じような動き。しかしイよりは人数が少ない。
カ・・・減少している。しかしアよりは人数が少ない。
キ・・・1980 年の段階で「108」である。現在の就業者数は極めて少ない。

選択肢①～⑦を第１次産業，第２次産業，第３次産業に分類した上で，問題を解き進めよう。

ワンポイント

第３次産業就業人口割合と経済レベル（１人当たりＧＮＩ）は原則として比例している。最も収益性の高い産業（第３次産業）に従事している人の割合が高ければ，賃金水準も当然高い。

この唯一の例外が沖縄県。日本で最も所得水準の低い地域であるが，第３次産業就業人口割合は高い。これは農業が振るわず（石灰質の土壌であるため，水田耕作に適さない），工業も発達していない（重工業がみられない）ことにより，第１次産業と第２次産業の就業者が少なく，相対的に第３次産業就業人口が多くなる。むしろ「恵まれない場所」だからこそ第３次産業就業人口割合が高いのだ。

第３講
経済地理・産業構造の高度化［練習問題］

［１］　アメリカ合衆国・オーストラリア・カナダ・ブラジルの４か国における先住民族の歴史や現状について述べた次の文①～④のうちから，下線部が**誤っているもの**を一つ選べ。

（1997 年度地理Ｂ本試験第２問問３）

①　アメリカ合衆国の先住民であるアメリカ・インディアンは，ヨーロッパからの移民の入植の過程で，土地を奪われ，保留地に封じ込められた。

②　オーストラリアの先住民であるアボリジニーは，現在でも都市部に住む人々は少なく，焼畑農耕を中心とした生活を維持している。

③　カナダやアラスカ地域の先住民であるイヌイット（エスキモー）は，現在では定住化が進み，その食生活も購入した食料に大きく依存するようになった。

④　ブラジルの先住民であるインディオは，熱帯林の開発の進行によって，自給的生活をおびやかされ，一部では政府の開発政策に抵抗する運動がみられる。

［２］　旧ソ連で，計画経済下にあった 1980 年代における工業の状況を説明した次の文①～④のうちから，最も適当なものを一つ選べ。

（1998 年度地理Ｂ追試験第１問問５）

①　計画経済のため，ノルマが課せられ，生産意欲が高かった。

②　重工業が優先され，国民生活に必要な消費財の生産は不十分であった。

③　環境汚染が深刻となったため，経済成長を優先させる政策を放棄した。

④　軍需や宇宙開発のためのエレクトロニクス産業が，国民生活へ積極的に活用された。

［３］　アパルトヘイト廃止後の南アフリカ共和国の状況を述べた次の文①～④のうちから，**誤っているもの**を一つ選べ。

（1997 年度地理Ｂ本試験第５問問７）

①　総選挙が行われ，黒人の大統領が選出された。
②　白人の選挙権が制限されるようになった。
③　国連で経済制裁の解除が決議された。
④　人種間の経済格差はまだ大きい。

［４］　17 ～ 18 世紀にアフリカ大陸から北アメリカへ移住した人々について述べた次の文①～④のうちから，**誤っているもの**を一つ選べ。

（1997 年度地理Ａ追試験第２問問６）

①　彼らは，自らの意志に基づいて北アメリカに渡ってきたのではなく，奴隷として強制的に連行されてきた人々である。
②　彼らは，主に大農園の労働力として，タバコや綿花の栽培に従事させられた。
③　南北戦争後の奴隷制からの解放は，彼らに，政治的にも経済的にも白人との平等をもたらした。
④　第一次世界大戦後，北部の工業地域での労働力が不足したため，彼らの南部から北部への大移動が始まった。

［5］ 西ドイツと東ドイツが統合した後，次の図1のようなドイツ国内での労働力の移動がみられた。図1中の旧東ドイツから旧西ドイツへ移動が生じた理由を述べた文として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。

（1999年度地理Ａ追試験第3問問1）

加賀美(1995)の図を一部改変。

図1

① 旧東ドイツで失業した労働者が，ブドウ栽培などの農業に就くために，旧西ドイツの農村部へと移動した。

② 旧東ドイツでは，生産の合理化や工場の閉鎖などにより，工業の盛んな旧西ドイツの北西部や南部などに労働力が流出した。

③ 旧東ドイツの中で工業の発達していた地域の労働者が，旧西ドイツの南部地域で工場を経営するために移動した。

④ 統合されたドイツでは一国二制度となり，資本主義の下で労働したいと考えた社会主義下の旧東ドイツ労働者が，旧西ドイツの南部などに流出した。

［６］　次の表３はネパール東部のある定期市（標高約 2400 m）において，商品名，売り手，その人数を調査したものである。表３中のＰ～Ｒは，衣類（布を含む），穀物，肉類のいずれかである。Ｐ～Ｒに該当する商品の組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2000 年度地理Ｂ本試験第５問問５）

表３

商品名	売り手		売り手人数(人)
	生産者	商人	
野菜・果物	○		110
Ｐ	○	○	87
手工業品	○		67
雑貨・嗜好品		○	47
調味料・食用油	○	○	41
Ｑ		○	31
Ｒ	○		19
乳製品	○		19
灯油		○	4
その他	○	○	10
計			435

1987 年 10 月 10 日調べ。鹿野（1997）により作成。

	①	②	③	④	⑤	⑥
Ｐ	衣類	衣類	穀物	穀物	肉類	肉類
Ｑ	穀物	肉類	衣類	肉類	衣類	穀物
Ｒ	肉類	穀物	肉類	衣類	穀物	衣類

［７］ ケイタさんは野菜の生産が増加した要因を調べてみた。野菜生産の増加要因として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。

（2004 年度地理Ｂ追試験第５問問３）

① 輸送手段の発達により，遠隔の大消費地への出荷が容易になったため。
② 米作よりも機械化が容易であり，労働時間が短縮できるため。
③ 米作よりも単位面積当たりの収益が高いため。
④ ビニールハウスの利用などで，栽培可能期間を長くすることができるようになったため。

［８］ 日本における食料輸入と自給率の特徴について述べた文として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。

（2007 年度地理Ａ本試験第２問問６）

① 果実は，オレンジやオレンジジュースの輸入が自由化されたため，自給率は低下している。
② カボチャは輸送，貯蔵技術向上などにより輸入が増えたため，自給率は低下している。
③ 鶏卵は航空機を利用することで鮮度を保った輸入が容易になり，自給率は低下している。
④ 小麦は，以前からアメリカ合衆国やカナダなどからの輸入が多いため，自給率は低い状態が続いている。

［９］　次の表２は，アメリカ合衆国，アルジェリア，タイ，日本，フランスの農業就業人口の割合，農業就業者１人当たりの耕地面積，耕地１ha 当たりの穀物生産量を示したものである。タイに該当するものを，表２中の①〜⑤のうちから一つ選べ。

（2001 年度地理Ｂ追試験第４問問３）

表２

	農業就業人口の割合（%）	農業就業者１人当たりの耕地面積（ha）	耕地１ha 当たりの穀物生産量（kg）
①	58.8	1.0	2268
②	25.0	3.4	780
③	4.8	1.3	6064
④	3.9	19.1	6896
⑤	2.3	55.8	5299

統計年次は 1996 年または 1997 年。『世界国勢図会』により作成。

［10］　次の表１中の①〜④は，アイルランド，イギリス，スペイン，ドイツのいずれかの国における，就業人口に占める農業就業人口の割合，国土面積に占める耕地・樹園地面積の割合，国土面積に占める牧場・牧草地面積の割合を示したものである。ドイツに該当するものを，表１中の①〜④のうちから一つ選べ。

（2005 年度地理Ｂ追試験第３問問４）

表１

（単位：%）

	農業就業人口の割合	耕地・樹園地面積の割合	牧場・牧草地面積の割合
①	10.2	15.0	47.9
②	7.4	36.0	22.6
③	2.5	33.7	14.1
④	1.8	24.4	45.4

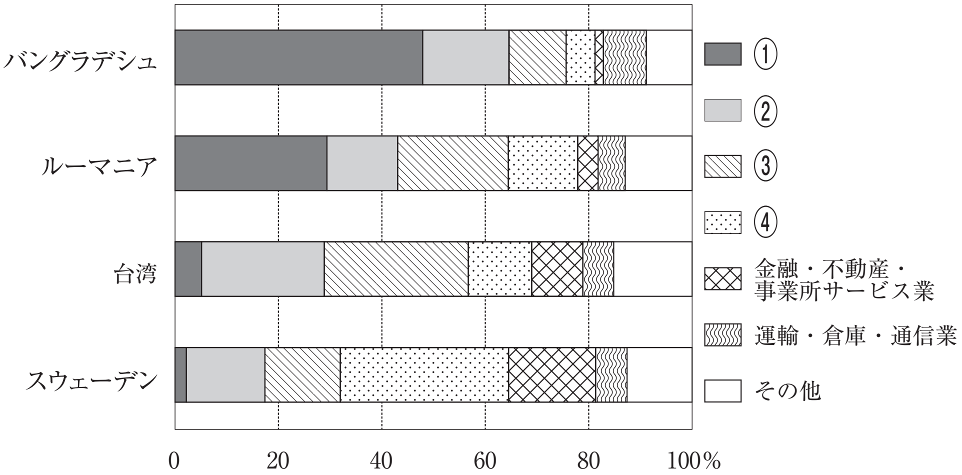
統計年次は 2000 年。

『世界国勢図会』により作成。

［11］　次の図２は，バングラデシュ，ルーマニア，台湾，スウェーデンにおける産業別就業人口の割合を示したものであり，①～④は，社会サービス業（＊），商業・飲食宿泊業，製造業，農林水産業のいずれかである。製造業に該当するものを，図２中の①～④のうちから一つ選べ。

（＊）教育・保健衛生・社会事業・公務を示す。

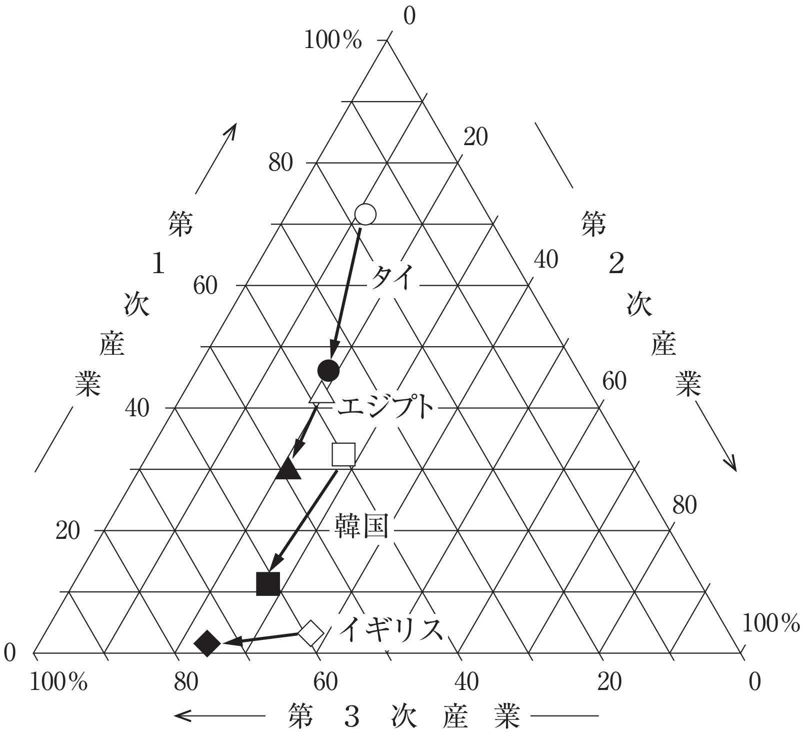
（2012年度地理Ｂ追試験第２問問３）



統計年次は2005年または2007年。
国際労働機関の資料などにより作成。

図２

［12］　次の図２は，イギリス，エジプト，韓国，タイの最近約20年間における産業別人口構成の変化を示したものである。図２の内容およびそれにかかわる諸課題について述べた文として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。
（2006年度地理Ｂ本試験第６問問５）



統計年次は，イギリスが1980年と2002年，エジプトが1980年と2000年，韓国が1982年と2000年，タイが1980年と2001年。
『世界国勢図会』により作成。

図２

①　タイでは，工業化の成功で農業を離れて製造業に移る人々が増え，農業従業者の比率が急減し，農村の過疎化が米の生産に深刻な影響を及ぼした。

②　エジプトでは，工業化の進行で製造業従業者の比率が高まったが，商業やサービス業の従業者の比率はほとんど変わらなかった。

③　韓国では，セマウル運動の結果，農業従業者の比率はほとんど変わらなかったが，経済のサービス化が進行して，製造業従業者の比率が減った。

④　イギリスでは，製造業の衰退から失業者が多かったが，商業やサービス業の雇用が増え，製造業従業者の比率が減った。

［13］　産業構造の変化と製造業の地位の変化をみるため，1960 年，1970 年，1980 年の産業別就業者数を調べた（表２）。その結果，産業別就業者数の変化は著しく，また製造業の就業者数は，1960 ～ 1970 年では増加が目立つが，1970 ～ 1980 年ではほぼ横ばいであることがわかった。この表に関して，下の問いに答えよ。

（1987 年度地理追試験第４問問６）

表２

	1960年	1970年	1980年
総数	44365	53196	57231
ア	13708	9606	5640
イ	9572	13717	13246
ウ	7766	11539	14735
サービス業	5280	7703	10298
エ	2693	3964	5383
オ	2455	3526	3853
公務	1340	1742	2026
カ	681	539	461
キ	538	216	108

総数には「分類不能の産業」を含む。「日本の 100 年」により作成。

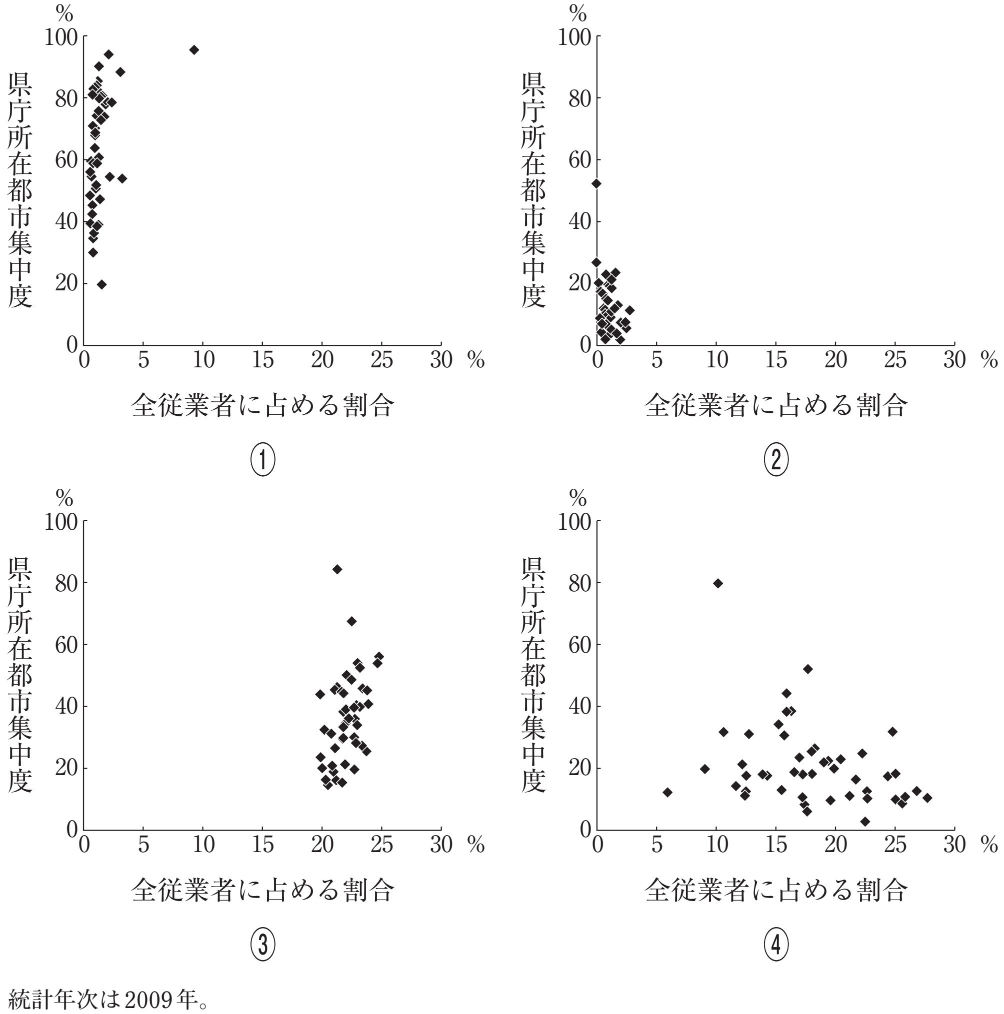
表２の**ア**～**キ**の産業は，次の①～⑦のいずれかに該当する。**イ**，**ウ**，**キ**に該当する産業を，①～⑦のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

① 農業及び林業
② 漁業
③ 鉱業
④ 建設業
⑤ 製造業
⑥ 卸売・小売業及び金融・保険・不動産業
⑦ 電気・ガス・水道業及び運輸・通信業

［14］　産業の立地傾向の違いは，地域内においてもみられる。次の図４は，いくつかの産業の従業者について，都道府県ごとの全従業者に占める割合と，県庁所在都市集中度（＊）を示したものであり，①～④は，卸売・小売業，情報通信業，製造業，農林漁業のいずれかである。情報通信業に該当するものを，図４中の①～④のうちから一つ選べ。

（＊）県庁所在都市の従業者が都道府県内の各産業従業者全体に占める割合，東京都は特別区部を県庁所在都市とみなす。

（2013年度地理Ｂ本試験第２問問６）

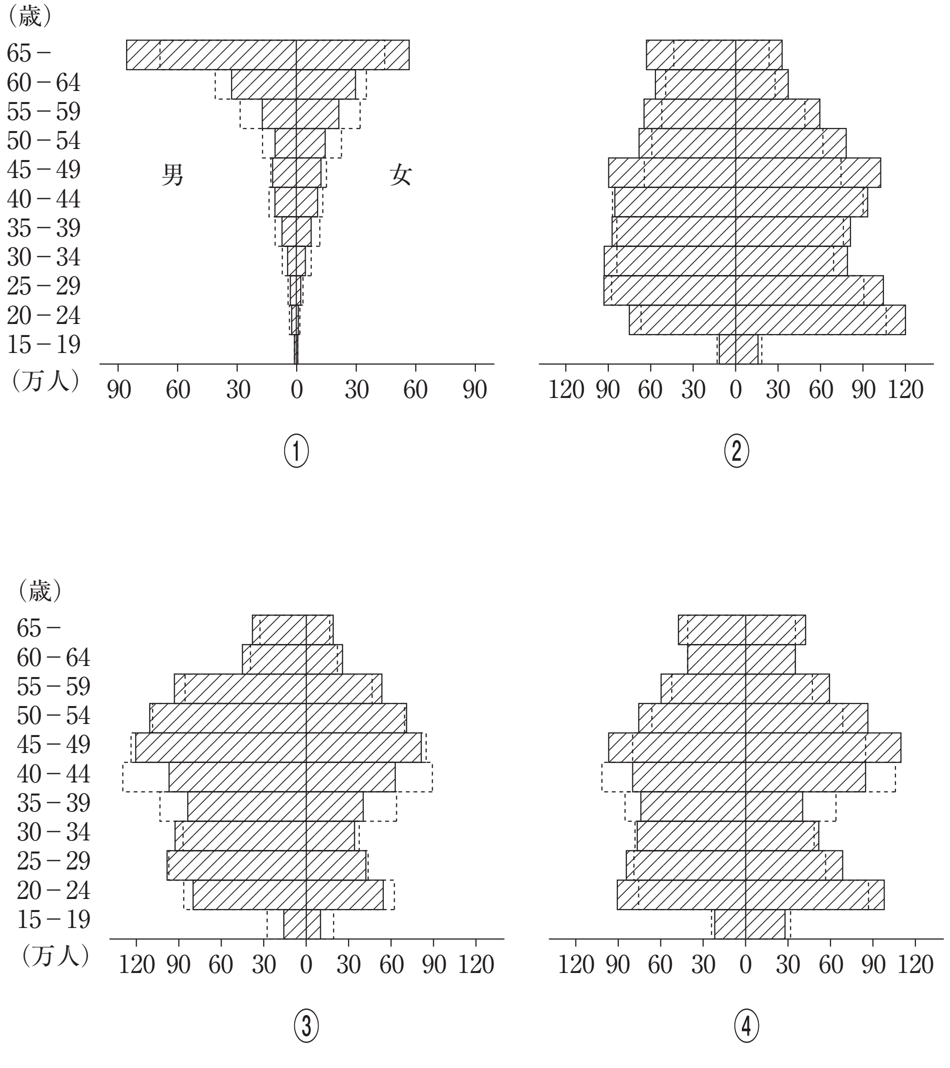


統計年次は2009年。
『経済センサス』により作成。

図４

［15］　次の図５は，1995年（実線）と1990年（破線）における日本の「卸小売業・飲食店」，「サービス業」，「製造業」，「農業」の年齢階級別・男女別就業者数を示したものである。「製造業」に該当するものを，図５中の①～④のうちから一つ選べ。

（2000年度地理Ｂ本試験第４問問６）



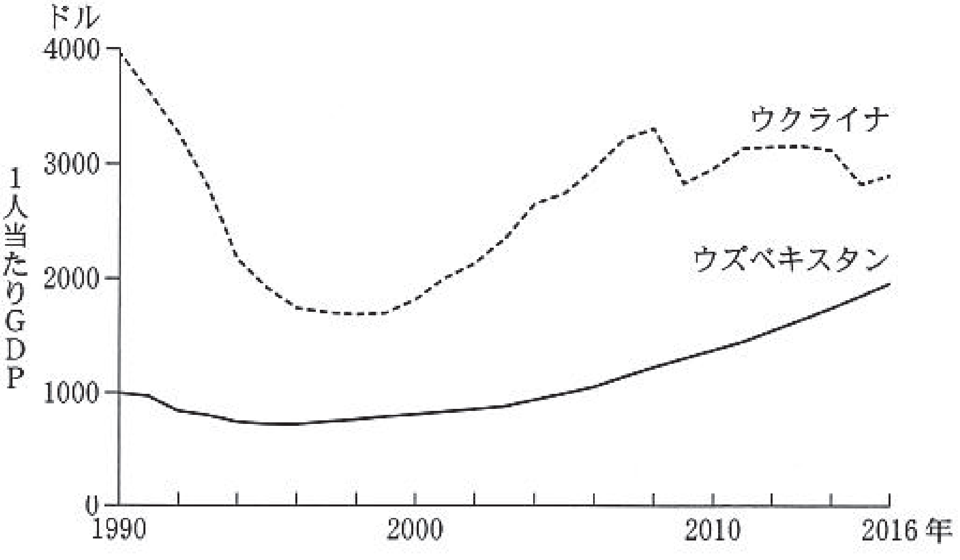
国勢調査による。

図５

第３講
経済地理・産業構造の高度化［確認問題］

［**1**］　ウクライナとウズベキスタンの経済の変化に関して，次の図**３**は，1990年以降の１人当たりＧＤＰ（国内総生産）の変化を示したものである。両国の経済活動の変化とその要因について説明した下の文章中の下線部①～④のうちから，**適当でないもの**を一つ選べ。

（2019年度地理Ｂ本試験第５問問３）



World Development Indicators により作成。

図３

1991年のソ連解体直後は，旧ソ連諸国では①市場経済から計画経済への移行期の混乱によって経済活動が低下した。しかし，ウズベキスタンでは政治の安定と国家による経済管理により，ウクライナよりも②経済活動の低下の度合いは小さく，回復も早かった。1990年代末以降は，両国の経済は鉱産物や農産物の価格上昇などによって安定的に成長してきたが，ウクライナでは2008年の国際的な金融危機や，近年の③ロシアとの関係悪化などによって，経済活動は停滞している。ウクライナとウズベキスタンとの経済水準の差は④2011年以降，縮小する傾向がみられる。

［2］　市場経済導入後のロシアにおける経済・産業と人々の生活について述べた文として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。

（2009 年度地理Ｂ追試験第５問問３）

①　国家から払い下げられた企業を経営する新しい富裕層が現れる一方，経済的に苦しい年金生活を強いられている人々がいる。

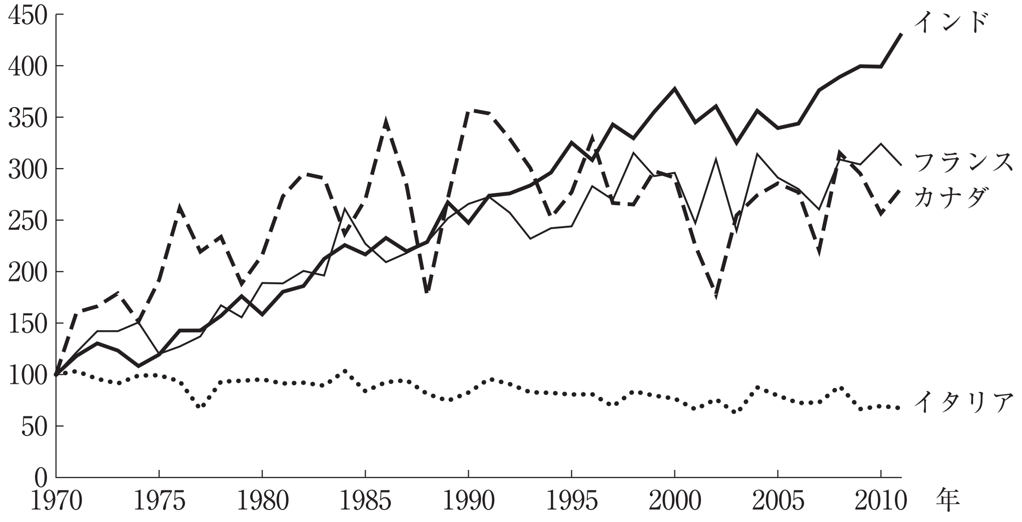
②　外資系のファストフード店やサービス業が農村にも立地し，都市と農村の間で生活水準の格差が縮まった。

③　ソ連時代に農産物の生産をになっていた国営農場や集団農場の多くは，ソ連崩壊後，企業や組合などに再編された。

④　市場経済が導入された後も，都市住民はダーチャ（家庭菜園付きの簡単な別荘）で自給用の野菜や果実を栽培して食料を確保してきた。

［３］ 次の図１は，イタリア，インド，カナダ，フランスの小麦の生産量の推移を，1970 年を 100 として示したものである。図１から読み取れることがらとその背景について述べた文として下線部が**適当でないもの**を，下の①～④のうちから一つ選べ。

（2015 年度地理Ｂ本試験第２問問１）



FAOSTATにより作成。

図１

① イタリアでは，1970 年代以降生産量の減少傾向が続いているが，これは<u>農場の国有化を推進したものの，生産性が向上しなかったため</u>である。

② インドでは，1970 年以降生産量が増加しているが，これは<u>「緑の革命」によって高収量品種の導入や灌漑設備の整備が進んだため</u>である。

③ カナダでは，年による生産量の変動が大きいが，これは<u>栽培限界の近くに位置し，気温や降水量の変動の影響を受けやすいため</u>である。

④ フランスでは，1970 年から 2000 年に生産量が増加しているが，これは<u>大規模経営による生産性の高さから小麦栽培を拡大してきたため</u>である。

［4］　経済のグローバル化にともない，各国の産業構造は変化している。次の表**３**は，イギリス，韓国，シンガポール，メキシコにおける全就業人口に対する産業別就業者の割合を示したものである。イギリスに該当するものを，表**３**中の①〜④のうちから一つ選べ。

（2001 年度地理Ｂ追試験第２問問４）

表３

（%）

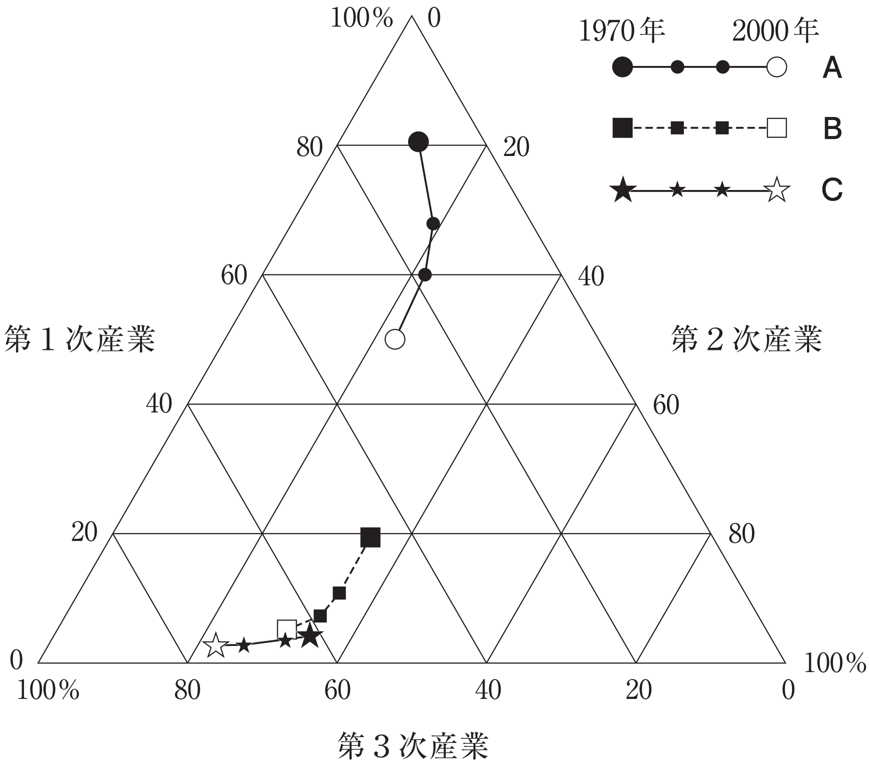
	①	②	③	④
農林水産業・狩猟	11.0	24.2	0.3	1.8
製造業	21.3	16.9	22.6	18.7
商業	27.5	21.1	21.8	20.2
運輸・倉庫・通信業	5.5	4.1	11.5	6.4
金融・保険・不動産	9.1	4.0	14.9	14.3
その他	25.6	29.7	28.9	38.6

統計年次は 1997 年。『世界国勢図会』による。

［５］　次の図１は，いくつかの国における産業構造の変化について，1970 年から 2000 年の期間における産業別就業者割合の変化を示したものであり，Ａ～Ｃは，アメリカ合衆国，中国（＊），日本のいずれかである。Ａ～Ｃと国名との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（＊）台湾，ホンコン，マカオを含まない。

（2013 年度地理Ｂ本試験第２問問１）



統計年次は，1970，1980，1990，2000年。

『マクミラン新編世界歴史統計』などにより作成。

図１

	①	②	③	④	⑤	⑥
アメリカ合衆国	Ａ	Ａ	Ｂ	Ｂ	Ｃ	Ｃ
中国	Ｂ	Ｃ	Ａ	Ｃ	Ａ	Ｂ
日本	Ｃ	Ｂ	Ｃ	Ａ	Ｂ	Ａ

［６］　高度経済成長期以降，日本の農山漁村で起こった変化について述べた文として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

（2005 年度地理Ｂ追試験第２問問３）

①　人口が流出して過疎化が進んだ多くの山村では，村おこし事業などの地域振興策によって人口が増加に転じている。

②　産業の地方分散によって工場が進出した多くの農村では，新しい収入源を求めて農家の兼業化が進んでいる。

③　海岸の埋め立てによって漁業が縮小した漁村の多くでは，ほとんどの漁民が新しい漁場を求めて転出したため，人口が減少している。

④　大都市近郊にある多くの農村では，米の需要の増大に対応するため，稲作が盛んになっている。

第４講
天体としての地球

地理とは「地球」について学ぶことである。地球を天体としてとらえ，宇宙から眺めた地球をイメージしよう。とくに地球は地軸を傾けた状態で太陽の周囲を公転している。このことにより白夜と極夜が生じる。科学的な視点をもって，その システムを理解しよう。

４．１　地球を球体として考える

・緯線・・・赤道に並行して横方向に描かれている線。赤道(緯度０°)を中心に，北緯と南緯はそれぞれ90°までである。赤道は40000㎞だが，他の緯線はそれより短い。同じ緯線上の各地点において，ある日の南中(南半球の場合は北中)高度は同じである。太陽高度を観測することによって，緯度は容易に測定できる。

・経線・・・北極から南極まで縦方向に描かれている点。長さは全て20000㎞。同じ経線上の各地点において，太陽高度が最高となる南中(南半球の場合は北中)の瞬間は同じである。時差の基準となる。

＜チェック！＞

赤道一周40000㎞を基準にして，緯度30°，45°，60°一周の長さも求めることができる。三平方の定理を用いて計算してみよう。ポイントはコサイン(cos)。

[知っておこう]

緯度と経度の意味をイメージしよう。

・東京と緯度がほぼ同じ都市はアメリカ合衆国のサンフランシスコ。ある日の東京の正午の太陽高度が55°だった場合，サンフランシスコの正午の太陽高度も55°。

東京と経度がほぼ同じ都市はオーストラリアのアデレード。東京で太陽が南中した同じ瞬間，アデレードでも太陽が北中している。

・本初子午線(経度０°)はイギリスのロンドンを通っている。日本の標準時子午線は東経135°で，ロンドンとは時差が９時間である。東京で正午を迎えた時，イギリスは午前３時であるというイメージをつくっておこう。

<チェック！>

赤道の位置はよく問われる。各大陸のどの辺りを赤道が通過しているか確認しておこう。アフリカの「腹」，南アメリカの「肩」，マレー半島の「先端」。

４．２　時差計算

地球は24時間で一周（360°）自転する。１時間当たりの自転角度は15°である。例えば明石市（東経135°）で太陽が南中した１時間後に，東経120°の地点で同じく太陽が南中する。ロンドン（０°）で南中するのは，明石市の９時間後。

４．３　対蹠点

地球の中心をはさんだ正反対の地点を対蹠点という。北緯35°，東経140°の東京の対蹠点は，南緯35°，西経40°。経度と緯度の違いを意識しよう。

[知っておこう]

春分，夏至，秋分，冬至について考えよう。

・３月21日頃・・・北半球春分，南半球秋分。太陽は赤道直射となり（太陽光の入射角と地軸のなす角度が90°となる），正午の太陽高度が90°となるのは赤道上の地点。東京（北緯35°）の正午の太陽高度（南中高度）は55°となる。

・６月22日頃・・・北半球夏至，南半球冬至。地軸の北極側が大きく太陽方向へと傾く。正午の太陽高度が90°となるのは北回帰線（北緯23.4°）上の地点。東京の南中高度は78.4°となる。

・９月23日頃・・・北半球秋分，南半球春分。太陽は赤道直射となり，正午の太陽高度が90°となるのは赤道上の地点。東京の南中高度は55°となる。

・12月22日頃・・・北半球冬至，南半球夏至。地軸の南極側が大きく太陽方向へと傾く。正午の太陽高度が90°となるのは南回帰線（南緯23.4°）上の地点。東京の南中高度は31.6°となる。

４．４　太陽と地球の位置関係による昼夜間バランスの変化

地軸は，公転面の垂線に対し23.4°傾いている。

太陽の中心点をＰ，地球の中心点をＯ，北極点をＮ，南極点をＳと置く。

・３月21日頃(北半球春分，南半球秋分)・９月23日頃(北半球秋分・南半球春分)，∠ＰＯＮ＝∠ＰＯＳ＝90°である。地球上のいずれの地点においても，昼と夜の長さが12時間ずつで同じ。

・６月22日頃(北半球夏至，南半球冬至)，∠ＰＯＮ＝(90－23.4)°＝66.6°となり，∠ＰＯＳ＝(90＋23.4)°＝113.4°となる。この状態で地球が自転した場合，赤道上では昼と夜の長さは１：１となるが，そこから北に向かうにつれ昼の時間が長くなり，南に向かうにつれ夜の時間が長くなる。このことによる太陽からの受熱量の変化が季節の生じる理由の一つ。昼が夜より長い北半球は夏となり，昼が夜より短い南半球は冬となる。

・12月22日頃(北半球冬至，南半球夏至)，∠ＰＯＮ＝(90＋23.4)°＝113.4°となり，∠ＰＯＳ＝(90－23.4)°＝66.6°となる。赤道では昼と夜が半分ずつだが，北半球では夜の割合が高く，南半球では昼の割合が高い。夜が昼より長い北半球は冬となり，夜が昼より短い南半球は夏となる。

この際に注目するべきは，北緯66.6°より高緯度側の地域(北極圏)と南緯66.6°より高緯度側の地域(南極圏)。６月22日頃，北極圏は24時間昼の状態が続き，南極圏では24時間夜の状態が続く。12月22日頃はこれとは反対になる。

この24時間昼の状態となることを「白夜」といい，反対に24時間夜の状態となることを「極夜」という。地球が地軸を傾けて太陽の周りを回っているからこそ生じる特別な事象である。

＜チェック！＞

太陽が赤道直射となる３月21日頃と９月23日頃は，地球上の全ての地点で昼と夜の長さが12時間ずつで等しくなる。**練習問題［７］**のグラフからもそれを読みとろう。

４．５　緯度差と気温年較差

緯度と気温年較差の関係に注目。季節による昼夜間バランスの小さい低緯度地域では，気温年較差も小さくなる。逆に，高緯度地域では夏に昼がとくに長くなり，冬に夜がとくに長くなるため，夏と冬の気温差が大変大きい。

原則として，気温年較差を決定する最大要因は緯度であると考えておこう。もちろん，これに他の要素(内陸部であるか，沿岸部であるか，など)が作用し，気温年較差はさらに変動することになる。

４．６　回帰線

北緯23.4°が北回帰線。６月22日頃に正午の太陽高度が90°に達する。

南緯23.4°が南回帰線。12月22日頃に正午の太陽高度が90°に達する。

＜チェック！＞

回帰線は，中緯度高圧帯の形成される緯度帯と重なっている。回帰線周辺に乾燥地域が分布していることを確認しておこう。アフリカ大陸北部やオーストラリア大陸など。

ワンポイント

北半球中緯度地帯に住んでいる我々にとって太陽の動きは，「東の方向から昇って，南を回って，西の方向に沈む」というもの。赤道直下ならば，「東の方向から昇って，天頂を通過して，西の方向に沈む」。南半球ならば，「東の方向から昇って，北を回って，西の方向に沈む」。

興味深いのは北極点と南極点。太陽は，半年間地平線の上にあり昼の状態が続くが，残りの半年間は地平線の下にあり夜の状態となる。昼の時期の太陽の動きは，24時間かけてほぼ同じ高度を一周する。春分と秋分の日の太陽高度は０°であり，地平線に沿って太陽が一周する。夏至の日の太陽高度は23.4°で，やはり太陽がこの高度を24時間で一周する。

［図１］　地球のモデル図

赤道全周と子午線の全周はいずれも40000㎞である。北極点と南極点を結んだ地軸は，公転面の垂線に対し23.4°傾いている。

［図２］　地球の公転

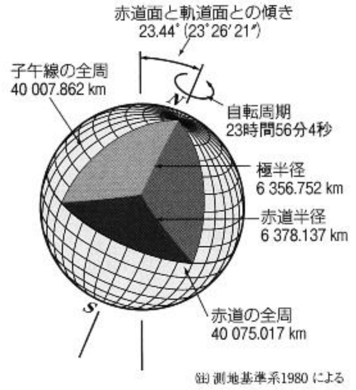
地軸を傾けた状態で，地球は太陽の周りを公転している。このため，時期によって太陽光の当たる範囲が変化してくる。

３月後半の春分(南半球は秋分)では，北極点と南極点は，太陽光の当たる範囲と当たらない範囲の境界に位置している。

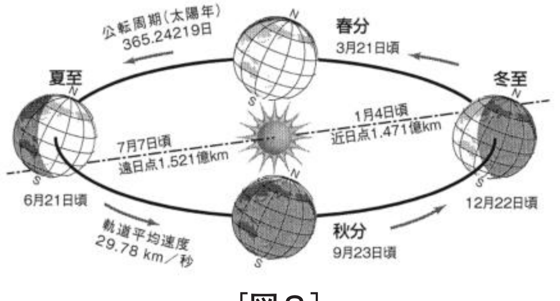
６月後半の夏至(南半球の冬至)では，北極周辺は一日中太陽光を受けるのに対し，南極周辺は一日中太陽光が当たらない。

９月後半の秋分(南半球は春分)では，３月後半と同様。

12月後半の冬至(南半球は夏至)では，６月後半と反対に，北極周辺には一日中太陽光が当たらず，南極周辺には一日中太陽光が当たり続ける。



［図１］



［図２］

（二宮書店『データブック　オブ・ザ・ワールド』）

第４講
天体としての地球［練習問題］

［１］ 赤道上におけるインド洋の東西幅に最も近いものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

（2000年度地理Ｂ本試験第２問問１）

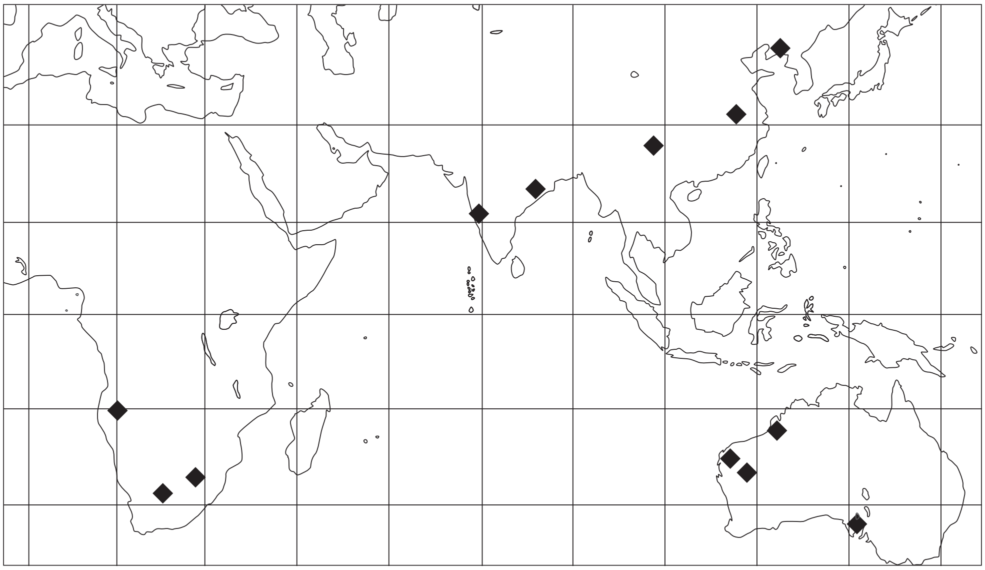


図１

① 4700km

② 6200km

③ 7700km

④ 9200km

［２］　次の表１は，Ａさんがシンガポールで乗り換えた飛行機の時刻表である。発着時刻は，現地時間で示されている。シンガポールでは東経120度，ヨハネスバーグでは東経30度の標準時が採用されている。この便の所要時間として正しいものを，下の①～④のうちから一つ選べ。

（1998年度地理Ａ本試験第２問問１）

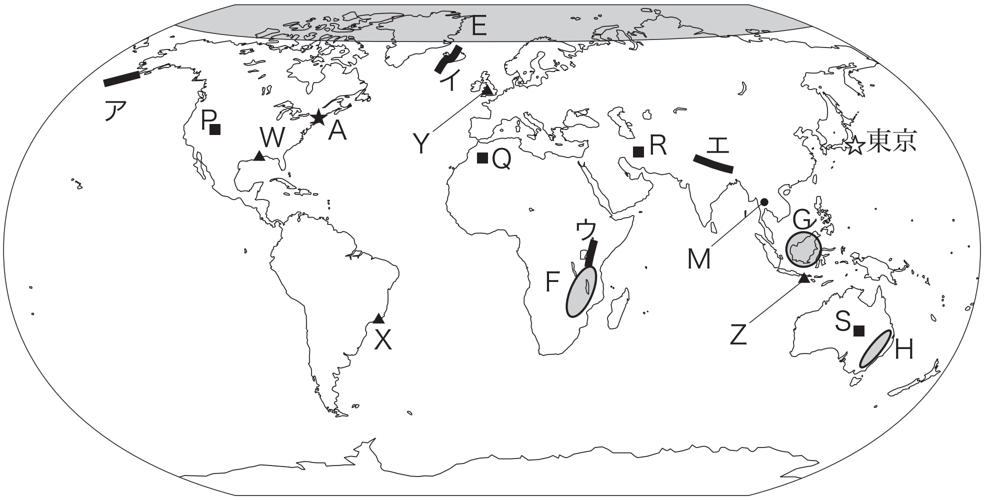
表１

便名	運航日	シンガポール発	ヨハネスバーグ着
ＸＸ000	－火水－金土－	午前１：00	午前６：00

①　５時間
②　８時間
③　11時間
④　14時間

［３］　下の表１は，ある月における東京（成田）から次の図１中の地点Ａに向かう直行便のフライトスケジュールを示したものである。表１から分かる東京と地点Ａとの時差として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。なお，サマータイム制度は考慮しない。

（2015年度地理Ａ本試験第１問問１）



NOAA の資料などにより作成。

図１

表１

	現地時間	所要時間
東京（成田）発 ↓ 地点Ａ着	11：30 ↓ 10：15	12 時間 45 分

『JTB時刻表』により作成。

① 10時間

② 12時間

③ 14時間

④ 16時間

［４］　世界地図上において，対蹠(たいせき)の位置関係にある同縮尺の日本を示したものとして正しいものを，次の図２中の①～④のうちから一つ選べ。

（2008年度地理Ａ追試験第１問問６）

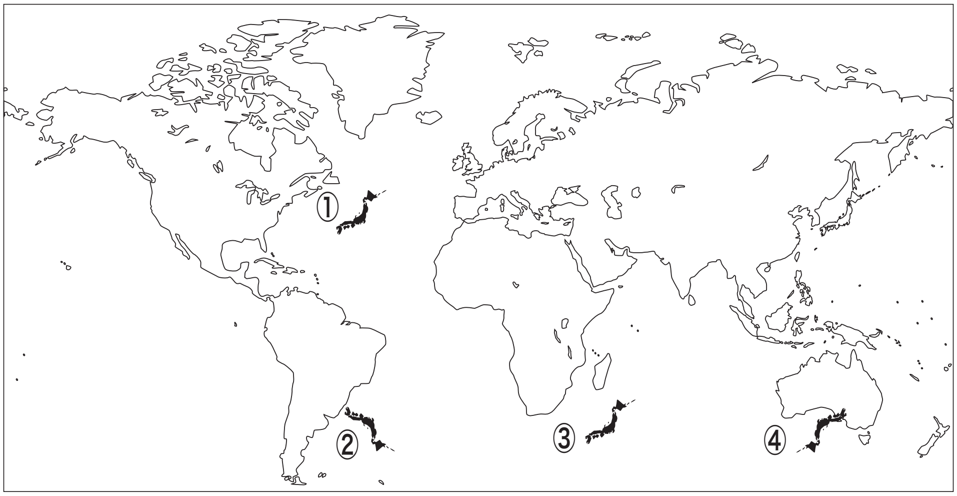
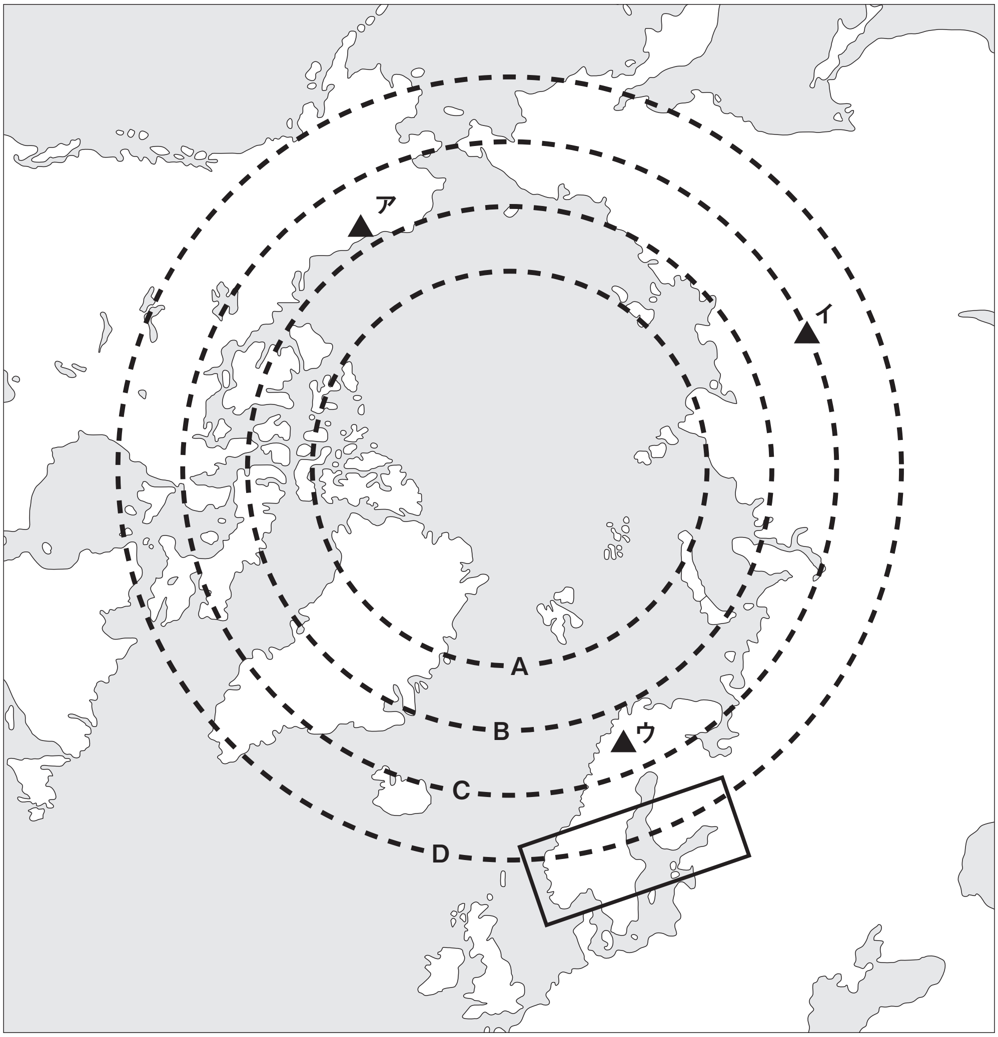


図２

［5］ 図１中のＡ～Ｄのうち北極圏の境界を示す緯線として正しいものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

（2006年度地理Ｂ追試験第５問問１）



北極を中心としたランベルト正積図法。

図１

① Ａ　② Ｂ　③ Ｃ　④ Ｄ

［６］　次の図２中のＡ地点では，一日中太陽の沈まない時期がある。その時期として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

（2000年度地理Ｂ追試験第２問問４）

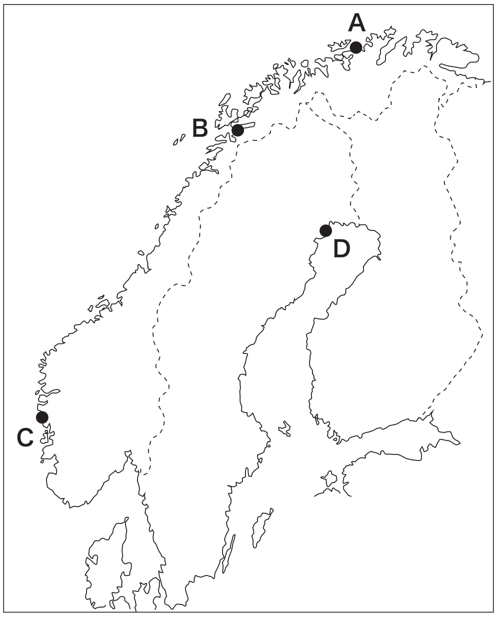


図２

①　４月下旬を中心とした時期

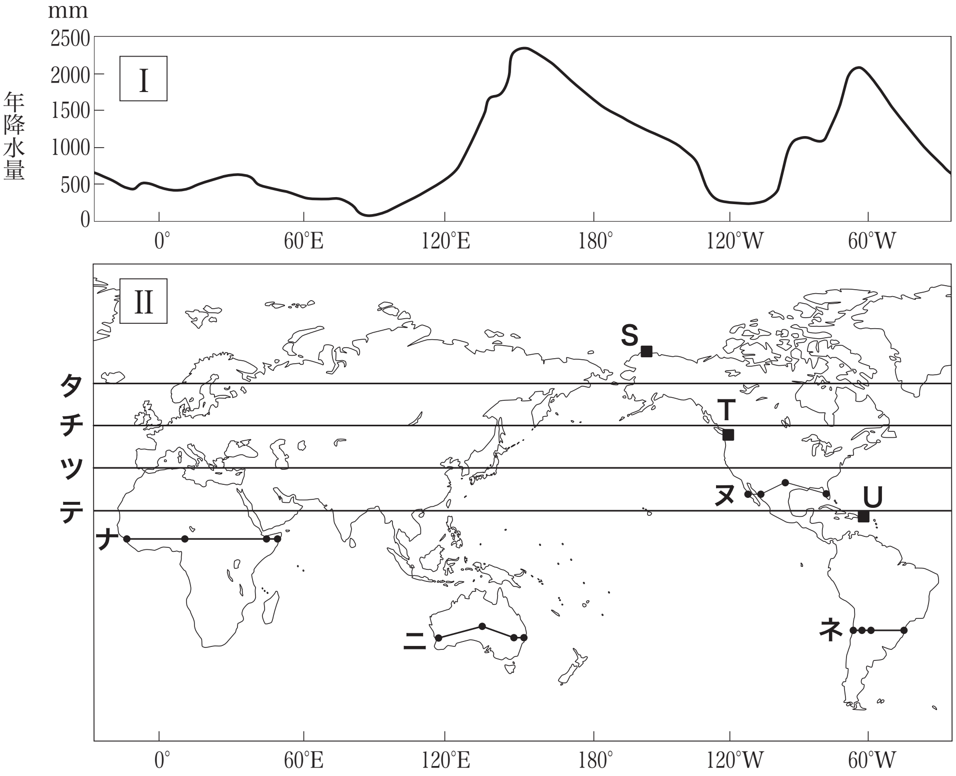
②　６月下旬を中心とした時期

③　８月下旬を中心とした時期

④　10月下旬を中心とした時期

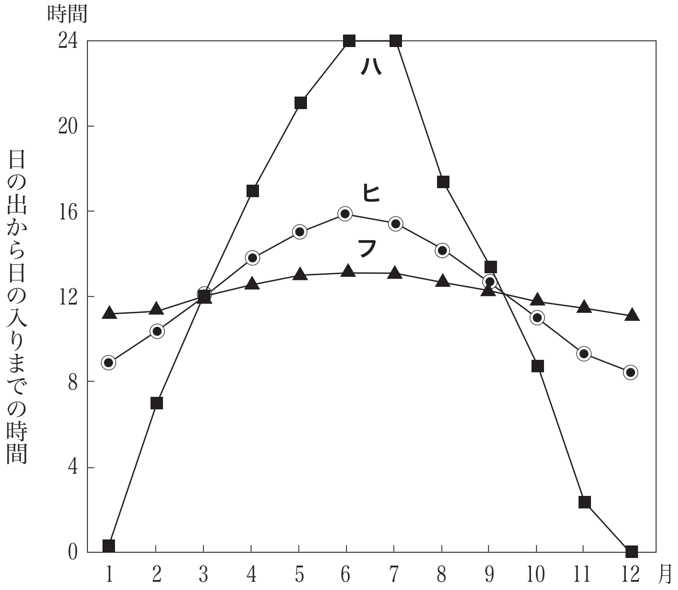
［7］　次の図4中のハ～フは，図3－Ⅱ中のS～Uのいずれかの地点における日の出から日の入りまでの時間を月別に示したものである。ハ～フとS～Uとの正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2009年度地理B追試験第1問問8）



年降水量はNASAの資料により作成。

図3



統計年次は 2007 年。
U.S. Naval Observatory の資料により作成。

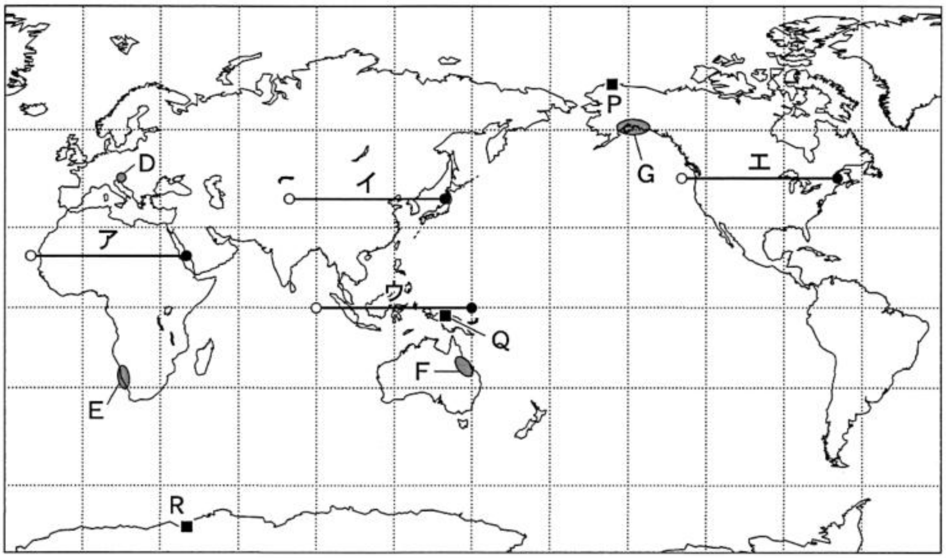
図４

	①	②	③	④	⑤	⑥
ハ	S	S	T	T	U	U
ヒ	T	U	S	U	S	T
フ	U	T	U	S	T	S

第４講
天体としての地球［確認問題］

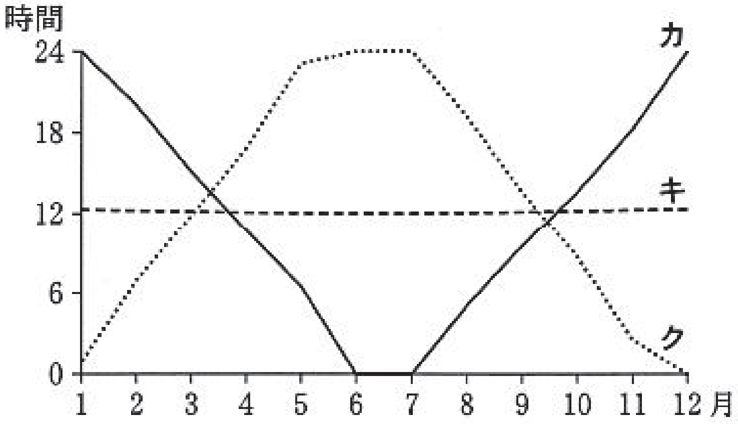
［1］　次の図３中のカ～クは，図１中のＰ～Ｒのいずれかの地点における日の出から日の入りまでの月平均時間を示したものである。Ｐ～Ｒとカ～クとの正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。なお，日の出・日の入り時刻は，平坦な地平線を想定して算出している。

（2019 年度地理Ａ本試験第１問問４）



緯線・経線は 30° 間隔。

図１



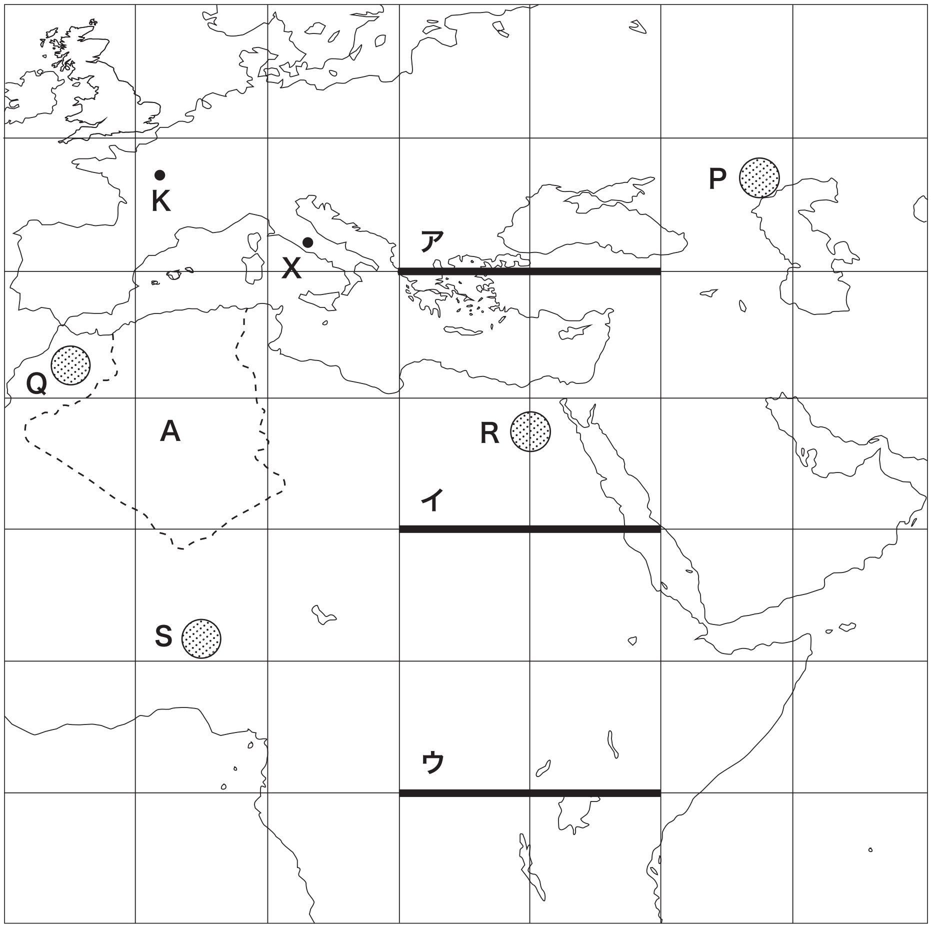
長沢工『日の出・日の入りの計算』などにより作成。

図３

	①	②	③	④	⑤	⑥
P	カ	カ	キ	キ	ク	ク
Q	キ	ク	カ	ク	カ	キ
R	ク	キ	ク	カ	キ	カ

［2］（1）　次の図１中に引かれた**ア～ウ**の太線のうち，地球上の距離が最長のものと，およその距離との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2006年度地理Ｂ本試験第１問問１）



緯線・経線は 10°間隔。正距円筒図法による。

図１

	①	②	③	④	⑤	⑥
距離が最長のもの	ア	ア	イ	イ	ウ	ウ
およその距離（km）	1100	2200	1100	2200	1100	2200

（２）　図１中のＫの対蹠点（地球の中心をはさんだ正反対の地点）に最も近い国を，次の①～④のうちから一つ選べ。

（2006年度地理Ｂ本試験第１問問３）

① キューバ
② スリランカ
③ ニュージーランド
④ マダガスカル

［３］　次の表１は，2005年12月における東京（成田）からホノルルと，東京からバンコクの直行便のフライトスケジュール（＊）を示したものである。東京・ホノルル間の所要時間と東京・バンコク間の所要時間との正しい組合せを，下の①～④のうちから一つ選べ。

（＊）時間をすべて現地時間で示した。

（2007年度地理Ａ本試験第１問問２）

表１

フライトスケジュール	日本と現地との時差
東京（成田）発　20：10 →　ホノルル着　7：40（同日）	19時間
東京（成田）発　11：20 →　バンコク着　16：50	２時間

『ＪＴＢ時刻表』により作成。

	東京（成田）・ホノルル間	東京（成田）・バンコク間
①	6時間30分	3時間30分
②	6時間30分	7時間30分
③	11時間30分	3時間30分
④	11時間30分	7時間30分

［4］　次の図２中の地点タとチの気候的特徴について述べた文として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。

（2013年度地理Ａ追試験第１問問６）

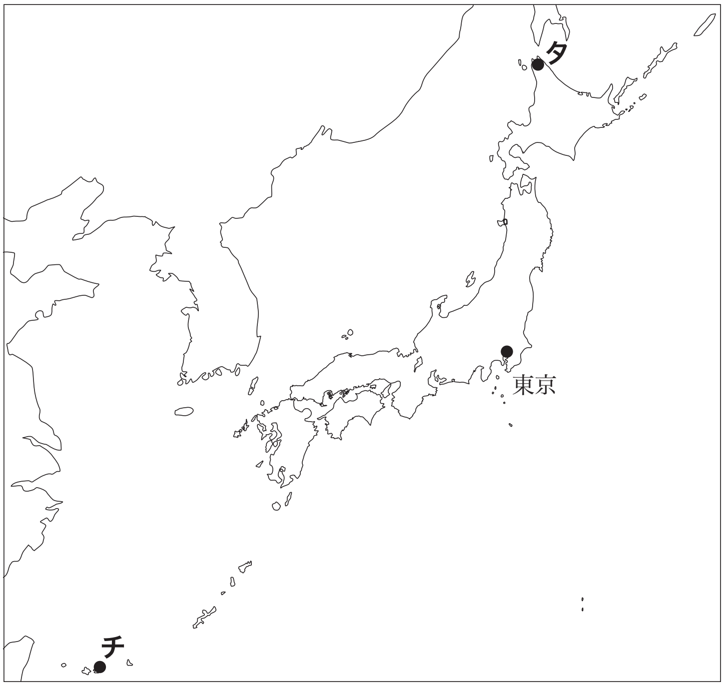


図２

①　地点タにおける気温の年較差は，地点チよりも大きい。

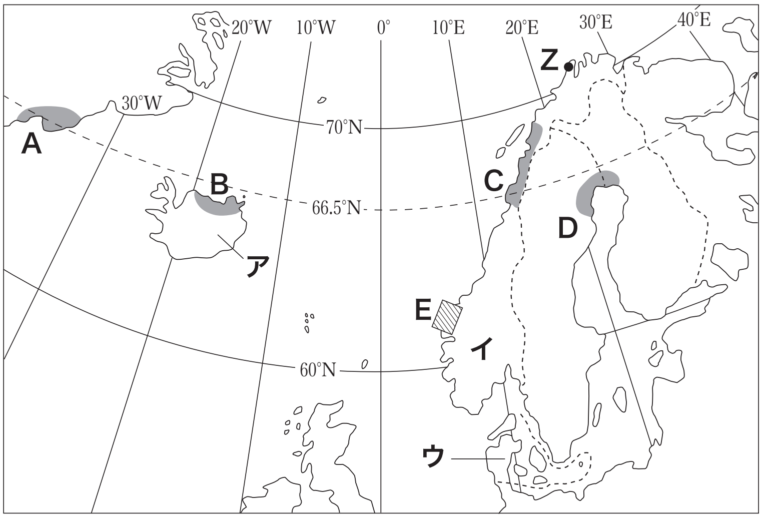
②　地点タにおける１月の月降水量は，東京よりも少ない。

③　地点チにおける夏至の日の昼間の時間は，地点タよりも長い。

④　地点チにおける８月の月平均気温は，東京よりも低い。

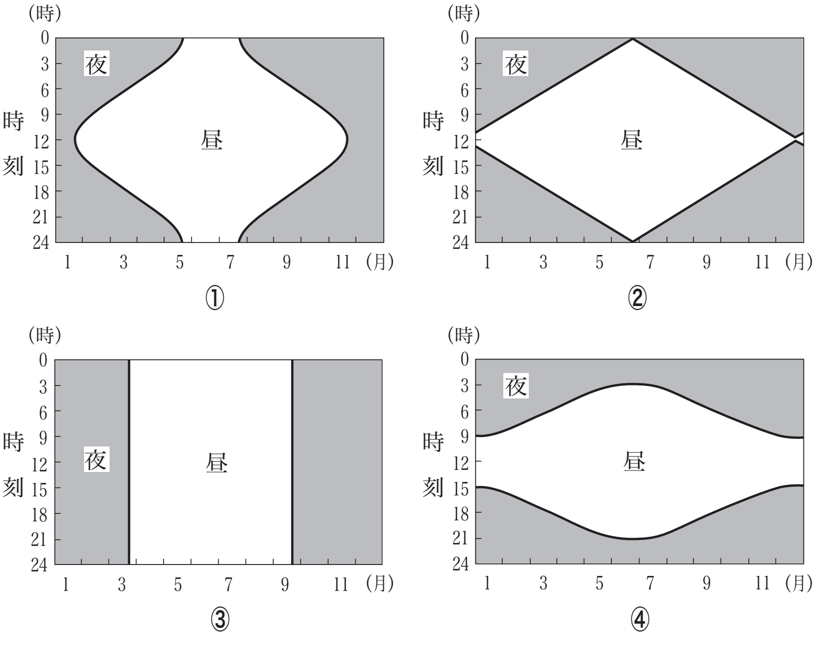
［5］　次の図2は，太陽が地平線より上にある「昼」と太陽が地平線より下にある「夜」の時間帯の年変化を，北半球の緯度の異なる4地点について模式的に表している。図1中のZ地点に該当するものを，図2中の①～④のうちから一つ選べ。

（2002年度地理B本試験第1問問4）



国境線は設問にかかわる部分のみを記入した。

図1



各地点での太陽の南中時刻（太陽が真南に見える時刻）を12時とし，サマータイムを考慮していない。

図2

〈 ***Note*** 〉

第５講
大気の大循環・風系の移動

熱循環により地球の空気は恒常的に移動し，上昇気流がみられる緯度帯，下降気流がみられる緯度帯，一定方向の風が卓越する緯度帯が現れる。さらにこの気圧帯は季節により北上と南下を繰り返す。雨季と乾季の生じるシステムを理解しよう。

５．１　地球の風系

地球表面の空気の流れ（風系）を理解しよう。気圧帯がつくられ，恒常風が吹く。

極から赤道にかけ，「極高圧帯」，「亜寒帯低圧帯」，「亜熱帯高圧帯（中緯度高圧帯）」，「熱帯収束帯（赤道低圧帯）」の気圧帯が並ぶ。そして各気圧帯の間ではそれぞれ高緯度側から「極偏東風」，「偏西風」，「貿易風」の恒常風が卓越する。

緯度帯	影響の強い風系	目安となる影響地域
緯度 80 ～ 90°	極高圧帯	北極点・南極点
緯度 70 ～ 80°	極偏東風	北極海・南極大陸
緯度 50 ～ 70°	亜寒帯低圧帯	北ヨーロッパ・南極海
緯度 30 ～ 50°	偏西風	日本・西ヨーロッパ・ニュージーランド
緯度 20 ～ 30°	亜熱帯高圧帯（中緯度高圧帯）	サハラ砂漠・オーストラリア大陸
緯度 10 ～ 20°	貿易風	カリブ海・ハワイ
緯度　0 ～ 10°	熱帯収束帯（赤道低圧帯）	コンゴ盆地・アマゾン盆地

・極高圧帯・・・両極付近に形成。太陽からの受熱量が小さく，気温が低い。大気が収縮することによって高気圧が生じ，周囲に風が吹き出す。

・極偏東風・・・極高圧帯と亜寒帯低圧帯の間を吹く。転向力によって北半球は北東風，南半球は南東風となる。

・亜寒帯低圧帯・・・緯度50～60°付近に形成。寒気である極風と暖気である偏西風が合流し，前線を形成。湿潤な気候がみられる。「寒帯前線」ともいう。

・偏西風・・・亜熱帯高圧帯（中緯度高圧帯）から高緯度方向に吹き出す風。転向力によって，北半球は南西風，南半球は北西風となる。

・亜熱帯高圧帯（中緯度高圧帯）・・・緯度20～30°付近に形成。熱帯収束帯（赤

道低圧帯）で上昇した空気が上空を移動し，この緯度帯で下降気流となる。雲が生じにくい大気の状態。
・貿易風・・・亜熱帯高圧帯（中緯度高圧帯）から低緯度方向に吹き出す風。転向力によって，北半球は北東風，南半球は南東風となる。
・熱帯収束帯（赤道低圧帯）・・・太陽からの受熱量が大きい赤道付近に形成。激しい上昇気流によってスコールによる雨（対流性降雨）を生じる。両半球からの貿易風が合流するので「熱帯収束帯」という。また，上方への空気の動きが強く横方向は弱いため「赤道無風帯」ということもある。

なお，貿易風，偏西風，極偏東風を総称して恒常風という。年間を通じて風向や強さに大きな変化が生じないという特徴がある。これに対するものが季節風（モンスーン）。

（注意）転向力とは，地球の自転によって空気や水など移動するものに作用する力のことで，北半球では進行方向に対し右方向，南半球では同じく左方向にはたらく。例えば，北半球の貿易風は最初は北風であるが，転向力の作用を受けることで，次第に東風へと変化していく。なお，転向力は赤道直下では生じない。

＜チェック！＞
「湿潤」と「乾燥」は反対語。（降水量）＞（蒸発量）が湿潤，（降水量）＜（蒸発量）が乾燥。気温と蒸発量は比例するので，比較的降水量があっても高温の地域ならば乾燥するかもしれない。低温の地域ならば，少量の降水量であっても湿潤となる。

５．２　降水パターン

水分を含んだ空気が上空に持ち上げられ雲を生じる。これには４種類のパターンがある。
・低気圧性降雨；移動性低気圧による降水で，一般的によくみられるパターン。日本上空で発生する温帯低気圧，低緯度の海域で生じ中緯度地域まで達する熱帯低気圧など。とくに熱帯低気圧については頻出なので，整理しておこう。
・対流性降雨；上空に風が吹いていない場合には，日中に生じた上昇気流によって積乱雲が生じ，十分に発達した午後に一気に降り下ろす。赤道低圧帯においてみられるスコールによる雨や，日本で夏にみられる夕立など。降水量は多く，赤道周辺に多雨地域がみられるのはこのパターンで雨が降るから。

・前線性降雨；暖気団と寒気団との境界付近に形成された薄い雲によって生じる。主に亜寒帯低圧帯による。例えば日本の梅雨前線，曇天が多いイギリスの天候などを考える。湿った気候の原因にはなるが，さほど降水量は多くない。
・地形性降雨；水分を含んだ空気が山地などの斜面にぶつかって持ち上げられることにより雲を生じる。風上斜面側で降水が多く，風下斜面側で降水が少ないことを理解しよう。

[知っておこう]

地形性降雨は問われやすい。恒常風によって地形性降雨が生じる地域として以下を知っておこう。

・ノルウェー・・・偏西風の影響で地形性降雨を生じる。ヨーロッパで最も降水量が多い。
・北アメリカ中高緯度の太平洋岸・・・シアトルやバンクーバーなど。偏西風の影響。
・マダガスカル・・・南半球低緯度に位置し，貿易風の影響。風上斜面側である東部で熱帯雨林，風下斜面側である西部で草原や砂漠。
・チリ南部・・・偏西風の影響で多雨となり，森林となっている。アンデス山脈をはさんだ反対側のアルゼンチン南部は乾燥地域。
・ニュージーランド・・・偏西風の影響で西岸で多雨（牛の飼育），東岸で少雨（羊の飼育，小麦の栽培）。

５．３　熱帯低気圧

低緯度海域で発生し，それから成長を続けながら移動し，低・中緯度地域に被害を及ぼす巨大な低気圧を熱帯低気圧という。

水温27℃以上の温暖な海域が発生域であるので，低緯度であっても寒流が流れる場所では熱帯低気圧の発生はみられない。南アメリカ大陸太平洋岸など。

逆に低緯度で暖流がみられる海域での発生はとくに著しい。日本海流，東オーストラリア海流，メキシコ湾流の流れる海域など。

発生地域によって名称が異なるので注意しよう。

・台風・・・太平洋北西部。フィリピン海，南シナ海など。
・サイクロン・・・インド洋。ベンガル湾，オーストラリア北部・マダガスカル周辺など。
・ハリケーン・・・北アメリカ大陸周辺。メキシコ湾，カリブ海など。

５．４　地形性降雨とフェーン現象

地形性降雨が，ある山脈の風上斜面側でみられる場合，乾いた風が流れ込む風下斜面側の地域では急速に気温が上昇することがある。これがフェーン現象。

そもそもフェーンとは春先にヨーロッパに地中海から吹き込む地方風のことである。風上斜面側であるアルプス南麓（イタリア北部）に降水をもたらした後，風下斜面側のアルプス北麓（ドイツ南部）に吹き下ろす乾いた熱風になる。これは，空気の湿潤断熱減率（100ｍごとに0.65℃）と乾燥断熱減率（100ｍごとに1.0℃）が異なるからである。

山脈の風上斜面側の地点（標高０ｍ）をＡ，山頂（標高2000ｍ）をＢ，風下斜面側の地点（標高０ｍ）をＣとする。Ａでの気温が30℃の時，Ｂでの気温は17℃である。この時，Ａ～Ｂ間には地形性降雨が生じるが，「湿潤」だった空気中の水分は使い果たされ「乾燥」の状態となる。その状態で風下斜面側を降りる風は100ｍごとに1.0℃気温が上昇するため，Ｃでの気温は37℃となる。

似たような現象は世界中にみられ，総称して「フェーン現象」という。日本でも夏季に九州北部や日本海沿岸あるいは本州内陸部で異常高温がみられるが，これも南東季節風が原因となるフェーン現象によるもの。

５．５　転向力と高気圧，低気圧

例として北半球を考える。高気圧から吹き出した風は，転向力によって右方にねじ曲げられ，風向が変化する。高気圧の周囲を時計回りに風が吹くことになる。

同じく北半球の低気圧の場合。低気圧に吹き込む風は，やはり転向力によって右方にねじ曲げられ，風向が変化する。低気圧の周囲を反時計回りに風が吹く。

南半球の場合はこれとは反対。

＜チェック！＞

各地域の降水量については，具体的な数字まで注意するクセをつけておくといい。世界全体の年降水量の平均は1000mm程度であるが，東京における年降水量は1500mmであり，日本が多雨な国であることがわかる。

赤道低圧帯の影響を受ける低緯度地域においては年降水量が2000mmに達するようなところが多いのに対し，同じ湿潤な気候とはいっても，偏西風や寒帯前線によって降水が生じる高緯度地域では1000mm程度である。

乾燥気候の目安は年降水量500mm未満であるが，さらに降水量が半分（250mm）未満となると砂漠となることが多い。

５．６　熱帯収束帯（赤道低圧帯）の移動

７月を中心とする時期，地球が受け取る太陽エネルギーは北半球側が強まる。このため熱赤道は北半球側に形成され，同様に熱帯収束帯（赤道低圧帯）の位置も北緯10°付近へと移動する。これに引っ張られるように，地球全体の風系も全体的に北上することとなる。

１月を中心とする時期はこれと逆の現象が生じ，熱帯収束帯（赤道低圧帯）は南半球側に形成される。地球全体の風系も南下する。

５．７　風系（気圧帯）全体の移動

熱帯収束帯（赤道低圧帯）が移動することによって，地球の風系全体も移動する。

以下のような動きを理解しよう。多雨をもたらす熱帯収束帯（赤道低圧帯）を「濃い青」，少雨の原因となる亜熱帯高圧帯（中緯度高圧帯）を「赤」，やや降水の多い亜寒帯低圧帯を「薄い青」で塗って，それらが月によって移動する様子を読み取る。そして，降水量が多い緯度帯，少ない緯度帯が変化する状況を観察する。

	3月21日頃 （４月）	6月22日頃 （７月）	9月23日頃 （10月）	12月22日頃 （１月）
北極周辺	極高圧帯		極高圧帯	
60° N付近		亜寒帯低圧帯		極高圧帯
50° N付近	亜寒帯低圧帯		亜寒帯低圧帯	
35° N付近		亜熱帯高圧帯 （中緯度高圧帯）		亜寒帯低圧帯
25° N付近	亜熱帯高圧帯 （中緯度高圧帯）		亜熱帯高圧帯 （中緯度高圧帯）	
10° N付近		熱帯収束帯 （赤道低圧帯）		亜熱帯高圧帯 （中緯度高圧帯）
赤道付近	熱帯収束帯 （赤道低圧帯）		熱帯収束帯 （赤道低圧帯）	
10° S付近		亜熱帯高圧帯 （中緯度高圧帯）		熱帯収束帯 （赤道低圧帯）
25° S付近	亜熱帯高圧帯 （中緯度高圧帯）		亜熱帯高圧帯 （中緯度高圧帯）	
35° S付近		亜寒帯低圧帯		亜熱帯高圧帯 （中緯度高圧帯）
50° S付近	亜寒帯低圧帯		亜寒帯低圧帯	
60° S付近		極高圧帯		亜寒帯低圧帯
南極周辺	極高圧帯		極高圧帯	

北極周辺；全体的には極高圧帯の影響が強く，年間を通じて少雨(蒸発量が少ないため，乾燥ではない)。
北緯50°付近(ヨーロッパ北部)；年間を通じ亜寒帯低圧帯の影響が強く，じめじめとした気候がみられる。
北緯35°付近(地中海沿岸)；夏には亜熱帯高圧帯(中緯度高圧帯)の影響により少雨(乾燥)，冬には亜寒帯低圧帯の影響によりじめじめとした気候。
北緯25°付近(サハラ砂漠)；年間を通じ亜熱帯高圧帯(中緯度高圧帯)の影響が強く，少雨(乾燥)気候。
北緯10°付近(エチオピア)；夏には熱帯収束帯(赤道低圧帯)の影響で多雨，冬には亜熱帯高圧帯(中緯度高圧帯)の影響により少雨(乾燥)。
赤道付近；年間を通じ熱帯収束帯(赤道低圧帯)の影響で多雨。
南緯10°付近(インドネシア南部からオーストラリア北部)；夏には熱帯収束帯(赤道低圧帯)の影響で多雨，冬には亜熱帯高圧帯(中緯度高圧帯)の影響により少雨(乾燥)。
南緯25°付近(オーストラリア)；年間を通じ亜熱帯高圧帯(中緯度高圧帯)の影響が強く，少雨(乾燥)気候。
南緯35°付近(ケープタウン)；夏には亜熱帯高圧帯(中緯度高圧帯)の影響により少雨(乾燥)，冬には亜寒帯低圧帯の影響によりじめじめとした気候。
南緯50°付近；年間を通じ亜寒帯低圧帯の影響が強く，じめじめとした気候がみられる。
南極周辺；全体的には極高圧帯の影響が強く，年間を通じて少雨。

＜チェック！＞

熱帯収束帯(赤道低圧帯)のもたらす降水は対流性降雨であり，この影響下にある緯度帯は降水量がとくに多くなる。一方，亜寒帯低圧帯では激しい降雨はみられず，湿潤気候にはなるものの，降水量はさほど多くはならない。

[知っておこう]

本来なら高緯度に形成されるはずの夏季の亜寒帯低圧帯だが，７月の亜寒帯低圧帯は日本付近に位置する。これは梅雨前線である。

ヒマラヤ山脈やチベット高原が障壁となり，初夏，日本付近の偏西風は弱まるため，本来なら偏西風によって移動させられるはずの寒気団が６月になっても日本上空に居すわることになる(オホーツク海気団)。これに南から太平洋高気圧で

ある小笠原気団が北上し，寒気と暖気が接することで前線が形成される。オホーツク海気団の勢力が弱まる７月半ばまでこの状態は続き，これが終わると（梅雨明け），日本に本格的な夏が来る。

５．８　サバナ気候（Ａｗ）

熱帯収束帯（赤道低圧帯）と亜熱帯高圧帯（中緯度高圧帯）の季節的な移動によって，北緯10°付近には，雨季と乾季の明瞭なサバナ気候が現れる。雨季となる高日季（夏）にはスコールによる多雨がみられる一方，乾季となる低日季（冬）にはほとんど雨が降らない。植生はサバナ（疎林・長草草原）となる。

<チェック！>

上昇気流が生じやすく大気に含まれる水分も多い夏は降水量が多いのが普通だが，これに反する気候が地中海性気候である。亜熱帯高圧帯（中緯度高圧帯）との関係から，夏季に少雨となるシステムを理解しよう。

[知っておこう]

ナイル川の支流である青ナイル川がエチオピア高原から流れ出していることを確認しておこう。ナイル川の増水期はこの地域が雨季に入る７月を中心とした時期である。ナイル川下流のエジプトでは洪水に見舞われた。

５．９　地中海性気候（Ｃｓ）

北緯南緯35°付近一帯（＊）は，夏季に亜熱帯高圧帯（中緯度高圧帯）に覆われることによってほとんど降水量がみられない。地中海性気候である。冬は偏西風や亜寒帯低圧帯の影響で湿潤となる。植生は硬葉樹であり，耐乾性の樹木農業が営まれる。

地中海性気候がみられる地域は，地中海沿岸地域（南ヨーロッパ・北アフリカ・西アジア），アメリカ合衆国太平洋岸，南アフリカ共和国南西端（ケープタウン），オーストラリア南部（パース・アデレード），チリ中部など。

（＊）なお地中海性気候がみられるのは大陸西岸から内陸部にかけての地域であり，大陸東岸にはみられない。大陸東岸は季節風や暖流の影響で夏の降水量は多い。

ワンポイント

地中海性気候のみられる地域では地中海式農業が営まれ，とくにブドウの栽培

がさかんである。

　ブドウを「栽培できる理由」。ブドウは比較的乾燥に強い作物である。根が非常に長く，深いところにある地下水も吸い上げることができる。日本でも扇状地などで栽培されているのはこの特性があるため。

　ブドウを「栽培しなければいけない理由」。地中海性気候の地域では夏季に降水がないため，飲料水に乏しい。渇いた喉を潤すためのブドウの果汁が重要となる。なお，これを保存用に醗酵させたものがワインの起源。

第５講
大気の大循環・風系の移動［練習問題］

［１］　次の図１は世界の気圧配置と風系を模式的に考えるための図であり，図２は降水量（実線）と蒸発量（破線）の緯度別変化を示したものである。以下の問いに答えよ。

（1989年度地理追試験第１問）

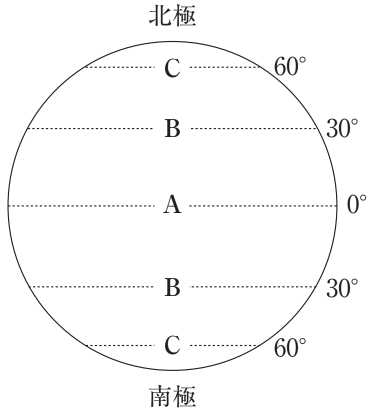


図１

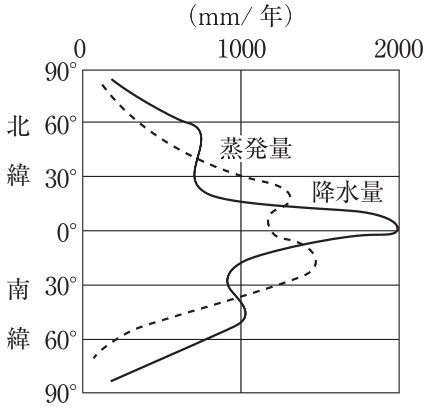


図２

（１）　地球上には高圧帯と低圧帯が存在する。図１において，赤道地帯（A），中緯度高圧帯（B），高緯度低圧帯（C）に，それぞれ該当するものの組み合わせを，次の①～⑥のうちから一つ選べ。

（同・問１）

	①	②	③	④	⑤	⑥
A	低	低	低	高	高	高
B	低	高	高	高	低	低
C	高	低	高	低	高	低

（2） 図**1**をみて，次の文章中の［１］・［２］に該当する語を，それぞれ下の①～④のうちから一つずつ選べ。

（同・問３）

空気は気圧の高いところから低いところに向かって動く。地球の自転の影響を受けて，北半球では，赤道地帯（A）と中緯度地帯（B）の間に吹く風系は［１］となり，中緯度地帯（B）と高緯度地帯（C）の間に吹く風系は［２］となる。これらの風は一年中安定しており，風車や帆船時代の航海に利用された。

①　南東風　　②　南西風　　③　北西風　　④　北東風

（3） 樹木がよく生長するためには，太陽エネルギーと水があることが基本的には必要である。いずれか一方が不足しても樹木は生長しない。水が不足して樹木が生長できない地域が含まれているのは，図**1**のA～Cのどの地帯か。図**2**を参考にして，次の①～⑥のうちから一つ選べ。

（同・問４）

①　A　　②　B　　③　C　　④　AとB　　⑤　AとC　　⑥　BとC

［２］　次の図１は，赤道付近から北極付近における大気大循環の模式図である。図１にかかわる内容について述べた文として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。

（2013年度地理Ｂ本試験第１問問１）

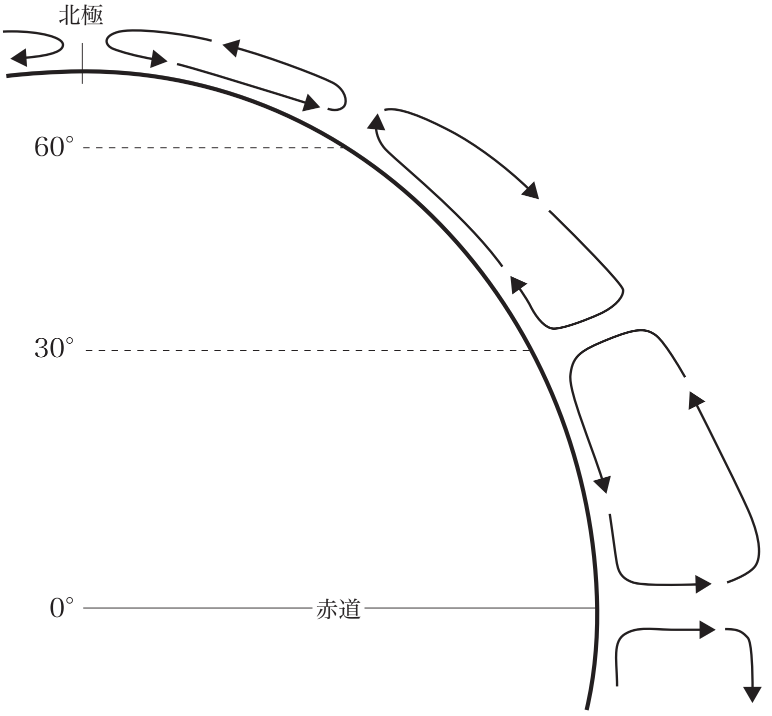


図１

① 北極付近と赤道付近は，いずれも高圧帯となっている。

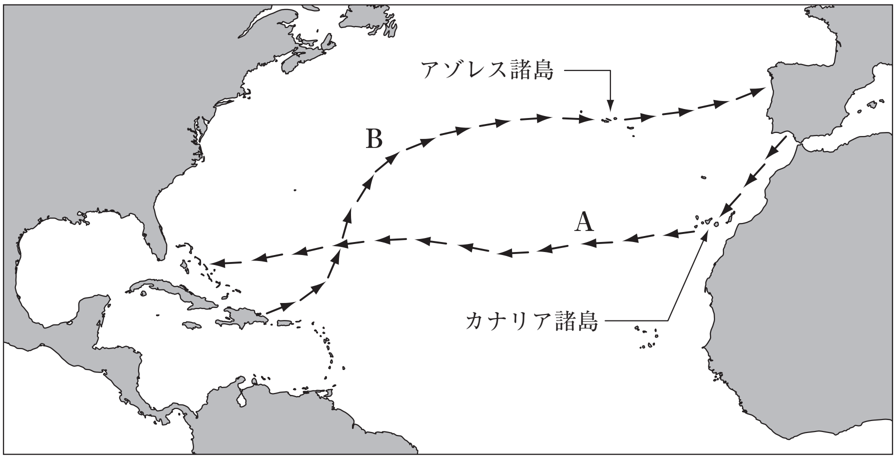
② 高圧帯や低圧帯の南北移動は，降水量の季節変化の一因となっている。

③ 北緯30度付近から高緯度側へ向かう大気の流れは，極偏東風（極東風）とよばれる。

④ 北緯30度付近では下降気流が卓越し，湿潤な気候をもたらしている。

［３］　次の文章は，コロンブスが北大西洋で卓越する風を利用して大西洋横断に成功したことを述べている。下の図３を参考にして，文章中の空欄［１］・［２］に該当する語句を，下の①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

（2001年度地理Ｂ追試験第３問問３）



A：1492年8月3日～1492年10月12日
B：1493年1月16日～1493年3月3日
文章および図は，小倉義光『一般気象学』による。一部改変。

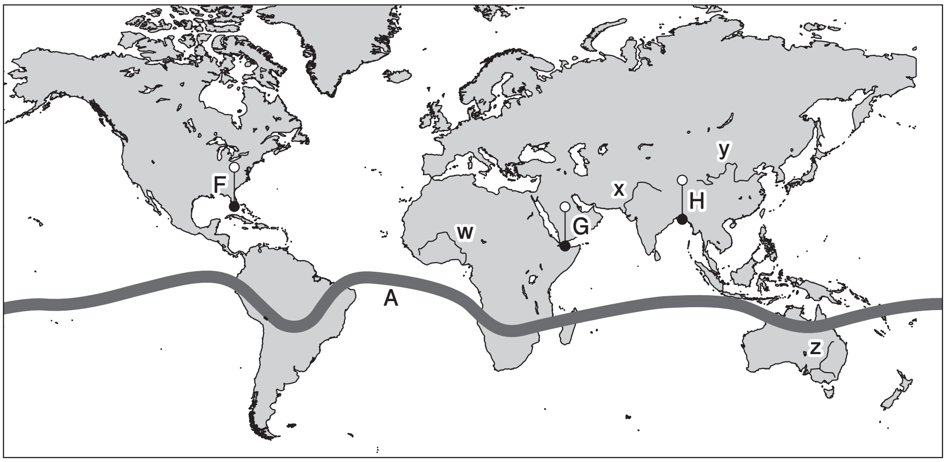
図３

1492年コロンブスは帆船で大西洋を横断するのに成功した。それは彼が［１］と［２］を巧みに利用したからであった。(中略)コロンブス以前の人は，アゾレス諸島からまっすぐ西に進もうとしてその緯度帯に卓越する［１］にさまたげられた。(中略)コロンブスはスペインを出発すると，まずカナリア諸島に達し，そこから［２］を利用して速やかに大西洋を横断するのに成功した。帰途は［１］帯に入って，アゾレス諸島に到達した。

①　海陸風	②　南西モンスーン	③　南東貿易風
④　偏西風	⑤　北東貿易風	⑥　北東モンスーン

［4］ 図１中の太線Ａの説明として正しいものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

（2011年度地理Ｂ追試験第１問問１）



Alexander Weltatlas などにより作成。

図１

① 熱帯収束帯（赤道低圧帯）の１月における位置。
② 熱帯収束帯（赤道低圧帯）の７月における位置。
③ 南半球の寒帯前線帯（亜寒帯低圧帯）の１月における位置。
④ 南半球の寒帯前線帯（亜寒帯低圧帯）の７月における位置。

［5］　次の図１は，世界の主要な多雨地域・少雨地域の分布と，異なる二つの月の寒帯前線Ｐ・Ｑと熱帯収束帯(熱帯前線，熱帯低圧帯）Ｘ・Ｙの位置を示している。

図１中の寒帯前線がＰの位置に，熱帯収束帯がＸの位置にある月はいつか。該当する月を下の①～④のうちから一つ選べ。

（1993年度地理本試験第１問問１）

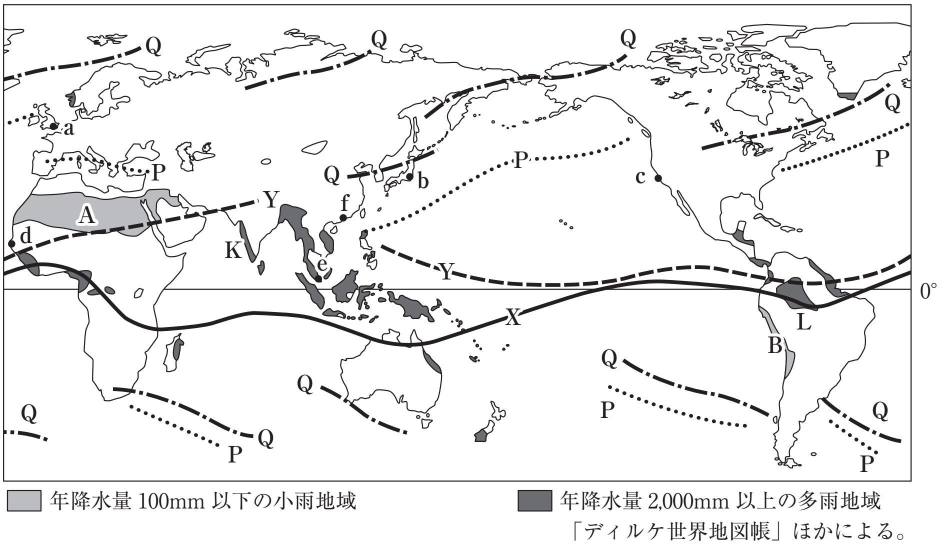


図１

①　1月　　②　4月　　③　7月　　④　10月

［６］　次の文章は，14世紀のモロッコ出身の旅行家イブン・バツータ（バトゥータ）の紀行文から引用したものである。この文章を読んで，問いに答えよ。

（2000年度地理Ａ本試験第３問問４）

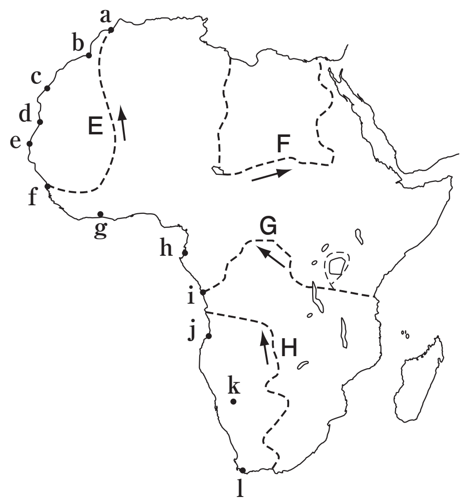
不思議に思ったことはイエメン（アラビア半島南部）では，（ａ）大暑の候にしか雨が降らず，その季節となると毎日午後になると降雨があることで，それはインドやアビシニア（エチオピア）でも同じである。（イブン・バツータ『三大陸周遊記』による。一部改変）

下線部（ａ）に関して，アビシニア，イエメン，インドの３地域に共通する雨季の降雨の成因として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

①　海洋から湿潤な大気を運ぶ偏西風帯の季節的な移動
②　夏季に発生するサイクロン（熱帯低気圧）の接近
③　大気の不安定な赤道低圧帯（熱帯収束帯）の季節的な移動
④　寒帯気団と熱帯気団の境界をなす寒帯前線の季節的な移動

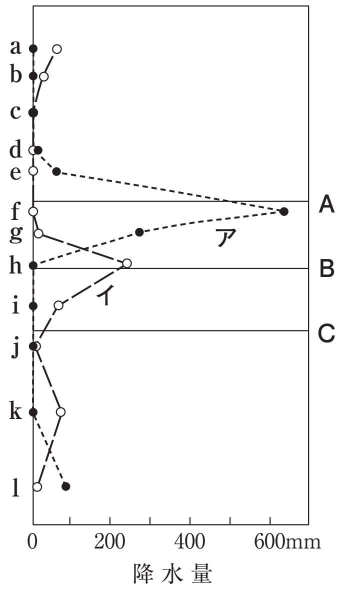
［７］　次の図１中の a ～ l は，主にアフリカの西海岸地帯に位置している都市を表し，図２中の折れ線アとイは，これらの都市における１月と７月のいずれかの降水量分布を表している。また，図２中の横線Ａ～Ｃのいずれかは，赤道の位置を示している。１月の降水量と赤道の位置との組合せとして正しいものを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2003年度地理Ａ本試験第１問問１）



The Times Concise Atlas World History などにより作成。

図１



『理科年表』により作成。

図２

	①	②	③	④	⑤	⑥
１月の降水量	ア	ア	ア	イ	イ	イ
赤道の位置	Ａ	Ｂ	Ｃ	Ａ	Ｂ	Ｃ

［8］ 次の図2は，図1中のF，Gの線上のア～エにおける1月，7月の降水量を示したものであり，図2中の①～④は，Fの1月，Fの7月，Gの1月，Gの7月のいずれかである。Fの線上の4地点における7月の降水量に該当するものを，図2中の①～④のうちから一つ選べ。

（2010年度地理Ｂ本試験第1問問2）

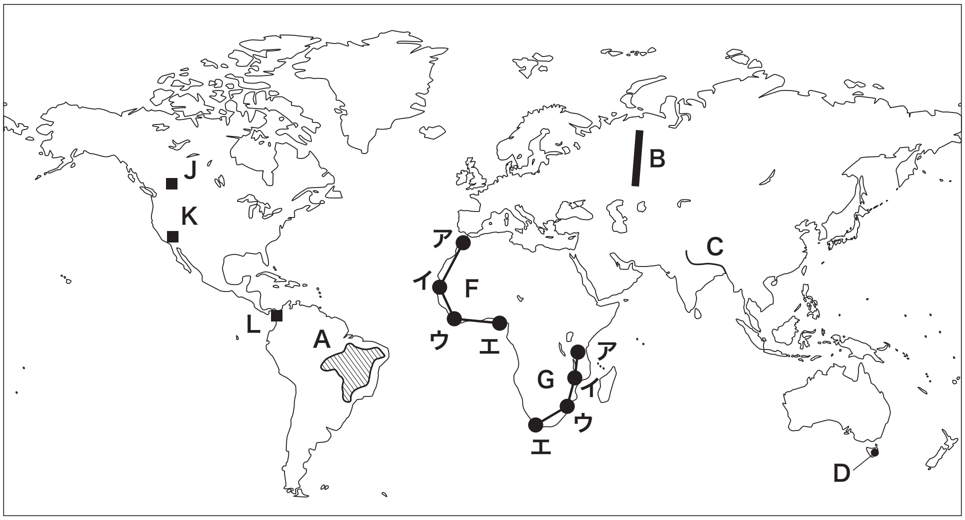
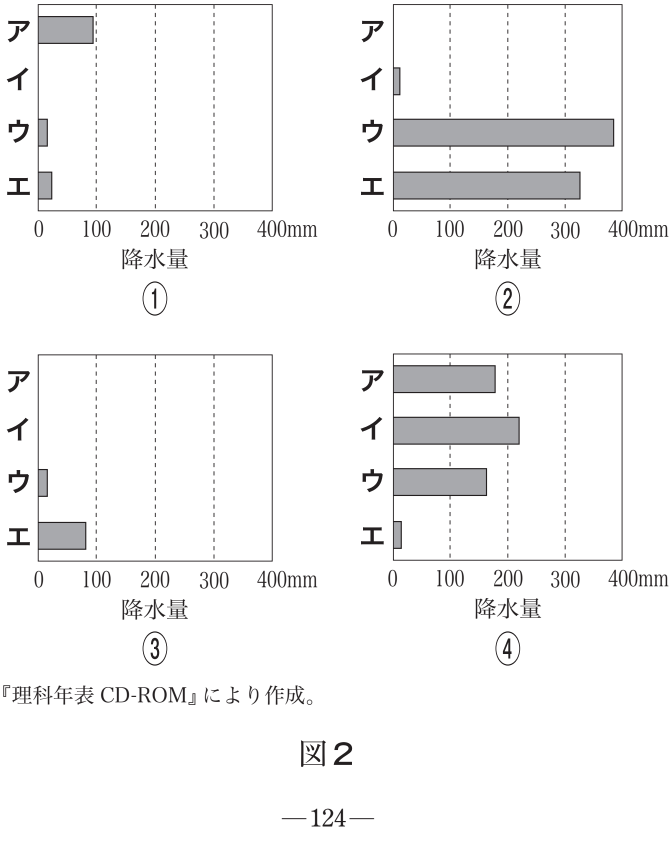


図1



『理科年表 CD-ROM』により作成。

図2

［９］　次の図２は，図１に示すシンガポール，スラバヤ，バンコク，マニラの４都市における月降水量の年変化を示したものである。スラバヤに該当するものを，図２中の①～④のうちから一つ選べ。

（2001年度地理Ｂ本試験第１問問２）

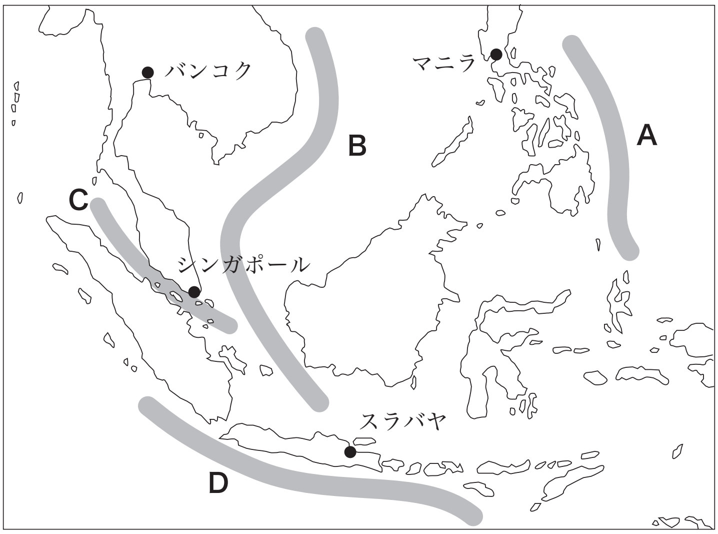
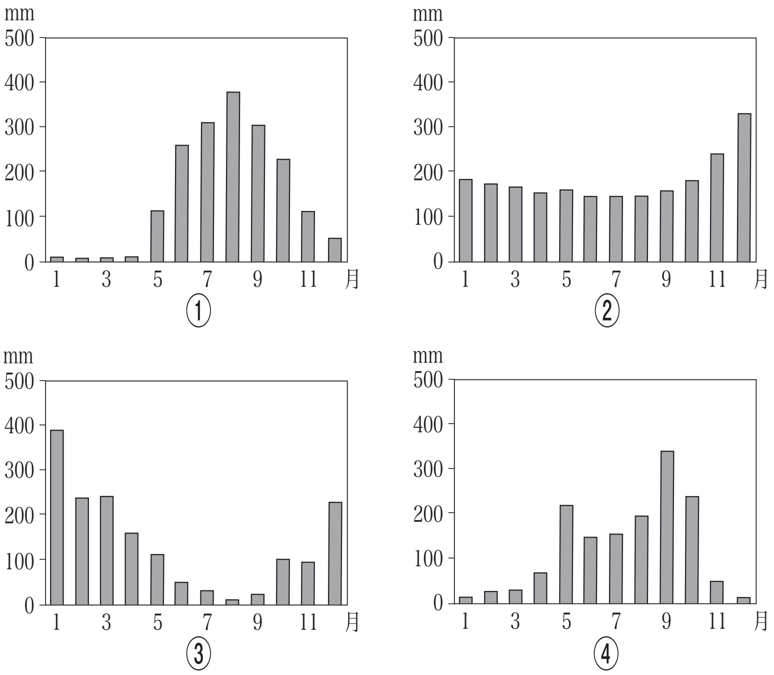


図１



『理科年表』により作成。

図２

［10］　次の図**１**は，東南アジアからオーストラリア大陸付近にかけての１月と７月の地上風系を模式的に示したものである。図**１**を説明した文として**適当でないもの**を，下の①～④のうちから一つ選べ。

（2006年度地理Ｂ追試験第３問問１）

１月の風系　　７月の風系

図**１**

① １月には，オーストラリア大陸北部に赤道低圧帯が位置している。

② ７月には，オーストラリア大陸上に高圧帯が位置している。

③ オーストラリア大陸では，１月と７月で風向の変化がみられる。

④ オーストラリア大陸では，高気圧からの風は時計回りに吹き出す。

［11］　次の図２中の地点Ｘ・Ｙ・Ｚの付近は，気候的に類似している。この三つの地域において，共通に生産されている主要な農産物を，次の①～④のうちから一つ選べ。

（1995年度地理追試験第４問問３）

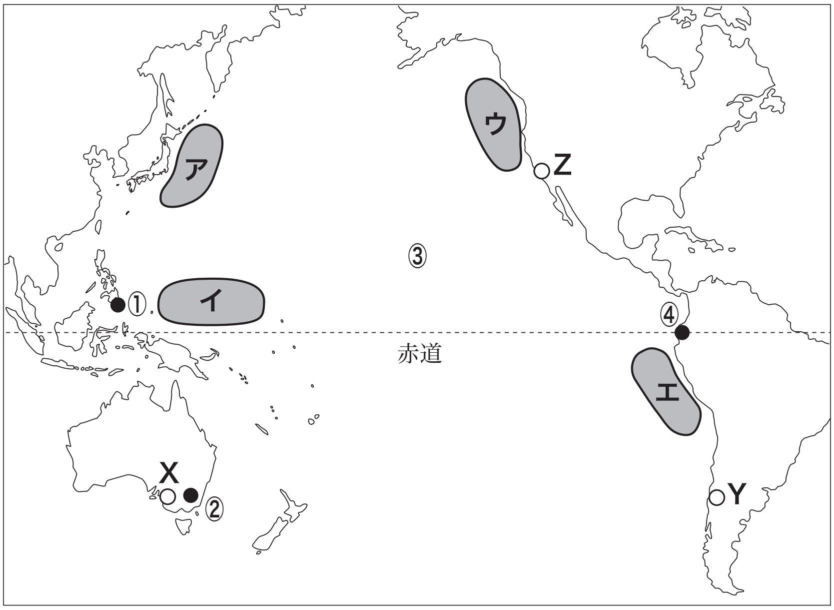


図２

①　テンサイ（ビート）

②　ブドウ

③　ライ麦

④　落花生

第５講
大気の大循環・風系の移動［確認問題］

［１］　次の図３は，１月と７月に特徴的にみられる気圧帯の位置を模式的に示したものである。図３から読み取れることがらやその背景について述べた文として下線部が**適当でないもの**を，下の①～④のうちから一つ選べ。

（2020 年度地理Ｂ本試験第１問問４）

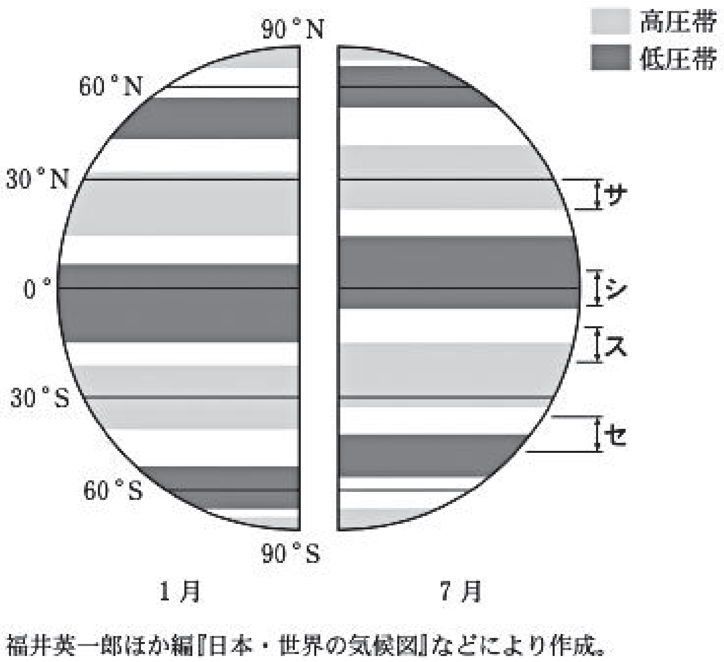


図３

① **サ**の緯度帯では，下降気流の影響で，<u>年間を通じて雨が降りにくい</u>。

② **シ**の緯度帯では，上昇気流の影響で，<u>年間を通じて多量の雨が降りやすい</u>。

③ **ス**の緯度帯では，<u>１月ごろに雨季のみられる気候が形成されやすい</u>。

④ **セ**の緯度帯では，<u>７月ごろに高温で乾燥する気候が形成されやすい</u>。

［2］　次の図１を見て，世界の乾燥地域の分布について述べた下の文章中の下線部①～④のうちから，**適当でないもの**を一つ選べ。

（2012年度地理Ｂ追試験第１問問１）

Atlas du 21e siècle により作成。

図１

図１中に濃く示されている部分は，年降水量200mm以下の降水量の少ない地域であり，北緯および南緯15度から30度付近に分布する傾向がある。これは，①亜熱帯高圧帯下にあって上昇気流が発生しにくいことが大きな原因である。しかし，アジアや北アメリカ大陸の東岸には分布しない。これは，②季節風が南東側の海洋から大陸に向かって吹く時期に水蒸気の供給がなされるためである。一方，赤道に近い大陸西岸の低緯度帯でも乾燥地域がみられる場合がある。これは，③付近の海水温が相対的に低く，降水の原因となる上昇気流が起こりにくいことが理由である。また低緯度帯には，南北に走る山脈の存在による，④偏西風が山脈を吹きおりて下降気流が卓越することから，一年を通して乾燥する地域もある。

［３］　次の図１は，タリム盆地付近の北緯40度，東経80度の地点Ｏを中心にして描いた正距方位図法による世界地図の一部である。下の図２は，図１中のＸ島における７月の降水量分布と標高1000m以上の範囲を示したものである。Ｘ島の７月の卓越風向として最も適当なものを，図２中の①～④のうちから一つ選べ。
（2008年度地理Ｂ本試験第１問問６）

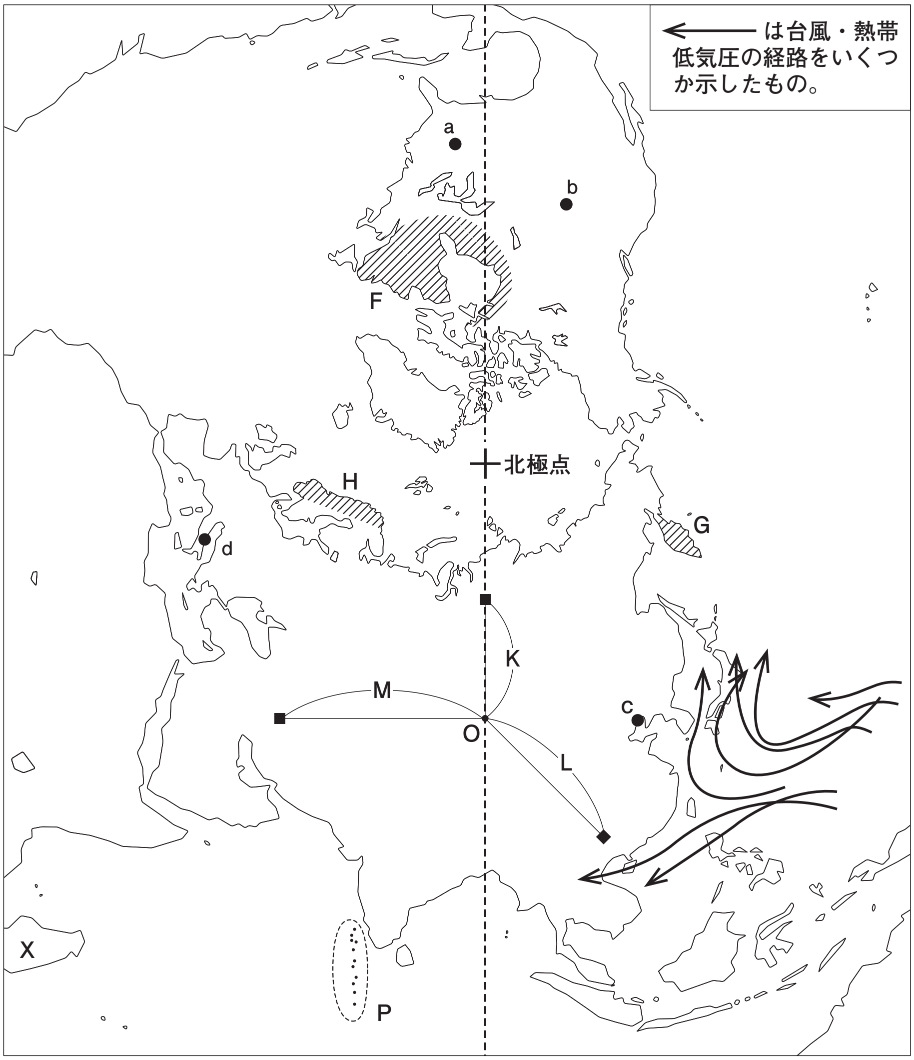
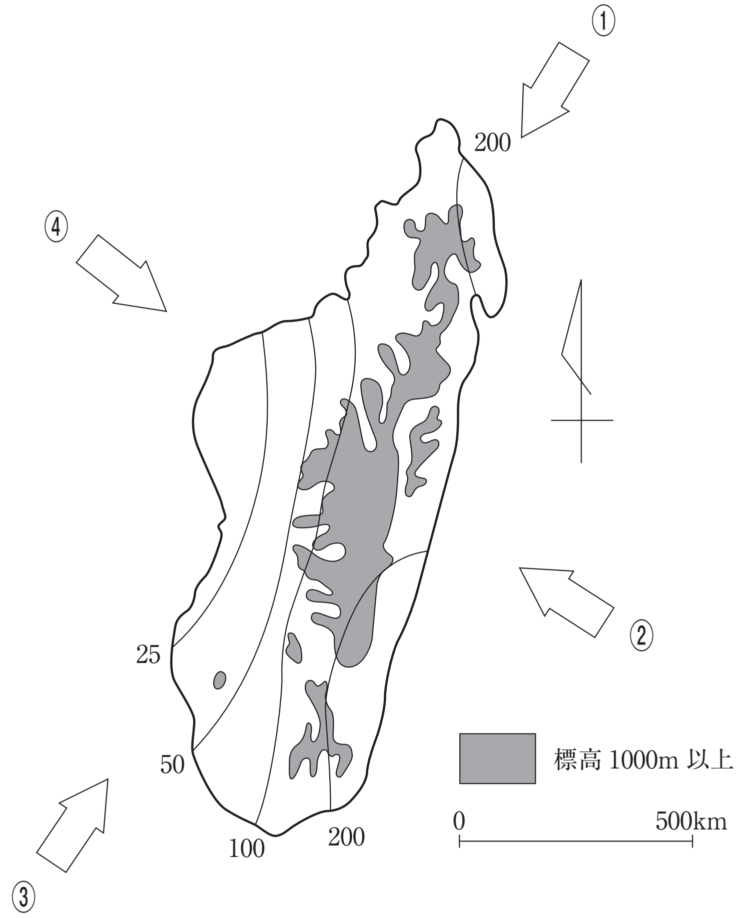


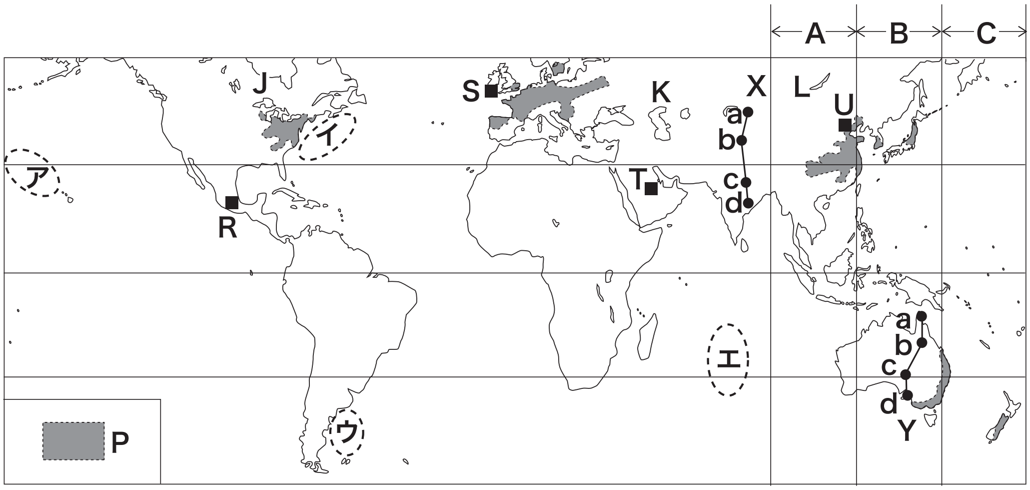
図１



ランベルト正積方位図法による。等値線の単位は mm。
Diercke Weltatlas により作成。

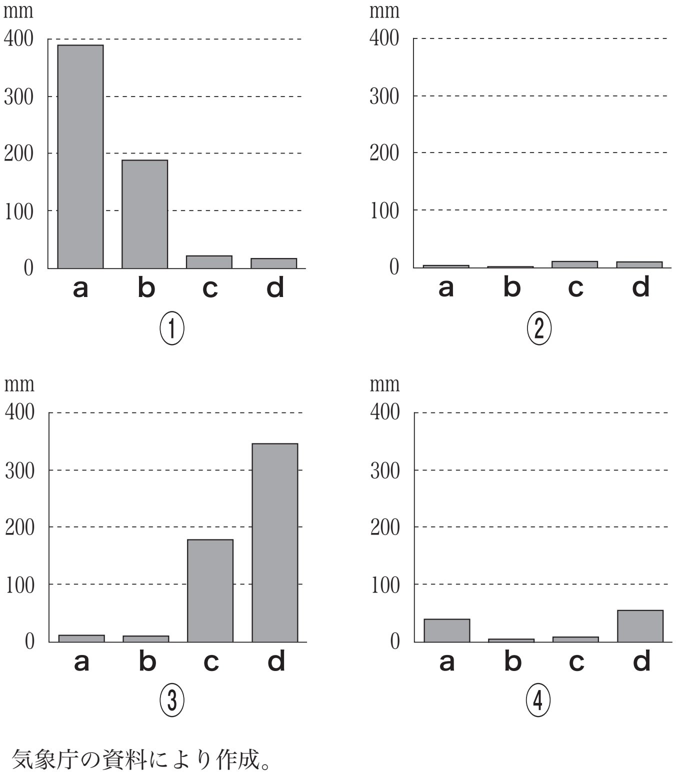
図２

［4］　次の図２は，図１中のＸ，Ｙの線上の地点ａ～ｄにおける降水量を示したものであり，図２中の①～④は，Ｘの１月，Ｘの７月，Ｙの１月，Ｙの７月のいずれかである。Ｙの１月の降水量に該当するものを，図２中の①～④のうちから一つ選べ。　　　　　（2014年度地理Ｂ本試験第１問問６）



Atlas du 21e siècle などにより作成。
緯線は30度間隔。

図１

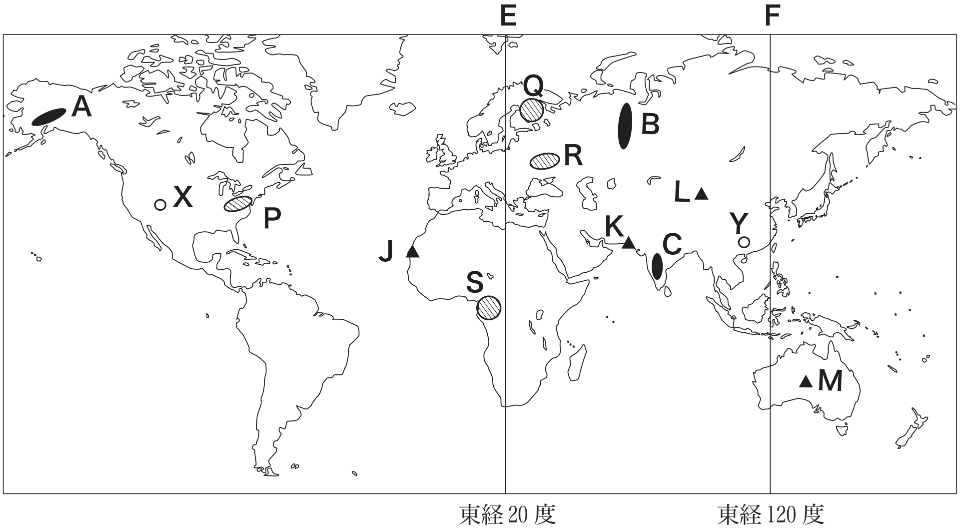


気象庁の資料により作成。

図２

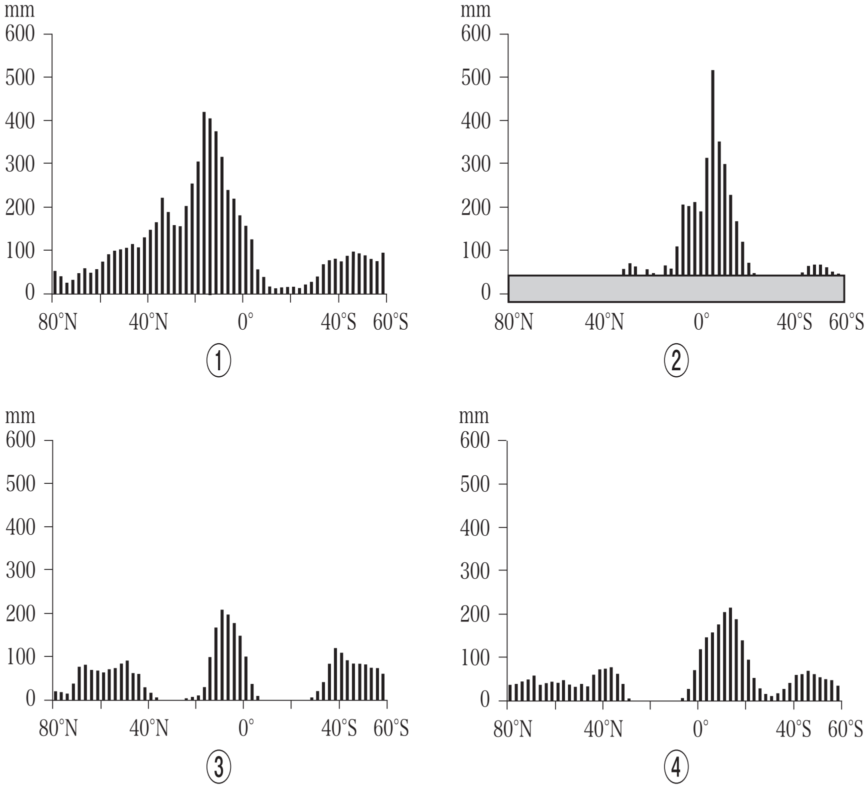
［5］　次の図２は，図１中のＥ，Ｆの経線上の月降水量を示したものであり，図２中の①～④は，Ｅの１月，Ｅの７月，Ｆの１月，Ｆの７月のいずれかである。Ｅの１月に該当するものを，図２中の①～④のうちから一つ選べ。

（2015年度地理Ｂ本試験第１問問２）



北緯 80 度～南緯 60 度の範囲を示す。

図１



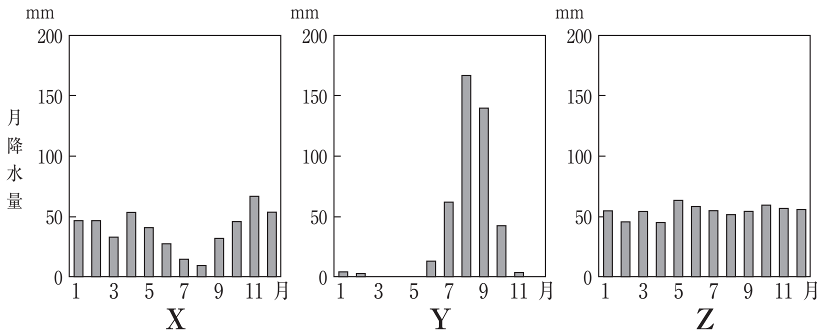
データは緯度2.5度ごと。
NOAAの資料により作成。

図２

［6］ 図２のX～Zはダカール，パリ，マドリードの月降水量の年変化を示したものである。X～Zの組合せとして正しいものを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2000年度地理Ｂ追試験第５問問１）

図１



『理科年表』により作成。

図２

	X	Y	Z
①	ダカール	パリ	マドリード
②	ダカール	マドリード	パリ
③	パリ	ダカール	マドリード
④	パリ	マドリード	ダカール
⑤	マドリード	ダカール	パリ
⑥	マドリード	パリ	ダカール

〈***Note***〉

第６講
季節風・東岸と西岸の気候

東アジアから南アジアにかけての地域は季節風（モンスーン）の影響が強い。海陸の比熱の違いによって気圧差が生じるシステムを理解しよう。キーワードはシベリア高気圧。

６．１　モンスーン（季節風）

「固体」である大陸は比熱が小さく，暖まりやすく冷めやすい。「液体」である海洋は比熱が大きく，暖まりにくく冷めにくい。

夏季，大陸上の空気は膨張し気圧が下がり，海洋上の空気は収縮し気圧が上がる。風は高気圧から低気圧に向かって吹くので，この時期，海から内陸部へと風が吹き込むことになる。

冬季はこれと反対。高気圧となる内陸部から低気圧となる海洋へと風が吹き出す。

６．２　シベリア高気圧の発生

偏西風の影響が弱く，海洋からも遠く隔てられたシベリアの内陸部は世界で最も気温年較差の大きな地域である。最寒月平均気温が－60℃まで低下する北半球の寒極も長らく存在していた。夏季には十分に気温が高いが，冬季には極端に寒冷となる。

＜チェック！＞

モンスーンの影響範囲としては東アジアから南アジアを考える。風向が変化することで季節による降水量の差も大きい。ユーラシア大陸でもウラル山脈以西は偏西風の影響が強い。気温や降水量の季節的な変化が小さい。

６．３　南アジアのモンスーン

南アジアは季節風の影響が強い地域。その風向は，夏季が南西風，冬季が北東風。全体的に，雨季と乾季の差が激しい。

ポイントになるのはインド半島西岸。ムンバイなどの都市がみられる。10～翌４月ぐらいまでの乾季にはほとんど降水がみられないが，５～９月の雨季には極端に降水量が多くなる。夏季の南西モンスーンが，インド洋から湿った空気を持ち込み，インド半島西岸に沿う山脈にぶつかり降雨を生じる（地形性降雨）。

[知っておこう]

南アジアの降水量は全体として「西部で少雨，東部で多雨」であり，パキスタンも砂漠国である。パキスタンを流れるインダス川は外来河川の典型例で，古代文明発祥の地。灌漑によって綿花や小麦がさかんに栽培されている。

６．４　東アジアのモンスーン

日本を含む東アジアのモンスーンは，夏季は南東風，冬季は北西風。太平洋から湿った風が吹き込む夏季は太平洋側で多雨となる。大陸から吹き出した乾いた風が日本海上空で水分をはらみ日本列島にぶつかる冬季には，日本海側の地方で降水量が多くなり，日照時間も短くなる。

<チェック！>

練習問題［４］は，４つの選択肢がそれぞれ４つの降水パターンのいずれかを説明しているのでおもしろい。

①；「梅雨前線」。前線性降雨。高緯度側の寒気団と低緯度側の暖気団の間に雲が生じる。

②；「台風」。低気圧性降雨。日本上空では偏西風によって西から東に移動。

③；「季節風により～雲が形成」。地形性降雨。高峻な山脈に湿った空気がぶつかる。

④；「積乱雲」。対流性降雨。強い上昇気流により雲が生じ，午後に激しい雨が降る。

［知っておこう］

気温の低い時期には降水量が少なくなるのが普通だが，むしろ冬季にこそ降水量が多くなるという日本列島の日本海側は，世界でも希少な地域である。その要因を整理しよう。

シベリア高気圧から吹き出す「冷たい風」。シベリア内陸部は，１月の平均気温が－50℃を下回る場所もあるなど，極めて寒冷。

日本海という「暖かい海」。世界最大の暖流の一つである日本海流の分流である対馬海流の影響で日本海は水温が高い。この海域から豊富な水蒸気が供給される。

日本列島という「高峻な山脈」。環太平洋造山帯に含まれる日本列島は，標高3000ｍに達する高山が脊梁（せきりょう）を成す。地形性降雨によって雲を結び，豪雪をもたらす。

なお，やはり雪が多い地域にノルウェーや，アラスカ～カナダの太平洋岸があるが，こちらに降水をもたらすのは，日本のような寒冷な季節風ではなく，暖かい偏西風である。

＜チェック！＞

練習問題［７］は河川流量の問題。シベリアのような寒冷地域を流れる河川は，春（こうした地域の春の訪れは遅いので初夏といった方が適切かも知れない）に急激に流量が増大する。融雪・融氷のためである。なお，低緯度から高緯度方向に流れる河川の場合，上流部のみ氷が融け，下流部はまだ凍りついたままであるので，河川水が周辺へと流れ出し，大規模な洪水を招くことがある。

６．５　西岸と東岸の気候の違い

気温年較差は緯度に比例するものなので，同緯度においては原則として一致する。ただし海陸の比熱や海流の影響によって違いが生じ，とくに中高緯度においては「内陸部」で気温年較差がとくに大きく，「東岸」でやや大きめ，「西岸」で最も小さくなる。

西岸は中低緯度で寒流の影響が強く，高緯度で暖流の影響が強いため，気温が平均化される。さらに偏西風の影響によって冬でも温暖な気候がみられる地域もある。

東岸はこれとは逆に暖流は中低緯度，寒流は高緯度の沿岸を流れる。さらに日本のように，季節風の影響が強く気候の季節的変化の大きなところもある。

高緯度の内陸部では寒暖の差が激しい気候がみられ，大陸性の気候となる。夏

季は農業が可能なほど温暖だが，冬季には河川や港湾が凍結するという冷帯気候がみられる。

＜チェック！＞

亜寒帯（冷帯）は大陸性の気候であり，冬季の気温が低いことに特徴がある。亜寒帯（冷帯）地域では原則として冬季に河川や湖沼，港湾は凍結する。北アメリカ大陸五大湖沿岸や北海道の港湾は冬季は使用できない。

亜寒帯（冷帯）については南半球には分布しないこともポイント。高緯度地方に陸地が少なく，大陸性気候がみられない。海洋の影響で冬季でも比較的温暖となる。

過去にセンター試験で，南半球のある地域について「冷帯でありトナカイが遊牧されている」という内容の文の正誤判定が求められたことがあるが，当然誤り。亜寒帯（冷帯）は南半球に存在せず，トナカイも北半球の動物である。

６．６　中緯度の大陸西岸地域にみられる特殊な気候

大陸西岸の緯度35°付近には必ず夏季乾燥型の気候パターンが現れる。これを地中海性気候という。気温年較差も，同緯度の大陸東岸などより小さい。地中海沿岸（西アジア・北アフリカ・南ヨーロッパ），アメリカ合衆国カリフォルニア州，アフリカ南西端ケープタウン，南アメリカ・チリ中央部，オーストラリア南部（パース・アデレード付近）。いずれもブドウの栽培がさかんな地中海式農業地域である。

＜チェック！＞

アメリカ合衆国太平洋岸中部の都市サンフランシスコの気候は頻出であるので，単に地中海性気候と覚えるのではなく，具体的な数値で頭に入れておく。とくに同緯度の都市である東京との対比が重要。

	最暖月平均気温	最寒月平均気温	最少降水月とその降水量	最多降水月とその降水量
サンフランシスコ	18.2℃	10.7℃	0.0mm（７月）	105.9mm（12月）
東京	27.5℃	4.9℃	22.5mm（１月）	310.0mm（９月）

サンフランシスコは寒流の影響が強く，夏季に気温の上昇が抑えられるだけではなく，年間の総降水量も500mmと比較的少雨となっている（東京は1598.2mm）。同じく大陸西岸の中緯度に位置するリスボンとも共通する性格である。

ワンポイント

乾燥地域の形成理由には４種類ある。

・回帰線砂漠；中緯度高圧帯の影響が強い緯度25°付近に形成。アラビア半島，サハラ砂漠，オーストラリアなど。

・内陸砂漠；隔海度が高く，また山岳など障害物の存在によって水分が海洋から届かない。ユーラシア大陸内陸部(ゴビ砂漠・タクラマカン砂漠)，アメリカ合衆国西部の乾燥地域など。

・雨陰砂漠；年間を通じ同じ方向から風を受け続ける場合，風下斜面側に乾燥地域が形成される。マダガスカル西部，アルゼンチン南部など。

・海岸砂漠；低緯度において寒流の影響によって大気が安定し，雲が生じにくい。アフリカ南西部(ナミブ砂漠)，エクアドル南部～ペルー～チリ北部の乾燥地域など。

第６講
季節風・東岸と西岸の気候［練習問題］

［１］ 次の文章は，ある地域を訪れた日本人による紀行文の一部である。この紀行文の内容に該当する地域について述べた下の文①～④のうちから，正しいものを一つ選べ。

（1996年度地理本試験第１問問４）

１月６日－朝起きて，いつものように，食堂まで暗いなかを歩いて朝食をとりに行く。あいかわらず濃い霧で，視界は10メートルぐらいであった。そのとき私は，気温が前日より相当下がっているように感じられた。凍てついた外気に直接さらされているという顔の皮膚の感触が，いつもと違っているのである。

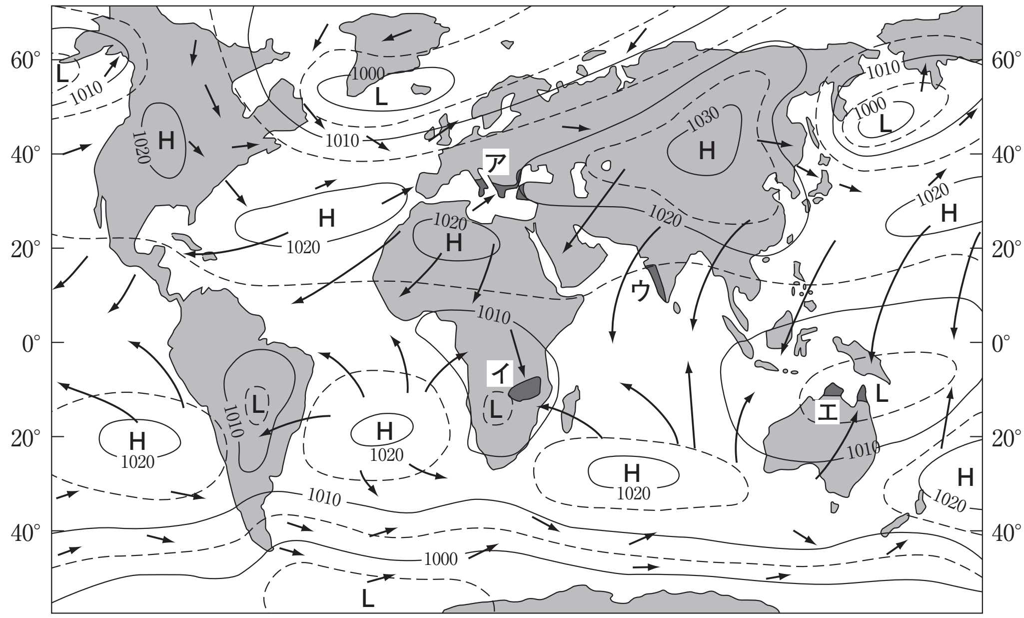
氷点下62.8度という，今度の「寒極旅行」の期間を通じての，最低気温を経験したのは，この食堂を出たあとの午前11時過ぎのことであった。

（岡田安彦の著書より抜粋，一部改変。）

① １月に日照のない北極圏にあるスバールバル諸島と考えられる。
② 大陸内部で放射冷却の著しいシベリア北東部と考えられる。
③ 標高4000ｍを超えるヒマラヤの高山と考えられる。
④ 厚い氷河が発達する南極大陸にある昭和基地と考えられる。

［２］　図１中で黒く塗りつぶされたア～エ地域のうち，１月が乾季となっている地域を，次の①～④のうちから一つ選べ。

（1996年度地理本試験第１問問２）



図中のＨは高気圧，Ｌは低気圧，数字の単位はヘクトパスカル（hPa）。

図１

①　ア　　②　イ　　③　ウ　　④　エ

［3］　次の図２中のＡ～Ｃは，図１中のカラチ，チェンナイ(マドラス)，ムンバイ(ボンベイ)のいずれかの都市における月平均気温と月降水量をハイサーグラフで示したものである。Ａ～Ｃに該当する都市名の組合せとして正しいものを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

(2003年度地理Ｂ本試験第３問問１)

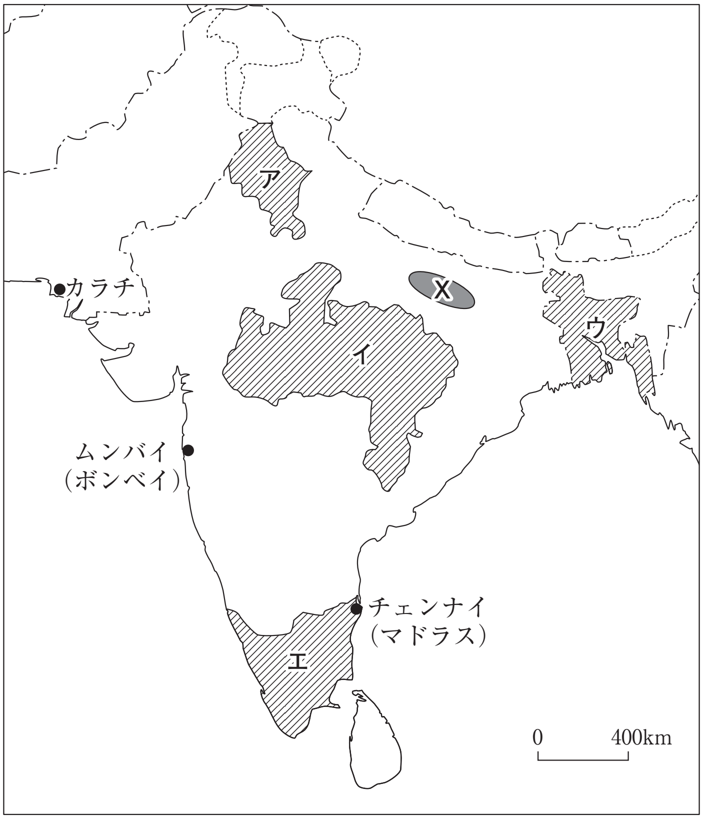
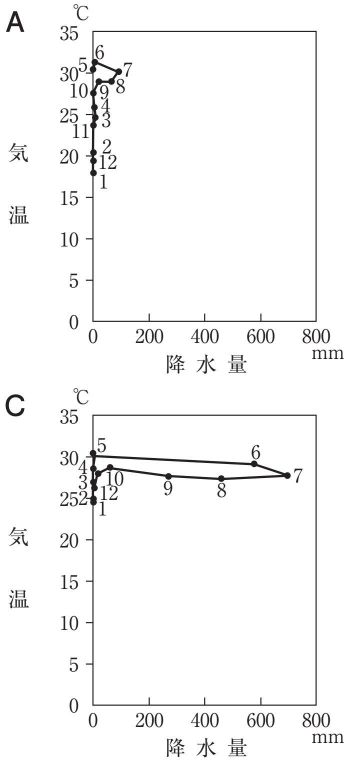


図１



『理科年表』により作成。

図２

	①	②	③	④	⑤	⑥
A	カラチ	カラチ	チェンナイ	チェンナイ	ムンバイ	ムンバイ
B	チェンナイ	ムンバイ	カラチ	ムンバイ	カラチ	チェンナイ
C	ムンバイ	チェンナイ	ムンバイ	カラチ	チェンナイ	カラチ

［4］　次の写真２は，日本列島付近におけるある季節の雲の様子を示したものである。写真２について述べた文として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。　　　　　　　　　（2005年度地理Ａ追試験第１問問５）

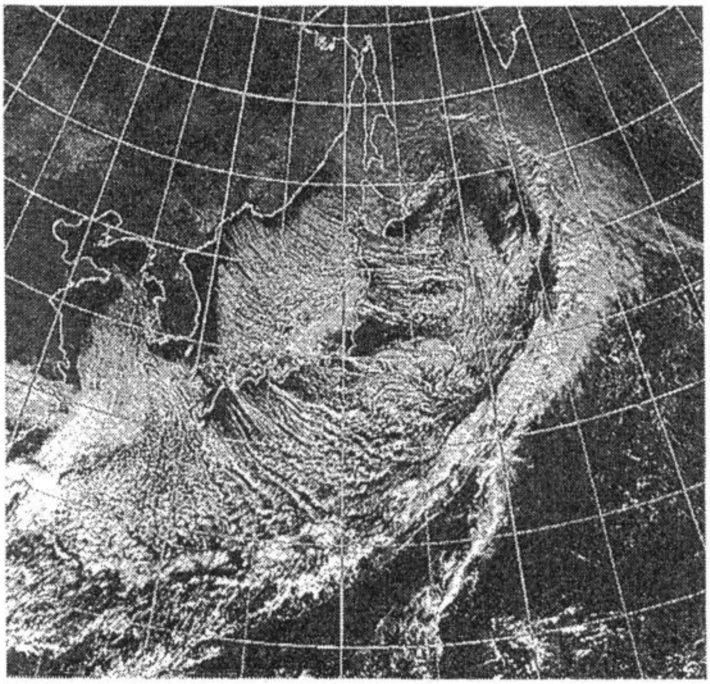


写真２

（編集部　追記：気象庁資料）

①　日本列島上には梅雨前線が停滞し，それにともなう雲がみられる。

②　太平洋上には台風が存在し，水蒸気を大量に含んだ南東風が吹き，日本海上空に雲がかかっている。

③　大陸の高気圧から吹き出した季節風により，日本列島付近に雲が形成されている。

④　発達した低気圧が日本海上にあり，日本列島全域が積乱雲に覆われている。

［５］　カオリさんは，横手市の気候を，岩手県の釜石市，北上市のものと比較してみた。次の表１中の**ア**～**ウ**は，これら３都市の気温年較差と12月～２月の３か月間における，日照時間を示したものである。**ア**～**ウ**と都市名との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。　　(2005年度地理Ｂ追試験第５問問１)

表１

	気温年較差（℃）	12～２月の日照時間(時間)
ア	26.2	140.4
イ	22.3	390.6
ウ	25.2	239.7

気象庁の資料により作成。

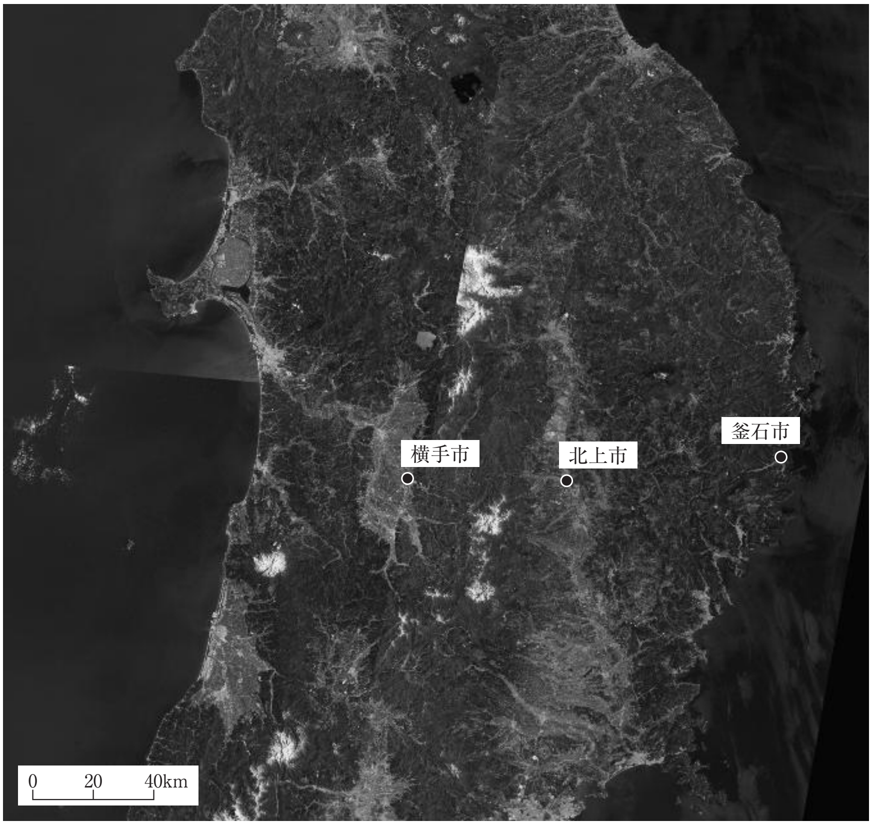


図１

（編集部　追記：写真はGLCF(ESDI)のLandsatデータを使い，『カシミール3D』で作成しました）

	①	②	③	④	⑤	⑥
ア	釜石市	釜石市	北上市	北上市	横手市	横手市
イ	北上市	横手市	釜石市	横手市	釜石市	北上市
ウ	横手市	北上市	横手市	釜石市	北上市	釜石市

［６］　次の図２は，図１中のロシアの都市における月平均気温と月降水量をそれぞれ示している。図２中のＡ～Ｃは，ウラジオストク，ディクソン（ジクソン），ロストフのいずれかである。これらの組合せとして正しいものを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。（2001年度地理Ｂ追試験第１問問２）

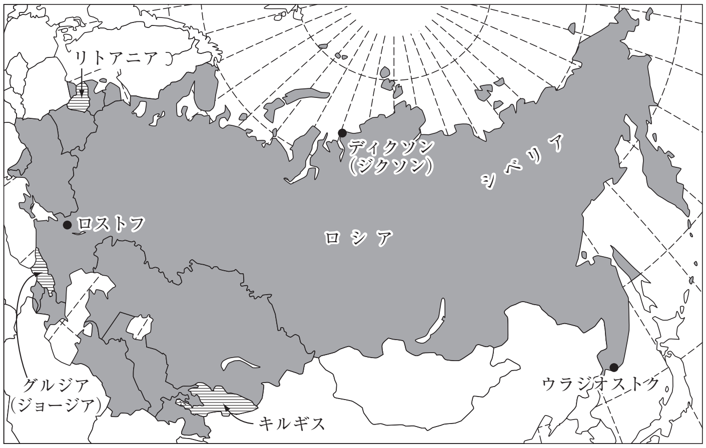
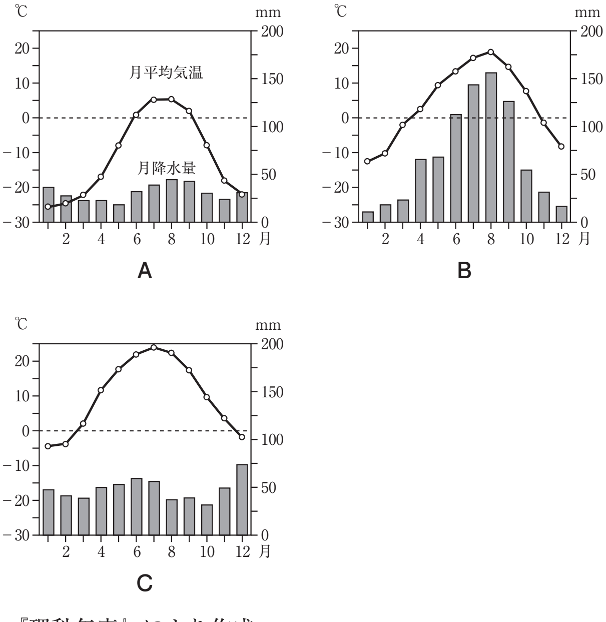


図１



『理科年表』により作成。

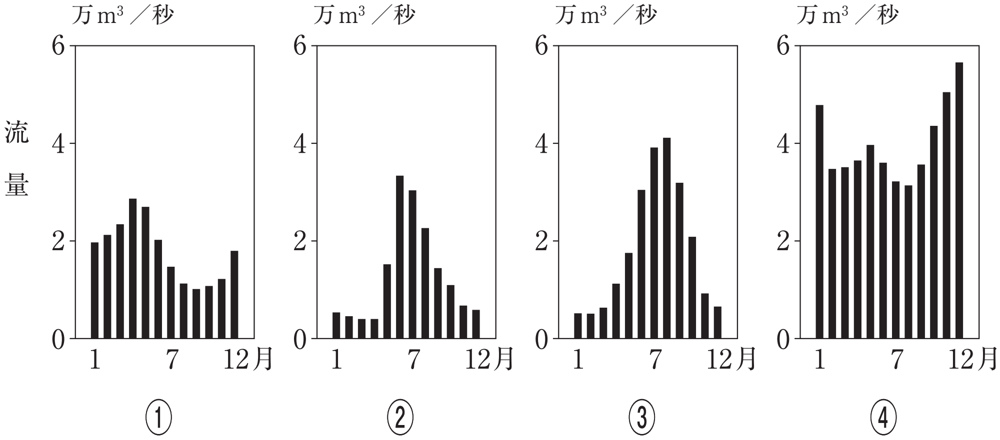
図２

	①	②	③	④	⑤	⑥
ウラジオストク	A	A	B	B	C	C
ディクソン	B	C	A	C	A	B
ロストフ	C	B	C	A	B	A

［７］　河川流量の年変化は，流域の気候環境などを反映する。次の図４中のＷ～Ｚは河川であり，下の図５中の①～④は，Ｗ～Ｚのいずれかの河川の黒丸地点における流量の年変化を示したものである。図４中のＹ川に該当するものを，図５中の①～④のうちから一つ選べ。

（2003年度地理Ｂ本試験第１問問６）

図４



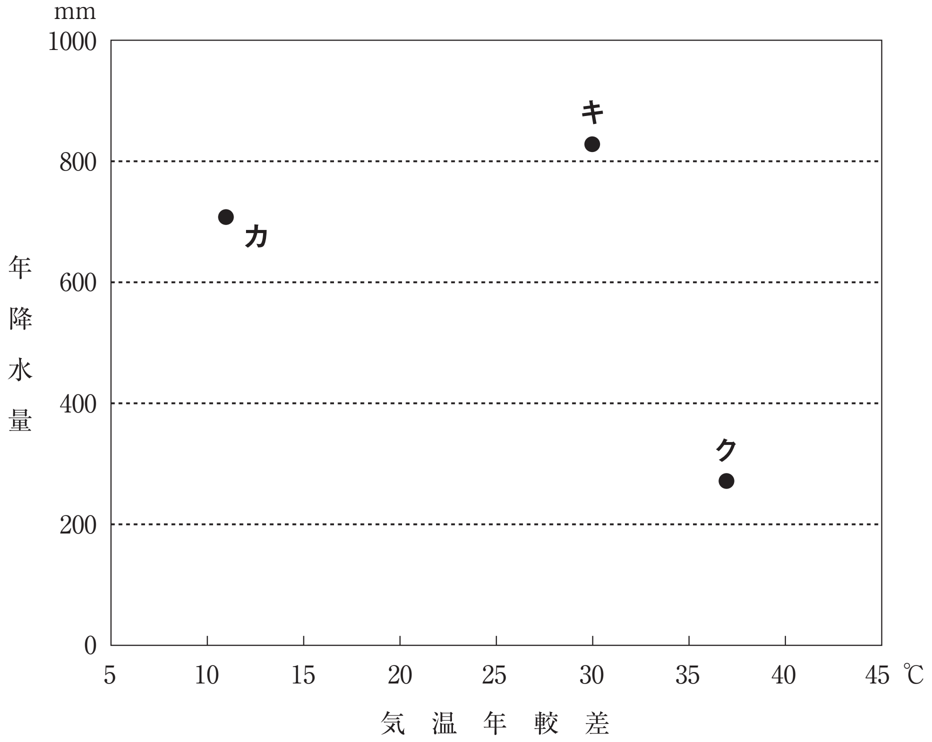
International Hydrological Programme, *Global River Discharge Database* などにより作成。

図５

［8］　次の図２中の**カ～ク**は，図１中のウラジオストク，ウルムチ，リスボンのいずれかの都市における気温年較差と年降水量を示したものである。**カ～ク**と都市名との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2005年度地理Ａ本試験第１問問３）

図１



『理科年表』により作成。

図２

	カ	キ	ク
①	ウラジオストク	ウルムチ	リスボン
②	ウラジオストク	リスボン	ウルムチ
③	ウルムチ	ウラジオストク	リスボン
④	ウルムチ	リスボン	ウラジオストク
⑤	リスボン	ウラジオストク	ウルムチ
⑥	リスボン	ウルムチ	ウラジオストク

［９］　次の図２は，図１中のＸ－Ｘ’とＹ－Ｙ’のいずれかに沿う最寒月・最暖月の平均気温（Ａ・Ｂ）および年降水量（Ｐ・Ｑ）の変化を示している（図１中の黒丸は図２の作成に使用した観測点の位置），Ｘ－Ｘ’に該当する気温と降水量の組合せとして正しいものを，下の①～④のうちから一つ選べ。

（2003年度地理Ｂ追試験第１問問２）

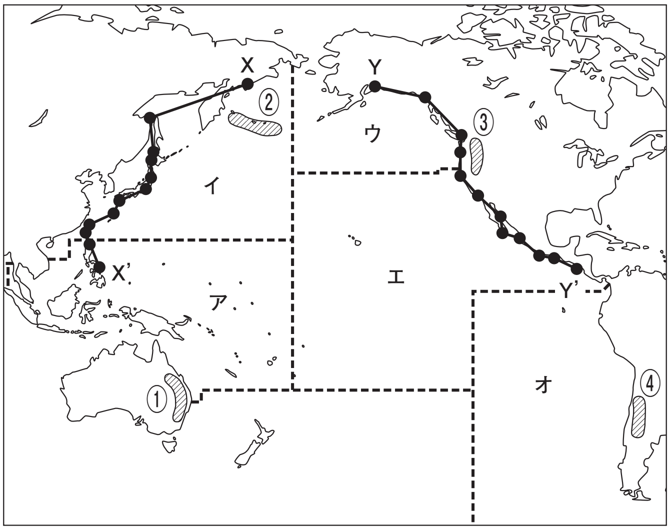
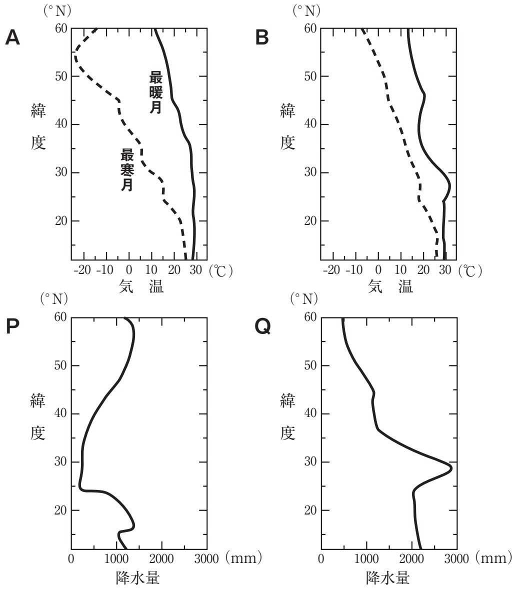


図１



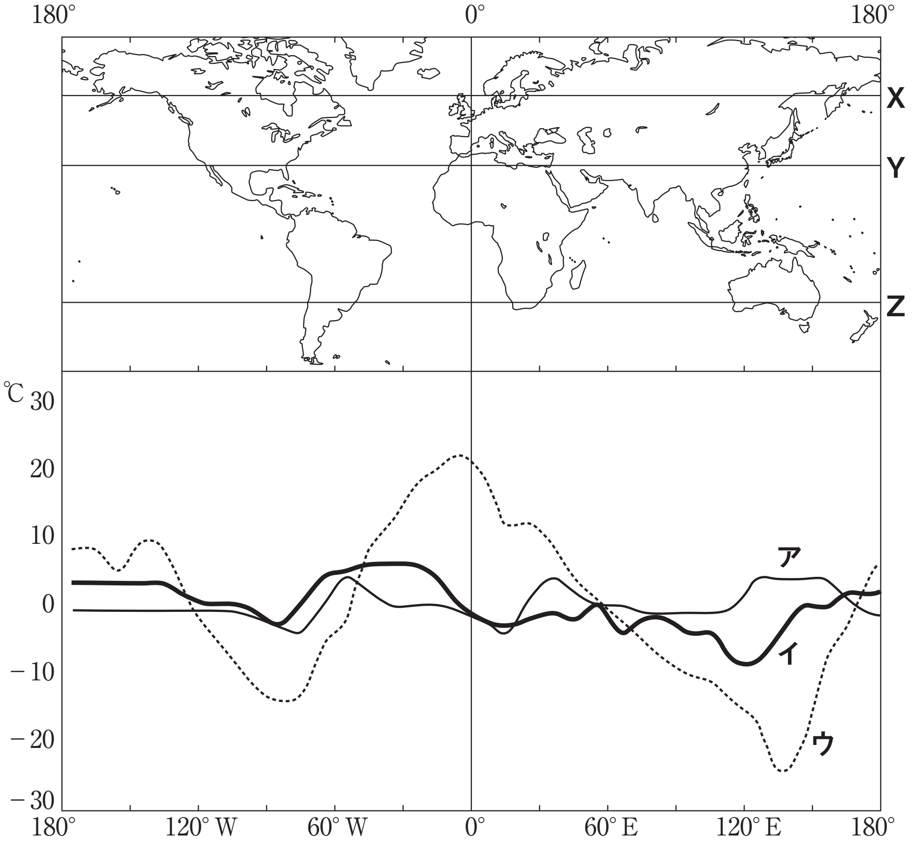
『理科年表』により作成。

図２

	①	②	③	④
気温	A	A	B	B
降水量	P	Q	P	Q

［10］　地球上の気温は，基本的には緯度に応じて変化するが，海陸の分布，海流，海抜高度などにも強く影響される。次の図１中のア～ウは，１月の気温について，Ｘ～Ｚの各緯度ごとに求めた平均気温と，Ｘ～Ｚ上の現地気温を海面更正した値との偏差（＊）を示したものである。Ｘ～Ｚとア～ウの組合せとして正しいものを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2000年度地理Ｂ追試験第２問問１）



*偏差＝(現地気温を海面更正した値)－(各緯度ごとの平均気温)
『Atmosphere, Weather and Climate』により作成。

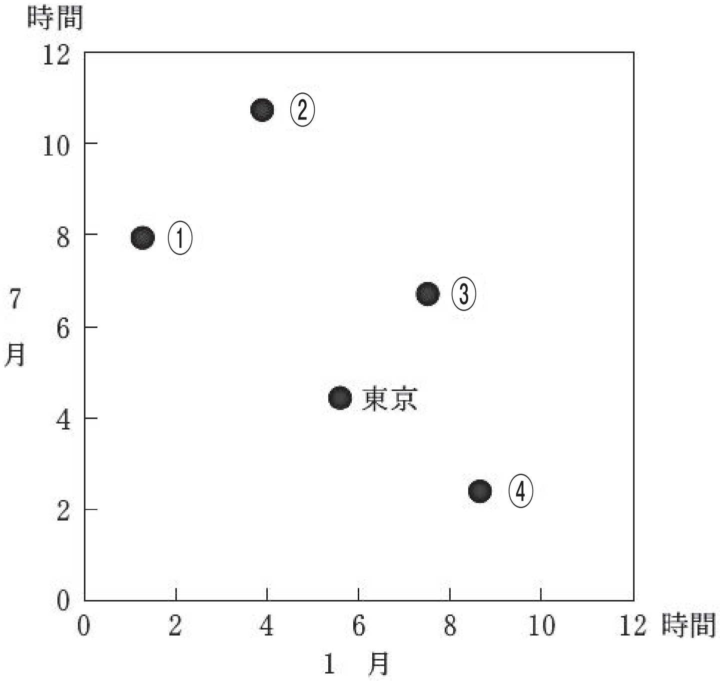
図１

	①	②	③	④	⑤	⑥
X	ア	ア	イ	イ	ウ	ウ
Y	イ	ウ	ア	ウ	ア	イ
Z	ウ	イ	ウ	ア	イ	ア

第６講
季節風・東岸と西岸の気候［確認問題］

［１］　世界の各都市の日照時間は，都市が位置する緯度や気候によって異なる。次の図５は，いくつかの都市における１月と７月の１日当たりの日照時間を示したものであり，①～④は，オスロ，シドニー，ムンバイ（ボンベイ），ローマのいずれかである。ムンバイに該当するものを，図５中の①～④のうちから一つ選べ。

（2024 年度地理Ｂ本試験第１問問４）



統計年次は，東京，オスロ，シドニー，ローマが 1961～1990 年の平均値，ムンバイが 1971～1990 年の平均値。
World Meteorological Organization の資料により作成。

図５

［２］　次の図２中の①～④は，図１中のカラチ，ジャカルタ，シンガポール，ヤンゴンのいずれかの都市における月降水量を示したものである。ヤンゴンに該当するものを，図２中の①～④のうちから一つ選べ。

（2010年度地理Ａ追試験第４問問２）

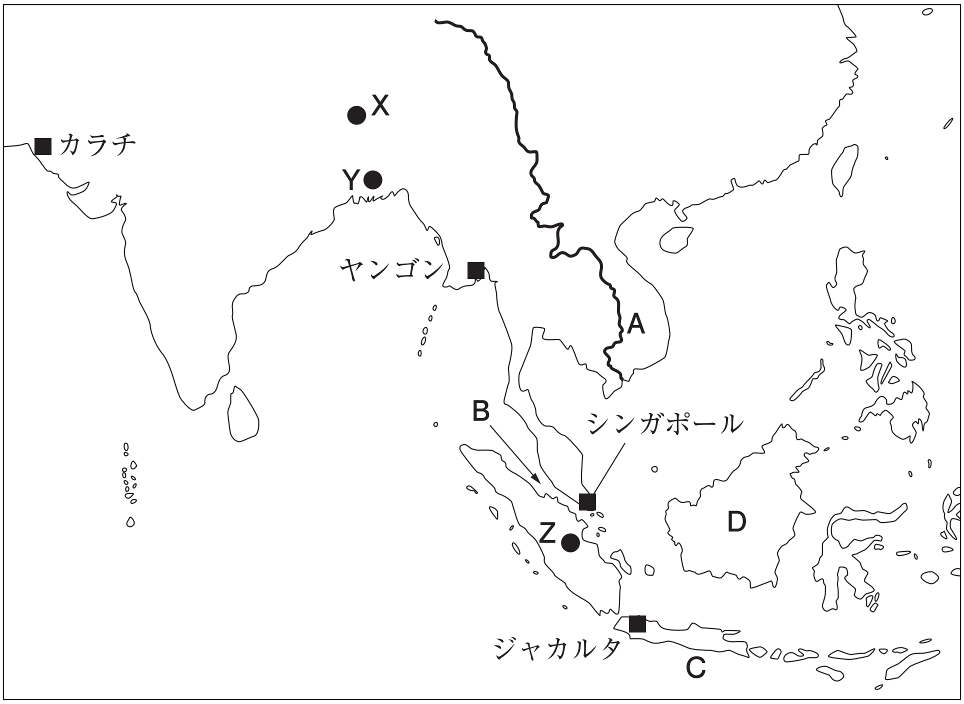
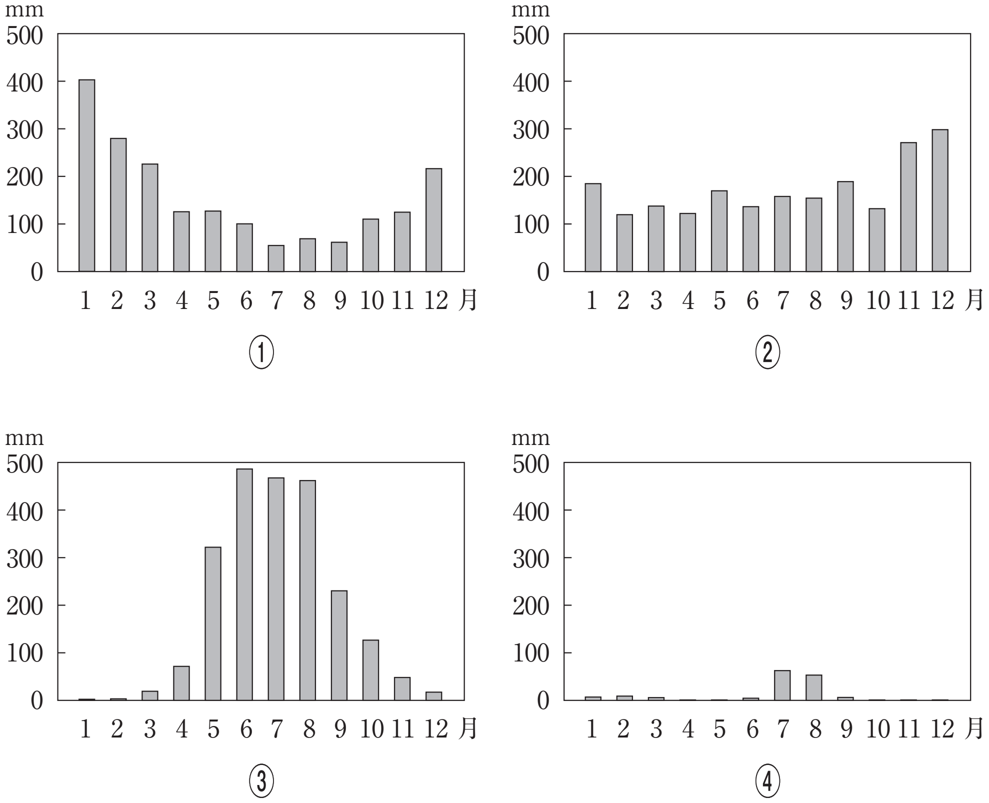


図１



『理科年表』により作成。

図２

［３］　次の図２中の①～④は，図１中のソウル，ハバロフスク，ペキン，松江のいずれかの都市における，月平均気温と月降水量を示したものである。ペキンに該当するものを，図２中の①～④のうちから一つ選べ。

（2007年度地理Ａ本試験第３問問１）

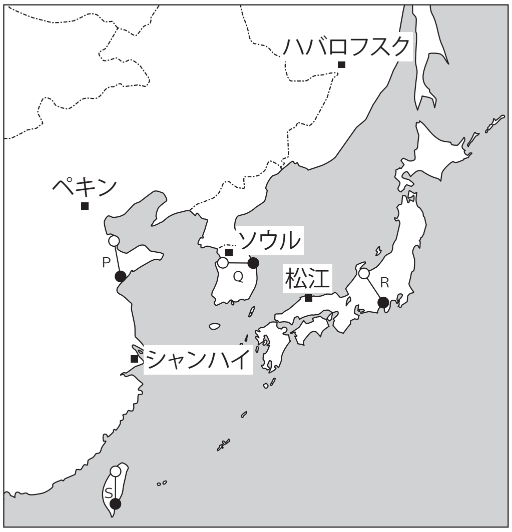
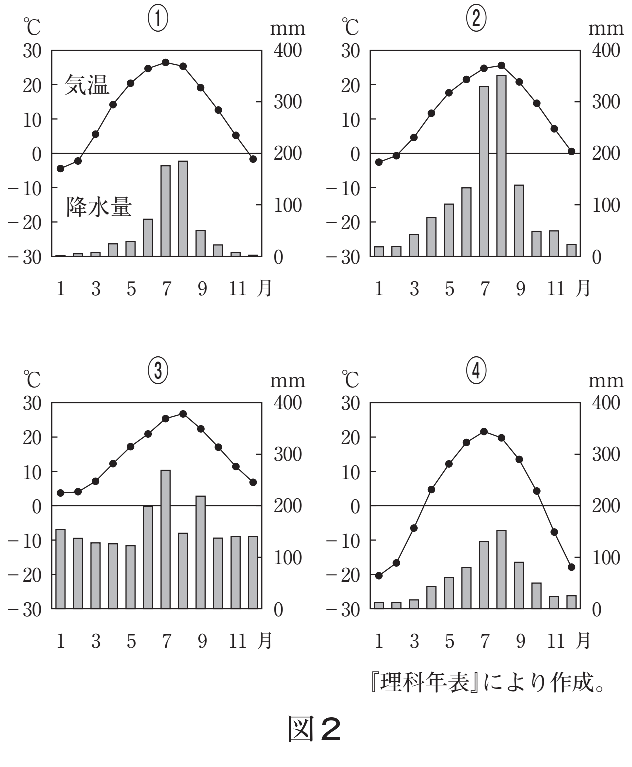


図１

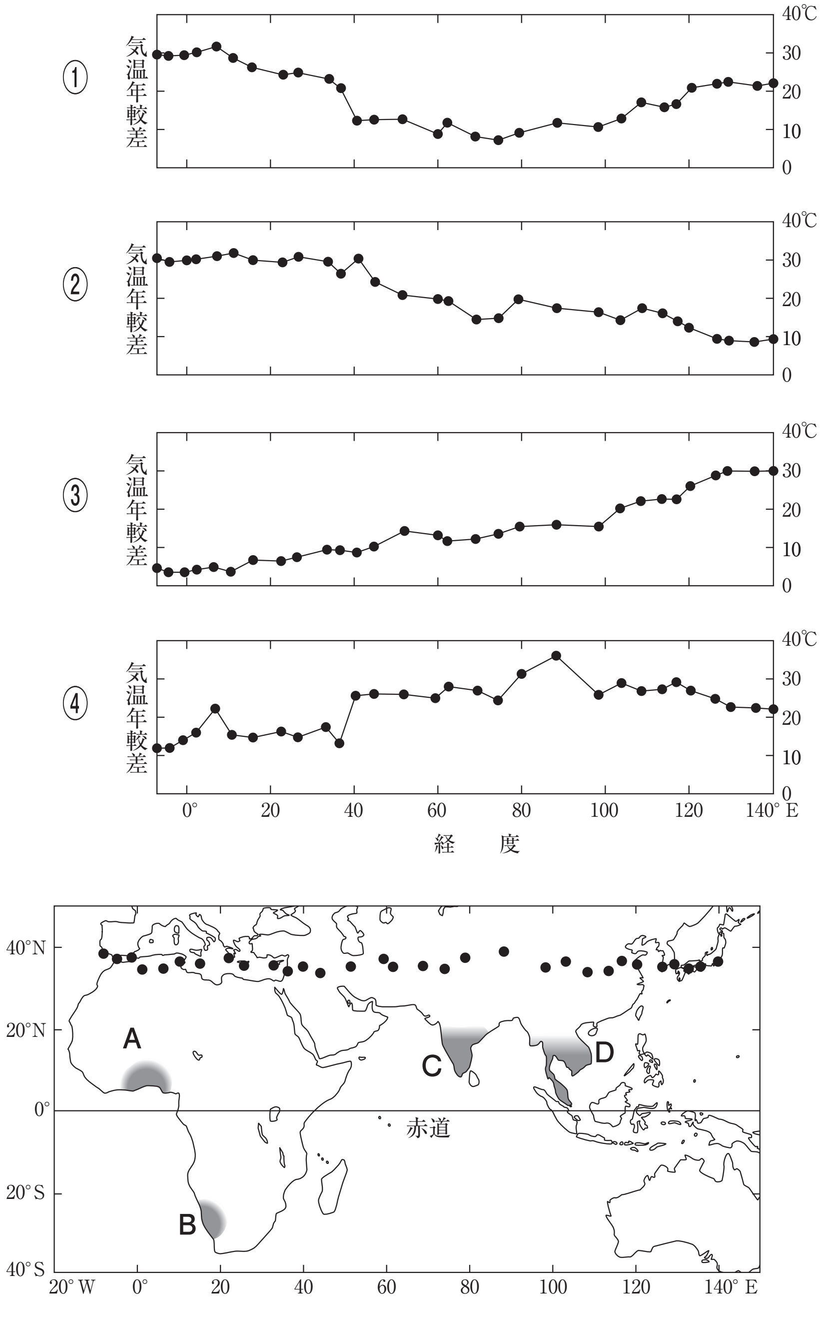


『理科年表』により作成。

図２

［4］　東京および，それとほぼ同じ緯度に位置する30地点（次の図2中の地図に黒丸で示している）の気温の年較差を示したグラフとして，最も適当なものを，図中の①～④のうちから一つ選べ。

（1996年度地理追試験第1問問2）



「外国気候表」により作成。

図2

［５］　世界の気温分布やその季節変化は，緯度，海陸分布，地表面の起伏などの影響を受けて複雑になっている。次の図２中のア～エは，図１中の経線**X**と**Y**に沿った１月と７月の月平均気温分布を示している。経線**X**に該当する１月と７月の気温分布の組合せを，下の①～④のうちから一つ選べ。

（2002年度地理Ｂ追試験第１問問１）

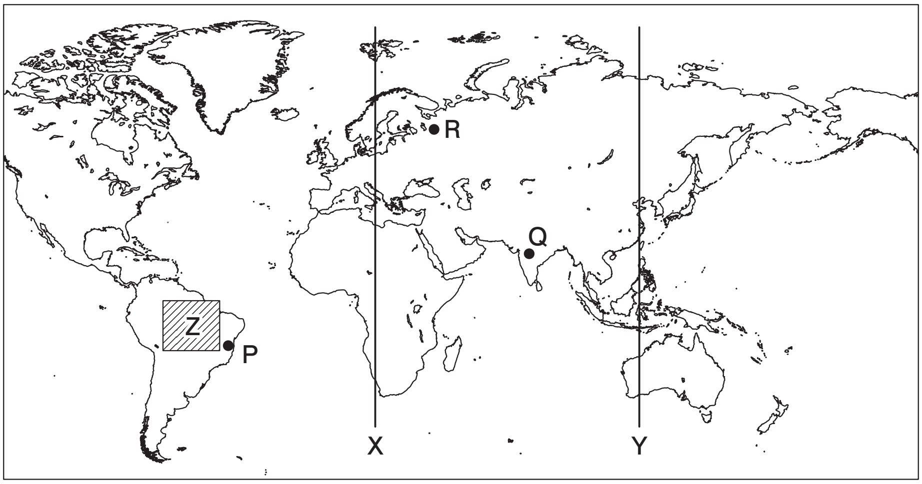
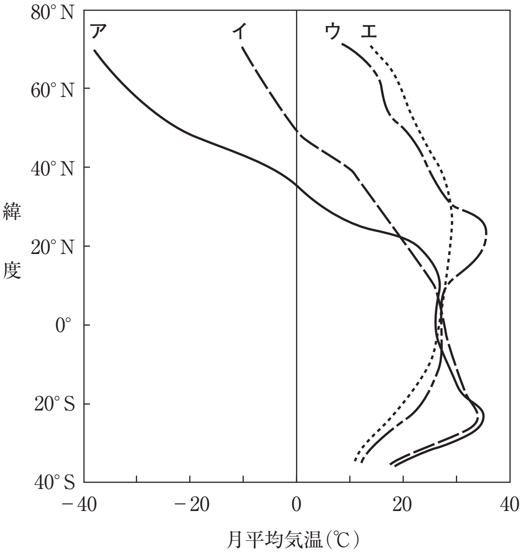


図１



気象庁『世界気候表』により作成。

図２

	１月	７月
①	ア	ウ
②	ア	エ
③	イ	ウ
④	イ	エ

［6］　河川の流量の変化は，流域の気候の影響を受ける。次の図2中の**カ**～**ク**は，図1中の**L**～**N**のいずれかの地点における月平均流量を示したものである。**カ**～**ク**と**L**～**N**との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2007年度地理Ｂ本試験第1問問3）

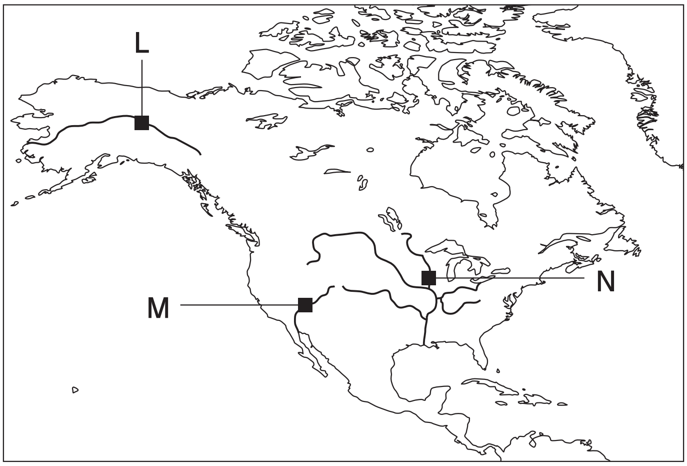
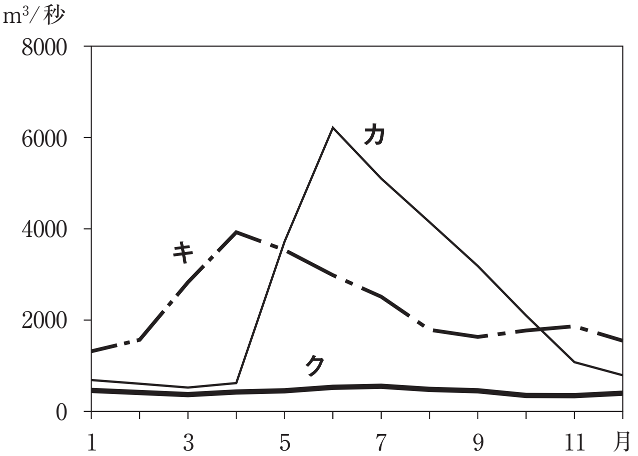


図1



統計年次は1971～2000年。一部欠測値を含む。
GRDCの資料により作成。

図2

	①	②	③	④	⑤	⑥
カ	L	L	M	M	N	N
キ	M	N	L	N	L	M
ク	N	M	N	L	M	L

第７講
海流・土壌・植生

気候と海流，土壌，植生は強く結びついている。恒常風によって海流が生じ，暖流あるいは寒流の作用によって特定の気候環境が出現する。気温と降水量のちがいで土壌の性質も大きく変化し，さらに世界各地で多様な植生がみられる。

７．１　海流の流れ

海表面の恒常的な流れを「海流」という。大きく，北半球では右回り（時計回り），南半球では左回り（反時計回り）となる。ただし北半球では高緯度側に小規模な海流もあり，数字の８の字のように回っているともいえる。

高緯度側から低緯度方向へと冷たい水を運ぶ流れを「寒流」，低緯度側から高緯度方向へと暖かい水を運ぶ流れを「暖流」という。

７．２　暖流と寒流の作用の違い

・寒流・・・海中では，上方に冷たく密度の高い海水があるため不安定な状態になり，対流が生じる。海底から上方に向かう流れ（これを湧昇流という）によって，海底面に積もった有機塩類が海表面に持ち上げられ，栄養分が豊富な海域を形成する。大気中では，下方の空気が冷やされ密度が上がるため安定した状態となり，上昇気流が生じにくくなる。寒流の沿岸では少雨気候がみられる。

・暖流・・・寒流とは反対。栄養分に乏しい海域となり，沿岸は多雨となる。

＜チェック！＞

気温の高い低中緯度の寒流沿岸では「降水量＜蒸発量」となるため，乾燥気候となる。こうして形成された砂漠を「海岸砂漠」といい，アフリカ南西部，北アメリカ・カリフォルニア半島，南アメリカ・エクアドルからチリ北部などに典型的にみられる。

中低緯度の暖流の流れる海域はとくに水温が上がるため，熱帯低気圧が生じ，サンゴ礁も形成される。フィリピンから日本にかけての海域，メキシコ湾やカリブ海，オーストラリア北東岸などがその例。

７．３　高緯度における暖流と寒流の影響

大きく時計回りである北半球の海流だが，厳密には「８の字」である。このため，高緯度においては大陸西岸（海洋東部）で暖流，大陸東岸（海洋西部）で寒流となる。前者の例が西ヨーロッパ沿岸を流れる北大西洋海流であり，この影響により沿岸では冬でも温暖な気候がみられ，港湾は冬でも凍結しない不凍港となる。後者の例が日本近海を流れる千島海流（親潮）であり，この影響により東北地方太平洋岸では夏季の作物不良（冷害）が生じる。

７．４　ペルー海流の影響と南アメリカ大陸太平洋岸

南アメリカ太平洋岸には海流と偏西風の影響によって特徴的な気候がみられる。

・赤道から南緯30度付近（エクアドル，ペルー，チリ北部）・・・寒流の影響により大気が安定し，乾燥地域となる。とくに亜熱帯高圧帯（中緯度高圧帯）の作用も重なる南緯25度付近には極めて降水量の少ない砂漠が広がっている。

・南緯35度付近（チリ中央部）・・・冬季に湿潤，夏季に乾燥する地中海性気候がみられる。ブドウの栽培など。

・南緯40度付近（チリ南部）・・・偏西風がアンデス山脈に当たる風上側斜面となるので，多雨気候がみられる。森林地帯となっている。寒流の影響は小さい。

７．５　土壌（１）；成帯土壌

［成帯土壌］・・・気候帯に沿って広い範囲に分布する土壌。大きく，酸性の湿潤土壌，弱アルカリ性の半乾燥土壌，アルカリ性の乾燥土壌に分けられる。

・ポドゾル；亜寒帯（冷帯）地域に分布する酸性の湿潤土壌。色素が溶脱され灰白色となっている。気温が低く植物の分解が進まないため，栄養分に乏しい。タイガ地帯となっていることが多い。

・黒土（黒色土）；年降水量500㎜程度のステップ地域に分布する弱アルカリ性の半乾燥土壌。腐植が厚く積もった黒色土壌でたいへん肥沃。ウクライナのチェルノーゼム，北アメリカ中央平原のプレーリー土，アルゼンチンのパンパ土。いずれも企業的穀物農業地域であり，大規模な小麦栽培が営まれている。

・砂漠土；砂漠地域に分布するアルカリ性の土壌。蒸発作用が激しく，土中の塩分が地表面に持ち上げられ集積する塩害が生じることも。

・ラトソル；熱帯（サバナ・熱帯雨林）地域に分布する酸性の湿潤土壌。土中の金属分子が酸化し赤色となっている。高温で植物の分解が速過ぎ，多雨で栄養分が流出するので，腐植に乏しいやせた土壌となっている。

［知っておこう］

これ以外の成帯土壌にツンドラ土，栗色土，褐色森林土などがある。ツンドラ土とは，北極海周辺などのツンドラ（夏季のみ表面の雪氷が解けて地衣・蘚苔類が繁茂する荒地）に分布する土壌。栗色土とは，ステップの中でもやや降水量が少ない（200～300mm程度の）砂漠に隣接した地域に分布する土壌。褐色森林土は日本や西ヨーロッパなど温帯の森林地域に分布する土壌。比較的肥沃である。

<チェック！>

肥沃な土壌の条件は「腐植」。いわゆる腐葉土をイメージしたらいい。適度に植物が分解された状態。気温が高いと微生物の活動が活発となり，有機養分がすぐに分解されてしまう。気温が低過ぎるとそもそも分解が進まない。降水量が多いと栄養分が流出する。降水量が少なければ植物が生育しないので腐植も形成されない。「暑過ぎず，寒過ぎず，雨が降り過ぎず，降らな過ぎず」という中間的な気候環境下でこそ，腐植が豊富な土壌が生まれる。

７．６　土壌（２）；間帯土壌

［間帯土壌］・・・母岩の影響を受け形成された局地的に分布する土壌。

・レグール土；玄武岩の風化した黒色土壌。インド半島西部に分布し，排水性が良く，綿花栽培に適する。

・テラローシャ；玄武岩と輝緑岩が風化した暗紫色土壌。ブラジル高原南部に分布し，コーヒー栽培に適する。

・テラロッサ；石灰岩の風化土壌。カルスト地形と対応する。南ヨーロッパのオリーブ栽培地域に分布する土壌でもある。

・レス（ヨーロッパ）；ヨーロッパの北半部はかつて大陸氷河に覆われていたが，これにより地表面の肥沃な腐植土が削られ，末端部に積もった。これらがさらに風によって周囲に散らばった土壌がレスである。ロンドン盆地やパリ盆地，ハンガリー盆地など。とくにハンガリー盆地は温暖であるため，小麦だけでなくトウモロコシの栽培もさかん。

・レス（中国）；黄河上流の黄土高原から黄河によって華北平原に運ばれる土壌。小麦やトウモロコシの栽培。

７．７　植生

樹木は，針葉樹・落葉広葉樹・常緑広葉樹に大きく分類される。亜寒帯（冷帯）地域に広がるタイガは針葉樹の純林地帯である。針葉樹は軟木であり加工しやすいため，亜寒帯林は商業林として価値が高い。熱帯地域の熱帯雨林は多種類の常緑広葉樹からなっている。常緑広葉樹は一般に硬木であり，高級材として重用される樹木も一部にはあるが，全体的に商業的な利用は少ない。

＜チェック！＞

常緑広葉樹に含まれる硬葉樹と照葉樹が重要。硬葉樹は夏季乾燥する地中海性気候の地域の植生。葉は細長く硬い。オリーブや月桂樹など。照葉樹は中国南半部から西日本地域の植生。丸みを帯びた光沢のある葉をもつ。シイ，クス，カシなど。ツバキ科の樹木であるチャノキ（茶）も照葉樹。

ワンポイント

乾燥地域の形成理由。

・回帰線砂漠；亜熱帯高圧帯（中緯度高圧帯）の影響が強い緯度25°付近に形成。アラビア半島，サハラ砂漠，オーストラリアなど。

・内陸砂漠；隔海度が高く，また山岳など障害物の存在によって水分が海洋から届かない。ユーラシア大陸内陸部（ゴビ砂漠・タクラマカン砂漠），アメリカ合衆国西部の乾燥地域など。

・雨陰砂漠；年間を通じ同じ方向から風を受け続ける場合，風下斜面側に乾燥地域が形成される。マダガスカル西部，アルゼンチン南部など。

・海岸砂漠；低緯度において寒流の影響によって大気が安定し，雲が生じにくい。アフリカ南西部（ナミブ砂漠），エクアドル南部～ペルー～チリ北部の乾燥地域など。

第７講
海流・土壌・植生［練習問題］

［１］ 大西洋における主要な海流を示したものとして最も適当なものを，次の図２中の①～④のうちから一つ選べ。　　（2008年度地理Ａ本試験第１問問７）

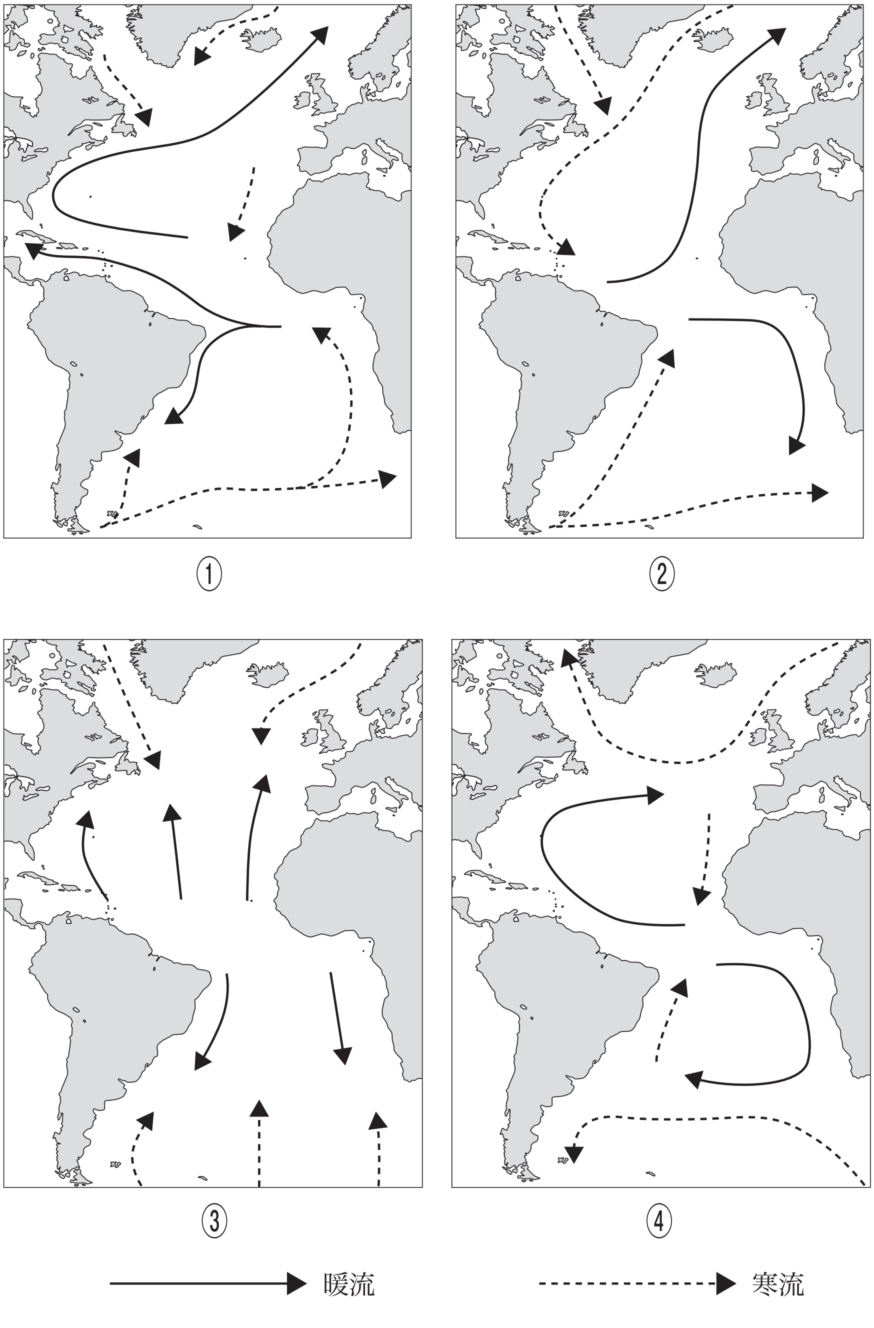


図２

［２］　次の**カ**～**ク**の文章は，図１中の**Ｌ**～**Ｎ**のいずれかの海域について述べたものである。**カ**～**ク**と**Ｌ**～**Ｎ**との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2005年度地理Ａ追試験第１問問３）

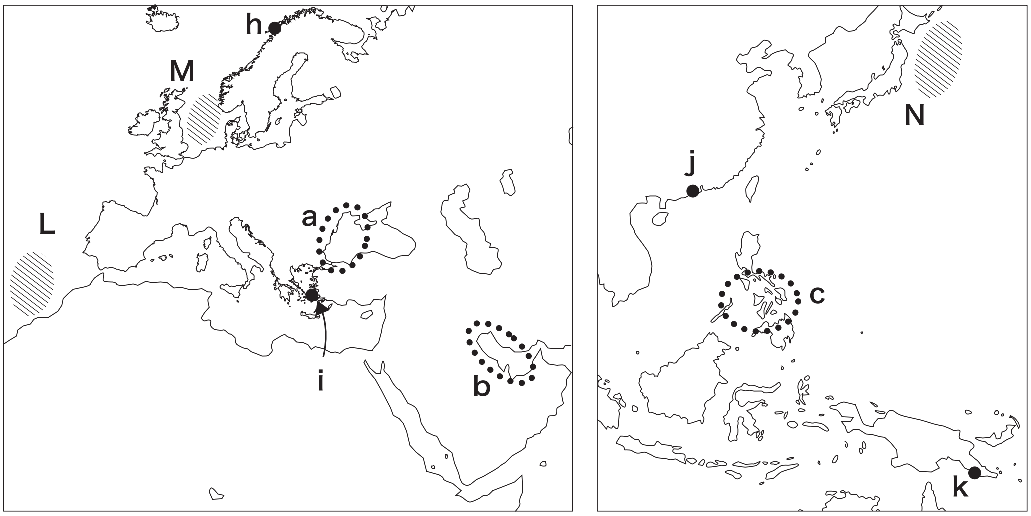


図１

カ　寒流と暖流が出合う海域である。暖流性のカツオやサバと，寒流性のサンマやサケなど魚種が豊富である。

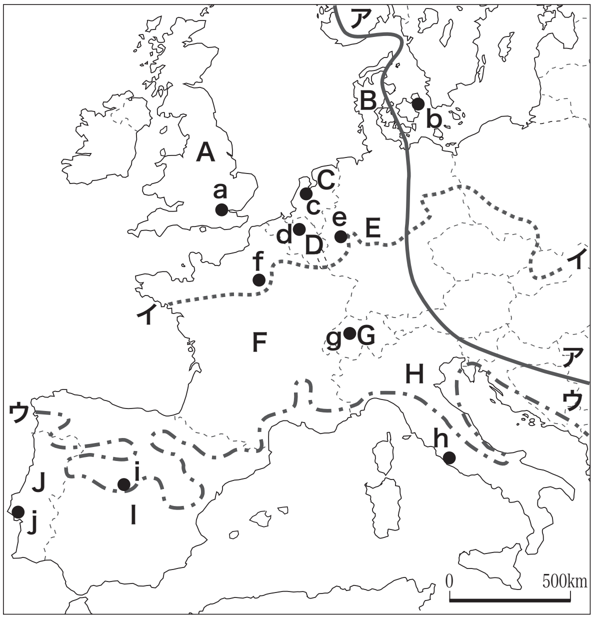
キ　寒流が南下する海域である。主にイワシなどの好漁場であり，海域内の漁港は遠洋漁業の拠点ともなっている。

ク　主に暖流が流入する海域で，大陸棚やバンク（浅堆）がみられる。タラやニシンを中心とした好漁場であり，漁場開発の歴史は古い。

	①	②	③	④	⑤	⑥
カ	L	L	M	M	N	N
キ	M	N	L	N	L	M
ク	N	M	N	L	M	L

［３］　等温線**ア**は，何を示しているか。次の①～⑥のうちから，最も適当なものを一つ選べ。

（1987年度地理本試験第６問問１）

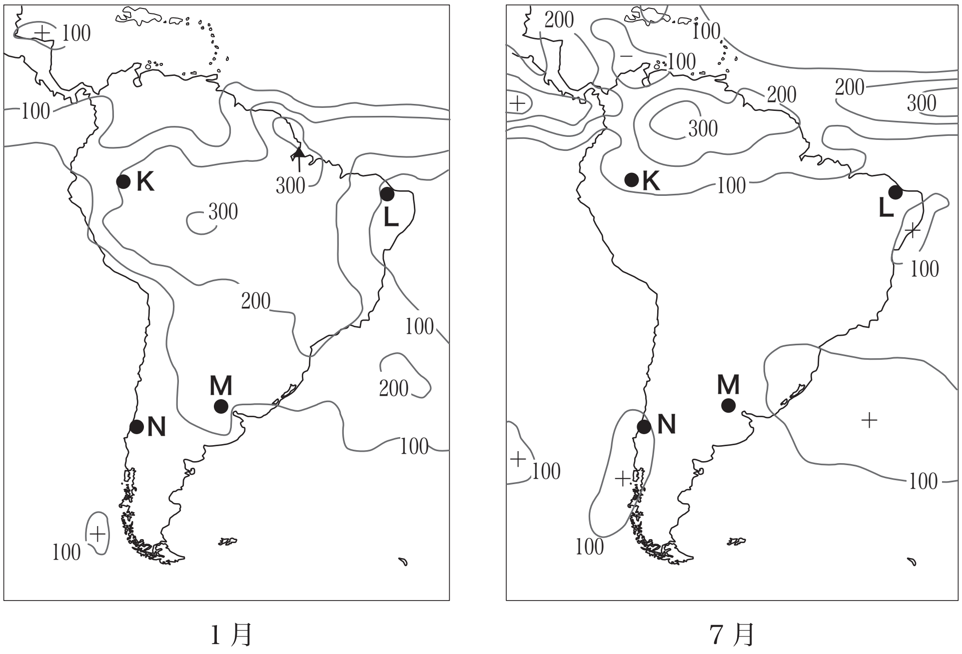


注）**ア**は海面更正をした等温線である。

①　７月の平均気温 10℃　　②　７月の平均気温 20℃　　③　７月の平均気温 30℃
④　１月の平均気温－ 10℃　⑤　１月の平均気温０℃　　⑥　１月の平均気温 10℃

［4］　南アメリカの気候は地域によって大きく異なる。次の図２は，南アメリカにおける１月と７月の月降水量の分布を示したものである。図２中の地点K～Nの気候的特徴について述べた文章として，下線部が**誤っているもの**を，下の①～④のうちから一つ選べ。

（2006年度地理Ｂ本試験第５問問２）



等値線の間隔は100mm。
統計年次は1979～2000年。NOAAの資料により作成。

図２

①　Kの月降水量は，１月に200mm，７月に100mm以上である。ここで１年中降水量が多いのは，<u>赤道低圧帯の影響である</u>。

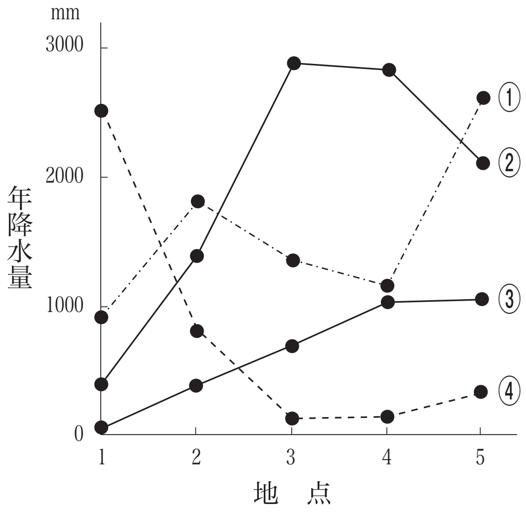
②　Lの月降水量は，１月も７月も100mm未満である。ここで１年中降水量が少ないのは，<u>沖合いの寒流と中緯度高圧帯の影響である</u>。

③　Mの月降水量は，１月に100mm以上，７月に100mm未満である。ここで１月に降水量が多くなるのは，<u>前線や低気圧の影響である</u>。

④　Nの月降水量は，１月に100mm未満，７月に100mm以上である。ここで７月に降水量が多くなるのは，<u>偏西風帯が北上する影響である</u>。

［５］ 気候には，緯度・地形・海流等の影響を受けた地域差が認められる。次の図２中の①～④は，南アメリカ大陸を示した図３中のＫ～Ｎのいずれかのルートについて，ルート上の５地点における年降水量を表したものである。ルートＮに該当するものを，図２中の①～④のうちから一つ選べ。

（2005年度地理Ｂ本試験第１問問３）



『世界気候表』により作成。

図２

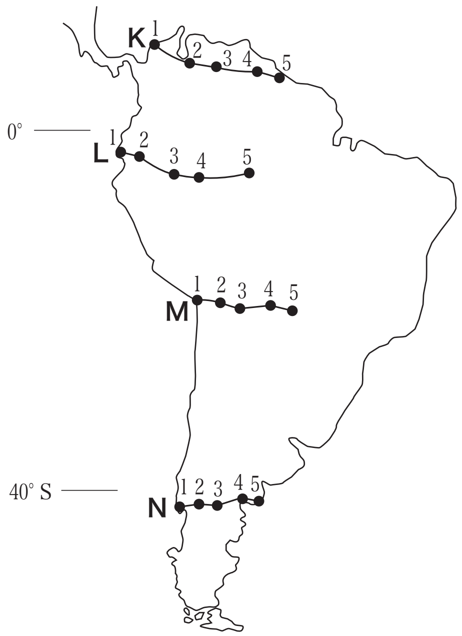
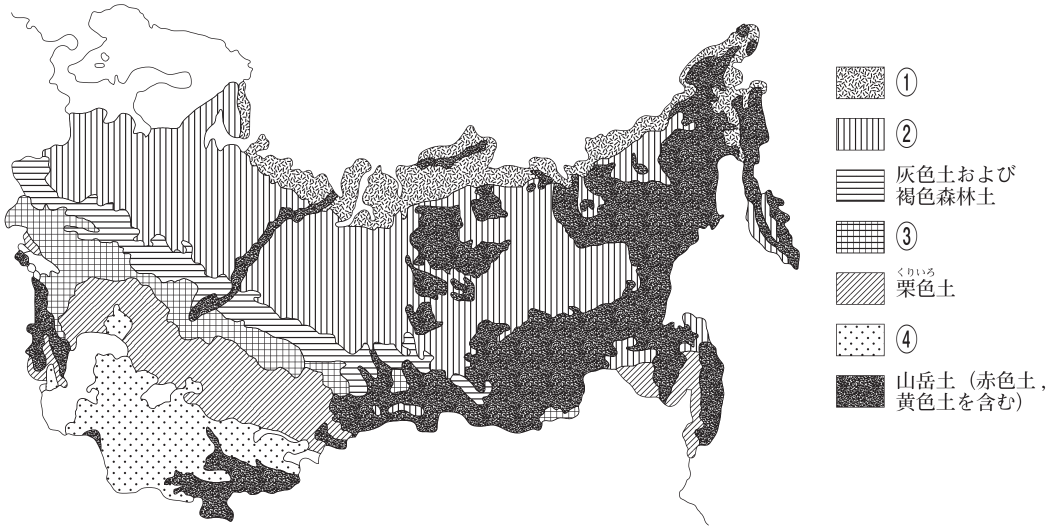


図３

［6］　次の図３は，ユーラシア大陸北部とその周辺地域における土壌について示したものであり，凡例中の①～④は砂漠土，チェルノーゼム（黒色土），ツンドラ土，ポドゾルのいずれかである。チェルノーゼムに該当するものを，図３中の①～④のうちから一つ選べ。

（2005年度地理Ａ本試験第１問問５）

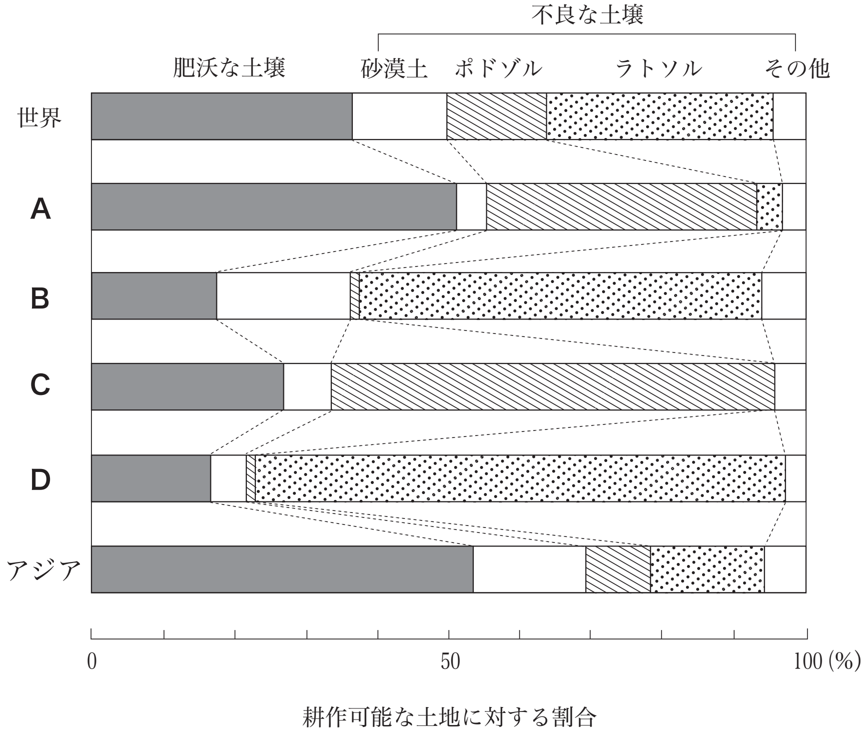


Oxford Economic Atlas により作成。

図３

［７］　次の図３は，世界の耕作可能な土地のうち，肥沃な土壌と不良な土壌（砂漠土，ポドゾル，ラトソルなど）の割合を地域別に示したものである。図３中のＡ～Ｄ地域は，アフリカ，北アメリカ，南アメリカ，ヨーロッパのいずれかである。Ｄ地域に該当するものを，下の①～④のうちから一つ選べ。ただし，各地域の中には旧ソ連は含まない。

（1998年度地理Ｂ本試験第５問問５）



耕作可能な土地とは，現在の農業技術で作物を栽培できる土地をさす。
「世界の食料問題」などにより作成。

図３

① アフリカ
② 北アメリカ
③ 南アメリカ
④ ヨーロッパ

［８］　次の**カ**～**ク**と**サ**～**ス**は，図１中の**Ｐ**～**Ｒ**のいずれかにおける土壌とそこで行われる農業形態をそれぞれ示している。**Ｐ**と**Ｑ**に広くみられる土壌と農業形態の組合せとして正しいものを，下の①～⑨のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

（2002年度地理Ｂ追試験第１問問２）

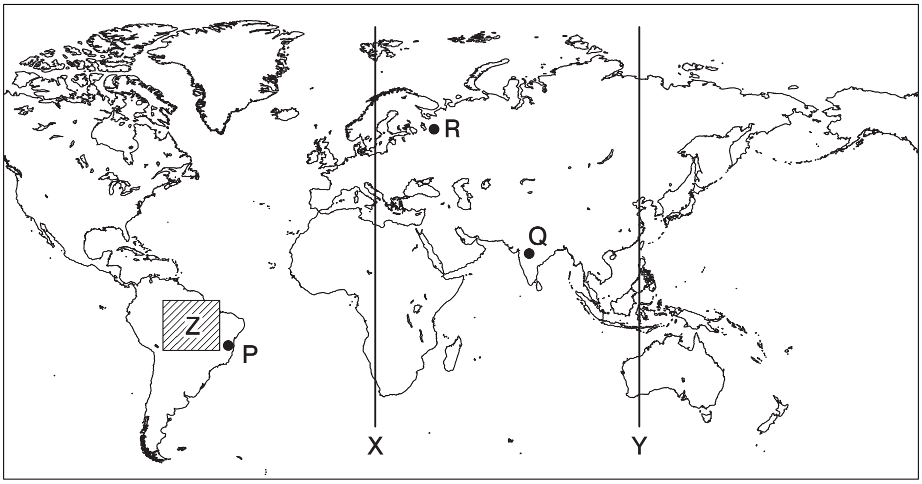


図１

＜土壌＞

カ　玄武岩の風化によって生成された，肥沃な黒色土壌

キ　鉄やアルミニウムが残留する，有機物の乏しい赤色土壌

ク　化学成分が溶けだした，肥沃度の低い酸性の灰白色土壌

＜農業形態＞

サ　プランテーション農業

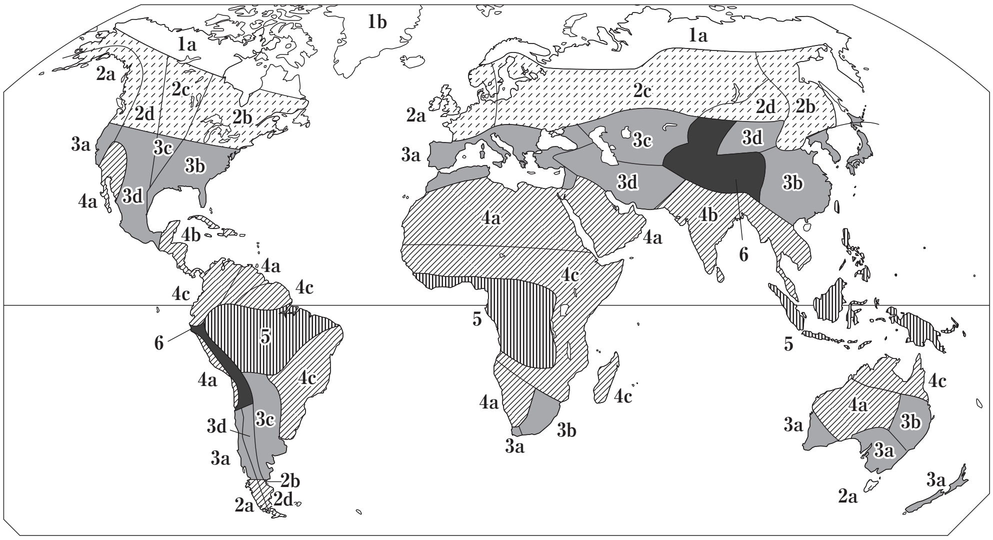
シ　混合農業

ス　集約的畑作農業

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
土壌	カ	カ	カ	キ	キ	キ	ク	ク	ク
農業形態	サ	シ	ス	サ	シ	ス	サ	シ	ス

［9］(1)　図１は，世界を気温によって大別し，その中を降水量・地形で細分した地域区分である。ユーラシア大陸の３ａ・３ｂの各地域に分布する特徴的な植生の組合せとして最も適当なものを，次の表１中の①～⑥のうちから一つ選べ。ただし，表１において，A：オリーブなどの硬葉樹林，B：カシなどの照葉樹林，C：長草草原，である。

（1997年度地理Ｂ追試験第１問問２・３）



ハーバートソンの図を簡略化。

図１

表１

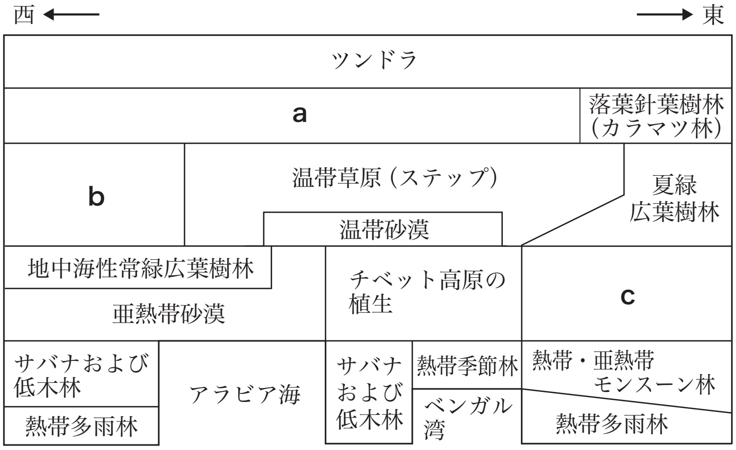
	①	②	③	④	⑤	⑥
３ａ	A	A	B	B	C	C
３ｂ	B	C	A	C	A	B

(2)　図１中の２ｃ・３ｃ地域に分布する土壌として適当でないものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

①　チェルノーゼム　　②　パンパ土　　③　プレーリー土　　④　レグール土

［10］　次の図３は，ユーラシア大陸とその周辺地域における植生の分布を模式的に示したものである。図３中の**ａ**～**ｃ**の各植生帯での代表的な樹種は，下の**タ**～**ツ**のいずれかである。**ａ**～**ｃ**と**タ**～**ツ**の組合せとして正しいものを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2002年度地理Ｂ追試験第１問問３）



林　一六『植生地理学』による。一部改変。

図３

タ　シイ・カシ

チ　ブナ・カシワ

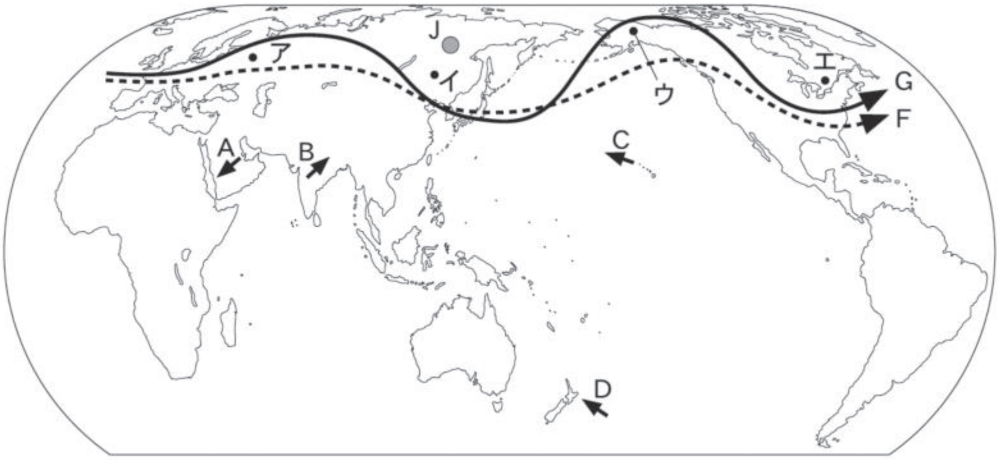
ツ　モミ・トウヒ

	①	②	③	④	⑤	⑥
a	タ	タ	チ	チ	ツ	ツ
b	チ	ツ	タ	ツ	タ	チ
c	ツ	チ	ツ	タ	チ	タ

第７講
海流・土壌・植生［確認問題］

［**1**］　図**1**中の**J**の地域でみられる気候と土壌，分布する森林の特徴を述べた次の文章中の下線部①～④のうちから，**適当でないもの**を一つ選べ。

（2020年度地理Ｂ追試験第１問問４）



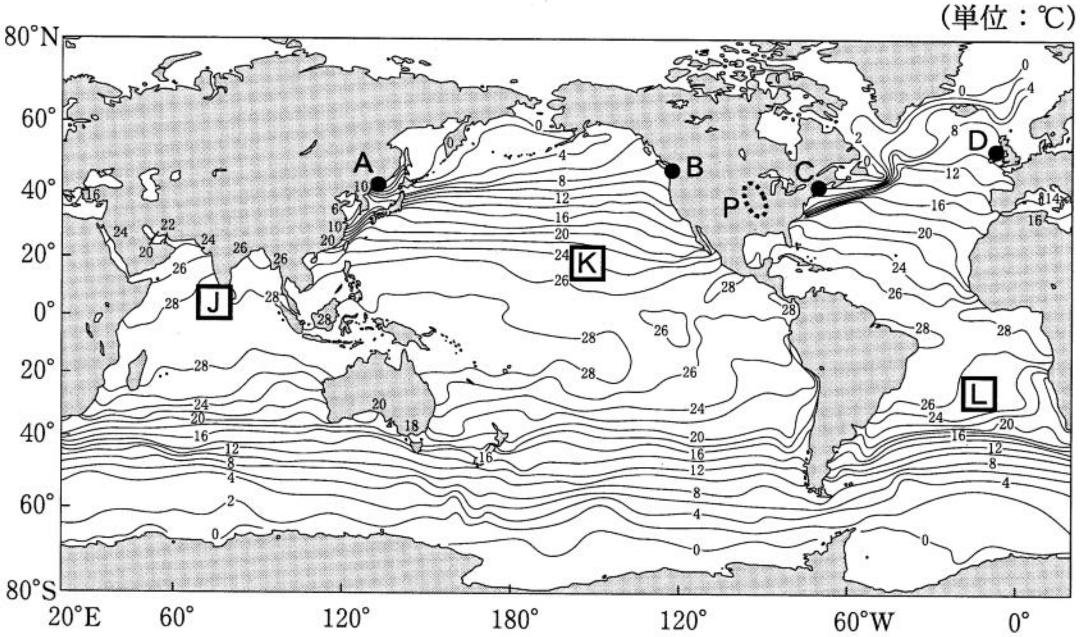
NOAAの資料などにより作成。

図**1**

Jの地域は，大河川の流域に位置し，平坦な地形がひろがっている。気温が冬季には大きく低下し，気温の①年較差は40℃を超える。降水量は②夏に多く冬に少ない。**J**の地域の森林内の土壌は，地表面に堆積する有機物層の分解が遅く，③褐色森林土となっている。こうした気候と土壌の条件に合う樹種は限られ，この地域では，主に④針葉樹林（タイガ）が分布する。

［2］　図１中に示した海水温の分布と，それに関連した現象について述べた文として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。

（2013年度地理Ｂ追試験第１問問２）



海洋部分の等値線は，２月の海水温（表面水温）。
『理科年表』により作成。

図１

①　主に太平洋赤道海域の中部から東部において，海水温が平年より高い状態が続く現象のことを，エルニーニョ現象という。

②　大西洋北部の北アメリカ沿岸部には潮境（潮目）が存在し，海水温の急激な変化がみられる。

③　南回帰線付近の南アメリカ大陸周辺では，南極近海から流れ込む寒流の影響を受ける東側沖合の方が，西側沖合よりも海水温が低くなっている。

④　ヨーロッパの気候が緯度の割には温暖である理由の一つとして，大西洋北部における海水温の高さがあげられる。

［３］　降水量の少ない地域や乾季をもつ地域の地形・植生・土壌について述べた文として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。

（2012年度地理Ｂ追試験第１問問５）

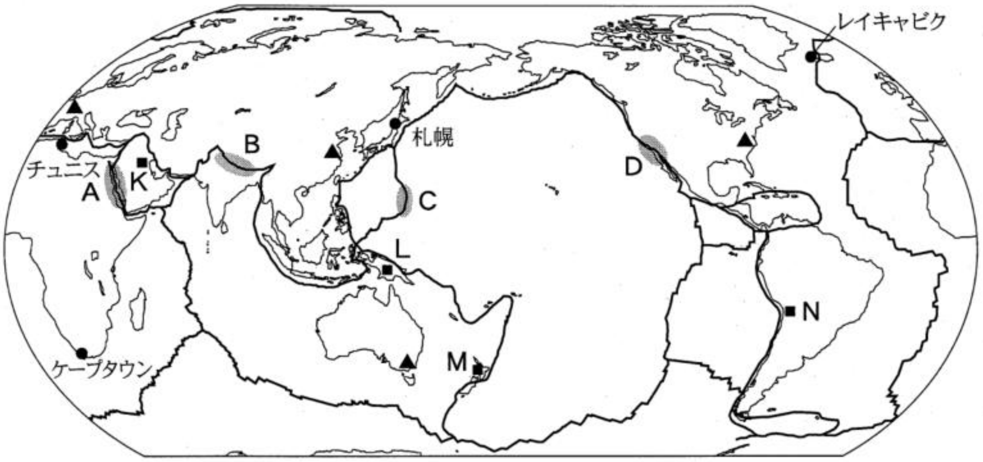
①　乾燥地域に多くみられる砂丘は，主に風による侵食・運搬・堆積の作用でつくられる。

②　砂漠には，地面が砂だけでなく，小石や岩のかけらに覆われるものや岩盤が露出したものもある。

③　サバナ気候下の植生には，乾季に葉や茎などが枯れる草原のほか，深い根と肉厚の葉をもつ低木林もみられる。

④　ステップ気候下では，落葉樹林に由来する腐植により，湿潤地域より肥沃な土壌になりやすい。

［４］　土壌は，気候や植生，岩石・堆積物，地形などの影響を受けて生成され，このうち気候および植生による影響を強く受けた土壌を成帯土壌とよぶ。図**１**中に▲で示した４地点に共通する成帯土壌の特徴を説明した文として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。　　（2012年度地理Ｂ本試験第１問問４）



United States Geological Survey の資料などにより作成。

図**１**

①　鉄やアルミニウムの酸化物が集積した赤色の土壌。

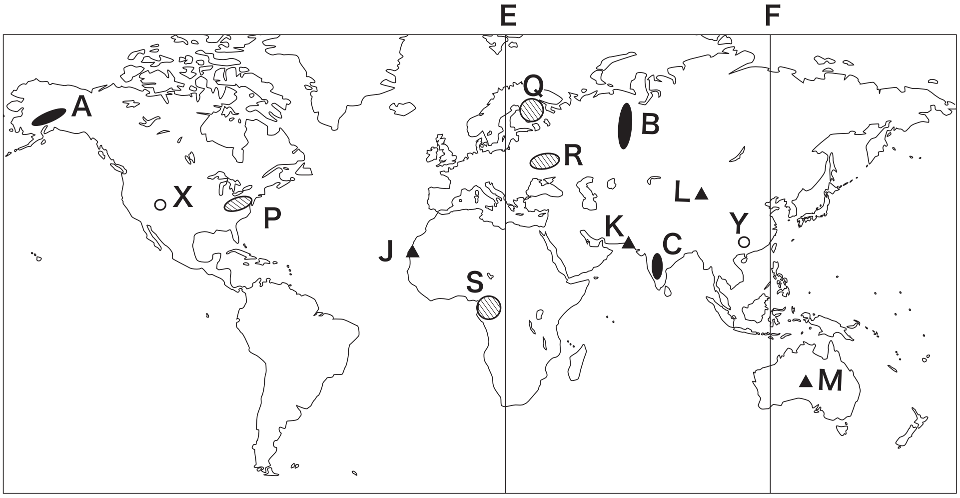
②　表層に腐植層をもち，中性からやや酸性を示す褐色の土壌。

③　貧弱な植生のため，腐植層の発達が悪い土壌。

④　有機物の分解が遅く，水の移動による溶脱がすすんだ灰白色の土壌。

［5］　図１中のＰ～Ｓでみられる土壌の特徴と成因を述べた文として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。

（2015年度地理Ｂ本試験第１問問４）



北緯 80 度～南緯 60 度の範囲を示す。

図１

① Ｐでは，腐植の集積や，風化作用にともない，褐色の土壌が形成される。

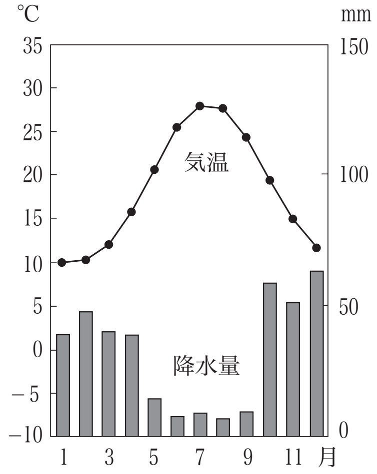
② Ｑでは，鉄分の溶脱が進み，灰白色の土壌が形成される。

③ Ｒでは，水分の蒸発により塩類が集積し，灰色の土壌が形成される。

④ Ｓでは，鉄やアルミニウムが集積し，赤色の土壌が形成される。

［６］ 植生の分布には，気候条件が密接に関係する。次の図４は，ある地点の月平均気温と月降水量を示したものである。このような気候条件下で分布する代表的な植生の説明として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。

（2011年度地理Ｂ追試験第１問問６）



『理科年表』により作成。

図４

① アカシア・バオバブなどからなるサバナ林がみられる。

② オリーブ・コルクガシなどからなる硬葉樹林がみられる。

③ シイ・カシなどからなる照葉樹林がみられる。

④ モミ・ツガなどからなる針葉樹林がみられる。

〈***Note***〉

第８講
大地形

大地形ではポイントになる場所が限られている。プレートテクトニクス理論について深いところは問われない反面，火山や海溝，海嶺の位置などは徹底的に出題される。「南アジアに火山はない」というような決まりきったトピックが頻出であるのもこのジャンルの特徴。

８．１　大地形

安定陸塊・・・６億年以上前の先カンブリア代に造陸運動を受けて形成。卓状地・楯状地・構造平野などがあり，平原状の地形。鉄鉱石資源を多く埋蔵する。ゴンドワナランド（かつて地球上に存在した古大陸）である南アメリカ大陸，アフリカ大陸，アラビア半島，インド半島，オーストラリアの過半は安定陸塊。

古期造山帯・・・２～３億年前の古生代の造山運動によって形成された山脈で，長期間の侵食によって丘陵状の地形となっている。石炭資源を多く埋蔵する。アメリカ合衆国東部のアパラチア山脈やオーストラリア東部のグレートディバイディング山脈など。

新期造山帯・・・数千万年前の中生代後期から新生代に造山運動を受けて形成された急峻な山脈。変動帯であり，地震が頻発する。火山がみられる地域も。アルプス＝ヒマラヤ造山帯と環太平洋造山帯の２つの系統からなる。

＜チェック！＞

ヨーロッパ大陸における鉄鉱石と石炭の産出地域をチェックしよう。鉄鉱石はスウェーデン北部（バルト楯状地）。石炭は，ドイツ西部やポーランド。ドイツ西部のルール工業地帯は炭田上に成立した鉄鋼業地域。ポーランドは火力発電に依存する割合が高い石炭国。

８．２　大地形で注意するべき地域

・南アジア；インドの北側にヒマラヤ山脈やチベット高原など極めて高峻な地形。

・アフリカ大陸；全体的には安定陸塊だが，北西部に新期造山帯，南東部に古期造山帯。

・ロシア；全体的には安定陸塊の平坦な地形だが，中央部のウラル山脈は古期造

山帯で，南部のカフカス山脈や太平洋沿岸部などは新期造山帯。

・ヨーロッパ；「北低南高」。北部は安定陸塊や古期造山帯で全体的に平坦な地形。河川や運河などの内陸水運も発達。南部は新期造山帯で急峻な地形。河川も急流で（しかも地中海性気候で季節による流量の変化も大きい）航行に適さない。

・北アメリカ大陸；西部で新期造山帯（ロッキー山脈など），東部で安定陸塊（カナダ楯状地など）と古期造山帯（アパラチア山脈）。

・カリブ海；新期造山帯。火山島や弧状列島，海溝など。

・南アメリカ大陸；古期造山帯がほとんど存在しない。石炭の埋蔵も少ない。太平洋沿岸が新期造山帯（アンデス山脈），残りが安定陸塊。

・オセアニア；オーストラリア大陸は安定陸塊で東部に古期造山帯。ニュージーランドは新期造山帯の火山国。

＜チェック！＞

南アメリカ大陸の東部は安定陸塊であるが，低緯度と中緯度とで地形の特徴が異なる。低緯度のアマゾン川流域は低地で，内陸部まで標高は数百ｍ程度。中緯度はブラジル高原で，標高1000ｍほどの高地ではコーヒーの栽培が行われる。

８．３　特殊な大地形

これらの大地形には含まれない特殊な地形も存在する。

アフリカ大地溝帯・・・安定陸塊であるアフリカ東部には断層が走り，巨大な地溝帯となっている。大地が裂ける変動帯であり，高原や火山，断層湖などもみられる。またアフリカ大陸とアラビア半島の間の紅海はこの地溝帯の延長上に形成されたもの。広がりつつある。

アイスランド・・・大西洋中央海嶺上に形成された火山島。寒冷な氷河国であるが，地熱を利用した発電や暖房，野菜栽培なども行われている。

［知っておこう］

安定陸塊は基本的に低地と考えていいが，いくつかの例外がある。アフリカ大陸の大部分は安定陸塊（卓状地）であるが，全体として高原状の地形であり，200m未満の低地の占める面積割合が低い。ブラジルは北部のアマゾン川流域は低地であるが，南部のブラジル高原は安定陸塊ではあるものの，標高1000mほどの高地であり，首都ブラジリアも位置している。

８．４　火山の位置

原則として「火山＝新期造山帯」だが，必ずしも一致しないので注意。

環太平洋造山帯においては，ほぼ全域でみられる。カムチャツカ半島，日本列島，フィリピン，インドネシア，ニュージーランド，アンデス山脈，アラスカ州など。

また環太平洋造山帯から分岐したカリブ海の島々にも火山は多く分布。

アルプス＝ヒマラヤ造山帯では，イタリアやインドネシアを除きほとんど火山はみられない。世界最高峰を含むヒマラヤ山脈も褶曲(しゅうきょく)山脈であり，火山ではない。地震が頻発するトルコやイランにも火山はほとんどみられない。

新期造山帯と関係ない火山や火山島は重要。

・キリマンジャロ山・・・アフリカ東部。アフリカ大地溝帯に沿う。

・アイスランド島・・・大西洋中央海嶺上に形成された火山島。

・ハワイ諸島・・・プレートの中央部(ホットスポット)。

＜チェック！＞

低地国バングラデシュの特徴について整理しよう。ガンジス川のデルタに国土が位置し，人口密度や耕地率は高いが，水害の被害は大きい。インド洋に面し夏季にはサイクロンに見舞われ，高潮(低気圧による海面上昇)により洪水が発生する。

８．５　プレートテクトニクス

地球の表面は十数枚のプレートによって覆われており，それが移動することによってさまざまな地形が形成されている。それぞれのプレートの境界は変動帯となっており，地震が頻発する。

・広がる境界・・・地下のマントルで新しくプレートが形成され，それが表面に出てくるところ。海嶺(２列の巨大な海底山脈)となっている。東アフリカ大地溝帯も広がる境界の一種。

・狭まる境界・・・大陸プレートと大陸プレートのぶつかる境界部には褶曲山脈が形成されている(ヒマラヤ山脈などアルプス＝ヒマラヤ造山帯に多い)。海洋プレートが大陸プレートの下にもぐり込む境界部に沿って海溝が形成され，それと平行して火山帯も形成されている(日本列島など環太平洋造山帯に多い)。

・ずれる境界・・・カリフォルニア州のサンアンドレアス断層など。

８．６　海嶺と海溝

・海嶺・・・プレートの広がる境界である海底山脈。大西洋中央海嶺，中央インド洋西部海嶺，東太平洋海嶺など。とくにアイスランド島は海嶺上に形成された溶岩台地。

・海溝・・・海洋プレートと大陸プレートの狭まる境界に形成された深度のとくに大きい溝状の海底地形。太平洋の縁辺を周回しており，千島・カムチャツカ海溝，日本海溝，フィリピン海溝，ケルマデック海溝，ペルー海溝など。太平洋以外は少なく，インド洋のスンダ海溝（スマトラ島の南側），大西洋のプエルトリコ海溝など。

［知っておこう］

プレートの狭まる境界に形成される地形は２種類。海洋プレートと大陸プレートの境界は，前者が後者の下に潜り込むことによって海溝が形成される。最も深いマリアナ海溝で深度10000 mを超える。一方，大陸プレートと大陸プレートの境界には，巨大な褶曲山脈が形成される。ヨーロッパ最高峰を擁するアルプス山脈や標高8000 mを超えるヒマラヤ山脈など。

８．７　海底地形

・大陸棚・・・水深200 mまでの浅い海底で，陸地に隣接した位置にある。海藻やプランクトンなど豊富で，重要な漁場ともなる。広く大陸棚がみられるのは東シナ海，タイランド湾，ペルシャ湾，北海など。

・大陸斜面・・・陸地・大陸棚と大洋底をつなぐ巨大な海底の斜面。

・大洋底・・・深度4000 m程度の平坦な海底。海洋中で最も広い面積を占める深海底である。

＜チェック！＞

練習問題［８］について，図について高度ごとに色分けをしながら考えてみよう。陸地を「赤」，大陸棚を「グレー」（すでに塗られているが），200～4000 mを「薄い青」，4000 m以深を「青」で着色する。Qの位置する付近は盛り上がっているのか，それとも凹んでいるのか。

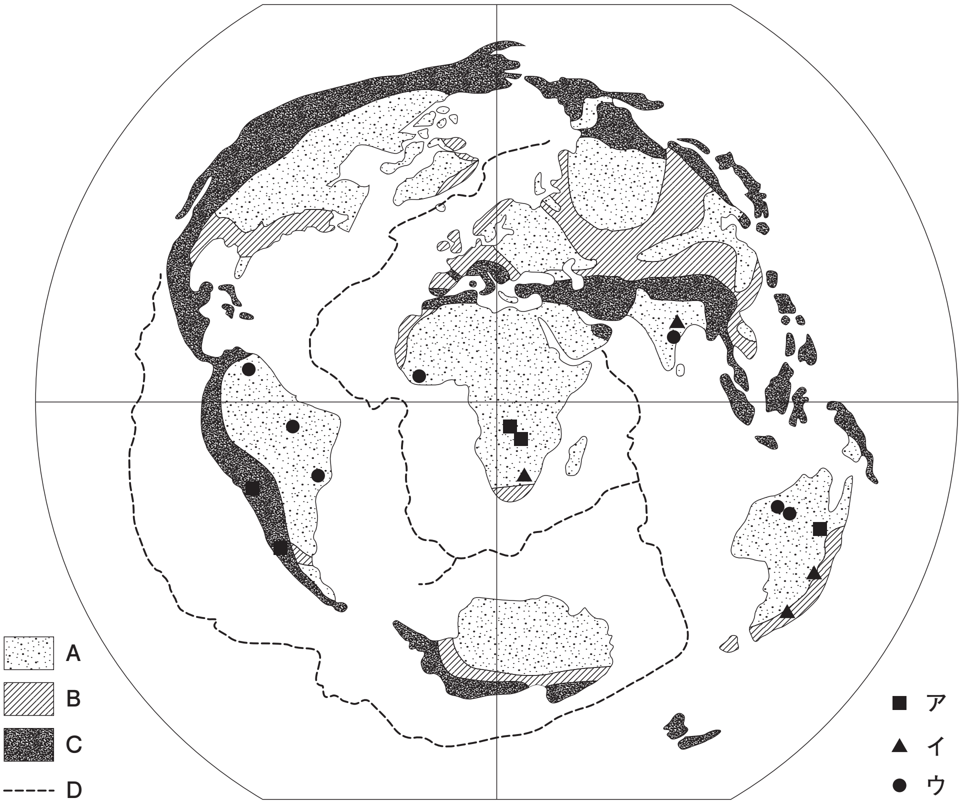
ワンポイント

　近年，大陸棚を始めとする浅い海域が取り上げられるケースが多い。チェックしておこう。とくに重要なのはマラッカ海峡。マレー半島とスマトラ島の間でシンガポールが面している。タイランド湾から連続する浅い海域で，タンカーなどの往来も多い海上交通の要衝となっている。海難事故のリスクも多いことから，水深の深いロンボク海峡（ジャワ島の東に隣接するバリ島の東側）を通る航路も重要性を増している。両海峡の水深を比較しておこう。

第８講
大地形［練習問題］

［１］　次の図１は，世界の大地形の分布を示したものであり，Ａ～Ｄは，安定陸塊，海嶺，古期造山帯，新期造山帯のいずれかである。古期造山帯に該当するものを，下の①～④のうちから一つ選べ。

（2005年度地理Ｂ本試験第１問問１）



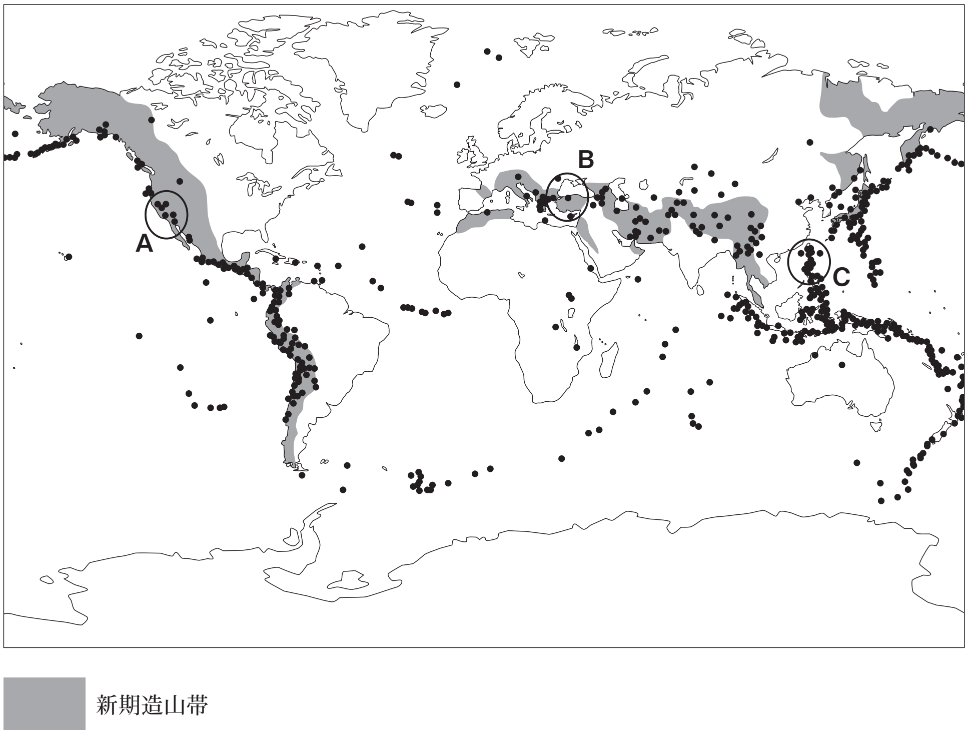
赤道上，東経 20 度の地点を中心にした正距方位図法。
貝塚爽平ほか編『日本の平野と海岸』などにより作成。

図１

①　Ａ　　②　Ｂ　　③　Ｃ　　④　Ｄ

［２］　図１中には，世界の新期造山帯の分布が示されている。新期造山帯について説明した文として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

（2007年度地理Ｂ本試験第１問問１）



Exploring the Dynamic Earth により作成。

図１

① 石炭や石油を多く産出する楯状地がみられる。

② 広大な低地の中に基盤岩が隆起した卓状地がみられる。

③ 地殻変動を受けた後に侵食された構造平野がみられる。

④ 中生代後期以降に形成された大山脈や弧状列島がみられる。

［3］　次の図３中の**カ**～**ク**は，図１中の**E**～**G**のいずれかの線に沿った地形断面図である。**カ**～**ク**と**E**～**G**との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。ただし，高さは強調して表現してある。

（2010年度地理Ｂ追試験第１問問２）

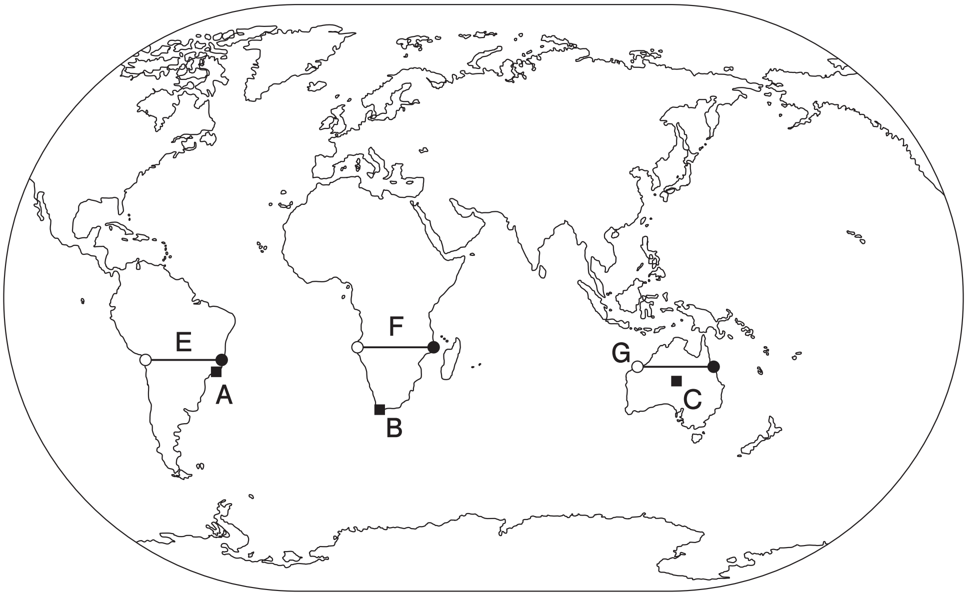


図１

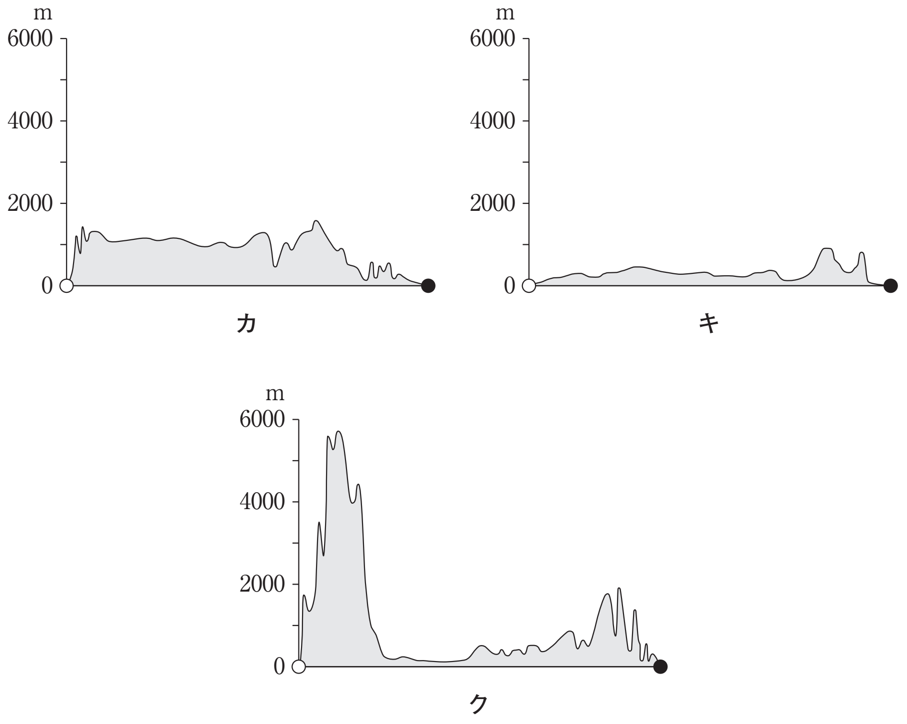


図３

	①	②	③	④	⑤	⑥
カ	E	E	F	F	G	G
キ	F	G	E	G	E	F
ク	G	F	G	E	F	E

［4］(1)　次の図4は，南アジア・中央アジア地域の主要な山脈の分布を示したものである。図中のa山脈について，その名称(ア〜ウ)と成因を述べた文(X・Y)の正しい組合せを，次の①〜⑥のうちから一つ選べ。

(1993年度地理本試験第1問問7)

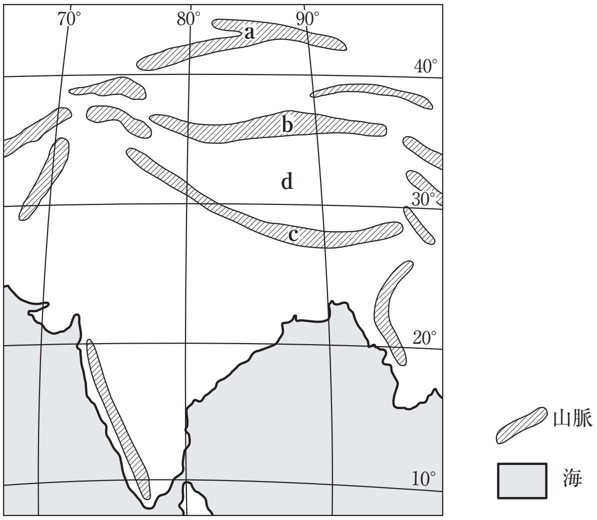


図4

名称

ア　クンルン(崑崙)山脈

イ　テンシャン(天山)山脈

ウ　ヒマラヤ山脈

成因

X　古生代の造山運動によって形成された山脈が，一度侵食された後に，新生代第三紀以後の造山運動の結果，第三紀後半から第四紀に隆起して再び山脈になった。

Y　中生代以前には海であったが，新生代第三紀以後の造山運動の結果，第三紀末から第四紀に急速に隆起して山脈が形成された。

	①	②	③	④	⑤	⑥
名称	ア	ア	イ	イ	ウ	ウ
成因	X	Y	X	Y	X	Y

（２）　図４中のｂ山脈とｃ山脈にはさまれたｄ地域の自然環境の説明として正しいものを，次の文①～④のうちから一つ選べ。

（同・問８）

①　寒冷・乾燥気候に支配されており，湖も数多くみられる。

②　過去の活発な火山活動によって，火山岩が広い範囲をおおっている。

③　乾燥気候に支配されており，砂が広い範囲に堆積している。

④　湿潤気候のもとにあり，河川で運ばれた多量の土砂が厚く堆積している。

［5］ 次の**ア**～**ウ**の文は，図1中の**F**～**H**のいずれかの地域で発生した自然災害について述べたものである。**ア**～**ウ**と図1中の**F**～**H**との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2009年度地理Ｂ本試験第１問問４）

ア　マグニチュード７以上の地震がたびたび発生し，多くの死傷者がでた。
イ　火山の噴火によって山体を覆う氷河が融解し，洪水による被害が生じた。
ウ　火山の噴火によって溶岩流が発生し，麓の町が被害を受けた。

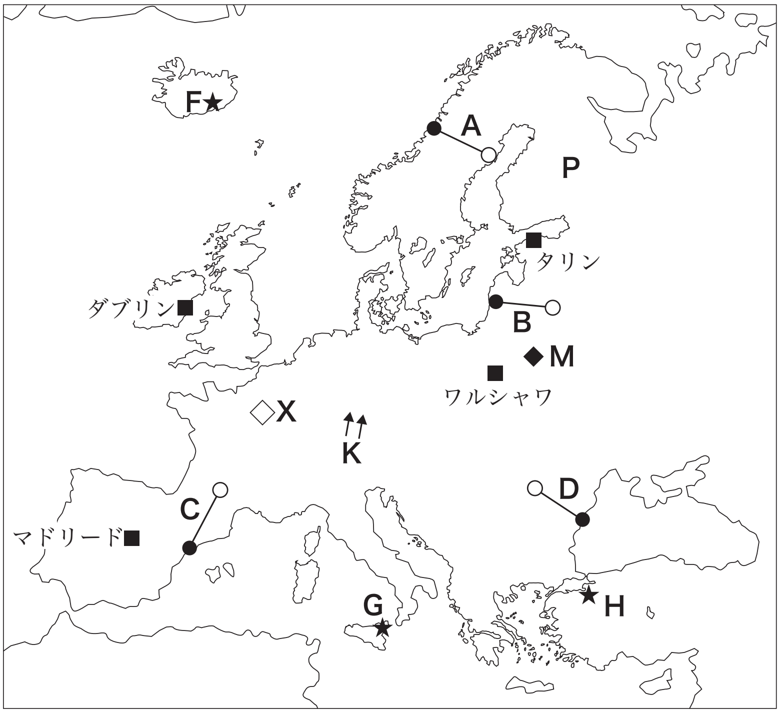
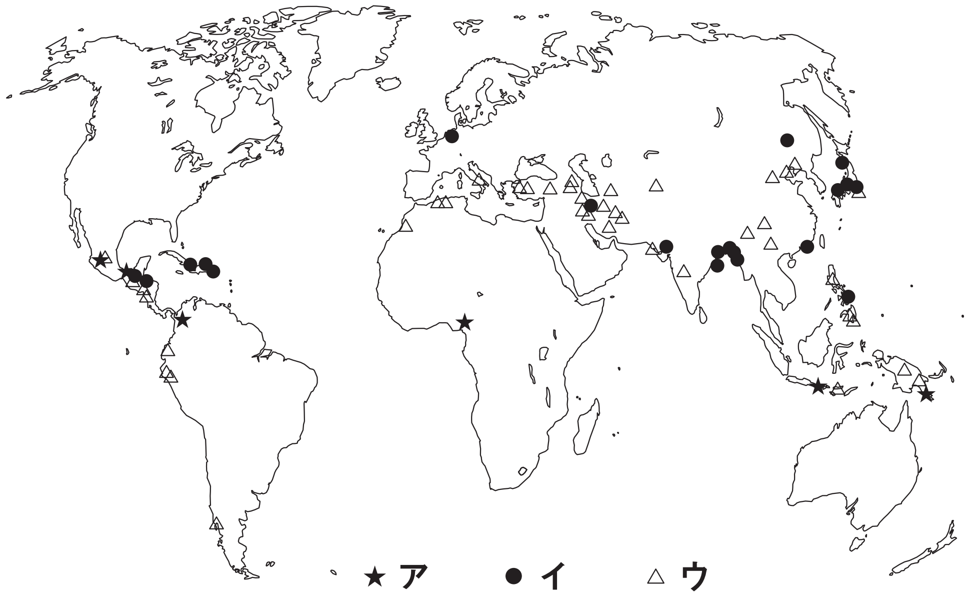


図１

	①	②	③	④	⑤	⑥
ア	F	F	G	G	H	H
イ	G	H	F	H	F	G
ウ	H	G	H	F	G	F

［６］　次の図１は，1946年～1995年（＊）に発生し，死者・行方不明者を1000人以上出した自然災害の分布を示している。図１中の**ア～ウ**は火山災害，地震災害，風水害のいずれかである。**ア～ウ**の組合せとして正しいものを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2000年度地理Ａ追試験第２問問１）



＊風水害は1945年～1992年。一部省略。
『災害の事典』などにより作成。

図１

	ア	イ	ウ
①	火山災害	地震災害	風水害
②	火山災害	風水害	地震災害
③	地震災害	火山災害	風水害
④	地震災害	風水害	火山災害
⑤	風水害	火山災害	地震災害
⑥	風水害	地震災害	火山災害

［7］ 次の図１に描かれたA～Dの海域について述べた文として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。

（2001年度地理Ｂ本試験第１問問１）

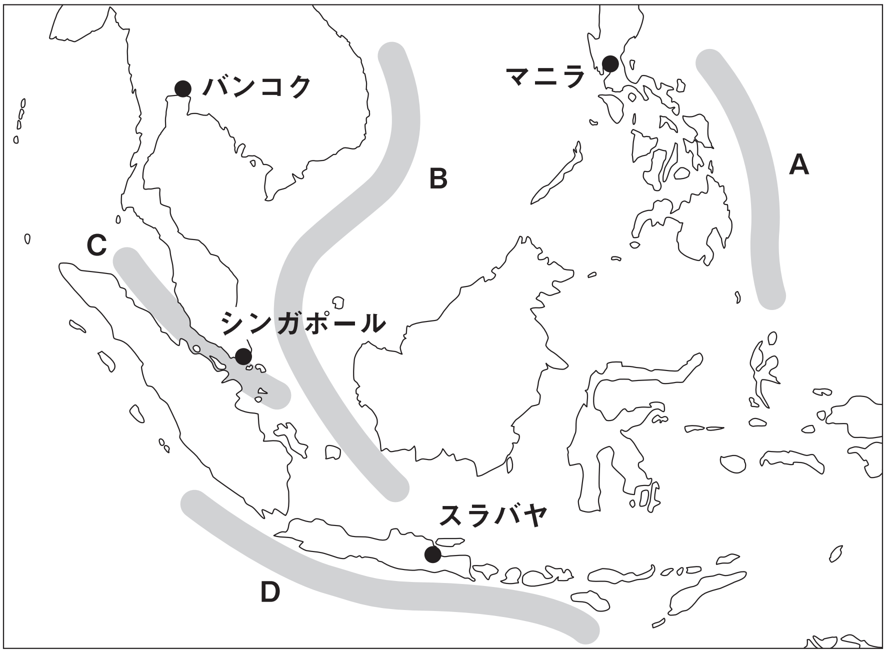


図１

① Aは海嶺であり，大陸棚のように水深が浅く，好漁場となっている。

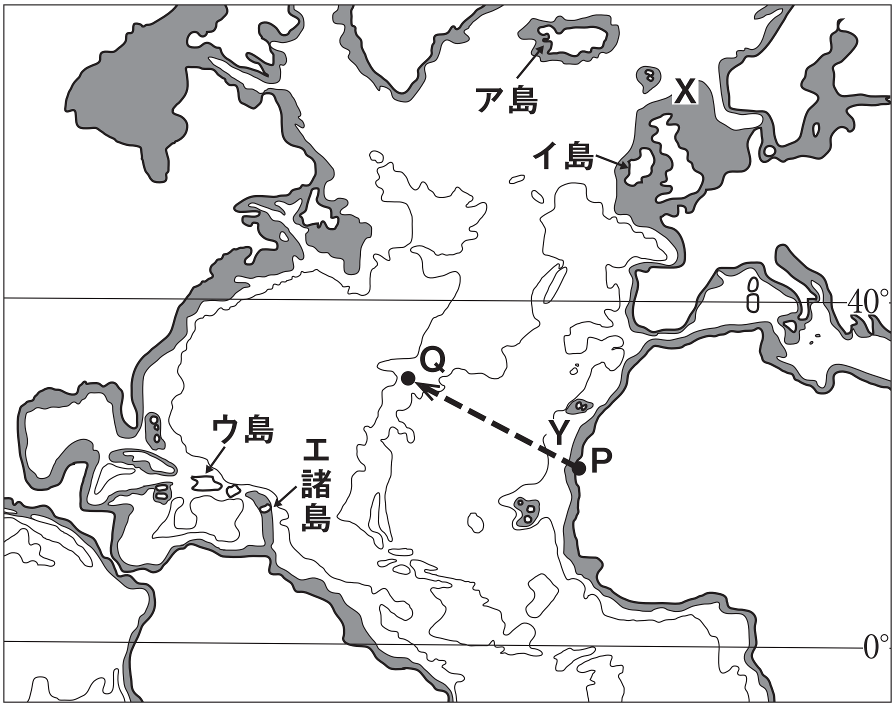
② Bは海溝で，そこを震源地とする地震による津波が周辺の島々を襲い，島の海岸付近に大災害をもたらしたことがある。

③ Cが海溝で，日本へ原油を運ぶ大型タンカーが行き来する重要な航路の一部となっている。

④ Dの海溝の北側に並行する列島では，火山活動が活発で，大きな火山災害が起こったことがある。

［8］　図1は大西洋とその周辺を示したものである。図1中のP点からQ点までの海底地形はどう移り変わるか。次の①～⑧のうちから，正しいものを一つ選べ。

（1990年度地理追試験第1問問1）



は水深200mまでの部分を表し，海洋中の実線は4,000mの等深線を示す。

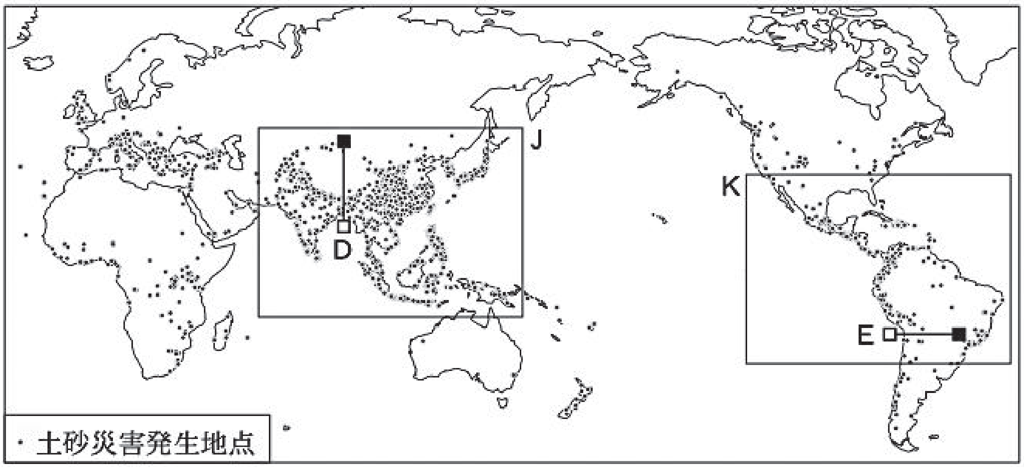
図1

① 大陸棚→大陸斜面→海嶺→大洋底
② 大陸棚→大陸斜面→大洋底→海嶺
③ 大陸棚→大陸斜面→海溝→大洋底
④ 大陸棚→大陸斜面→大洋底→海溝
⑤ 大陸斜面→大陸棚→海嶺→大洋底
⑥ 大陸斜面→大陸棚→大洋底→海嶺
⑦ 大陸斜面→大陸棚→海溝→大洋底
⑧ 大陸斜面→大陸棚→大洋底→海溝

第８講
大地形［確認問題］

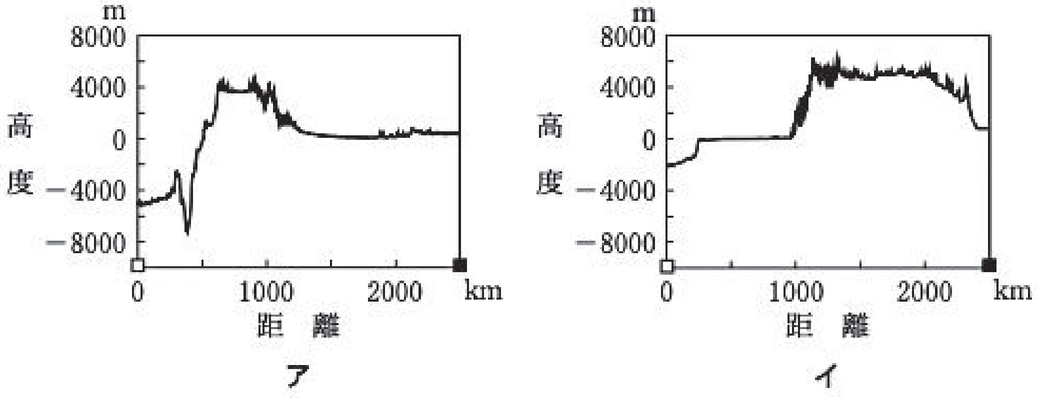
［１］　マキさんたちは，図１から「土砂災害を発生させる要因は山脈の地形的特徴にあるのではないか」という仮説を立て，世界の山脈について調べることにした。次の図２中のアとイは，図１中の線ＤとＥのいずれかに沿った地形断面である。また，下の文ＧとＨは，図１中の線ＤとＥのいずれかが横断する山脈について述べたものである。図１中の線Ｄに該当する図と文との組合せとして最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。

（2021 年度地理Ｂ追試験第１問問１）



Froude and Petley（2018）により作成。

図１



NOAA の資料により作成。

図２

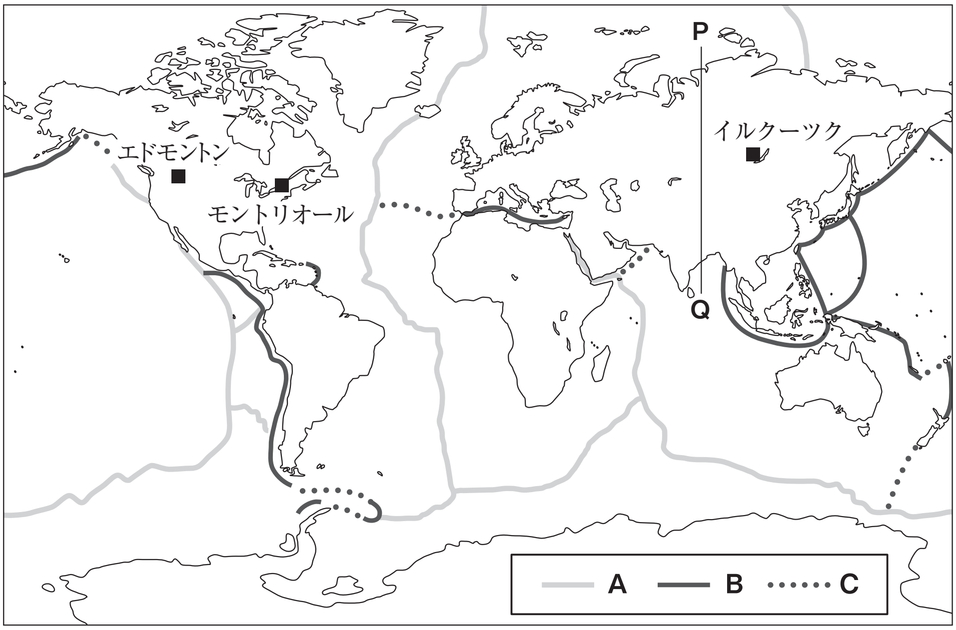
G　海洋プレートが沈み込む変動帯にあり，火山が多い。

H　大陸プレートどうしが衝突する変動帯にあり，褶曲（しゅうきょく）や断層が多い。

	①	②	③	④
図	ア	ア	イ	イ
文	G	H	G	H

［2］ 図１中のＰ－Ｑ間の断面図として最も適当なものを，次の図２中の①～④のうちから一つ選べ。ただし，海底地形は省略し，水平距離に対して垂直距離は約250倍で表現してある。

（2006年度地理Ｂ本試験第３問問２）



The Times Concise Atlas of the World などにより作成。

図１

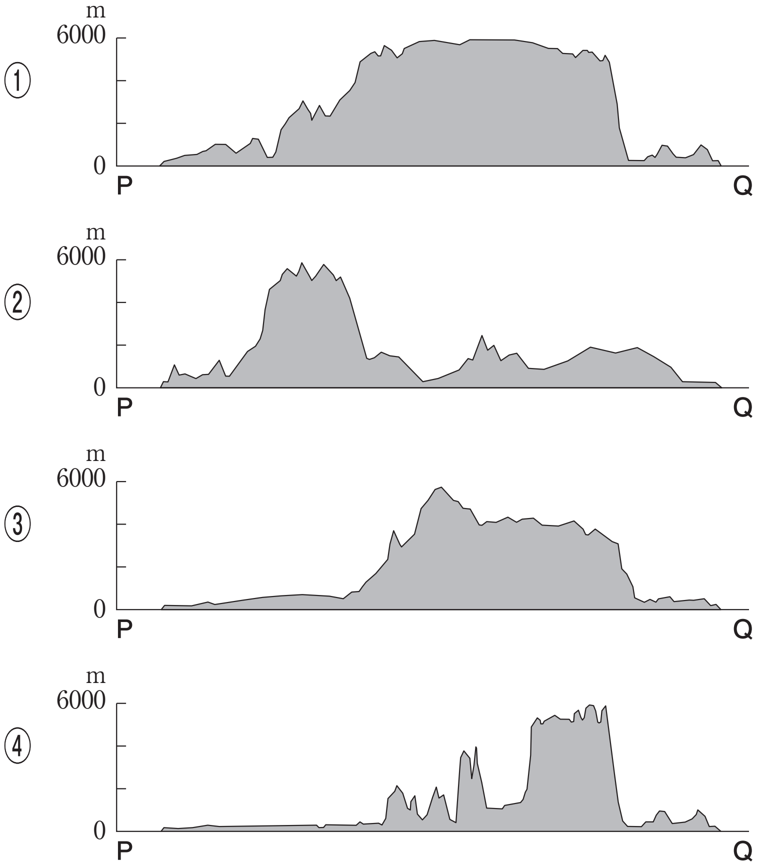


図２

［３］ ヒマラヤ山脈にみられる地形やそれに関連する事象について述べた文として**誤っているもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。

（2005年度地理Ｂ追試験第１問問２）

① 急峻な斜面が多く，侵食が活発である。
② 地殻変動が活発で，地震が頻繁に起きている。
③ 火山が多数分布し，火山噴火が多発している。
④ Ｕ字谷やカール（圏谷）が多数分布している。

［４］ 北緯50度線は，ヨーロッパとアジアの境界となるウラル山脈の南端付近を通る。このウラル山脈と同じ時代の造山運動によって形成された山脈として適当なものを，次の図３の①～④のうちから一つ選べ。

（2003年度地理Ｂ追試験第３問問３）

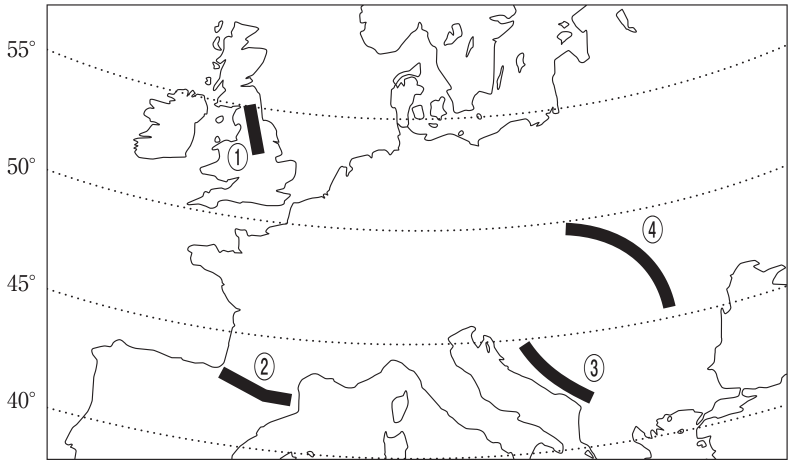


図３

［５］　図１中のＫは，地球表面のプレートの境界部に当たっている。このプレート境界の特徴とそこにみられる地形の組合せとして最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。

（2002年度地理Ａ追試験第１問問３）

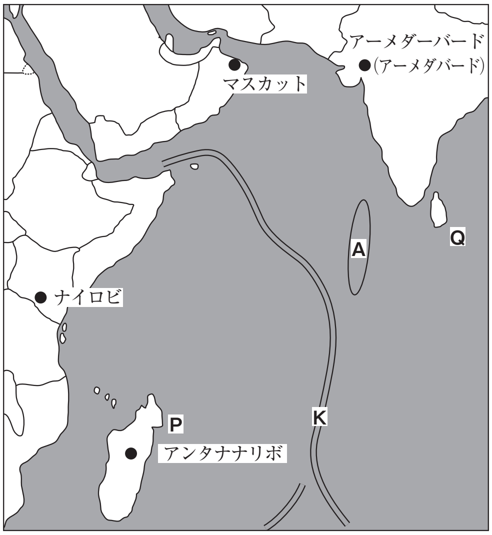


図１

	プレート境界の種類	地形
①	せばまる境界	海溝
②	せばまる境界	海嶺
③	広がる境界	海溝
④	広がる境界	海嶺

［6］ ヨーロッパ北部の大陸棚の分布とプレート境界の位置を示したものとして最も適当なものを，次の図３中の①～④のうちから一つ選べ。

（2009年度地理Ｂ本試験第１問問２）

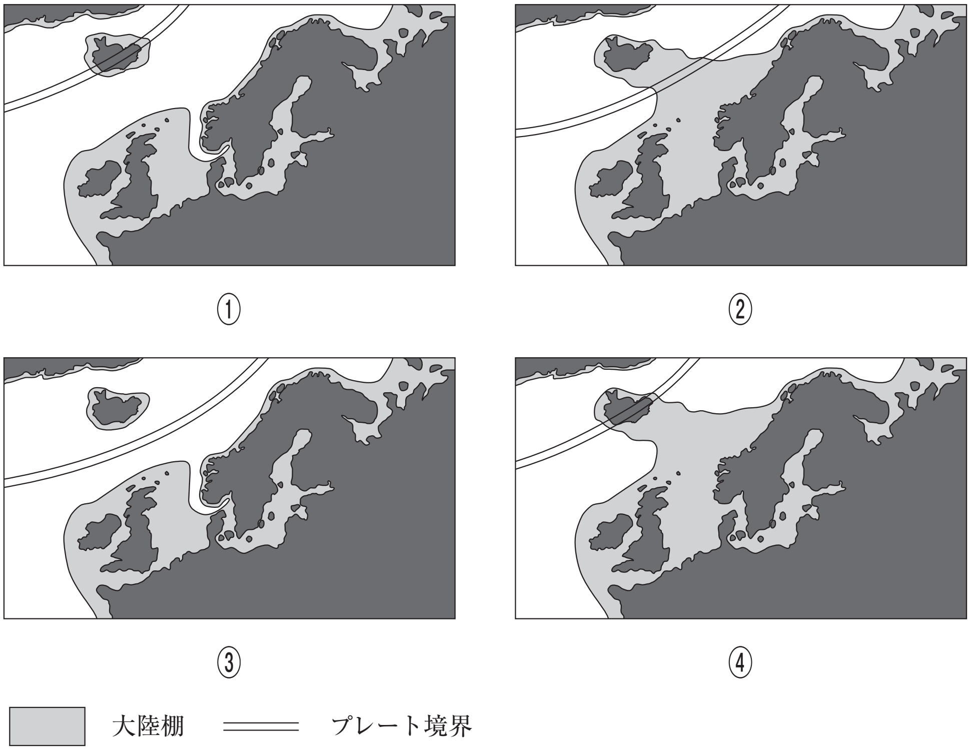


図３

第９講
特殊な地形・海岸地形

ケスタ地形や氷河地形，カルスト地形など特殊な地形について，地形図など利用して理解を深めていこう。さらに海岸地形にも特徴的なものが多くあり，それらについても整理していこう。また，人工的な地形として干拓地も取り上げた。こちらも非常に重要。

９．１　構造平野

平野は大きく「侵食平野」と「堆積平野」に分けられる。侵食平野に含まれるものが「構造平野」であり，堆積平野が「海岸平野」「台地」「沖積平野」。構造平野は安定陸塊だが，日本には安定陸塊は存在しないので，日本の平野は全て堆積平野となる。

構造平野は，ヨーロッパ平原(北ドイツ～東ロシア)，北アメリカ中央平原など。広い範囲に堆積した地層が，長い年月の間に侵食を受け，ほぼ完全に平坦になった地形。大平原。

９．２　ケスタ地形

構造平野にみられる地形。地層が硬層と軟層からなり傾斜していた場合，差別侵食されることにより，緩斜面と急崖が連続する地形が形成される。パリ盆地やロンドン盆地，北米五大湖などに典型的にみられる。**練習問題［１］**の図を通して，軟層が深く削り取られ，硬層が侵食から取り残されている様子を確認しよう。

<チェック！>

パリ盆地はケスタ地形である。斜面を利用してブドウが栽培されている。パリ盆地がブドウの栽培北限であることに注意。

９．３　氷河地形

氷河の侵食と堆積作用によって，さまざまな地形が形成される。

・Ｕ字谷・・・氷河の流動によって形成された谷。断面がＵの形となっている。

・カール(圏谷)・・・氷河によって削り取られた椀状の谷。底部は平坦となっており，集落が立地することも。

・ホルン・・・山頂付近の斜面が氷河によって侵食されることで形成される，高く尖った山頂。

・モレーン・・・氷河の末端部に形成された細長い小丘。氷河が削り取った岩屑が堆積したもの。

<チェック！>

練習問題［４］の図はわかりやすい。例えばアルプス地域にも山岳氷河によるカールが形成されているが，このカールの底のやや平坦な場所に村落があり，標高の高い緩い斜面（この図で見ると，２つのＸに挟まれた部分）にアルプがみられる。また図の地域が沈降し，Ｙの部分などに海水が進入するケースを考えてみよう。これがフィヨルドである。

９．４　フィヨルド

Ｕ字谷が沈降することによって形成される複雑な形状の海岸地形。細長く湾が陸側に入り込み，葉脈状の海岸線となる。両半球の高緯度地域にみられる。水深が十分で，波が静かなため，天然の良港となる。ノルウェーやカナダなど北半球の高緯度地域だけでなく，南アメリカ大陸やニュージーランドの南端など南半球にも分布する。

９．５　リアス海岸

河川によって侵食された谷を，その断面の形状から「Ｖ字谷」というが，それが沈降することによって形成された深い入り江を溺れ谷といい，この溺れ谷が連続する海岸地形を「リアス海岸」という。水深が十分で，波が静かなため，天然の良港となる。

スペイン北西部のリアス地方が有名だが，他には朝鮮半島南部など。

９．６　エスチュアリー

河口部分が沈降し，ラッパ状の入り江となったものが「エスチュアリー」。三角江ともいう。水深が十分なため，天然の良港となる。大西洋沿岸地域に多く，テムズ川（ロンドン），エルベ川（ハンブルク），セントローレンス川（ケベック），ラプラタ川（ブエノスアイレス）など。

９．７　カルスト地形

石灰岩の溶食地形。地中海沿岸のスロベニアのカルスト地方に典型的にみられるのでこの名称がつけられた。雨水によって表面の石灰岩が溶け，ドリーネとよばれる小凹地などが形成される。地下には鍾乳洞も。

９．８　サンゴ礁

サンゴ虫のはたらきによって，海岸の浅い海底にサンゴ礁が発達する。サンゴ礁の形成には３つの条件があり，「水温の高さ」，「十分な塩分濃度」，「透明度の高さ」である。サンゴ礁は石灰質の海底地形であり，岩礁と考えることが可能。地形図においては，温暖な海域において「隠顕岩」(＊)がみられる場合，海岸から隠顕岩までの範囲にはサンゴ礁が広がっているとみていい。満潮時には海面下となるが，干潮時には美しいサンゴ礁が海面上に現れる。
(＊)いんけんがん。海水面の高さや波浪の状態によって海面上に見え隠れする岩場。岩石海岸の沖合にみられる。一般に，海岸線から隠顕岩までの範囲を岩礁と考えていい。満潮時には海面下となり，干潮時には海面上となる，浅海底の岩地(磯)の部分。

[知っておこう]

サンゴ礁は，形成の過程によって分類することができる。最初の段階が「裾礁」。海岸線に接してサンゴ礁が形成される。陸地が沈降すると，海岸から離れたところにサンゴ礁が発達し「堡礁」となる。陸地とサンゴ礁の間の海域は「礁湖」とよばれる。さらに沈降し，中央の島が海面下に沈んでしまったものが「環礁」。上から見ると，礁湖を取り囲んでサンゴ礁が輪を成している。

なお，環礁が隆起し，陸地になることがある(隆起サンゴ礁)。海岸線に沿う小高い丘で囲まれた，お盆のような形状となる。石灰岩地形であるため，ドリーネや鍾乳洞がみられる。

９．９　干潟と干拓地

満潮時は海面下，干潮時は海面上となる泥地の浅海底を「干潟」という。地形図では，破線と点の組み合わせによって表現されているので確認しよう。

干潟がみられるような遠浅の海岸でしばしば行われているのが「干拓」。堤防を建設し，その内側を排水することで，新たに陸地を造成する。干拓地の標高は極めて低く(海水面より低いところも)，水田として利用されやすい。

＜チェック！＞

干潟が広がり，海岸と陸地との境界が直線で区切られ（堤防である），その内側が低平な土地で田の土地利用記号がみられたら，干拓が行われていると考えていい。

９．10　砂州・砂嘴・陸繋砂州（トンボロ）

河川から海に流れ出した土砂が，沿岸流（海岸に並行する海水の流れ）によって運ばれ，浅海に堆積する。陸地から細長く突き出し，対岸に達しようとする砂州，先端が湾曲した砂嘴（さし）があるが，とくに陸地と島を結ぶものを陸繋砂州（トンボロ）という。かつて島だった部分が陸繋島。

ワンポイント

「天然の良港」となる海岸地形に注目しよう。フィヨルドやリアス海岸は水深が十分であり，港湾に適するため，湾奥にしばしば港湾都市が位置する。しかし後背地（背後に広がる平野）が狭いため，そうした都市は一般に小規模になる。

ただしエスチュアリーは例外。エスチュアリーは河口部分のみが沈降した海岸地形であり，後背地が広い。人口規模が大きな都市が成立し，「大都市＋天然の良港」という理想的な組合せがみられる。ロンドン，ハンブルク，ブエノスアイレスなどは，いずれも人口規模が大きく，なおかつその国最大の港湾を有する都市である。

第９講
特殊な地形・海岸地形［練習問題］

［１］　図１中のＸ付近の地形を表す断面図として最も適当なものを，次の図２中の①～④のうちから一つ選べ。

（1995年度地理追試験第７問問１）

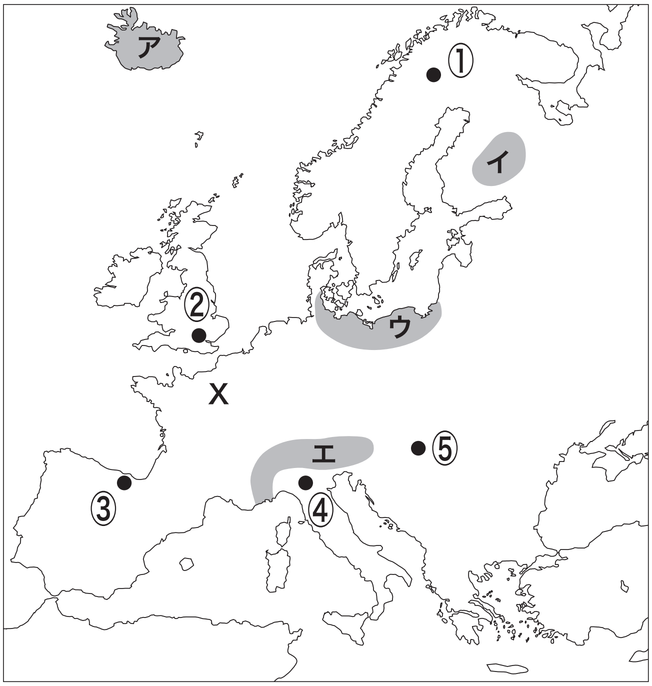


図１

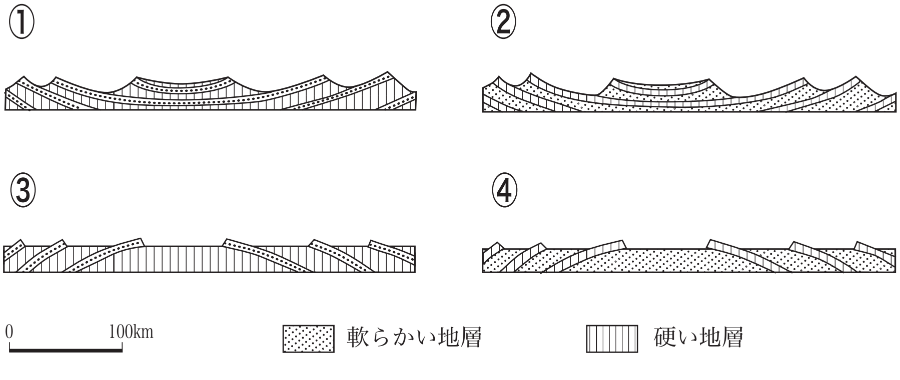


図２

［２］　次の図５は，図１中のＸ地点付近でみられる地形を模式的に示したものである。この地形を説明した文として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。　　　　　　　　（2009年度地理Ｂ本試験第１問問８）

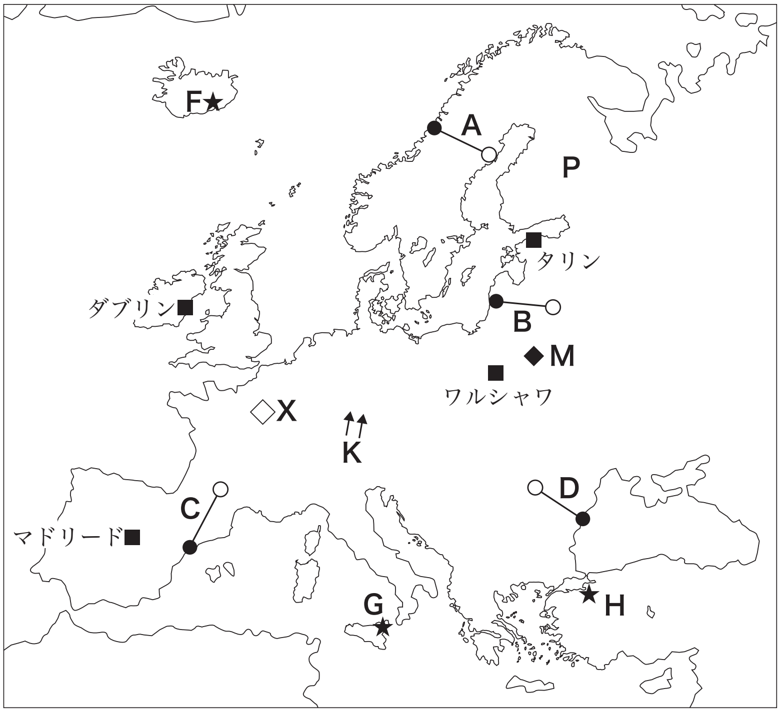


図１

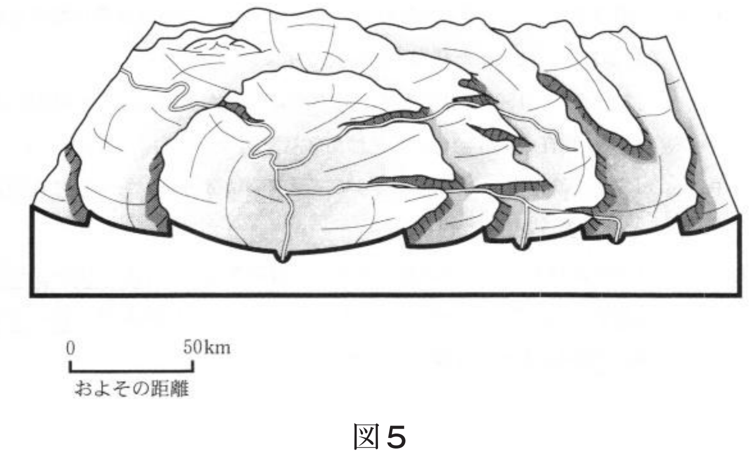


図５

① 活断層に沿って河川が侵食した直線状の谷地形がみられる。

② 石灰岩が化学的に侵食されたなだらかな階段状の台地がみられる。

③ 地質構造を反映した非対称な断面をもった丘陵地がみられる。

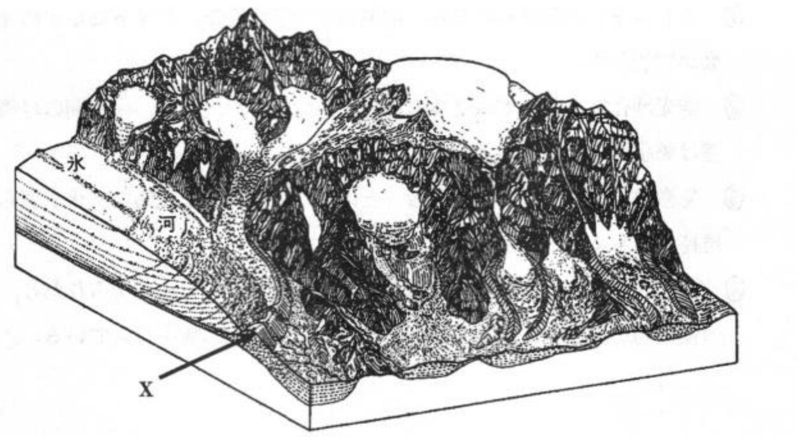
④ 火山噴火によって流出した溶岩流からなる台地がみられる。

［３］　次の文章は，日本の大学生ヒロシさんが，ネパール北東部のエベレスト（チョモランマ，サガルマータ）山麓でトレッキング（山歩き旅行）をした時に書いた日記の一部である。

11月５日（金）　晴れ時々雪

標高5000ｍを越え，酸素不足のせいか頭痛がする。やっとのことで，岩がごろごろしている（ｅ）細長い堤防状の丘に登ると，眼下に氷河や氷河湖が見えた。

下線部（ｅ）に関して，次の図４は，ヒマラヤなど高山地域に分布する氷河地形を，模式的に示した図である。ヒロシさんが登った堤防状の丘は，図４中の**Ｘ**のような場所と考えられるが，この地形について述べた文として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。　　　　（2000年度地理Ｂ本試験第５問問６）



五百沢（1980）を一部改変。

図４

① 氷河が岩くずを堆積して形成したモレーンである。
② 氷河が谷の側方を侵食して形成したＵ字谷である。
③ 氷河が谷の上部を侵食して形成したカール（圏谷）である。
④ 氷河が峰の側方を侵食して形成したホルンである。

［４］　次の図３は，イタリア，日本，ニュージーランドの高山地域の一部にみられる地形を模式的に示したものである。図３中のＷ～Ｚで示された地形の特徴について述べた文として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。

（2007年度地理Ｂ追試験第１問問６）

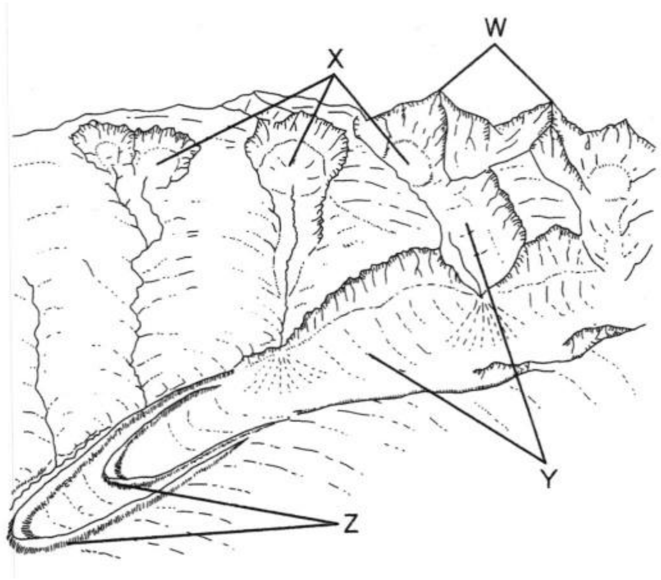


図３

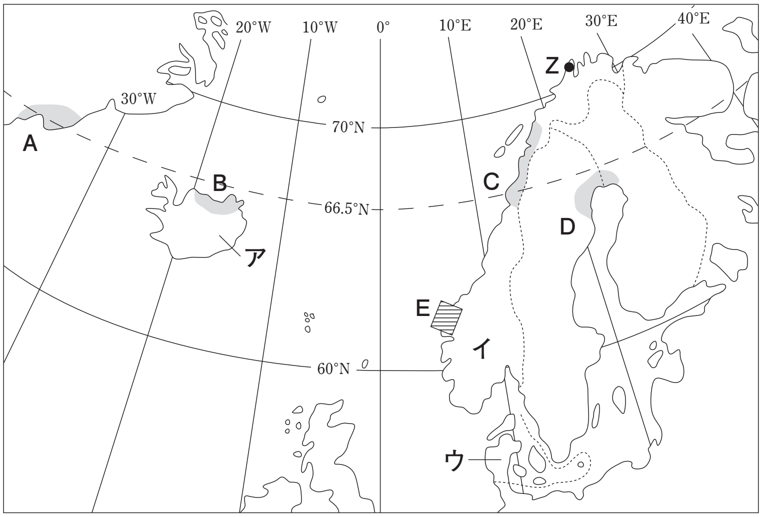
①　Ｗは，ホルンとよばれる孤立した峰地形で，山体を覆った氷河の圧力によって，地層が褶曲することで形成される。

②　Ｘは，カール（圏谷）とよばれる凹地形で，氷河の流動により，山地の斜面が侵食を受けることで形成される。

③　Ｙは，Ｕ字谷とよばれる幅の広い谷地形で，もとは氷河の侵食によるＶ字形の谷が，氷河の消失後に，地すべりで埋積されて形成される。

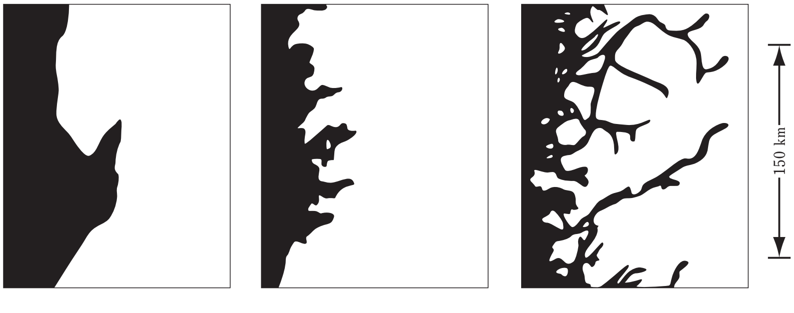
④　Ｚは，モレーンとよばれる高まりの地形で，氷河で削られた岩くずが，氷河の消失後に，流水で運搬されて堆積することで形成される。

［５］　次の図２中の**カ〜ク**は，図１中の**Ｅ**，スペイン北西部，フランス北部のいずれかの地域の海岸線を同じ縮尺で示したものである。また，下の図３の**サ**と**シ**は，その湾の海面下の横断面形を模式的に表している。**Ｅ**地域に該当する海岸線と湾の模式的な横断面形の組合せとして正しいものを，下の①〜⑥のうちから一つ選べ。　（2002年度地理Ｂ本試験第１問問２）



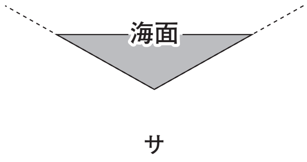
国境線は設問にかかわる部分のみを記入した。

図１



黒い部分が海を表す。図の上が北を示すとは限らない。

図２



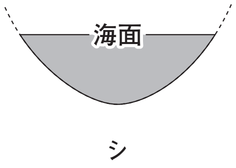


図３

	①	②	③	④	⑤	⑥
海岸線	カ	カ	キ	キ	ク	ク
横断面形	サ	シ	サ	シ	サ	シ

［６］　次の図１（40万分の１地図，原寸）を見ながら交わされた次の会話文を読み，下の問いに答えよ。　（1999年度地理Ａ追試験第２問問１）

図１

Ａ「この地図を見ると，海岸線がとても入り組んでいるのが分かりますね。」

Ｂ「これはスペインの北西部の地図ですが，この地方で湾を意味する言葉がこのような海岸地形を示す用語にもなっています。」

Ａ「日本でもこれと同じ海岸地形を見ることができます。」

Ｂ「ええ，三陸海岸はその代表的なものです。」

Ａ「三陸海岸は美しい景観とともに，津波の被害でも知られていますね。」

Ｂ「三陸海岸の集落は過去に何度も被害を受けてきました。そのため，さまざまな津波対策がとられています。」

下線部に関して，図１を参考にしながら，このような海岸地形が見られる地域における一般的な特色を述べた文として**誤っているもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。

①　沿岸域には広大な平地が少ないため，大型機械を導入した大規模な農業は困難である。

②　水深が深く波が静かであるため，湾の奥に商港や漁港が発達することが多い。

③　海岸線は複雑で眺望が良いため，交通条件に恵まれれば，貴重な観光資源となる。

④　波によって石灰岩が侵食された海岸であるため，セメント工業が発達していることが多い。

［７］　ユカリさんはカルスト地形について調べてみた。次の図５中の①～④で示した２万５千分の１地形図(原寸，一部改変)には，河岸段丘，火山地形，カルスト地形，氷河地形のいずれかがみられる。カルスト地形がみられるものを，図５中の①～④のうちから一つ選べ。　　　　(2004年度地理Ｂ追試験第５問問６)

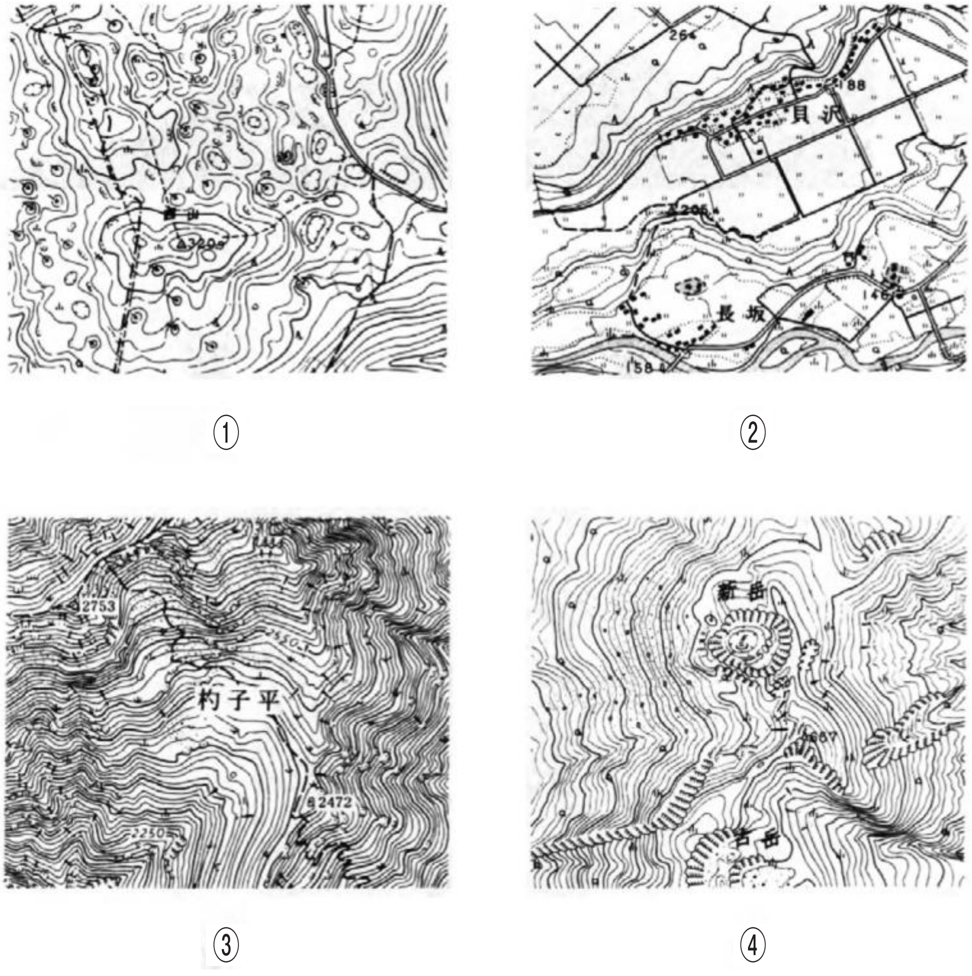


図５

［8］　次の図３中のＰ～Ｒのいずれかは，石垣島の海面付近でサンゴ礁がみられる場所を示している。また，下の**ア**・**イ**のいずれかは，近年日本で懸念されているサンゴを死滅させる原因を挙げたものである。海面付近でサンゴ礁がみられる場所とサンゴを死滅させる原因との組合せとして最も適当なものを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。　　（2003年度地理Ｂ本試験第５問問４）

２万５千分の１地形図を 80％に縮小，一部改変。

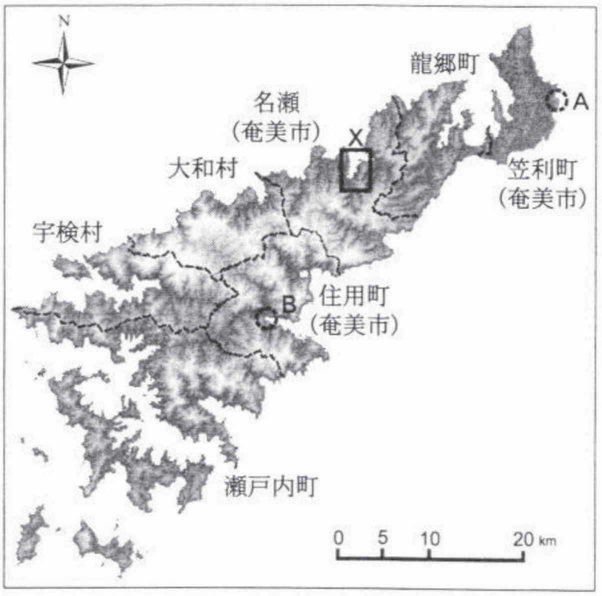
図３

ア　富栄養化による赤潮の発生

イ　陸地の開発による土砂の流入

	①	②	③	④	⑤	⑥
場所	P	P	Q	Q	R	R
原因	ア	イ	ア	イ	ア	イ

［９］　コウスケさんは，大島（奄美大島）の自然景観に興味をもった。次の写真１中の**カ**と**キ**は，マングローブかサンゴ礁のいずれかが発達する海岸を撮影したものであり，図２中の**A**と**B**のいずれかの範囲でみられる。マングローブが発達する海岸を撮影した写真とその景観がみられる範囲との正しい組合せを，下の①～④のうちから一つ選べ。　（2011年度地理Ｂ追試験第６問問２）



陸地では，淡色の方が標高が高い。

図２

海水の透明度が低く，泥地が広がる。
カ

海水の透明度が高く，岩礫（がんれき）地が広がる。
キ

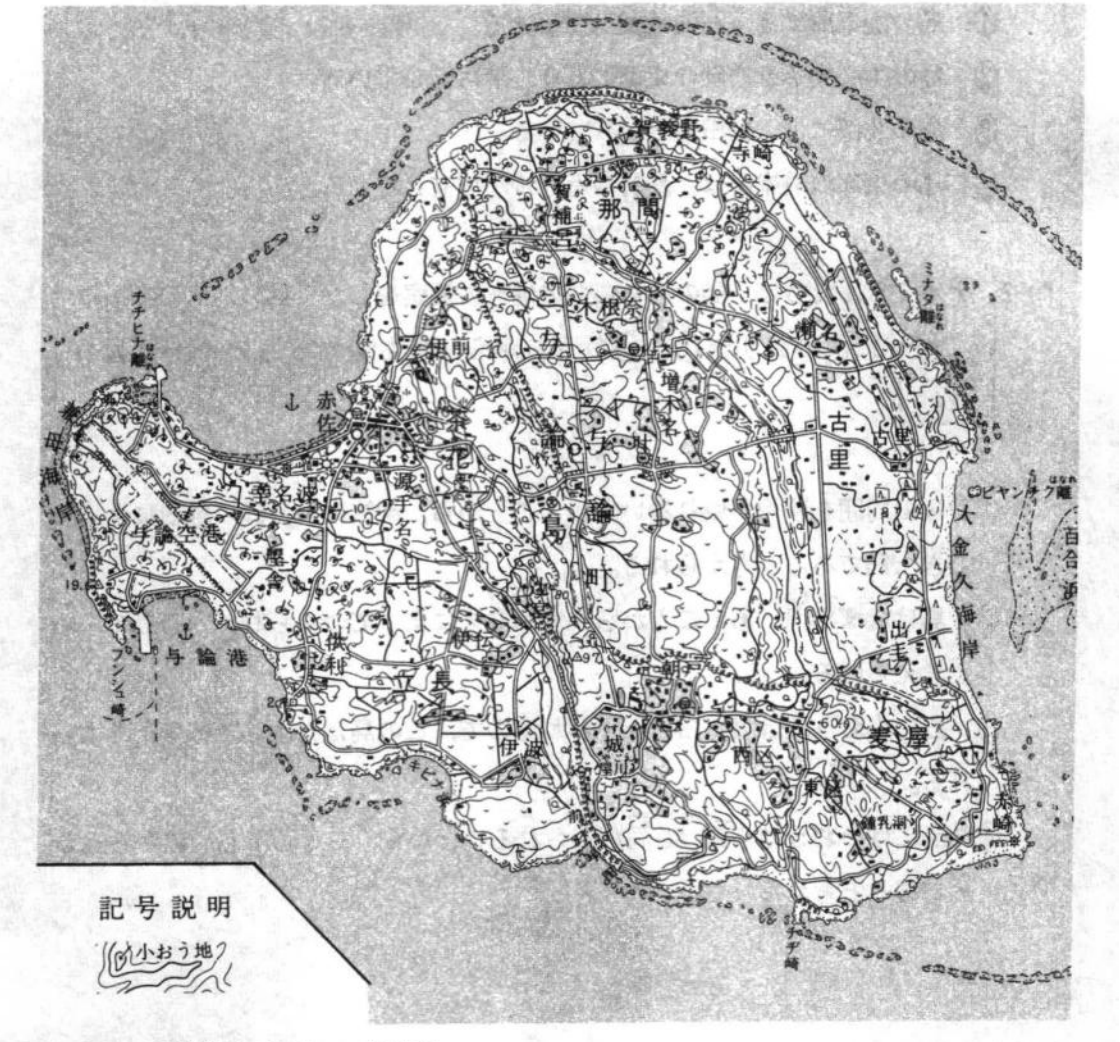
写真１

（編集部　追記：編集上の都合により代替図版に差し替えております。）

①	②	③	④
カ	カ	キ	キ
A	B	A	B

［10］　高校生のナオミさんたちは，次の図１に示された鹿児島県奄美諸島の一つである与論島について，島のあちこちで地形の観察をした。島の地形の特徴について述べた次の説明文①～④のうちから，最も適当なものを一つ選べ。

（1998年度地理Ｂ本試験第４問問２）



5万分の1地形図，原寸，一部改変。

図１

① 島の周囲を砂州が取り巻いていることから，潮流による砂の堆積によってできた島であると考えられる。

② 島はほぼ平坦であることから，埋め立てによってつくられた人工島であると考えられる。

③ 島の小おう地は噴気口と思われるので，この島は火山島であると考えらえる。

④ 島には小おう地や鍾乳洞がみられることから，主として石灰岩からなる島であると考えられる。

［11］　ケイタさんは干拓地の土地利用などについて調べることにした。次の図**６**の５万分の１地形図(原寸，一部改変)は，有明海に面する地域の一部を示したものである。図**６**から読み取れることについて述べた文として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。

(2004年度地理Ｂ追試験第５問問７)

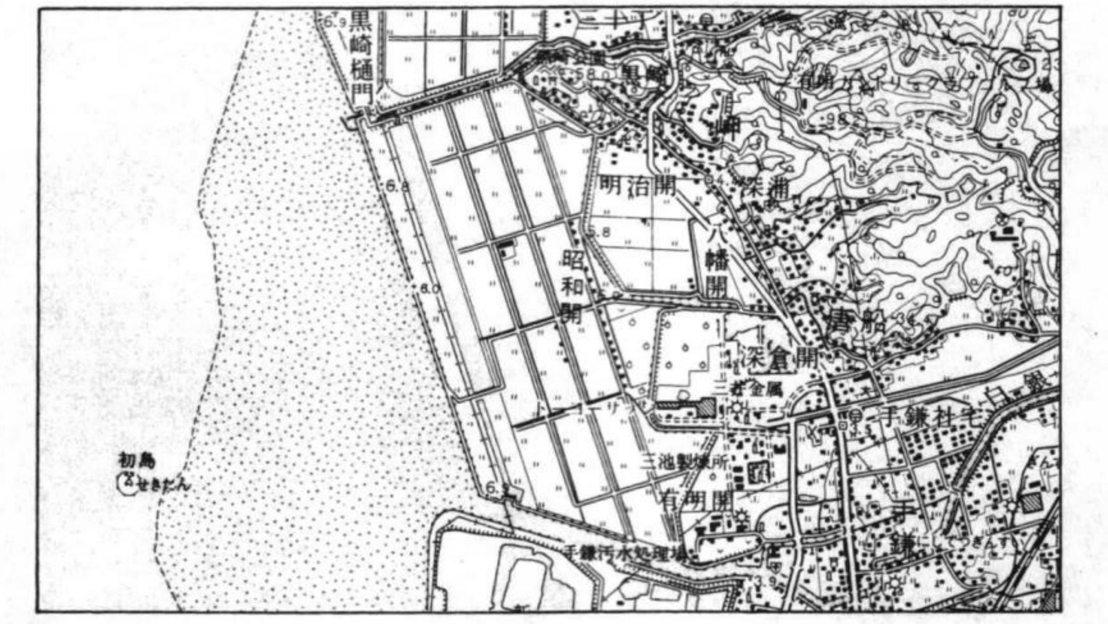


図**６**

① 「昭和開」では，道路で区切られた区画の面積はほぼ一定で，それらの区画は主として住宅地として利用されている。

② 「深倉開」の南部に工場が立地し，西部は茶畑として利用されている。

③ 「黒崎樋門」の西側200ｍの地点は，満潮時には海面下となることがある。

④ 図中西側の堤防上の標高は６ｍ余りであり，干拓地の水田の標高はそれよりも高い。

［12］　次の図４は，八郎潟干拓地につくられた秋田県大潟村の集落とその周辺を示す５万分の１地形図(原寸，一部改変)である。図４から読み取れることがらとその背景として下線部が**適当でないもの**を，下の①～④のうちから一つ選べ。

（2014年度地理Ｂ追試験第３問問５）

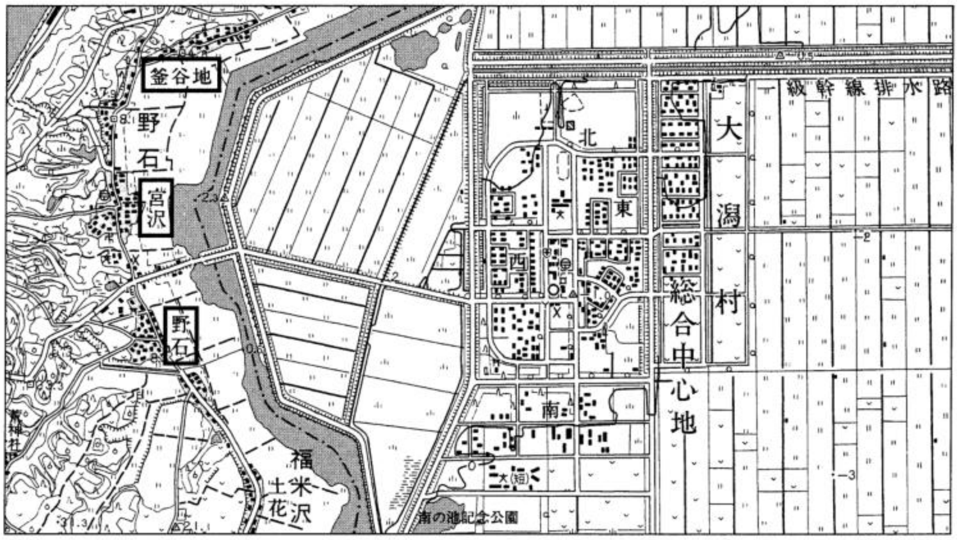


図４

① 図の中央部に，大潟村の中心集落がみられ，家屋や道路，公共施設などが計画的に配置されている。

② 大潟村では，中心集落の南東側は，標高が高くなっており，水はけの良い干拓地である。

③ 大潟村は，中心集落の周辺において，主として長方形の区画がみられ，多くは水田として利用されている。

④ 大潟村の西には，釜谷地や宮沢，野石などの集落があり，これらの集落は，かつての湖岸線に並行した道路沿いにみられる。

第９講
特殊な地形・海岸地形［確認問題］

［１］　次の図４中のＤ～Ｇは，ヨーロッパのいくつかの地域でみられる海岸付近の地形を示したものである。また，後の文①～④は，図４中のいずれかの地域における海岸の特徴について述べたものである。Ｅに該当するものを，①～④のうちから一つ選べ。

（2024 年度地理Ｂ本試験第１問問３）

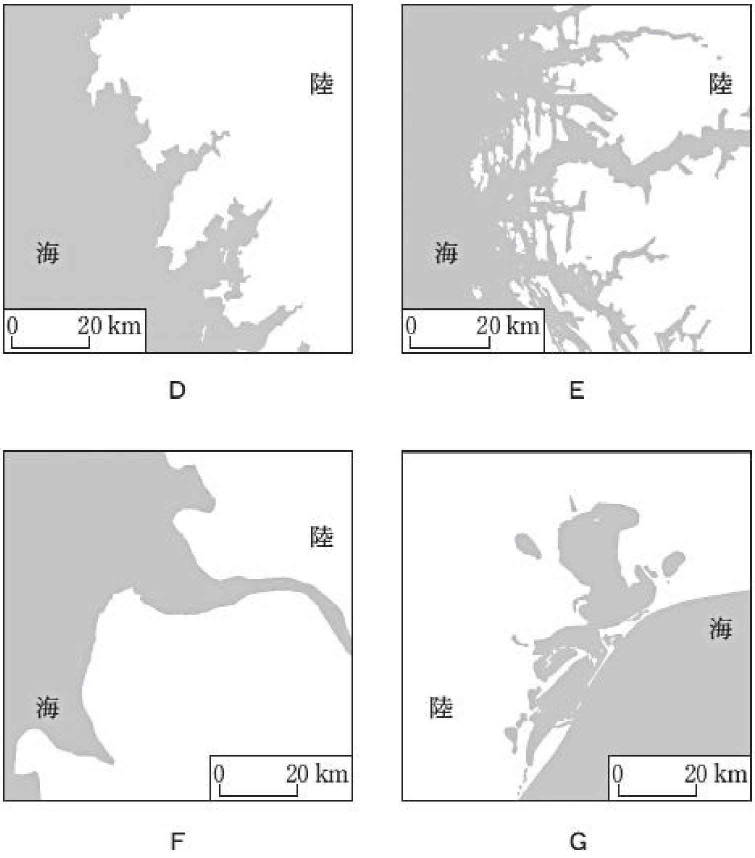
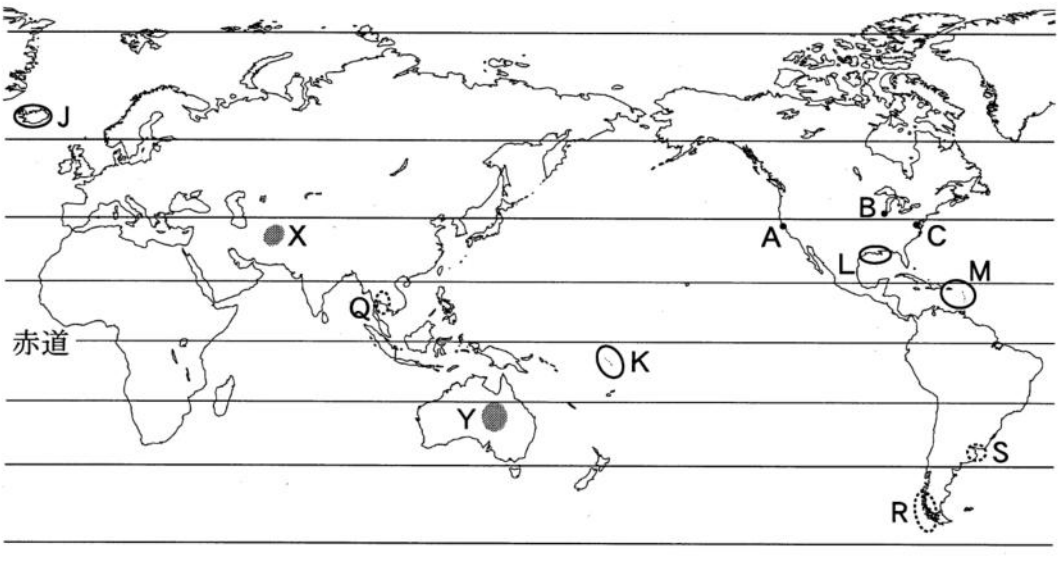


図４

① 沿岸流で運ばれてきた土砂の堆積により，入り江の閉塞が進行している。
② 河川の侵食で形成された谷が沈水し，海岸線が複雑な入り江が連なる。
③ 大河川の河口部が沈水してできた深い入り江がみられる。
④ 氷食谷が沈水してできた深い入り江がみられる。

［２］　次の**カ**～**ク**の文は，図**２**中の**Q**～**S**のいずれかの地域にみられる特徴的な地形を説明したものである。**カ**～**ク**と**Q**～**S**との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。　（2013年度地理Ｂ本試験第１問問５）



緯線は 20 度間隔。

図２

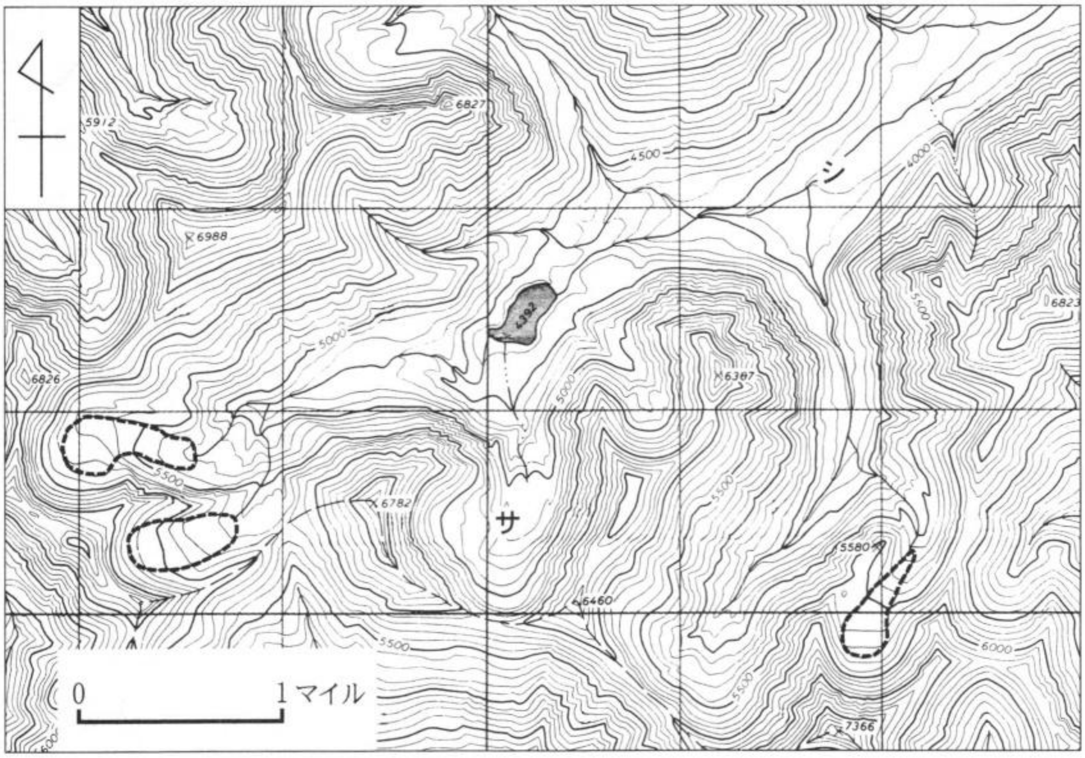
カ　氷期に拡大した氷河の侵食によって形成された谷に，その後に起こった海面上昇によって海水が浸入した複雑な入江がみられる。

キ　氷期の後に起こった大規模な海面上昇によって，河川の下流部に海水が浸入した入江がみられる。

ク　平野を流れる河川の下流部に，砂や泥などが大量に堆積して形成された低平な地形がみられる。

	①	②	③	④	⑤	⑥
カ	Q	Q	R	R	S	S
キ	R	S	Q	S	Q	R
ク	S	R	S	Q	R	Q

［3］　次の図２は，アラスカ州(アメリカ合衆国)北部のある地点を示した地形図(63360分の１，原寸，一部改変)の一部である。図２にみられる地形を説明した下の文章中の空欄ＱとＲに当てはまる語の正しい組合せを，下の①～④のうちから一つ選べ。　(2009年度地理Ｂ追試験第１問問５)



図中の点線で囲んだ部分は氷河を示す。
図中の標高の単位はフィートで，１フィートは約 0.3 m，距離の単位はマイルで，１マイルは約 1.6 km である。

図２

この地形図中には，氷河の侵食によって形成された特徴的な地形がみられる。サは(Ｑ)とよばれ，開いた椀形の地形である。シは(Ｒ)とよばれ，谷底が広く谷壁が急な地形である。

	①	②	③	④
Ｑ	カール	カール	ホルン	ホルン
Ｒ	Ｕ字谷	Ｖ字谷	Ｕ字谷	Ｖ字谷

［４］　次の図２中のＡ～Ｃは，環礁・裾礁・堡礁の三つの形態を示したものである。陸地の沈降あるいは海面の上昇による珊瑚礁の発達過程として正しいものを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。　　　　　　　（1995年度地理追試験第２問問４）

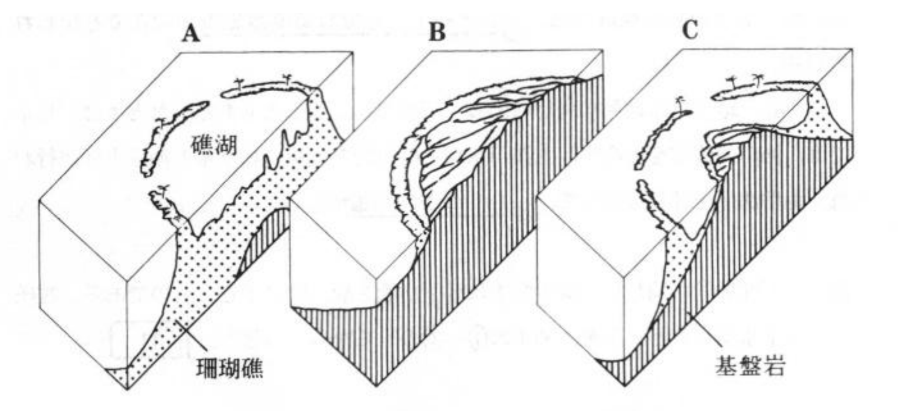
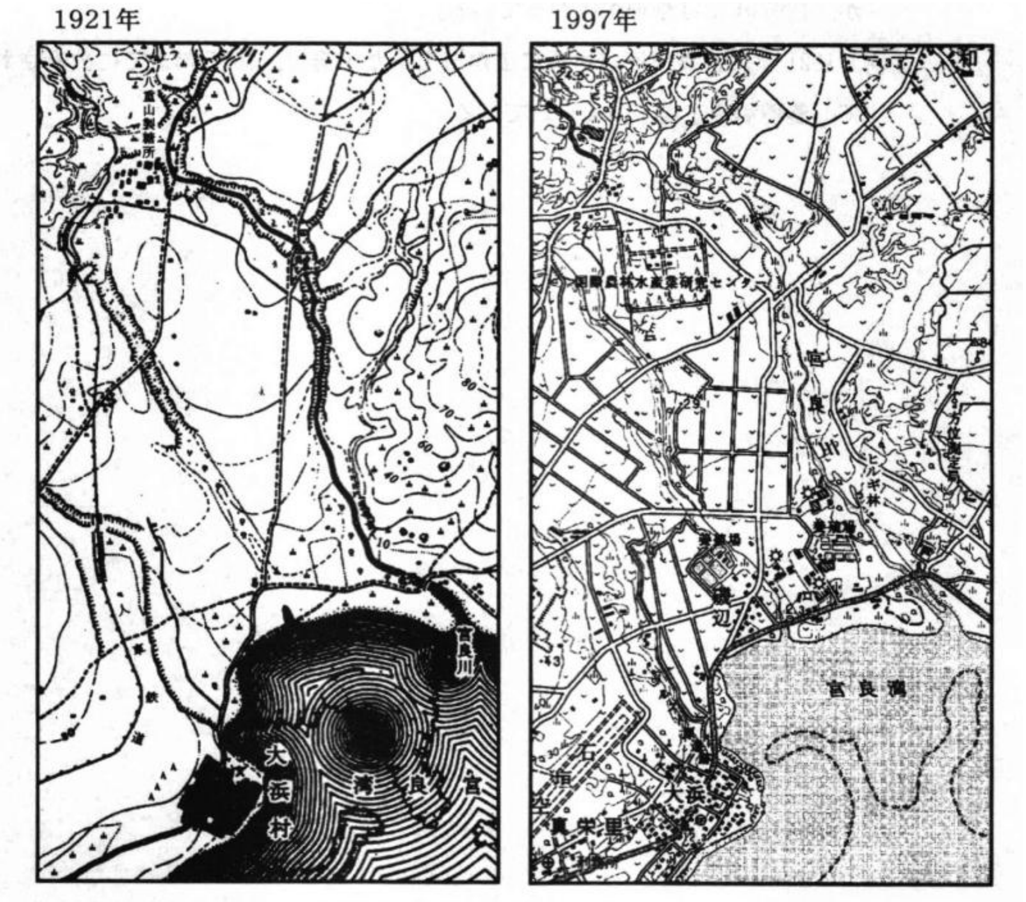


図２

①　A→B→C
②　A→C→B
③　B→A→C
④　B→C→A
⑤　C→A→B
⑥　C→B→A

［５］　マコトさんは，石垣島南部の新旧地形図を比較してみた。次の図２は，1921年と1997年の石垣島南部の地形図（５万分の１地形図，原寸，一部改変）である。図２から分かるこの間の変化について述べた文として**適当でないものを**，次の①～④のうちから一つ選べ。　（2003年度地理Ｂ本試験第５問問３）



1921年の地形図中では，畑地は白抜きで示されている。

図２

①　1997年の地形図上では，大浜集落付近の日当たりの良い斜面に墓地がみられるが，1921年の地形図にはみられない。

②　1921年の時点で製糖工場に至る鉄道が敷設されていたが，1997年には鉄道はみられない。

③　1921年に宮良川左岸の標高40ｍ以上の斜面は大半が荒地であったが，1997年には畑地が広がっている。

④　1921年に宮良川河口付近に広がっていた干潟は，1997年までに改変されて，養殖場や工場がつくられている。

［６］　地形図Ｂのなかで宮留の集落が立地している地形はなんというか。また，このような地形は，どのような成因で作られるか。次の組合せ①～⑥のうちから，最も適当なものを一つ選べ。

（1984年度地理追試験第１問問４）

＜組合せ＞

① 三角州・・・沿岸流と波　　② 三角州・・・河川による堆積

③ 自然堤防・・・河川による堆積　　④ 自然堤防・・・地盤沈下や高潮

⑤ 陸繫（けい）砂州・・・地盤沈下や高潮　　⑥ 陸繫（けい）砂州・・・沿岸流と波

〈***Note***〉

練習問題解答

第１講　人口・１人当たりＧＮＩ・ＧＮＩ　解答

[１]正解；③

[２]正解；②

[３]正解；③

[４]正解；②

[５]正解；①

[６]正解；④

[７]正解；②

[８]正解；②

[９]正解；②

[10]正解；②

[11]正解；①

[12]正解；①

第２講　人口移動　解答

［1］正解；②

［2］正解；①・③

［3］正解；③

［4］正解；①

［5］正解　（１）③　（２）①

［6］正解；④

［7］正解；②

［8］正解；③

［9］正解；②

［10］正解；②・④

［11］正解；②

［12］正解；③

［13］正解；④

［14］正解；③

［15］正解　Ａ；⑤　Ｂ；①

第３講　経済地理・産業構造の高度化　解答

[１]正解；②

[２]正解；②

[３]正解；②

[４]正解；③

[５]正解；②

[６]正解；③

[７]正解；②

[８]正解；③

[９]正解；①

[10]正解；③

[11]正解；③

[12]正解；④

[13]正解　イ；⑤　ウ；⑥　キ；③

[14]正解；①

[15]正解；③

第４講　天体としての地球　解答

[１]正解；②

[２]正解；③

[３]正解；③

[４]正解；②

[５]正解；③

[６]正解；②

[７]正解；①

第５講　大気の大循環・風系の移動　解答

[１]正解　（１）②　（２）[１]④　[２]②　（３）②

[２]正解；②

[３]正解　[１]④　[２]⑤

[４]正解；①

[５]正解；①

[６]正解；③

[７]正解；⑤

[８]正解；②

[９]正解；③

[10]正解；④

[11]正解；②

第６講　季節風・東岸と西岸の気候　解答

[１]正解；②

[２]正解；③

[３]正解；①

[４]正解；③

[５]正解；⑤

[６]正解；③

[７]正解；②

[８]正解；⑤

[９]正解；②

[10]正解；⑥

第７講　海流・土壌・植生　解答

[１]正解；①

[２]正解；⑤

[３]正解；⑤

[４]正解；②

[５]正解；④

[６]正解；③

[７]正解；③

[８]正解　Ｐ；④　Ｑ；③

[９]正解　（１）①　（２）④

[10]正解；⑥

第８講　大地形　解答

［１］正解；②

［２］正解；④

［３］正解；④

［４］正解　（１）③　（２）①

［５］正解；⑤

［６］正解；②

［７］正解；④

［８］正解；②

第９講　特殊な地形・海岸地形　解答

[１]正解；②

[２]正解；③

[３]正解；①

[４]正解；②

[５]正解；⑥

[６]正解；④

[７]正解；①

[８]正解；④

[９]正解；②

[10]正解；④

[11]正解；③

[12]正解；②

確認問題解答

第１講　人口・１人当たりＧＮＩ・ＧＮＩ　解答

［１］正解；③

　ＰとＱの判定から考える。まずＱがアジアである。アジアは世界全体の約60％の人口を占め，０～14歳人口，65歳以上人口に限定しても，その数は最大であると考えられる。消去法でＰはアフリカである。

　次にａとｂの判定に進む。衛生条件の改善などによって世界の平均寿命は伸びており，それに従って高齢者の数も増えている。全体として増加傾向にあるａが65歳以上人口，ｂが０～14歳人口である。年少人口はアフリカでは増加するが，アジアでは減少すると考えられている。

［２］正解；③

　地域全体の人口を計算してみるといい。

①；3.88(億)÷0.5≒８(億)

②；5.96(億)÷0.4≒15(億)

③；3.16(億)÷0.15≒20(億)

④；0.45(億)÷0.1≒5(億)

　世界全体の人口分布については，アジアに総人口の８分の５が集中，ヨーロッパ(ロシア含む)・アフリカ・南北アメリカに８分の１ずつと考える。現在の地球の総人口が72億人(2013年当時。2020年現在で80億人を超える)なので，アジアに45億人，ヨーロッパ・ロシアに９億人，アフリカに９億人，南北アメリカに９億人が分布するとみなす。

　①については「サハラ以南のアフリカ」とみていいだろう。大陸全体で９億人だが，サハラ以北のアフリカは全体に砂漠が広がり，人口はせいぜい１～２億人ではないか。サハラ以南のアフリカの人口は８億人程度と概算される。

　④は「中央・南アメリカ」。南北アメリカ全体で９億人だが，北アメリカ(アメリカ合衆国，カナダ)で3.5億人なので，中央・南アメリカで5.5億人。近似値で５億人。

　②が「南アジア」。南アジアはインドとパキスタン，バングラデシュ(ネパール以下は小国なので考慮しなくていい)。インドで13億人，パキスタンが２億人，バングラデシュが1.6億人であり，南アジア全体の人口は17億人と概算される。

　残った③が「東アジア・東南アジア・オセアニア」。人口大国だけでも中国14

億人，日本1.25億人，インドネシア２億人。これに韓国4千５百万，ベトナム１億，フィリピン１億，タイ７千万，マレーシア３千万が加わる。総計で20億人に達していると考えても妥当だろう。

ちなみに，東アジアの値がこの25年間で急降下しているが，これは地域全体の近代化に加え，とりわけ中国の経済成長の影響が強いと思われる。中国の１人当たりＧＮＩは1980年時点では1000ドル／人に達していなかったのに，現在(2017年時点)は8690ドル／人に達している。「１日当たり1.25ドル未満で生活する人口」が急激に減少したとみて間違いないだろう。

なお本問については問題の出題された年次との兼ね合いから，あえて最新のデータではなくやや古い数値に基づいて考察を進めている。最新のデータにおいても，それぞれの地域の人口は「東アジア・東南アジア・オセアニア」>「南アジア」>「サハラ以南のアフリカ」>「中央・南アメリカ」の順には変化はない。細かい数字にこだわるのではなく，計算によって解答を求めるという考え方にこそ注目して欲しい。

［３］正解；①

人口密度に注目しよう。南アジアの過半を占める国はインド。インドは人口で日本の10倍，面積で日本の９倍の国であり，人口密度は日本より高い。日本の人口密度が335人／km^2であるので，これに匹敵する高さのウが南アジアとなる。

さらにイに注目。こちらはかなり人口密度が低い。西アジアは広く乾燥地域で農業が振るわず，決して人口密度が高い地域ではない。これが西アジアに該当し，正解は①。

［４］正解；⑤

１人当たりＧＤＰは１人当たりＧＮＩと同義。サウジアラビアの１人当たりＧＮＩは20000ドル。キがサウジアラビア。

アラブ首長国連邦は産油国であることに加え，人口が少ないため，１人当たりＧＮＩの値は極めて高くなる。クがアラブ首長国連邦。ドバイを中心とした観光収入や，近年成長してきたアルミニウム工業によって，石油収入への依存度はサウジアラビアほどは高くない。

残ったカはイラン。人口が多いこともあり，１人当たりＧＮＩはさほど高くない。

［５］正解；③

「ＯＤＡ総額」と「ＧＮＩに対するＯＤＡ総額の比率」が示されているので，ＧＮＩが計算できる。表中の①～④について，ＧＮＩを計算してみよう。

①；109.6（億）÷ 0.0039 = 28103（億）

②；93.6（億）÷ 0.0018 = 52000（億）

③；69.9（億）÷ 0.0080 = 8738（億）

④；44.4（億）÷ 0.0020 = 22200（億）

以上より，②＞①＞④＞③　となる。

ここで，選択肢の４か国をＧＮＩ順に並べる。ＧＮＩ＝１人当たりＧＮＩ×人口　であるのだが，選択肢の４か国はいずれも先進国であり，１人当たりＧＮＩの高低に大きな差はないはず。人口規模の大小がすなわちＧＮＩの大小にそのまま結びつくと考えよう。

人口は日本は1.25億，フランスとイタリアが0.6億程度であるのに対し，ヨーロッパの小国であるオランダは1500万人程度。

以上より，②が日本，①と④がフランスかイタリアのいずれか，③がオランダとなる。

なお，「供与額が最大となる地域」はオランダを判定するヒントにはならない。オランダの主な旧植民地にインドネシアがある。たしかにヨーロッパ諸国の場合，かつて植民地支配した国に多額のＯＤＡが供与される傾向があり，オランダとインドネシアの関係を考えるのは自然なことだ。しかし本問において供与額が最大となる地域に東南アジアが含まれているのは②であり，③のオランダではない。あいまいな事項をヒントとするのではなく，数字のような確実な手がかりを探すことが重要。

［６］正解；④

大都市の数とその地域の人口規模は比例すると考える。40億を超える人口を有するアジアが，大都市が多い③に該当。反対に人口規模が１億人に達しないオセアニアに大都市は存在せず，②となる。

①と④の判定は大都市の数だけではできないので，都市人口率を参照。すでに述べているように，都市人口率についてはおおまかに１人当たりＧＮＩに比例すると考えておけば十分。ヨーロッパには１人当たりＧＮＩが高い国が多く，都市人口率もおしなべて高いと予想される。①がヨーロッパ。その反対に，アフリカ諸国は全体として１人当たりＧＮＩが低く，都市人口率も低い。④がアフリカ。

第２講　人口移動　解答

［１］正解；③

アラブ首長国連邦では潤沢なオイルマネーを活かした都市開発が盛んである。南アジアや周辺非産油国から多くの労働者が流入し，建設業に従事しており，比較的若い世代の男性が多いことが特徴である。

①について。イスラーム最大の聖地メッカはサウジアラビアに位置する。また巡礼は長期の定住を伴うものではないため，人口の増加にはつながらない。さらに，男女問わず行われるので，この人口ピラミッドのように男性に偏らない。

②について。年少人口割合は決して高くはないため，出生率の高さとは関係がないと判断できる。

④について。アラブ首長国連邦は面積が小さい国であり，そもそもの人口も少ない。国内の他の地域からの人口移動は多くなく，不適切。

［２］正解；⑤

「増加するものはアジアである」のだ。1960年代から2000年にかけてずっと増加しているイは「アジア」である。とくに，現代の人口移動とは１人当たりＧＮＩの低い国から高い国へと流動していくセオリーがある。経済レベルの低い中国から多くの移民が生じていることも想像する。時代を追うごとに，カナダにおいても中国をはじめとするアジアとの関係性は深くなっていくのだ。

残った２つについては，現在の割合には大きな違いはない。それならば，過去に遡って変化の度合いから推理するのだ。アは大きく割合を低下させているのに対し，ウは多少の変化はあるものの，目立った動きでもない。カナダはかつてはイギリス領であったし，現在もイギリス系の住民が多い。国民の過半数が使用する言語も英語である。古い時代はヨーロッパとのつながりが強く，そこからの移民も多かったのではないかと考えていいだろう。それがやがてアジアへと取って変わられていき，ヨーロッパからの移民の割合も低下していく。アをヨーロッパと判定する。

残ったウが中央・南アメリカ。ラテンアメリカの移民が主に流入するのはアメリカ合衆国であり，カナダへはさほど多くない。

［３］正解；③

　人口移動の原則を考える。現代の人口移動は「工業労働力としての移動」。製造業や建設業の発達した地域へと，低賃金国から出稼ぎ労働者が流入する。単に「仕事を求めて移動する」だけではいけない。その中身まで考えるべき。

　ただし，工業労働力としての移動は「現代」の社会に限定される。高度経済成長期には工業化著しい太平洋ベルトへと，日本各地から人口が移動した。オイルショックに続く時代には，オイルマネーに沸くペルシャ湾岸地域へと多くの出稼ぎ労働者が流入し，その多くは建設業に従事した。90年代初頭には出入国管理法の改正によってブラジルから日系人が多く来日し，わが国の製造業を支えた。拡大ＥＵにおいても，工業先進国である西ヨーロッパ諸国へと，経済レベルの低い東ヨーロッパ諸国から労働者が移入している。

　本問で最大のポイントになる語句は「工業」なのだ。選択肢③参照。「ブラジルでは，かつて工業技術者として受け入れた日本人の子孫が」とある。「日本人の子孫」については日系人と考えていいだろう。日系人とは日本人の血を引いたブラジル人のことでもちろん国籍はブラジルなので，日本から見れば彼らは「外国人」である。本来なら外国人の単純労働者としての入国と滞在を制限しているわが国であるが，日系人に関しては90年代以降その制限が緩和されている。90年代初頭にブラジル人の入国が急増したのはその影響だが，そもそもブラジル国内に日系人が多いという背景がある。

　では，なぜブラジル人に日系人が多いのだろう？　それは20世紀初頭から中頃にかけて，多くの日本人たちが世界各地に移住していったのだが，その最大の行き先がブラジルであったからだ。彼らの多くは日本で貧困な生活を送っていたが，遥か新大陸に夢を馳せ，地球の裏側である南米大陸へ旅立ったのだ。今よりも「地球が広かった」時代であり，何ヶ月もの船旅に耐え，彼らはブラジルを目指したのだ。

　さて，ここで一つポイントがある。彼らはどんな仕事を目的としてブラジルに渡ったのか。選択肢③にあるように「工業技術者」なのだろうか。たしかに１人当たりＧＮＩの高い日本は工業技術水準も高く，発展途上国であるブラジルに対しては指導する立場なのかもしれない。しかしここで考えてほしいのは「時代」である。先述のように，工業労働者としての移動は「現代」に限定される。ここで述べられている「工業技術者」もやはり工業労働者の一種なので，現代の人口移動を象徴するキーワードとなる。

　しかし選択肢③が説明する時代はいつだろう。「かつて工業技術者として受け

入れた」とある。現代ではなく，過去の人口移動なのだ。彼らが移住したのは何十年もの昔で，移住後に家族を作り，現地社会に適応した歴史がある。「子孫」という言葉にも注目しておこう。

つまりこの選択肢は過去の人口移動についてその理由を「工業」としているのだ。工業労働者としての移動はあくまで「現代」のキーワードであり，過去には適応されない。本選択肢はこの点において誤りなのである。

古い時代に日本からブラジルへと多くの移民が生じた理由は「農業」のためである。日本で仕事に恵まれない人々が，ブラジルへと渡り，農業労働者として働いた。大土地所有制による大農園が多く開かれているブラジルにおいて，農業労働者としての雇用は十分にあったのだ。「工場技術者」を「農業労働者」に改める。

［４］正解；⑤

カはフィリピン。かつてアメリカ合衆国に植民地支配されていたこともあり，英語が公用語の一つとなっている。「登録者数が減少」とある。ＱかＲが候補となる。

キは中国。漢字の国である。「近年の成長」と「多くの人々が来日」から，数値の急激な上昇のみられるＰに該当。

クは韓国・朝鮮。ハングル文字はよく知られた朝鮮半島で使用される表音文字。「数世代にわたって」とあり，昔から人数の多いＱが該当。最近はやや減少しているが，「日本国籍を取得する者」が増えた影響。

よってフィリピンはＲが該当。たしかに明らかに減少している。正解は⑤。

［５］正解；②

統計に基づいて考えればいい。「西アジア最大の自動車生産・輸出」が気になるのだが，自動車生産統計を確認してみよう。アメリカ合衆国，日本，ドイツの世界的自動車メーカーが本社を置く国は必須として，それ以外にも中国，ブラジル，タイといった低賃金国，さらにスペインやチェコ，カナダ，メキシコなど自由貿易経済圏（ＥＵや当時のＮＡＦＴＡ）に含まれ工場が進出している国，さらには韓国やインドなど自国メーカーによる生産が進む国など，いくつもピックアップされる，しかし，その中に西アジアの国が含まれているだろうか。ペルシャ湾岸の産油国で自動車工業がさかんな国は存在しない。

そもそも西アジアの産油国は１人当たりＧＮＩが高く，組立工業の立地には不利。人口規模もあまり大きくないので，現地生産のメリットも少ない。たしかに

出稼ぎ労働者は流入しているのだが，それは高層ビルや道路のような都市施設を建設するためであり（写真セがわかりやすい），同じ工業であっても「製造業」ではなく「建設業」である。②が誤りとなる。

［6］正解；⑤

ａは中国南部から矢印が出ているが，この地域を華南という。フーチエン省やコワントン省など。人口過密にあえぐ貧困地域であった華南から多くの移民が海外に流出した歴史がある。東南アジアに移住した者が多いが，その一部は日本や，そして太平洋を越えてアメリカ合衆国にまで達した。Ｑが該当。移住当初は農園などの労働力であったが，やがてその地で頭角を現し，今は経済的に富裕となる者もいる。東南アジアのほとんどの国々では，中国系住民によって経済の実権が握られている。

スペインやポルトガルから中央アメリカ・南アメリカへの矢印は，彼らの植民地支配と関係あるだろう。新大陸で豊かに産出される銀を求め，スペイン人はメキシコやペルーの文明を破壊し，植民地として支配した。多くのカトリック僧も渡り，大いに彼らの宗教的精神を普及していった。ｃはＰに該当。混血が多い地域でもある。

消去法によってｂがＲになる。アイルランドからアメリカ合衆国東部への移動。

第３講　経済地理・産業構造の高度化　解答

［１］正解；①

「計画経済から市場経済」が正しい。社会主義体制の下で実施されてきた計画経済だが，ソ連解体により資本主義経済が導入され，市場経済化が進んだ。

②について。図から読み取ることができる。ウクライナは1990年代に大きく１人当たりＧＤＰが落ち込んだが，ウズベキスタンはさほど大きな変化はなかった。

③について。ウクライナは豊富な資源や黒海に面する要港を有し，さらに国内に多くのロシア系住民が居住することなどが理由となり，ロシアからの干渉を受け続けている。これが両国の関係悪化の要因となっている。

④について。こちらも図から判定。2011年と2016年を比べてみると，両国の１人当たりＧＤＰの差は縮まっている。

［２］正解；②

経済地理に関する問題。資本主義化が進む世界の中で，経済格差は常に拡大の方向にある。②が誤り。生活水準(ようするに経済レベルと思っていい)の格差は広がりこそすれ，縮まりはしない。

他の選択肢もなかなかおもしろい。①はまさに格差が拡大していくことを述べている。それが資本主義というものなのだ。また「国家から払い下げられた企業を経営」とあるが，これなど企業が「国営」から「民営」になっていくことを示している。これもやはり現代社会のキーワードの一つである。

③も①と同様。それまでの「国営農場」や「集団農場」(農業の集団化は社会主義のキーワード)から「企業や組合などに再編」されたのだから，やはりこれも「国営→民営」のベクトルの上にある事象。

ただし，④がちょっと難しい。これについてはそういったこともあるのでないかという感じで軽く考えておいてほしい。あくまで「家庭菜園」の話であって，さほど大げさなものでもない。

［３］正解；①

誤文判定問題。あいまいな選択肢には目もくれず，一つだけはっきりとした誤りをえぐり出せばいい。キーワードは「国有化」。現代社会においては，国の管理を脱し，産業は民間の活力に依存させることが一般的であり，「国営（国有）→民

営（私有）」のベクトルが絶対的。日本でも，郵政事業が民営化されたり，国鉄がＪＲに，電電公社がＮＴＴにそれぞれなったりなど，かつての国営企業は続々と民営企業となっている。そのことにより合理的な経営がなされ，さらにはサービスの品質も高くなっていく。

選択肢①参照。たしかに国有化により生産性が向上しなくなることはあるのだが，そもそも「国有化」へのベクトルが誤っているのであり，この選択肢は間違い。①が正解。イタリアでなぜ生産性が向上していないかについては考える必要はない（＊）。

他の選択肢に関しては不問。だが，理解の難しい内容ではないので，それぞれしっかり読んでおこう。

（＊）参考までにイタリアの状況を。イタリアではローマ時代からの大土地所有制が残存し，土地を持たない小作農が現在でも多い。そのため農業の大規模化や合理化が進まず，さらに共通農業政策による域内貿易の自由化によってフランスやドイツなどから穀物が流入することによって，イタリア国内の農業は停滞することになった。イタリアは小麦の輸入国である。

［４］正解；④

考えてもわかるが，ここは時間の節約と解答の確実性アップのため，数字を直接知っておいてそれを利用して解くべき。

第１次産業人口割合はしばしば出題対象となる。農林水産業に従事する者の，全就業者人口に対する割合である。一般的には，先進国でこの値は低く，発展途上国で高い。とくに高いのは伝統的な農業形態が見られるアジアやアフリカ，とくに湿潤アジアである。米作が中心の地域であるが，水田耕作は土壌の劣化がなく（水を入れ替えればいい。これに対して小麦は地力を消耗し，連作障害を起こす）連続して耕作することが可能である。土地の回復を待たなくていいわけなので，農業労働力が多ければ多いほどよりたくさんの収穫が期待できるということになる。また，機械化が進んでおらず労働の多くを人手に頼っているので（牛や水牛を労役用家畜として飼ってはいるが）その分だけ農民の数が増える。よって，第１次産業割合がとくに高くなるのだ。農業従事者の数が多いということは，１人当たりの収穫量つまり労働生産性は低くなることも理解しよう。

これに対して先進国では概してこの割合は低いのだが，それでも国や地域によって意外とはっきりとした差異があるので注目してほしい。

ここでイギリスの第１次産業就業人口割合が重要である。最新の統計で1.1％である。本問のデータはやや時代が古いがさほど極端に変化しているものでもないだろう。表３中の「農林水産業・狩猟」が第１次産業だが，この値が（1.1％に近い）「1.8」である④をイギリスと判定する。

他の選択肢についても第１次産業人口率を基準に判定していく。「0.3％」と極端に低い数値を示しているものがシンガポール。人口と面積の限られた商業国であるシンガポールは他の国に比べて特殊な産業別人口割合を示すのである。ほとんど農業が行われておらず，食料のほとんどは外国からの輸入である。

①と②については，１人当たりＧＮＩの関係から（韓国が30000ドル，メキシコが10000ドル）第１次産業就業人口割合の高低を推測し，①が韓国，②がメキシコとなる。

［５］正解；⑤

三角グラフの読み方を確認する。３つの指標を合計して100となるものを表す時に使用するグラフであり，例えばＡの2000年の値は「第１次産業；50％，第２次産業；22％，第３次産業28％」となる。とくに重要なのは第１次産業の値で，点から真横（底辺に平行に左の方向）に直線を引いて，そこの値を読み取るという訓練をしておこう。

なぜ産業別就業人口において第１次産業就業人口が大切かといえば，それは１人当たりＧＮＩの値との相関性が最も高いから。原則として１人当たりＧＮＩと第１次産業就業人口割合は反比例する。１人当たりＧＮＩの低い中国で第１次産業就業人口割合は最も高くなり，Ａが該当する。

残った２つについてはいずれも１人当たりＧＮＩが極めて高い２か国であるので迷う。よってここは例外的な事項をきちんと覚えて，それを利用していこう。たしかに先進国（つまり１人当たりＧＮＩが高い国）は第１次産業就業人口割合が低い。しかしそういった国々の中でも明確な違いがあるのだ。例えばヨーロッパにおいては「北低南高」。農業が合理化されているイギリスにおいてはその値は１％程度であるのに対し，古代の土地制度に由来する大土地所有制度が残っているイタリアにおいては４％近い高率となる。

アメリカ合衆国と日本においても同様の関係がある。「企業的」な農業が行われているアメリカ合衆国では作業の省力化も進み，第１次産業就業人口割合は１％台と低い。一方，「家族中心の零細経営的」な農業の日本では高齢者を中心に農業

人口は相対的に多く，第１次産業就業人口割合も３％を超える。ＢとＣ，それぞれの2000年の値に注目し，Ｂが日本，Ｃがアメリカ合衆国である。

［６］正解；②

まず「高度経済成長期以降」という言葉に注目。高度経済成長期は主に1960年代で，「以降」なのだからこれは現代の日本そのものを表すと考えていいだろう。

①について。現代の日本において「山村」の「人口が増加に転じている」だろうか。人口増減の原則は「大都市圏で増加，非大都市圏で減少」である。非大都市圏でも地方中枢都市の存在する県では増加している事例もあるが，山村で人口が増えているとは思えない。

②について。「農家の兼業化」は現代社会のキーワード。原因は「産業の地方分散」だけではないと思われるが，この選択肢を誤りとはできないだろう。「第１次産業だけ」から「第１次産業と第２次産業あるいは第３次産業との兼業」と考えれば，産業構造の高度化の原則に見合う。正文である。

③について。「漁村の多く」で「人口が減少している」ことは間違ってはいないだろう。選択肢①の内容とも重なっている。ただし「新しい漁場を求めて」が疑問。選択肢②にもあるように，他の職業に変わる（あるいは兼業化）の方が一般的なのではないか。産業構造の高度化を考えるならば，第１次産業を離れた者は第２次産業あるいは第３次産業に就くのが当然であり，再び第１次産業も戻ってくるとは思えない。人々はより収益性の高い業種を求める。

④について。そもそも現代の日本において「稲作がさかんになっている」ということ自体が疑問なのだが，とくに「大都市近郊」に限定すればこれが大きな誤りであることがわかる。大都市郊外などでは，地価の高さや都市への出荷の利便性を考えて，より収益性の高い野菜などが栽培の中心となり，米などの穀物は栽培されにくい。近郊農業（園芸農業）を考えてみればいい。農業区分に関する問題の一種ともいえる。

第４講　天体としての地球　解答

［１］正解；⑥

図３を読み取る。日の出から日の入りまでの時間を示しているということは「昼」の長さを表した図と解釈する。つまり，太陽が地平線の上に出ている時間に相当する。

Ｐを判定しよう。北極圏に位置し，７月を中心とした時期に白夜，１月を中心とした時期に極夜となる。６・７月の値が24時間，12・１月の値が０時間に近いクが該当。南極圏に位置するＲはその反対でカとなる。

赤道に近いＱは，年間を通じ「昼」がほぼ12時間のキに該当する。地球は地軸を傾けた状態で太陽の周囲を公転しているが，白夜や極夜となる高緯度地域に対し,赤道付近の地域では年間を通じて太陽光を受け取る時間にほぼ変化がない。

［２］正解；（１）⑥　（２）③

（１）「地球上の距離が最長のもの」については，赤道上の線を挙げる。まずウを選択する。

さらに，およその距離を求めてみよう。ウの東端と西端の経度間隔は20度である。「経線・緯線は10°間隔」と書かれているので，これから測定できる。赤道上における地球一周の長さは40000kmであるが，地球一周すなわち360°で約40000kmなのだから，20度分なら，20／360，つまり18分の１の長さとなる。40000を18で除して解はおよそ2222。よって近似値は2200kmとなる。

（２）Ｋ点はフランス，国にこだわることはなく，ヨーロッパの反対側と考えればいいだろう。もちろん南半球であるので，①や②は消える。④のマダガスカルはアフリカ大陸の南東に浮かぶ島だが，そもそもヨーロッパとアフリカは距離的に大きく離れているわけでないし，ましてや地球の反対側ではない。正解は③のニュージーランド。ニュージーランドの鼻先を180°の経線が通過しているのだが，経度０°がイギリスを通過することを考えれば，まさにここがヨーロッパの反対側とみていいだろう。

［３］正解；②

こういった時差計算の問題では，現地の時間に直してしまうのがポイント。

例えば東京時間で20：10の時，これをホノルル時間に変換するとどうなるか。東京は19時間ホノルルの時間より早いので，逆に時計を19時間戻してあげればいい。つまり１：10である。

これが７：40に到着するのだから，飛行機に乗っている時間は６時間30分と算出できる。

バンコクについても同様に考えてみよう。東京で11：20ならば，時計を２時間戻せばバンコクの時間となる。つまり9：20である。16：50に到着するのだから，その間隔は７時間30分となる。

［４］正解；①

原則として緯度と気温年較差は比例する。高緯度のタの方が，低緯度のチより，夏と冬の気温差は大きい（実は夏はさほど変わらないのだが，冬の気温が大きく違うので，結果として気温年較差が大きくなる）。

［５］正解；①

Ｚはおおよそ北緯71度に位置している。北極圏の南限が北緯66.6度（図では66.5度が示されており，ほぼこれと一致するとみていい）だが，ここでは夏至の日に白夜となり，冬至の日に極夜となる。北極点においては白夜の期間が３月から９月までの６か月間，極夜が９月から翌３月までの６か月間であることを考えると，北緯71度においては１か月間ほど白夜や極夜が継続するのではないか。

①～④の図に対して，補助線を描いてみよう。３月後半，６月後半，９月後半，12月後半それぞれの点を下段の月のところで探し，①～④の全ての図において，それらの点から上方へと直線を引いてみる。なるほど，①・②・④の表において，３月後半と９月後半は０～６時が夜，６～18時が昼，18～24時までが夜とあり，これは昼と夜が12時間ずつとなり，まさしく春分と秋分である。さらに④のグラフで，６月後半は昼の時間が長く，12月後半は昼が短い，日本でもこのようなパターンになるので，理解しやすいだろう。夏至と冬至である。

ここで①に注目。６月後半は24時間昼となり，白夜であるが，この期間が１日だけではなく，１か月程度の比較的長い期間の間，連続していることを読み取る。極夜に関しても同様で，12月後半を中心として１か月ほど，24時間夜の状態が続いている。これを，北極圏の高緯度地域の図と判定し，Ｚは①が正解となる。

なお，②は白夜や極夜になる期間が短く，それぞれ夏至と冬至の1日ずつ。北極圏の南限に沿う町だろう。

③はちょっとかわった図だがわかるだろうか。これは北極点である。半年間白夜が続き，半年間極夜が続く。３月後半と９月後半は「昼」と「夜」の入れ替わり。地平線に沿って太陽が周回するのだ。

第５講　大気の大循環・風系の移動　解答

［１］正解；④

図３を読み取ろう。１月は南半球が夏の時期であり，地球全体の気圧帯が南下している。７月は北半球が夏の時期であり，地球全体の気圧帯が北上している。

セに注目する。南緯 35 ～ 45°の緯度帯である。１月はこの緯度帯まで「高気圧」が南下している。南半球の亜熱帯高圧帯（中緯度高圧帯）であり，下降気流が卓越し，雨の降りにくい大気の状態となる。乾燥気候の成因の一つである。

一方，７月はこの緯度帯まで「低圧帯」が北上している。これは高緯度の低圧帯であることから亜寒帯低圧帯であることがわかる。降水量は多くなり，湿潤な気候をもたらす。

以上より，乾燥する気候がみられるのは１月となり，④は誤り。そもそも７月は南半球の冬であり，「高温」も明らかな誤りである。

①について。サの緯度帯では１月も７月も「高圧帯」の影響下にある。北半球の亜熱帯高圧帯（中緯度高圧帯）である。常に下降気流が卓越し，雨が降りにくい大気の状態である。

②について。シの緯度帯では１月も７月も「低圧帯」の影響下にある。熱帯収束帯（赤道低圧帯）である。常に上昇気流が卓越し，雨が降りやすい大気の状態である。この緯度帯では，午後から夕方にかけてスコールに見舞われることが多い。

③について。スの緯度帯では，１月に「低圧帯」すなわち熱帯収束帯（赤道低圧帯）の影響が強まり，７月に「高圧帯」すなわち亜熱帯高圧帯（中緯度高圧帯）の影響が強まる。１月に多雨，７月に少雨となるため，１月が雨季，７月が乾季となる。

［２］正解；④

「低緯度帯」なので「偏西風」が誤り。「貿易風」に改める。

［３］正解；②

アフリカ大陸における赤道の位置を確認しよう。Xの島（マダガスカル島）は南半球の低緯度に位置し，南東貿易風の影響が強い。図２では７月の降水量だけが示されているが，年間を通じて東岸は湿潤であり，西岸は乾燥気候となる。なお，

マダガスカルでは多雨である東部を中心に米作が営まれている。

［4］正解；①

赤道を確認。その上でオーストラリア大陸における１月の気圧帯の位置を考える。南緯10度付近に赤道低圧帯が南下しており，オーストラリア北部（Ｙのａ）では多雨となっているはずである。ａの降水量が多い①が正解。南部（Ｙのｃ・d）ではほとんど降水がみられないが，これはこの時期に南下してくる中緯度高圧帯の影響。

［5］正解；④

アフリカ大陸に注目。赤道に線を引いてみよう。その上で１月の気圧帯の移動を考える。南緯10度付近に熱帯収束帯（赤道低圧帯）が，北緯10度付近に亜熱帯高圧帯（中緯度高圧帯）がそれぞれ位置しているはず。選択肢を参照。それぞれ０度をチェックし，低緯度における降水量分布を読み取る。北半球側で多雨となっている①と③は候補から外れ，②と④が残る。しかし②は北緯10度付近の降水量が比較的多く，適当ではない。北緯10度付近でほとんど降水がみられず，亜熱帯高圧帯（中緯度高圧帯）の影響がはっきり読み取れる④がＥの１月に該当する。

［6］正解；⑤

赤道を確認。さらにサハラ砂漠中央（アウレフ付近）に横線を引いて，北緯25度を示そう。４月や10月を中心とした時期には赤道上に熱帯収束帯（赤道低圧帯），北緯25～30度付近に亜熱帯高圧帯（中緯度高圧帯）が位置しているのだが，これが７月を中心とした時期には北上し，熱帯収束帯（赤道低圧帯）は北緯10～15度付近に，亜熱帯高圧帯（中緯度高圧帯）は北緯35～40度付近に，それぞれ移動する。７月に少雨となるＸが北緯40度付近に位置するマドリード，１月に少雨となるＹが北緯15度付近に位置するダカールとなる。マドリードは冬に降雨がみられるが，これは偏西風や亜寒帯低圧帯の影響。ダカールは夏に大量の降水があるが，これは熱帯収束帯（赤道低圧帯）のもたらすスコールによるもの。

Ｚがパリであるが，偏西風や暖流（北大西洋海流）の影響により，年間を通じて降水量にほとんど変化がない。西ヨーロッパのような大陸西岸・中高緯度地域の気候パターン。

第６講　季節風・東岸と西岸の気候　解答

［１］正解；④

本問は「日照時間」が問われている。降水量の多い時期，すなわち空が雲によって覆われやすい時期には日照時間は短く，雨が降らない時期，すなわち雲の少ない時期には日照時間が長くなることをおさえておきたい。

ムンバイはインド半島西岸の都市。季節風（モンスーン）帯に位置し，夏は海洋からの南西季節風，冬は内陸からの北東季節風が卓越する。６月から９月に降水が集中し，他の時期にはほとんど雨が降らない。

よってムンバイは７月の日照時間が短くなる一方で，１月の日照時間はとくに長くなると考えられる。④が該当する。

他の都市では，オスロが特徴的である。オスロはノルウェーの都市であり緯度が高い。地軸の傾きから，高緯度地域では季節による「昼」（日の出から日の入りまでの時間）の長さの違いが大きくなり，夏は「昼」の時間が極端に長く，「冬」は極端に短い。したがって，７月と１月とで日照時間に大きな差がある②が該当。

残ったローマとシドニーは中緯度の都市であり，季節による「昼」の長さの違いはあまりみられないため，ムンバイと同様に降水の様子を考える。ローマは夏に亜熱帯高圧帯（中緯度高圧帯）の影響によって降水が少なくなる地中海性気候の都市であり，夏の日照時間が長く，冬は短い。①に該当。

シドニーは東京と同様に中緯度の大陸東岸に位置。夏に降水が多いものの，冬にも一定の降水はあり，年間を通じて日照時間には大きな差はない。③が該当する。

［２］正解；③

ヤンゴンはベンガル湾に面し，モンスーンの影響を受ける。夏季は南西モンスーンによってもたらされる湿った空気が山地にぶつかり雲を生じ，降水量が極めて多い。逆に冬季は北東モンスーンによって乾季となる。

①はジャカルタ。南半球の低緯度に位置し，１月を中心とした時期は熱帯収束帯（赤道低圧帯）影響で多雨，７月を中心とした時期は亜熱帯高圧帯（中緯度高圧帯）の影響で少雨。

②はシンガポール。赤道に近く，年間を通じ熱帯収束帯（赤道低圧帯）の影響が強い。

④はカラチ。南アジア西部は降水量が少ない。

［３］正解；①

まず松江を判定する。日本列島の日本海側に位置し，冬季の降水量が多い。③が松江。

さらに最も高緯度に位置するハバロフスクでは寒冷な気候がみられると考えていいだろう。冬季の平均気温が－20℃にまで低下する④がハバロフスク。なお，この都市に典型的であるように，シベリア南部では１月の平均気温が－20℃にまで低下することを知っておくといい。

残った①と②であるが，緯度的にはソウルよりペキンの方がやや高緯度であり，気温が低いのではないか。また，より内陸部に位置し，シベリア高気圧の影響を強く受けることからペキンでは冬季の降水量は極めて少ないのではないか。総合的に判断し，①がペキン，②がソウルとなる。

なお，中国においては華北と華中の境界付近に年降水量1000mmの等値線が通過することがよく知られている。華北に位置するペキンも年降水量1000mmに満たない，やや少雨気候となる。①のグラフは年間の降水量についても妥当である。

［４］正解；④

東京とリスボンに注目。東京の気温年較差は20℃。大陸東岸では比較的寒暖の差が大きい。リスボンについては，同じ大陸西岸・緯度35～40度の都市としてサンフランシスコの気候に近似すると考える。サンフランシスコの気温年較差は10℃に満たず，リスボンについてもこのぐらいの値になるだろう。西端で10℃，東端で20℃のものを選び，④が正解。東経90度付近の大陸内部で極めて気温年較差が大きくなっている様子も確認。大陸性気候である。

［５］正解；③

北半球高緯度の値が０℃を下回っているアとイが１月，残るウとエが７月。アとイについては北緯50度付近がポイント。アでは－20℃を下回り，イでは約０℃。Ｘの北緯50度付近は西ヨーロッパであるが，偏西風や暖流の影響で比較的温暖な気候がみられる。Ｘの１月がイ。一方，Ｙの北緯50度はユーラシア大陸東部のシベリア内陸部。冬季に極端に低温となる地域であり，１月の平均気温も－20℃を下回る。Ｙの１月がア。

さらにウとエの判定。似たようなグラフとなっているが，明確に違っているのは北緯20度付近。月平均気温30℃に沿って縦線を引くとはっきりとわかるのだが，ウにおいてはこの緯度帯の気温が異常に高い。月平均気温が30℃を超えるとい

うのは非常に稀なことであり，例えばほぼ赤道直下のシンガポールですら，周囲を海で囲まれていることからそこまでの高温とならない。このような特殊な高温がみられる場所として，大陸内部の乾燥地域を考えてみよう。こうしたところならば日中の気温が40℃を超えるようなケースも頻繁にあるだろうし，その数字に引っ張られることで全体の平均気温も上昇する。Ｘの北緯20度付近にはサハラ砂漠が位置しており，月平均気温が30℃に達する可能性は十分にあるだろう。ウがＸの７月となり，残ったエがＹの７月となる。

［6］正解；②

カに注目。春から初夏にかけての時期に一気に増水するのは寒冷地域の河川の特徴。融雪と融氷の影響である。カがＬに該当。

さらにクに注目。年間を通じて流量が少ない。乾燥地域を流れる河川（外来河川）であり，Ｍが該当。アメリカ合衆国の西半部には広く乾燥気候がみられる。Ｍはコロラド川であり，中流でグランドキャニオンを刻んでいることで有名。

消去法でキがＮとなる。

第７講　海流・土壌・植生　解答

[１]正解；③

Ｊのシベリア東部は亜寒帯（冷帯）地域。低温のため蒸発量が少ないことから水分が地下に浸透し，土壌の色素を溶脱する。灰白色のポドゾルが分布しており，③は誤りとなる。褐色森林土は日本など温帯地域の土壌である。

①について。大陸性気候がみられる。最暖月平均気温は10℃に達するが，最寒月平均気温は－30℃より低下するところもあり，気温年較差は40℃を超える。

②について。夏は比較的高温であり，海洋から水分も供給され，比較的降水量が多い。一方，冬は極めて寒冷となり大気が収縮し気圧が上昇し，シベリア高気圧が形成される。空気中の水分量も少なく，ほとんど降水はみられない。

④について。亜寒帯（冷帯）の主な植生は針葉樹。タイガとよばれるモミなどの純林が広がる。

[２]正解；③

南半球における海流の大まかな流れ方は「反時計回り」。太平洋ならば，西側のオーストラリア大陸東岸を暖流が南下し，東側の南アメリカ西岸を寒流が北上する。選択肢③に注目。「南アメリカ大陸」を基準に考えるならば，寒流の影響を受けるのは西岸であり，東岸ではないので，これが誤文。図をみてもそのことは確認できる。例えば南緯35度付近に注目すると，東岸のアルゼンチン北部付近の海水温は24℃程度であるのに，西岸のチリ北部付近では16℃となっている。

[３]正解；④

ステップとは「草原」のこと。植生に関する言葉はしっかり覚えておこう。原則として森林はみられないので，「落葉樹林」ではなく「草原」が正解。

なお，「サバナ」とは熱帯草原のことだが，ここにみられる植生は「疎林と長草草原」。広く草原が広がるが，一部に樹木も点在している。

[４]正解；②

▲は温帯地域であり，褐色森林土が分布。

消去法で考えてみよう。

熱帯の土壌であるラトソル。高温多雨の自然環境。高温であるため植物の分解

のスピードが速く，有機物（腐植）に乏しい。わずかな栄養分も大量の降雨によって流出する。土中の金属が酸化し，赤色を呈している。①がラトソルの説明。

乾燥帯の土壌である砂漠土。過度な蒸発によって地表面に塩類が集積し，塩害の被害も。こちらはアルカリ性の土壌（おおまかに湿潤地域が酸性，乾燥地域がアルカリ性と覚えておく）。「砂漠＝植生なし」であるので，そもそも腐植が形成されない。③が砂漠土の説明。

亜寒帯（冷帯）の土壌であるポドゾル。気温が低く蒸発量が少ない地域。色素が溶脱され灰白色となる。湿潤土壌なので酸性土壌。④がポドゾルの説明。

消去法で温帯の土壌（褐色森林土）は②となる。やや降水量が多い地域なので，化学的特徴は中性から弱酸性となる。植生は豊かな地域でもあり，腐植層も十分に形成されている。

［５］正解；③

まず土壌の判定。

①；褐色森林土。温帯地域に広く分布する土壌で，枯れた樹木が腐植となっている（黒土においては枯れた草が腐植となるのと対照的）。腐植が比較的豊富であるので，土壌もやや黒に近い色（褐色）となっている（これも，腐植が極めて豊富な黒土が文字通り黒い土壌であるのと対照的）。

②；ポドゾル。亜寒帯（冷帯）地域に広く分布する。ポイントは「溶脱」と「灰白色」。蒸発作用が少ないところで，土壌が長時間湿っていることにより色素が溶脱されてしまう。

③；砂漠土。「塩類の集積」が見られるのは乾燥の度合いが激しい地域である。雨水や灌漑用水などが土中に染み込み，地下の塩類（カルシウムなど）を溶かし込む。そうしてできた水溶液が蒸発する際に（水分は空中へと蒸発するが）塩類を地表面へと持ち上げ，土壌が強アルカリ化する（水酸化カルシウムなど）。

④；ラトソル。高温多雨の熱帯地域に分布する。酸化した金属を含んだ赤色の土壌である。

以上のことを十分理解した上で，図を参照しよう。

Ｐ；アメリカ合衆国東部。とくに五大湖より南側の地域であり，温帯。褐色森林土が該当。正文。

Ｑ；北欧（フィンランド）で亜寒帯（冷帯）気候がみられる。ポドゾルの説明で正文。

Ｒ；黒海の北岸，ウクライナ周辺。ここには肥沃な黒土の一種であるチェルノー

ゼムが分布し，砂漠土は該当しない。誤文である。黒土の分布する地域には半乾燥気候がみられるのだが，さすがに砂漠ほど乾燥の度合いが高くはならない。冷涼な地域であり，蒸発量が少ないので，そもそも強い乾燥は生じにくいところでもある。

S；ギニア湾に面するエリアで熱帯雨林。熱帯地域は熱帯雨林からサバナ（熱帯草原）にかけてラトソルがみられ，④は正文。

［６］正解；②

地中海性気候である。全体の降水量が少ないことに加え，とくに夏季の降水がほとんど見られない。乾燥に強い樹木栽培を中心とした農業（地中海式農業）が営まれている。このような地域の植生は「硬葉樹」。葉は細長く硬く，過度な水分蒸発を防ぐものとなっている。オリーブなど。

第８講　大地形　解答

［１］正解；④

Ｅから判定しよう。太平洋の外周には海溝が広く分布し，Ｅの南アメリカ大陸西岸もそれに該当する。ペルー海溝やチリ海溝が走行する。高度－8000m に達するような極めて深い「溝」を海溝と考え，アがＥの断面図に該当する。消去法でイがＤである。

また，海溝については，海洋プレートが大陸プレートの下に潜り込むことよって形成されたものであり，Ｅの説明文としてはＧが該当する。Ｄの説明文はＨであり，ヒマラヤ山脈やチベット高原などの巨大な褶曲山脈がみられる。これらの山脈や高原には火山が分布しないこともおさえておきたい。

［２］正解；④

Ｑ側から，インド半島→ヒマラヤ山脈・チベット高原・クンルン山脈→タリム盆地→テンシャン山脈と連なり，さらに北部にはシベリアの平原がひろがる。正解は④だが，チベット高原を中心とした巨大な山塊，さらに中央付近に位置するテンシャン山脈(古期造山帯ではあるが，標高が高い)を目で捉えよう。

［３］正解；③

南アジアのヒマラヤ山脈には火山はみられない。

［４］正解；①

ヨーロッパは「北でなだらか，南で急」な地形がみられる。平原が多く河川勾配が緩やかであるため(さらに降水量変化も小さいので流量もほぼ一定)北部では河川を利用した内陸水運が発達しやすいのに対し，山がちで急流が多い(しかも地中海性気候であるため，夏季は流量が少なくなる)南部では河川は船舶の航行には適していない。「ウラル山脈」については古期造山帯であることをぜひ知っておこう。ロシアの山脈で，これより東側が一般にシベリアと呼ばれる。ヨーロッパ北部はなだらかな地形なのだが，この地域に存在する山脈も全体に標高が低い丘陵状の古期造山帯。ノルウェーのスカンジナビア半島，イギリスのペニン山脈がその例であり，①が正解となる。他の②～④の山脈については全て新期造山帯。

［5］正解；④

　インド洋のややアフリカ大陸に近い海底には海嶺がみられる。プレートの広がる境界である。なお，この海嶺の北への延長上に紅海（アフリカ大陸とアラビア半島の間の狭隘な海域）が連なっていることに注目。紅海もプレートが広がることによって形成された海域なのである。

［6］正解；①

　大陸とイギリスの間には大陸棚が広がり，水深の浅い海域に北海がある。さらにアイスランド島は海嶺上に形成された火山島であり，プレートの広がる境界に沿う。①が正解となる。なお，④については大陸棚がアイスランド島まで続いているが，これはあり得ない。海嶺は大洋底（一般に水深4000～6000ｍの深海）に形成された海底からの比高2000～3000ｍほどの巨大山脈であり，大陸棚とはスケールが違う。

第９講　特殊な地形・海岸地形　解答

［１］正解；④

選択肢の文章からそれぞれの地形を特定しよう。①は沿岸流によって運ばれた土砂の堆積による地形なので，砂嘴や砂州を考える。これに該当するのはＧ。かつて外海に向けて大きく開けていた入り江が，現在は砂の堆積地形によって閉じられようとしている。入り江を閉じるように陸地から細長く突き出した地形がいくつかみられるが，これが砂州である。

②と④は内容が似ているが，違いに着目する。②は「河川」の侵食だが，④は氷食，すなわち「氷河」による侵食である。よって，②はリアス海岸，④はフィヨルドと考えられる。いずれも複雑な海岸線がみられる地形だが，リアス海岸はのこぎり状の形となるので，②はＤに該当する。日本にもみられる地形である。フィヨルドは深く内陸側に入り込んだ狭い湾となるので，④はＥに該当する。氷河が削った谷（その断面の形状からＵ字谷ともよばれる）に海水が侵入して形成されたもので，日本にはみられない地形。以上から，④が正解となる。

残った③はＦ。これはエスチュアリーで，河口部に海水が侵入して形成されたラッパ状の入り江である。波が静かで天然の良港に適した地形となる。リアス海岸やフィヨルドは周辺が急峻な地形であり平坦な土地に乏しい一方で，エスチュアリーは背後に広い平野が広がることが多く，農業地帯や大都市の立地がみられる。

［２］正解；④

カはフィヨルド。氷河の侵食谷（その断面の形状からＵ字谷と呼ばれる）に海水が侵入することで形成された細長い入り江（狭湾）。かつて氷河に覆われていた高緯度地域特有の地形である。ここでは南アメリカ大陸南端のＲが該当。

キはエスチュアリー。河口部に海水が侵入し，ラッパ状の入り江となったもの。ラプラタ川河口に典型的にみられ，Ｓが該当。水深が深いため天然の良港となり，さらに後背地が広く平野に恵まれるため，大都市が立地しやすい。ブエノスアイレスはその典型例。

クは三角州（デルタ）。河川の運搬した土砂（主に目の細かい砂泥）が沿岸の浅海に堆積することで陸化する。タイの沿岸部にはチャオプラヤ川の形成した三角州が広がる。Ｑが該当。

［３］正解；①

　サは大きく丸いスプーンでえぐったような形となっている。南から北に向かって傾斜する深い椀状の谷であり，カールと呼ばれる地形。

　さらにシは河川が流れる谷であるが（湖とそこから流れ出る河川を青く着色してみよう），底面は平坦に近いのに対し，それを取り囲む斜面は急傾斜で切り立っている。断面がU字型になっているのがわかるだろうか。

　なお，ホルンとは尖峰のこと。氷河の侵食によって，山頂が尖った形で取り残された。V字谷は，河川による侵食谷である。

［４］正解；④

　海面において，海を青色，陸地を茶色，サンゴ礁を赤色で塗ってみよう。

　最初の段階がB。陸地にサンゴ礁が接している状態。これを「裾礁」という。日本の南西諸島や沖縄諸島によくみられる段階。

　次の段階がC。堡礁である。陸地が沈降していくのだが，もともと島の沿岸にあったサンゴ礁がそのまま成長し，島を取り囲むような形になっている。オーストラリア大陸北東岸の大堡礁（グレートバリアリーフ）は有名。

　最後の段階がA。島が完全に沈み，サンゴ礁に囲まれた水域が形成されている。環礁であり，中央の水域を礁湖という。南太平洋にしばしば見受けられる。

　なお，この環礁の段階から，全体が隆起し再び陸化することがある。これが隆起サンゴ礁。あたかも「盆」のような形状である。熱帯地域の島の多くはこうした隆起サンゴ礁であり，日本にもみられる。標高が低いので，海面上昇の被害を大きく受けてしまう。

［５］正解；④

　選択肢④参照。「干潟」という言葉が登場している。干潟とは，潮の干満の差によって，海面上となったり海面下となったりする浅海底で，砂や泥（粘土）など目の細かい土砂が堆積している。満潮時には海水におおわれ，干潮時には水が引いて陸地となる。ただし，本問の地形図において沿岸部にみられる海底地形は「岩礁」である。1997年の図において，「宮良湾」という文字を取り囲むように描かれている地図記号は「隠顕岩」である。一般に，海岸線から隠顕岩までの範囲を岩礁と考える。干潮時は海面上，満潮時は海面下となる点は干潟と同じであるが，干潟が泥地であるのに対し，岩礁は岩地である。つまり本図の中に干潟はみられず，干潟が改変されるわけもない。④が誤りとなる。

他の選択肢についてはとくに考慮しなくてよい。①のような特殊な地図記号は基本的には正解の選択肢にはならないので覚える必要はないだろう。②については，鉄道をそのまま図中から探すだけ。③については，土地利用記号が問われているが，「荒地」，「畑・牧草地」はチェックしておこう。

[６]正解；⑥

かつては陸地から離れた島であったのに，砂の堆積作用によって陸地とつながってしまった半島(岬)の部分を「陸繋(けい)島」という。陸地と陸繋島をつなぐ砂の堆積地形を「陸繋砂州」という。

付近に河川があり，そこから海に向かって土砂が吐き出される。それが沿岸を流れる小さな海水の流れ(沿岸流)や波によって運ばれ，浅い海底に堆積し，やがて陸化する。これが「砂州」である。陸繋砂州についてももちろん成因は同様。

はじめに

文責；地理　鈴木達人

①　地理とは何か

地理の講座を担当する鈴木です。下の名前はたつじんと言います。たつじん先生あるいはたつじんと呼んでくれると，とても嬉しいです。

さて，地理とは何なのでしょう。地理は社会の一部です。我々を取り巻くものが社会なわけですが，そのうち人間の手の及ばないもの，人間の力を超えたものが地理なのです。歴史や倫理，政治は人間が作ったものです。それに対し，地理とは「風が吹き，雨が降り，作物が実り，人口が増えていく」ことであり，「お金が巡り，人が移動し，貿易がなされ，都市が形成されること」なのです。これらは全て人間の意志によってなされる現象ではなく，自然科学や社会科学と呼ばれるものです。そう，地理は科学（サイエンス）なのです。さまざまな事象について科学的な視点で解析し，そこに法則性や論理性を見出していくことが重要です。科学的な目を養うことを地理学習の目標にしましょう。

②　講座について

この「地理」講座では，共通テスト対策を中心としつつも，広く地理全般をカバーしています。みなさんの中には共通テスト対策だけではなく，私大や国公立二次の対策として本講座を受講している人も多くいると思いますが，もちろん大歓迎です。この講座を通じ，地理という科目の全体像を捉え，地理的な思考法を身につけることができると思いますし，それは全受験生にとって非常に重要なことです。言うまでもなく，私大の場合は地名や都市名もしっかり覚えないといけませんし，国公立二次ならば論述の力も鍛えないといけませんが，まずはこの講座をきっかけとして「サイエンス」としての地理の世界を楽しんでください。ベースを固めてこそ，発展への飛躍があるのです。

もちろん共通テストでのみ地理を受験するみなさんにとっては，よりジャストミートな内容になっています。共通テストは旧来のセンター試験の内容を引き継ぎ，さらに思考力が重視されながらも，大きく傾向が変わったところはありません。これまでに行われた共通テストのみでなく，それ以前に実施されたセンター試験の問題を含め分析と研究の対象とし，さらに深い理解へとつなげていきましょう。

本講座では，入試に必要となる地理のエッセンスを全 20 講に過不足なくまとめました。地理は容易に満点が取れる科目ではありませんが，この講座の内容をしっかり理解すれば，必ずや貴方の目標とする点数に達することができるはずです。心して取り組んでください。

③　授業について

この講座は20の講から成り立っており，地理のエッセンスが凝縮されています。原則としてそれぞれの講は独立しており，どれから受講しても構わないのですが，「１人当たりＧＮＩ」の概念を掴むことは大切ですので，まず第１講からスタートすることをお勧めします。また第４講と第５講は地球規模の気候の話ですが，連続して受講した方が理解しやすいと思います。授業は練習問題の解説を中心に進んで行きます。とはいえテキスト部分も重要ですので，あらかじめしっかり読んでおいてください。また練習問題についても，解く必要はありませんが，事前に目を通しておいてください。問題の内容を把握しておかないと，授業に付いて来れなくなりますよ。また，それぞれの講は３つのチャプターから成り立っていますが，説明が複数のチャプターにまたがっていることも多いので，必ず順番に全てのチャプターを視聴してくださいね。

④　準備するもの

赤ペン，青ペン，蛍光ペン，定規といった作業道具を用意してください。授業は練習問題の解説を中心に進みますが，その中に多くの文章，グラフ，図が登場してきます。文章ならば，ポイントとなる語句を強調しましょう。グラフならば，より読み取りがスムーズになるよう補助線を描いてみましょう。図ならば，重要な国や地形，都市の位置を直接書き込んでみましょう。もちろん本番の試験ではそういった色ペンや定規の類は持ち込むことはできませんが，今は訓練の段階です。問題の中に直接書き入れることによってイメージをふくらませ，理解を助ける手段とするのです。地理の問題は即答できるものは少なく，いずれも解答に十分な時間を必要とするものばかりです。一つ一つの問題について，線を書き入れ，着色し，作業することによって深い洞察力を養うことが大事なのです。

なお，教科書，地図帳，統計要覧，資料集などについてはとくに必要としません。テキストに集中し，その内容を全て吸収するつもりで受講してくれると大変嬉しいです。

⑤　予習・復習について

授業を受けるにあたり，必ず予習はしてくださいね。まずテキスト部分をじっくり読み込みましょう。語句を暗記することが学習のポイントではありませんので，あえて語句を太文字や下線部で強調しているようなことはしていません，それより，文章をしっかり読み込み，内容を理解することが最優先です。[知っておこう] や「チェック！」についても，直接テストで問われる事項が説明されているので，ぜひ読んでおきましょう。テキストを一つの読み物として楽しんでもらえるととても嬉しいです。事前に内容を把握しておけば，授業の中で「あ，たつじん先生は今この部分についてしゃべっているんだな」というように，授業の流れが掴みやすくなると思います。

さらに，練習問題にも目を通して置いてください。各講について10問程度の練習

問題がつけられています。発展的な内容を含むものもあり，解くのは難しいかも知れませんが，簡単で構いませんので内容だけは事前に確認しておいてください。授業は問題解説が中心になりますので，問題内容を把握しておいた方が学習効果が高くなります。おもしろい問題ばかりなので，楽しみながら勉強できると思いますよ。

なお，それぞれの問題には出典が示してあります。過去 30 年分以上のセンター試験（共通一次を含む）・共通テストから選りすぐった問題ばかりです。共通テスト地理の傾向はセンター地理と変わりませんので，センター試験の過去問研究は非常に有効な対策となります。さらに，いずれの問題も質が高く，私大や国公立二次の内容にも対応しているので安心してください。また，中には年次の古い統計を利用した問題もありますが，これについても気にしないでください。統計についても一つ一つを暗記するのではなく，その傾向や特徴を分析することが重要であり，古い統計であっても十分に価値があります。

さらに受講後はぜひとも確認問題にチャレンジしてみてください。授業の内容で十分に解答できるものが主ですが，一部には発展的な内容を含むものもあります。解説を読みながら，細部までしっかり理解してくださいね。そしてある程度マスターできたなと実感できたら，もう一度テキストをじっくり読み返し，さらに練習問題に再度チャレンジしてみましょう。地理に関する様々な事象が頭の中でつながって，「なるほど,そういうことなのか」と気づくことが多いと思いますよ。地理はあくまで「社会」すなわち身の周りのことを学習する科目です。今日習ったことを，自分の周囲の状況に当てはめて,一つ一つ納得しながら,先に進んでください。この授業で得たこと，そして地理的な思考が，君たちにとって最高の宝物にならんことを期待しています。

⑥　最後に

この授業を通じて，「地理っておもしろいな」って少しでも思ってもらえたら最高です。みなさんの知的好奇心を刺激し，さらなるモチベーションアップへとつなげることも目標の一つにしています。もちろん授業は受験に特化した内容であるので，時には演出効果も狙って極端な物言いになっている部分もあります。世間一般的な常識や事実とは異なった発言もしているかも知れません。でもそれは許してくださいね。たつじん先生はあくまで地理の思考法をみなさんに提示しているのです。純然たる地理学や学校の教科書の内容とは異なっているので，そこを疑問に思う人もいるかも知れません。しかしそういった人はぜひ大学に入ってから専門の本を読んで，本当の地理の世界を勉強してみてください。それはとても素晴らしいことです。

とにかく「受験突破」。この言葉をひたすら心に念じて，勉強に取り組みましょう。大学合格は決して簡単なことではありません。時には打ちひしがれ，気持ちが乱れることもあると思います。しかし。たつじん先生はいつでも君たちの味方です。授業を通じて，君たちに情熱とパワーを送ります。一緒にがんばりましょう！

目　次

第10講　ホイットルセー農牧業区分 ……………………………… p6

第11講　農畜産物統計・農業の問題点 ………………………… p32

第12講　資源エネルギー・発電 ………………………… p60

第13講　工業・工業製品統計 ………………………… p84

第14講　貿易・国際関係 ………………………… p112

第15講　都市構造 ………………………… p142

第16講　東京大都市圏・国内の人口流動 ………………………… p162

第17講　先進国と発展途上国の都市 ………………………… p186

第18講　環境問題・災害 ………………………… p206

第19講　日本社会の変容・生活文化 ………………………… p226

第20講　民族・宗教 ………………………… p252

〈 ***Note*** 〉

第10講
ホイットルセー農牧業区分

農牧業分類は非常に重要。まずは区分の基準となる考え方を理解し，さらに入試で出題される12種類の農牧業区分の名称や特徴を知る。ホイットルセーによる農牧業区分を元にしたものである。気候や自然環境の特徴，農作物や家畜，さらにそれが実際に行われている地域など細かいところまで問われるので注意。

１０．１　集約的な農牧業と粗放的な農牧業

集約的・・・土地生産性（1 ha当たり収量。収量÷水田や畑地の面積）の高い農牧業。気候や土壌に恵まれたアジア，近代的な農牧業が行われるヨーロッパなど。人口密度も高い。

粗放的・・・土地生産性の低い農牧業。環境条件の厳しい熱帯や寒冷地，大規模な農場の多い新大陸（農地面積と反比例することに注意）。人口密度は低い。

＜チェック！＞

集約的な農業は，人口密度の高いアジア，さらに農地の面積が限られるオアシス農業や園芸農業地域でみられる。

１０．２　自給的な農牧業と商業的な農牧業

自給的・・・アジアやアフリカなど伝統的な農牧業地域。小麦や米は原則として栽培地域で消費されることを目的につくられる。

商業的・・・ヨーロッパや新大陸など近代的な農牧業地域。農畜産物の輸出がさかん。例えば小麦の上位輸出国は，新大陸とヨーロッパの国々。

＜チェック！＞

アフリカでみられるプランテーション農業は「商業的」な農業形態であるが，だからといってアフリカを商業的な農業地域とみなしてはいけない。自給作物の生産は十分ではなく，輸入にも頼っている。穀物輸出が盛んな地域ではなく，「自給的」と考える。

１０．３　家族中心の零細経営的な農牧業と企業的な農牧業

家族中心の零細経営的・・・アジアやアフリカ，ヨーロッパ南部など伝統的な農牧業地域では家族単位で農牧業が営まれる。農業就業人口率は相対的に高く，労働生産性（１人当たり収量。収量÷労働者数）は低い。

企業的・・・新大陸でみられる大資本を投下した農牧業形態。大規模機械化が進行し省力化が進むため，相対的に農業就業人口率は低くなる。労働生産性は高い。

１０．４　有畜農業と無畜農業

有畜農業・・・遊牧や企業的牧畜など作物の栽培が困難で家畜の飼育に依存する農業形態の他，ヨーロッパの農業も原則的に有畜となる。地力に乏しいため，飼料作物を栽培し家畜を飼育することで，その排泄物を肥料として用いることができる。

無畜農業・・・焼畑やプランテーション農業など熱帯地域の農業（高温多雨で不衛生な環境条件），企業的穀物農業（小麦は家畜の飼料とならない）。

［知っておこう］

フィードロットとは「集中肥育場」の意味。一般に粗放的であるアメリカ合衆国やオーストラリアにおいて例外的に「集約的」に家畜の飼育が行われる場所。規模の小さな牧場を考えるといい。アメリカ合衆国の場合，西部の放牧地域で成長した牛が，このフィードロットに運ばれ，そこで濃厚飼料を与えられることによって十分に肥育される。以前はコーンベルトにこの施設は多く見られたが，現在は全米各地にある。穀物が飼料として大量に消費されている様子を考えよう。

１０．５　ホイットルセー農牧業区分（１）；伝統的な農牧業形態

・焼畑農業；熱帯雨林地域で行われる。地力に乏しいため樹木を焼いた灰を用いて農業を行い，数年ごとに耕地を移動する。主に栽培されるのはキャッサバなどのイモ類やソルガムなどの雑穀類。［粗放・自給・家族・無畜］

・遊牧；穀物栽培が困難な地域で行われる。亜寒帯（冷帯）・ツンドラ地域など北半球の寒冷地域ではトナカイ，乾燥地域ではラクダや羊，高地ではチベット高原・ヒマラヤ山脈でヤク，アンデス山脈でリャマ・アルパカ。［粗放・自給・家族・有畜］

・オアシス農業；砂漠地域で行われる伝統的な灌漑農業（天水に頼らず，人為的

に水を耕地に与える農業)。水が貴重であり，耕地面積が限られるため集約的な農業形態となる。自給作物としては乾燥に強いナツメヤシや小麦など。商品作物としては綿花など。ラクダや羊などの家畜飼育を伴う場合も。[集約・原則として自給だが一部では商業・家族・有畜]

１０．６　ホイットルセー農牧業区分（２）；アジアの農牧業

・集約的稲作農業；中国南半部・東南アジア・インド東半部など降水量が多い地域で行われる。沖積平野に水田が開かれ稲の栽培。山間部には棚田も。自給的稲作農業ともいう。年降水量1000mm以上の地域。[集約・自給・家族]

・集約的畑作農業；中国北半部，インド西半部などやや降水量が少ない地域で行われる。小麦や綿花の栽培。年降水量1000mm未満の地域。自給的畑作農業ともいう。[集約・自給・家族]

１０．７　ホイットルセー農牧業区分（３）；ヨーロッパの農牧業

・酪農；バルト海沿岸など北ヨーロッパでみられる。乳牛の飼育，生乳と乳製品の生産。大陸氷河に土壌が削られ，穀物栽培に適さず，牧草地となる。移牧も酪農の一種。[集約・商業・有畜]

・混合農業；ドイツやポーランドなど北部ヨーロッパの平原。ライ麦やジャガイモなど飼料作物と豚など家畜飼育を有機的に組み合わせる。地力に乏しいため，豚の排泄物を肥料として利用。商業的混合農業ともいう。[集約・商業・有畜]

・地中海式農業；夏季乾燥する気候に適応した耐乾性の樹木栽培に特徴がある。ブドウやオリーブなど。家畜はヤギ。[やや粗放的で自給的な傾向がある・有畜]

＜チェック！＞

大陸氷河の影響により，ヨーロッパにはやせた土地が広がっている。地力の低下を防ぐために中世ヨーロッパで行われていた農業形態が三圃式農業。夏作地（主に大麦），冬作地（主に小麦），休耕地に土地を三区分して行う農業形態。やがてこの農業形態は家畜飼育を伴う酪農や混合農業に発展し，現在はみられなくなった。

１０．８　ホイットルセー農牧業区分（４）；新大陸の農牧業

・企業的穀物農業；小麦栽培に特化した農業形態で，主に新大陸でみられる（旧大陸でもウクライナなど）。プレーリー土やチェルノーゼムなどの肥沃な土壌の分布と結びつく，大規模な農業。おおよそ年降水量500mmの一帯。商業的穀物農業ともいう。

・企業的牧畜；主に新大陸で行われる大規模な牧畜。比較的降水量が多い地域では肉牛が，少ない地域では毛羊が，それぞれ放牧されている。とくに肉牛については冷凍船の就航とともに急速に普及した。企業的放牧，粗放的牧畜ともいう。

＜チェック！＞

練習問題［９］の図で，③の数字が書かれているのがサウスダコタ州で，その一つ北がノースダコタ州。イの文字が描かれているカナダ・マニトバ州南部などと並び，北アメリカ大陸の春小麦地帯となっている。サウスダコタ州の２つ南がカンザス州。こちらは冬小麦栽培の中心。トルネード（竜巻）にもしばしば襲われる。

［知っておこう］

企業的牧畜の代表的な地域にオーストラリア大陸がある。当初は毛用羊の飼育から始まったが，やがて冷凍船の就航で遠方までの輸送が可能となったことから肉用牛の飼育も始められた。

内陸部のグレートアーテジアン盆地では毛用羊であるメリノ種の放牧がさかんに行われている。被圧地下水（不透水層に挟まれた地下水）が豊富な地域で，井戸を掘り抜くことによって地下水を自噴させている。

牧牛地域は東部の海岸沿いなど降水量の多い地域。

なお，これらの羊や牛は外来種としてこの大陸へと持ち込まれたもの。オーストラリアの先住民であるアボリジニーは牧畜を行わず，狩猟・採集を営んでいた。

１０．９　ホイットルセー農牧業区分（５）；近代に成立した農牧業

・園芸農業；穀物以外をつくる農業。近郊農業と輸送園芸（遠郊）農業とに分けられる。狭い土地で集約的に収益性の高い作物（野菜や果実，肉類など）が生産され，都市部で販売される。

・プランテーション農業；熱帯・亜熱帯地域に開かれた大農園で特定の商品作物が栽培される。単一栽培（モノカルチャー）が行われている。この大農園は，資

本家によってつくられているので最初は民営であるが，植民地の独立や革命によって国営化されている。

<チェック！>

園芸農業が行われている国にオランダがある。野菜や肉類，乳製品の生産と輸出は多いが，小麦は輸入に依存しており，穀物自給率が低い。

[知っておこう]

農牧業における重要な概念に「土地生産性」と「労働生産性」がある。

土地生産性が高い農牧業を集約的といい，低い農牧業を粗放的という。農地（耕地）1 ha当たりの収量を考えよう。

労働生産性は，企業的な農牧業において高くなり，家族中心の零細経営的な農牧業で低くなる。農牧業従事者１人当たりの収量を考えよう。

一般的にみて，アジアの農牧業は土地生産性が高く，労働生産性が低い。一方，新大陸の農牧業は土地生産性が低く，労働生産性が高い。

（注意！）

他の講では「農業」と一括りにしてしまっているが，この講だけは「農牧業」としている。ホイットルセー農牧業区分においては，農業と牧畜をはっきりと分けることが必要なのだ。「オーストラリアのグレートアーテジアン盆地で農業が行われている」といったような文の正誤が問われた例があったが，ここで行われているのは牧畜（企業的牧畜）であり，農業ではない。誤文である。このように細かな部分にも注意を払って解いていこう。

ワンポイント

12種類の農業区分について特徴を整理してみよう。一般には自給的農業（焼畑・遊牧・オアシス農業・集約的稲作農業・集約的畑作農業），商業的農業（酪農・混合農業・地中海式農業・園芸農業），企業的農業（企業的穀物農業・企業的牧畜・プランテーション農業）に分類されるが，そもそも企業的農業にも商業的な要素があるなど区分が明瞭でないこともあり，こちらのような考え方で特徴を明確にした方が分かりやすい。

		土地生産性	生産物の種類	経営規模	家畜の有無
A－1	焼畑農業	粗放	自給的な生産	家族中心の零細経営	無畜
A－2	遊牧	粗放	自給的な生産	家族中心の零細経営	有畜
A－3	オアシス農業	集約	(＊＊)	家族中心の零細経営	有畜
B－1	集約的稲作農業	集約	自給的な生産	家族中心の零細経営	・・・
B－2	集約的畑作農業	集約	自給的な生産	家族中心の零細経営	・・・
C－1	酪農	(＊)	商業的な生産	(＊＊＊＊)	有畜
C－2	混合農業	(＊)	商業的な生産	(＊＊＊＊)	有畜
C－3	地中海式農業	(＊)	(＊＊＊)	(＊＊＊＊)	有畜
D－1	企業的穀物農業	粗放	商業的な生産	企業的な大規模経営	無畜
D－2	企業的牧畜	粗放	商業的な生産	企業的な大規模経営	有畜
E－1	園芸農業	極めて集約	商業的な生産	(＊＊＊＊)	有畜
E－2	プランテーション農業	・・・	商業的な生産	企業的な大規模経営	無畜

(＊)一般にヨーロッパの農業は集約的と考えていいが，地域によって大きな差がある，北部は生産性の高い農業が行われる一方で，自然環境の厳しい南部や近代化の遅れた東部ではやや生産性が低い。

(＊＊)ナツメヤシや小麦の自給的栽培が中心だが，水が豊富に得られるところでは綿花の商業的栽培もみられる。

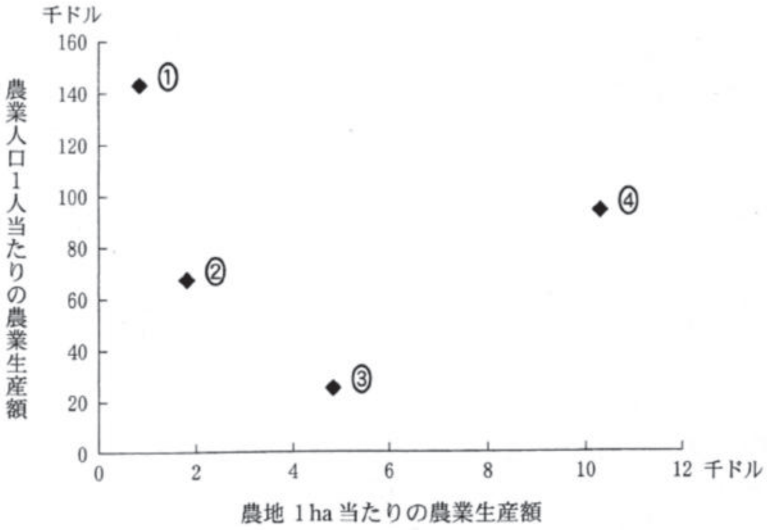
(＊＊＊)基本的には果樹の商業的な栽培がみられるが，穀物については生産は振るわず自給的に栽培される。

(＊＊＊＊)ヨーロッパは地域による経営規模の差が大きい。北部は経営規模が大きく省力化も進む(労働生産性が高い)。一方，南部や東部は経営規模が小さく，農業就業人口割合も比較的高い。

第10講
ホイットルセー農牧業区分［練習問題］

［１］　次の図２は，いくつかの国における農地１ha当たりの農業生産額と農業人口１人当たりの農業生産額を示したものであり，①～④は，アメリカ合衆国，イギリス，オランダ，マレーシアのいずれかである。オランダに該当するものを，図２中の①～④のうちから一つ選べ。

（2015年度地理Ｂ本試験第２問問３）



統計年次は2011年。
FAOSTATにより作成。

図２

［2］　農産物の需給や利用には，地域的な差異がみられる。次の表１は，穀物の用途別利用量と穀物自給率を国別に示したものであり，①～④は，アメリカ合衆国，ナイジェリア，日本，ブラジルのいずれかである。ナイジェリアに該当するものを，表１中の①～④のうちから一つ選べ。

（2009年度地理Ａ追試験第５問問３）

表１

	穀物の用途別利用量（千 t）		穀物自給率（%）
	食料	飼料	
①	17925	16560	24
②	18835	1693	83
③	22625	39615	87
④	90562	162493	127

統計年次は，穀物の用途別利用量が2003年，穀物自給率が2001年。

『世界国勢図会』により作成。

［3］　家畜飼育に関する次の文①～④のうちから，**誤っているもの**を一つ選べ。

（1996年度地理本試験第３問問２）

①　牛や馬，羊などの家畜は，焼畑農業地域で広く普及した。

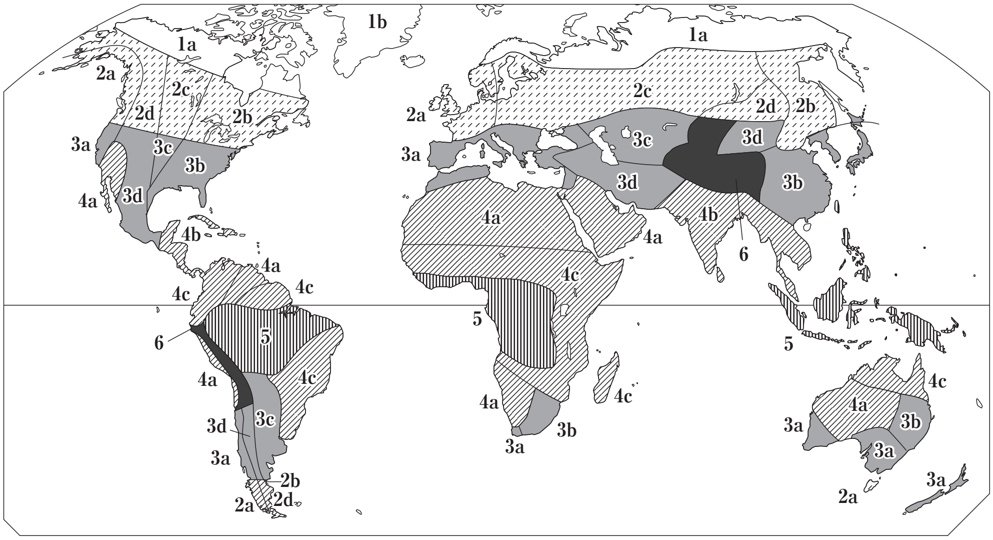
②　アメリカ合衆国やオーストラリアでは，フィードロットと呼ばれる集約的な肥育農業が増加している。

③　ヨーロッパの商業的混合農業や酪農は，三圃式農業から発達したものである。

④　遊牧は，穀物の栽培が困難な半乾燥地域で広く行われている。

［４］　図１は，世界を気温によって大別し，その中を降水量・地形で細分した自然地域区分である。５として示された地域でみられる自給的農業の説明として**適当でないもの**を，次の文①～④のうちから一つ選べ。

（1997年度地理Ｂ追試験第１問問５）



ハーバートソンの図を簡略化。

図１

① 森林や草原を焼いて耕地とし，数年を経て地力が衰えると耕地を放棄して他へ移動する焼畑農業が行われている。

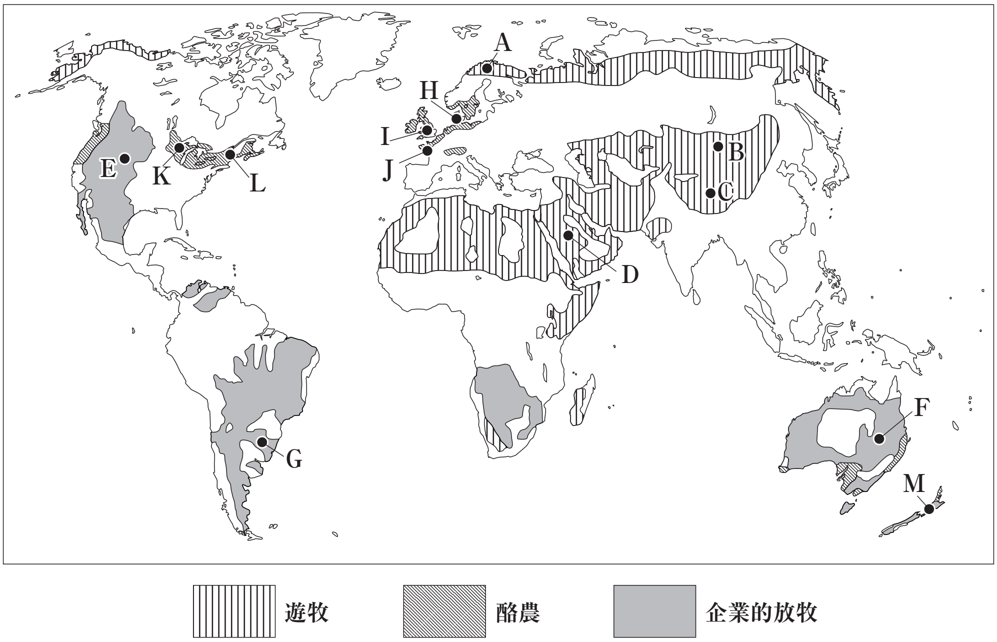
② 作物としては，キャッサバ・タロいも・ヤムいもなどが主に食料自給用に栽培されることが多い。

③ 広大なやせた土地を耕すために，家畜に犂（すき）をひかせる農法が各地にみられる。

④ 植物の旺盛な生長力にたよって，長い木の棒で地面に穴をあけて種をまく耕作が行われている。

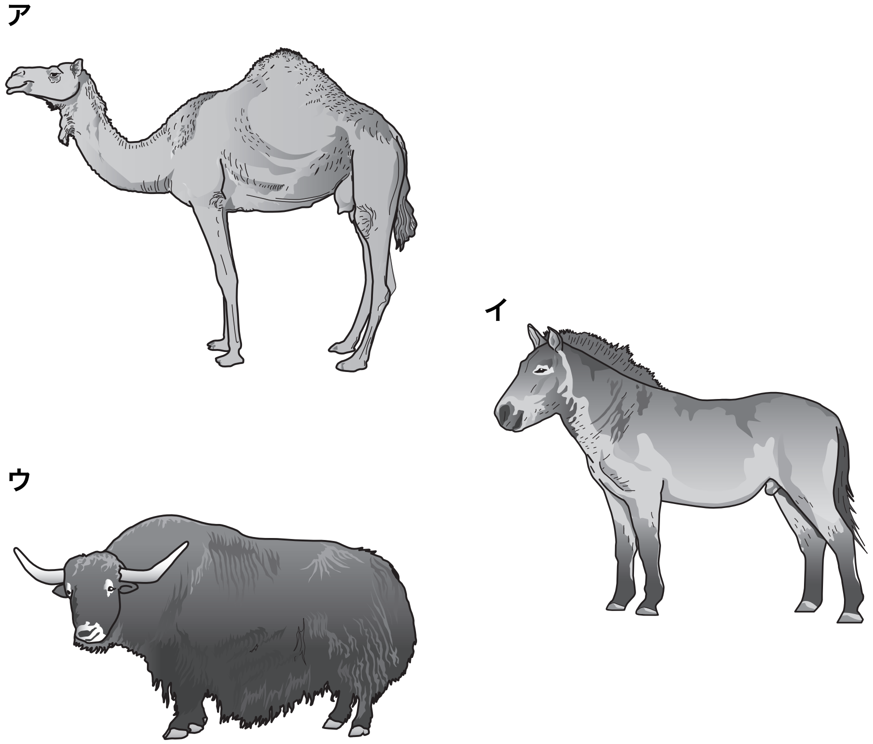
［５］　次の図１は，世界の主な遊牧・酪農・企業的放牧の三つの牧畜業の分布を示したものである。この図を見て，下の問いに答えよ。

（1993年度地理本試験第２問問２）



ホイットルセイ，グリッグなどによる。

図１



縮小率は，家畜によって異なる。

図２

（編集部　追記：編集上の都合により代替図版に差し替えております。）

図２中のア・イ・ウは，図１中の遊牧地域の３地点（B・C・D）付近における特徴的な家畜をスケッチしたものである。それぞれの地点と家畜の正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

	①	②	③	④	⑤	⑥
B	ア	ア	イ	イ	ウ	ウ
C	イ	ウ	ア	ウ	ア	イ
D	ウ	イ	ウ	ア	イ	ア

［6］　次の写真１は，図１中のＸ地点を空中から撮影したものであり，下の文章は，写真１中に列を成している円形の土盛りとこれに関連したことがらについて説明したものである。下の文章中の空欄（ａ）および（ｂ）に当てはまる語句の正しい組合せを，下の①～④のうちから一つ選べ。

（2008年度地理Ｂ追試験第４問問３）

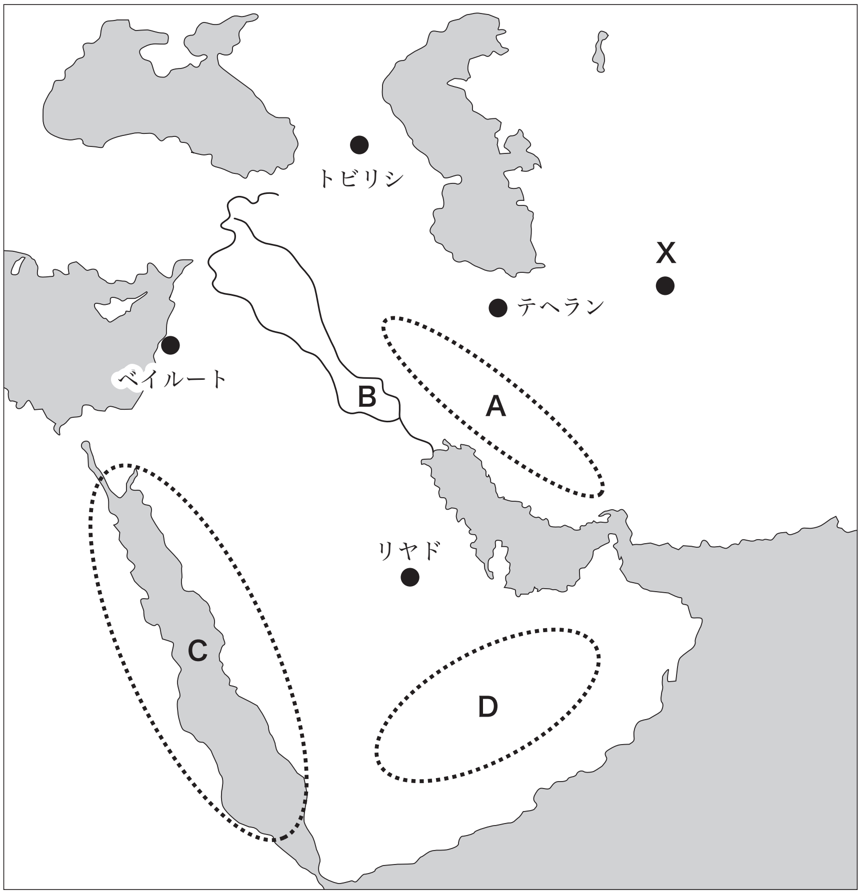


図１

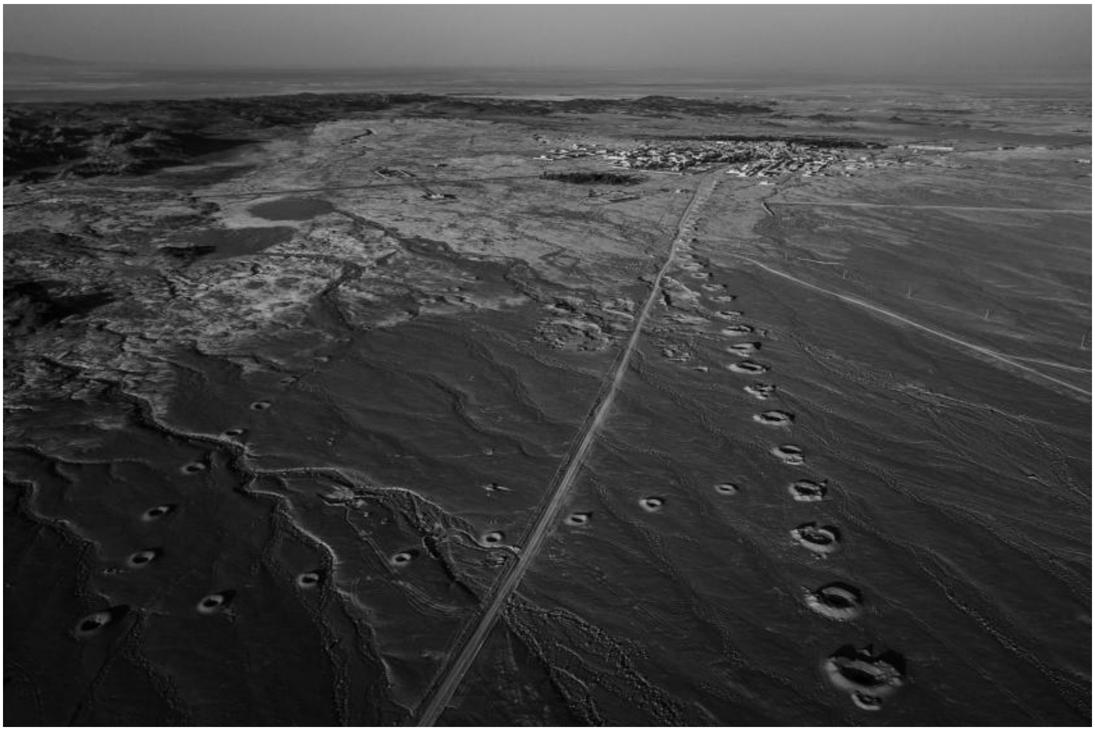


写真１

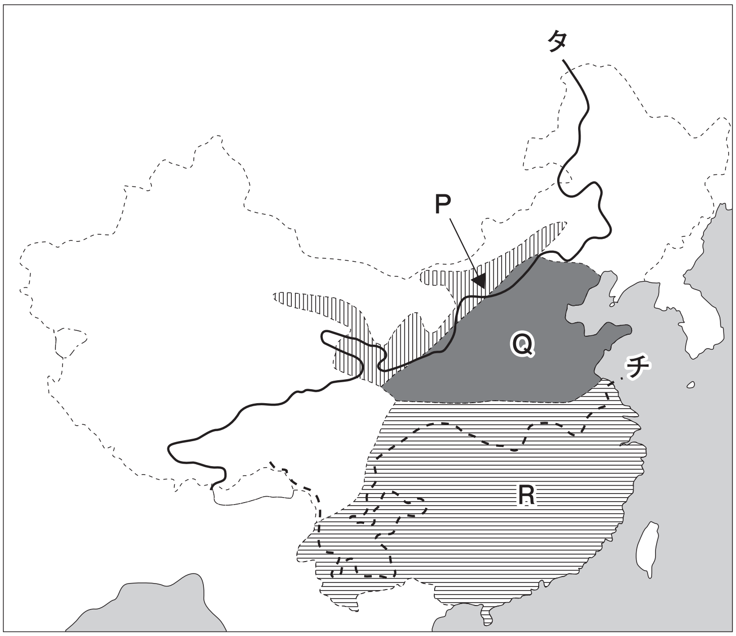
（編集部　追記：編集上の都合により代替図版に差し替えております。）

円形の土盛りは，地下に用水路を掘削したり，保全するために掘られた縦穴であり，この地下水路の用水を利用して（ａ）が営まれている。この地下水路は，北アフリカや中国などの乾燥地域でもみられ，イランでは（ｂ）とよばれる。

	①	②	③	④
a	オアシス農業	オアシス農業	企業的牧畜	企業的牧畜
b	カナート	クリーク	カナート	クリーク

［7］　次の図２は，中国の農業地域区分と，その境界にほぼ一致する等値線を示したものであり，実線タは年降水量400mmの等値線，破線チは年降水量1000mmの等値線，Ｐ～Ｒは稲作地域，春小麦地域，冬小麦地域のいずれかの農業地域である。図２中のＰ～Ｒと農業地域との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2008年度地理Ｂ追試験第２問問５）



国境線は，設問にかかわる部分のみを記入した。
『中国農業資源与区画要覧』などによる。

図２

	P	Q	R
①	稲作地域	春小麦地域	冬小麦地域
②	稲作地域	冬小麦地域	春小麦地域
③	春小麦地域	稲作地域	冬小麦地域
④	春小麦地域	冬小麦地域	稲作地域
⑤	冬小麦地域	稲作地域	春小麦地域
⑥	冬小麦地域	春小麦地域	稲作地域

［8］　下の①～④の文は，次の図３中のＰ～Ｓのいずれかの地域で主に行われている農業の特徴について述べたものである。Ｐの地域について述べた文として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。

（2007年度地理Ｂ追試験第４問問３）

図３

① 冬の小麦作とオリーブやブドウの栽培，羊の飼育を組み合わせた伝統的な地中海式農業が行われている。

② チェルノーゼム（黒色土）とよばれる肥沃な土壌を基盤として，小麦作を中心とする商業的穀物農業が行われている。

③ 小麦作と家畜飼育を組み合わせた混合農業が行われ，家畜は羊・豚が多い。

④ ライ麦とジャガイモの栽培が盛んで，家畜は豚が多い混合農業が行われている。

［9］　次の文章は，図2中のある地域について述べたものである。この文章に該当する地域として最も適当なものを，図2中の①～⑤のうちから一つ選べ。

（1994年度地理本試験第6問問4）

この地域は世界的な小麦の産地で，北部は秋に，中部では初夏に小麦が収穫されるほか，南部では綿花の栽培も行われている。西部には放牧地が広がり，大規模な経営が多い。また，中・南部の地域ではトルネード（竜巻）の被害を受けることもある。

C.L.WHITE*et al.*「Regional Geography of Anglo-America」（1985）による。

図2

[10]　オーストラリアで牧畜業が発達した理由について述べた次の文①～④のうちから，**誤っているもの**を一つ選べ。

（1996年度地理本試験第７問問３）

①　ヨーロッパで産業革命が進行しており，羊毛に対する大きな需要があったため。

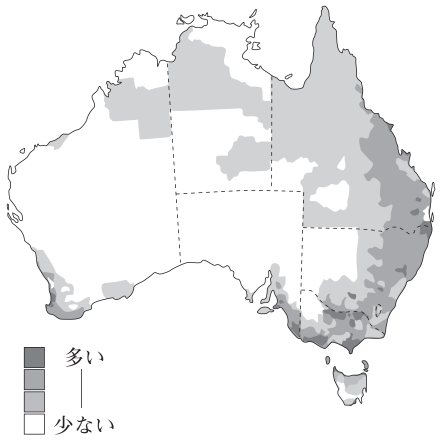
②　冷凍設備をもつ輸送船が普及し，肉類の長距離輸送が可能になったため。

③　乾燥した広大な土地をわずかな人手で活用する上では，粗放的な牧畜業が適していたため。

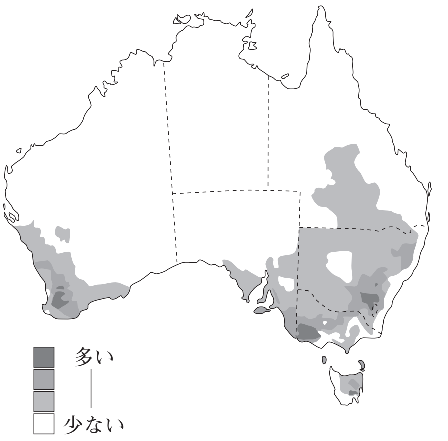
④　もともと先住民による牛や羊の遊牧が盛んであり，産業としての牧畜業を可能とする基盤があったため。

［11］　次の図６中のＰ，Ｑは，オーストラリアの牛と羊のいずれかの分布を単位面積あたりの飼育頭数で示したものである。また，下の**サ**，**シ**の文は，オーストラリアにおける牛と羊のいずれかの飼育について述べたものである。羊に該当する分布図と説明文の組合せとして最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。

（2002年度地理Ａ本試験第１問問５）



Ｐ



Ｑ

図中の単位面積当たりの飼育頭数の区分は牛と羊では異なる。
統計年次は 1997 年。*Year Book Australia* による。一部改変。

図６

サ　生産物の重要な輸出先である日本の消費者の好みに合わせ，フィードロットという施設で飼育されることも増えてきた。

シ　乾燥に強く，生産物の品質のよいメリノ種が多く飼育されている。

	①	②	③	④
分布図	Ｐ	Ｐ	Ｑ	Ｑ
説明文	サ	シ	サ	シ

[12]　次の短文①～⑦は，市場への距離と農業経営の対応関係を述べたものである。**誤っているもの**を二つ選べ。ただし，解答の順序は問わない。

（1981年度共通一次地理Ａ第５問問４）

①　酪農の場合，都市近郊では生乳生産が，遠隔地では酪製品の生産が主体となる。

②　大都市近郊に近いところでは，単一作物の大量生産が行われる。

③　南半球には，大規模な企業的農牧業が発達している。

④　果樹産地は，野菜産地より市場近くに立地するのが合理的である。

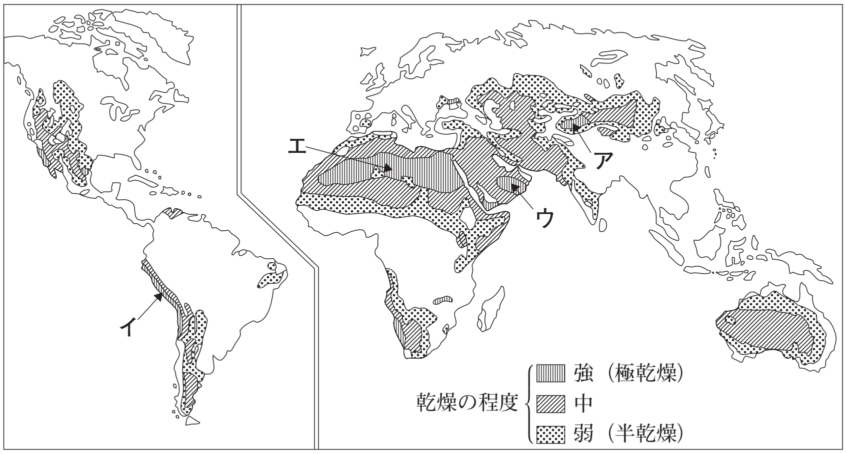
⑤　市場からの距離が大きくなるほど，土地利用は粗放的になり，経営規模は大きくなる。

⑥　市場に近づくにしたがって，労働集約的な農業になる。

⑦　野菜生産は，市場に近いほど葉菜類の比率が増す。

［13］　図１中の**エ**地域周辺で砂漠化の進行が著しい国々について述べた次の文①～④のうちから，下線部が**誤っているもの**を一つ選べ。

（1999年度地理Ｂ本試験第４問問６）



『沙漠の自然と生活』により作成。

図１

① チャドの国境付近では，砂漠化の進行に伴い1970年代以降，内陸湖の面積が大幅に縮小した。

② スーダンでは，繰り返し見舞われる干ばつに加えて，政治的混乱と内戦が頻発して土地の荒廃を助長している。

③ アルジェリアでは，砂漠が北に向かって拡大を続ける結果，地中海性低木林に続くステップで放牧地や農地が減少している。

④ セネガルでは，主要な自給作物である落花生の増産を図るため，雑穀との輪作から単一耕作に移行した結果，砂漠が拡大した。

第 10 講
ホイットルセー農牧業区分［確認問題］

［1］　次の図６は，世界における穀物の輸出入量を地域別に集計（＊）したものであり，サとシは輸出量と輸入量のいずれか，G と H は北アメリカとヨーロッパのいずれかである。輸入量と北アメリカとの正しい組合せを，後の①～④のうちから一つ選べ。

（＊）同一地域内の各国間の輸出入量も含まれる。

(2023 年度地理 B 追試験第 2 問問 5)

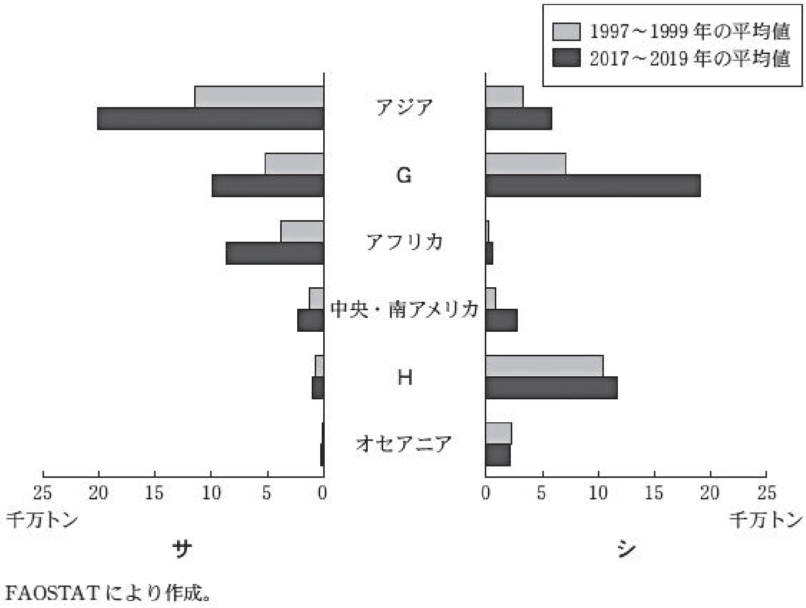


図６

	①	②	③	④
輸入量	サ	サ	シ	シ
北アメリカ	G	H	G	H

［2］　地球的課題の一つに，食料需給の地域差がある。次の図1は，アジア(＊)，北アメリカ(＊＊)，ヨーロッパ(＊＊＊)のそれぞれの地域について，主要穀物(＊＊＊＊)の生産量と輸出入量(＊＊＊＊＊)の世界の総量に対する割合を示したものであり，**カ**～**ク**は，生産量，輸出量，輸入量のいずれかの指標である。**カ**～**ク**と指標との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

(＊)トルコを含む。

(＊＊)メキシコを除く。

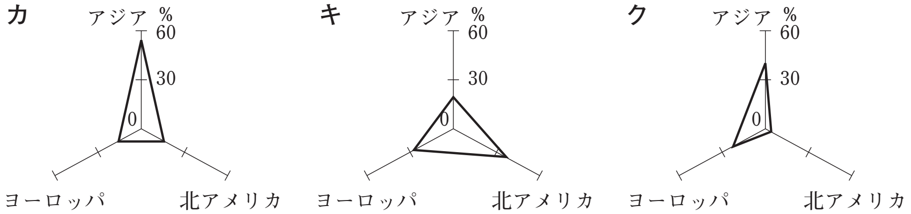
(＊＊＊)ＣＩＳのうち，ウクライナ，ベラルーシ，モルドバ，ロシアを含む。

(＊＊＊＊)小麦，米，トウモロコシの合計。

(＊＊＊＊＊)地域内貿易を含む。

統計年次は2002年。

(2007年度地理Ａ本試験第４問問２)



FAOの資料により作成。

図1

	①	②	③	④	⑤	⑥
カ	生産量	生産量	輸出量	輸出量	輸入量	輸入量
キ	輸出量	輸入量	生産量	輸入量	生産量	輸出量
ク	輸入量	輸出量	輸入量	生産量	輸出量	生産量

［3］　次の写真１は，図１中のＤ地点の衛星写真である。写真では水面や植物，および日陰斜面が黒っぽく写っており，この地域にみられる典型的な農業的土地利用を読み取ることができる。この農業について述べた文として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。

（2002年度地理Ｂ追試験第３問問２）

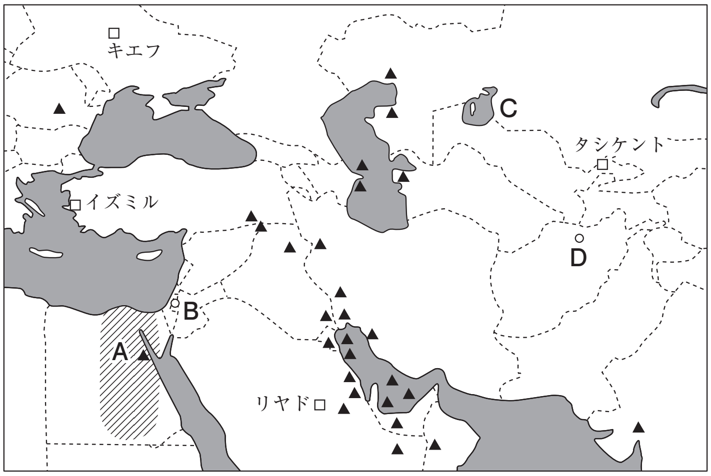


図１

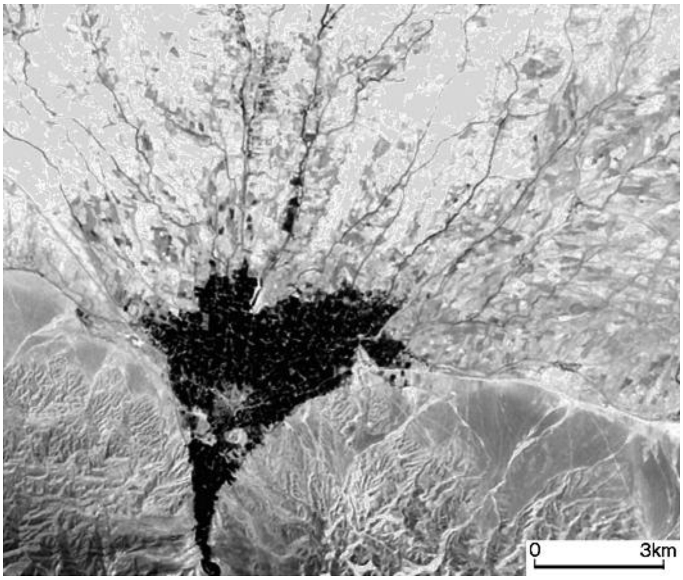


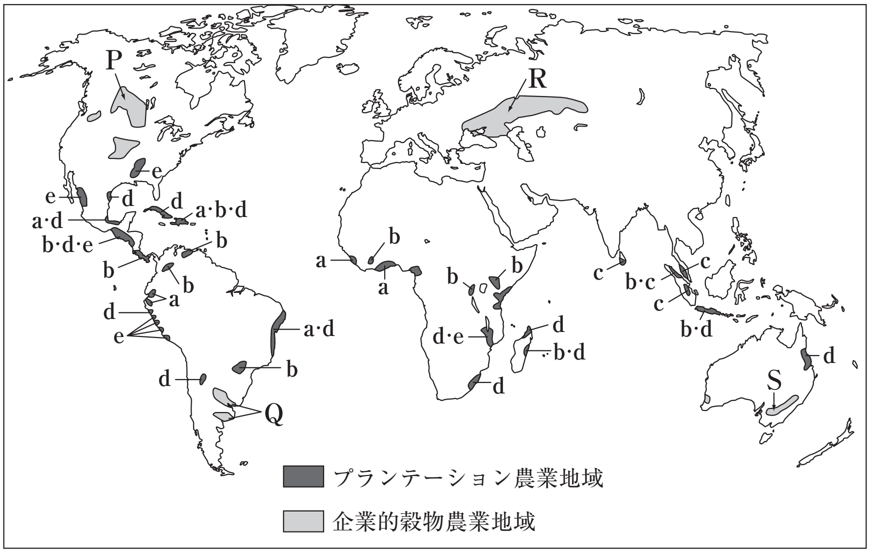
写真１

（編集部　追記：写真はGLCF（ESDI）のLandsatデータを使い，『カシミール3D』で作成しました）

① 山地からの水を利用したオアシス農業が行われている。
② 多数のため池に雨水を集めて利用する集約的稲作農業が行われている。
③ センターピボット方式の灌漑による企業的穀物農業が行われている。
④ 三角州の上に広がる草原を利用した粗放的牧畜が行われている。

［4］ 次の図1は，世界の主なプランテーション農業地域と企業的穀物農業地域を示したものである。図1中に示した企業的穀物農業地域について述べた次の文①～④のうちから，**誤っているもの**を一つ選べ。

（1998年度地理Ｂ本試験第１問問３）



図中のプランテーション農業地域では，油ヤシ，カカオ，コーヒー，サイザル麻，サトウキビ，茶，天然ゴム，バナナ，綿花などが栽培されている。
ホイットルセイ，グリッグ，山本などによる。

図1

① P地域では，肥沃なプレーリー土が分布し，春小麦の栽培が大規模に行われている。

② Q地域では，大土地所有制にもとづく農場経営が展開して，小麦の栽培が行われている。

③ R地域では，肥沃な黒土（チェルノーゼム）が分布し，小麦をはじめ，ヒマワリ，ジャガイモの栽培が盛んである。

④ S地域では，灌漑用に多数の掘り抜き井戸を利用することによって，小麦の栽培が大規模に行われている。

［５］　ヨーロッパでは，ＥＵ(欧州連合)による地域統合が進んでいるが，加盟国の産業や雇用の状況は極めて多様である。次の表１は，ＥＵに加盟する三つの国の国際観光収入，穀物自給率，製造業就業者率を示したものであり，**ア〜ウ**は，オランダ，スペイン，ハンガリーのいずれかである。**ア〜ウ**と国名との正しい組合せを，下の①〜⑥のうちから一つ選べ。

（2006年度地理Ｂ追試験第６問問３）

表１

	国際観光収入 (億ドル)	穀物自給率 (％)	製造業就業者率 (％)
ア	336	70	18.4
イ	77	24	14.2
ウ	33	230	24.8

統計年次は，国際観光収入が2002年，穀物自給率が2001年。製造業就業者率は，オランダが2001年，スペインとハンガリーが2002年。

『世界国勢図会』により作成。

	ア	**イ**	**ウ**
①	オランダ	スペイン	ハンガリー
②	オランダ	ハンガリー	スペイン
③	スペイン	オランダ	ハンガリー
④	スペイン	ハンガリー	オランダ
⑤	ハンガリー	オランダ	スペイン
⑥	ハンガリー	スペイン	オランダ

［6］ 東南アジアの天然ゴムの生産について述べた次の文①～④のうちから，下線部が正しいものを一つ選べ。

（1994年度地理本試験第３問問４）

① インドネシアのプランテーションは，第二次世界大戦後，大部分が民営化された。

② タイの天然ゴムは，主に内陸部の高地で生産されている。

③ マレーシアの天然ゴムの生産は，イギリスの植民地政策の一環であり，特に20世紀に入ってから，プランテーション農業として発展した。

④ ゴムの木は，東南アジアの熱帯雨林に自生していた樹木で，イギリス人がこれを栽培作物に改良した。

第 11 講
農畜産物統計・農業の問題点

農畜産物統計は頻出である。生物的な観点からその生育環境に注目し，生産上位国を分析していこう。さらに，この項目では農業の総まとめとしてやや発展的な内容にまで踏み込む。世界各地にみられる多種多様な農業形態やそこで生じている問題点などを整理しよう。

１１．１　米と小麦の統計

・米；生産量は世界全体で約7.5億ｔ。高温湿潤な気候環境で栽培可能。生産の多くはモンスーンアジアに集中している。生産量１位は中国，２位はインド，３位はバングラデシュ。主な輸出国はインド，タイ，ベトナムであり，新大陸のアメリカ合衆国も輸出国である。

・小麦；生産量は世界全体で7.5億ｔを超える。冷涼少雨（年降水量500㎜程度）である気候環境で栽培されやすい。生産１位は中国，２位はインド，３位はロシア，４位はアメリカ合衆国。旧大陸では自給的に栽培される一方，新大陸では商業的に生産され輸出量も多い。主な輸出国はロシアやアメリカ合衆国。ヨーロッパのフランスも輸出国である。主に栽培時期によって３種類に分けられる。寒冷地域では春に播種し晩夏に収穫する「春小麦」。温暖な地域では秋に播種し初夏に収穫する「冬小麦」で，冬小麦にはさらに北半球のものと南半球のものとがある。収穫月は，春小麦が８～10月，北半球の冬小麦が５～７月，南半球の冬小麦が11～翌１月である。

１１．２　自給作物の統計

・トウモロコシ；生産量は世界全体で10億ｔ以上。米と小麦の中間的な栽培条件を持つ。生産量１位と輸出量１位はともにアメリカ合衆国。五大湖南側のコーンベルトにて大豆と輪作されている（混合農業）。飼料や油脂となる。

・大麦・エン麦；穀物の中で最も厳しい自然環境に適応する。ロシアやカナダでの生産が特徴。飼料にもなる。

・ライ麦；小麦より冷涼な自然環境に適応。ジャガイモと輪作される（混合農業）。ドイツやポーランドなどで生産が多く，黒パンの原料になる他，飼料にもなる。

・大豆；生産量１位はブラジル，２位はアメリカ合衆国。トウモロコシと輪作。

飼料や油脂となる。

・ジャガイモ；生産上位国は中国とインドだが，ドイツ，ポーランドなど北部ヨーロッパでの生産が特徴的。ライ麦と輪作され飼料となる(混合農業)。

・ナツメヤシ；乾燥地域の自給作物(オアシス農業)。実はデーツとして食用にされる。エジプトなどでの生産が多い。

・キャッサバ；熱帯地域の自給作物。イモの仲間でキャッサバに加工して食される。焼畑農業によって栽培。ナイジェリアなどでの生産が多い。

＜チェック！＞

穀物については生育環境を確認。

（冷涼少雨）　大麦　⇔　ライ麦　⇔　小麦　⇔　トウモロコシ　⇔　米　（高温多雨）

たとえばヨーロッパにおけるそれぞれの穀物の栽培可能範囲は以下のようになる。

大麦；ツンドラ地域では栽培できないが，それ以外のほぼヨーロッパ全域で栽培可能。

小麦；栽培北限線はほぼ北極圏の南限の緯線と重なる。北欧でも栽培される。

トウモロコシ；フランス南部やハンガリー以南の南ヨーロッパが栽培地域。ルーマニアやイタリアなど。

米；地中海沿岸のみ。夏季に高温が必要となるため，アルプス以北では栽培不可。

１１．３　果実の統計

・ブドウ；ヨーロッパではイタリア，スペイン，フランスでの生産が多い。パリ盆地以南のヨーロッパで栽培される他，比較的少雨気候に適応した作物であるため，世界各地の地中海性気候のみられる地域でも生産がさかん。

・オリーブ；生産量１位スペイン，２位イタリア。地中海沿岸地域で栽培され，フランスでの生産が少ない点がブドウとの違い。

・オレンジ；ブラジルなどでの生産が特徴的だが，ヨーロッパではスペイン南部など。

・バナナ；輸出量１位エクアドル。ただし日本の主なバナナ輸入先は，台湾からエクアドル，さらにフィリピンへと移動している。安価な労働賃金を求めて，経済レベルが低い国へと移行していることを考える。

１１．４　繊維作物の統計

・綿花；生産上位国はインド，中国，アメリカ合衆国。生長期は多雨，収穫期は少雨という特殊な栽培条件のため，水分を人為的に調整できる灌漑農業との相性がいい。中国では華北の黄河流域での栽培がさかん。北西部のシンチヤン・ウイグル自治区でもオアシス農業によって栽培。アメリカ合衆国では，かつては南部(南東部)のプランテーションでの栽培が主だったが，近年はテキサス州やカリフォルニア州の灌漑農業地域に栽培の中心が移行している。インドでは，インド高原に分布するレグール土と，雨季乾季の明瞭な気候を利用し，綿花が栽培されている。パキスタンでは，外来河川であるインダス川の流域で灌漑によって栽培されている。ウズベキスタンは砂漠国であるが，アムダリア川などからの灌漑によって栽培(オアシス農業)。ただし過剰な取水によってアムダリア川などの流量が減少し，これら河川の流れ込む内陸湖であるアラル海では面積が縮小するという環境問題が生じている。

・ジュート；穀物を入れる袋などに利用される。高温多雨，低湿な地形を必要とし，インド東部やバングラデシュでの栽培がさかん。ガンジス川の三角州（デルタ)。

＜チェック！＞

　地名があまり問われないセンター地理において例外的に頻出となっていたのが外来河川。共通テストでも重要性は変わらない。名称と位置を確認しよう。マーレー(マリー)川以外は綿花の栽培とも結びついている。

黄河・・・中国・華北地方。黄土高原から泥土を押し流す。綿花，小麦の栽培。

インダス川・・・人口大国パキスタンを支える。綿花，小麦，米の栽培。

ナイル川・・・エジプト。かつては洪水によって肥沃な土壌を周囲の耕地へと供給していた。

ニジェール川・・・西アフリカ。サハラ砂漠とサヘル地帯を流れる。湾曲した流路が特徴的。綿花やラッカセイの栽培。

コロラド川・・・アメリカ合衆国南西部。ダムが建設され，農業灌漑に利用される他，ロサンゼルスに生活・工業用水を供給。

マーレー（マリー）川・・・オーストラリア。流域では灌漑による小麦栽培（企業的穀物農業)。

１１．５　プランテーション作物の統計

・茶；温暖多雨。排水性の良い丘陵での栽培に適する。生産上位国は中国やインド。ケニアやインド・スリランカは輸出量が多いが，これらの国では旧宗主国イギリスによってプランテーションが開かれた。

・コーヒー；温暖多雨。とくに低緯度の標高1000ｍを超える高原での栽培がさかん。ブラジル高原南部など。

・カカオ；高温多雨。熱帯の低地で栽培。ギニア湾岸のコートジボワールやガーナなど。

・油ヤシ；高温多雨。これから採取されるパーム油は洗剤などの原料となる。マレーシアのプランテーションでは栽培樹種が天然ゴムから油ヤシに替わった。近年，バイオマス原料として注目が集まり，インドネシアやマレーシアを中心に生産が拡大。

・ココヤシ；高温多雨，沿岸部。ココヤシの胚乳を加工したものがコプラであり，油脂が得られる。フィリピンでの生産が多い。

・天然ゴム；高温多雨。かつてはマレーシアが主産地であったが，賃金水準の高騰などにより，より低賃金のタイなどへ栽培地域が移行した。

・ラッカセイ；半乾燥の砂地での栽培に適する。サハラ砂漠南縁の草原（ステップ）であるサヘル地帯など。とくにセネガルで当時の宗主国のフランスによってラッカセイの強制栽培が行われたことを知っておくといい。セネガルは現在でもラッカセイが商業的に栽培され，自給作物は輸入に依存している。

・サトウキビ；雨季と乾季の明瞭な気候，石灰岩質の土壌に適応する。生産１位はブラジル。ブラジルではサトウキビから抽出したアルコール燃料がガソリンの代替品として実用化されている。キューバではアメリカ合衆国によってサトウキビのプランテーションが開かれたが，革命によって社会主義政権が誕生すると，それらは国有化された。かつてキューバの経済は，当時のソ連に砂糖を輸出することに大きく依存していた（モノカルチャー）。

＜チェック！＞

　プランテーション作物については栽培地域が非常に重要。熱帯・亜熱帯でかつて欧米の植民地支配を受けていた地域が中心。

カカオ；ギニア湾（高温多雨の環境）。

コーヒー；ブラジル南部（ブラジル高原にはテラローシャという土壌が分布）。

サトウキビ；キューバ（かつてアメリカ合衆国系のプランテーションが開かれた。

現在は国有）。

天然ゴム；東南アジア（原産地はアマゾン川流域だが，そこからマレーシアなど東南アジアに持ち込まれた）。

綿花；アメリカ合衆国南部（黒人奴隷が連れて来られた。ただし，現在は綿花単作から大豆など含めた多角化経営により混合農業地域へ）。

［知っておこう］

国営企業が民営化されるなど「国有→民有」の流れが一般的なのだが，プランテーションのみは「民営→国有」であり，例外的な存在。欧米の資本家が植民地である熱帯・亜熱帯地域に農園を開く。独立後，それらは国有化（あるいは自国資本家による経営）。

１１．６　農産物の原産地

東アジア・南アジア；米・茶・大豆

東南アジア；サトウキビ

西アジア（イラン）；小麦

東アフリカ（エチオピア）；コーヒー

西アフリカ（ギニア湾）；油ヤシ

新大陸（主に中南アメリカ）；ジャガイモ・サツマイモ・キャッサバ・天然ゴム・カカオ・トウモロコシ

１１．７　家畜の統計

・牛；湿潤地域に対応。飼育頭数１位ブラジル，２位インド，３位アメリカ合衆国。ブラジルやアメリカ合衆国では企業的な飼育がみられる。インドは菜食中心の食文化をもつ国であり，しかも牛については宗教的な制約（ヒンドゥー教）もあり，その肉は食されず，主に使役用や搾乳用。インドは牛乳やバターの世界的な生産国。

・羊；乾燥地域に適応。中央アジアや西アジアのイスラム地域では，豚肉を食することが禁じられているため，羊肉が重要な食料の一つとなる。オーストラリアやニュージーランドでは毛羊が主である。なお，オーストラリアにおいては羊はあくまで外来種であり（メリノ種はスペイン原産），伝統的に飼育されていたわけではないことに注意。

・豚；飼育頭数１位は中国。飼料作物と結びつき，混合農業地域に分布すること

が特徴。北部ヨーロッパのドイツやポーランド，コーンベルトを有するアメリカ合衆国など。逆に，農作物の生産が十分でない乾燥地域では豚は原則として分布しない。乾燥地域に成立した宗教であるイスラム教が豚を嫌悪するのは，このことと関係がある。

１１．８　水産物の統計

漁獲量１位は中国。漁獲量だけでなく，養殖による生産も多い。また，ペルーも特徴的である。巨大な寒流(ペルー海流)に面し，アンチョビーの漁獲が多い。

わが国の漁獲量は全体的に減少傾向にあるが，とくに遠洋漁業の衰退が著しい。その反面，水産物の輸入量は増加しており，現在世界３位である。

＜チェック！＞

異なる方向からの海流がぶつかって海中の水の流れが複雑となり，湧昇流（海底から海表面への水の動き）が生じることで海底の有機塩類が持ち上げられ，栄養分が豊かな海域が形成される。これが潮目(潮境)。日本近海では千島海流(親潮)と日本海流(暖流)がぶつかる千葉県沖にみられる。他にはラブラドル海流とメキシコ湾流がぶつかるカナダ東方など。いずれも大洋(太平洋と大西洋)の北西部に形成されていることに注目。

１１．９　木材の統計

木材については，日本の輸入相手国が重要。日本の木材輸入先は１位カナダ，２位アメリカ（2021年時点）であるなど，針葉樹が中心（軟材であり，パルプの原料となる）。ただし高級材として熱帯林も輸入されており，こちらはマレーシアからの輸入。

なお，近年は東南アジアからの原木の輸入は減少しており，合板(加工材)としての輸入が中心。インドネシアなどでは，外国資本による熱帯林の過剰な伐採の抑制，国内産業の育成などの観点から，原木での輸出が制限されている。

用材と薪炭材の違いに注目。用材は主にパルプの原料を考え，紙の需要が多い先進国。薪炭材は燃料としての使用で，電気やガスの普及していない発展途上国。なお，日本では木材輸入はすでに自由化されており，安価な輸入木材に押され，国内の林業は衰退傾向にある。

［知っておこう］

モノカルチャーとは，特定の一次産品の生産と輸出にその国の経済が依存している状態。発展途上国の中には，プランテーションによる商品作物の栽培が優先され，現在でもモノカルチャー経済から脱することのできない国も多い。商品作物を輸出し外貨を得ることで，穀物をヨーロッパなどから輸入する。

なお，モノカルチャーの反対語は「多角化」。単一の作物のみ栽培していた地域において，他のいろいろな作物の栽培が始められる。マレーシアやブラジルは農産物栽培の多角化だけでなく，資源開発や工業化にも熱心な国であり，かつての天然ゴムモノカルチャー，コーヒー豆モノカルチャーからは脱している。

１１．１０　新大陸における酪農・混合農業，旧大陸における企業的穀物農業

アメリカ合衆国の北東部（五大湖沿岸）は酪農地域，同じく五大湖南側のコーンベルトは混合農業地域である。また近年は南部の綿花地帯（プランテーション農業地域）も，大豆などの栽培がみられる混合農業地域へと変化しつつある。

ウクライナから東方に広がる半乾燥地域には肥沃なチェルノーゼムが分布し，企業的穀物農業地帯となっている。

＜チェック！＞

アラスカ州に次ぐ面積を持つテキサス州。原油の産出，牛の飼育頭数，綿花の栽培において全米１位である。メキシコ湾岸油田，アメリカ合衆国の企業的牧畜地域，綿花の栽培地域が西部の乾燥地域に移動していることなどと関連させて押さえておこう。

１１．１１　移牧

移牧とは酪農の一形態であり，高度差（垂直移動）を利用した牧畜である。季節の明瞭な山岳地域でみられ，夏季は高原の放牧地（アルプス地方ではアルプとよばれる）で家畜を放牧し，冬季は山麓の畜舎で舎飼いする。

とくにアルプス地方は，山岳氷河の侵食作用によって形成された地形が多く，U字型に大きく削り取られた深い谷の底面に村落が立地しているのだが，周囲の急崖の上にみられるやや傾斜の緩やかな地形にアルプが開かれていることが多い。

１１．１２　三圃式農業

三圃式農業とは，ヨーロッパで中世まで行われていた農業形態。土地を三区分し，それぞれ夏作地・冬作地・休耕地として利用し，一年ごとにローテーションさせる。新大陸からのジャガイモの流入，家畜飼育の普及などによって，現在はみられなくなった。酪農や混合農業などのルーツとなった農業方式。

＜チェック！＞

ヨーロッパ諸国は原則として食料自給率が高いと考えていい。例外は以下の通り。

小麦・・・オランダで極めて低く，20％に達しない(園芸農業)。また気候が厳しい南ヨーロッパのイタリアやスペインは小麦の輸入国。

果樹・・・イギリスなど北部ヨーロッパで自給率が低い。ブドウの栽培北限を考える。

１１．１３　大土地所有制

農地改革が進まず，現在でも大土地所有制が残存する地域が存在する。それが，フィリピン・インド・イタリア南部・南アメリカ大陸である。

フィリピン，イタリア南部，南アメリカ大陸については，いずれも熱心なカトリック地域であり，教会を中心とした封建的な社会制度が残っていると考えよう。

インドについては，カースト制度(＊)によって地主や小作人の身分がはっきりしていることを考える。

(＊)インドにおける伝統的な身分・職業区分制度。憲法では否定されており，都市部ではその影響は薄らいでいるが，農村部ではまだまだその影響は大きい。

１１．１４　緑の革命

アジアやメキシコなどで行われた農業改革を「緑の革命」という。多収量品種の導入や灌漑施設の整備，化学肥料の使用などによって穀物の増産を図り，多くの国で穀物自給率が上昇した。とくにアジア地域の農業生産の増加は際立つ。例えばインドでは，小麦の生産が世界２位へと上昇し，米は輸入国だったのが輸出国へと転化した。

ただし利益は一部の富裕層が独占し，農民間や地域間の経済格差は拡大するという問題点も生じている。

１１．１５　オアシス農業

ホイットルセー農牧業区分の中で最も解釈が難しいのがオアシス農業。主に旧大陸における灌漑農業のことで，例えばアメリカ合衆国西部における乾燥地域の農業はこれには含まれない。

かつてセンター試験で取り上げられた主なオアシス農業地域は，中国北西部（シンチャン・ウイグル自治区），南アジア西部（パキスタン・アフガニスタン），中央アジア（ウズベキスタン），イラン，エジプト，サハラ砂漠周辺など。共通テストでも狙われるはず。

本来自然環境の厳しい地域で行われる農業は「粗放的・自給的」となるが，オアシス農業は例外。農業用水を大切に用い，比較的狭い耕地で丁寧に耕作が行われるので，「集約的」となり，さらに水が得やすい地域では小麦やナツメヤシなど自給作物以外に綿花といった商品作物の栽培も盛んで，「商業的」な側面もある。

＜チェック！＞

オアシス農業のキーワードに地下水路がある。とくにイラン高原のカナートが有名。山麓の地下水を遠隔地の耕地にまで導くもので，蒸発をさけるため地下に設けられている。その建設と維持には莫大な労力と費用がかかる。

１１．１６　塩害（土壌の塩性化）とその防止策

塩害（土壌の塩性化）とは乾燥地域において生じる環境問題。土中の塩類が地表に持ち上げられ集積し，農耕に適さない土地となってしまうこと。これは不適切な灌漑によって助長されるものである。

なお，灌漑による塩害を防ぐためにはいくつかの方策がとられており，その代表的なものが「点滴灌漑」と「排水溝の整備」。灌漑用水が作物に吸収されずに余ってしまうと，土中で塩分を溶かし込んで，蒸発作用によってその塩分を地表面に持ち上げてしまう。このため水分が余らないように，作物の根に近いところに直接，点滴のように水分を与える方法がなされる。さらに，それでも塩害になってしまった土地においては，表面の塩分を洗い流すための排水溝が，耕地のそばに設けられる。

１１．１７　土壌侵食

アメリカ合衆国のコーンベルトから小麦地帯にかけて生じている環境問題に土壌侵食(土壌流出)がある。湿潤地域では主に雨によって，乾燥地域では主に風によって，土壌が侵食され，農業生産に大打撃が与えられる。これを防ぐ方策として等高線耕作があるが，大規模機械化導入によってこの等高線耕作も放棄されることがある。

<チェック！>

アメリカ合衆国では農業に関連して，土壌侵食以外にも環境問題が生じている。テキサス州から西部の乾燥地域においてはセンターピボット農法(地下水をくみ上げ，円形に散水する)による灌漑農業が行われ，穀物や綿花，野菜などが栽培されているが，地下水の枯渇，地盤沈下，塩害などの問題も発生している。

[知っておこう]

乾燥農業とは少雨地域でみられる伝統的な農業方式。雨が降る前に畑地に溝を掘り，そこに雨水をためる。表面に土をかぶせて蒸発を防ぎ，土中の湿度を保つもの。より自然と調和し，灌漑ほど土地に与える負担は大きくないが，生産性は低い。

１１．１８　連作障害

同じ作物を連続して栽培することを連作というが，これにより地力は著しく弱まり，連作障害が生じる。これを防ぐために行われるものが，休閑や輪作であり，とくにヨーロッパではライ麦とジャガイモが，アメリカ合衆国ではトウモロコシと大豆が輪作されている。

なお米と果樹については連作障害が生じない。米は水を入れ替えることによって常に養分が供給され，果樹はそもそも多年生のものであり，毎年収穫される。

ワンポイント

この講で最大のポイントとなるのは「灌漑」である。灌漑は人為的に耕地に水を与えるものであり，日本でも「水田に灌漑する」のように一般的に使用される農業用語である。高校地理においては，乾燥地域における灌漑が非常に重要なトピックとして取り上げられる。乾燥地域で伝統的に行われていた乾燥農業に比べ，生産性が上昇する分だけ土地に与える負担も大きいと考えてほしい。

「塩害」にも注目。乾燥地域での農耕は困難であるため，灌漑によって水が与えられるのだが，作物の根に吸収されずに余った水は土中で塩分を溶かし込み，蒸発する際にその塩分を地表にまで持ち上げ，塩害の原因となってしまう。例えば，ナイル川沿岸などでは灌漑施設の整備が進み農産物の生産性が上がったのだが，同時に塩害の被害も拡大した。

なお，塩害とは乾燥地域で生じる環境問題であり，日本のような湿潤地域とは原則的に無関係。

第 11 講
農畜産物統計・農業の問題点［練習問題］

［1］　次の表 1 は，米の生産量，米の輸出量，１ha当たりの米収穫量を国別に示したものであり，①～④は，アメリカ合衆国，タイ，中国(＊)，日本のいずれかである。タイに該当するものを，表 1 中の①～④のうちから一つ選べ。

(＊)台湾を含む。

(2008年度地理Ｂ追試験第２問問６)

表 1

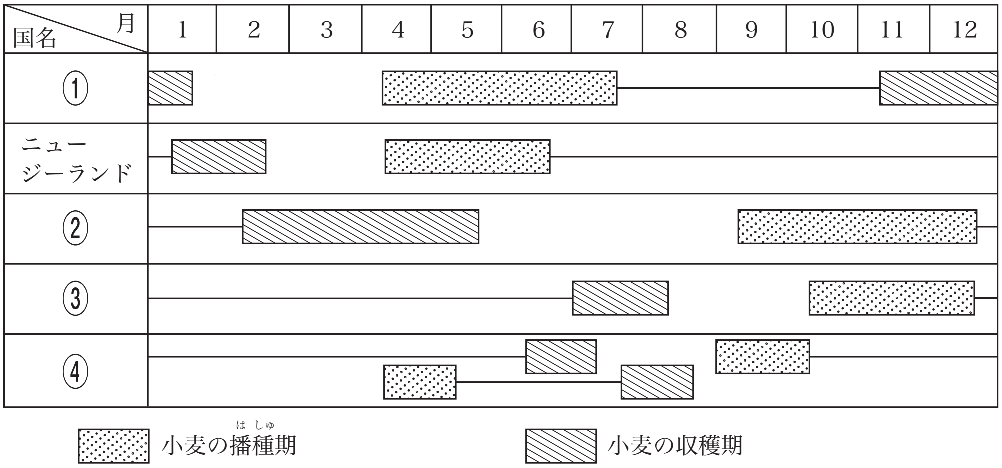
	米の生産量 (万トン)	米の輸出量 (万トン)	1ha 当たりの米収穫量 (トン)
①	18052	89	6.31
②	2386	999	2.59
③	1091	5	6.42
④	1047	307	7.78

統計年次は2004年。

『日本国勢図会 CD=ROM』などにより作成。

［2］　次の図2は，アメリカ合衆国・インド・オーストラリア・ニュージーランド・フランスにおける小麦の栽培カレンダーを示したものである。世界の主要な企業的穀物農業地域であるオーストラリアに該当するものを，図2中の①〜④のうちから一つ選べ。

（1993年度地理追試験第2問問5）



「FAO 作物カレンダー」による。

図2

［３］　ヨーロッパ(ソ連を除く)のジャガイモ・トウモロコシ・ライ麦・テンサイ・小麦の五つの作物の生産について述べた次の文**ア**～**オ**のうち，トウモロコシとライ麦に該当する文の正しい組合せを，下の①～⑩のうちから一つ選べ。

（1991年度地理追試験第２問問３）

ア　工業原料や家畜飼料として利用され，フランス・西ドイツ・ポーランド・イタリアで生産が多い。

イ　食料と家畜飼料のほか，でんぷん･アルコールの製造原料として需要が多く，生産量はポーランドが他の国を大きく引き離している。

ウ　食料にも利用されるが，家畜飼料として特に重要であり，ルーマニア・フランス・ユーゴスラビアなどで生産量が多い。

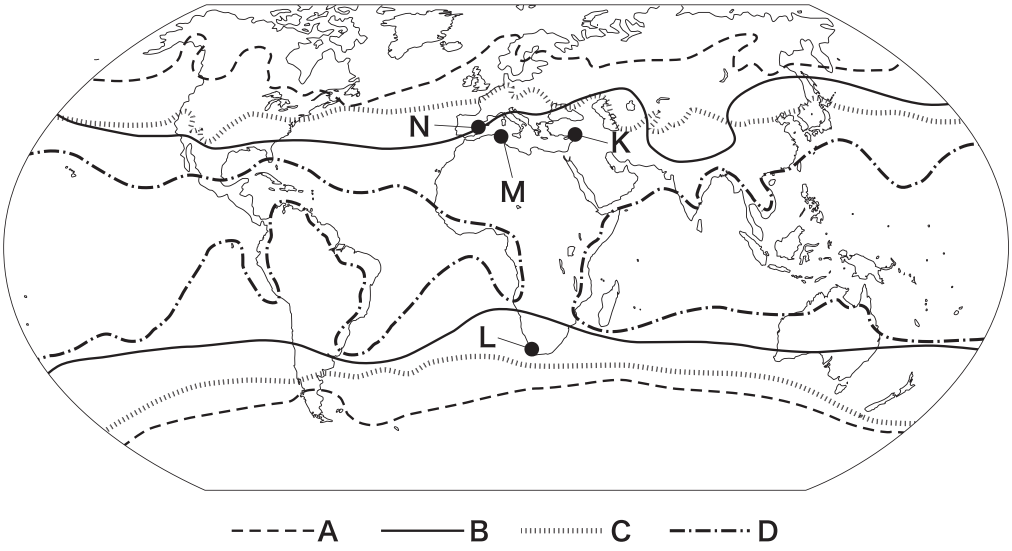
エ　秋まきと春まきに大別される重要な食用作物であり，ヨーロッパの国の中ではフランスの生産量が最も多い。

オ　黒パンの原料のほか，家畜の飼料となる作物で，ポーランド・東ドイツ・西ドイツで生産量が多い。

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
トウモロコシ	**ア**	**ア**	**イ**	**イ**	**ウ**	**ウ**	**エ**	**エ**	**オ**	**オ**
ライ麦	**エ**	**オ**	**ア**	**ウ**	**イ**	**オ**	**イ**	**ウ**	**ア**	**エ**

［４］　次の図１中の曲線Ａ～Ｄは，稲・小麦・ココヤシ・ブドウの栽培限界を示したものである。ブドウの栽培限界に該当するものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

（1993年度地理追試験第３問問２）



「ディルケ世界地図帳」ほかによる。

図１

①　Ａ　　②　Ｂ　　③　Ｃ　　④　Ｄ

［５］　次の表２は，地中海沿岸諸国で栽培されている主要な農作物について，その生産量が世界の生産量に占める割合を国別に示したものであり，表２中のＰ～Ｒはオリーブ，オレンジ，ブドウのいずれかである。Ｐ～Ｒと農作物名との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2004年度地理Ｂ本試験第３問問７）

表２

（単位：％）

	P	Q	R
イタリア	20.4	15.7	3.4
スペイン	30.8	9.1	4.0
ギリシャ	14.7	1.9	1.4
トルコ	4.4	5.5	1.6
チュニジア	7.4	0.2	0.2
フランス	0.1	12.2	0.0

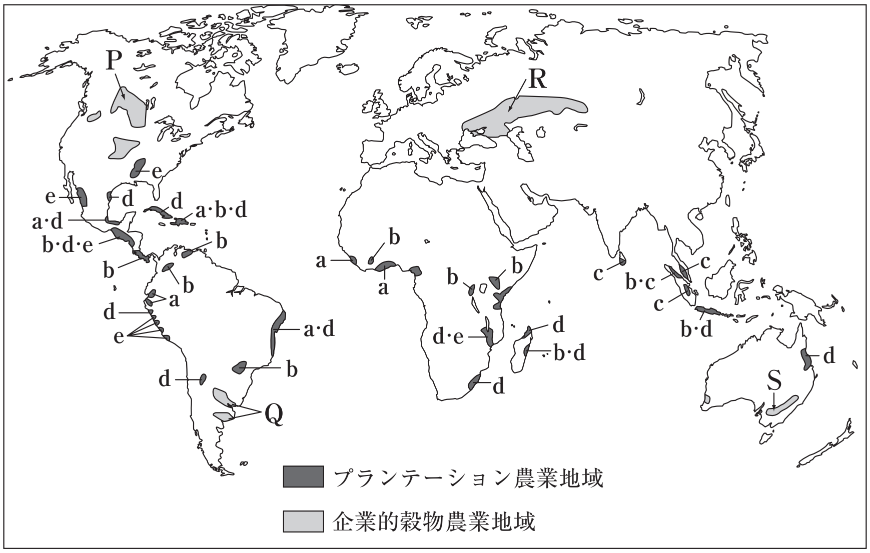
統計年次は2000年。

FAO, *Production Yearbook*　により作成。

	P	Q	R
①	オリーブ	オレンジ	ブドウ
②	オリーブ	ブドウ	オレンジ
③	オレンジ	オリーブ	ブドウ
④	オレンジ	ブドウ	オリーブ
⑤	ブドウ	オリーブ	オレンジ
⑥	ブドウ	オレンジ	オリーブ

［6］ 図１中のａ～ｅは，カカオ，コーヒー，サトウキビ，天然ゴム，綿花の主な栽培地域を示し，次の文章Ｘ・Ｙは，いずれかの作物について述べたものである。Ｘ・Ｙに該当する作物の栽培地域として適当なものを，下の①～⑤のうちから一つずつ選べ。

（1998年度地理Ｂ本試験第１問問１）



図中のプランテーション農業地域では，油ヤシ，カカオ，コーヒー，サイザル麻，サトウキビ，茶，天然ゴム，バナナ，綿花などが栽培されている。
ホイットルセイ，グリッグ，山本などによる。

図１

Ｘ　繊維の原料となる作物。生育期に高温多雨，収穫期に乾燥する気候で，水はけのよい肥沃な土壌に適する。

Ｙ　エチオピアが原産地とされる嗜好作物。生育期に高温多雨，結実期に乾燥する気候で，昼夜の気温差の大きい高原などが栽培に適する。

①　a　　②　b　　③　c　　④　d　　⑤　e

［7］ 次の図１は，牛・豚・羊の三種類の家畜について，農用地面積（耕地面積と牧場・牧草地面積の合計）当たりの飼育頭数を示したものである。ア・イ・ウに該当する家畜名との正しい組み合わせを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（1991年度地理Ｂ追試験第２問問４）

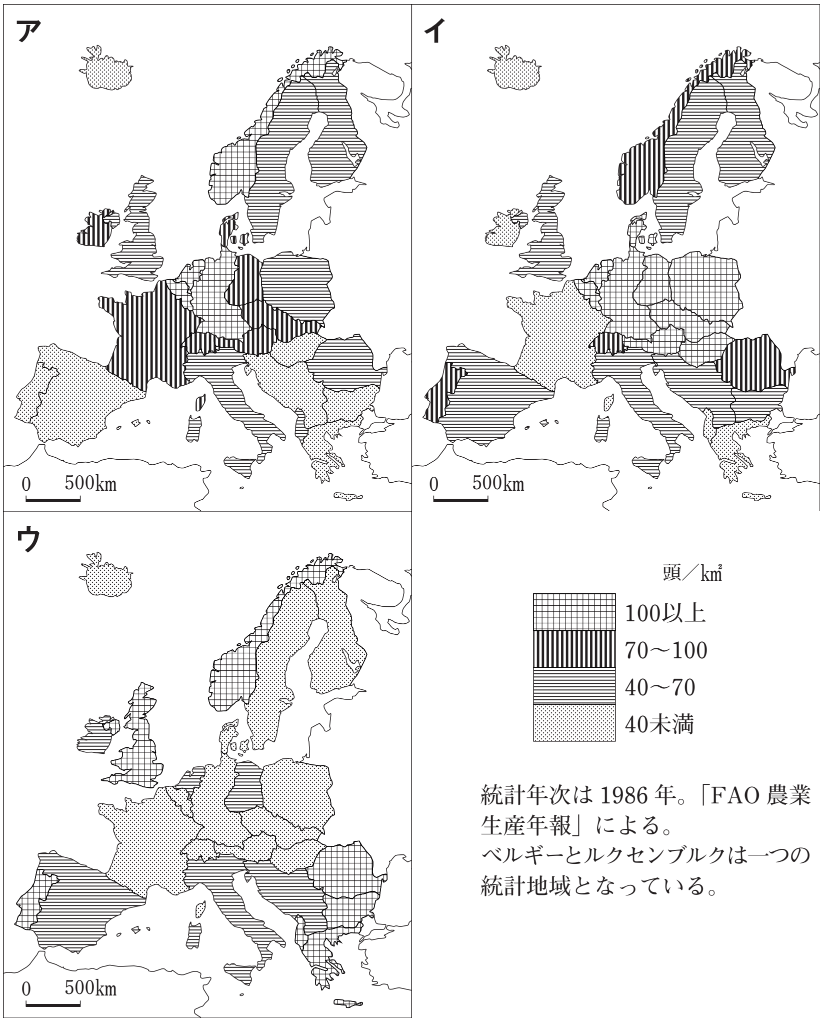


図１

	①	②	③	④	⑤	⑥
ア	牛	牛	豚	豚	羊	羊
イ	豚	羊	牛	羊	牛	豚
ウ	羊	豚	羊	牛	豚	牛

［8］　次の①～⑤は，図１中に示された**ア～オ**のいずれかの海域における漁業の特性を説明した文章である。**ア**と**オ**の説明として最も適当なものを，次の①～⑤のうちから一つずつ選べ。

（2003年度地理Ｂ追試験第１問問３）

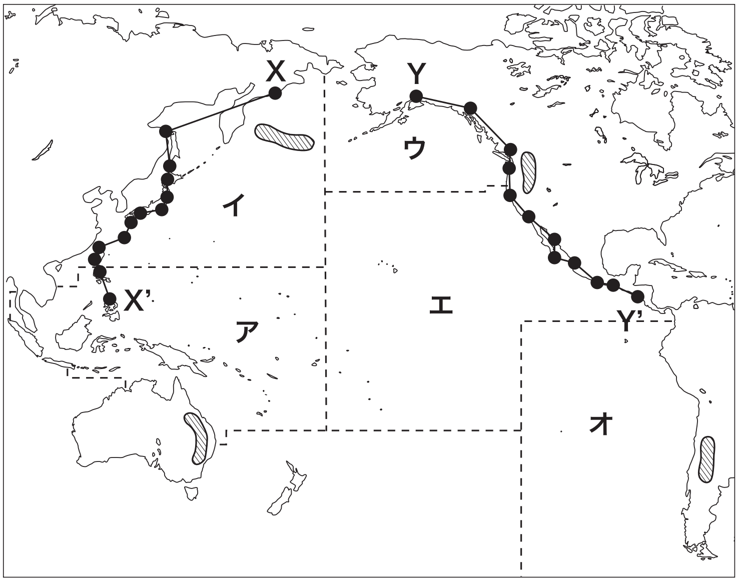


図１

①　この海域では，大陸棚の占める割合が小さく，外洋性の回遊魚が主に漁獲される。総漁獲量は**ア～オ**の中では最も少ない。

②　この海域では，産卵期に河川を遡上する魚類を海上で捕獲する漁が広く知られている。総漁獲量は**ア～オ**の中では２番目に少ない。

③　この海域では，寒流は存在しない。周辺諸国では動物性たんぱく源として多様な魚介類が重宝され，その総漁獲量は高水準である。

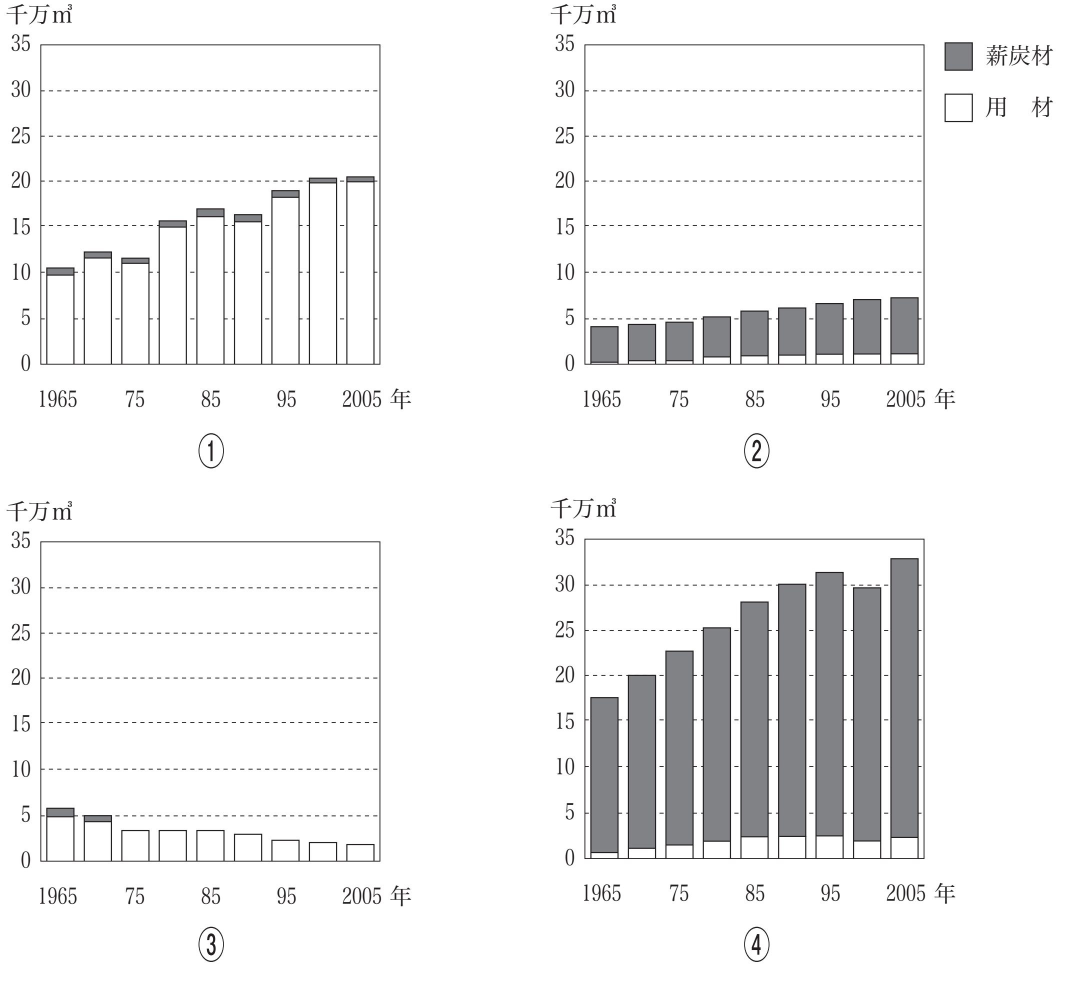
④　この海域では，寒流と湧昇流がもたらすプランクトンに恵まれている。主に飼料となる魚類が大量に漁獲される好漁場となっている。

⑤　この海域では，広い大陸棚と潮目（潮境）に恵まれている。周辺に世界有数の魚介類消費国が多くみられる。

［９］　次の図２は，木材について薪炭材と用材(＊)の生産量の推移を国別に示したものであり，①～④はインド，カナダ，ナイジェリア，日本のいずれかである。カナダに該当するものを，下の①～④のうちから一つ選べ。

(＊)製材・ベニヤ材やパルプ材などの産業用の木材。

(2010年度地理Ｂ追試験第３問問３)



FAO の資料により作成。

図２

［10］　イギリス・イタリア・スイス・ドイツ・フランスの５か国の農牧業について説明した次の文章①～⑤のうちから，下線部が**誤っているもの**を二つ選べ。ただし，解答の順序は問わない。

（1994年度地理追試験第５問問４）

① イギリスでは第二次世界大戦後，農業改革が転換されたため，徐々に食糧自給率が高まり，小麦は輸出されるまでになった。農業人口率はきわめて低いが，ヨーロッパ諸国と比較すると経営規模が大きいので，生産性も高い。

② イタリアでは，農業においても北部と南部の格差が大きい。北部の平野部では三圃式農業が中心であるが，一部には稲作もみられる。南部の農業生産力は低いので，外国へ出稼ぎにいく農民が多い。

③ スイスの農牧業は，牧畜の形態に特色がある。酪農がさかんなアルプス山地では，冬季の舎飼いと夏季のアルプでの放牧を組み合わせた，牛の遊牧がみられる。

④ ドイツの北西部では酪農がさかんで，北東部ではライ麦やジャガイモの栽培を中心とする農業が主体である。中部のレスが堆積しているところでは，小麦やテンサイの生産が多いが，河谷ではブドウの栽培もみられる。

⑤ フランスは西ヨーロッパ最大の農業国で，小麦の輸出国であり，その主産地はパリ盆地（平野）一帯である。そこでは耕地の交換分合や区画整理事業が実施されたため，生産性の高い，経営規模の大きな農家が多い。

［11］　1960年代以降にフィリピンやメキシコからはじまり，その後，多くの発展途上国に広がった「緑の革命」について述べた文として最も適当なものを，次の①〜④のうちから一つ選べ。

（2002年度地理Ｂ追試験第４問問３）

① 各地の農民が伝承してきた在来農法に関する知識を再評価し，食料生産の増大に成功した。

② 高収量品種の穀物を農薬や肥料を用いて栽培し，食料生産量が大幅に増大した。

③ 国際競争力のある樹木作物の生産に集中し，それを輸出することで多くの外貨を得た。

④ 伐採によって失われた森林を回復するために計画的に植林を行い，洪水を防ぐのに成功した。

［12］　オアシス周辺で行われる農業の特徴について述べた次の文①〜④のうちから，正しいものを一つ選べ。

（1997年度地理Ｂ本試験第５問問４）

① 水が比較的豊富な地域では，綿花など商品作物の栽培も行われている。

② 水はきわめて貴重であるので，家畜の飼育はほとんど行われていない。

③ 水はもっぱら天水に頼り，灌漑施設はほとんど利用されていない。

④ 水源が季節的に移動するので，耕作地の移動が定期的に行われている。

[13]　土地資源を保全しながら行われてきた農業に関する次の文①～④のうちから，**誤っているもの**を一つ選べ。

（1998年度地理Ｂ本試験第５問問７）

① ナイル川下流の乾燥地域では，乾燥農法から灌漑農業へ切り替えることによって，土壌の塩類化を防いできた。

② アメリカ合衆国では，等高線に沿って縞状に耕作することにより，土壌侵食を防いできた。

③ モンスーンアジアでは，傾斜地に階段状の水田をつくり，高い土地生産性をあげるとともに，土壌の流出を防いできた。

④ ヨーロッパでは，家畜を導入したり，輪作を行ったりすることによって，地力の維持をはかってきた。

[14]　日本における稲の栽培と環境とのかかわりについて述べた次の文①～④のうちから，**誤っているもの**を一つ選べ。

（1995年度地理追試験第１問問５）

① 水田は，降雨時の流出量を調整し，また地下水を養うはたらきをする。

② 斜面に作られた水田では，土壌の流出が防止される。

③ 水田では，稲の生長期に土壌が水に覆われているため，土壌の劣化が進行し，長年にわたり稲を連続して栽培することが難しい。

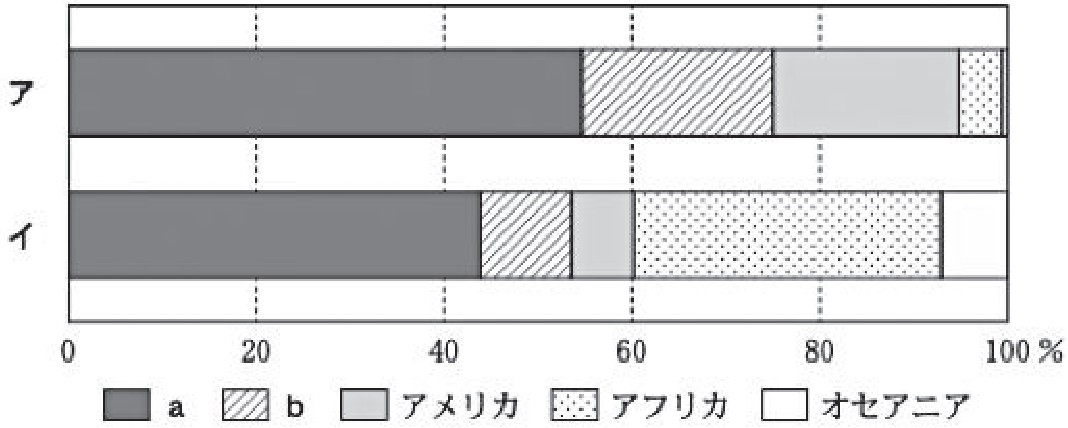
④ 水田では，稲の生長期に土壌が水に覆われているため，畑に比べて雑草の繁茂が抑制される。

第 11 講
農畜産物統計・農業の問題点［確認問題］

［１］　まず，ツバサさんたちは，世界における家畜の分布に着目した。次の図１は，羊と豚の飼育頭数の地域別割合を示したものであり，**ア**と**イ**は羊と豚のいずれか，凡例 a と b はアジアとヨーロッパ（＊）のいずれかである。羊とアジアとの正しい組合せを，後の①～④のうちから一つ選べ。

（＊）ヨーロッパの数値にはロシアを含む。

（2024年度地理Ａ本試験第２問問１）



統計年次は 2020 年。FAOSTAT により作成。

図１

	①	②	③	④
羊	ア	ア	イ	イ
アジア	a	b	a	b

［**2**］　日本は世界でも有数の小麦輸入国である。次の表**1**は，世界の小麦輸出量の上位５か国のアメリカ合衆国・アルゼンチン・オーストラリア・カナダ・フランスについて，輸出量，生産量，日本の輸入量，１ha当たりの収量を示したものである。フランスに該当するものを，表**1**中の①〜④のうちから一つ選べ。

（1997年度地理Ｂ追試験第２問問３）

表**1**

国名	輸出量		生産量		日本の輸入量		1ha当たり収量（トン）
	万トン	%	万トン	%	万トン	%	
①	3567	34.7	6537	11.6	323	55.5	2.58
②	1830	17.8	2932	5.2	0	0.0	6.48
③	1821	17.7	2783	4.9	143	24.6	2.20
オーストラリア	949	9.2	1820	3.2	116	19.9	1.91
④	578	5.6	915	1.6	0	0.0	1.99

統計年次は1993年。表中の％は，それぞれの総量に占める構成比を示す。「世界国勢図会」など。

［３］　次の図３は，ヨーロッパにおけるオリーブ，かんきつ類，小麦，ブドウの栽培北限を示したものである。かんきつ類に該当するものを，図３中の①～④のうちから一つ選べ。

（2000年度地理Ｂ追試験第５問問２）

『Diercke Weltatlas』などにより作成。

図３

［４］　次の表１は，アメリカ合衆国，インド，カナダ，ブラジルのいずれかの用材の伐採量，および木材伐採量に占める針葉樹の割合を示したものである。アメリカ合衆国に該当するものを，表１中の①～④のうちから一つ選べ。

（2004年度地理Ａ追試験第１問問７）

表１

	木材伐採量（百万立方m）		木材伐採量に占める針葉樹の割合（％）
	用材	薪炭材	
①	428	72	58.6
②	183	5	82.7
③	103	132	22.5
④	22	297	3.6

統計年次は2000年。『世界国勢図会』により作成。

［5］ 次の写真１は，フォッグ卿が横断した北アメリカ大陸で，現在みられる農場景観である。写真１の説明として最も適当なものを，下の文①～④のうちから一つ選べ。

（1998年度地理Ｂ本試験第３問問６）

写真１

（編集部　追記：編集上の都合により代替写真に差し替えております。）

① グレートベースンでは，降水量が豊富なため，トラクターを操作しやすい写真１のような円形の大規模な水田が数多くみられる。

② ロッキー山脈の谷間では，写真１のような円形の牧場に肉牛を飼育し，牛を集中的に管理する方法がとられている。

③ グレートプレーンズでは，写真１のような円形に散水する施設が多数みられ，乾燥気候下でも小麦，とうもろこし，牧草などが栽培されている。

④ ニューヨークの近郊では，写真１のような酪農を営む円形の農場がみられ，その中心に農家や搾乳舎があり，農作業の軽減が図られている。

［6］　食料確保にかかわる課題とその解決策について述べた文として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。

（2009年度地理Ａ本試験第５問問５）

①　農地拡大のために過剰な森林伐採が進んだ地域では，アグロフォレストリーによる食料生産と森林育成の両立などが必要とされる。

②　モノカルチャー経済により食料が不足する地域では，自給用作物の増産に向けた技術協力が必要とされる。

③　土壌の塩類化(塩性化)により穀物の栽培が困難になった地域では，大規模な灌漑施設の導入が必要とされる。

④　内戦により生じた難民に対しては，国連組織などを通じて，避難先への緊急の食料援助が必要とされる。

第12講
資源エネルギー・発電

現代社会においてとくに重要性を増しているのが，資源とエネルギーをめぐる問題である。一次エネルギーである化石燃料資源がとくに重要で，産出に関連する事項だけではなく，その供給（消費）の特徴も必ず押さえておくべき。また発電についても，火力や原子力など基本的な発電方式をきちんと把握した上で，太陽光やバイオマスなど新エネルギーによる発電の状況も理解していこう。

１２．１　エネルギー資源

・石炭・・・主に古期造山帯に分布。産出量世界１位は中国，２位はインド，３位はインドネシア。ヨーロッパではロシア，ポーランド。輸出量が多いのは，インドネシアやオーストラリア。アメリカ合衆国のアパラチア山脈やオーストラリアのグレートディバイディング山脈が主な産炭地。なお，古期造山帯のほとんど分布しない南アメリカ大陸では石炭の産出量は少ない。

・原油・・・世界の原油については，ＯＰＥＣ（石油輸出国機構）と石油メジャー（欧米系を中心とした大企業）との勢力が拮抗する。産出上位国は西アジア諸国の他，アメリカ合衆国やロシア，ノルウェーなど。輸出量が多いのはサウジアラビアやロシア。輸入上位国は中国，アメリカ合衆国。日本の輸入先は，サウジアラビアなど西アジアに偏っている。

・天然ガス・・・アメリカ合衆国やロシアで産出量が多い。日本の輸入先上位はオーストラリアとマレーシア。

・ウラン・・・カザフスタンやカナダなど。

［知っておこう］

資源産出国はいずれも国内のエネルギー源をその資源に依存することが多いのだが，ウランの世界的な産出国であるオーストラリアは原子力発電を行っていない。オセアニアは非核地域となっている。

１２．２　鉱産資源

・鉄鉱石・・・安定陸塊で埋蔵が多い。上位産出国はオーストラリア，ブラジル，中国。西ヨーロッパではスウェーデン。最大の輸出国はオーストラリア。最大の輸入国は中国。日本の主な輸入国はオーストラリアやブラジルなど。

・銅鉱・・・電線の材料。チリ北部の乾燥地域に世界最大の銅山がある。

・金鉱・・・オーストラリア，アメリカ合衆国，南アフリカ共和国での産出が特徴的。いずれも旧イギリス領で，先住民に対する迫害が行われた。

・銀鉱・・・産出上位国はメキシコとペルー。アステカ帝国とインカ帝国が栄えたが，銀を求めるスペインによって滅ぼされた。

・ニッケル鉱・・・合金(ニクロム線)として電気部品などに使用。フィリピンなど。ニューカレドニア(フランス)での産出も特徴的。

・ボーキサイト・・・これを電気分解し精錬することでアルミニウムが得られる。熱帯の土壌であるラトソルに多く含まれている。オーストラリア北部，ギニア，ジャマイカなど。

・スズ鉱・・・最大の産出国は中国だが，アンデス山脈の内陸国ボリビアを知っておくといい。缶詰のメッキなど。

・ダイヤモンド・・・産出量が多い国はロシアやオーストラリアだが，大陸別ではアフリカが最大。コンゴ民主共和国が重要。かつてベルギーに植民地支配された歴史があり，ベルギーではこの地域で採られた鉱石を利用しダイヤモンド加工業が発達している。

・リン鉱・・・化学肥料の原料。モロッコやチュニジアなど北アフリカでの産出が比較的多い。太平洋の島国ナウルでもかつて産出(現在は枯渇)。

１２．３　エネルギー消費に特徴がある国

・アメリカ合衆国・・・１人当たりの消費量が大きい。原油については，世界的な産出国の一つでありながら，世界的な輸入国でもある。

・中国・ポーランド・・・・固体燃料に依存する割合が高い。

・ロシア・・・気体燃料に依存する割合が高い。

・日本・・・液体燃料に依存する割合が比較的高い。

・フランス・・・原子力発電がさかんな国であり，電力の値の大きさが特徴。

１２．４　発電

・火力が主軸・・・ＯＰＥＣなど原油産出国，オーストラリアや中国，ポーランドなど石炭産出国。

・原子力が主軸・・・フランス。ただしヨーロッパ全体は脱原発の方向にある。なお，原子力発電が行われていない主な国は，イタリア･オーストラリア･ニュージーランド。

・水力が主軸・・・ノルウェー・ブラジル。カナダ・スウェーデン・ニュージーランドでも水力への依存度が高い。

＜チェック！＞

水力発電のさかんなノルウェーやブラジル，ニュージーランドには共通点が多い。豊富な降水量，山地地形（ブラジルの主な水力発電地域は南部のブラジル高原），温暖な気候（河川が凍結したら発電が困難）など。また人口密度が低いため，１人当たりの淡水資源量も多い。

１２．５　新エネルギー

・太陽熱発電；太陽からの受熱量の大きい低緯度の少雨（乾燥）地域においてとくに有効。

・風力発電；偏西風が卓越する西ヨーロッパで発達。とくにドイツ北部やデンマークなど平坦な地域でさかん。風をさえぎる山地などの影響を避け，日本では沿岸部や山頂付近に風力発電の施設は多い。

・潮汐発電；干潮と満潮の差によって発電。フランスの大西洋岸など。

・地熱発電；火山地域で行われる。アイスランドやニュージーランド北島など。日本でも岩手県や大分県に地熱発電所が立地。

・バイオマス；生物エネルギー。とくに植物から抽出したアルコールを燃料とし

て利用することが多い。植物は成長途上で光合成により二酸化炭素を吸収するので，燃焼による二酸化炭素発生と相殺される(カーボン・ニュートラル)。ただし，トウモロコシなどのバイオマス利用によって，農産物の価格高騰などの問題点も。

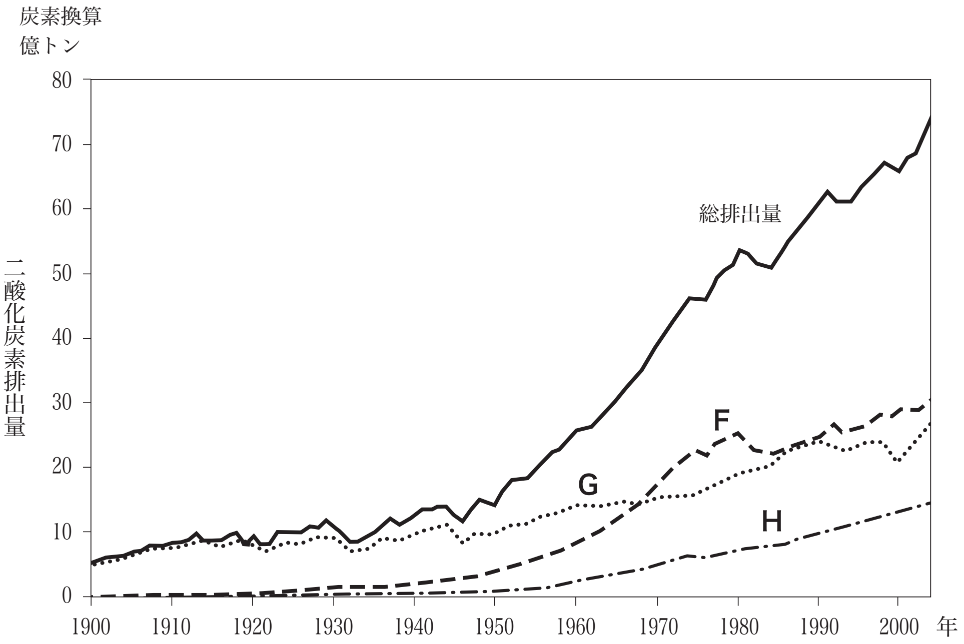
ワンポイント

エネルギー消費と関連して，二酸化炭素の排出についてもしばしば出題されるので知っておくといい。原則としてエネルギー消費量と二酸化炭素排出量は比例し，エネルギー消費量１位の中国において二酸化炭素排出量も最大となっている。とくに中国は石炭への依存度が高い国でもあるが，燃焼効率の悪い石炭は，石油や天然ガスに比べ，エネルギー当たりの二酸化炭素排出量が多い。

第12講
資源エネルギー・発電［練習問題］

［１］ 次の図２中のＦ～Ｈは，石炭，石油，天然ガスのいずれかの利用にともなって発生する二酸化炭素排出量とその推移を示したものである。Ｆ～Ｈと資源名との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2008年度地理Ｂ追試験第５問問２）



Carbon Dioxide Information Analysis Center の資料により作成。

図２

	①	②	③	④	⑤	⑥
F	石炭	石炭	石油	石油	天然ガス	天然ガス
G	石油	天然ガス	石炭	天然ガス	石炭	石油
H	天然ガス	石油	天然ガス	石炭	石油	石炭

［２］　資源の持続的な利用は地球的課題である。次の表１は，世界のいくつかの地域における1980年から2007年までのエネルギー消費の年平均伸び率と，1980年および2007年の世界全体のエネルギー消費実績を示したものであり，**ア～ウ**は，石炭，石油，天然ガスのいずれかである。**ア～ウ**と資源名との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2012年度地理Ａ追試験第４問問１）

表１

		ア	イ	ウ
地域別の年平均伸び率（%）	アジア（＊）	3.1	5.2	7.7
	北アメリカ	0.5	1.4	0.6
	中央・南アメリカ	1.7	3.2	4.3
	ヨーロッパ（＊＊）	-0.3	-1.2	2.9
	アフリカ	2.9	2.7	8.2
世界全体の消費実績（＊＊＊）（百万トン）	1980年	3085	1780	1229
	2007年	4078	3186	2514

（＊）西アジア（アフガニスタン・トルコを除く）を含まない。

（＊＊）ＯＥＣＤ構成国に限り，トルコを含む。

（＊＊＊）石油換算。

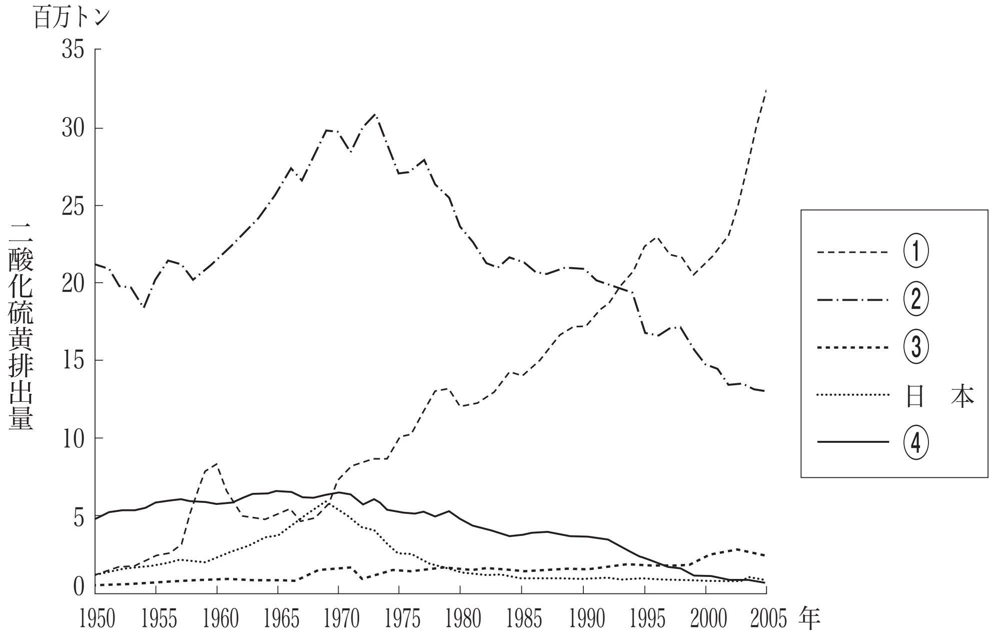
『ＥＤＭＣエネルギー・経済統計要覧』により作成。

	ア	イ	ウ
①	石炭	石油	天然ガス
②	石炭	天然ガス	石油
③	石油	石炭	天然ガス
④	石油	天然ガス	石炭
⑤	天然ガス	石炭	石油
⑥	天然ガス	石油	石炭

［3］　次の図3は，いくつかの国における二酸化硫黄排出量の推移を示したものであり，①〜④はアメリカ合衆国，イギリス，オーストラリア，中国（*）のいずれかである。イギリスに該当するものを，図3中の①〜④のうちから一つ選べ。

（*）台湾，ホンコン，マカオを含まない。

（2015年度地理Ｂ本試験第５問問５）

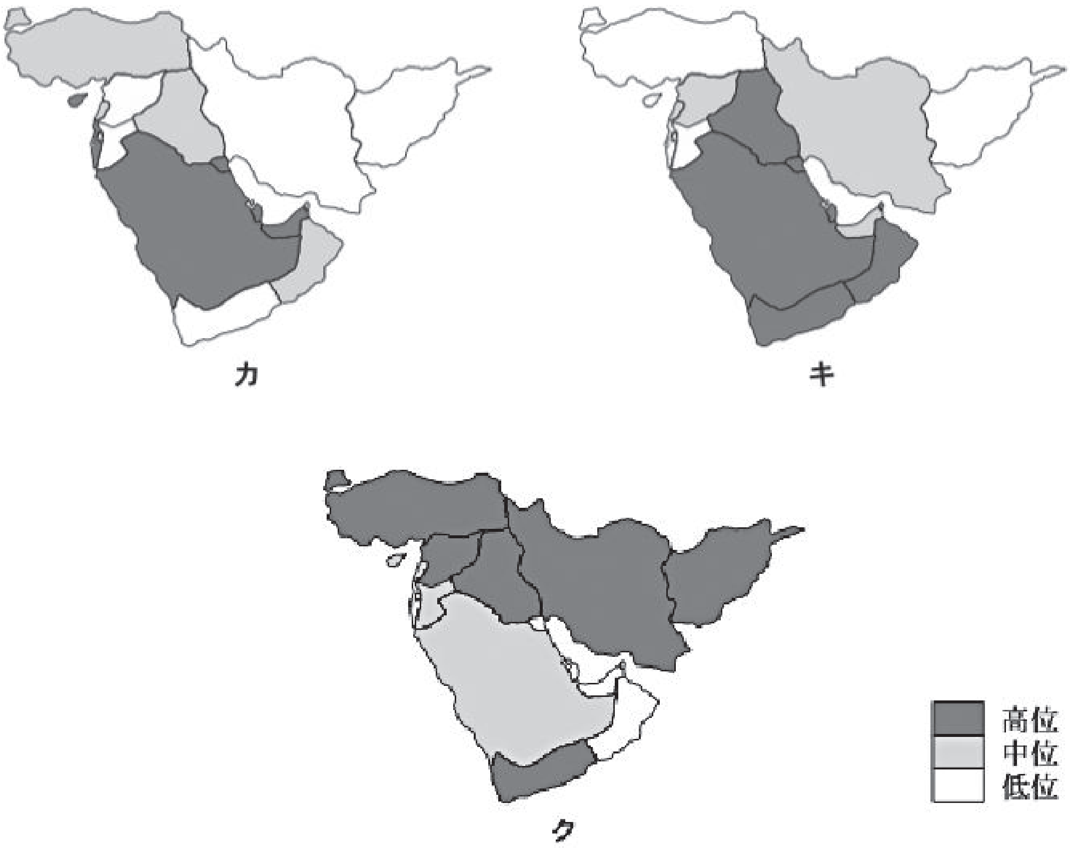


NASA Socioeconomic Data and Applications Center の資料により作成。

図3

［4］　次の図３中の**カ**～**ク**は，西アジアとその周辺における，ＧＤＰ（国内総生産）に占める農林水産業の割合，人口一人当たりＧＮＩ（国民総所得），輸出額に占める石油・石油製品の割合のいずれかの指標について，国・地域別に示したものである。指標名と**カ**～**ク**との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2018年度地理Ｂ本試験第４問問４）



統計年次は，GDPに占める農林水産業の割合が2012年，人口１人当たりGNIが2014年，輸出額に占める石油・石油製品の割合が2010～2013年のいずれか。
FAOSTATなどにより作成。

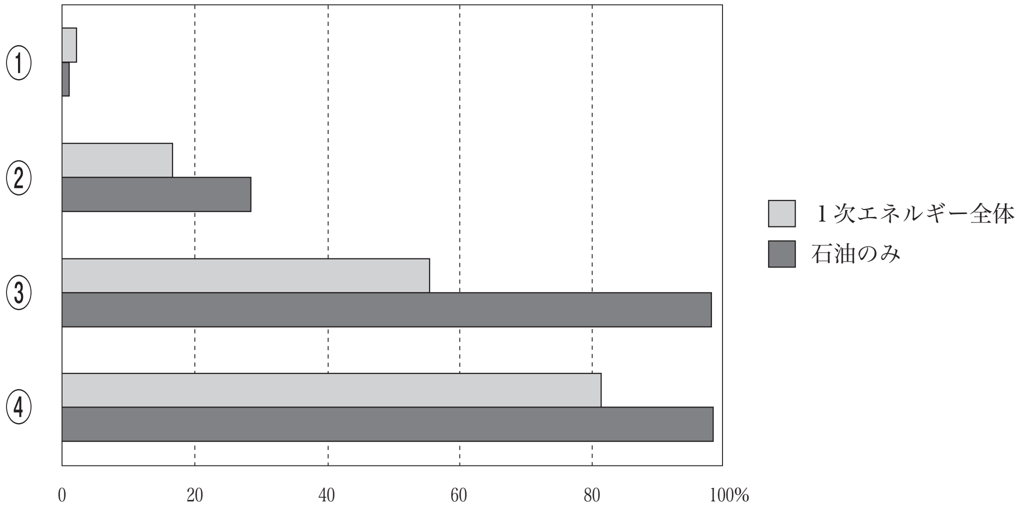
図３

	①	②	③	④	⑤	⑥
ＧＤＰに占める農林水産業の割合	カ	カ	キ	キ	ク	ク
人口１人当たりＧＮＩ	キ	ク	カ	ク	カ	キ
輸出額に占める石油・石油製品の割合	ク	キ	ク	カ	キ	カ

［５］　次の図３は，エネルギーの輸入依存率を，１次エネルギー（＊）全体の場合と石油のみの場合についてそれぞれ国別に示したものであり，①～④はカナダ，日本，フランス，ロシアのいずれかである。ロシアに該当するものを，図３中の①～④のうちから一つ選べ。

（＊）石油換算。原子力は，国産エネルギーとして計算。

（2008年度地理Ｂ本試験第２問問３）

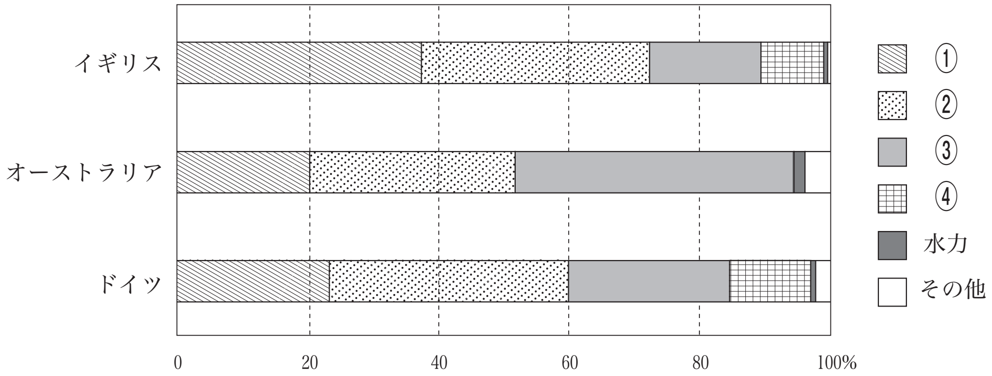


統計年次は2004年。
外務省の資料により作成。

図３

［6］　次の図2は，イギリス，オーストラリア，ドイツにおける1次エネルギー消費(＊)の内訳を示したものであり，①～④は原子力，石炭，石油，天然ガスのいずれかである。石炭に該当するものを，図2中の①～④のうちから一つ選べ。
(＊)石油換算。

(2008年度地理Ｂ本試験第2問問2)

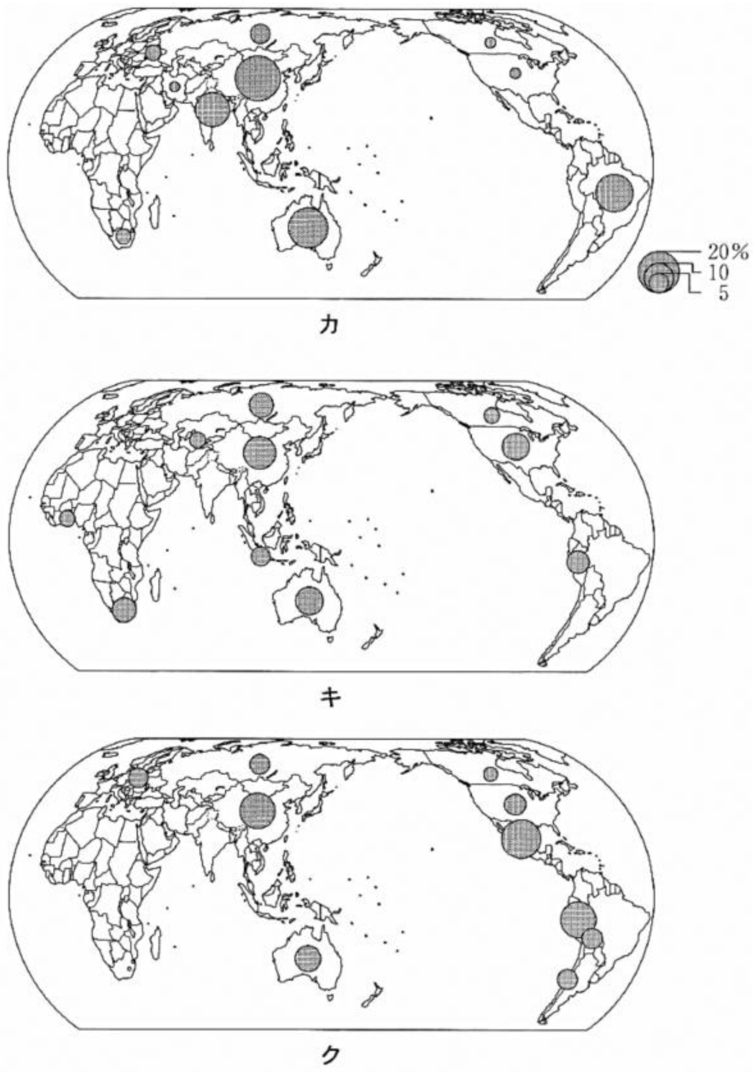


統計年次は2003年。
『EDMCエネルギー・経済統計要覧』により作成。

図2

［7］　次の図**2**中の**カ**～**ク**は，金鉱，銀鉱，鉄鉱石の産出量のいずれかについて，世界上位 10 か国・地域とそれらが世界に占める割合を示したものである。**カ**～**ク**と項目名との正しい組合せを，次ページの①～⑥のうちから一つ選べ。

（2014 年度地理Ｂ本試験第２問問３）



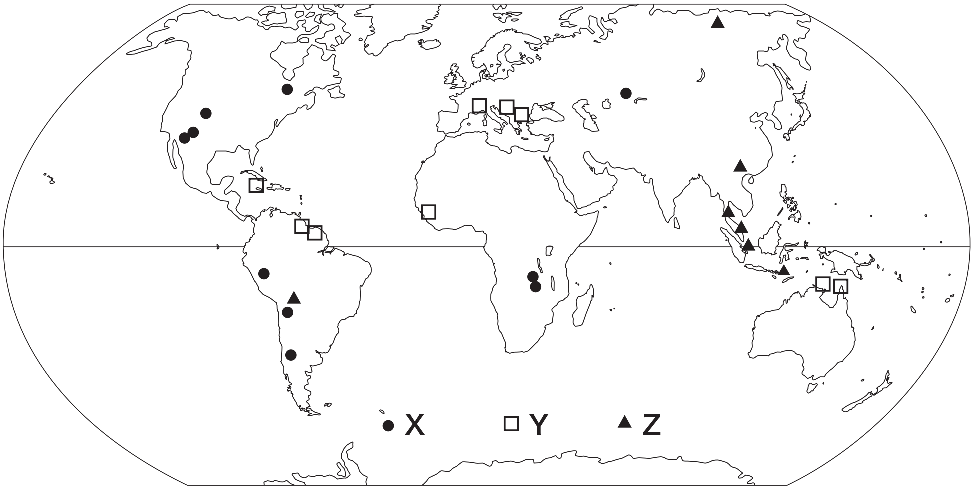
統計年次は 2010 年。
United States Geological Survey の資料により作成。

図**2**

	①	②	③	④	⑤	⑥
金　鉱	**カ**	**カ**	**キ**	**キ**	**ク**	**ク**
銀　鉱	**キ**	**ク**	**カ**	**ク**	**カ**	**キ**
鉄鉱石	**ク**	**キ**	**ク**	**カ**	**キ**	**カ**

［8］ 次の文章**ア・イ・ウ**は，すず・銅・ボーキサイトについて述べたものである。また，下の図**1**中の記号**X・Y・Z**は，それらの主な鉱山の分布を示したものである。すずおよび銅に該当する文章と記号の正しい組合せを，下の①～⑨のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

（1993年度地理本試験第３問問２）



『ディルケ世界地図帳』ほかによる。

図**1**

ア　電気関連産業の発展とともに，需要はさらに増大した。少数の国際資本が採掘・流通・精錬になお大きな支配力を有している。

イ　航空機産業や建設業の発展とともに需要が増大した。鉱石の精錬には多くの電力を必要とする。

ウ　缶詰工業の発展とともに需要が増大した。ハンダ・活字・青銅など合金にも広く用いられる。

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
図中の記号	X	X	X	Y	Y	Y	Z	Z	Z
文	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ

［9］　図１中の記号◆は，ある鉱産資源の主な産出地を示している。この鉱産資源として正しいものを，次の①～⑤のうちから一つ選べ。

（2000年度地理Ｂ本試験第２問問２）

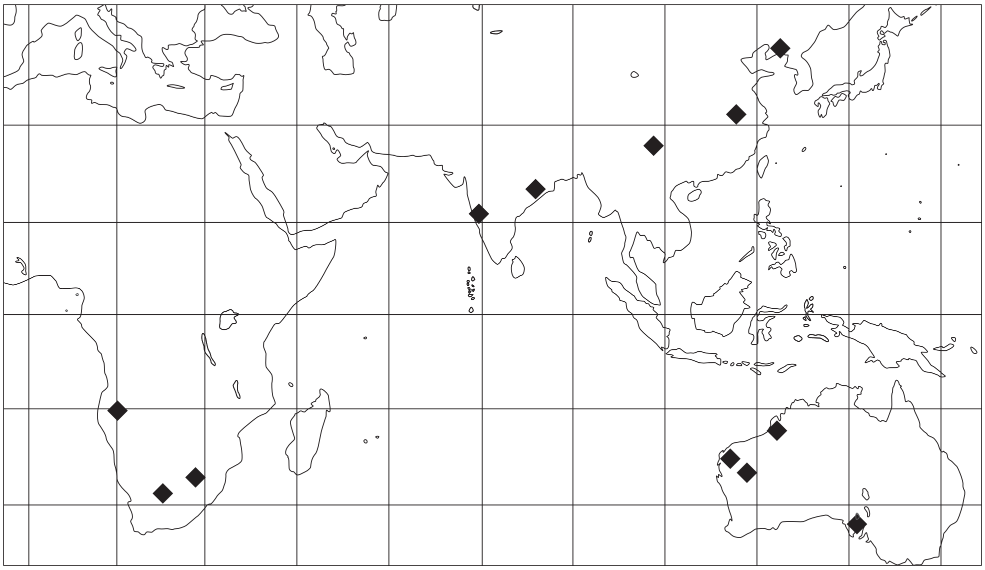


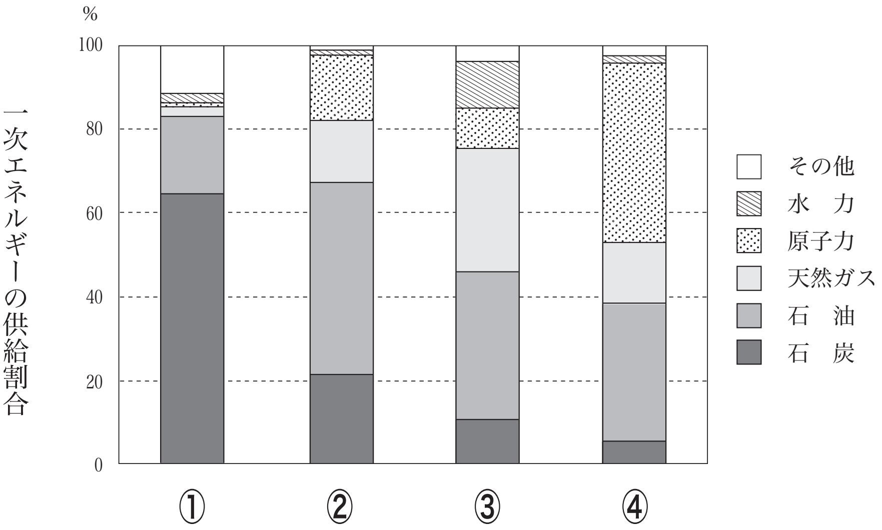
図１

① 金
② 原油
③ 石炭
④ 鉄鉱石
⑤ ボーキサイト

［10］　次の図２中の①～④は，カナダ，中国（＊），日本，フランスのいずれかの国について，１次エネルギーの国別供給量に占める，石炭，石油，天然ガス，原子力，水力，その他の供給割合を示したものである。カナダに該当するものを，図２中の①～④のうちから一つ選べ。

（＊）台湾，ホンコン，マカオを含まない。

（2011年度地理Ａ本試験第４問問３）



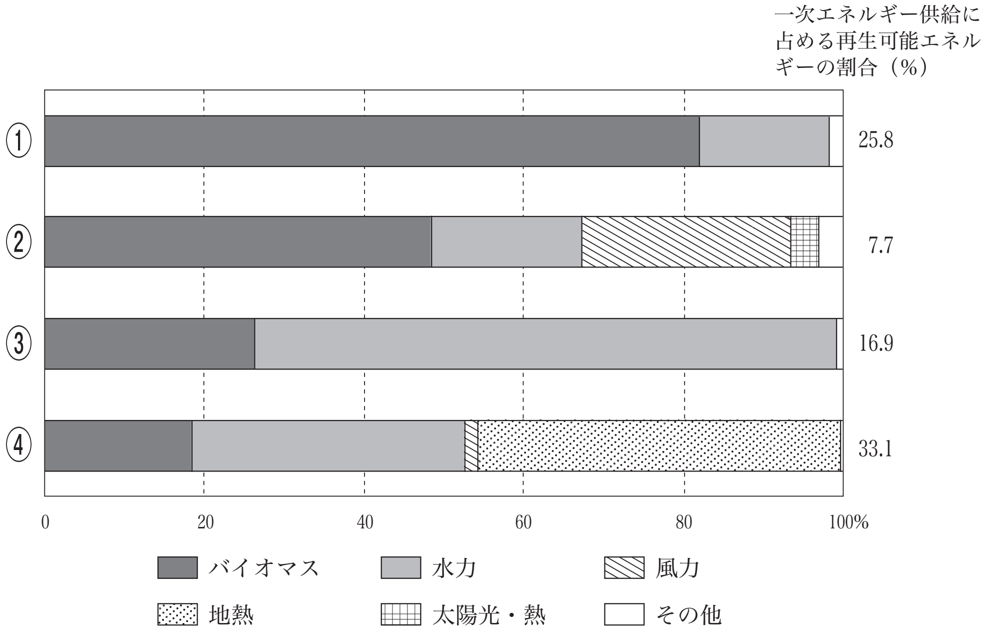
統計年次は2004年。
『世界国勢図会』により作成。

図２

［11］　現代世界は主として化石燃料などの枯渇性エネルギーに依存しているが，その負の側面から，再生可能エネルギー（＊）が見直されている。次の図３は，いくつかの国について，再生可能エネルギーの内訳と一次エネルギー供給に占める再生可能エネルギーの割合を示したものであり，①～④は，カナダ，スペイン，ニュージーランド，フィンランドのいずれかである。スペインに該当するものを，図３中の①～④のうちから一つ選べ。

（＊）水力や地熱，風力などの自然エネルギーのほか，バイオマスなどの可燃性再生可能エネルギーを含む。

（2012年度地理Ｂ本試験第５問問５）



１％未満はそれぞれの国の「その他」に含めた。
統計年次は2008年。
IEA, *Energy Balances of OECD Countries* により作成。

図３

［12］　資源の持続的利用や環境への負担軽減の面から，化石燃料を用いない発電方法が注目されている。次の図２中のＡ～Ｃは，水力発電，地熱発電，風力発電のいずれかによる発電量について，その世界全体の発電量に占める割合の上位７か国を示したものである。図２中のＡ～Ｃと発電方法との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2009年度地理Ａ追試験第５問問４）

Ａ

Ｂ

C

統計年次は2004年。
『世界国勢図会』により作成。

図２

	A	B	C
①	水力発電	地熱発電	風力発電
②	水力発電	風力発電	地熱発電
③	地熱発電	水力発電	風力発電
④	地熱発電	風力発電	水力発電
⑤	風力発電	水力発電	地熱発電
⑥	風力発電	地熱発電	水力発電

［13］　次の表１は，世界の風力発電に占める上位４か国について，風力発電量と国内の総発電量に占める風力発電量の割合を示したものであり，Ｘ～Ｚは，アメリカ合衆国，デンマーク，ドイツのいずれかである。Ｘ～Ｚと国名との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2006年度地理Ｂ追試験第３問問６）

表１

	風力発電量（億 kWh）	国内の総発電量に占める風力発電量の割合（%）
Ｘ	107	1.8
スペイン	70	2.9
Ｙ	58	0.1
Ｚ	43	11.4

統計年次は2001年。『世界国勢図会』により作成。

	Ｘ	Ｙ	Ｚ
①	アメリカ合衆国	デンマーク	ドイツ
②	アメリカ合衆国	ドイツ	デンマーク
③	デンマーク	アメリカ合衆国	ドイツ
④	デンマーク	ドイツ	アメリカ合衆国
⑤	ドイツ	アメリカ合衆国	デンマーク
⑥	ドイツ	デンマーク	アメリカ合衆国

第12講
資源エネルギー・発電［確認問題］

［**1**］　２国間で行われる貿易は，各国の資源や産業構造の影響を受ける。次の表**1**は，いくつかの国について，１人当たりＧＤＰ（国内総生産）と輸出依存度（＊）をもとに４つに分類したものであり，**Ｊ**～**Ｌ**は，シンガポール，ベトナム，カナダのいずれかである。また，下の**タ**～**ツ**は，日本が**Ｊ**～**Ｌ**のいずれかの国から輸入する主要な品目である。**Ｊ**～**Ｌ**と**タ**～**ツ**との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（＊）輸出額をＧＤＰで割った値。

（2021年度地理Ｂ追試験第２問問５）

表**1**

		輸出依存度	
		50％未満	50％以上
１人当たりＧＤＰ	２万ドル未満	インドネシア	**Ｊ**
	２万ドル以上	**Ｋ**	**Ｌ**

統計年次は2016年。『世界国勢図会』により作成。

タ　機械類（集積回路など）や医薬品

チ　機械類（電気機器など）や衣類

ツ　石炭や肉類

	①	②	③	④	⑤	⑥
Ｊ	**タ**	**タ**	**チ**	**チ**	**ツ**	**ツ**
Ｋ	**チ**	**ツ**	**タ**	**ツ**	**タ**	**チ**
Ｌ	**ツ**	**チ**	**ツ**	**タ**	**チ**	**タ**

［２］ 次のＡ～Ｃの文は，資源・エネルギーの利用について述べたものである。それぞれの文の正誤の組合せとして，最も適当なものを，下の①～⑧のうちから一つ選べ。

（2007年度地理Ａ追試験第４問問５）

Ａ　天然ガスは，燃焼時に地球温暖化や大気汚染の原因となる物質の発生が多いため，世界的に消費量が減少している。

Ｂ　薪炭は，煮炊きのための利用が増加しているが，発展途上国では石油の消費量も伸びている。

Ｃ　原子力発電は，イタリア，スウェーデン，ドイツで，主要な発電方法となっている。

①	Ａ　正	Ｂ　正	Ｃ　正
②	Ａ　正	Ｂ　正	Ｃ　誤
③	Ａ　正	Ｂ　誤	Ｃ　正
④	Ａ　正	Ｂ　誤	Ｃ　誤
⑤	Ａ　誤	Ｂ　正	Ｃ　正
⑥	Ａ　誤	Ｂ　正	Ｃ　誤
⑦	Ａ　誤	Ｂ　誤	Ｃ　正
⑧	Ａ　誤	Ｂ　誤	Ｃ　誤

［3］　主要な１次エネルギーである原油の産出国は偏在している。次の表**1**は，いくつかの原油産出国から主な先進国への原油輸出量を示したものであり，**ア**～**ウ**は，アルジェリア，インドネシア，ベネズエラのいずれかである。**ア**～**ウ**と国名との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2006年度地理Ｂ本試験第４問問１）

表**1**

（単位：万トン）

輸出国	輸入国				
	アメリカ合衆国	イギリス	イタリア	日本	フランス
ア	7908	113	21	61	14
イ	1264	110	383	…	585
ウ	158	…	…	823	…

…は記載なし。

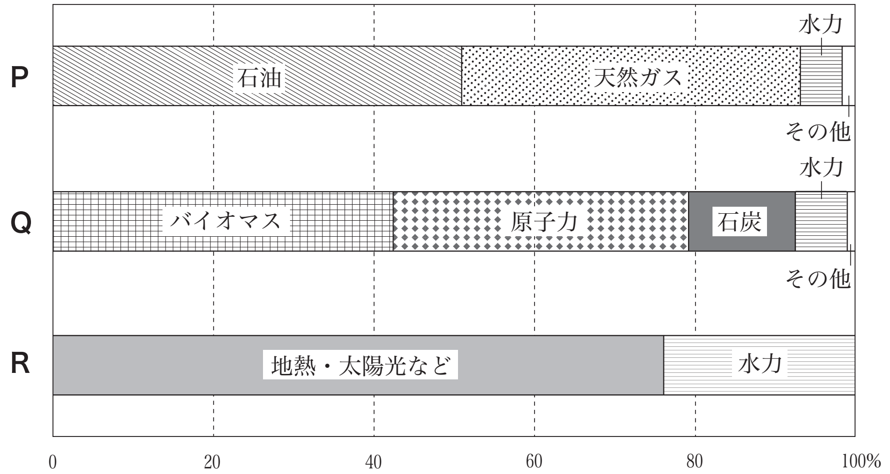
統計年次は2003年。「石油資料」により作成。

	ア	**イ**	**ウ**
①	アルジェリア	インドネシア	ベネズエラ
②	アルジェリア	ベネズエラ	インドネシア
③	インドネシア	アルジェリア	ベネズエラ
④	インドネシア	ベネズエラ	アルジェリア
⑤	ベネズエラ	アルジェリア	インドネシア
⑥	ベネズエラ	インドネシア	アルジェリア

［4］　次の図3は，いくつかの国における1次エネルギーの生産(＊)について，石油換算の構成を示したものであり，P～Rはアイスランド，ノルウェー，フィンランドのいずれかである。P～Rと国名との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

(＊)輸出分を含む。

(2015年度地理B追試験第4問問5)



1%未満はそれぞれの国の「その他」に含めた。
統計年次は2009年。
IEAの資料により作成。

図3

	P	Q	R
①	アイスランド	ノルウェー	フィンランド
②	アイスランド	フィンランド	ノルウェー
③	ノルウェー	アイスランド	フィンランド
④	ノルウェー	フィンランド	アイスランド
⑤	フィンランド	アイスランド	ノルウェー
⑥	フィンランド	ノルウェー	アイスランド

［5］　次の表１は，エネルギー源別発電量と人口百万人当たり発電量を示したものであり，**ア〜ウ**は，インド，カナダ，フランスのいずれかである。**ア〜ウ**と国名との正しい組合せを，下の①〜⑥のうちから一つ選べ。

（2005年度地理Ｂ本試験第２問問２）

表１

（単位：億kWh）

	エネルギー源別発電量				人口百万人当たり発電量
	水力	火力	原子力	その他（＊）	
ア	3584	1738	728	2	196.7
イ	718	530	4152	7	91.8
ウ	744	4496	168	15	5.4

（＊）地熱，太陽光，風力，潮力，波力などによる発電量。

統計年次は2000年。『世界国勢図会』により作成。

	①	②	③	④	⑤	⑥
ア	インド	インド	カナダ	カナダ	フランス	フランス
イ	カナダ	フランス	インド	フランス	インド	カナダ
ウ	フランス	カナダ	フランス	インド	カナダ	インド

［６］ 石油など化石燃料に代わるエネルギー源として，再生可能エネルギーの活用が課題となっている。次の表１は，いくつかの自然エネルギーによる発電施設容量について，上位４か国とそれらが世界全体に占める割合を示しており，**ア**～**ウ**は太陽光，地熱，風力のいずれかである。**ア**～**ウ**と自然エネルギー名との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2014年度地理Ｂ追試験第２問問２）

表１

（単位：％）

	ア	イ	ウ
１位	アメリカ合衆国 28.9	中国（＊） 22.6	ドイツ 49.7
２位	フィリピン 17.8	アメリカ合衆国 20.4	スペイン 11.2
３位	インドネシア 11.2	ドイツ 13.8	日本 10.4
４位	メキシコ 8.9	スペイン 10.4	イタリア 10.0

（＊）台湾を含まない。

統計年次は2010年。

Global Wind Statistics などにより作成。

	①	②	③	④	⑤	⑥
ア	太陽光	太陽光	地熱	地熱	風力	風力
イ	地熱	風力	太陽光	風力	太陽光	地熱
ウ	風力	地熱	風力	太陽光	地熱	太陽光

第 13 講
工業・工業製品統計

工業(製造業)は分類が重要。軽工業と重工業，そして資本集約型工業と労働集約型工業。さらに各工業種について立地パターンを解析していく。輸送コストと労働コストを鑑み，最も採算性の高い地点へと工場は立地する。

１３．１　重工業と軽工業

工業は大きく重工業と軽工業に分類される。工業化初期の段階にまず発達するのが**軽工業**であり，その後，技術開発や巨大資本の投入などによって**重工業**が発達していく。

＜重工業＞

金属工業・・・鉄鋼業や非鉄金属(アルミニウムなど)工業。

化学工業・・・石油化学工業や石炭化学工業。

機械工業・・・電気機械工業，自動車工業，電子機械工業，精密機械工業など。

＜軽工業＞

繊維工業・・・綿織物や絹織物，衣類縫製業。

食品工業・・・食品加工業や缶詰工業など。

その他・・・パルプ・製紙工業，出版・印刷工業，窯業(セメント・陶磁器・ガラス)。

１３．２　資本集約型工業と労働集約型工業

工業施設の建設や維持に巨大な資本を必要とする工業種が「資本集約」型工業であり，鉄鋼業や石油化学工業，セメント工業がこれに該当する。

製品の製造コストに占める労働賃金の割合が高い工業種が「労働集約」型工業であり，機械工業や繊維工業がこれに該当する。

両者は反対語である。つまり，資本集約型工業は労働力に依存せず，労働集約型工業は多額の資本投下を必要としない。

資本集約型工業のうち，鉄鋼業や石油化学工業は原料を輸入しやすい臨海部に立地しやすく，セメント工業は原料を得やすい石灰岩産地に立地しやすい(石灰

岩は国内自給できる)。

労働集約型工業は，賃金水準の低い地域へと立地移動する。先進国から発展途上国へ。日本国内であっても，東北地方や九州地方などへ。

<チェック！>

発展途上国に工場が進出する場合には，労働集約型工業を考える。安価な労働賃金であることが最重要。一方，資本集約型工業の進出は原則としてありえない。当該国で資源が豊富で得やすいとしても，それが製鉄所や石油化学コンビナートの立地に結びつくことはない。

１３．３　日本における鉄鋼業

鉄鋼業においては，初期は「原料産地付近に立地」するが，やがて原料の輸入に適した「臨海部に立地」するようになる。このパターンは世界各国でみられ，日本も例外ではない。

高度経済成長期以前の代表的な鉄鋼都市は，室蘭(北海道の炭田に隣接)，釜石(岩手県の鉄山に隣接)，北九州(福岡県の炭田に隣接)であった。とくに北九州は鉄鉱石の輸入先である中国に近いという有利点もあった。

しかし高度経済成長期に東京・名古屋・大阪など三大都市圏が急成長するとともに，太平洋ベルト地帯を中心に重工業化が興った。砂浜海岸を掘り込んで建設された鹿島臨海工業地域などが新しい鉄鋼地域として重要性を増した。原料の主な輸入先もオーストラリアへと変化している。

<チェック！>

製鉄所は，原料を銑鉄に加工する銑鉄工場と，銑鉄を鋼鉄に加工する鋼鉄工場の２種類があるが，近年はこれらは一つの工場へと統合されている。銑鋼一貫工場である。大規模集約化が進んでいるのだ。

１３．４　労働集約型工業の特徴

労働集約型工業の特徴には大きく２つのポイントが挙げられる。

資本集約型工業である鉄鋼業や石油化学工業が臨海指向型となりやすいのに対し，労働集約型工業は内陸指向となる傾向がある。労働者が通勤しやすいこと，鉄道や道路などを用いて輸送しやすいこと。関連工場(部品工場)などを周辺に立地させやすいこと，工場用地を確保しやすいことなどの理由による。

労働集約型工業は，安価な労働力を求めて海外に製造の拠点を移すことが多い。とくに繊維工業のような製品価格の安いものについては経済レベルの低い発展途上国へと工場が進出し，日本国内では成立しにくい。

［知っておこう］

一般に，賃金水準の低い国へと流出しているイメージが強い労働集約型工業であるが，精密機械工業だけは例外。現在でも腕時計の生産はスイスや日本，シンガポールなどで盛んであるように，むしろ経済レベルの高い国で発達する工業種である。ＰＣも組立部門は中国が圧倒的であるが，その部品である半導体については日本など周辺国での生産が多い。「産業の空洞化」が叫ばれ衰退が懸念されるわが国の工業であるが，まだまだ日本が高い技術力によって世界をリードする存在であることは間違いないのだ。

１３．５　工業立地（１）；臨海指向型の工業

・鉄鋼業・・・初期は原料指向型（原料産地の多くは内陸部であるため，内陸指向型ともいえる）であったが，現在は原材料を輸入に依存する国が多く，臨海指向型が主。日本でも，旧来の鉄鋼地域である北九州は衰退し，鹿島臨海から大分までの太平洋ベルト地帯の製鉄所に生産が集中している。

・石油化学工業・・・臨海指向型。日本ではとくに太平洋ベルト地帯に多くの石油化学コンビナートがつくられている。鹿島（鹿嶋・神栖），水島（倉敷）など。

１３．６　工業立地（２）；原料指向型工業と市場指向型工業の対比

・セメント工業・・・原料指向型。原料（石灰岩）より製品の方が重量が小さい（重量減損）ため，原料産地付近に立地。石灰岩地形で有名な山口県や福岡県など。

・パルプ・製紙工業・・・木材をパルプに加工するパルプ工業は原料指向型。重量減損型の工業であるため。パルプを紙に加工する製紙工業は用水指向型。製品処理用水を大量に使用するため。ただし廃水によって湖水や海水を汚染しやすい。

・ビール工業・・・市場指向型。消費地（都市）立地。セメントやパルプとは反対で，原料に比べ製品の重量の方が大きい。輸送コストを考え，消費地付近で加工する方が安価である。

１３．７　工業立地（３）；機械工業の立地

・機械組立工業・・・単純労働力に依存する。原則として労働力指向型であり，労働力を集めやすい内陸部に立地（内陸指向型）。また世界的にみると賃金水準の低い発展途上国に工場が進出する傾向が強い。

・精密機械工業・・・精密機械については本来なら電気を使わない工業としてカメラや時計を考えるべきだが，近年はより広義に捉え，情報通信機器などコンピュータ関連の機械製品も含む。こうした機器の製造には高い技術レベルと訓練された熟練労働力が必要であり，日本など先進地域にとどまる傾向がある。

・自動車工業・・・原則として労働力指向型であるが，関連工業（部品工場）が周辺に立地していることが必要であり，集積指向型ともいう。広大な敷地の確保や輸送のための道路や鉄道などインフラ整備も必要。なお，潮風の影響を避けるため，臨海部には立地しにくい。

＜チェック！＞

「精密機械」とは本来電気を使わない機械のことであり，カメラや時計が該当。コンピュータは含まないのだが，デジタルカメラの普及などによってその境界線があいまいとなっている。コンピュータは「電子機械」，「事務用機器」，「情報機器」などに含まれるが，精密機械も含め，これら４つの語が登場したら長野県で生産が盛んであることをまず考える。

１３．８　工業立地（４）；繊維工業の立地

・繊維工業・・・機械工業と同様に労働力指向型であるが，衣類はとくに製品価格が安いため，高賃金の日本では成立しにくく，すでに中国やベトナムなど発展途上国にほとんどの工場が進出している。ただし，京都や北陸地方など伝統的な繊維工業地域では製品を高級化するなどして，外国製品に対抗している。

・化学繊維工業・・・繊維そのものの生産は石油化学コンビナートで行われるので臨海指向型。衣服を作る縫製業は，伝統的に繊維工業がさかんな北陸地方など。

・絹織物工業・・・原料である生糸は養蚕業と結びつき，群馬県や長野県など本州内陸部で絹織物工業が発達していた。かつては絹織物や生糸は日本の重要な輸出品目の一つだった。しかし，現在は急速に生産量が減少し，それに伴い養蚕業も衰退し，桑畑の面積も縮小している（桑の葉は蚕の餌となる）。

１３．９　工業立地（５）；特殊な立地傾向をみせる工業種

・ＩＣ工業・・・臨空港・臨インターチェンジ立地。ＩＣ工場は，研究開発施設が集中する大都市圏に多く立地しているが，これ以外に九州の空港付近や東北地方の高速道路のインターチェンジ付近にも多く立地している。地方の安い労働賃金水準，地価を目的としたものであるが，軽量高付加価値であるため，遠方から航空機やトラックで輸送しても採算が取れることも重要。

・アルミニウム工業・・・とくに安価で安定した電力の得られる水力発電所付近に立地する。ノルウェーやバイカル湖周辺（ロシア），アメリカ合衆国北西部など。日本ではかつて火力発電によってアルミニウム工業が発達していたが，オイルショックによる原油価格高騰で発電コストが上昇し，国内のアルミニウム工場はほとんどが閉鎖された。

＜チェック！＞

一般に遠浅の砂浜海岸は港湾としては利用しにくい。そのため，大きく内陸部に土地を掘り込んで十分な水深を確保し，人工港が建設されることがある。この例が鹿島港（茨城県）。高度経済成長期に造成され，製鉄所や石油化学コンビナートが新設された。背後の霞ヶ浦の湖水も工業用水に利用されている。同様の掘込み式の港湾としては，ライン川河口のユーロポート（オランダ）も有名。ヨーロッパ最大の貿易港であると同時に，石油化学工業も立地。

１３．１０　都市で成立する工業（市場指向型）

都市のような高地価の地域では原則として工場は立地しにくいが，逆に**ビール工業**のように都市の近くにこそ立地する工業種もある。

都市には情報が集まり，流行に敏感に反応できることから，ファッション産業や化粧品，印刷・出版は市場指向型となる。また，菓子・パンや清涼飲料水の製造はビールと同様に原料の方が製品より運びやすいため，やはり市場指向型となる。また衣服工業についても，既製服については安価な労働力が得られる地域に流出するが，オーダーメイドの高級服の縫製業については都市内部に立地する。

１３．１１　日本企業による工場の海外進出（日系企業）

日本企業が海外に工場を進出させるパターンには２種類ある。

・発展途上国に対しては「安価で豊富な労働力」を求めて。１人当たりGNIが低く，賃金水準も低いので，労働集約型の繊維工業や機械組立工業などの工場が進出

する。

・経済規模の大きな国に対しては「現地生産」。現地で販売することを目的に工場が進出している。とくにアメリカ合衆国の事例を考えよう。1980年代に日本が自動車を輸出することで貿易摩擦が生じた。その解消のために，1990年代以降，日系の工場がアメリカ合衆国内に設立された。また，近年は「世界の市場」である中国で現地生産を行う日系の自動車メーカーも増えている。

[知っておこう]

日本企業の海外現地法人(日系企業)が最も多いのは中国，２位がアメリカ合衆国，３位がタイ。発展途上国である中国やタイについては，安価で豊富な労働力を利用できることがメリット。アメリカ合衆国については現地生産が目的で，とくに多くの自動車工場が生産活動を行っている。

1980年代に多くの日系の工場がみられた韓国であるが，賃金水準の上昇した現在では日系企業の進出数は多くはない。

1990年代に多くの日系企業が設立された地域は東南アジアのマレーシアやタイで，タイの方が国が大きい(人口規模は7000万人)ため，企業数も多い。

1990年代後半から現在にかけては中国へ進出する企業が多い。現在の１人当たりＧＮＩドルはタイを上回っているが，当時の値は低かった。

今後はさらに低賃金のインドネシアやフィリピン，さらにベトナムやカンボジアなどにも工場が増えていくであろう。

１３．１２　鉄鋼(粗鋼)の生産

鉄鋼(粗鋼)の生産は，１位中国，２位インド，３位日本，４位アメリカ合衆国。

中国・・・かつては内陸部の資源産出地付近で鉄鋼業が成立していたが，近年その中心は臨海部へ移動。鉄鉱石の世界最大の輸入国でもある。

日本・・・高度経済成長期に太平洋ベルトに臨海型の製鉄所が建設される。鉄鉱石，石炭ともに輸入に依存する。

アメリカ合衆国・・・かつての中心地は炭田立地型の鉄鋼都市であるピッツバーグ。近年は臨海部に製鉄所が建設され，輸入鉄鉱石に依存するようになった。

ドイツ・・・炭田立地型のルール工業地帯。鉄鉱石はライン川の水運を利用してスウェーデンなどから輸入。

インド・・・20世紀初頭より外国資本や民族資本により製鉄所が建設され，国内の豊富な資源を利用した鉄鋼業が興る。現在さらに急成長中。

韓国・・・ポハンに日本の協力した製鉄所。原料は輸入に依存。

＜チェック！＞

最も出題率の高い都市の一つがピッツバーグ。炭田付近に立地した鉄鋼都市だったが，近年は衰退し人口も減少傾向にある。かつての工業地区が再開発され，バイオテクノロジーなど知識集約型産業への転換が図られている。

１３．１３　自動車の生産

自動車工業のキーワードは「多国籍化」「国境を越えた生産活動」。

かつては技術水準の高い先進国（日本・アメリカ合衆国・ドイツ）での生産が中心だったが，現在は中国が世界最大の自動車生産国であり，韓国やインドでの生産も多くなっている。韓国では財閥系の自国メーカーによる生産が主。インドでは1980年代に日本との合弁企業により生産が本格化。中国は外国から多くの工場が進出しているが，自国メーカーによる生産も。

また，スペインやチェコ，メキシコなど，自由貿易圏に属し，比較的賃金水準が低い国でも生産が多いが，これはドイツやフランス，アメリカ合衆国などから自動車工業が進出しているからである。これらの国々において自動車が主要な輸出品目の一つとなっていることに注目しよう。また早くからバイオマス（バイオエタノール）の利用が盛んなブラジルも重要な自動車生産国の一つとなっている。

＜チェック！＞

練習問題［13］を通じ，日本とアメリカ合衆国の自動車（厳密には乗用車の統計であり，自動車ではないが，類似するものとして考えていい）の生産をめぐる状況を考えてみよう。

1960年代・・・アメリカ合衆国が世界最大の乗用車生産国。高度経済成長期の日本も生産を伸ばす。

1970年代・・・オイルショックにて世界の工業は停滞。日本も同様に低成長の時代に入ったが，自動車工業だけは例外。低燃費で性能の良い日本車は世界各国から高い支持を得て，この時代も日本の乗用車生産は拡大した。

1980年代・・・日本が世界最大の乗用車生産国へ。アメリカ合衆国への輸出も増える。貿易摩擦の時代に。

［知っておこう］

1970年代のキーワードはオイルショック。とくに1974年の第１次オイルショックによる原油価格高騰は，原油への依存率を高めていた当時の日本に大打撃を与えた。工業の面においては，鉄鋼業や石油化学工業といった資源多消費型の重化学工業が停滞し，とくに安価な電力が得られなくなったことで国内のアルミニウム工業は急激に衰退した。

ただし，自動車工業だけは異なる。ガソリンの高価格化によって，かえって低燃費で性能の高い日本の自動車は世界的な注目を集め，生産を拡大させていく。やがてアメリカ合衆国を逆転し，世界最大の自動車生産国へと躍り出る。

１３．１４　主な工業製品の生産

・船舶・・・１位中国のほか，韓国と日本が上位。かつては日本での生産が50％を占めていたが，近年その地位は低下。造船業が発達していた国内の都市では産業の空洞化も。

・電気機械・・・中国が中心。ただし薄型テレビなど輸送コストが大きい工業製品については，東ヨーロッパやメキシコなど欧米の市場に近い地域でも比較的生産が多い。

・ＰＣ・・・製品の組立が主に行われているのは中国。ただしＯＳはアメリカ合衆国，ソフト開発はアメリカ合衆国とインド，ゲームソフトは日本など。

・航空機・・・アメリカ合衆国がとくに多く，次いでフランス。アメリカ合衆国で航空機工業が発達しているのは，アルミニウム生産地に近いシアトルと，晴天日数が多く屋外での作業に適するロサンゼルス。フランスはトゥールーズにＥＵの共同工場。ヨーロッパ各地でつくられた部品がこの地に集められ，組み立てられる。

・産業用ロボット・・・日本でも稼働台数が多いことが特徴。オートメーション化された工場に多く備えられている。

・絹織物・・・中国。かつては日本でも生産が多かったが，近年衰退。

・綿織物・・・綿花栽培が行われ低賃金でもある中国やインドでの生産が多い。また，高級衣料はイタリア製が多い。

・化学繊維・・・素材（布地）をつくる石油化学工業と衣服をつくる縫製業の両面を考える。石油化学工業の発達した国でも生産が少なくないが，安価な労働力を有する発展途上国での生産が拡大している。

・プラスティック・・・石油化学工業は資本集約型工業でもあり，一般に原油の

消費が多い先進国での生産が多い。

・アルミニウム・・・ロシアが特徴的。水力発電と結びつき，シベリア東部のバイカル湖周辺地域などでさかんに精錬され，日本へと輸出されている。水力発電国ノルウェーでの生産も多い。

・パルプ・・・スウェーデンとフィンランド。ともに針葉樹に恵まれた森林国。

ワンポイント

ブラジル，ロシア，インド，中国，南アフリカ共和国を総称して「ＢＲＩＣＳ」ということがあるが，工業生産についてもこれらの国は出題されるケースが多いので注意しておこう。中国は鉄鋼の生産量において圧倒的なシェアを占めるなど，もはや世界最大の工業国というべき立場である。ブラジルも重工業を中心に工業化が進み，南半球最大の工業国となっている。インドは経済レベルは最も低いが，コンピュータソフト産業が際立って発展している国である。ロシアのみ例外で，この国は最大の輸出品目が原油であるなど，むしろ資源国としてとらえておいた方がいい。ただし，アルミニウムに関しては重要な生産国の一つであり，わが国にも多く輸出されている。南アフリカ共和国は白金など鉱産資源の算出も多いが，アフリカ最大の工業国として工業も発達している。

１３．１５　工業の知識産業化とスタートアップ企業

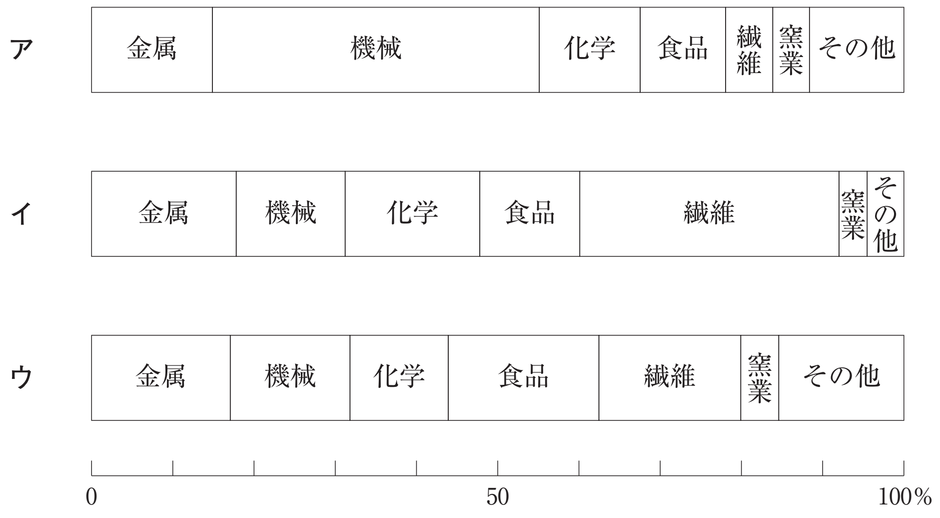
工業のグローバル化に伴い，先進国ではより付加価値の高い製品を継続して生み出せる産業への転換が図られている。医薬品，情報通信機器，電気・電子機器などの先端技術産業（ハイテク産業）の分野では特に新しい知識や技術が重視され，それを生み出すための研究開発費が毎年使われている。このように，先進国の工業は，知識により利益を生み出す知識産業へと変換しつつある。こうして生み出された知識や技術は，特許権などの知的財産権によって保護され，経済的な価値をもつようになっている。

知識産業化の動きは，スタートアップ企業（新興企業）にもみられる。これらの企業は新しい技術や知識をもとに起業し，新製品・新サービスを開発し，経済の活性化に寄与している。

第13講
工業・工業製品統計［練習問題］

［1］　次の図1は，1935年・1955年・1985年における日本の工業出荷額の構成比を示したものである。図中の**ア・イ・ウ**を年代順に正しく並べたものを，下の①〜⑥のうちから一つ選べ。

（1986年度地理追試験第3問問6）



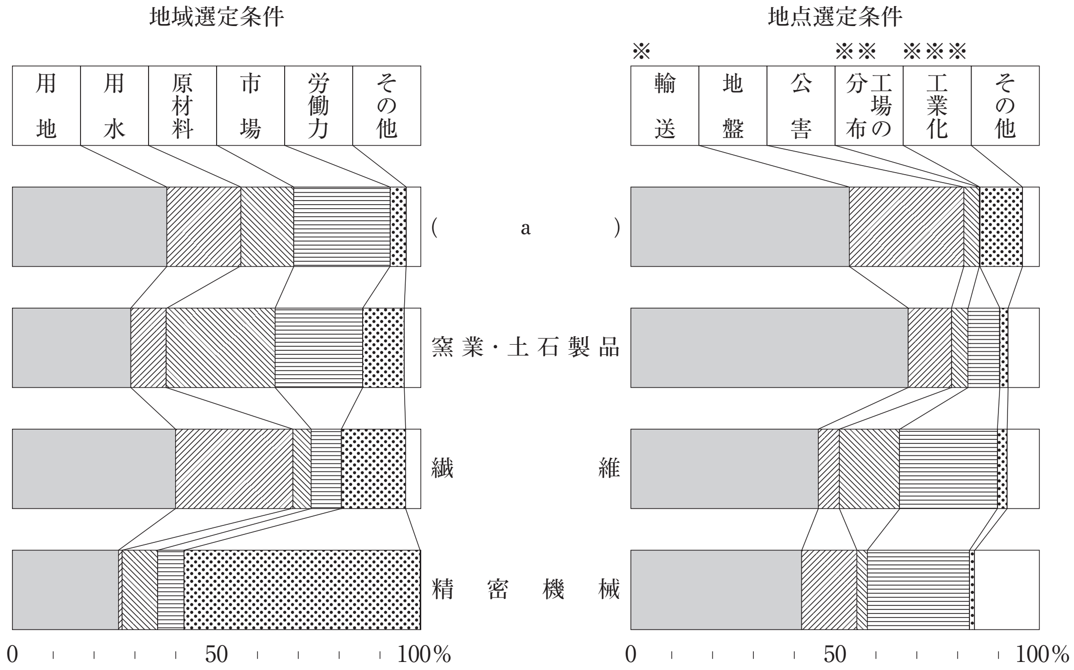
『日本国勢図会』による。

図1

①　**ア→イ→ウ**	②　**ア→ウ→イ**	③　**イ→ア→ウ**
④　**イ→ウ→ア**	⑤　**ウ→ア→イ**	⑥　**ウ→イ→ア**

［２］　帯グラフは，1950年代後半から1960年代前半までのわが国の資本金１億円以上の製造企業が，新たに工場を設立した際に求めた立地条件（地域選定条件および地点選定条件）に関するアンケート調査結果を，業種別にまとめたものの一部である。同グラフを参考にしながら，次の文①～⑩のうちから，正しいものを二つ選べ。また，（ａ）に該当する業種を語群①～⑤のうちから，一つ選べ。

（1986年度地理追試験第３問問４）



（注）※トラック運送の便，鉄道引込線の建設の可能性，専用岸壁利用の便などをさす。
※※親企業，関連工場などに近いことをさす。
※※※コンビナートや工業団地がつくりやすいことをさす。

① 窯業・土石製品の輸送条件に対する期待は，他業種に比べて最も高い。

② 繊維工業の公害に対する関心は，他業種に比べて低い。

③ （ａ）の地盤条件に対する期待は，他業種に比べて最も低い。

④ 精密機械は，窯業・土石製品同様，工場の分布に関する条件への期待が最も高い。

⑤ （ａ）の工業化条件に対する期待は，他業種に比べて最も低い。

⑥ 繊維工業の用水条件に対する期待は，他業種に比べて最も高い。

⑦ 精密機械の労働力条件に対する期待は，用地条件に比べて低い。

⑧ 繊維工業の労働力条件に対する期待は，他業種に比べて最も高い。

⑨ 窯業・土石製品の原材料条件に対する期待は，他業種に比べて最も低い。

⑩ （ａ）の市場条件に対する期待は，他業種に比べて最も低い。

［語群］

① パルプ・紙・紙加工品　② 石油・石炭製品　③ 食料品

④ 金属製品　⑤ 電気機械器具

［３］　第二次世界大戦後，日本の工業が本格的に重化学工業化したのは，1960年代に入ってからである。<u>（ａ）重化学工業は主に太平洋側の臨海部に集中的に立地した</u>。既存の四大工業地帯に加え，その周辺部とそれらの中間地帯でも工業化が進み，「太平洋ベルト」が形成された。

1973年の第一次石油危機は，日本の重化学工業，特に素材型工業に大きな影響を与え，エネルギーの節約や生産の合理化，人員の削減などが行われた。かわって，加工組立型工業やエレクトロニクスなどの先端技術産業が急速に発展した。これらは「太平洋ベルト」以外の地域にも多く進出した。

さらに1980年代からは急速な円高の影響も加わり，素材型工業だけでなく，加工組立型工業も国内における生産や立地の再編成を行った。

下線部（ａ）に関して，そこには工業の立地の変化を見ることができるが，この変化の理由について述べた次の文①～④のうちから，最も適当なものを一つ選べ。

（1994年度地理追試験第４問問１）

①　工業製品のほとんどが国内市場に向けられるようになった。

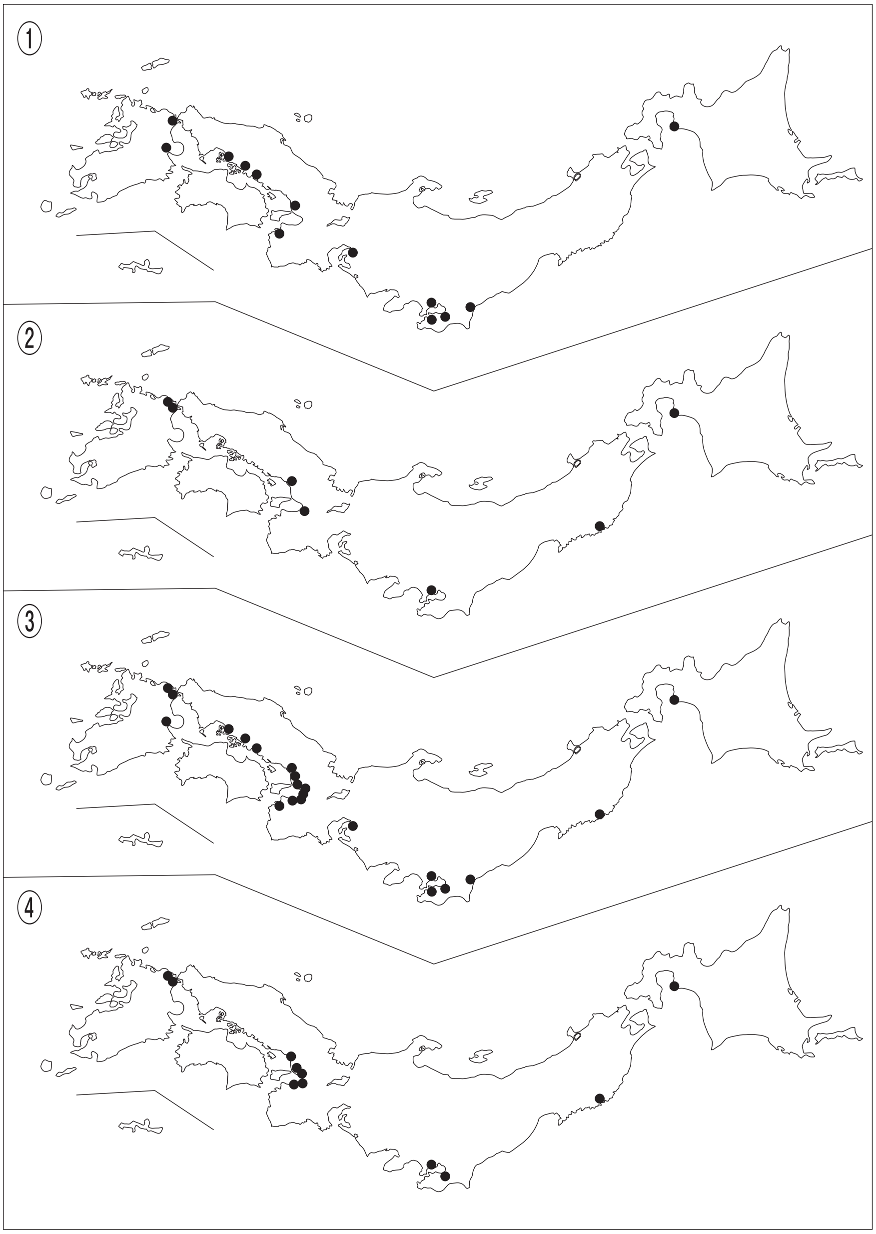
②　農村での地価が急騰したから。

③　工業原料が国内産から外国産に変化した。

④　工業原料を主に漁村に求めた。

［４］　次の図４は，日本の銑鋼一貫生産を行っている主な製鉄所の分布を，1940年・1960年・1975年・1994年の年次別に示したものである。1994年に該当するものを，図４中の①～④のうちから一つ選べ。

（1997年度地理Ｂ本試験第３問問７）



１点は１製鉄所を示す。「日本国勢図会」などにより作成。

図４

［５］　韓国・台湾などのアジアＮＩＥｓの工業は，1970年代に入ると，目覚ましく伸びた。その要因として**誤っているもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。

（1995年度地理本試験第５問問３）

①　政府による工業化政策の推進

②　豊富な天然資源

③　先進国からの資本・技術援助

④　低賃金労働力の利用

［６］　先進工業国であるＡ国を100としたＢ国の製造業の賃金水準が10，Ｂ国内の男性を100とした女性の製造業の賃金水準が65と仮定する。Ｂ国の女性労働力を対象として，Ａ国の企業が進出するとしたら，どのような分野の製造業が考えられるか。最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

（1997年度地理Ｂ本試験第３問問３）

①　医薬品・工作機械

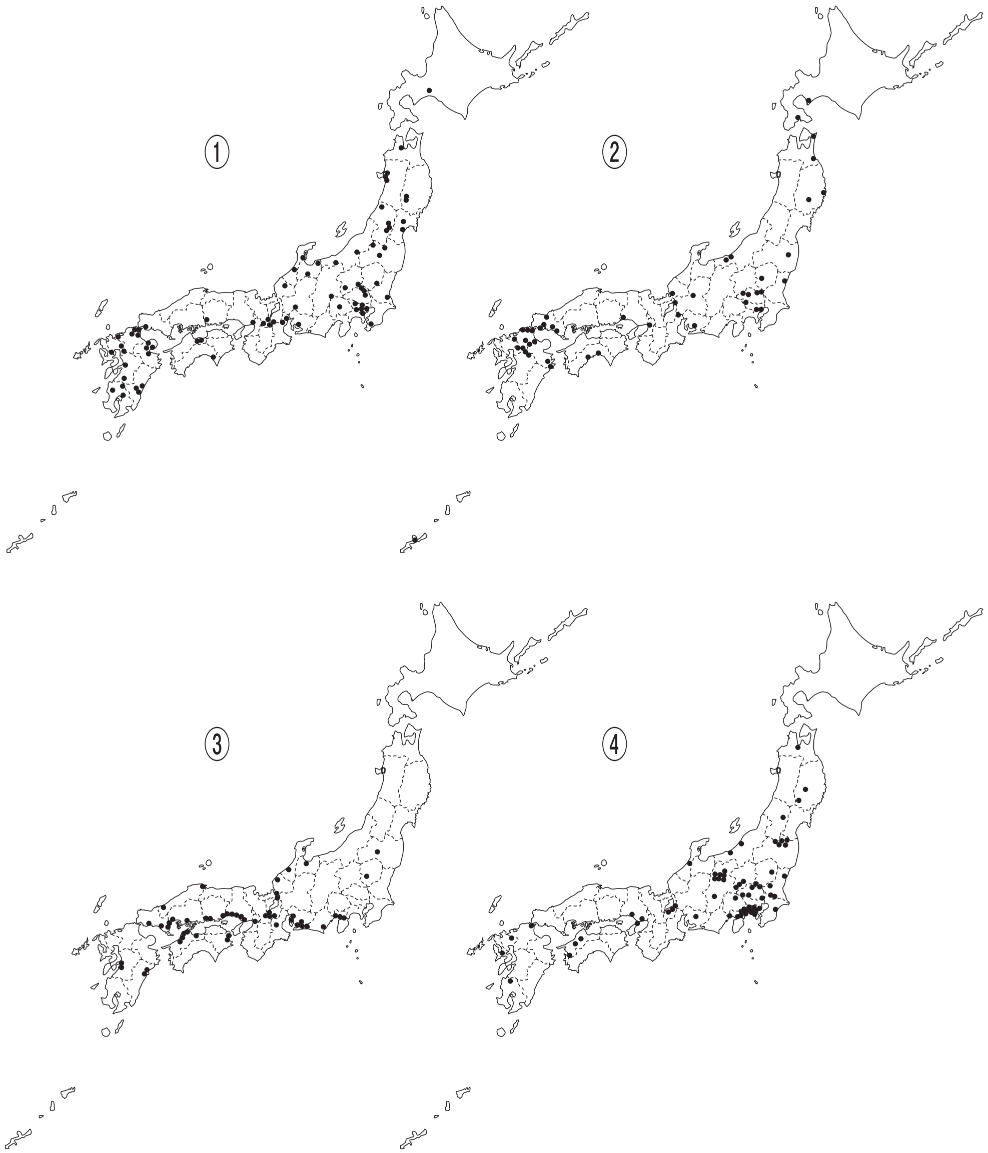
②　衣料品・家庭電化製品

③　航空機・船舶

④　精密医療器具・鉄鋼

［７］ 次の図１は，日本のIC，化学繊維，コンピュータ（付属装置を含む），セメントの主な工業の分布を示したものである。コンピュータ工場に該当するものを，図１中の①～④のうちから一つ選べ。

（1999年度地理Ｂ本試験第３問問３）



図中の１点は１工場を示す。統計年次はICとコンピュータ工場は1994年，化学繊維とセメント工場は1996年。『日本国勢図会』などにより作成。

図１

［８］　日本の大都市には各種の工業が発達し，総合的な工業地域となっている。しかし，すべての工業がこれらの大都市内で立地上有利であるとは限らない。次の工業群Ａの①～⑤のうちから，大都市と離れて立地しやすい工業を一つ選び，［１］に答えよ。なお，その工業を選んだ理由をＢの①～⑤のうちから一つ選び，［２］に答えよ。

（1983年度地理Ａ追試験第４問問６）

＜Ａ＞

①　ビール工業	②　セメント工業	③　事務用機器製造業
④　印刷工業	⑤　菓子製造業	

＜Ｂ＞

①　小規模でも生産が行えるので，どこでもよいから。
②　大都市以外の方が労働賃金が安いから。
③　多量の水を必要とするから。
④　大規模な工業用地を必要とするので，用地が安価で広いところがよいから。
⑤　原料の所在地に立地する方が有利であるから。

［９］　次のａ～ｆは，大都市圏で生産される傾向の強い工業製品と，大都市以外の地方で生産される傾向の強い工業製品を列挙したものである。前者に属するものの組合せとして最も適当なものを，下の①～⑩のうちから一つ選べ。

（1989年度地理追試験第３問問５）

ａ　レンガ	ｂ　化粧品	ｃ　清涼飲料水
ｄ　ＩＣ	ｅ　出版物	ｆ　既製服

①　ａ・ｂ・ｃ	②　ａ・ｂ・ｄ	③　ａ・ｂ・ｅ	④　ａ・ｂ・ｆ
⑤　ｂ・ｃ・ｄ	⑥　ｂ・ｃ・ｅ	⑦　ｂ・ｃ・ｆ	⑧　ａ・ｃ・ｆ
⑨　ａ・ｄ・ｆ	⑩　ａ・ｅ・ｆ		

［10］　日本の製造業がアジアに投資・進出している理由について述べた次の文①～④のうちから，最も適当なものを一つ選べ。

（1994年度地理追試験第５問問３）

① 豊富な熟練労働力を活用して，先端技術の製品を開発・生産するため。
② 外国企業の下請となることで，企業の経営を安定させるため。
③ 安い労働費・地価によって，製品の製造コストを引き下げるため。
④ 日本の輸出急増によって生じた貿易摩擦を緩和するため。

［11］　次の表３は，アメリカ合衆国，中国（＊），マレーシアのいずれかの国における，日本企業の現地法人数（製造業）を業種別に示したものである。P～Rに該当する国名の組合せとして正しいものを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（＊）中国はホンコンと台湾を含まない。

（2002年度地理Ｂ本試験第２問問４）

表３

	繊維	電気機械	輸送機械
P	245	216	95
Q	25	260	224
R	14	141	30

統計年次は1998年。

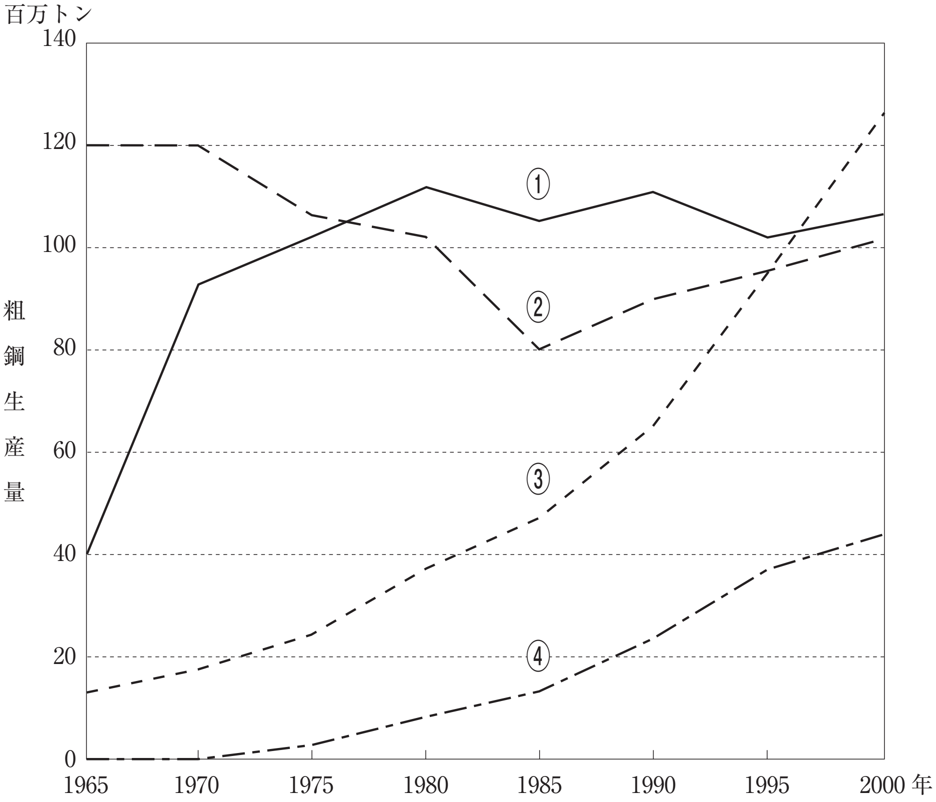
通産省編『第28回我が国企業の海外事業活動』により作成。

	P	Q	R
①	アメリカ合衆国	中国	マレーシア
②	アメリカ合衆国	マレーシア	中国
③	中国	アメリカ合衆国	マレーシア
④	中国	マレーシア	アメリカ合衆国
⑤	マレーシア	アメリカ合衆国	中国
⑥	マレーシア	中国	アメリカ合衆国

［12］　工業製品の主要な基礎素材である鉄鋼の生産地は，世界的な産業再編の影響を受けて変化している。次の図２中の①～④は，アメリカ合衆国，韓国，中国（＊），日本のいずれかにおける粗鋼の生産量の推移を示したものである。アメリカ合衆国に該当するものを，図２中の①～④のうちから一つ選べ。

（＊）台湾を含まない。

（2006年度地理Ｂ本試験第４問問３）

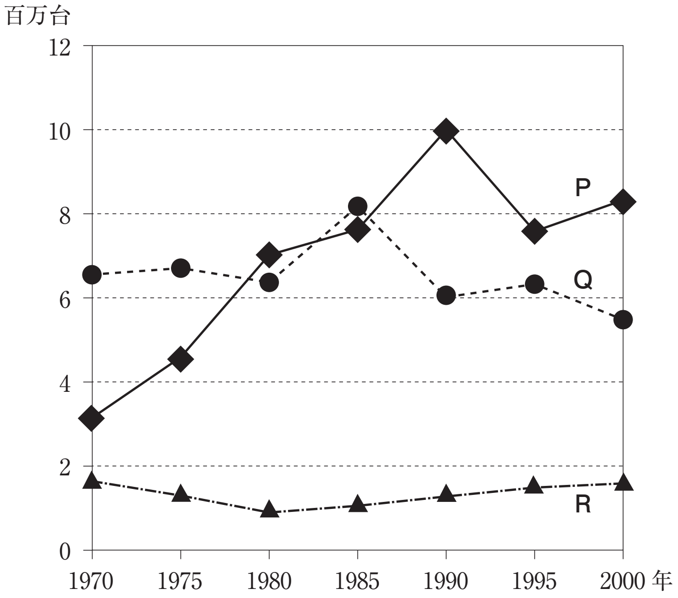


『世界国勢図会』により作成。

図２

［13］　トモヨさんは，日本の企業が工場を設置した国の自動車生産について調べた。次の図４中のＰ～Ｒは，アメリカ合衆国，イギリス，日本のいずれかの国における乗用車生産台数の推移を示している。Ｐ～Ｒと国名との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2006年度地理Ａ追試験第３問問６）



『世界国勢図会』により作成。

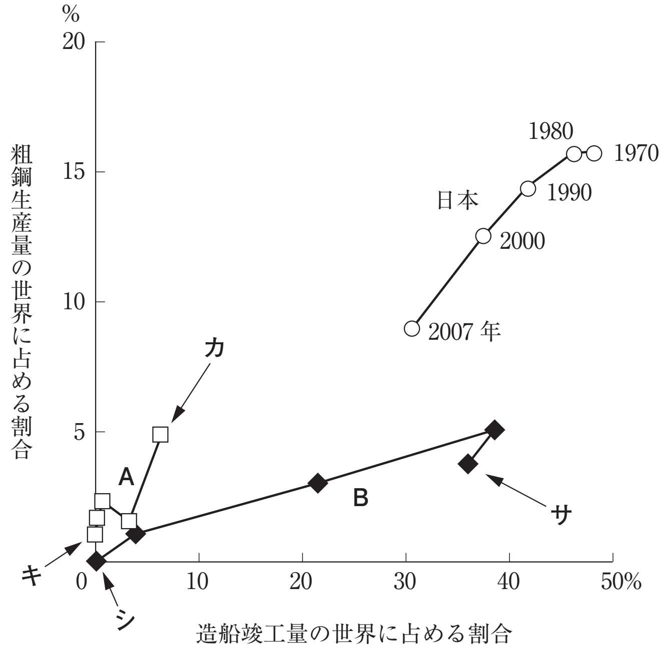
図４

	P	Q	R
①	アメリカ合衆国	イギリス	日本
②	アメリカ合衆国	日本	イギリス
③	イギリス	アメリカ合衆国	日本
④	イギリス	日本	アメリカ合衆国
⑤	日本	アメリカ合衆国	イギリス
⑥	日本	イギリス	アメリカ合衆国

［14］　次の図２は，粗鋼生産量と造船竣工量（＊）の世界に占める割合の1970～2007年の推移を，イギリス，韓国，日本について示したものである。図２中のＡとＢの折れ線はイギリスと韓国のいずれかであり，日本の割合の推移を示した折れ線のように，カとキの点およびサとシの点には，それぞれ1970年または2007年のいずれかが当てはまる。Ａに該当する国名とサに該当する年次との正しい組合せを，下の①～④のうちから一つ選べ。

（＊）100総トン以上の鋼船。

（2011年度地理Ｂ本試験第２問問３）



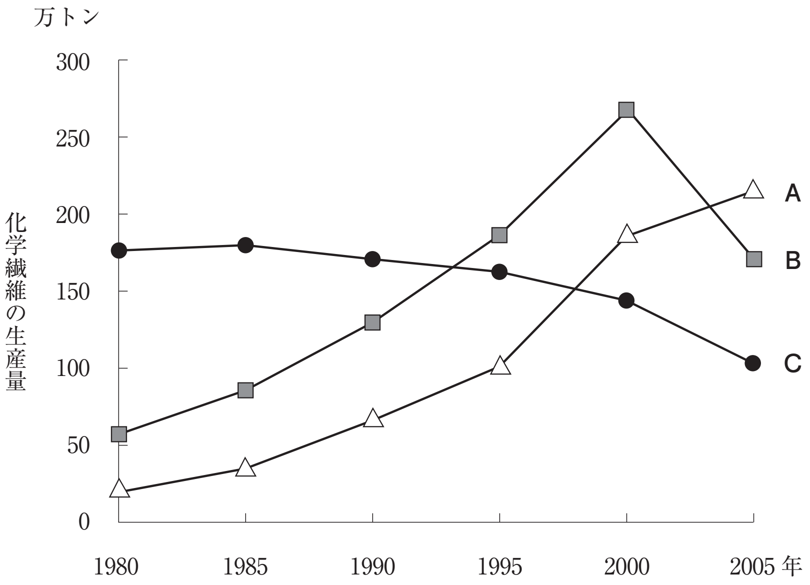
『世界国勢図会』により作成。

図２

	Ａ	サ
①	イギリス	1970 年
②	イギリス	2007 年
③	韓国	1970 年
④	韓国	2007 年

［15］　次の図２は，化学繊維の生産量の推移を国別に示したものであり，Ａ～Ｃは，インド，韓国，日本のいずれかである。図２中のＡ～Ｃと国名との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2009年度地理Ｂ追試験第３問問３）



日本化学繊維協会『繊維ハンドブック』により作成。

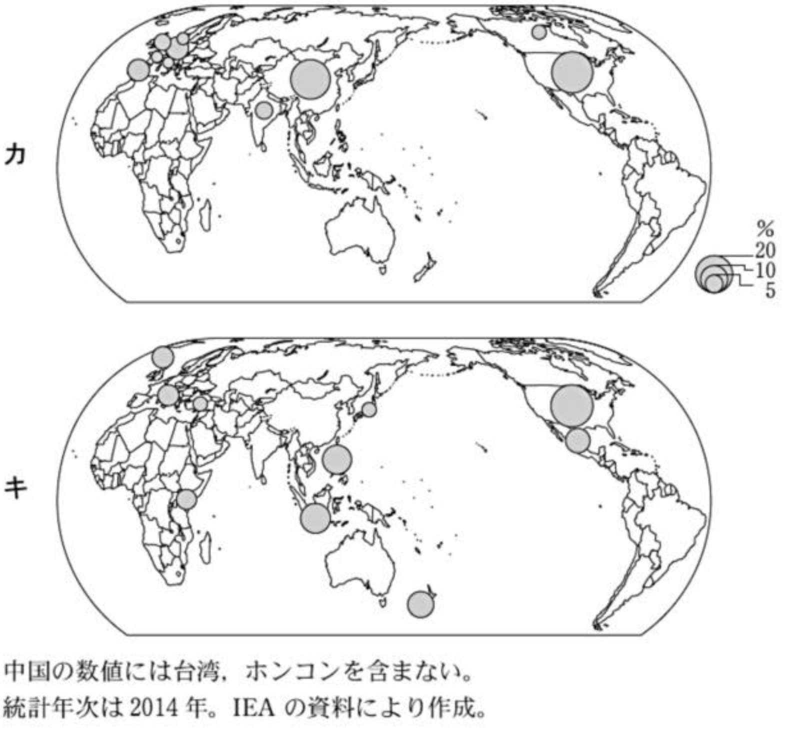
図２

	A	B	C
①	インド	韓国	日本
②	インド	日本	韓国
③	韓国	インド	日本
④	韓国	日本	インド
⑤	日本	インド	韓国
⑥	日本	韓国	インド

第13講
工業・工業製品統計［確認問題］

［1］　世界のエネルギー資源は，化石燃料から再生可能エネルギーへの転換が期待されている。次の図1中の**カ**と**キ**は，地熱発電と風力発電のいずれかについて，発電量の上位10か国とそれらが世界に占める割合を示したものであり，下の文AとBは，地熱発電と風力発電のいずれかの課題について述べたものである。地熱発電に該当する図と文との正しい組合せを，下の①～④のうちから一つ選べ。

（2021年度地理A追試験第4問問2）



中国の数値には台湾，ホンコンを含まない。
統計年次は2014年。IEAの資料により作成。

図1

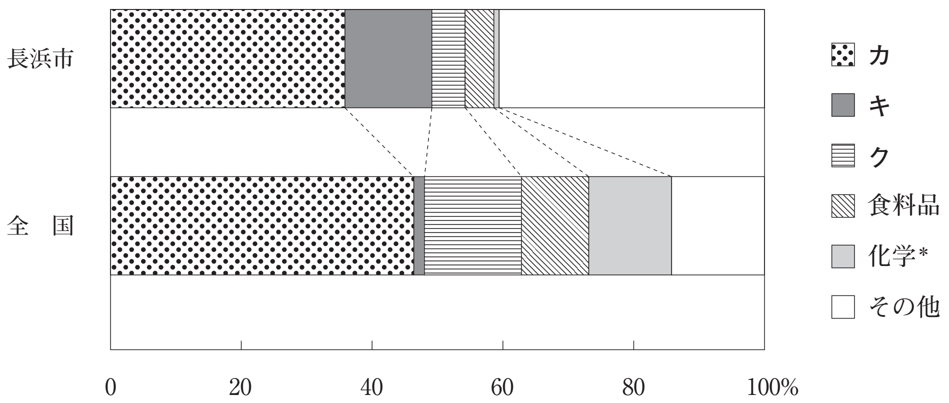
A　エネルギー源の季節変化によって，発電量が大きく変動する場合がある。

B　エネルギー源をめぐって周辺の観光施設と競合する場合がある。

	①	②	③	④
図	カ	カ	キ	キ
文	A	B	A	B

［2］　レイコさんは，市街地周辺に工場が多くみられたことから，長浜市の製造業について関心をもった。次の図5は，長浜市と全国における製造業の業種別出荷額割合を示したものであり，**カ**～**ク**は，機械，金属，繊維のいずれかである。**カ**～**ク**と業種名との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2012年度地理Ｂ追試験第６問問５）



* 化学にはプラスチック製品製造業を含まない。
統計年次は2008年。
工業統計表により作成。

図５

	①	②	③	④	⑤	⑥
カ	機械	機械	金属	金属	繊維	繊維
キ	金属	繊維	機械	繊維	機械	金属
ク	繊維	金属	繊維	機械	金属	機械

［３］ 1980年代後半以降における，日本の工業について述べた文として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。

（2002年度地理Ｂ本試験第２問問６）

①　セメント製造業は，原料産地との結びつきが強いため，立地にほとんど変化はみられない。

②　ボーキサイトを原料とするアルミニウム製錬業は，国際競争力が低下し，国内からほとんど姿を消した。

③　製鉄業は，外国への輸出が増加したことにより，工場数が増えている。

④　衣服製造業は，安価な労働力を求めて，海外にも展開している。

［4］　現地調査を行ったケイさんは，焼き物をつくった窯の跡などが観光地になっていることに興味を持ち，市役所をたずねた。ケイさんと市役所の職員との会話文中の空欄**カ**と**キ**に当てはまる語の正しい組合せを，下の①～④のうちから一つ選べ。

（2014年度地理Ｂ本試験第６問問６）

ケイ「常滑市の中心市街地には煉瓦（レンガ）づくりの煙突が多いですね。」

職員「はい。常滑市では焼き物に使える粘土がとれたことから，窯業がおこりました。現在，これらの煙突はほとんど使用されていませんが，窯業は製造業で最も事業所数が多い地場産業です」

ケイ「なるほど，（　**カ**　）を指向した工業として発展してきたのですね」

職員「そうですね。常滑市の主な工業を示した表**1**にみられるように，窯業は他業種と比べて従業者数や出荷額からみた１事業所当たりの規模が（　**キ**　）のが特徴です」

ケイ「そうですか。市内各所に稼働中の製陶工場がある景観と，近代の産業化を象徴する煙突などが存在していることが，常滑市の観光地としての魅力となっているのですね」

表**1**

	全体	窯業・土石	輸送用機器	家具・装備品
事業所数	182	71	22	7
従業者数（人）	5645	1481	1437	468
出荷額（億円）	1541	320	359	456

従業者４人以上の事業所が対象。

統計年次は2010年。

『工業統計表』により作成。

	①	②	③	④
カ	原料地	原料地	消費地	消費地
キ	大きい	小さい	大きい	小さい

［５］　繊維および衣服工業について述べた次の文章の下線部①～④のうちから，正しいものを一つ選べ。

（1995年度地理本試験第５問問１）

綿は最も広く使われている天然素材である。イギリスはかつて①綿花の生産国で，産業革命では綿製品の機械制生産の開始が重要な役割をはたした。

綿工業国としては，アメリカ合衆国や日本がイギリスの後を追ったが，現在では綿花の主な産地の中国・旧ソ連・②オーストラリアなどが綿工業国となっている。

第二次世界大戦後は，ナイロンやポリエステルなどの合成繊維が普及した。合成繊維は，アメリカ合衆国・西ヨーロッパ諸国・日本などの先進国に続き，③アジアＮＩＥｓでも生産されるようになった。

今日，最新のファッション・デザインはフランスやイタリアなどで生み出されている。しかし，実際に縫製加工を行う部門の一部は，④熟練労働力を求めて途上国にも移転されている。

［６］　次の文ａ～ｆは，近年のわが国における工業の立地因子や立地条件を列挙したものである。これらを，工業の大都市圏への集中と関連の深いものと，大都市圏以外への立地と関連の深いものとに分けて考えた場合，後者に属するものの組み合わせを，下の①～⑩のうちから一つ選べ。

（1989年度地理追試験第３問問４）

ａ　大市場に近い。
ｂ　官公庁や金融機関が集積している。
ｃ　地価が安く，用地取得が容易である。
ｄ　関連する多数の企業が近くに存在している。
ｅ　原料が製品となる過程で重量が大幅に減少する。
ｆ　賃金水準が相対的に低い。

①　ａ・ｂ・ｃ	②　ａ・ｂ・ｄ	③　ａ・ｂ・ｅ	④　ａ・ｂ・ｆ
⑤　ｂ・ｃ・ｄ	⑥　ｂ・ｃ・ｅ	⑦　ｂ・ｃ・ｆ	⑧　ｃ・ｄ・ｅ
⑨　ｃ・ｄ・ｆ	⑩　ｃ・ｅ・ｆ		

〈***Note***〉

第14講
貿易・国際関係

世界は経済でつながっている。刻一刻と変化を続ける世界を貿易の観点から解析していこう。変動が激しいため，最新のデータにもアクセスしておいてほしい。数値は概数。

１４．１　日本の貿易

日本の貿易額は，中国，アメリカ合衆国，ドイツに次ぐ世界４位。

貿易相手国の上位は中国とアメリカ合衆国。

＜チェック！＞

貿易額（輸出額・輸入額）をＧＮＩで割った値が貿易依存度（輸出依存度・輸入依存度）。日本やアメリカ合衆国はこの値が低い。

また日本は長く貿易黒字国であったが，近年赤字国に転化した。とくに中国や資源産出国（オーストラリア，インドネシア，ＯＰＥＣ）に対する貿易は輸入超の貿易赤字。

１４．２　日本の食料（農畜産物）輸入と自給率

日本は，米以外の農畜産物の多くを輸入に依存している。自給率については次の数値で頭に入れておこう。

・穀物・・・30％。米・小麦・トウモロコシの平均値を考えればいい。

・米・・・95％。ミニマムアクセス（最低輸入量）受け入れによって国内自給の５％程度の輸入が義務づけられている。ただしそれを超える輸入については，国内の農業保護のため高い関税が設定されており，輸入量は少ない。自由化されているわけではない。

・野菜・・・80％。鮮度が重要であるため，できるだけ消費地の近くで作られる。輸入先も中国など近隣国が主。ただしカボチャはニュージーランドなど南半球から輸入されている。季節が逆転していることを利用。

・魚介類・・・50％。チリからはサケ・マス，南アジア・東南アジアからはエビなど。わが国は世界上位の水産物輸入国である。

・肉類・・・50％。牛肉の輸入が自由化された1991年以降急激に低下した。

・果実類・・・40％。オレンジの輸入が自由化された1991年以降急激に低下した。
・小麦・・・15％。国内における最大の産地は北海道。
・大豆・・・10％。主に飼料や油脂材料などに利用。
・トウモロコシ・・・０％。主に飼料などに利用。

＜チェック！＞

練習問題［１］の統計年次は1992年までであり，これ以降これら４品目の自給率も変化している。表に示したので参考にしよう。

	1995年	2000年	2005年	2010年
①	104	95	95	97
②	85	82	79	81
③	57	52	54	56
④	2	5	5	8

単位は％。『数字でみる日本の100年』により作成。

［知っておこう］

日本の米をめぐる状況。戦後，食糧管理制度（政府が一定額で米を農家から買い取る）によって米の生産量は増え，高度経済成長期には米余りの状態となった。このため1970年代から生産調整が始められ，減反による休耕や転作が行われた。

1990年代のＧＡＴＴウルグアイラウンドにより，日本は米について一定量を輸入することを義務づけられる。最低輸入量受け入れ（ミニマムアクセス）が始まり，その割合は国内消費量の５％程度である。ただし，この受け入れにより，アメリカ合衆国などが主張した日本の米の輸入自由化という事態は免れた。

なお，食糧管理制度は現在は撤廃され，新食糧法が施行されている。他の農産物と同様に自由に市場で取引されるようになった。

１４．３　日本の資源輸入

石灰以外のほとんどの資源について，わが国は輸入に依存している。

・石炭・・・エネルギー革命以降国内の石炭採掘量は激減。現在は主にオーストラリアから輸入している。
・原油・・・サウジアラビア，アラブ首長国連邦など。西アジアからの輸入に過度に依存している。

・天然ガス・・・冷却し液化された状態で輸入。オーストラリア，東南アジアからの輸入が多い。
・鉄鉱石・・・主にオーストラリア，ブラジルから輸入。

＜チェック！＞
石炭から石油へと主要なエネルギー源が変化したこと，安価な海外産の石炭輸入が増加したことによって，国内の石炭産出量は激減した。石炭産業で栄えた北海道や福岡の炭坑都市の多くでは人口が流出し，現在は人口が１万人を割り込むようなところもある。

１４．４　東アジア・東南アジア・南アジアの貿易
工業化されている国も多く，そういった国々では機械類が輸出品目１位となっている。よって国ごとの判別には，特定の品目(農産物や資源など)に注目するといい。

韓国・・・船舶の輸出に特徴。最大の貿易相手国は中国。
中国・・・貿易額が大きい。衣類の輸出が多い。輸出上位にホンコン。
ホンコン・・・中継貿易で発展。輸出と輸入の半分近くが中国との貿易。機械の割合が高いが，衣類も上位。
台湾・・・半導体などの電子工業製品が主な貿易品目。
フィリピン・・・機械類が上位を占めるが，コプラ(ヤシ油)やバナナも。
ベトナム・・・衣類など軽工業製品が主だが，近年原油の産出が増加し，輸出量が増加している。他にはコーヒーやエビなど。
タイ・・・電気機械(テレビなど)，自動車が主な輸出品目。他には世界有数の輸出量を持つ米，世界最大の生産量を誇る天然ゴムなど。
マレーシア・・・タイ同様に工業国としてとらえるべきだが，天然ガスなどの資源，パーム油や合板などの輸出もさかん。
シンガポール・・・中継貿易港であり，機械類の割合が高い。主な貿易相手国にマレーシアがある(かつてシンガポールはマレーシアの一部分だった)。
ブルネイ・・・天然ガス。
インドネシア・・・石炭，原油，天然ガスなどの燃料資源が主。他にはパーム油やエビ，合板など。
バングラデシュ・・・衣類の他，繊維(ジュートなど)。米の輸出国ではないこと

に注意。

インド・・・石油製品やダイヤモンド。コンピュータソフト産業の発達した国であるが，統計には表れにくい。こちらはサービス貿易。

スリランカ・・・茶の輸出。

パキスタン・・・繊維や衣類，スポーツ用品など。灌漑によって米も生産，輸出されている。

＜チェック！＞

東南アジアは経済レベルの高い地域ではないが，多くの国において工業製品が主要輸出品目となっている。90年代を中心に日本企業がマレーシアやタイに進出し(タイは日系企業数が世界３位)，現在はフィリピンやベトナムにもさかんに工場がつくられている。さらに，ベトナムでは原油が上位輸出品目であったり，マレーシアは日本にとって最大の天然ガス輸入先であったりなど，資源の産出地域としても重要である。

１４．５　西アジア・アフリカの貿易

原油モノカルチャーであるＯＰＥＣ加盟国が重要。また，かつての宗主国との貿易が現在でもさかんな国が多い。

イラン・サウジアラビア・アラブ首長国連邦・・・いずれもＯＰＥＣ加盟国であり，原油の輸出が多い。

イスラエル・・・ダイヤモンド。最大の輸出相手国はアメリカ合衆国。

トルコ・・・衣類の輸出が多い。ドイツなどＥＵ諸国とのつながりが強い。

エジプト・・・原油や石油製品もあるが，ナイル川沿岸で栽培のさかんな綿花を利用した綿織物，アスワンハイダムの水力発電によって製錬したアルミニウムなども輸出している。

リビア・・・ＯＰＥＣであり，原油が最大の輸出品目。旧宗主国であるイタリアとの関係が深い。

アルジェリア・・・ＯＰＥＣであり，原油が最大の輸出品目。旧宗主国であるフランスとの関係が深い。

モロッコ・・・ヨーロッパ向けの衣類，日本向けの魚介類(タコ)など。他にはリン鉱石も。

エチオピア・・・貿易額そのものが小さいが，その中でもコーヒーに依存する割

合が高い。

ケニア・・・茶やコーヒー。旧宗主国であるイギリスとの関係が深い。

コートジボワール・・・カカオモノカルチャー。旧宗主国であるフランスとの関係が深い。

ガーナ・・・カカオなど。旧宗主国であるイギリスとの関係が深い。

ナイジェリア・・・ＯＰＥＣに加盟し，原油が輸出額の４分の３を占めるモノカルチャー国。

コンゴ民主・・・ダイヤモンド鉱石。旧宗主国であるベルギーとの関係が深い。

南アフリカ共和国・・・アフリカ最大のＧＮＩを有する工業国。白金の他，機械類や自動車など工業製品の輸出も。

＜チェック！＞

赤道直下の国でありながら，高原の国ケニアは気温がやや低く，他の低地国のように衛生環境が悪いわけではない。風土病の伝染もなく，ヨーロッパ系の白人が内陸部まで入植した。首都ナイロビは「ホワイトハイランド」とよばれる高原上にイギリス人が建設した都市である。広大な熱帯草原（サバンナ）の野生動物を観察する観光業も発達している。

［知っておこう］

貿易に関してはＯＰＥＣ加盟国が取り上げられることが多い。加盟国を確認する。

・西アジア・・・イラン・サウジアラビア・アラブ首長国連邦・クウェート・イラク

・アフリカ・・・リビア・アルジェリア・ナイジェリアなど

・南アメリカ・・・ベネズエラ

この中でアラブ国家は，サウジアラビア・アラブ首長国連邦・クウェート・イラク・リビア・アルジェリアの６カ国。

いずれも原油モノカルチャー国で輸出品目に占める原油の割合が高い。オイルマネーに潤う裕福な国が多いものの，ナイジェリアのように１人当たりＧＮＩの低い国もみられる。

とくにポイントとなりやすいのは以下の３カ国。

・サウジアラビア・・・原油の輸出量世界１位。産出量・埋蔵量も世界上位。

・アルジェリア・・・旧フランス領であり，フランスとの関係が強い。

・ベネズエラ・・・南アメリカ大陸。アメリカ合衆国向けの輸出が多い。

１４．６　ヨーロッパ各国の輸出品目

ＧＮＩと貿易額は比例する傾向があり，ドイツを筆頭にＧＮＩの大きな国の貿易額が大きい傾向にある。関税が撤廃されているため，ＥＵ(ヨーロッパ連合)域内貿易の割合が高い。

アイスランド・・・魚介類やアルミニウムなど。

ノルウェー・・・ヨーロッパ最大の原油輸出国。アルミニウムや魚介類も。

スウェーデン・・・パルプ・紙に加え，自動車も。

フィンランド・・・針葉樹林国であり，パルプ・紙。

デンマーク・・・機械類が主だが，肉類も。

イギリス・・・原油の輸出。エネルギー自給率が高い。

ドイツ・・・ヨーロッパ最大の貿易額。自動車や化学薬品。

スイス・・・医薬品や精密機械など。

オランダ・・・国の規模に比して貿易額が大きい。ヨーロッパ最大の貿易港であるユーロポート(ロッテルダム)を有する。石油化学工業が発達し，石油製品の輸出も。

ベルギー・・・国の規模に比して貿易額が大きい。わが国にとって重要なダイヤモンド輸入相手国の一つ。

フランス・・・航空機の生産(トゥールーズ)が行われ，輸出もされている。ヨーロッパ最大の小麦輸出国。

イタリア・・・基本的には重工業製品だが，とくに日本向けには衣類(高級品)。

スペイン・・・輸出品目１位は自動車。オレンジ類の世界最大の輸出国でもある。

ポーランド・・・旧社会主義国でありかつてはソ連(ロシア)との貿易額が大きかったが，現在はＥＵの一員でもあり，ドイツが最大の貿易相手国となっている。

ロシア・・・最大の貿易品目は原油。ただしわが国にとっては，アルミニウムの重要な輸入先である。

<チェック！>

オランダは人口1500万人程度の小国であり，ＧＮＩもさほど大きくないが，貿易額はスペインを上回り，輸出依存度及び輸入依存度（ＧＮＩに対する輸出額，輸入額の割合）はいずれも50％を上回っている。国際河川ライン川の河口を掘り込んで建設された人工港ユーロポートは，ロッテルダムに位置し，ヨーロッパ最大の貿易額を誇る港湾である（ただし世界的にみると，シンガポールやシャンハイ，ロサンゼルスなど他の地域の港湾よりは貿易額は少ない）。臨海型の石油工業も発達している。

１４．７　新大陸の貿易

ＮＡＦＴＡ（北アメリカ自由貿易協定。現在はＵＳＭＣＡに発展）の３カ国が相互に依存する貿易構造になっている点が重要。また南米大陸には農作物や鉱産資源の輸出に特徴がある国が多く，それらも確認しておく。

カナダ・・・原油，自動車の輸出が多い。ＮＡＦＴＡに調印しており，貿易の過半はアメリカ合衆国向け。

アメリカ合衆国・・・世界２位の貿易額を誇るが，同時に世界最大の貿易赤字国でもある。航空機の輸出が特徴的。最大の輸出相手国はカナダであり，メキシコとの貿易額も大きい。

メキシコ・・・電気機械や原油，野菜など。アメリカ合衆国向けの輸出割合がとくに高い。

キューバ・・・ニッケル鉱と砂糖。社会主義国であり，アメリカ合衆国との交流はなかった（近年，国交回復）。

コロンビア・・・最大の輸出品目は原油だが，コーヒーの輸出もさかん。

ベネズエラ・・・ＯＰＥＣ。原油輸出が多い。

エクアドル・・・原油，魚介類など。他にはバナナ。

ペルー・・・主要輸出品目は銅鉱や金。飼料用のフィッシュミール（魚粉）も。

チリ・・・銅・銅鉱。魚介類や果実（ブドウ）も。

ブラジル･･･鉄鉱石や肉類，機械類など（南半球最大の工業国である）。コーヒーの世界最大の輸出国だが，ブラジル経済はコーヒーに依存しているわけではないので注意。

アルゼンチン・・・トウモロコシや大豆などの農産物の割合が高い。

オーストラリア・・・鉄鉱石と石炭。最大の輸出相手国は中国であるなど，近年

　アジア・太平洋地域とのつながりが強まり，旧宗主国イギリスの地位は低下している。

ニュージーランド・・・酪製品や肉類など。

＜チェック！＞

　プランテーション作物以外の農畜産物が最大の輸出品目になる国は少ない。トウモロコシが１位となるアルゼンチン，酪製品が１位となるニュージーランドは希少な国。

１４．８　ＥＵとＮＡＦＴＡ

　ＥＵ（ヨーロッパ連合）とＮＡＦＴＡ（北アメリカ自由貿易協定）はいずれも巨大な自由貿易圏。域内総生産（加盟・調印国のＧＤＰの合計）に大きな違いはない。

　ＥＵの加盟国はヨーロッパ27か国で人口規模は4.5億人。域内のヒト・モノ・カネの移動が自由。パスポートの必要なく，自由に国境を越えることができる。貿易額が大きく，その総額は世界全体の30％を占める。また加盟国間の貿易（域内貿易）もさかん。

　ＮＡＦＴＡの調印国はアメリカ合衆国，カナダ，メキシコで人口規模は５億人を超える。自由貿易が実現しており，相互の貿易関係は緊密。アメリカ合衆国にとって最大の貿易相手国はカナダで，メキシコとも貿易額は大きい。カナダやメキシコにとっては貿易の過半がアメリカ合衆国相手のもの。ただし，人の移動は自由ではなく，例えばメキシコ人がアメリカ合衆国に入国することは厳格に管理されている。

　なお，現在はＮＡＦＴＡは失効し，新たな貿易協定としてＵＳＭＣＡ（米国・メキシコ・カナダ協定）が発効した。両者の内容には多少の差異はあるが，現時点でその影響は統計などに現れておらず，高校地理のレベルでは意識する必要はない。

[知っておこう]

　ＥＵの加盟国は27か国である。発足当時はＥＣ（ヨーロッパ共同体）であったが，90年代に改組されＥＵとなった。

60年代（原加盟）；ベルギー・オランダ・ルクセンブルク・ドイツ（西ドイツ）・フランス・イタリア

70年代加盟；イギリス・アイルランド・デンマーク

80年代加盟；ギリシャ・スペイン・ポルトガル
90年代加盟；スウェーデン・フィンランド・オーストリア
2000年以降加盟；バルト３国・旧社会主義諸国(ポーランドなど)・旧ユーゴスラビア諸国(クロアチアなど)・マルタ・キプロス

域内の多くの国で共通通貨ユーロが使用されているが，スウェーデンなどでは未使用。

(注意)現在はイギリスが離脱したことで加盟国は27か国。域内人口もイギリスが含まれていた時代は５億人を超えていたが，現在は４億５千万人程度。

１４．９　対外直接投資と日系企業の進出

「直接投資」については，２つポイントがある。一つは「経済規模の大きな国の値が大きくなる」ということ。経済規模とはGNIを指すが，GNIの大きな国からの直接投資額，あるいはGNIの大きな国に対しての直接投資額は，いずれも大きな値となる。例えば日本は直接投資額の大きな国の一つであり，アメリカ合衆国や西ヨーロッパなど経済規模の大きな国に対して盛んに投資が進んでいる。

さらにもう一つ，「工場進出」と結びつけることが大切。直接投資の内容の大きな部分を占めるのは工場の建設である。日本からアジア地域へと盛んに直接投資がなされているが，経済規模の小さい国に対しても比較的大きな金額が投資されているのはこれが理由。一方で，経済レベルの高い日本に対して工場を進出される事例は多くなく，日本向けの直接投資は少ない。日本から見ると，外国向けの「対外直接投資」の方が，外国からの「対内直接投資」よりも金額が高くなる。

練習問題［９］と**［10］**が直接投資に関する問題。**［９］**については1980年代，1990年代，2000年代と日本の工場進出先がどのように変化したのか考えてほしい。アジアNIEsは韓国，ASEANはマレーシアと考えるといいだろう。**［10］**は日本と中国，それぞれの対内直接投資，対外直接投資のどちらが大きいかを考える。さらに1990年代以降，外国から中国への工場進出が急増したこともあわせて想像してみよう。

さらに投資を関連させ，日本企業の海外進出についても考えてみる。日本企業の海外現地法人数は１位中国，２位アメリカ合衆国，３位タイである。アメリカ合衆国のような先進地域においては銀行・金融業などの進出も目立っているが，経済レベルの低い地域に対しては製造業が中心となっている。また，同じ製造業であっても，国内市場の大きな国に対しては現地生産性を目的とした自動車工業，賃金水準の低い国に対しては安価な労働力を期待した電気機械工業や衣服工業が

進出している。中国には多くの電気機械メーカーや衣服メーカーが工場を進出させているが，近年は中国の国内での販売を目的とした自動車メーカーの進出も目立っている（現地生産）。

１４．１０　ＯＤＡ

ＯＤＡとは政府開発援助のことである。先進国から発展途上国に供与されるものであり，当該国の開発と産業発展が目的である。

ＯＤＡの供与国については，日本は周辺アジア諸国，アメリカ合衆国はイスラエルとその周辺諸国，ヨーロッパ諸国は旧植民地としていた国々が中心。日本は，将来的に自国企業が進出しやすいように道路や港湾など社会基盤の整備を積極的に行っているイメージ。富裕層にユダヤ系の割合が高いアメリカ合衆国では，ユダヤ国家であるイスラエルを経済的にも支援している。ヨーロッパ諸国は自国文化の普及の意味合いもあり，彼らがかつて支配したアフリカや南アメリカの国々に多額供与している。

＜チェック！＞

イスラエルは特殊な国である。それまではアラブの勢力下であったパレスチナ地方に大量のユダヤ人が移住し，戦後間もない時期に新国家イスラエルを建設した。周辺アラブ国家との対立は激しく，第４次中東戦争はオイルショックの原因ともなった。宗教はユダヤ教，言語はヘブライ語。資源を産する国ではないが，経済レベルは比較的高い。

ワンポイント

国際機関については加盟国が重要。

・ＥＵ・・・ヨーロッパ連合。「60年代・中央→70年代・北→80年代・南→90年代・北東→00年代・東」の順に加盟国が増えていく。域内のヒト・モノ・カネ・サービスの移動が自由であること，共通農業政策が実施され農業が保護されていることで農業生産が増加していること，国ごとの１人当たりＧＮＩの差は大きく所得水準に格差があることなど重要。

・ＵＳＭＣＡ・・・旧ＮＡＦＴＡ。条約の内容にやや変更点はあるが，とくに考慮しなくともよい。

・ＡＳＥＡＮ・・・東南アジア諸国連合。東南アジア10か国が加盟するが，社会主義国ベトナムの加盟は95年，長く内戦状態にあったカンボジアと軍事政

権のミャンマーの加盟は99年。

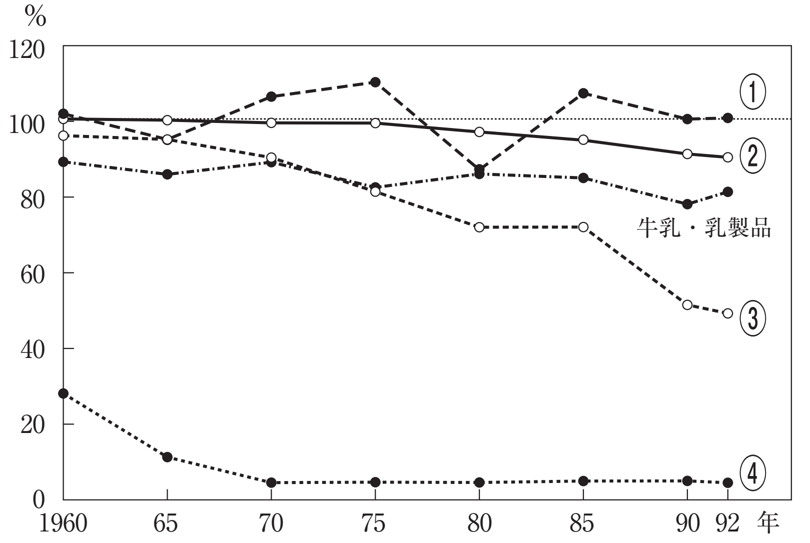
・ＣＩＳ・・・旧ソ連を構成していた国々（ロシアとその周辺諸国）により結成。ただしバルト３国は設立時から加盟していない。

・ＭＥＲＣＯＳＵＲ・・・南米南部共同市場。ブラジルやアルゼンチンなど南アメリカ諸国。

第 14 講
貿易・国際関係［練習問題］

［**1**］　次の図**1**は，日本における牛肉，牛乳・乳製品，米，大豆，野菜の自給率の推移を示したものである。野菜に該当するものを，図**1**中の①～④のうちから一つ選べ。

（1997年度地理Ｂ追試験第２問問２）



「日本農業年鑑」により作成。

図 **1**

［２］　次の表１中の**カ**～**ク**は，小麦，米，大豆について，世界の総輸出量に占めるアメリカ合衆国の割合，日本の自給率，日本の総輸入量に占めるアメリカ合衆国の割合のいずれかを示したものである。これらの指標と**カ**～**ク**との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2004年度地理Ａ本試験第３問問７）

表１

（単位：％）

	カ	キ	ク
小麦	52	9	25
米	47	95	10
大豆	78	4	57

統計年次は1999年。『日本国勢図会』により作成。

	①	②	③	④	⑤	⑥
世界の総輸出量に占めるアメリカ合衆国の割合	カ	カ	キ	キ	ク	ク
日本の自給率	キ	ク	カ	ク	カ	キ
日本の総輸入量に占めるアメリカ合衆国の割合	ク	キ	ク	カ	キ	カ

［３］　日本は，高度経済成長のなかで，資源を海外に依存する割合を高めた。次の表１の①～④は，塩・石炭・原油・木材のいずれかの1960年と1990年の国内自給率を示したものである。石炭に該当するものを，表中の①～④のうちから一つ選べ。

（1996年度地理追試験第５問問３）

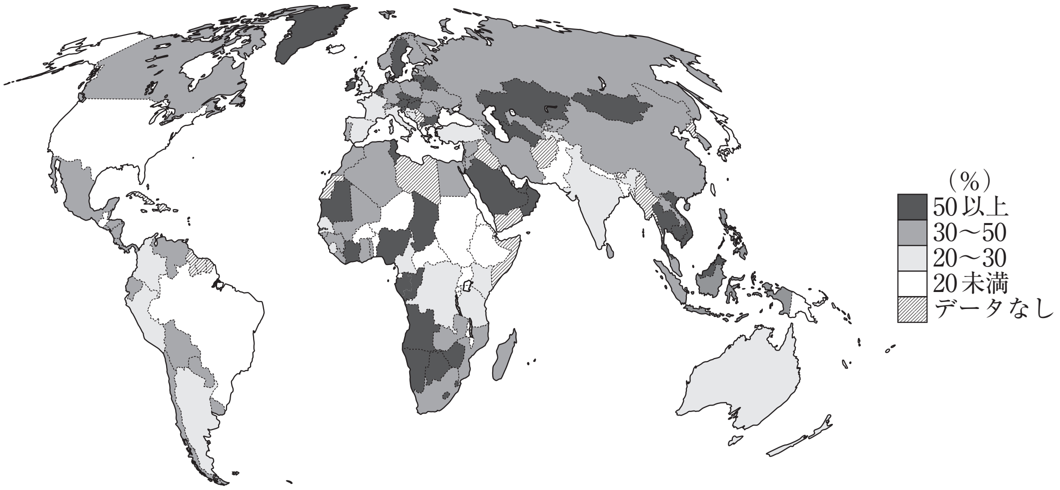
表１

資源	国内自給率	
	1960年	1990年
①	87.9	44.8
②	86.0	7.1
③	29.7	14.8
④	1.9	0.3

「日本国勢図会」により作成。

［４］　次の図１は，世界の国・地域におけるＧＤＰ（国内総生産）に対する輸出額の比率を示したものである。図１から読み取れることがらとその背景について述べた下の文章中の下線部①～④のうちから，**適当でないもの**を一つ選べ。

（2013年度地理Ａ本試験第２問問１）



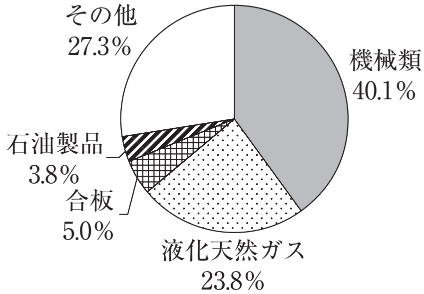
中国には，台湾，ホンコン，マカオを含まない。
統計年次は2006年。
世界銀行『世界経済・社会統計』により作成。

図１

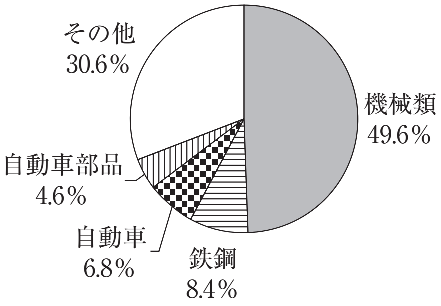
国内総生産に対する輸出額の比率は，国や地域によって大きく異なる。①石油の輸出額が多い西アジアや，②農水産物の輸出額が過半を占める東南アジアでは，輸出額の比率が高い。また，③アフリカの一部の国でも，鉱産物や農水産物などの一次産品の輸出額が多く，輸出額の比率は50％を上回る。一方で，④アメリカ合衆国や日本では，国内消費の割合が高いために，輸出額の比率は低くなっている。

［５］　次の図２は，日本とマレーシアとの間の貿易額上位４品目の構成比を示したものである。図２中の**ア**～**ウ**は，マレーシアから日本への輸出(1993年)，マレーシアから日本への輸出(2003年)，日本からマレーシアへの輸出(2003年)のいずれかである。**ア**～**ウ**と輸出国・輸出相手国(年)との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

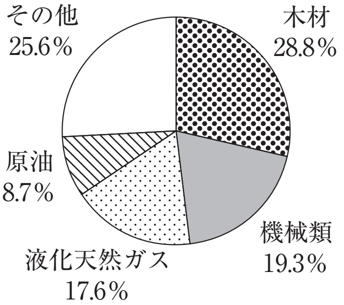
（2006年度地理Ａ本試験第２問問３）



ア



イ



ウ

『日本国勢図会』により作成。

図２

	①	②	③	④	⑤	⑥
マレーシアから日本への輸出（1993年）	ア	ア	イ	イ	ウ	ウ
マレーシアから日本への輸出（2003年）	イ	ウ	ア	ウ	ア	イ
日本からマレーシアへの輸出（2003年）	ウ	イ	ウ	ア	イ	ア

［6］　次の図３は，図２中のＧ国とＨ国のいずれかについて，輸出相手国別（サ・シ）および輸出品目別（Ｌ・Ｍ）にみた輸出額の構成比を示したものである。Ｇ国の輸出相手国と輸出品目との正しい組合せを，下の①～④のうちから一つ選べ。

（2004年度地理Ｂ本試験第３問問６）

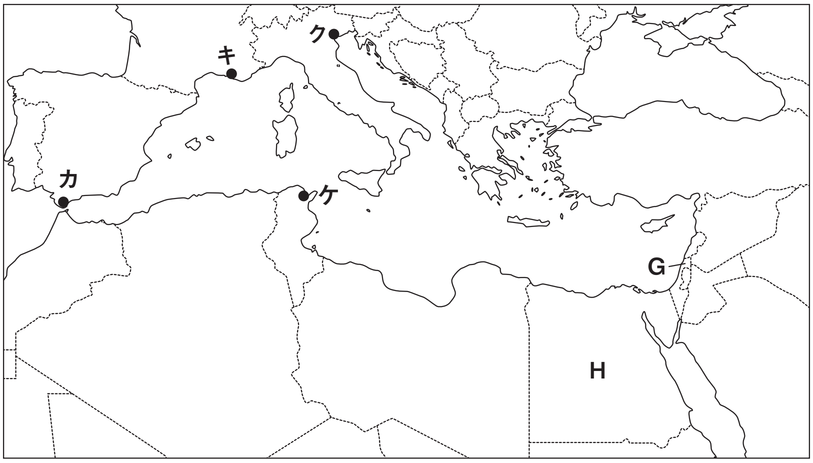
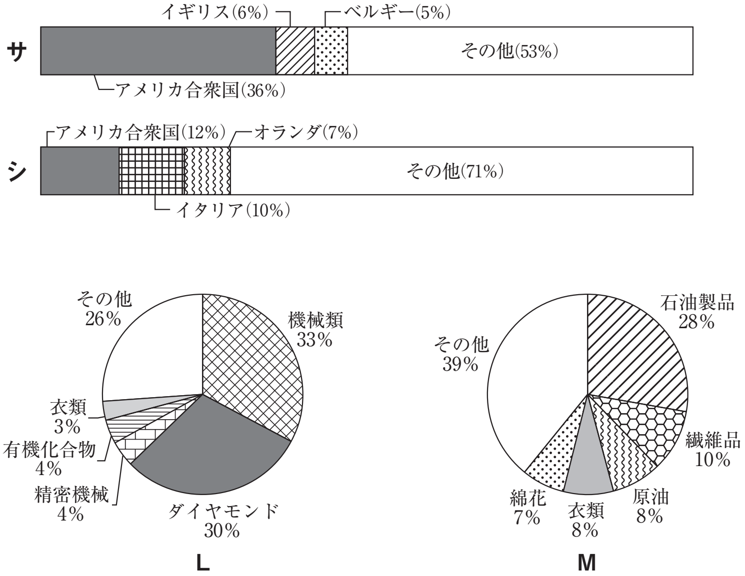


図２



統計年次は1999年。『国際連合貿易統計年鑑』などにより作成。

図３

	①	②	③	④
輸出相手国	サ	サ	シ	シ
輸出品目	L	M	L	M

［７］　次の表２は，カナダ，ジャマイカ，マレーシア，南アフリカ共和国のいずれかの国における輸出量，それに占めるイギリス向け輸出の割合，輸出相手国としてのイギリスの順位を示したものである。カナダに該当するものを，表２中の①～④のうちから一つ選べ。

（2002年度地理Ａ本試験第２問問５）

表２

	輸出額（億ドル）	イギリス向け輸出の割合（%）	イギリスの順位
①	14	13.2	2位
②	225	13.2	1位
③	783	3.4	6位
④	2016	1.5	3位

統計年次は1996年。『国際連合貿易統計年鑑』により作成。

［8］　世界では国家間の経済的統合をすすめる動きがある一方，統合された地域内では経済格差がある。次の表**1**は，いくつかの国家群における１人当たり総所得(＊)と，それぞれの国家群で１人当たりＧＮＩ(国民総所得)が最上位の国の値と最下位の国の値を示したものであり，**カ**～**ク**はＡＳＥＡＮ(東南アジア諸国連合)，ＣＩＳ，ＮＡＦＴＡ(北米自由貿易協定)のいずれかである。表**1**中の**カ**～**ク**と国家群名との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

(＊)加盟国のＧＮＩを合計したものを総人口で割った値。

(2010年度地理Ｂ本試験第６問問５)

表**1**

(単位：ドル)

	１人当たり総所得	１人当たりＧＮＩ	
		最上位の国の値	最下位の国の値
カ	34525	43424	7755
ＥＵ(＊)	29371	71336	4002
ＭＥＲＣＯＳＵＲ(＊＊)	4885	7679	1087
キ	4441	6679	516
ク	1773	30058	281

(＊)欧州連合。

(＊＊)南米南部共同市場。準加盟国も含む。

統計年次は2006年。国際連合の資料により作成。

	①	②	③	④	⑤	⑥
ＡＳＥＡＮ	**カ**	**カ**	**キ**	**キ**	**ク**	**ク**
ＣＩＳ	**キ**	**ク**	**カ**	**ク**	**カ**	**キ**
ＮＡＦＴＡ	**ク**	**キ**	**ク**	**カ**	**キ**	**カ**

［９］　次の図４は，日本からいくつかの国や地域に対する対外直接投資（＊）額の推移を５年ごとに集計して示したものであり，**タ～ツ**は，アジアＮＩＥｓ（＊＊），ＡＳＥＡＮ４（＊＊＊），中国（＊＊＊＊）のいずれかである。**タ～ツ**と国・地域名との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

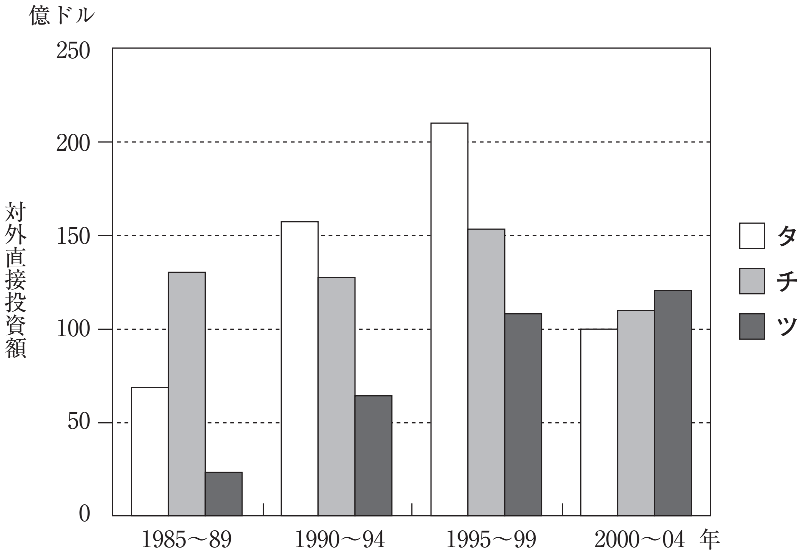
（＊）ある国の企業が外国で子会社の設立や支店・工場の設置，現地企業への出資や企業買収を行うこと。

（＊＊）韓国，シンガポール，台湾，ホンコン。

（＊＊＊）インドネシア，タイ，フィリピン，マレーシア。

（＊＊＊＊）台湾，ホンコン，マカオを含まない。

（2007年度地理Ｂ本試験第２問問６）



ジェトロ（日本貿易振興機構）の資料により作成。

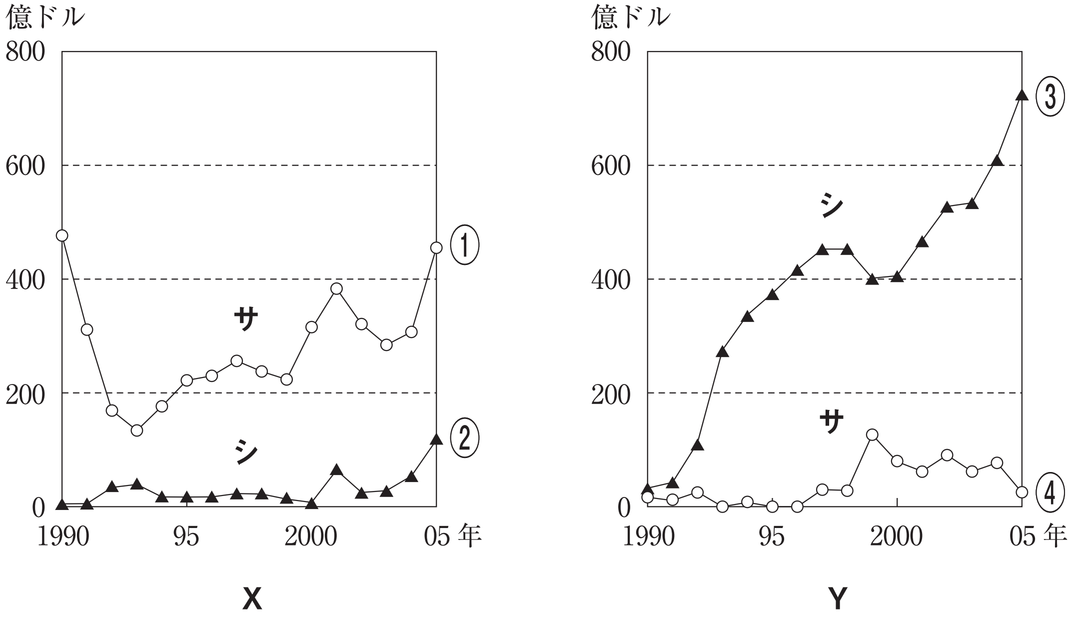
図４

	タ	チ	ツ
①	アジアＮＩＥｓ	ＡＳＥＡＮ４	中国
②	アジアＮＩＥｓ	中国	ＡＳＥＡＮ４
③	ＡＳＥＡＮ４	アジアＮＩＥｓ	中国
④	ＡＳＥＡＮ４	中国	アジアＮＩＥｓ
⑤	中国	アジアＮＩＥｓ	ＡＳＥＡＮ４
⑥	中国	ＡＳＥＡＮ４	アジアＮＩＥｓ

［10］　次の図４は，中国（＊）と日本における国際的な直接投資の推移を示したものである。図４中のＸとＹは国外からの直接投資額または国外への直接投資額のいずれかであり，サとシは中国または日本のいずれかである。日本から国外への直接投資額に該当するものを，図４中の①～④のうちから一つ選べ。

（＊）台湾，ホンコン，マカオを含まない。

（2011年度地理Ａ追試験第２問問６）



World Investment Report により作成。

図４

［11］　次の表３は，いくつかの業種について日本企業の海外現地法人の世界全体数および地域別構成比を示したものであり，Ｅ～Ｇは繊維製造業，農林漁業，輸送機械製造業のいずれかである。Ｅ～Ｇと業種名との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2014年度地理Ａ本試験第２問問４）

表３

	世界全体（社）	アジア（％）	オセアニア（％）	北アメリカ（％）	ヨーロッパ（％）
Ｅ	1681	63.5	0.9	19.7	10.5
Ｆ	395	88.9	0.5	4.1	4.1
Ｇ	103	33.0	20.4	9.7	8.7

統計年次は2009年。

『海外事業活動基本調査』により作成。

	①	②	③	④	⑤	⑥
繊維製造業	Ｅ	Ｅ	Ｆ	Ｆ	Ｇ	Ｇ
農林漁業	Ｆ	Ｇ	Ｅ	Ｇ	Ｅ	Ｆ
輸送機械製造業	Ｇ	Ｆ	Ｇ	Ｅ	Ｆ	Ｅ

[12]　国境を越えた貿易以外の企業活動の例として，現地法人（＊）の設立を挙げることができる。次の表２は国別にみた，日本企業の現地法人数，日本企業現地法人の全産業従業員数，および日本企業現地法人の全産業従業者数に占める製造業の割合を示したものである。また，表２中の①～④は，アメリカ合衆国，イギリス，インド，タイのいずれかである。タイに該当するものを，表２中の①～④のうちから一つ選べ。

（＊）外国企業が進出国内に設立した会社。

（2004年度地理Ａ追試験第３問問７）

表２

	日本企業の現地法人数	日本企業現地法人の全産業従業員数（千人）	日本企業現地法人の全産業従業員数に占める製造業の割合（％）
①	3569	651	69
②	1306	345	90
③	890	80	62
④	166	55	92

統計年次は2000年。東洋経済新報社『海外進出企業総覧（国別編）』により作成。

[13]　途上国に対して行われる日本の政府開発援助（ＯＤＡ）は，さまざまな目的で実施されている。その目的を述べた文として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。

（2001年度地理Ｂ本試験第４問問５）

① 先進国へ労働者を派遣して母国への送金を奨励し貧困を解決する。
② 災害，飢餓および難民の発生に際して人道的救援活動を行う。
③ 国づくりに必要な技術移転を促進するために人材養成に協力する。
④ 社会・経済基盤整備への投資に協力し経済発展を図る。

［14］　次の表２のＸ～Ｚは，アメリカ合衆国，日本，フランスの政府開発援助（ＯＤＡ）対象国のうち，援助供与額の上位４か国を示したものである。また下の文章ア～ウは，各国の援助政策の特徴を説明したものである。日本，フランスに該当する組合せを，下の①～⑨のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

（2001年度地理Ｂ本試験第４問問６）

表２

順位	X	Y	Z
１位	インドネシア	エジプト	イスラエル
２位	中国	コートジボワール	エジプト
３位	タイ	モロッコ	旧ユーゴスラビア
４位	インド	アルジェリア	イラク

援助対象国には海外領土・海外県を含まない。統計年次は1996年。

『我が国の政府開発援助　ＯＤＡ白書』により作成。

ア　援助は，長期的な視点から近隣地域の経済的発展と政治的安定をめざして実施されている。主要な援助対象国との経済的つながりも強い。

イ　援助は，自国の外交・安全保障政策に直結している。また，国内世論の関心が高い国も主要な援助対象国となっている。

ウ　援助は，自国文化・言語の普及をその目的の一つにおいている。援助対象国に旧植民地，近隣国が多い。

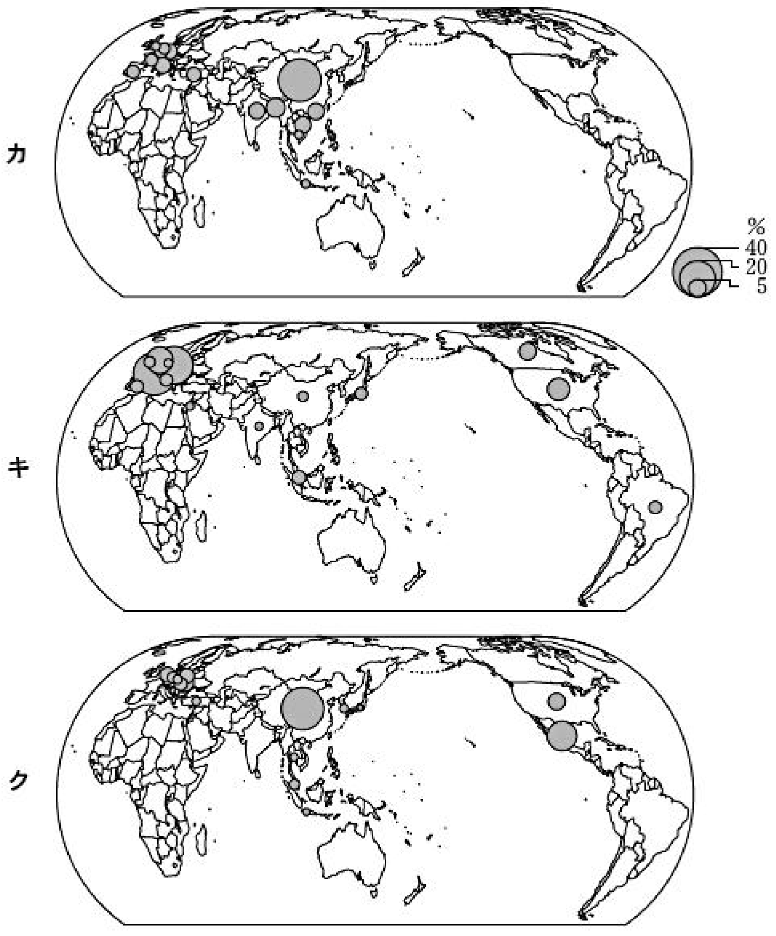
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
X	X	X	Y	Y	Y	Z	Z	Z
ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ

第 14 講
貿易・国際関係［確認問題］

［１］　ゲンさんたちは，自動車以外の製造業にも興味をもち，様々な工業製品の貿易について調べた。次の図２は，いくつかの工業製品について，輸出金額の上位 15 か国・地域が世界の輸出金額に占める割合を示したものであり，**カ**～**ク**は，衣類，航空機（＊），テレビのいずれかである。工業製品名と**カ**～**ク**との正しい組合せを，後の①～⑥のうちから一つ選べ。

（＊）航空機の部分品や人工衛星などを含む。

（2022 年度地理Ｂ追試験第２問問２）



中国の数値には台湾，ホンコン，マカオを含まない。
統計年次は2016年。『国際連合貿易統計年鑑』により作成。

図２

	①	②	③	④	⑤	⑥
衣　類	カ	カ	キ	キ	ク	ク
航空機	キ	ク	カ	ク	カ	キ
テレビ	ク	キ	ク	カ	キ	カ

［２］　次の表１中Ａ～Ｃは，イタリア，ドイツ，フランスのいずれかの国について，日本向け輸出品のうち，輸出額の上位４品目を示したものである。表１中のＡ～Ｃと国名との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2004年度地理Ａ追試験第３問問６）

表１

	A	B	C
１位	機械類	自動車	衣類
２位	旅行用具バッグ等	機械類	旅行用具バッグ等
３位	ぶどう酒類	有機化合物	機械類
４位	有機化合物	医薬品	はきもの

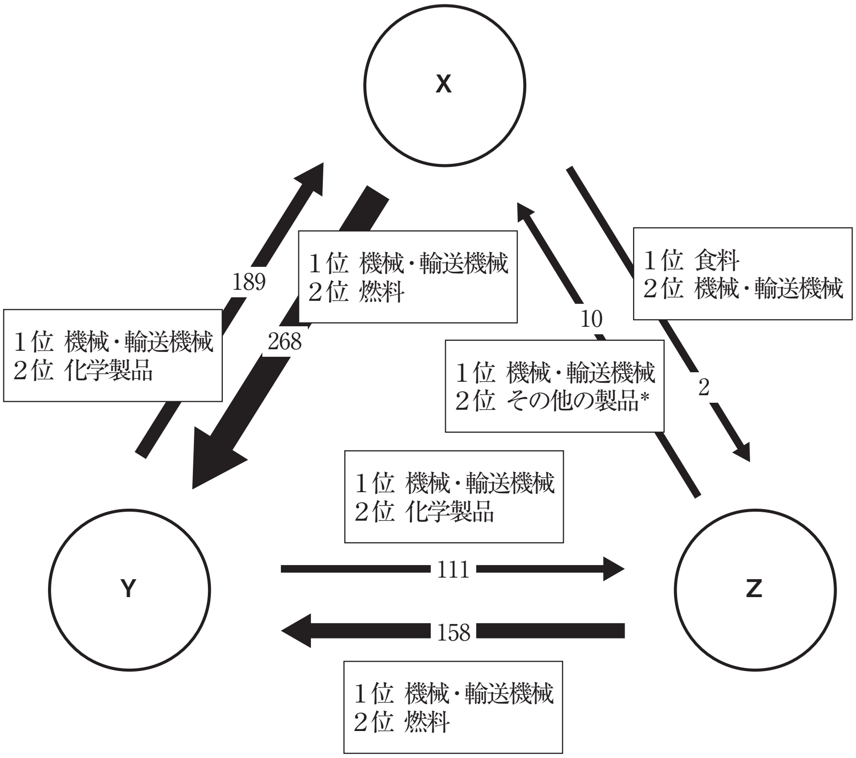
統計年次は2000年。

『日本国勢図会』により作成。

	A	B	C
①	イタリア	ドイツ	フランス
②	イタリア	フランス	ドイツ
③	ドイツ	イタリア	フランス
④	ドイツ	フランス	イタリア
⑤	フランス	イタリア	ドイツ
⑥	フランス	ドイツ	イタリア

［３］　次の図５は，アメリカ合衆国，カナダ，メキシコの３か国間の貿易額と，その第１位と第２位の品目を示したものであり，Ｘ～Ｚはそれら３か国のいずれかである。図５中のＸ～Ｚと国名との正しい組合せを，次の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2009年度地理Ｂ本試験第５問問６）



*日用品など
貿易額の単位は10億ドル。
統計年次は2004年。
WTOの資料により作成。

図５

	Ｘ	Ｙ	Ｚ
①	アメリカ合衆国	カナダ	メキシコ
②	アメリカ合衆国	メキシコ	カナダ
③	カナダ	アメリカ合衆国	メキシコ
④	カナダ	メキシコ	アメリカ合衆国
⑤	メキシコ	アメリカ合衆国	カナダ
⑥	メキシコ	カナダ	アメリカ合衆国

［4］　ラテンアメリカにおける産業や貿易の特徴も，国によって異なる。ラテンアメリカのいくつかの国における近年の産業や貿易について説明した文章として，下線部が最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

（2006年度地理Ｂ本試験第５問問６）

① アルゼンチンでは，小麦やトウモロコシ，大豆，牧草などの栽培が盛んである。原油や工業製品とともに，<u>穀物や飼料が主要な輸出品である</u>。

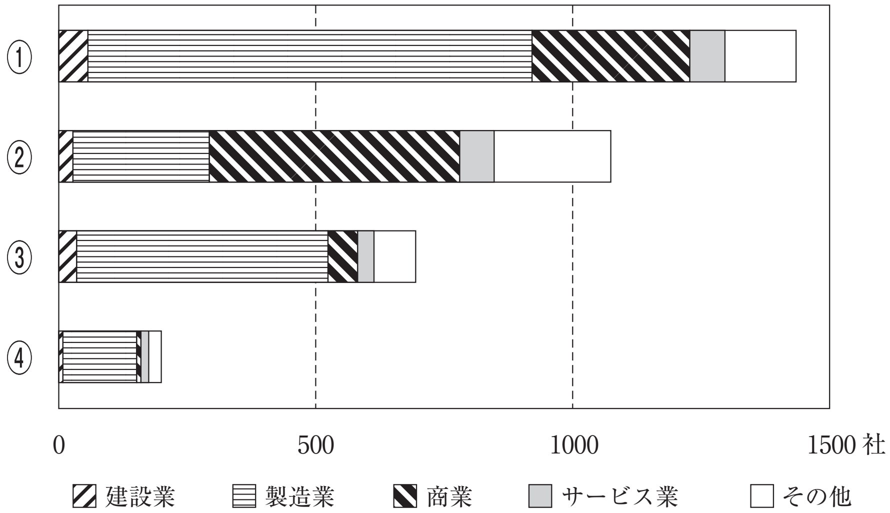
② エクアドルでは，バナナの栽培が盛んである。原油や石油製品の輸出も多いが，<u>バナナが総輸出額の第１位を占める</u>。

③ チリでは，鉱産資源の生産と輸出が盛んである。魚介類とともに，<u>金が重要な輸出品である</u>。

④ メキシコでは，鉱産資源の産出が多く，工業化の進展も著しい。<u>最大の貿易相手国は，ラテンアメリカの新興工業国であるブラジルである</u>。

［5］　企業の海外進出は，国境を越えた物の移動を活発化させる。次の図2は，日本企業の海外現地法人数を国別・業種別に示したものであり，①～④は，インドネシア，シンガポール，タイ，ベトナムのいずれかである。シンガポールに該当するものを，図2中の①～④のうちから一つ選べ。

（2006年度地理A追試験第2問問4）



統計年次は2003年。
『海外進出企業総覧(国別編)』により作成。

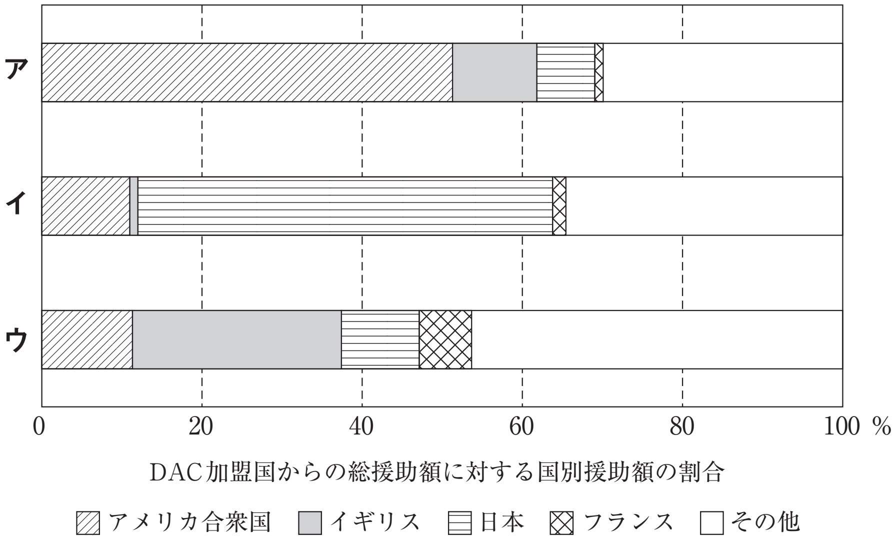
図2

［6］　次の図３は，ＤＡＣ（開発援助委員会）（＊）加盟国から発展途上国３か国への開発援助について，総援助額に対する国別援助額（＊＊）の割合を示したものであり，**ア～ウ**はアフガニスタン，インドネシア，ガーナのいずれかである。図３中の**ア～ウ**と国名との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（＊）ＯＥＣＤの下部組織。

（＊＊）2003年～2005年の合計額。

（2009年度地理Ａ追試験第５問問６）



World Development Indicators により作成。

図３

	ア	イ	ウ
①	アフガニスタン	インドネシア	ガーナ
②	アフガニスタン	ガーナ	インドネシア
③	インドネシア	アフガニスタン	ガーナ
④	インドネシア	ガーナ	アフガニスタン
⑤	ガーナ	アフガニスタン	インドネシア
⑥	ガーナ	インドネシア	アフガニスタン

第15講
都市構造

人間が経済活動を行い，最も重要な生活の場である都市。都心部は地価が高く，古くからあった商店街や住宅地が取り壊され，高層ビル街へと生まれ変わる。一方，その周辺部では農村地域が市街地化し，都市圏の内側へと取り込まれていく。「経済」を念頭において都市の仕組みを解析していこう。

１５．１　都心部は高地価である

ある都市においては，官庁や商業施設の集まる都心部は地価が高くなる。土地利用が集約化し，高層ビルや地下街が発達する。取り扱う商品も高額のものが中心である（買い回り品）。逆に広大な面積を必要とするわりに収益性の低い施設（工場など）は立地しにくい。

１５．２　都心部で生じる現象

情報が集まり交通の便が良い都心部には企業のオフィスや官公庁が集まり，金融業や商業も発達しやすい。面積が限られ高地価となるため，高層建築や地下街など土地利用は集約化する。

人口については，郊外地域に比べ都心部の増加率は低い。住環境の悪化に加え，地価の高さが決定的な要因である。近年は高層マンションなどの建設によって都心への人口回帰現象もみられるが，それは一時的・局地的なものと考える。全体的な傾向としては，都心部の人口は増えにくいと考えるべきであり，むしろ減少する場合も。ドーナツ化現象である。

１５．３　都心部の再開発

現在，都心部でさかんに行われているのが「再開発」である。古い時代から開発が進んでいた都心部の施設は老朽化しているため，これらを取り壊し新しく街づくりをする。低層の住宅地が取り壊され，高層マンションが新規に建造される。駅前商店街は新しいデパートに生まれ変わる。ただし都心部であるため，工場などは建設されないことは言うまでもない。

［知っておこう］

買い回り品と最寄り品について。貴金属や耐久消費財など高価な商品を買い回り品，食料品や日用雑貨など安価な商品を最寄り品という。これらを扱う商店の分布を意識する。前者は都心部あるいはその地域の中心的な大都市，後者は人が住んでいるところならどこでも。またこの買い回り品と最寄り品の区分は，商店以外にも適用される。前者的な性格を有する施設はコンサートホールや中央図書館，大病院など。後者的な性格を有する施設は，(公立)学校や郵便局，公園など。

１５．４　都市圏

都市中心部が影響を及ぼす範囲を「都市圏」という。具体的には中心部に位置する企業に通勤する人が住む範囲すなわち通勤圏をイメージすればいい。日常的に人々が移動する範囲であり，バスや鉄道などの交通機関も整備されている。

都市圏は２重円によって表され，小さい円の内側が「都心部」，小さな円と大きな円の間が「郊外」。都心部では昼間人口が夜間人口（常住人口）より大きくなり，郊外では夜間人口が昼間人口より大きくなる。

人口増加率は都心部で低く，郊外で高いが，とくに中心点に向かうほど低くなり，外周に向かうほど高くなる傾向がある。この人口増加率については，地価の高低と関連づけて考えるといい。つまり都心部(とくに中心部)は地価が高いため住民は流出し，郊外(とくに外周に近いエリア)は地価が安いため住宅地としての開発が進む。

15.5　都市圏の構造（同心円モデル）

都市圏構造についてはこれまで２重円で考えてきた。内側が「都心部」であり，外側が「郊外」である。ここではさらに５重円による同心円モデルで考えてみよう。最も内側がⅠ，そこから外に向かってⅡ，Ⅲ，Ⅳ，最も外側がⅤとする。

ⅠとⅡが「都心部」に該当し，Ⅲ・Ⅳ・Ⅴが「郊外」である。なお，都心部を「既成市街地」という場合もある。

Ⅰ；「中心市街地」　最も早くから都市開発が進められた地域。官公庁や企業のオフィスが集まる「中心業務地区（ＣＢＤ）」が形成される。積極的に再開発がなされ，高層ビルや地下街も整備されている。

Ⅱ；「周辺市街地」　比較的早い時期から都市化が進み，古くからの住宅や商店街，中小工場などもみられる。中心市街地から郊外へと移り変わる地域であるため「漸移地区」ということもある。中心市街地と郊外とを結ぶ交通の結節点には「副都心」が形成される。副都心とは中枢管理機能の一部が移転し，商業施設も設けられるなど，ＣＢＤの役割を補うところ。

Ⅲ；「一般住宅地」　都心部へと通勤する人々が住む住宅地域。

Ⅳ；「高級住宅地」　広い土地が得られるため，高所得者が広大な邸宅を設けている地域。

Ⅴ；「新興住宅地」　主に高度経済成長期以降に新しく開発された住宅地域。山野を切り開き，住宅機能に特化したニュータウンが建設されている。

「ＣＢＤ」と「ニュータウン」の位置が重要。ＣＢＤはⅠのエリアに形成され，ニュータウンはⅤのエリアに開発される。

Ⅰでは高地価であるため，人口が流出し，人口増加率が低い（時にはマイナスとなる）。また「若者が移動する」というセオリー通り，流出する人口は若年層が中心であるため，老年層が取り残され，老年人口の割合は高い。相対的に年少人口の割合は低い。

Ⅴでは地価が安いため，人口が流入し，人口増加率が高い。流入する人口は若年層が中心であるため，出生率が高く，年少人口の割合が高い。相対的に老年人口の割合は低い。

なお，この五重円の外側が「都市圏外」。地価は安いが，都心部への通勤ができないため，人口流出地区となる。

［知っておこう］

郊外において生じる問題にスプロール現象がある。郊外における無秩序な乱開発のことで，農地や緑地の間に住宅地などが散在する。道路などインフラの整備が遅れ，都市開発が効率的に行われない。この解決のためには計画的な住宅地の整備が必要であり，ニュータウンが各地に建設されることになる。幹線道路や鉄道も敷設され，住民にとって暮らしやすい環境となった。

１５．６　郊外の定義

都市圏の外周部に近い範囲が「郊外」である。都心部と対照的なものとしてとらえること。数値的な定義をするならば，「昼間人口が夜間人口より大きい」のが都心部で，「夜間人口が昼間人口より大きい」のが郊外。都心部と郊外との間で，通勤のような日常的な人口移動が生じている。

＜チェック！＞

郊外キャラクターを持つ都道府県を知ろう。

これまでは都心部や郊外については都市圏内部の地域区分としてのみ考えてきた。しかし実際の入試では都道府県を用いて都心部や郊外の性格の違いを問う問題も多く出題されている。都心部的なキャラクターがとくに強い都道府県として「東京都」「大阪府」，やや都心部的なキャラクターとして「愛知県」，やや郊外的なキャラクターとして「神奈川県」，とくに郊外的なキャラクターとして「埼玉県」「千葉県」「滋賀県」「奈良県」を知っておこう。出題率が高い。

例えば千葉県にしても，千葉市のような大都市は存在し，千葉市自体は「都心的」な性格を持っているかも知れないが，県全体としてはあくまで「郊外」と考えるべき。つまり「人口増加率が高い」「昼間人口が夜間人口より少ない」など郊外的なキャラクターが明確である。

とくに都心部的	やや都心部的	やや郊外的	とくに郊外的
東京都・大阪府	愛知県	神奈川県	埼玉県・千葉県・ 滋賀県・奈良県

15.7　郊外における商業的機能

「郊外」とはあくまで「都心部」に附随するものであり，都心部に集中する機能は逆に郊外では発達しにくい。この代表的な例に金融業や流通業(卸売業)がある。

銀行の多くは東京や大阪の都心に集まり，またそれらの規模が大きいため，郊外の銀行は数そのものが少なく，影響範囲も小さい。郊外の人が都心部の銀行に預金するイメージを持とう。

卸売業者(問屋)も大都市に集中する傾向が強く(＊)，都心部の商店だけでなく，郊外の商店の多くもそれらの卸売業者から商品を仕入れる。

(＊)卸売業には商品を保管するための倉庫も必要なのだが，これらについては都心部にこだわらない。むしろ地価の安い郊外に立地する可能性もある。ただし，あくまで「卸売業販売額は都心部で高い」と考えて欲しい。卸売業者のオフィスは都心部に位置し，お金のやり取りをしているのはあくまで都心部なのだ。

ワンポイント

今回は都市圏の内側の話にとどめているが，もちろん都市圏には外側もある。都市圏に含まれないエリア(都市圏外)とはどういうところなのだろうか。基本的な考え方として，高賃金を得られるような仕事は都心部にしか存在しないと考える。だから人々は都心部へと通勤が可能である都市圏内に住もうとするのだ。一方，都市圏の外側は人口の流出が激しく，人口増加率は低い(人口減少が著しい)。若年層が流出することによって，とくに老年人口の割合が高い地域となる。

人口増加率；郊外＞都心部＞都市圏外
年少人口の割合；郊外＞都心部＞都市圏外
老年人口の割合；都市圏外＞都心部＞郊外

なお，今回取り上げたのは都市圏についての基礎的な内容であり，発展的な内容として2000年代以降の都市圏(特に東京大都市圏)についても今後学習してほしい。このエリアについては上に示した指標のパターンとは異なる。特に重要なのが「郊外」の状況である。都心への人口回帰によって郊外への転入者数は減少し，高度経済成長期につくられたニュータウンにおいては人口の高齢化も顕著である。住民の年齢層が偏っており，入居後40～50年を経て老年人口の割合が急上昇しており，一部では空き家の問題も生じている。

第15講
都市構造［練習問題］

［1］　一般に，交通や情報の面で有利な都心部には，さまざまな機能が立地しようとする。しかし，都心部の面積は限られ，かつ土地の値段(地価・借地料)も高いため，収益性の低い機能は競争に敗れ，より都心部から離れた郊外に立地するようになる。このことに関して述べた次の文①～④のうちから，**適当でないもの**を一つ選べ。

(1998年度地理Ｂ追試験第３問問６)

① 卸売店は，団地を形成して郊外に立地するようになる。
② 高級料理店は，大衆料理店よりも，都心部に集中する傾向がある。
③ オフィスの賃貸料は，一般に都心部に近いほど高額である。
④ 労働集約的な組立型工業は，郊外から都心部へと移転する。

［2］　都市が発達すると，その中心部に明確な都心が形成される。都心にみられる特徴を述べた文として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

(2002年度地理Ｂ追試験第２問問２)

① 企業の本社や支社・支店などが集中している。
② 常住人口が継続的に増加している。
③ 商店は最寄り品を売る店が中心となっている。
④ 重化学工業関連の工場が住宅と混在している。

［3］　それぞれの機能に適した立地条件を考えると，施設によっては都心部に立地する傾向にあるものと，郊外にむかって移動する傾向にあるものとがある。次の**Ａ**群の施設**ア**～**エ**のうち，都心部に立地を求める施設には①，郊外に立地を求める施設には②，どちらともいえないものには③を［１］･［３］･［５］･［７］にマークせよ。また，その理由を下の**Ｂ**群の④～⑧からそれぞれ一つ選び，［２］･［４］･［６］･［８］に答えよ。

(1981年度地理Ａ追試験第４問問２)

A

ア　商品倉庫　［1］･［2］

イ　高級洋品店　［3］･［4］

ウ　大企業の管理中枢部門　［5］･［6］

エ　郵便局　［7］･［8］

B

④　多くの買物客を集め，売上額を高めることで，高い地価に耐えることができる。

⑤　騒音・悪臭などの公害を出す恐れがある。

⑥　住民に対して均等にサービスを行うことができる。

⑦　多くの情報を容易に入手できる。

⑧　都心の交通渋滞を避け，また広い建物面積を必要とする。

［4］(1)　次の表2は，日本のある大都市の都心部で行われた都市再開発事業に関し，再開発の対象となった地区の再開発前と再開発後の建物の用途別延べ床面積の変化を示したものである。次の写真1は，再開発前のこの地区を撮影したものである。表2中のa～cは，事務所，屋内駐車場，店舗併用住居のいずれかである。a～cに該当する用途の組合せとして正しいものを，次の①～⑥のうちから一つ選べ。

（1999年度地理A本試験第3問問5）

写真1

（編集部　追記：編集上の都合により写真を掲載できないため，代替写真に差し替えております。）

表２

（単位：平方メートル）

建物の用途	再開発前（1971年）	再開発後（1985年）
専用住居	5859	17720
a	5260	0
b	2167	36586
専用店舗	1574	11176
工場	233	0
c	0	3840
その他	3049	0
合計	18142	68962

林(1985)などにより作成。

	①	②	③	④	⑤	⑥
a	事務所	事務所	屋内駐車場	屋内駐車場	店舗併用住居	店舗併用住居
b	屋内駐車場	店舗併用住居	店舗併用住居	事務所	事務所	屋内駐車場
c	店舗併用住居	屋内駐車場	事務所	店舗併用住居	屋内駐車場	事務所

（2）　表２から読み取れるこの地域の再開発の様子を述べた文として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

（同・問６）

① 延べ床面積の総計が大幅に増加しているので，高層ビルが建設されたと判断できる。

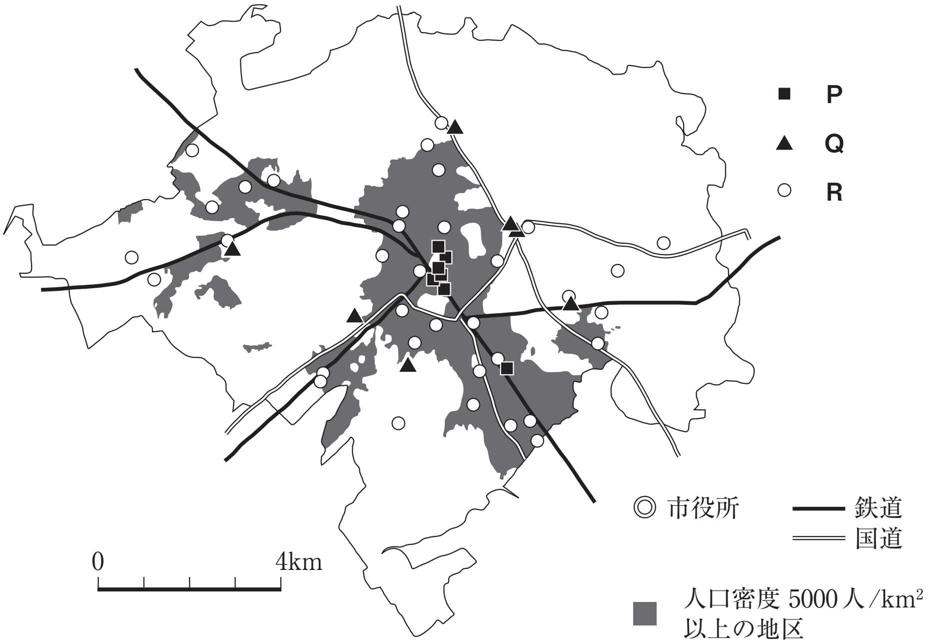
② 延べ床面積の総計が大幅に増加しているので，再開発後の建物用途がより多様なものへと変化したと考えられる。

③ 再開発前の建物用途の構成を見ると，移転した大規模な工場の跡地を利用するための計画であったと考えられる。

④ 再開発後に専用住居の面積が約３倍になっていることから，１戸当たりの住宅面積がほぼ３倍になったことが分かる。

［5］ 都市住民は，消費目的に応じて多様な商業施設を利用している。次の図２は，人口約30万人の日本のある都市における商業施設の分布を示したものであり，P～Rは，スーパーマーケット，デパート，ホームセンターのいずれかの業態である。P～Rと業態名との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2007年度地理Ｂ追試験第３問問４）



NTTの資料などにより作成。

図２

	P	Q	R
①	スーパーマーケット	デパート	ホームセンター
②	スーパーマーケット	ホームセンター	デパート
③	デパート	スーパーマーケット	ホームセンター
④	デパート	ホームセンター	スーパーマーケット
⑤	ホームセンター	スーパーマーケット	デパート
⑥	ホームセンター	デパート	スーパーマーケット

［6］　都市の影響が日常的に及ぶ範囲を都市圏という。この都市圏のおおよその範囲を設定する場合，その範囲として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

（2002年度地理Ｂ追試験第２問問６）

① 中心都市に居住する人々が行楽に出かける範囲
② 中心都市のホテルに宿泊する人々が居住する範囲
③ 中心都市の公立中学校に通学する生徒が居住する範囲
④ 中心都市の事業所に勤務する人々が居住する範囲

［7］　都市圏を設定する際の指標として**最も不適当なもの**を，次の①～⑤のうちから一つ選べ。

（1988年度地理本試験第４問問３）

① 百貨店の商圏
② 総合病院の通院圏
③ オフィスの通勤圏
④ 生鮮食料品店の顧客圏
⑤ 劇場・映画館の顧客圏

［8］　次の文は，京阪神大都市圏に位置する**Ａ**～**Ｃ**市の都市景観について述べたものであり，下の表**２**中の**カ**～**ク**は，それぞれの都市の昼夜間人口比率（＊）と老年人口割合（＊＊）を示したものである。**Ａ**～**Ｃ**と**カ**～**ク**との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。
（＊）昼間人口÷夜間人口× 100
（＊＊）総人口に占める65歳以上人口の割合。

（2014年度地理Ｂ本試験第３問問３）

Ａ市　大都市圏の中心に位置し，都心部には高層ビルが建ち並ぶ中心業務地区がある一方，周辺には住宅や工場が密集して混在する地区もみられる。
Ｂ市　都心部への通勤･通学圏に位置し，丘陵地に開発されたニュータウンでは，都心部と結ばれた鉄道沿線に大規模な住宅団地が形成されている。
Ｃ市　大都市圏の外縁部に位置し，中心地として古くからの市街地が発達している一方，農地が広がる郊外には集落が点在している。

表２

	昼夜間人口比率	老年人口割合（%）
カ	132.8	22.5
キ	103.2	29.6
ク	98.6	19.6

統計年次は2010年。
国勢調査により作成。

	①	②	③	④	⑤	⑥
A	カ	カ	キ	キ	ク	ク
B	キ	ク	カ	ク	カ	キ
C	ク	キ	ク	カ	キ	カ

［９］　東京大都市圏を都心からのおおよその距離によって，次の**ア**～**エ**の四つの地帯に大きく分けてみた。

（1991年度地理本試験第４問問２・３）

（１）　それぞれの地帯に一般的にみられる特色について述べた下の文**a**～**e**のうち，誤っているものが二つある。その組合せを，下の①～⑩のうちから一つ選べ。

ア　都心から約10km以内の地帯
イ　都心から約10～25kmの比較的早くから都市化が進んだ地帯
ウ　都心から約25～40kmのニュータウンがみられる地帯
エ　都心から約40～50kmの地帯

a　**ア**の地帯には中心業務地区（ＣＢＤ）が形成され，昼間人口と夜間人口の差が大きく，昼間人口密度はきわめて高い。
b　都心に比較的近い**イ**の地帯における現在の人口増加率は，四つの地帯の中で最も高い。
c　急速に住宅地化が進んでいる**ウ**の地帯は，四つの地帯の中で人口密度が最も高い。
d　**ウ**や**エ**の地帯では，住宅や工場が農地や林地を虫食い状につぶして広がるスプロール現象が各所でみられる。

e　都心から離れたエの地帯では，内側の地帯から移ってくる人々が多く，一戸建て住宅の建設が盛んである。

① aとb　② aとc　③ aとd　④ dとe　⑤ bとc
⑥ bとd　⑦ bとe　⑧ cとd　⑨ cとe　⑩ dとe

（2）　次の表１は，（1）の地帯ア・イ・ウを代表する地区（区または市）X・Y・Zの，人口の年齢別構成を示したものである。地区X・Y・Zがそれぞれ位置していると考えられる地帯の正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

表１

（単位　%）

	0～14歳	15～39歳	40～64歳	65歳以上
X	14.7	37.8	33.0	14.5
Y	26.5	40.9	27.6	5.0
Z	20.8	38.1	32.8	8.3

「昭和60年国勢調査報告」による。

	①	②	③	④	⑤	⑥
X	ア	ア	イ	イ	ウ	ウ
Y	イ	ウ	ア	ウ	ア	イ
Z	ウ	イ	ウ	ア	イ	ア

［10］　次の図２は，日本における大都市の内部構造を模式的に示したものである。図２中のＡ～Ｄの地区のいずれかの特徴について述べた文として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。

（2008年度地理Ｂ本試験第３問問４）

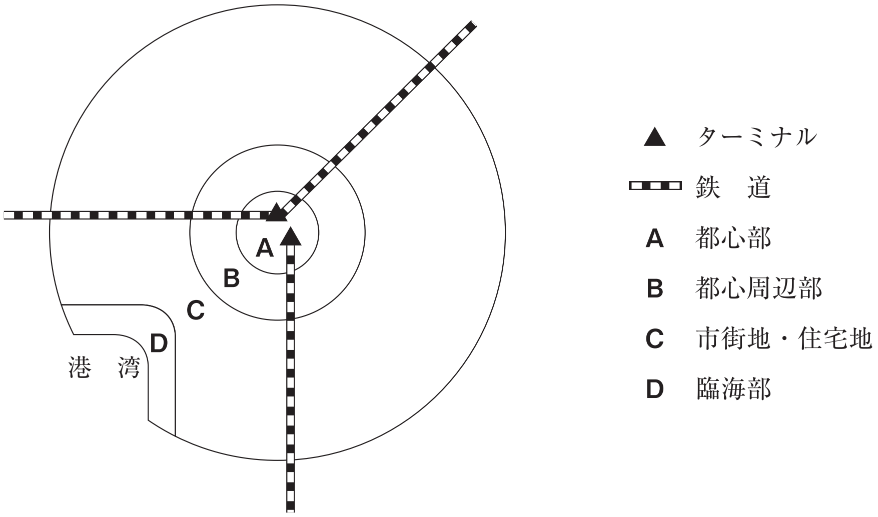


図２

① 　Ａ地区では，官公庁や企業の本社などの立地がみられ，昼間人口と夜間人口の差が小さい。

② 　Ｂ地区では，中小工場や問屋などの立地がみられ，住民の高齢化がすすんでいる。

③ 　Ｃ地区では，都市計画にもとづくスプロール現象がみられ，鉄道に沿って連続的に商業施設が立地している。

④ 　Ｄ地区では，大規模な工場や倉庫群などの立地がみられ，地区全体の地価が高い。

［11］　日本国内の通勤・通学による人口流動の特色について述べた次の文①～④のうちから，**誤っているもの**を一つ選べ。

（1995年度地理本試験第６問問３）

①　沖縄県と北海道では，他県に通勤・通学する人も，他県から通勤・通学してくる人もほとんどいない。
②　神奈川県・千葉県・奈良県では，県外に通勤・通学する人より，県外から通勤・通学してくる人の方が多い。
③　３大都市圏の中心都市で勤務する人の多くは，中心都市内の宅地が高価でかつ不足しているため，周辺の市町村に住宅を取得して通勤している。
④　３大都市圏以外の地域でも，それぞれの地域内では農山村から都市域に向かう通勤・通学がみられる。

［12］　次の表１は，大阪府，埼玉県，島根県，北海道の居住者について，平均通勤・通学時間（1991年）と，全通勤・通学者に占める他都道府県への通勤・通学者の割合（1990年）を示したものである。埼玉県に該当するものを，表１中の①～④のうちから一つ選べ。

（1998年度地理Ｂ本試験第２問問１）

表１

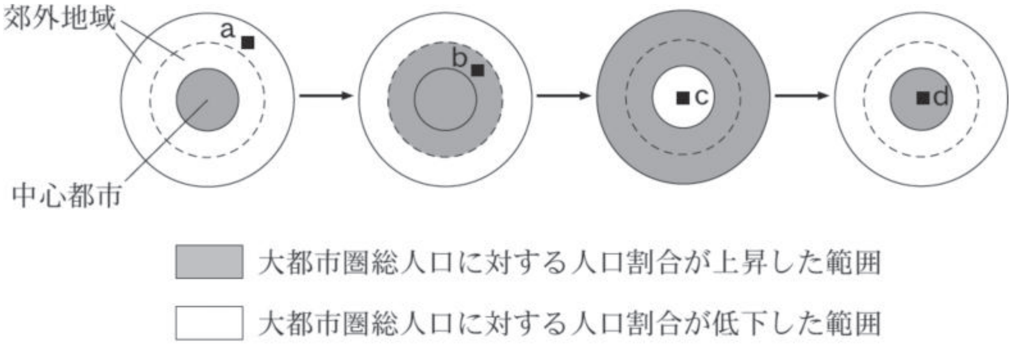
	平均通勤・通学時間（分）	他都道府県への通勤・通学者の割合（%）
①	65	18.7
②	52	2.9
③	32	0.1
④	27	1.2

「社会生活基本調査報告」などにより作成。

第 15 講
都市構造［確認問題］

［1］　サヤさんたちは，先進国の都市の発達過程において生じる問題について考えた。次の図 1 は, 日本の大都市圏における発展段階モデルを示したものである。また，後の文は，図 1 中の地点 a ～ d のいずれかにおける特徴的な問題を述べたものである。後の文に当てはまる地点として最も適当なものを，後の①～④のうちから一つ選べ。

（2023 年度地理Ａ追試験第４問問２）



郊外地域のうち，破線の内側は中心都市に近いことを，破線の外側は中心都市から離れていることを意味している。

図 1

問　題

インフラストラクチャーが十分に整備されないままに無秩序な開発が相次ぎ，居住環境に課題のみられる住宅地が形成されるようになった。

①　a　　　②　b　　　③　c　　　④　d

［２］　次の写真１は，大規模なショッピングセンターを写したものである。こうしたショッピングセンターが立地する可能性のある場所として**適当でないもの**を，下の①～④のうちから一つ選べ。

（2002年度地理Ｂ追試験第２問問３）

写真１

（編集部　追記：編集上の都合により代替写真に差し替えております。）

① 住宅団地の周辺
② 工場跡地
③ 都市内の最高地価点
④ 幹線道路沿い

［３］　次の表１は，35万人から50万人程度の人口規模を持つ金沢・静岡・長野・奈良の各都市の諸指標を示したものである。奈良市に該当するものを，表１中の①〜④のうちから一つ選べ。

（1997年度地理Ｂ追試験第３問問３）

表１

都市名	人口増加率（%）	昼夜間人口比率（%）	第１次産業人口比率（%）	工業出荷額（%）	銀行の本・支店数
①	0.8	108.1	4.5	10775	65
②	2.9	109.1	2.2	6995	119
③	3.0	106.3	9.8	7407	40
④	6.6	89.8	2.0	2319	49

統計年次は，昼夜間人口比率と第１次産業人口比率が1990年，工業出荷額が1992年，銀行の本・支店数が1994年。

人口増加率は，1985年から1990年の間の増加率。

昼夜間人口増加比率は，昼間人口を夜間人口で割ったもの。

「全国市町村要覧」などによる。

［４］　エリさんは地域調査から帰って，人口流動について調べてみた。次の表２は，昼夜間人口比と，夜間人口に占める他市町村への通勤・通学者の割合を示したもので，Ｘ～Ｚは，大阪市，釧路市（北海道東部の都市），京阪神大都市圏の郊外にある宝塚市のいずれかである。Ｘ～Ｚに該当する３都市の組合せとして正しいものを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2002年度地理Ｂ本試験第５問問６）

表２

都市名	昼夜間人口比率	他市町村への通勤・通学者の割合（％）
Ｘ	1.46	11.2
Ｙ	1.02	3.0
Ｚ	0.75	37.6

昼夜間人口比＝昼間人口÷夜間人口

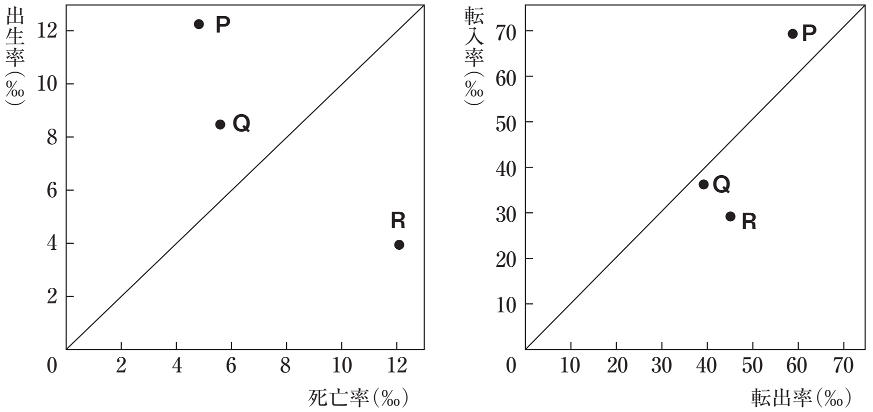
他市町村への通勤・通学者の割合＝他市町村への通勤・通学者数÷夜間人口×100

統計年次は1995年。国勢調査により作成。

	Ｘ	Ｙ	Ｚ
①	大阪市	釧路市	宝塚市
②	大阪市	宝塚市	釧路市
③	釧路市	大阪市	宝塚市
④	釧路市	宝塚市	大阪市
⑤	宝塚市	大阪市	釧路市
⑥	宝塚市	釧路市	大阪市

［5］　次の図３は，人口増減の特徴が異なる日本の三つの都市Ｐ～Ｒについて，１年間の出生と死亡の関係，および転入と転出の関係をそれぞれ示したものである。また，下の文カ～クは，都市Ｐ～Ｒのいずれかにおける人口増減の特徴を述べたものである。Ｐ～Ｒとカ～クとの正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2004年度地理Ｂ本試験第４問問６）



統計年次は2000年度。東洋経済新報社『地域経済総覧』により作成。

図３

カ　宅地化の最盛期を過ぎており，人口は伸び悩んでいる。

キ　宅地化が急速に進んでおり，人口増加が著しい。

ク　かつての中心的な産業が衰退し，現在も人口減少が進んでいる。

	①	②	③	④	⑤	⑥
Ｐ	カ	カ	キ	キ	ク	ク
Ｑ	キ	ク	カ	ク	カ	キ
Ｒ	ク	キ	ク	カ	キ	カ

［６］ 先進国における大都市圏の成長・衰退・再生について述べた文章として下線部が**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。

（2013年度地理Ｂ追試験第３問問５）

① 都心部には中心業務地区が形成される。国際的な大企業の中枢管理部門や金融市場などが集積し，世界都市へと発展する都市もみられる。

② 都市の成長とともに，都市域は郊外に拡大する。郊外で大規模なニュータウンの開発がすすむ現象は，スプロール現象とよばれる。

③ 空洞化のすすむ都心部周辺では，低所得者や海外からの移民が老朽住宅に集住することがある。こうした地域における治安や衛生環境などの悪化は，インナーシティ問題とよばれる。

④ 衰退した都市内部を再開発し，オフィスや高級住宅地が建設される都市もみられる。高所得者が再び都心部に流入する現象は，ジェントリフィケーションとよばれる。

第16講
東京大都市圏・国内の人口流動

「金が人を動かす」のセオリー通り，経済活動が最も活発で所得水準も高い大都市圏とくに東京圏への人口流動がみられる。また，地方においては特定の「中枢」的な都市へと人口や経済活動，情報が集中する。高度経済成長期以降の日本の人口流動について学ぼう。

１６．１　大都市圏への人口集中

1950年代後半から始まる高度経済成長の時期には，太平洋ベルト地帯での都市化や工業化によって，東京・名古屋・大阪の３大都市圏へと多くの人口が集中した。これにより都市では過密による諸問題が発生する一方，地方の農村では過疎化という言葉が生まれた。過疎化とは，若い世代の流出により高齢者が取り残され，社会生活に不具合が生じることである。

オイルショックや公害問題の発生により，1970年代に高度経済成長期は終わりを告げる。日本国内の人口流動の勢いは弱まったものの，大都市圏から非大都市圏へと戻る人口の動きが顕著となった（Ｕターン現象）。

現在は，1960年代ほどの大都市圏への人口集中の勢いはないが，それでも少しずつ非大都市圏から大都市圏への人口移動の流れはある。とくに経済レベルの高い東京大都市圏の人口は年々増加傾向にあり，地方と都市との格差も広がっている。東京一極集中の時代である。

１６．２　大都市圏内での人口増加率の違い

都市圏内部においては，中心部に近ければ近いほど人口増加率は小さく（とくに地価の高い都市の中心部においては人口が減少していることも），外縁部に向かえば向かうほど人口増加率は大きくなる。

この傾向はもちろん日本最大の都市圏である東京大都市圏においても同様。ただし東京大都市圏は半径50kmの大円に匹敵し，他の都市に比べ極端に大きなものであるため，人口の減少地域や増加地域の分布については注意して考えないといけない。

１６．３　都市圏を越える地域の人口動態

都市圏の内側においては，都心部で人口増加率が低く，郊外で人口増加率が高いという特徴がある。これに対し，都市圏を越えた地域においてはどのような人口動態がみられるか。

こういった地域では都心部に通勤することができず（都市圏＝通勤圏であることを思い出そう），人口増加率は低く，とくに人口減少地域となることが一般的である。

地価が高いため人口増加率が低い都心部，通勤圏でないために同じく人口増加率が低い都市圏外。おのおの理由は異なるものの，人口増減については共通した特徴が表れる。

１６．４　東京に集中する経済的機能

一般的に都市（大都市圏）は経済レベルが高く，地方は経済レベルが低い。都市の中でもとくに経済レベルが高いのは東京であり，所得水準も全国１位である。東京に引っ張られるように関東地方の経済レベルも比較的高くなる。それとは逆に，東京から離れた地方（北海道や東北，九州など）の経済レベルは低くなっている。最低水準が沖縄県。

東京（東京都・東京圏）にはさまざまな経済的機能が集中する。とくに重要な指標が「卸売販売額」である。卸売業は大都市に集中する傾向があるが，とくにその地域の中枢的な役割を果たす都市への集中の度合いが高い。わが国においては，東京・大阪・名古屋・福岡・札幌に全国の卸売業販売額の６割が集まっているが，とくに東京のみに４割近くが集中している。ただし，逆に考えれば６割ほどは東京以外にも分散していることになる。その地方の中心的な都市（地方中枢都市）における卸売業販売額も比較的大きい。

＜チェック！＞

1960年代より東京大都市圏に人口が過度に集中する反面，都心中央部の極端な高地価化によって人口が郊外へと流出した。これをドーナツ化現象という。この傾向は1980年代まで顕著であった。

しかし，近年逆に都心部の再開発が進み，さらにウォーターフロント地区に巨大な住宅団地が建設されるなど，都心部の中には人口増加率が急上昇しているエリアもみられる。これを都心への人口回帰といい，例えば東京都は現在最も人口増加率の高い都道府県となっている。現在の東京都の人口増加率の高さがポイン

トになる問題を確認テストで取り上げたので，各自挑戦してみてほしい。

16.5　地方中枢都市

札幌市や福岡市のようにその地方で中心的な役割を果たしている都市を「地方中枢都市」という。いわばその地方の「首都」である。人口規模が大きい都市が多いが，それだけではなく，行政的機能や商業的機能なども集中している。

16.6　人口規模の大きな都市

日本における人口規模の大きな都市を紹介しておこう。地方中枢都市は必ず知っておいてほしい。人口約900万人の東京特別区部（23区）が最大であるが，これは「市」ではない。なお，以下の大都市は全て「政令指定都市」ともなっている。政令指定都市とは，都道府県が行う業務の一部を任されている大都市のこと。

1位；横浜市（365万人）　東京大都市圏に含まれる。
2位；大阪市（260万人）　大阪大都市圏の中心。近畿地方の中心でもある。
3位；名古屋市（220万人）　名古屋大都市圏の中心。中部地方の中心でもある。
4位；札幌市（195万人）　北海道の中心。地方中枢都市。
5位；福岡市（150万人）　九州・沖縄地方の中心。地方中枢都市。
6位；川崎市（150万人）　東京大都市圏に含まれる。
7位；神戸市（150万人）
8位；京都市（135万人）
9位；さいたま市（130万人）　東京大都市圏に含まれる。
10位；広島市（120万人）　中国・四国地方の中心。地方中枢都市。
11位；仙台市（105万人）　東北地方の中心。地方中枢都市。
12位；千葉市（95万人）　東京大都市圏に含まれる。
13位；北九州市（90万人）
14位；堺市（80万人）　大阪大都市圏に含まれる。
15位；新潟市（80万人）
16位；浜松市（80万人）
17位；熊本市（75万人）
18位；相模原市（70万人）
19位；岡山市（70万人）
20位；静岡市（70万人）

（参考）日本の都市の人口には多少の変動がある。上のデータは2022年のものである。数値はいずれも概数である。

<チェック！>

札幌市，仙台市，金沢市（石川県），広島市，福岡市は「地方中枢都市」である。このような地方中枢的な機能を持つ都市の統計的な特徴について整理しよう。

その地方の「首都」的な機能を有するので，「昼間人口」は夜間人口より多く，「卸売業」も発達しやすい。周囲から人口が流入するため，「人口増加率」は比較的高い。

なお金沢市は，人口は多くないが（45万人），北陸地方の中枢的な都市として重要。

１６．７　卸売業は「３大都市」と「地方中枢都市」

「卸売業は大都市で発達する」ということは絶対的なセオリーである。ただしいくら大都市であっても「郊外」型の都市では発達しないので注意すること。逆に，地方中枢都市はその人口規模に比べ，卸売業が発達しやすい。

「東京特別区部→大阪市→名古屋市」の順に卸売業が発達し，福岡市と札幌市もそれぞれ卸売業が集中する都市である。全国の卸売業販売額の64.4％をこれらの５都市が占めている。

[知っておこう]

「都心部」「郊外」「地方中枢都市」そしてそれ以外の「地方」についてキャラクターをまとめてみよう。◎は「大変高い」，○は「やや高い」，△は「やや低い」，×は「大変低い」。

	人口増加率	年少人口の割合	老年人口の割合	昼夜間人口比	卸売業の発達の度合い
都心部	△	△	○	◎	◎
郊外	◎	◎	×	×	×
地方中枢都市	○	○	△	○	○
地方	×	×	◎	△	△

なお「都心部」と「郊外」を合わせて「大都市圏」，「地方中枢都市」と「地方」を合わせて「非大都市圏」である。

	人口増加率	年少人口の割合	老年人口の割合
大都市圏	○	○	△
非大都市圏	△	△	○

日本の人口増加（あるいは人口減少）については，社会増加（転入と転出の差）を主体に考え，それに引きずられて自然増加率（出生と死亡の差）も変化すると考える。例えば世界の人口を考えた場合「アフリカ大陸では出生率が高いから，人口増加率が高い」とストレートに言えるのに対し，日本国内においては「千葉県では若年層を中心とした転入が多いため，人口増加率が高く，さらにそれによって同時に出生率も高くなる」と社会増加と自然増加の相関関係を意識しないといけない。

なお，このキャラクターを都道府県に当てはめる場合，地方中枢都市のキャラクターを有する都道府県は「宮城県（仙台市）」「石川県（金沢市）」「広島県（広島市）」「福岡県（福岡市）」などが該当する。

ワンポイント

人口に関する指標について，特徴的な都道府県をチェックしておこう。

・人口密度・・・人口に比例，面積に反比例。人口上位は東京都，神奈川県，大阪府，愛知県，埼玉県，千葉県，福岡県。面積下位は香川県，大阪府，東京都，沖縄県，神奈川県，埼玉県。

・人口集中地区人口割合（人口集中地区面積割合）・・・「人口集中地区」については深い理解は不要。とにかく人口密度が高い都道府県で高いと考える。

・性比・・・女性100人に対する男性の数。平均寿命が長いため，日本全体では女性の方が多いが，大都市圏や工業地域などでは比較的男性の割合が高い。

この講座においては，都市圏構造や東京大都市圏の形成について，従来の出題傾向に合わせて高度経済成長期から1990年代までのメカニズムについて主に取り上げた。ただし，今後は2000年代以降の新しい都市圏の形に関する出題も増えると予想され，それに対応した考え方が求められる。例えば練習問題［11］では東京都の人口増加率は低い値となっており，従来の都市圏構造の理論を考えた場合，これは正しい。しかし，バブル崩壊による地価下落で都心部の住宅地としての再開発が進み，現在は富裕層の流入などにより人口増加率が極めて高い地域

となっている。一方で，郊外に建設されたニュータウンは経年によって住民の高齢化が進み，現在ではむしろ人口減少地域となっている事例もある。東京大都市圏における過去の姿と現代の姿を比較し，都心部で起きている状況（過密による人口減少→再開発による人口の都心回帰），郊外で起きている状況（ニュータウン建設による若年層の流入→高齢化による人口停滞）も考えてみてほしい。

第16講
東京大都市圏・国内の人口流動［練習問題］

［1］　図2に関して述べた次の文章①～④のうちから，下線部が正しいものを一つ選べ。

（1992年度地理追試験第4問問5）

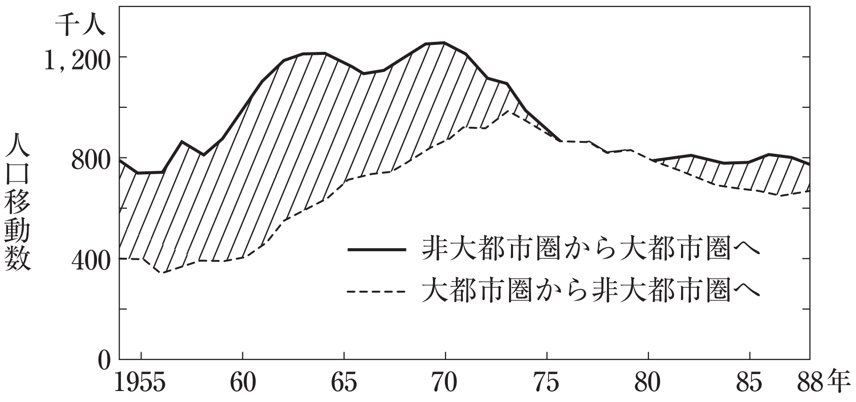


図2

（注）ここでは，都道府県間移動のみを扱っている。また，ここで大都市圏に属するのは，埼玉・千葉・東京・神奈川・岐阜・愛知・三重・京都・大阪・兵庫の10都府県で，それ以外は非大都市圏に属するものとする。1954～72年の期間には，沖縄の数値を含んでいない。

「住民基本台帳人口移動報告年報」による。

①　1950年代中期以降における非大都市圏から大都市圏への大量の人口移動により，農村地域の高齢化問題は解決された。

②　1960年代から1970年代初期における大都市圏から非大都市圏への人口移動の増加の背景には，第1次産業における雇用機会が，非大都市圏で拡大した，という事情があった。

③　1970年代における非大都市圏から大都市圏への人口移動数の減少傾向は，国内から海外への人口移動の増大が主因と考えられる。

④　1980年以降，2本の折れ線の開きが再び拡大する傾向にある。これは，三大都市圏の中でも特に東京圏への一極集中が進んでいるためである。

［2］ 日本における第二次世界大戦後の人口動向について述べた次の文①～④のうちから，**誤っているもの**を一つ選べ。

（1998年度地理Ｂ追試験第２問問３）

① 1960年代における人口移動の多くは，農村から都市への移動であったが，その後，1980年代になると都市間移動も増加した。

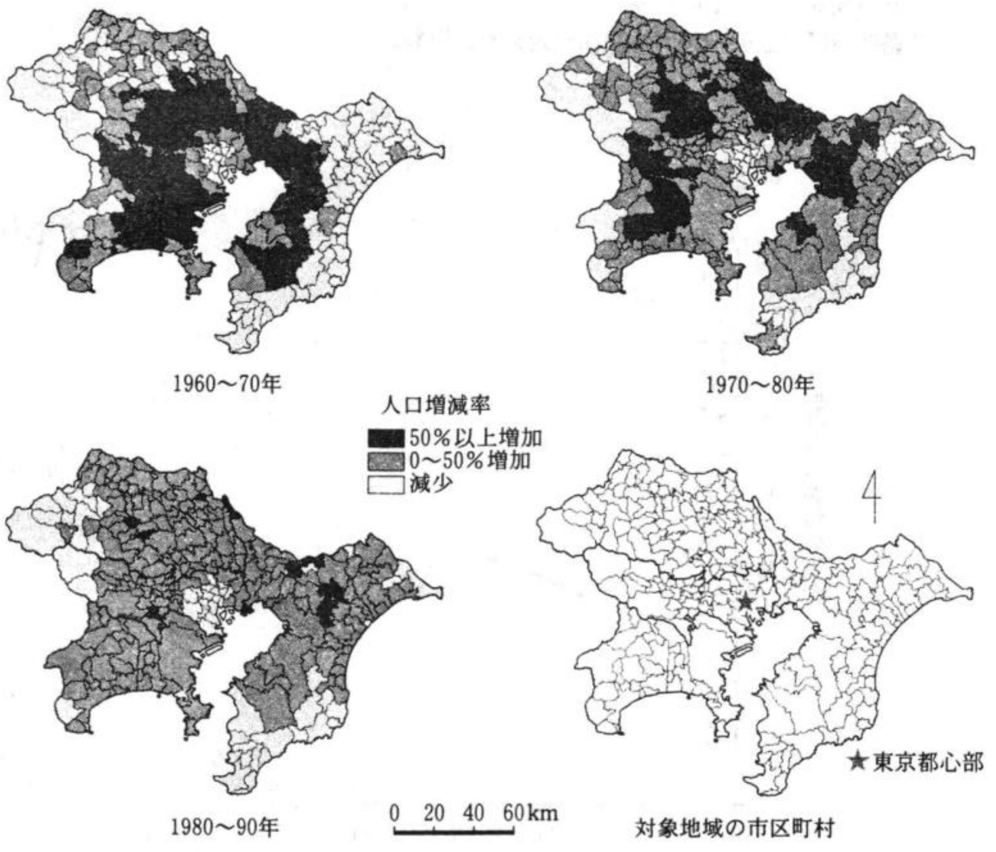
② 高度経済成長期の方が，石油危機以降の低成長期と比べ，移動者数が多く，人口移動が活発であった。

③ 第二次世界大戦直後には，海外から多数の引揚者や軍人が帰国したことに加え，ベビーブームが起きたため，人口が急増した。

④ 人口のＵターン現象は，高度経済成長期の初期にみられたが，現在では，ほとんどみられなくなった。

［３］　次の図３は，1960～1990年の三つの時期における東京圏（島嶼部を除く東京都，神奈川県，埼玉県，千葉県）の市区町村別人口増加率を示したものである。図３について説明した文として**適当でないもの**を，下の①～④のうちから一つ選べ。

（2005年度地理Ｂ本試験第２問問７）



市区町村の境界は1990年のものである。
国勢調査により作成。

図３

① 人口のドーナツ化現象は，1960年代に顕在化していた。

② 東京都心部から30km付近では，1970年代に人口増加率が最も高かった。

③ 人口増加率が50%以上の市区町村の数は，1980年代には減少した。

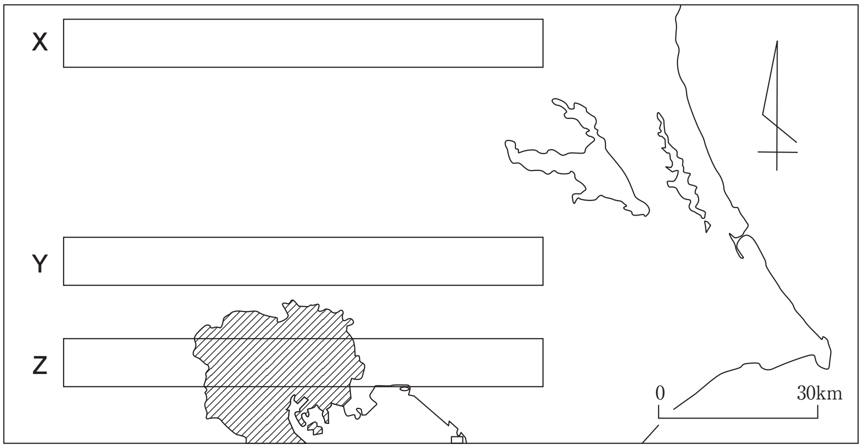
④ 外縁部の市区町村には1960年以降，人口減少が続いているところがある。

［4］　次の図４は，東京大都市圏とその周辺における老年人口率（総人口に占める65歳以上人口の割合）の分布図から，緯度の異なる３つの地帯**サ**～**ス**を切り取って示したものである。地帯**サ**～**ス**の位置は，下の図５中の**X**～**Z**のいずれかである。**X**～**Z**と**サ**～**ス**との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2004年度地理Ｂ本試験第４問問７）

統計年次は2000年。総務省統計局『統計でみる市区町村のすがた』により作成。

図４



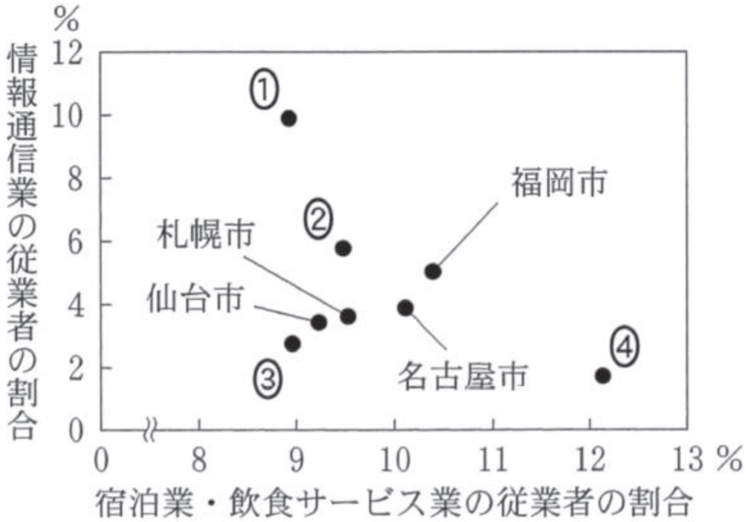
図中の斜線で示した部分は東京特別区部を示す。

図５

	①	②	③	④	⑤	⑥
X	サ	サ	シ	シ	ス	ス
Y	シ	ス	サ	ス	サ	シ
Z	ス	シ	ス	サ	シ	サ

［5］　次の図２は，日本の主要な都市における，全産業従業者に占める宿泊業・飲食サービス業と情報通信業の従業者の割合を示したものであり，①～④は，大阪市，京都市，東京都区部，広島市のいずれかである。東京都区部に該当するものを，図２中の①～④のうちから一つ選べ。

（2019年度地理Ｂ追試験第２問問５）

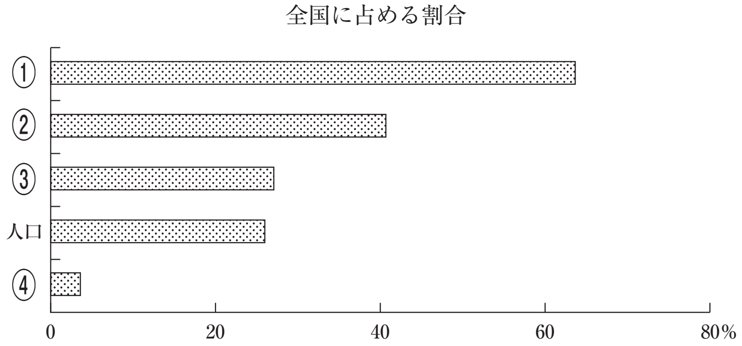


統計年次は2014年。
経済センサスにより作成。

図２

［6］　次の図３は，卸売業年間販売額，小売業年間販売額，情報サービス業年間売上高，人口，面積の五つの指標について，全国に占める東京圏の割合を示したものである。卸売業年間販売額に該当するものを，図３中の①～④のうちから一つ選べ。

（1999年度地理Ｂ本試験第３問問７）



東京圏とは，東京都，埼玉県，千葉県，神奈川県を指す。
統計年次は，人口，面積は1995年，その他は1994年。
『データでみる県勢』により作成。

図３

［7］　地方の中枢的な都市の一つである仙台市と，東北地方のほかの県庁所在都市を比較したとき，仙台市の特徴を述べたものとして**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。

（2000年度地理Ｂ追試験第１問問１）

①　中央官庁の出先機関の数が多い。
②　大企業の支店の数が多い。
③　総就業者数に占める製造業就業者数の割合が高い。
④　商業販売額に占める卸売販売額の割合が高い。

［8］　日本の三大都市圏内にある都市，地方の工業都市，地方の中心都市の人口増加率などについて，次の表１を作成した。表中のＸ・Ｙ・Ｚは，仙台・千葉・北九州のいずれかである。Ｘ・Ｙ・Ｚの組合せとして適当なものを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（1990年度地理本試験第４問問５）

表１

都市名	人口増加率（＊）（％）	常住人口に対する通勤･通学者の割合（％）		産業別就業人口の構成比（＊＊）	
		他市町村からの通勤・通学	他市町村への通勤・通学	製造業	卸・小売業
福岡	6.6	16.9	3.9	9.1	35.2
Ｘ	5.7	15.3	21.5	15.8	26.8
Ｙ	5.3	18.8	3.8	8.9	34.1
堺	1.0	12.5	22.3	30.1	24.3
Ｚ	－0.8	7.8	2.9	21.4	26.1
尼崎	－2.8	16.8	22.4	34.6	21.9

（＊）は1980年から1985年の間の増加率　（＊＊）は従業地による。「昭和60年国勢調査報告」による。

	①	②	③	④	⑤	⑥
Ｘ	仙台	仙台	千葉	千葉	北九州	北九州
Ｙ	千葉	北九州	北九州	仙台	仙台	千葉
Ｚ	北九州	千葉	仙台	北九州	千葉	仙台

［9］　次の表２は，日本国内のある町の農業構造の変化を示したものである。表２を参考にしながら，この町の説明として正しいものを，下の文①～④のうちから一つ選べ。

（1997年度地理Ｂ追試験第２問問５）

表２

年次（年）			1960	1975	1990
人口（人）			27583	28120	29952
農家数（戸）			2564	2159	1382
農家の構成比（%）	専業		45.6	20.7	29.5
	第１種兼業		30.6	27.0	31.8
	第２種兼業		23.8	52.3	38.7
農業粗生産額（千万円）			82	439	575
	構成比（%）	米	24.7	11.6	6.1
		野菜	15.1	48.5	79.5
		養蚕	32.0	10.2	0.9
		畜産	14.9	27.0	9.0
		その他	13.3	2.7	4.5

「世界農林業センサス」などによる。

①　青森県の津軽平野に位置するこの町では，米が著しく減少していることから，米の生産調整により減反が強力に推進されたと考えられる。

②　群馬県の南部に位置するこの町では，養蚕が減少し野菜が著しく増加していることから，大都市圏の拡大により近郊農業地域に変貌したと考えられる。

③　島根県の中国山地に位置するこの町では，農家数が著しく減少していることから，過疎化により農業基盤が弱体化したと考えられる。

④　長野県の白馬岳東麓に位置するこの町では，1975～1990年に専業農家の割合が増えていることから，都市のサラリーマンが農業を始めるため多く転入してきたと考えられる。

［10］　次の表１中のＡ・Ｂ・Ｃは，秋田・千葉・沖縄の３県のいずれかに関する性比・自然増加率・社会増加率を示したものである。Ａ・Ｂ・Ｃに該当する県名の組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（1992年度地理本試験第３問問２）

表１

	性比（＊）	自然増加率	社会増加率
A	91.10	0.16	− 0.59
B	97.42	1.12	− 0.19
C	101.53	0.56	1.19

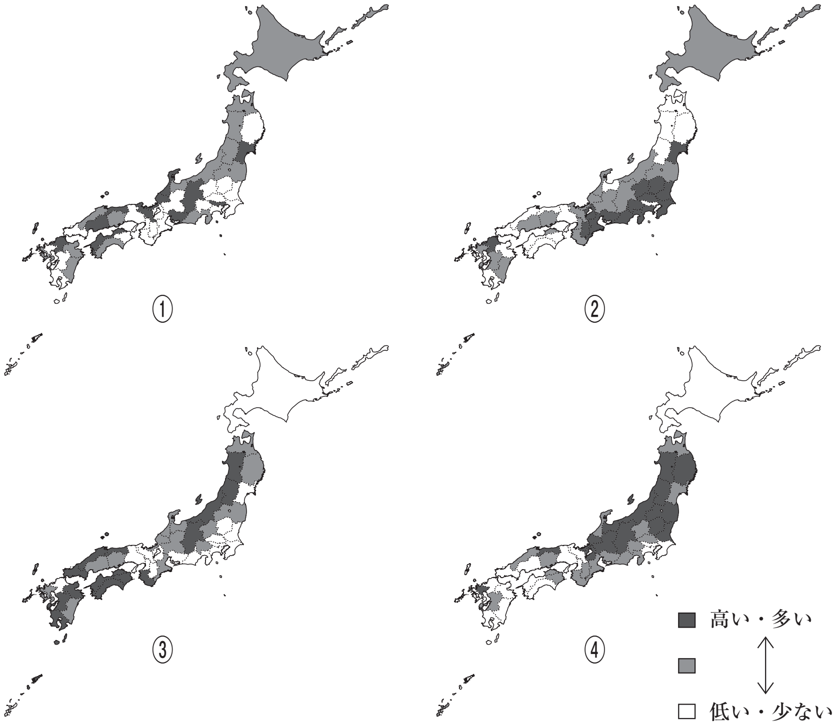
（＊）女100人に対する男の人数。

統計年次は，自然増加率・社会増加率が1987年10月～88年９月，性比が1988年10月１日現在。「日本国勢図会」による。

	①	②	③	④	⑤	⑥
A	秋田	秋田	千葉	千葉	沖縄	沖縄
B	千葉	沖縄	秋田	沖縄	秋田	千葉
C	沖縄	千葉	沖縄	秋田	千葉	秋田

［11］　おじの家では，祖父母も同居しており，集落内に老人が多いことに気づいた。次の図３は，都道府県別の人口増加率（1990～1995年），昼夜間人口比（昼間人口÷夜間人口），平均世帯人員，老年人口率（65歳以上人口比率）のいずれかである。老年人口率に該当するものを，図３中の①～④のうちから一つ選べ。

（2001年度地理Ｂ本試験第５問問４）



統計年次は1995年。国勢調査により作成。

図３

第 16 講
東京大都市圏・国内の人口流動［確認問題］

［１］ 大都市圏の内部では，人口分布の時系列変化に一定のパターンがみられる。次の図５は，島嶼(とうしょ)部を除く東京都における 2010 年の市区町村と 1925 年の人口密集地（＊）を示したものである。また，下の表１中のサ～スは，図５中のＡ～Ｃのいずれかの市区町村における 1925 ～ 1930 年，1965 ～ 1970 年，2005 ～ 2010 年の人口増加率を示したものである。Ａ～Ｃとサ～スとの正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（＊）1925 年時点の市区町村のうち，人口密度が 4,000 人 /km²以上のもの。

（2021 年度地理Ｂ本試験第３問問４）

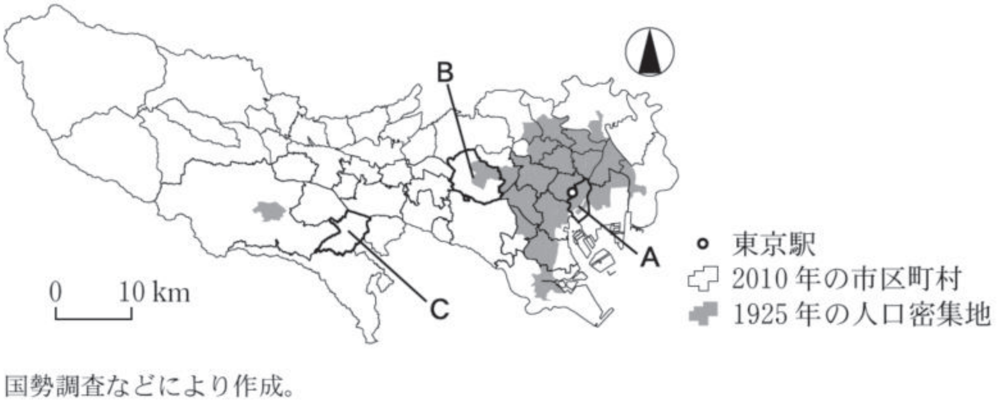


図５

表１

（単位：%）

	1925 ～ 1930 年	1965 ～ 1970 年	2005 ～ 2010 年
サ	103.9	3.0	4.0
シ	6.3	− 18.9	24.8
ス	2.6	65.3	1.2

国勢調査により作成。

	①	②	③	④	⑤	⑥
Ａ	サ	サ	シ	シ	ス	ス
Ｂ	シ	ス	サ	ス	サ	シ
Ｃ	ス	シ	ス	サ	シ	サ

［２］　都市は，その立地や機能により異なる特徴を有する。次の表１は，日本のいくつかの都市について銀行本・支店数，第２次産業就業者の割合，昼夜間人口指数（＊）を示したものであり，**カ〜ク**は仙台市，千葉市，浜松市のいずれかである。表１中の**カ〜ク**と都市名との正しい組合せを，下の①〜⑥のうちから一つ選べ。

（＊）昼間人口÷夜間人口×100

（2009年度地理Ｂ本試験第４問問５）

表１

	銀行本・支店数（店）	第２次産業就業者の割合（％）	昼夜間人口指数
カ	208	15.3	107.7
キ	104	19.2	97.2
ク	76	37.0	100.7

統計年次は，銀行本･支店数が2008年，第２次産業就業者の割合と昼夜間人口指数が2005年。
国勢調査などにより作成。

	カ	**キ**	**ク**
①	仙台市	千葉市	浜松市
②	仙台市	浜松市	千葉市
③	千葉市	仙台市	浜松市
④	千葉市	浜松市	仙台市
⑤	浜松市	仙台市	千葉市
⑥	浜松市	千葉市	仙台市

［3］　都市の内部は，社会・経済的に多様である。次の図２は，札幌市中心部を含む20万分の１地勢図（原寸）であり，次ページの図３中の**サ**〜**ス**は，図２の範囲における人口密度，地価，老年人口率のいずれかの指標を表したものである。**サ**〜**ス**と指標との正しい組合せを，下の①〜⑥のうちから一つ選べ。

（2007年度地理Ｂ本試験第３問問６）

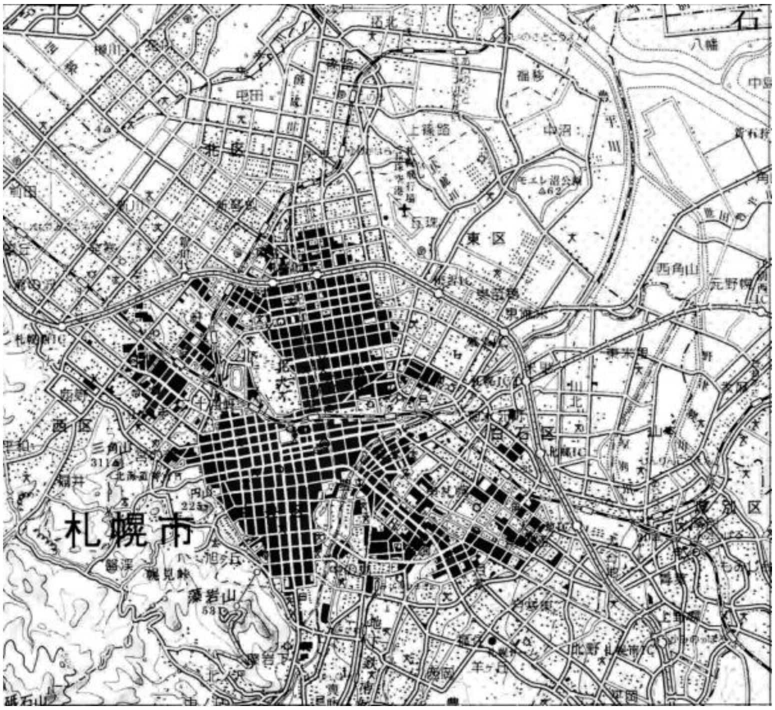
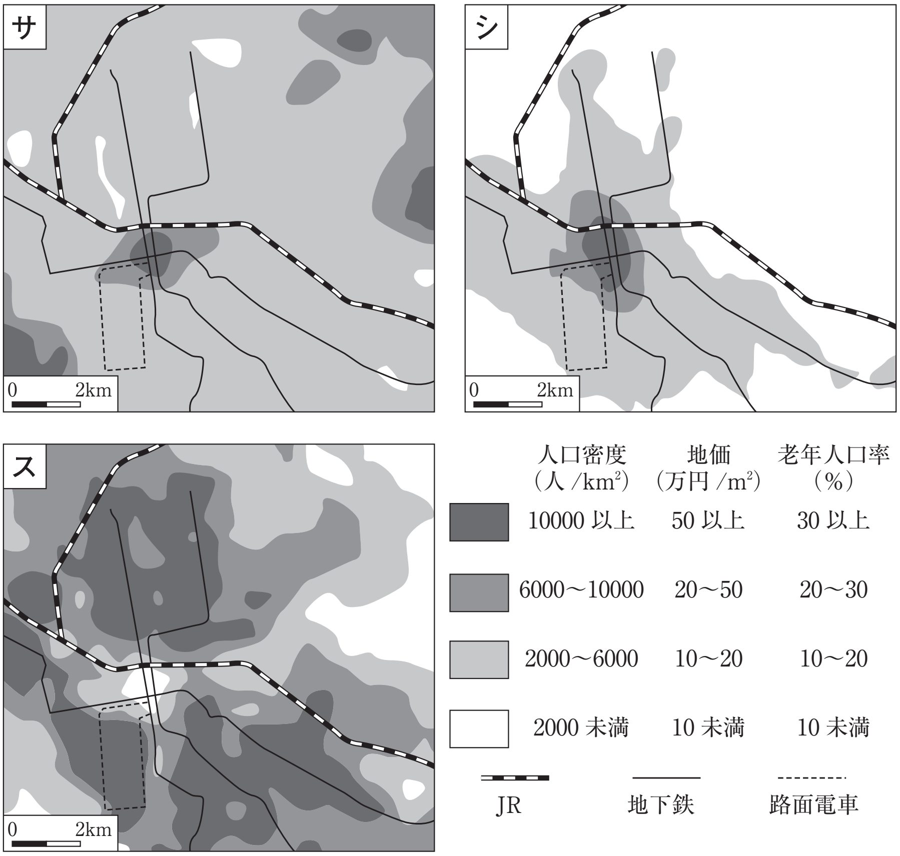


図２



統計年次は 2000 年。
国勢調査などにより作成。

図３

	サ	シ	ス
①	人口密度	地価	老年人口率
②	人口密度	老年人口率	地価
③	地価	人口密度	老年人口率
④	地価	老年人口率	人口密度
⑤	老年人口率	人口密度	地価
⑥	老年人口率	地価	人口密度

［４］　次の図１は，日本の三大都市圏(東京圏(＊)，名古屋圏(＊＊)，大阪圏(＊＊＊))の転入超過数(＊＊＊＊)の推移を示したものである。図１から読み取れることがらとその背景について述べた下の文章中の下線部①～④のうちから，**適当でないもの**を一つ選べ。

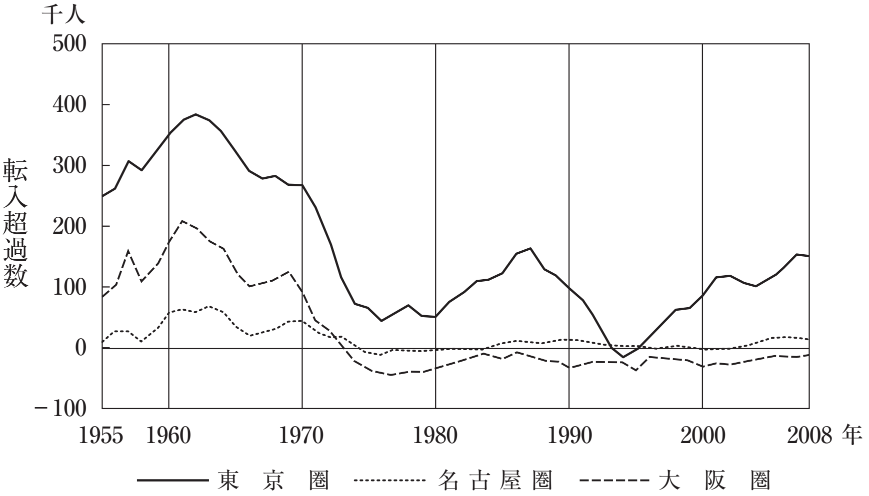
(＊)東京都，神奈川県，埼玉県，千葉県。

(＊＊)愛知県，岐阜県，三重県。

(＊＊＊)大阪府，兵庫県，京都府，奈良県。

(＊＊＊＊)転入者数から転出者数を引いたもの。

(2012年度地理Ｂ追試験第３問問３)



『住民基本台帳人口移動報告年報』により作成。

図１

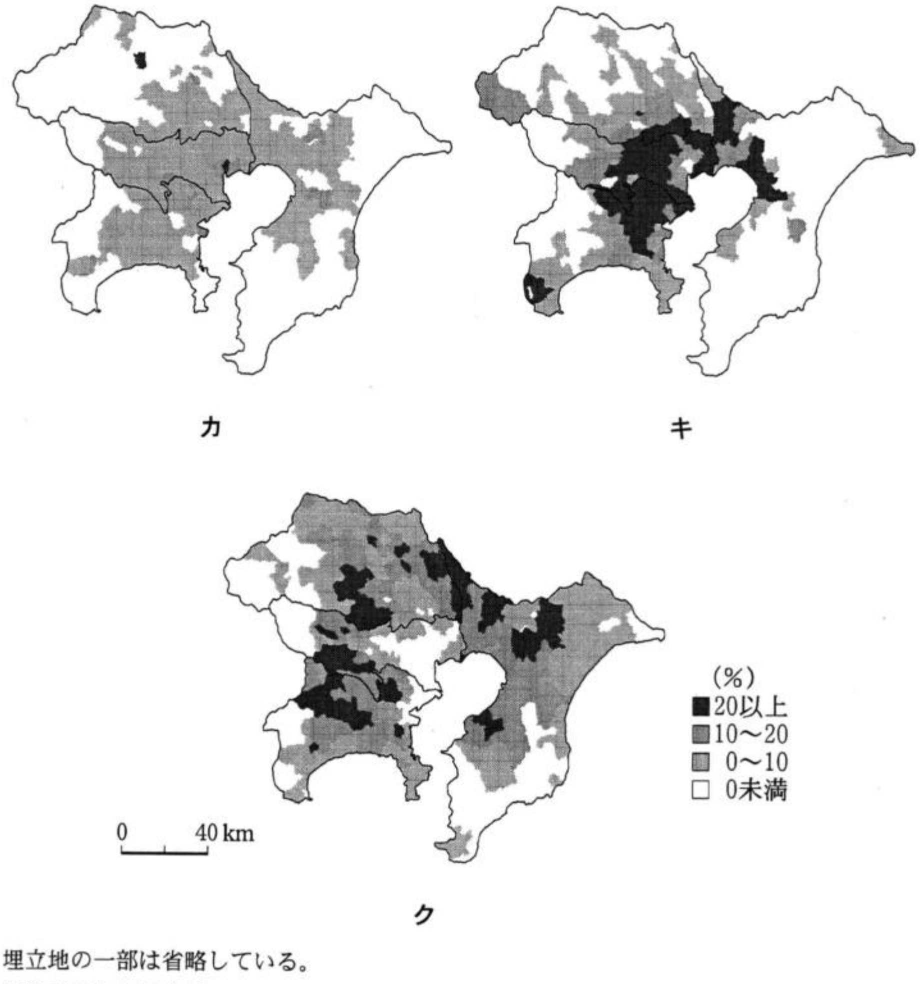
1950年代後半から1960年代には，①労働力需要の増大により，東京圏，名古屋圏，大阪圏の三大都市圏への大幅な転入超過がみられた。こうした転入超過により，東京圏から大阪圏にかけての地域には，多くの大都市・中都市が帯状に分布することになった。これを②東海道メガロポリスとよぶこともある。1970年代後半になると，③大企業による本社機能の地方都市への移転が活発化したことにともない，三大都市圏への人口集中は弱まった。1980年代や，1990年代後半から2000年代には，東京圏のみが大幅な転入超過を示すようになってきた。これは，④経済のグローバル化にともない，東京が世界都市になってきたこととも関連している。

［５］　次の図２は，いくつかの時期における東京圏（＊）（東京都，神奈川県，埼玉県，千葉県）の市区町村別人口増加率（＊＊）を示したものであり，**カ〜ク**は，1955〜1960年，1975〜1980年，2000〜2005年のいずれかである。**カ〜ク**と時期との正しい組合せを，次の①〜⑥のうちから一つ選べ。

（＊）離島は除く。

（＊＊）人口増加率は５年間の増加率を示す。

（2012年度地理Ｂ追試験第３問問４）



埋立地の一部は省略している。
国勢調査により作成。

図２

	①	②	③	④	⑤	⑥
1955～1960年	カ	カ	キ	キ	ク	ク
1975～1980年	キ	ク	カ	ク	カ	キ
2000～2005年	ク	キ	ク	カ	キ	カ

［6］　マミさんは，広島市の産業の特徴を明らかにするために，中国・四国地方の主要都市として位置づけられる岡山市，高松市，松山市と広島市とを比較した。次の表１は，それぞれの都市の１人当たりの卸売業年間商品販売額，１人当たりの製造品出荷額，農業産出額を示している。広島市に該当するものを，表１中の①～④のうちから一つ選べ。

（2008年度地理Ｂ本試験第６問問５）

表１

	１人当たりの卸売業年間販売額（万円）	１人当たりの製造品出荷額（万円）	農業産出額（千万円）
①	583.3	156.4	648
②	217.2	77.5	1969
③	516.5	100.7	1262
④	336.9	116.6	2127

統計年次は2004年。

商業統計，工業統計，農林水産統計などにより作成。

〈 ***Note*** 〉

第17講
先進国と発展途上国の都市

世界の大都市の多くではスラムが形成されている。先進国の場合は都心近くにスラムがみられ，発展途上国の場合は都市周辺へと拡大する。先進国の大都市では再開発も進む。とくにロンドンのドックランズ地区は港湾施設の荒廃が深刻だった地域であるが，再開発によって新たな街区へと再生した。

１７．１　先進国の都市と発展途上国の都市との性格の違い

先進国では国内に多くの大都市が形成されるのに対し，発展途上国では特定の大都市のみに人口が集中する傾向が強い。この例として，タイのバンコク，インドのコルカタ・ムンバイ，ナイジェリアのラゴス，メキシコのメキシコシティ，ブラジルのリオデジャネイロ・サンパウロがある。

１７．２　プライメートシティ

発展途上国においては国内にたった一つの巨大都市が形成されることがあり，それをプライメートシティ（首位都市）という。タイのバンコクのように首都とプライメートシティが一致する例もあるが，ナイジェリアのラゴスのように首都ではない場合もある。

なお，インドやブラジルなど面積や人口の規模が大きい国については，国内に複数の巨大都市が成立する可能性があり，それらはプライメートシティとはよばれないが，人口が過度に集中するなど性格は共通する。

＜チェック！＞

首都が人口最大都市ではない国も多い。面積上位７カ国のうち，ロシア以外の６カ国は全て人口最大都市が首都ではない。また，非常に重要な都市としてトルコのイスタンブールがある。アジアとヨーロッパにまたがる海峡の都市であり，人口は1000万人を超える。かつて東ローマ帝国の都であったなど，歴史的にも重要。しかしトルコの首都は国土中央部の高原に位置するアンカラであり，人口規模はさほど多くない。

１７．３　スラム（不良住宅地区）

日本以外のほとんどの国の大都市ではスラムとよばれる不良住宅地区が，先進国ならば都心付近に，発展途上国ならば都市周辺に，それぞれみられる。経済レベルの低い地域から，経済レベルの高い大都市へと人口が流入するが，都市にも十分な雇用はなく，貧しい人々はスラムへと住み着く。

＜チェック！＞

スラムの形成される位置に注意。「先進国は都心部，発展途上国は都市周辺，日本は無し」である。先進国では，成立年代の古い都心近くの地域が老朽化・荒廃し，富裕層が郊外へ流出した後から，移民や有色人種などの貧困層が流入してくる。発展途上国では，農村から都市への人口流入の勢いがとくに大きく，経済的に収容しきれなくなった人口が都市の周囲へと「はみ出して」いく。

１７．４　先進国の大都市における少数民族の問題

先進国の大都市では都心部がスラム化しているが，このエリアには少数民族や移民が流入し，多くの民族が混在することによってさまざまな問題も生じている。ヨーロッパ諸国における旧植民地からの人口流入が代表的なものだが，他にもドイツのトルコ人や，アメリカ合衆国のヒスパニックや黒人の例がある。先進国のスラムは少数民族地区となっている場合が多い。

［知っておこう］

先進国の都心部においてスラム化が進行することを「インナーシティ問題」という。広義では日本のドーナツ化現象もインナーシティ問題に含める場合もあるが，共通テスト地理においては日本の事例は考慮しない方がいい。日本の大都市において都心部で人口が減少するのは地価が高いからであり，オフィスや商業施設などは逆に都心部に集中する。一方，欧米の大都市で都心部がスラム化するのは，建物やインフラ（都市施設）の老朽化や荒廃であり，人口だけでなく産業も流出する。

１７．５　発展途上国の大都市の急激な人口増加と都市問題の発生

発展途上国は一般的に都市人口率は低いが，特定の都市のみに人口が集中し大規模化する傾向が強い。ただし，都市インフラは整備されておらず，失業率も高い。貧富の格差は大きく，都心付近に高級住宅地がみられる一方，郊外には巨大なスラムが形成されている。また発展途上国の大都市は先進国以上に交通渋滞や大気汚染などの都市問題が発生している。

１７．６　都市再開発の具体的事例

先進国の大都市においては都心部にスラムがみられ，さまざまな問題が生じている（インナーシティ問題）。そのため，現在は再開発によって，新たな街区へと再生する例も多い。スラムが取り払われ，オフィスビルや商業施設，マンションなどの建設が進む。高所得者が流入し，都市が活性化される（高級住宅地化；ジェントリフィケーション）。ただし，家賃上昇によってかつての住民が住居を失うなどの問題も生じている。

１７．７　ロンドンの開発と再開発

ロンドンについては，古い時代に行われた「開発」と現在行われている「再開発」を区別して考えないといけない。

［開発］・・・大ロンドン計画。20世紀中頃から行われた都市開発で，ハワードの提唱した田園都市構想に基づく。ロンドンの郊外にニュータウンを建設し，ロンドンの過密な人口の分散が図られた。市街地の周囲を緑地帯（グリーンベルト）で囲み，市街地の無秩序な拡大を防ぐ。なお，これらのニュータウンは都市内にオフィスや工場などを設け，職住近接が実現している。日本のニュータウンは職住分離。

［再開発］・・・ドックランズ再開発。20世紀末から現在。旧港湾地区でインナーシティ問題が生じていたドックランズを再開発。近代的な街区へ生まれ変わった。

<チェック！>

イギリスは港湾を中心に発達した都市である。テムズ川のエスチュアリー（三角江）に面する。エスチュアリーとは，河口が沈降して形成されたラッパ状の入り江で，水深が十分であり天然の良港となる。

普通，港湾に適する十分な水深を持った海岸は斜面（山地）を付随することが多く，平野が限られるため，都市の発達は限定的となる。しかしエスチュアリーの場合は，広い平野との組合せとなり，「大都市＋巨大港湾」が成立する。ロンドンがそれに該当する。

ロンドン以外の例としては，エルベ川河口のハンブルク（ドイツ），ラプラタ川河口のブエノスアイレス（アルゼンチン）など。

[知っておこう]

パリの事例を知っておくこと。パリは中心市街地の再開発が制限されている点でロンドンと異なる。パリはセーヌ川の川中島であるシテ島に建設された砦を起源とする都市。周囲には防御用の囲郭（城壁）も建設されていた（現在は解体）。街路区画は複雑で，細かく入り組んでいるが，そうした街区や建造物・街並みは歴史的に貴重なもので，保全されている。現在は郊外のラ・デファンス地区に副都心が建設され，都市機能の一部が移転している。

１７．８　都市の形態

・日本の都市・・・平城京や平安京など，碁盤目状の街路区画。中国の古代都市を参考にしている。しかし城壁（城郭）は持たない。

・中国の都市・・・長安（現在のシーアン）など。碁盤目状の街路区画。城壁を有していた。

・ヨーロッパの都市・・・古い時代に形成された街路は複雑な形状を持つ。城壁を有していた。

・アメリカ合衆国の都市・・・都心部に高層ビルが集中。郊外は広い一戸建て。

ワンポイント

都市を機能別に分類した場合，とくに重要であるのは政治都市。キャンベラやワシントンＤ.Ｃ.など計画的に建設されたもの，オタワやアンカラなどそうでないものなどあるが，人口規模が決して大きくない点は共通している。

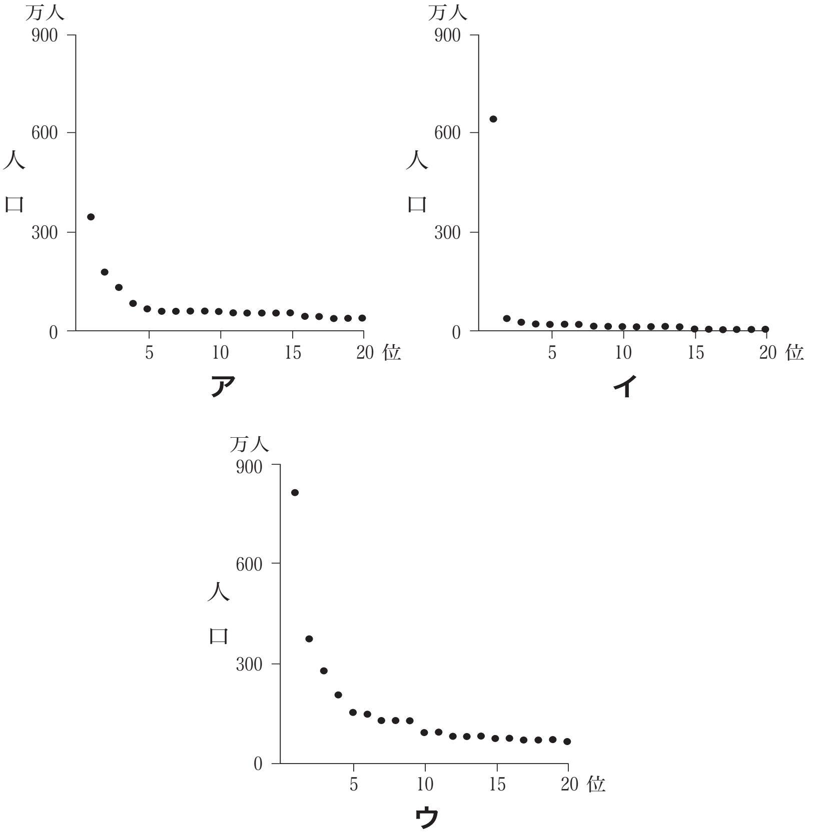
国	人口が大きな都市	首都（政治都市）	特徴
トルコ	イスタンブール	アンカラ	国土中央部の高原上に位置。
ナイジェリア	ラゴス	アブジャ	主要３部族の分布域の中間である内陸部。開発の拠点でもある。
カナダ	トロント・モントリオール	オタワ	英語圏とフランス語圏の境界に位置。
アメリカ合衆国	ニューヨーク	ワシントンD.C.	計画的に建設された街路網。放射直交型。
ブラジル	サンパウロ・リオデジャネイロ	ブラジリア	内陸部の高原に建設。開発の拠点でもある。計画的に建設された街路網を持つ。飛行機が翼を広げたような形状。
オーストラリア	シドニー・メルボルン	キャンベラ	主要な２都市の間の山間部に建設。計画的に建設された街路網。放射環状型。

計画的に開発された規則的な街路構造をもっているのが，キャンベラ，ワシントン，ブラジリア。キャンベラは放射同心円状の街路を持ついくつかのエリアが，太い幹線道路によって結ばれている。ワシントンは放射状の街路と碁盤目状の街路が組み合わされた放射直交路型。ブラジルは，大きな鳥あるいは飛行機が大きく翼を広げたような独特の形状。

第 17 講
先進国と発展途上国の都市［練習問題］

［**1**］　次の図**1**中の**ア**～**ウ**は，アメリカ合衆国，タイ，ドイツのいずれかの国における上位20位までの都市人口を示したものである。**ア**～**ウ**と国名との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2007年度地理Ｂ本試験第３問問２）



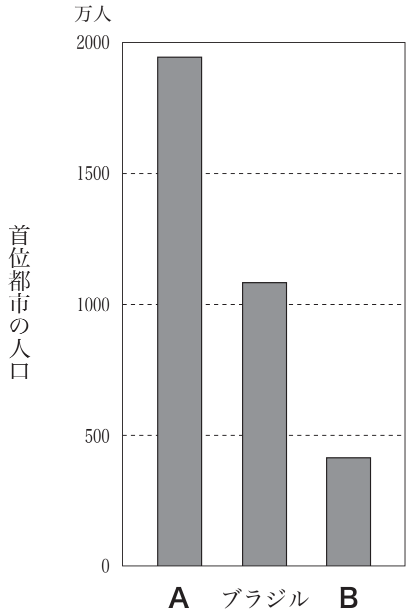
統計年次は，アメリカ合衆国とドイツが2003年，タイが2000年。
National Statistical Office Thailand の資料などにより作成。

図 **1**

	①	②	③	④	⑤	⑥
アメリカ合衆国	ア	ア	イ	イ	ウ	ウ
タイ	イ	ウ	ア	ウ	ア	イ
ドイツ	ウ	イ	ウ	ア	イ	ア

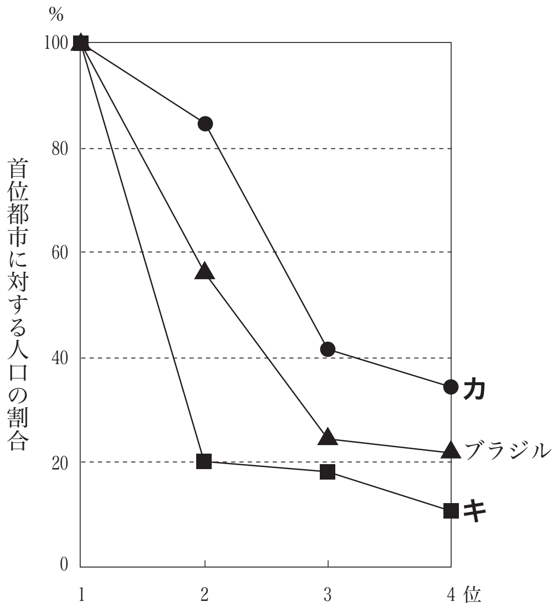
［2］　次の図１は，オーストラリア，ブラジル，メキシコにおける首位都市の人口を示したものであり，図２は，３か国における人口の上位４位までの都市について，各国の首位都市に対する人口の割合を示したものである。図１中の**A**と**B**，図２中の**カ**と**キ**は，オーストラリアまたはメキシコのいずれかである。メキシコに該当する正しい組合せを，下の①～④のうちから一つ選べ。

（2009年度地理Ｂ追試験第４問問３）



首位都市の人口は，市域人口と郊外人口の合計。
統計年次は2003年。
『世界国勢図会』により作成。

図１



各都市の人口は，市域人口と郊外人口の合計。
統計年次は2003年。
『世界国勢図会』により作成。

図２

	①	②	③	④
首位都市の人口	A	A	B	B
首位都市に対する人口の割合	カ	キ	カ	キ

［3］　アフリカや南アメリカの発展途上国では，農村から都市への急激な人口移動がみられた。その原因を述べた文として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。

（1999年度地理Ａ本試験第３問問３）

① 都市地域では，経済開発のための投資が重点的に行われてきた。

② 都市地域では，急速な工業化のために慢性的に労働者が不足している。

③ 農村地域では，都市からの情報の流入により都市生活へのあこがれが広がった。

④ 農村地域では，急激な人口増加に比べて就業機会が不足している。

［4］ ブラジル国内でも日本と同様に農村から都市への人口移動が問題になっているが，異なる点も多い。両国の相違点を述べた文として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。

（1999年度地理Ｂ追試験第２問問５）

① 都市へ流出する農民は，ブラジルでは小作農や農業労働者が多いが，日本では自作農が大部分である。

② 都市への人口流入によってブラジルではスラムの拡大が生じているが，日本ではそのような現象はほとんどみられない。

③ 家族で都市に移り住んだ場合，ブラジルでは子供も働くことが多いが，日本ではそのような現象はみられない。

④ 都市への流出者の年齢構成は，ブラジルでは高齢者に偏っているが，日本では若年層が中心である。

［5］ 次の文①～⑤のうちから，**誤っているもの**を一つ選べ。

（1989年度地理本試験第４問問３）

① アメリカ合衆国の大都市の旧市街の中には，建物が老朽化し，問題になっているところがある。

② 日本の大都市の都心部には，夜間人口（常住人口）が減少し，地価が郊外に比べ低くなっているところが多い。

③ 発展途上国の大都市においては，自動車の急増に道路網や交通諸施設の整備が追いつかず，深刻な交通問題に悩んでいるところが多い。

④ 日本の大都市の周辺で市街地が無秩序に拡大するスプロール現象は，都市施設の整備の面にも，農業に対しても，さまざまな影響を及ぼしている。

⑤　発展途上国の大都市においては，職を求めて多数の人々が流入し，劣悪な環境の住宅地が急速に拡大して，大きな問題となっている。

［6］　世界の都市問題について述べた文として適当なものを，次の①～⑤のうちから二つ選べ。ただし，解答の順序は問わない。

（1999年度地理Ａ本試験第３問問２）

①　発展途上国の急成長する大都市では，公共交通機関や道路の整備が遅れていることもあり，交通渋滞や排気ガスによる大気汚染が深刻である。

②　先進国では市場経済を原則としているので，大都市郊外のスプロール化を防ぐための土地利用規制は行われない。

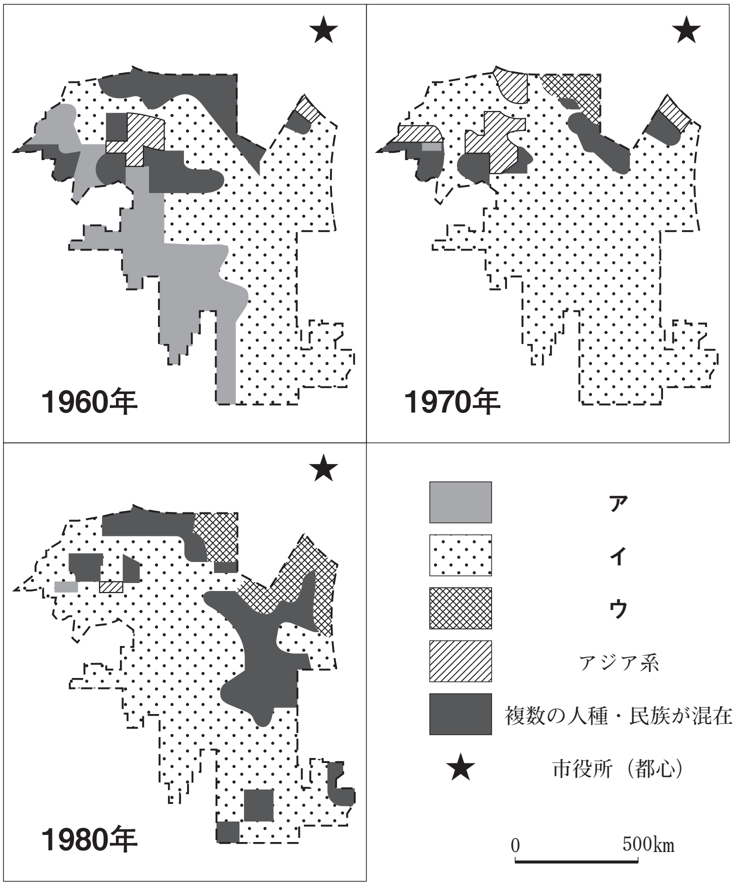
③　発展途上国の首位都市の多くでは，過密問題が深刻になったため，人口が減少しはじめている。

④　先進国でも発展途上国でも，不良住宅地区の再開発後の家賃上昇により，再開発前の住民が住めなくなる場合がある。

⑤　先進国でも発展途上国でも，不良住宅地区が形成されているのは，主にインナーシティである。

［7］　北アメリカでは，都市内に居住する複数の人種・民族間の摩擦も，都市問題の一つである。次の図**1**は，ロサンゼルス市中心部のある地区における，1960年，1970年，1980年の人種・民族分布を示したものである。図**1**中の凡例の**ア**～**ウ**は，黒人，白人，ヒスパニックのいずれかである。次の説明文の参考にして，**ア**～**ウ**に該当する人種・民族の組合せとして正しいものを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（1999年度地理Ａ本試験第３問問４）



Johnson and Oliver（1989）の図を一部改変。

図１

［説明文］

1960年の**ア**の居住地区のほとんどが，1970年になると，**イ**の居住地区に取って代わられた。その後，新しく大量の**ウ**の移民が流入し，都心周辺に住むようになった。1980年になると，それまでのアジア系の居住地区は，**イ**や**ウ**の居住地区になるか混住化した。

	①	②	③	④	⑤	⑥
ア	黒人	黒人	白人	白人	ヒスパニック	ヒスパニック
イ	白人	ヒスパニック	黒人	ヒスパニック	黒人	白人
ウ	ヒスパニック	白人	ヒスパニック	黒人	白人	黒人

［8］　世界的な大都市の多くでは，人種・民族の分布に特徴がみられる。次の図**3**は，ロサンゼルスにおけるいくつかの人種・民族の居住地(＊)を示したものであり，①～④はアジア系，黒人，白人，ヒスパニックのいずれかである。それぞれの人種・民族の居住の特徴を説明した次の文を読んで，ヒスパニックに該当するものを，図**3**中の①～④のうちから一つ選べ。

(＊)居住地は各人種・民族が各統計区の人口の50％以上を占める範囲。

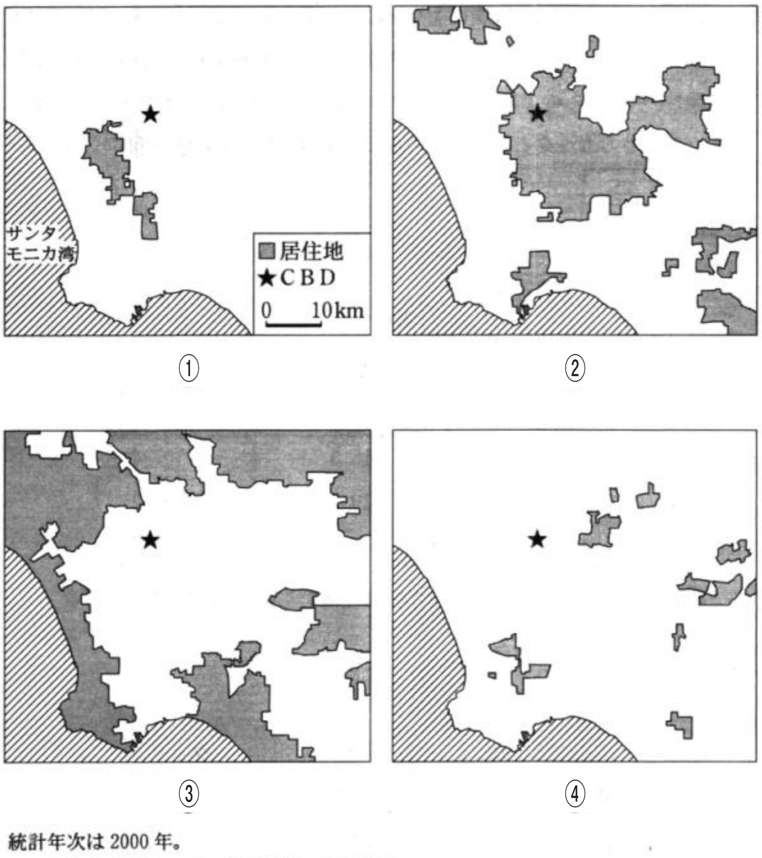
(2009年度地理Ｂ本試験第４問問４)

アジア系　かつては都心に隣接して多く居住していたが，所得水準の向上を背景に居住地の郊外化が進んでいる。

黒人　低所得を背景に，かつては都心部に多く居住していたが，新たな移民の流入により，その居住地は縮小している。

白人　高所得を背景に，人口密度の低い戸建て住宅地区に多く居住している。

ヒスパニック　1970年代以降の人口増加と低所得を背景に，家賃や通勤などの経済的負担の少ない地区への居住が拡大している。

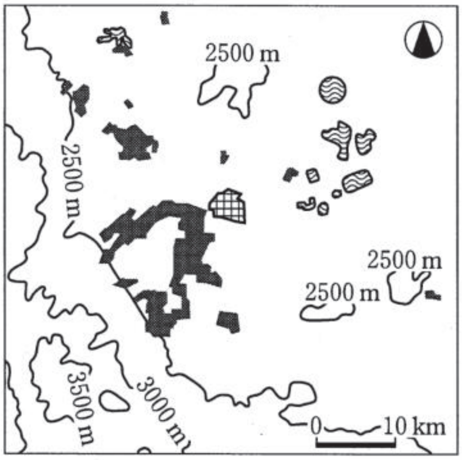


統計年次は2000年。
アメリカ合衆国センサス局の資料により作成。

図**3**

［９］　メキシコシティには農村から大量の人口が流入し，不良住宅地（スラム）が形成されている。次の図１中の①～④は，メキシコシティにおける高級住宅地，中級住宅地，低級住宅地，不良住宅地のいずれかの分布を示したものである。不良住宅地に該当するものを，図１中の①～④のうちから一つ選べ。

（2013年度地理Ｂ本試験第３問問４）

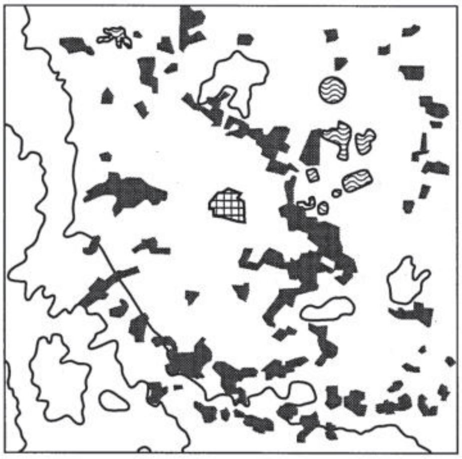


中心業務地区の南西部に比較的まとまって分布している。

①

中心業務地区を囲むように，平坦地に広く分布している。

②



都市外縁部の平坦地や斜面に広く分布している。

③

都市最縁辺部の低湿地周辺や斜面に多く分布している。

④

■ 住宅地　≋ 湿地・水辺　▦ 中心業務地区

Diercke Weltatlas, 2002 により作成。図１

［10］　世界の都市・居住に関する社会問題について述べた文として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。

（2009年度地理Ｂ追試験第６問問５）

①　メキシコシティでは，人口増加にともなう深刻な住宅不足により，生活環境の悪化が社会問題になっている。

②　ラゴス［ナイジェリア］では，爆発的な人口増加や異なる民族の間での対立により，治安の悪化が社会問題となっている。

③　ロサンゼルスでは，不法入国者や低所得者層の増加により，都心部に隣接した地区において高い失業率や犯罪の増加が社会問題となっている。

④　ロンドンのドックランズでは，都市再開発にともなう地価高騰により，インナーシティ問題が社会問題となっている。

［11］　大都市の不良住宅地区における近年の変化について述べた文として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

（2005年度地理Ｂ追試験第４問問７）

①　ニューヨークでは，近年のコミュニティ活動などにより，観光地としての魅力をもつ街区も現れている。

②　メキシコシティでは，継続的な改良事業により，国際的な先端産業地区に変わっている。

③　ヨハネスバーグでは，人種隔離政策（アパルトヘイト）の撤廃により，中心業務地区に変わっている。

④　ロンドンでは，大規模な再開発事業により，グリーンベルトに変わっている。

[12]　都市再開発事業について述べた次の文①～④のうちから，**誤っているもの**を一つ選べ。

（1998年度地理Ｂ追試験第３問問４）

①　北九州では，操業を縮小した製鉄所の敷地に，地域活性化の拠点としてレジャーランドが建設された。

②　ニューヨークでは，低所得者層の居住比率が高い地区で，彼らの就業機会を増やすため，大規模な工場の建設が進んだ。

③　パリでは，都市中心部の景観を保存しつつ，集中する都市機能を分散させるため，市街地の外縁部に新しい副都心を建設した。

④　ロンドンでは，かつて船舶に関する施設や倉庫群があった地区で，オフィスビルやレジャー施設，集合住宅などの建設が進んだ。

[13]　世界の都市の特徴について述べた文として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

（2011年度地理Ｂ本試験第３問問４）

①　シドニーでは，白人に次いで黒人の居住割合が高く，中心市街地に黒人居住区が形成されている。

②　パリでは，伝統的な建物が取り壊された都心の旧市街地に，高層ビルの林立する大規模なオフィス地区が新たに形成されている。

③　メキシコシティでは，所得による住み分けがみられ，市街地を取りまく山地の斜面には高級住宅地が広範囲に形成されている。

④　リオデジャネイロでは，農村部から流入する人々が多く，十分な収入を得ることができない人もおり，不良住宅地区が形成されている。

第17講
先進国と発展途上国の都市［確認問題］

［１］　次の図３は，アメリカ合衆国のフィラデルフィア都市圏とメキシコのメキシコシティ都市圏において，貧困が問題となっている地区（＊）の分布を示したものである。図３に関することがらについて述べた文として**適当でないもの**を，後の①～④のうちから一つ選べ。

（＊）フィラデルフィア都市圏は，１世帯当たり所得中央値が下位10分の１の地区。メキシコシティ都市圏は，低級住宅地区。

（2024年度地理Ｂ本試験第３問問５）

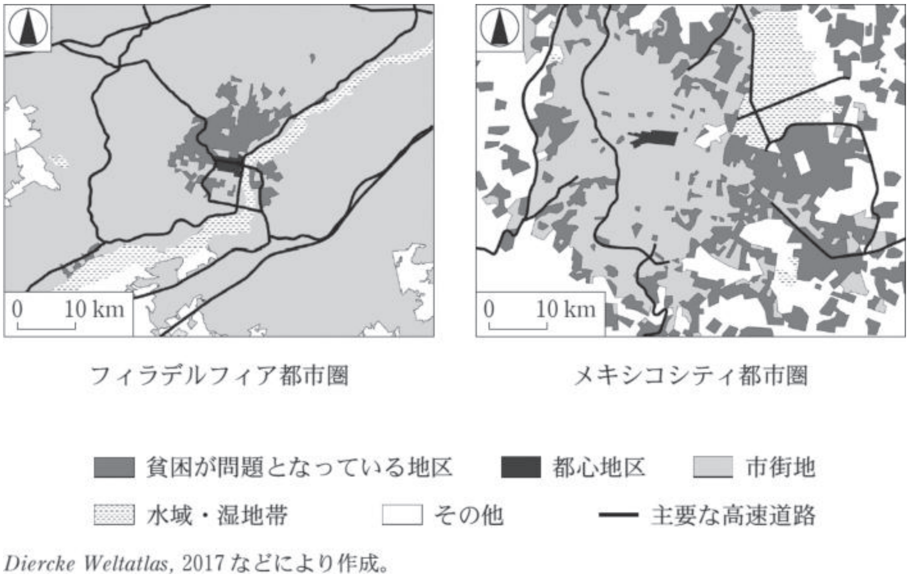


図３

① フィラデルフィア都市圏において貧困が問題となっている地区は，早期から都市化したが，現在は住宅の老朽化や製造業の衰退がみられる。

② メキシコシティ都市圏において貧困が問題となっている地区は，上下水道などの社会基盤（インフラ）が十分の整備されていない場所に広がる。

③ 貧困が問題となっている地区の分布を比較すると，フィラデルフィア都市圏の方が都市圏中心部に集中している。

④ 貧困が問題となっている地区は，両都市圏ともに主要な高速道路に沿って放射状に広がっている。

［2］　次の表１は，いくつかの国について，人口規模の上位４都市における人口を示したものであり，首都を★で表している。表１中の①～④は，イタリア，オーストラリア，トルコ，メキシコのいずれかである。トルコに該当するものを，表１中の①～④のうちから一つ選べ。

（2012年度地理Ｂ本試験第３問問１）

表１

（単位：万人）

	①	②	③	④
１位	★1820.5	1082.3	433.6	★262.7
２位	383.4	★395.3	380.6	130.6
３位	347.3	258.4	185.8	98.0
４位	188.8	159.7	155.5	90.1

統計年次は，イタリア，オーストラリア，トルコが2007年，メキシコが2006年。

『世界人口年鑑』により作成。

［3］ 次の**ア**～**ウ**の文は，図１中の**P**～**R**の都市にみられる地域問題への対応について述べたものである。**P**～**R**と**ア**～**ウ**との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2007年度地理Ａ追試験第４問問２）

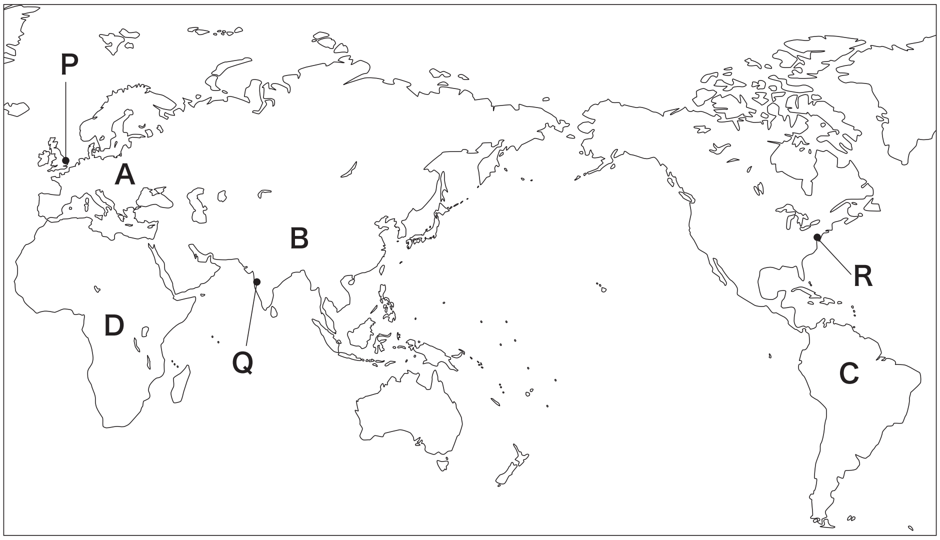


図１

ア　農村から都市に移り住んだ人々のうち，経済的に不安定な人々による不良住宅地区がみられるが，公的資金の不足などからその解決がすすんでいない。

イ　数多くの民族がそれぞれ居住区を形成すると同時に，住環境が悪化した一部の地域では住宅修復や公共施設整備がすすみつつある。

ウ　グリーンベルトを設けて都市の拡大を抑制すると同時に，その郊外に職住近接によって特徴づけられるニュータウンを建設している。

	①	②	③	④	⑤	⑥
P	ア	ア	イ	イ	ウ	ウ
Q	イ	ウ	ア	ウ	ア	イ
R	ウ	イ	ウ	ア	イ	ア

［4］　次の図１中の**ア～ウ**は，シカゴ，パリ，モスクワのいずれかの都市の中心部から郊外にかけての都市景観を模式的に示したものである。**ア～ウ**と都市名との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2012年度地理Ｂ本試験第３問問２）

ア　中心部には城壁で囲まれた政府機関を核として中・低層の建造物が広がる。郊外に向かって高層化していく住宅団地が特徴である。

イ　中心部には中心業務地区をなす高層ビルの集積がみられる。郊外には一戸建ての住宅地域が広がる。

ウ　中心部には土地利用や景観の観点から中・低層の歴史的建造物が保全されている。周辺部には高層ビルからなる副都心が形成されている。

Claval, *La Logique des Villes* などにより作成。

図１

	ア	イ	ウ
①	シカゴ	パリ	モスクワ
②	シカゴ	モスクワ	パリ
③	パリ	シカゴ	モスクワ
④	パリ	モスクワ	シカゴ
⑤	モスクワ	シカゴ	パリ
⑥	モスクワ	パリ	シカゴ

［５］　先進国の都市の状況について述べた文として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。

（2007年度地理Ｂ本試験第３問問３）

①　アトランタでは，郊外の高速道路のインターチェンジ周辺にオフィス地区が形成されている。

②　パリでは，中・低層の古い建物が多かった都心部で再開発が行われ，高層化がすすんでいる。

③　バンクーバー(ヴァンクーヴァー)では，中国に返還されたホンコンからの移住者など，アジア系の移民が増加している。

④　ロンドンでは，衰退した港湾地区が再開発され，オフィスビルや商業施設が建設されている。

［６］　都市の特徴は，国・地域によって異なる。世界各国の都市の特徴を説明した文として適当なものを，次の①～⑥のうちから二つ選べ。ただし，解答の順序は問わない。

（2002年度地理Ｂ本試験第４問問６）

①　中国では沿海部と長江下流域の都市の経済成長が著しく，内陸部の農村地域から多くの人々が出稼ぎにきている。

②　メキシコでは中小都市の成長が著しく，首都などの大都市からの人口流出が進んでいる。

③　アメリカ合衆国では大都市郊外に広大なスラムが形成され，大都市域が拡大している。

④　イギリスでは都市への人口集中を防止するため，大都市内部の再開発を禁止している。

⑤　タイではバンコクに各種の機能が集中し，大気汚染や交通渋滞などの都市問題が発生している。

⑥　サウジアラビアでは総人口に対する遊牧民の割合が高いため，都市への人口集中が進んでいない。

〈 ***Note*** 〉

第18講
環境問題・災害

石炭の多消費からの酸性雨，富栄養化による赤潮など，因果関係のはっきりした環境問題の事例は出題対象となりやすい。また熱帯低気圧や津波など，さまざまな災害を引き起こす要因についてもメカニズムを理解することが必要。

１８．１　さまざまな環境問題

現在の世界において，環境問題は国境を越え，地球規模の課題となっている。

・酸性雨・・・石炭燃焼によって生じる硫黄酸化物を原因とする酸性雨は工業地域で，自動車の排気ガスに含まれている窒素酸化物が原因となる酸性雨は都市部において顕著。とくに北ヨーロッパ・東ヨーロッパ，五大湖周辺，中国などで観測される。なお，一般にpHが5.5未満である雨を酸性雨という。pHが７で中性だが，雨滴が空気中を通る際に二酸化炭素を溶かし込むので，通常の状態でもpHは5.5に近い値となっている。

・砂漠化・・・草原（ステップ）において植生が失われる。自然的要因（降水量の減少）が最大の理由だが，人為的要因も大きい。家畜の過放牧，薪炭材の過剰な伐採，過耕作（耕作不適地への耕地拡大，休耕期間の短縮），不適切な灌漑による塩害の助長などが原因である。サハラ砂漠南縁のサヘル地帯で顕著だが，世界中の乾燥・半乾燥地域において生じている。

・地球温暖化による海水面上昇・・・二酸化炭素，フロン，メタンなどの温室効果ガスの増加に伴い，地球の平均気温が上昇している。南極の大陸氷河の融解，海水の膨張などが原因となり，海水面が上昇している。モルディブやツバルなど隆起サンゴ礁の島々が水没の危機にあるだけでなく，オランダやバングラデシュなどの低地国においても被害が懸念されている。化石燃料の使用が最大の原因。

・オゾン層の破壊・・・フロンガスによって上空のオゾン層が破壊され（オゾンホール），過剰な紫外線が地表にまで達することで，白内障や皮膚ガンを誘発する。オゾンホールはとくに南極上空に顕著であり，オーストラリアやニュージーランドでは紫外線対策が必須。

<チェック！>

日本は環境基準の厳しい国。酸性雨の最大の原因物質である硫黄酸化物は，各工場に脱硫装置の設置が義務づけられているため，原則として生じていない。日本で観測される酸性雨の原因は主に中国からの飛来物質。上空の偏西風によって中国から硫黄酸化物が日本上空へもたらされ，酸性雨となる。日本海側や高山地域で意外に酸性雨の被害が大きい。モンスーン（季節風）アジアの日本であるが，上空では偏西風の影響が強い。

[知っておこう]

乾燥地域において生じる環境問題に塩害がある。地表面に塩分が集積し，強アルカリ性となることで，農業が困難となる。

水分が地下に浸透すると，土中の有機塩類（化学物質）を溶かし込み，水溶液が生じる。それが，毛細管現象によって地表面へと持ち上げられ，水分は空中に蒸発するものの，有機塩類は取り残され，これが塩害の原因となる。

小規模な塩害ならば降雨のたびに発生している。過剰な灌漑によって，農作物が吸収できないほどの過度な水分が与えられる場合，塩害はより深刻化する。

１８．２　環境問題への対応策

環境問題への対策も進められている。

・酸性雨への対策・・・土壌の強酸性化による樹木の立ち枯れや，湖沼の強酸性化による生態系の破壊などの問題が生じているが，とくに湖沼の酸性化については，石灰の散布による中性化などの対策が取られている。

・砂漠化への対策・・・砂漠化の原因の一つである塩害については，点滴灌漑（節水農法）などの対策が取られている。少量ずつ余分な水分が生じないように灌漑を行うことで塩害は防がれる。また，砂漠化した土地に植林が積極的に行われている地域もあり，中国西部はその代表的な地域。

<チェック！>

砂防ダムは，発電や灌漑を目的とした巨大なダムとは異なるので注意。河川上流から流れ落ちる土砂や火山噴出物などをせき止め，下流側への被害を最小限にとどめる防災施設である。地形図では堰（せき）の記号によって表されることが一般的。現代の日本においては巨大ダムは建設されていないが，こうした小規模な砂防ダムは多く設置されている。通常のダムと同様に，環境や生態系に与える負荷は大きい。砂浜海岸の消失や河川を遡上する魚種の生態への影響など。

１８．３　それ以外の環境問題

上記のものほど広範囲に生じるわけではないが，人為的な影響によって特定の海域・地域で生じる問題もある。

・赤潮・・・湖沼や内海など閉鎖水域において生じる環境問題が赤潮。生活排水や工業廃水などの流入によって富栄養化が進み，プランクトンが異常発生する。水域中の酸素を消費してしまうなどの理由で，魚介類が死滅し，漁業(養殖業)に大打撃を与える。なお「赤」とはプランクトンの死骸の色。

・地盤沈下・・・三角州など沿岸の低地域において，生活用水や工業用水として地下水の過剰な揚水によって地盤沈下が起きる。海水が入り込み，地下水の塩水化が生じることも。最近はアメリカ合衆国の灌漑農業地域(センターピボット農法による灌漑)での地盤沈下が深刻。

・アラル海の縮小・・・中央アジアの内陸湖であるアラル海では，流入する河川の流量が減少することで，湖面が縮小している。周辺は綿花栽培を中心とした灌漑農業地域となっており，過剰な取水が行われている。塩分濃度の上昇によって生態系が破壊され，漁業が衰退した。旧湖底の塩分が周辺農地へと風で運ばれ，地力が損なわれた。同じく旧湖底の細砂が呼吸器官に入るなどして健康被害も生じている。

[知っておこう]

ナイル川の事例を押さえておこう。かつてナイル川は定期的な氾濫を繰り返していた。洪水によって，上流からもたらされる肥沃土が周囲の耕地に供給されるという利点はあったものの，家屋が流され，多くの人命が失われるなど，被害も大きいのは事実であった。

このため建設されたのがアスワンハイダムである。洪水は減少し，耕地整備や灌漑施設の建設が進んだことにより農業生産性も向上した。

しかしその反面デメリットも大きい。天然の肥沃土の供給がなくなったため，人々は購入した化学肥料に頼ることになり，富裕な農民が利益を独占した。洪水によって流されていた地表面の塩分がそのまま残され，塩害の被害が深刻化した。土砂がダムによって止められ河口まで届かないために，三角州が縮小した。また栄養分が海まで届かず，東地中海における漁獲量が減少した。巨大な遺跡を工事によって高所に移動し，ダム湖への水没を防いだのだが，莫大な費用が費やされた。

このように環境に与える負荷が大き過ぎるため，近年日本では巨大ダムは建設されていない。中国の長江中流に世界最大規模のダムであるサンシヤダムが建設

されたが，将来的にどのような影響が地域そして地球の環境に与えられるのか，予測すら困難である。

１８．４　熱帯低気圧

主に低緯度海域で発生する非常に勢力の強い低気圧が熱帯低気圧。海水温が27℃以上の海域で発生しやすいが，転向力のはたらかない赤道直下では生じない。なお，転向力とは地球の自転によって生じる力，進行方向に対し，北半球では右向きの，南半球では左向きの力が加わる。

熱帯低気圧のうち，勢力が大きいものが台風，サイクロン，ハリケーンである。台風は太平洋北西部(フィリピン海や南シナ海で生まれ，東アジアへと進む)，サイクロンは主にインド洋(バングラデシュ，オーストラリア，マダガスカルなど広い範囲)，ハリケーンは北アメリカ大陸周辺(カリブ海など)。

＜チェック！＞

練習問題［６］でも確認できるように，台風の進路は大きく「く」の字を描く。これには２つの解釈があり，一つは貿易風と偏西風，一つは太平洋高気圧。

・南から北へと進む台風であるが，低緯度では貿易風の影響により北西へ，やがて偏西風帯に入ると北東に進路を取る。

・日本の南東海上に太平洋高気圧が存在し，そこから吹き出す風の影響でその周囲を大きくカーブして台風は移動する。

１８．５　低気圧の風向

風は高気圧から低気圧に向かって吹くが，転向力の影響でその向きを変える。

・北半球・・・風は，高気圧の周囲では時計回りに，低気圧の周囲では反時計回りに，それぞれ吹く。

・南半球・・・風は，高気圧の周囲では反時計回りに，低気圧の周囲では時計回りに，それぞれ吹く。

＜チェック！＞

赤道直下では転向力は働かず，熱帯低気圧の発生もない。熱帯収束帯（赤道低圧帯）の影響下では激しい上昇気流によって対流性降雨（スコール）がみられる。台風のような収束性降雨とは違うことを理解しよう。

１８．６　高潮

低気圧による海面上昇が高潮。激しい上昇気流や，周囲から吹き込む風の影響によって海水面が持ち上がり，低地域に浸水などの被害を及ぼす。とくに満潮時に重なったりすると被害が甚大となる。三角州や干拓地など底平な土地において被害が顕著。

１８．７　津波

海底地震が原因で発生する高波を津波という。リアス海岸のような奥に行くにつれて深く湾入した地形において被害が大きくなる。逆に開けた外洋においては波は高くならず，例えば津波発生時は船舶は港を出て沖合いへと避難する。震源地が遠い場合には津波の来襲には時間はかかるが，思わぬ高波となる可能性があるので注意が必要。

＜チェック！＞

リアス海岸のような深い入り江は水深が十分であるため港となりやすい。周囲の山地地形によって風雨が防がれるため，台風の被害を免れることができる。しかし，そうした内湾においては津波の被害は拡大する。頻繁に訪れる低気圧については頑丈な地形となるが，何十年に一回しかみられない巨大津波については極めて脆弱な環境なのだ。

１８．８　砂防ダム

土石流や火砕流に対する防災施設が砂防ダム。ただし，土砂をせき止めてしまうため，海岸の砂浜や砂丘の縮小という問題が生じている。

ワンポイント

津波と高潮を対照的な事象として捉えることが重要。地形との関係が大きい。

同じ太平洋沿岸であっても，岩手県の三陸海岸と千葉県の九十九里浜は全く違った地形である。

三陸海岸は山地が沈降して形成されたリアス海岸であり，後背地（背後の平野）が小さい山がちな地形である。ただし水深が十分であることから，規模は小さいものの，多くの漁港が入り江ごとに連続している。

九十九里浜は浅海底が隆起してできた海岸平野である。背後に広大な平野が広がっているが，遠浅海岸が続き，港にはなりにくい。港を造る場合には，陸地を掘り込んだ人工港となる（茨城県の鹿島港が例）。

リアス海岸で生じる災害が「津波」。複雑な海岸線であるので，エネルギーが湾奥に集中する。その代わり，周囲の山地が風雨を遮ってくれるので低気圧（台風）には強い。高潮の被害も限定的で，とくに家屋がやや小高い丘の上などにある場合にはほぼ心配がない。土砂崩れには注意が必要。

一方，海岸平野はエネルギーが分散されるので津波の被害はほとんどない。千葉県も日本海溝に面する地域であるが，津波は原則として発生しない。ただしこのような低地で警戒しないといけないのが当然，高潮である。そもそもの標高が低いので，海面が数ｍ持ち上がっただけでも洪水や浸水の危険性がある。

第18講
環境問題・災害［練習問題］

［1］　次の図1中のA～Dの地域では，地球規模での環境問題がみられる。A～Dの地域のそれぞれを説明した文として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。

（2007年度地理Ａ追試験第４問問１）

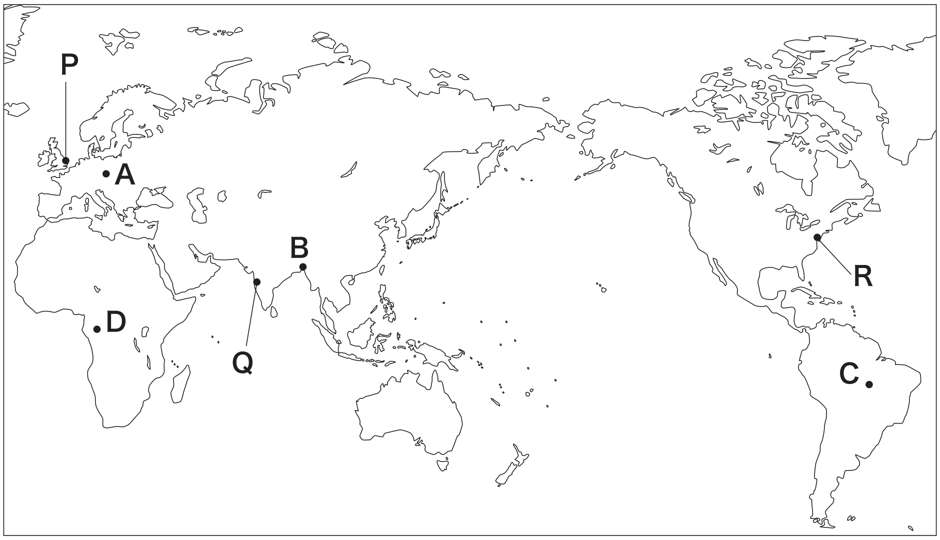


図1

①　Aでは，大規模な焼畑農業が行われており，その中には森林面積が急減している地域がみられる。

②　Bでは，地球温暖化が引き起こすと考えられる海面上昇の影響によって低地の水没が憂慮されている地域がある。

③　Cでは，酸性雨の影響により歴史遺産に被害がみられるほか，森林地帯では樹木の枯死が広がっている地域がある。

④　Dでは，オゾンホール拡大により，紫外線の到達量が増加し，皮膚ガンや白内障の増加が懸念されている地域がみられる。

［２］　次の写真１は，スカンディナヴィア半島における環境破壊への対応策を示したものである。この環境破壊の原因として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。

（2007年度地理Ａ本試験第４問問４）

ヘリコプターによる湖への石灰の散布
（編集部　追記：編集上の都合により代替写真に差し替えております。）

写真１

①　化石燃料の大量消費
②　原子力発電所の事故
③　産業廃棄物の不法投棄
④　フロンガスの放出

［３］　砂漠化防止に関する対策の例として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。

（1999年度地理Ｂ本試験第４問問７）

①　砂防ダムの建設
②　点滴灌漑などの節水農法の開発
③　灌漑農地の排水溝の整備
④　飛砂防止用の植林

［4］　近年，人間活動にともなって，水にかかわる種々の問題が発生してきた。このことに関して述べた次の文①～⑤のうちから，下線部に**誤りのあるもの**を一つ選べ。

（1990年度地理本試験第１問問４）

① 琵琶湖や霞ヶ浦は，生活排水の流入によって，プランクトンなどの少ない貧栄養湖へと急速に変化している。
② 北ヨーロッパや北アメリカ東部では，大気汚染物質の排出にともない，酸性雨や湖水の酸性化が問題となっている。
③ 東京や大阪などの沖積平野では，地下水の過度なくみ上げによって，地盤沈下が生じた。
④ カスピ海では，湖に流入する河川水の過度な取水によって，湖の水位低下や水質悪化が生じた。
⑤ エジプトのナイル川流域では，ダムの建設によって，洪水の被害が防止された一方で，肥沃な泥土の流入が減少し，土壌がやせるなどの問題が生じた。

［5］　海洋では，自然の浄化能力を超える負荷によって，汚染が広範に進行している。海洋汚染の現状について述べた文として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。

（2001年度地理Ａ追試験第３問問６）

① 生活排水などの流入は，海水中の養分を増加させ，遠洋漁業の漁獲量が減少する大きな原因となっている。
② タンカーの座礁や衝突などにより原油が流出すると，魚介類や水鳥などの野生動物に深刻な被害がおよぶ。
③ 大量に利用される農薬や化学肥料が，大気や河川を通じて海洋の化学物質による汚染の一因となっている。
④ 海洋に浮遊するプラスティックなどの廃棄物は，船舶の航行に障害を与えるだけでなく，水鳥や海獣などが死ぬ原因となる。

［６］　図１中の矢印は，太平洋で発生する台風・熱帯低気圧の経路をいくつか示したものである。図１から読み取れる台風・熱帯低気圧について述べた文として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。

（2008年度地理Ｂ本試験第１問問２）

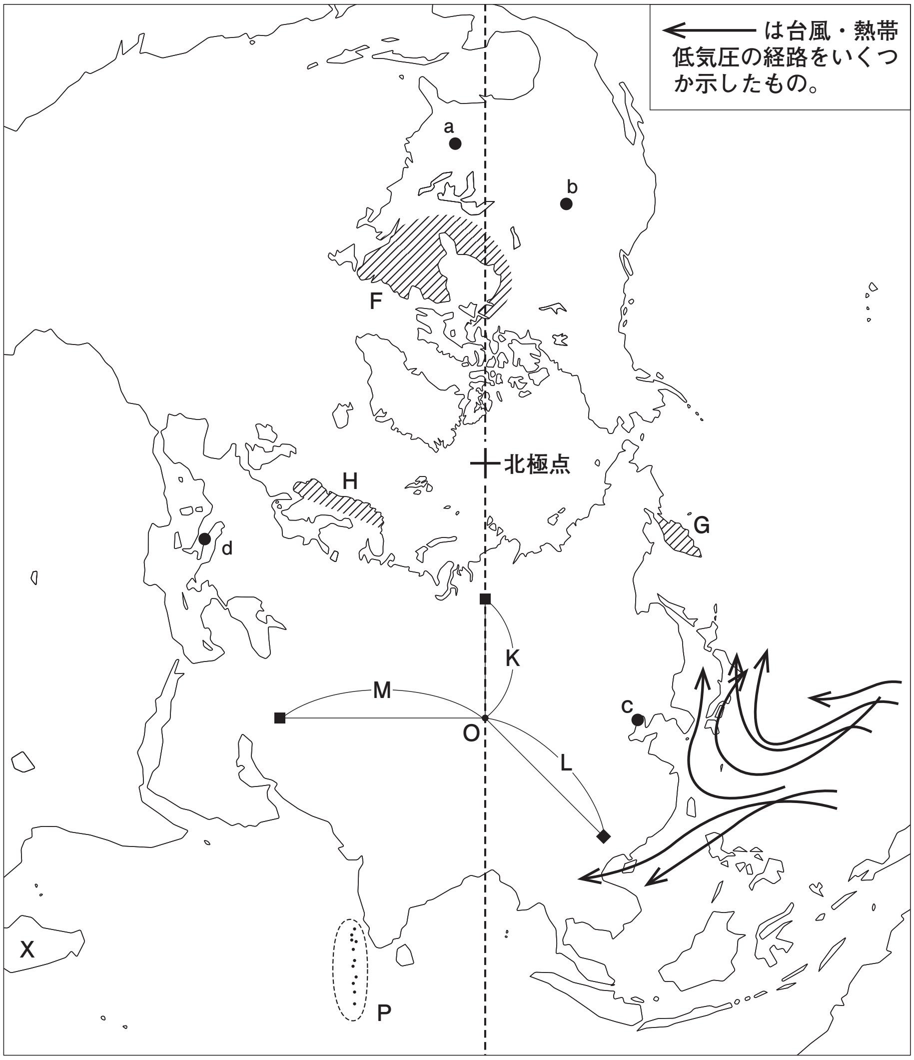


図１

① 日本近海よりも海面水温の高い熱帯域で発生しやすい。

② 地球の自転の影響により赤道上で発生しやすい。

③ 太平洋高気圧の縁を回り込むような経路をとることが多い。

④ 中緯度では偏西風により東に進路を変えることが多い。

［7］　エミさんは壺井栄の小説「二十四の瞳」を読んだ。この小説は瀬戸内海の小豆島にあった田浦の分教場をモデルにしたと言われている。感動したエミさんは小豆島を訪れた。次の図１は田浦とその周辺を示した最近の地形図（５万分の１，原寸，一部改変）である。図１を見て，下の問いに答えよ。

（2000年度地理Ｂ追試験第４問問３）

図１

小説には，台風による被害の様子が記述されている。台風が小豆島の西側を通過した場合に，島の南東部に位置する内海湾周辺で見られる風の特徴や被害などについて説明した文として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

① 台風の通過前から通過中には乾燥した暖かい風が吹き，通過後に雨まじりの風が吹く。
② 図１中央付近の西村では，台風の通過前から通過後まで北風が吹き続ける。
③ 高波による被害は一般に，岬の，内海湾に面した集落よりも坂手湾側に面した集落で大きい。
④ 内海湾に面する山地の斜面は多くの場所が耕地化しているので，山くずれや土石流などが発生する危険は少ない。

［8］　次の図２（２万５千分の１地形図，原寸）に示した地域に予想される災害として**適当でないもの**を，下の①～④のうちから一つ選べ。

（1998年度地理Ｂ本試験第５問問２）

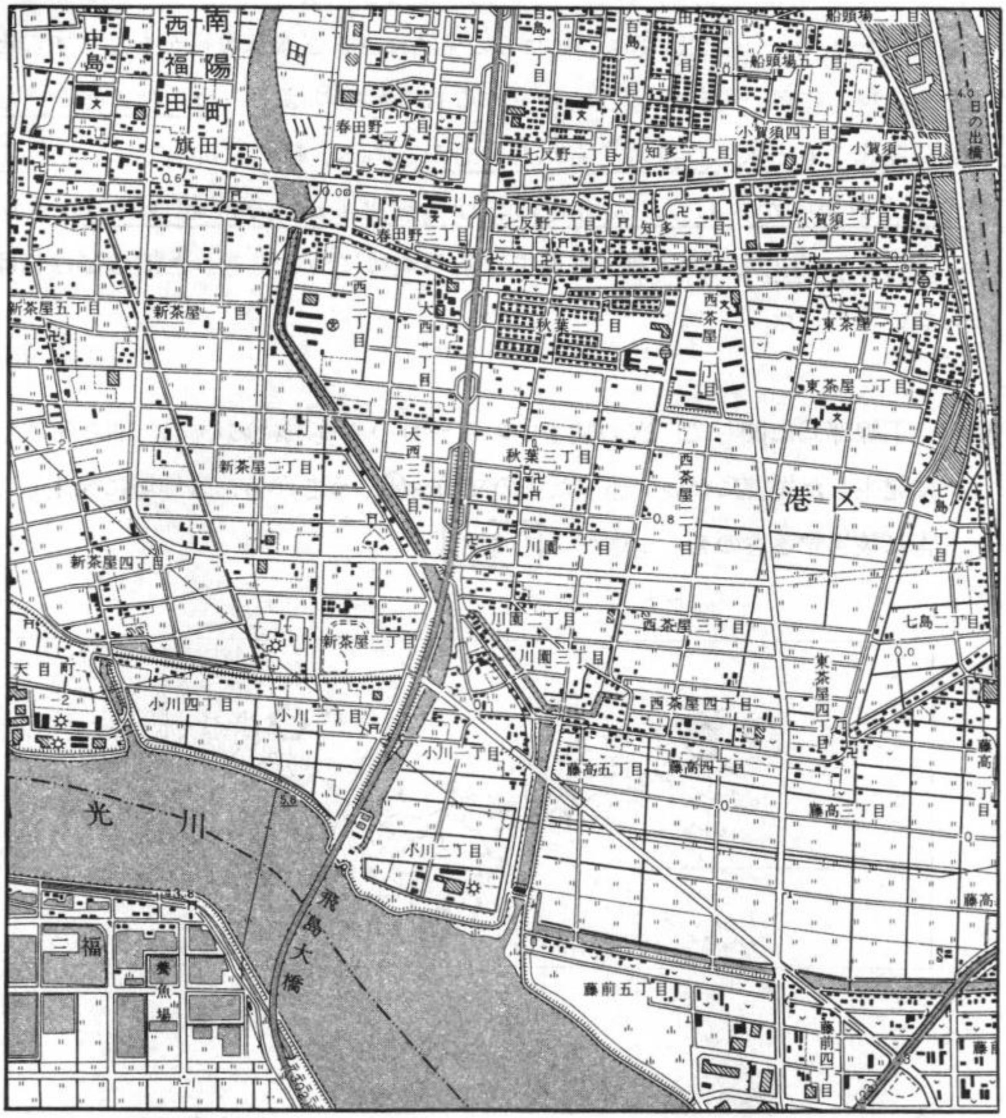


図２

① 地下水の塩水化

② 地すべり

③ 地盤沈下

④ 高潮

［９］　環太平洋地域では，様々な災害が多くの国に影響を与えている。津波はその一つである。日本の三陸海岸は，過去に何度も津波の被害を受けてきた。その理由として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。

（2003年度地理Ｂ追試験第１問問４）

①　海岸線が入り組んで，湾が奥に向かって狭くなっているため。

②　人間の居住地が海岸沿いの低い地域に集中しているため。

③　津波は地震発生と同時に来襲するので，避難が不可能なため。

④　太平洋の海底を震源地とする大きな地震が多いため。

［10］　次の写真１は，日本の各地の河川で見ることができる防災設備である。日本におけるこの施設の役割の説明として**誤っているもの**を，下の文①～④のうちから一つ選べ。

（1998年度地理Ｂ本試験第５問問４）

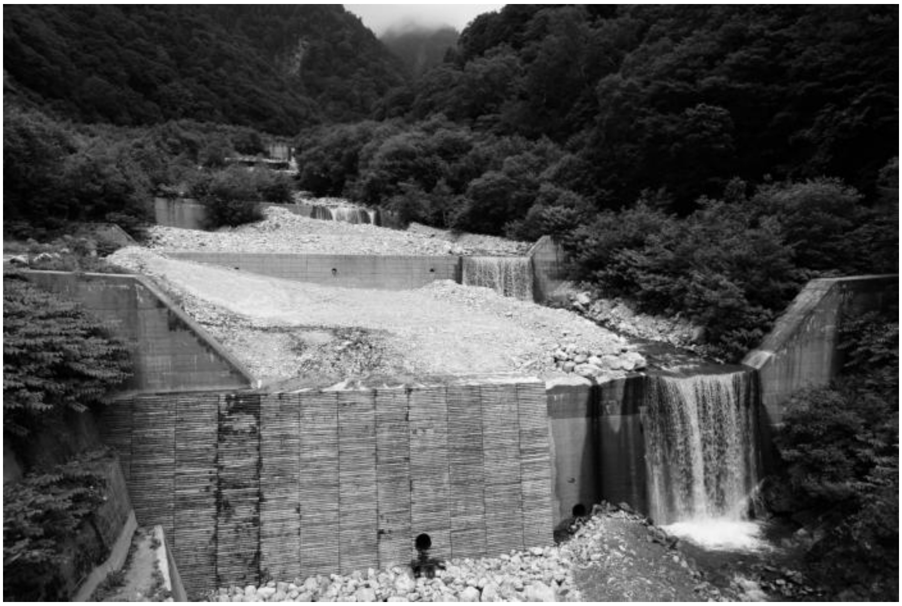


写真１

（編集部　追記：編集上の都合により代替写真に差し替えております。）

① 火山の噴出物が河川により運ばれ，下流域に被害をもたらすことを防ぐため。

② 急峻な山地から削られた岩石や土砂が下流に堆積し，河床が高くなることを防ぐため。

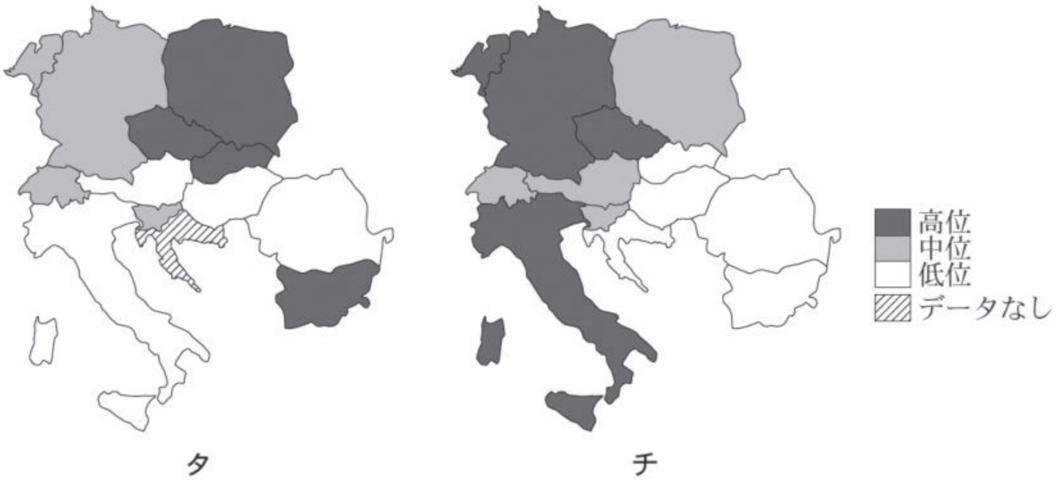
③ 大雨の際の山崩れなどにより，大量の土砂が短時間で下流域に運ばれることによって起こる被害を防ぐため。

④ 河川の最上流部に残っている氷河の融解によって起こる，洪水の被害を防ぐため。

第 18 講
環境問題・災害［確認問題］

［1］　ハルさんは，近年，東ヨーロッパで環境問題対策が進められている背景として，1990 年代に酸性雨による被害があったことを知った。次の図６中の**タ**と**チ**は，1995 年における単位面積当たり窒素酸化物排出量と森林の被害状況のいずれかを国別に示したものである。また，下の文**P**と**Q**のいずれかは，図６中の**タ**と**チ**で異なる分布となる理由として考えられることがらである。図６中の単位面積当たり窒素酸化物排出量の図と，異なる分布となる理由について述べた文との組合せとして最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。

（2021 年度地理Ａ追試験第３問問６）



UNECE の資料などにより作成。

図６

P　偏西風による大気汚染物質の輸送

Q　盆地状の地形による大気汚染物質の滞留

	①	②	③	④
図	タ	タ	チ	チ
文	P	Q	P	Q

［2］　下の**ア**～**ウ**の文は，次の図1中に示した**A**～**C**のいずれかの範囲の中で発生した環境問題について述べたものである。**ア**～**ウ**と**A**～**C**との正しい組合せを，次の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2005年度地理Ｂ追試験第４問問１）

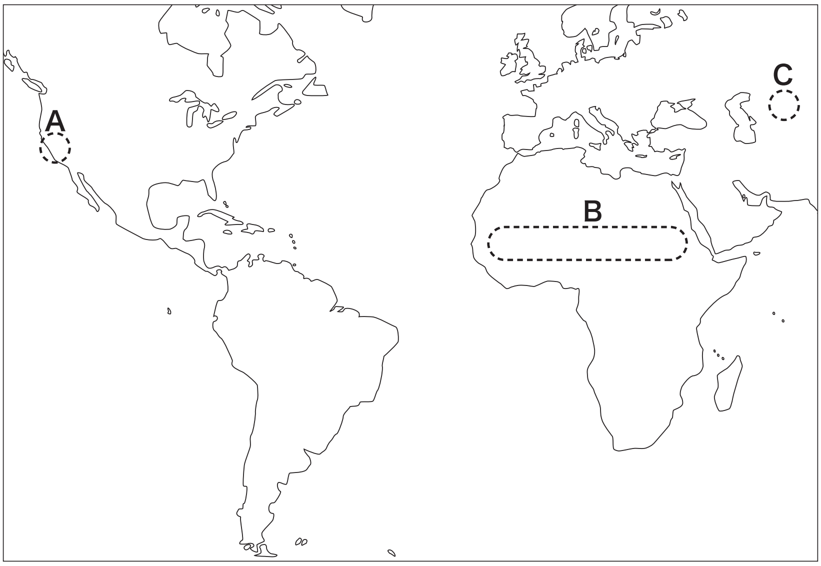


図1

ア　数年にわたる大干ばつなどの自然的要因と，過放牧などの人為的要因とが複合して，砂漠化が生じた。

イ　使用済みの有機溶剤による地下水汚染などといったハイテク汚染が生じた。

ウ　綿花生産のための灌漑用水の過剰な使用により，湖の面積が大幅に縮小し，塩分濃度の上昇や水質汚濁が生じた。

	ア	イ	ウ
①	A	B	C
②	A	C	B
③	B	A	C
④	B	C	A
⑤	C	A	B
⑥	C	B	A

［3］ ユーラシア大陸では，様々な環境問題が発生している。ユーラシア大陸における環境問題について述べた文として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

（2005年度地理Ａ本試験第１問問６）

① バルト海沿岸部では，市場経済化の進行する旧社会主義国からの工場廃水が水質悪化をもたらし，マングローブ林が壊滅的な打撃を受けている。
② 中国西部の標高3000ｍを超える高原地域では，人口増加にともない，工場や自動車から排出される窒素酸化物の量が急増している。
③ スウェーデンでは，温暖化にともない，土壌の塩類集積が問題となる地域が増えている。
④ ウクライナでは，北部に位置するチェルノブイリ原子力発電所で発生した事故により，放射性物質による環境汚染がみられる。

［4］ アフリカのサヘル地域では，砂漠化の進行が大きな問題となっている。この砂漠化への対応策として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。

（2003年度地理Ａ本試験第１問問３）

① 植林事業を行って，砂丘の固定化を図る。
② 灌漑（かんがい）方法を工夫して，土壌の塩類集積を防ぐ。
③ 地下に貯水ダムを造って，水の有効利用を図る。
④ 農業の休閑期間を短縮して，地力を回復させる。

［５］　カオルさんたちは，松本盆地周辺に多数の活断層が分布していることを知った。活断層について述べた文として下線部が**誤っているもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。

（2004年度地理Ｂ本試験第５問問７）

①　活断層の活動は，地震を起こすとともに，地層だけでなく地表面も変形させることが多いので，地形によって活断層の位置がわかる可能性がある。
②　活断層の活動によって地震が発生した場合，内陸の湖でも高潮が発生する可能性がある。
③　活断層は，将来地震を起こすおそれがあり，活断層の近くでは，地震時の強い振動によって，建築物に大きな被害が出る可能性がある。
④　古い史料の記述から，活断層の活動によって，いつ地震が発生したかを推定できる可能性がある。

［６］　第二次世界大戦後，日本で砂浜海岸の著しい侵食が問題になっている。著しい侵食が生じた理由について述べた文として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

（2000年度地理Ｂ本試験第３問問３）

①　河川における砂防ダムなどの建設によって，河川から海へ流出する土砂が減少したため。
②　地球の温暖化に伴う海面上昇によって，海岸線付近における波の侵食力が強くなったため。
③　沿岸域における防波堤などの建設によって，沿岸流による砂の移動がスムーズになったため。
④　砂丘や浜堤などを広く囲むように防風林や防砂林を作ったことによって，風に運ばれる砂が減少したため。

〈 ***Note*** 〉

第19講
日本社会の変容・生活文化

現代の日本における社会変容および女性の地位の向上に関するトピックを取り上げる。さらに近年出題率が上がっている生活文化や食料供給，住居についての問題も解析していこう。

１９．１　農村の変化

高度経済成長により三大都市圏を中心とした地域では都市化が進んだが，逆に山村では人口流出によって若年人口が減少し，過疎化が深刻となった。国内の市町村の人口増減については原則として社会増加（社会増減）で考えるべきだが，それに引きずられるように自然増加（自然増減）によっても人口が大きく変化することを理解する。

１９．２　米をめぐる状況（１）

戦後の食料不足の危機を回避するために，政府は食糧管理制度を実施した。主穀である米の生産を重視し，農家から米を一定価格で買い取り，それを安い価格にて消費者へと提供する。しかしこれによる増産と，さらに国民の食生活の変化によって，70年代には「米余り」の状況となってしまい，政府は生産調整を行うことになる。転作や休耕などの減反政策が実施された。

１９．３　米をめぐる状況（２）

ＧＡＴＴ（現ＷＴＯ）のウルグアイラウンドによって，日本は米の一部輸入を開始する。国内の米作を保護するために高い関税は維持されているものの，その代わりに国内消費量の５％程度の米について「最低輸入量の受け入れ（ミニマムアクセス）」を義務づけられ，政府により輸入が行われている。

またかつて実施されていた食糧管理制度にも見直しが行われた。国が米を買い取ることが廃せられ，「自主流通米」が主となっている。農業技術の進歩と，国民が高品質の米を求める動きとが合致した結果でもある（新食糧法）。

１９．４　ニュータウンにおける人口問題

人口構成の変化が顕著な地域に「古いニュータウン」がある。高度経済成長期から1970年代にかけて開発されたニュータウンの多くでは住民の高齢化が進んでいる。当時入居した若い世代が，30～40年を経て年齢を重ね，多くが高齢者となっている。

またニュータウン開発初期には子どもの割合が高く，多くのニュータウンで小学校や中学校が増設された。しかし，彼らは成人するとこの地を離れ，ニュータウンにおける子どもの数が減る。多くの小中学校では児童や生徒の減少に悩まされている。開校数十年の新しい学校ですら廃校となっている場合がある。

＜チェック！＞

1960～70年代に建設された初期のニュータウンの中には，住民の高齢化が進み，また人口構成の偏りによって不都合が生じているものも見受けられる。ニュータウンが問われた場合には，その建設の年代を確認し，古い時代（高度経済成長期など）の場合にはそこで高齢化および若年層の流出という問題が生じていることを想像しないといけない。ニュータウンでありながら，むしろ若い世代の割合は低い場合がある。

１９．５　日本における女性の地位

日本はジェンダーギャップ指数（男女格差を示す指数）が低く，その是正が求められている。女性の年代別の就業率に着目してみよう。グラフの形状が「M字カーブ」を描くことに特徴がある。10代の就業率は低い。ほとんどの者が高校に進み，大学生の割合も高いからだ。さらに20代で就業率は一旦ピークを迎える。高校・大学の卒業によって多くの者が社会で職を得る。しかし，20代後半から30代にかけて，その値は大きく落ち込む。日本の場合，結婚や子育てによって離職することがあるためである。子育ての落ち着いた40代で再び就業率はアップするが，一旦キャリアが途切れているため，パートタイマーなど非正規の仕事に従事する場合が多い。

[知っておこう]

女性の「労働力」率を表したグラフをみる場合には注意が必要。労働力率には２つの意味があり，一つは社会進出の度合い。経済レベルが上昇し，女性の社会進出がさかんになれば，その労働力率も上がる。ただし，経済レベルの上昇によって就学率も上がるので，10代においては労働力率は下がるだろう。

もう一つは農作業の労働力。古い時代の農村においては女性も大きな労働力として期待されていたため，その労働力率も高かった。社会進出という意味ではない。現在でもアジアやアフリカの発展途上国で女性の労働力率が高い国があるが（とくに東南アジアの米作地域など），これは農作業に従事する女性の割合が高いという意味である。

１９．６　世界各国の福祉政策と女性の社会進出

世界全体でみた場合，１人当たりＧＮＩの高い国（先進国）で福祉に関する政策が厚く実施され，１人当たりＧＮＩの低い国（発展途上国）で社会福祉が進まないという傾向があり，それが女性の社会進出とも呼応している。ただし，文化や宗教的背景によって変化は生じる。

＜チェック！＞

イスラム教では一夫多妻が容認されているため，人口当たりの結婚件数が多い。

キリスト教のカトリックでは離婚と中絶が禁止されている。そのため，カトリック国では比較的出生率が高く，人口増加率が高くなる。例えばフィリピンは，周辺の東南アジア諸国よりやや人口増加率が高くなっている。

[知っておこう]

都道府県別の乗用車保有割合を考えよう。

乗用車の100世帯当たり保有台数（2013年。『県勢』による）の順位。

１位；福井県　２位；富山県　３位；山形県　４位；群馬県　５位；栃木県
43位；兵庫県　44位；京都府　45位；神奈川県　46位；大阪府
47位；東京都

低い都府県の特徴としては，人口密度が高く地価が高いことで駐車スペースが確保できないこと，公共交通機関が整備されており乗用車に頼る必要がないことが挙げられる。

高い県の特徴はその逆で，スペースの余裕があること，公共交通機関の未整備がある。特に重要なのは群馬県や栃木県などの北関東地方。工業が発達し，所得水準が比較的高いため，自家用車を購入する経済的余裕のある世帯が比較的多い。福井県や富山県も所得水準が高い県。

１９．７　自然環境と建物の建築法の関係

・乾燥地域の家屋・・・木材に恵まれず，日干しレンガが建材として利用される。高温の空気が室内に入らないよう，窓は小さく作られる。都市の街路も迷路上の複雑な構造となり，風通しは悪い。

・熱帯地域の家屋・・・主に木造の家屋となる。通風性を良くするため，高床式の建築がみられる。熱帯雨林には樹上家屋，沿岸や河川には杭上家屋も。

・寒冷地域の家屋・・・生活熱を地面に伝えない高床式の構造。地下の永久凍土層を融解させない工夫。

・豪雪地帯の家屋・・・屋根を急傾斜にする。屋根裏では養蚕などが行われることも。

＜チェック！＞

永久凍土について。ユーラシア大陸北東部（シベリア地方）や北アメリカ大陸北部（カナダ）などでは，地下に夏季になっても地面に含まれた水分が氷のままで融解しない層が存在する。その範囲の南限はほぼ１月－20℃の等温線と重なっているので，地図帳で確認するといいだろう。冬季は完全に凍結するものの，夏季には地表面付近は融解し，農業は十分に可能。大麦や小麦などの栽培がみられる。

大陸氷河と混同しないように。大陸氷河は地表を覆い尽くす巨大な氷であり，南極大陸をイメージするといい。氷河期（最終氷期）のヨーロッパは大陸氷河に覆われていた，ただし，現在のヨーロッパは冬季には温暖な気候がみられ，地下に永久凍土層はほとんどみられない。逆にシベリアは氷河期にもほとんど大陸氷河には覆われなかった。

１９．８　食料供給

１人１日当たりカロリー供給量は原則として１人当たりＧＮＩに比例する。欧米の先進国では3000キロカロリーを超えることが一般的であるが，アフリカ諸国では2000キロカロリー程度の国が多い。なお，日本は先進国でありながら比較的低く，約2500キロカロリーである。

＜チェック！＞

アメリカ合衆国では社会保険制度が整備されておらず，家計消費支出における保険・医療費用の割合が高い。これに対し，住宅事情の悪い日本では同じく家計消費支出における割合が高いのは住宅費用である。

ワンポイント

イスラム教で食することが禁じられているのは豚肉のみであり，他の肉についてはその限りではない。正式な手順で処理された肉ならば食することができる。これを「ハラル（ハラール）」料理というが，こうした肉を扱う店舗は日本国内でも増えている。

また，インドは宗教的な理由で牛を殺すことが禁じられているが，それよりもそもそもの食文化が菜食であることを知っておいた方がいい。高温多雨の不衛生な自然環境下では伝統的に獣の肉を食さない地域が多く，インドはその例。かつての日本もその一つといえるだろう。インドで重要とされている動物性タンパク源は牛乳や乳製品（バター）であるなど，搾乳用として牛は重要な家畜となっている。

第19講
日本社会の変容・生活文化［練習問題］

［1］　日本においては，経済の高度経済成長期以降，人口移動が激しくなり，人口増加の著しい市町村と，大量に人口が流出した市町村とが生まれた。この結果，大都市近郊では都市化が急速に進展したが，一方では，長期間にわたる人口流出によって，広大な過疎地域が生まれており，さまざまな問題が生じている。

特に，都市から遠く離れた山村では，村落の存立自体が危ぶまれている例も多い。その中で，地域固有の資源を利用して，地域の活性化に取り組んでいるところもみられる。

下線部に関して述べた次の文①～④のうち，正しいものを一つ選べ。

（1993年度地理追試験第４問問３）

① 道路の整備が進み，そのうえ鉄道やバス路線が拡張されたため，多くの若者が急激にＵターンするようになり，住宅不足が生じている。

② 農林業の労働力不足によって，休耕地が増加したり，人工林の管理が行きとどかなかったりしたため，地域の治水・治山機能が高まっている。

③ 経済の高度成長期においては，若年層の流出や挙家離村によって人口の社会減を招き，最近は高齢化によって自然増加率も落ち込んでいる。

④ 工場の地方分散やリゾート開発によって，都市から大量の住民が転入し，都市化が急激に進行している。

［２］　カオリさんは，横手市近郊に水田地帯が広がっていることから稲作に興味をもった。第二次世界大戦後の日本の稲作を取りまく状況やその変化について述べた文として**誤っているもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。

（2005年度地理Ｂ追試験第５問問６）

①　全国的に進められた食糧増産事業の一環として，秋田県の八郎潟では干拓が行われ，大規模な稲作経営をめざす村が誕生した。

②　品種改良による収量増大や食生活の変化にともない，米が生産過剰となり，減反政策がとられるようになった。

③　諸外国からの輸入自由化要求にもかかわらず，食料自給の観点から，米の輸入禁止措置は依然として堅持されている。

④　国内での米の生産・流通は食糧管理制度のもとにおかれてきたが，近年，新たな制度により規制緩和が進められている。

［３］　日本における１次産品の自給率の変化について述べた文章として下線部が正しいものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

（2008年度地理Ａ本試験第２問問６）

①　1950年代以降，石炭の自給率は低下した。これは，国内の産出量は減少していないが，輸入量が増大したためである。

②　1960年代以降，木材の自給率は急速に低下した。これは，北アメリカや東南アジアなどからの木材輸入が増加したためである。

③　1980年代半ば以降，穀物の自給率は低い水準で推移している。これは，ＧＡＴＴによって米の輸入が自由化されたためである。

④　1980年代後半以降，水産物の自給率は低下した。これは，国内の生産量に変化はないが，東アジアからの鮮魚輸入量が増大したためである。

［4］ 日本における農水産物の輸出入について述べた文として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。

（2009年度地理Ａ追試験第３問問４）

① 日本では，エビの需要が拡大してきたため，アジア諸国で養殖されたものを大量に輸入している。

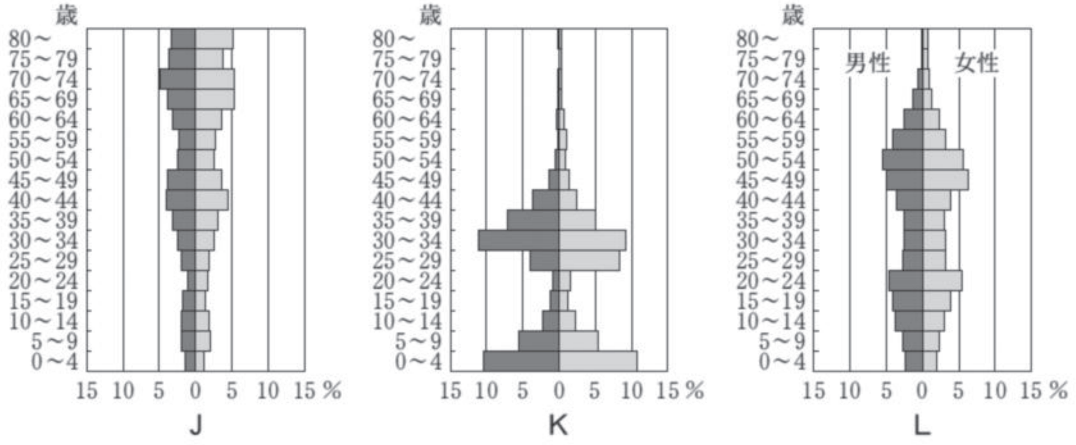
② 日本では，米の生産量が減少して国内需要を満たせなくなったため，アメリカ合衆国やタイなどからの輸入が多くなっている。

③ 日本では，トウモロコシの生産量が少ないため，アメリカ合衆国などからの輸入に依存している。

④ 日本は経済発展によって豊かな人々が増えてきた近隣諸国に向けて，高品質の果物を輸出するようになっている。

［５］ 次の図６は，日本の大都市圏郊外に位置し，1970年代に入居が始まったニュータウン内のある地区における人口ピラミッドを時期別に示したものであり，**Ｊ～Ｌ**は，1975年，1995年，2015年のいずれかである。また，後の文**サ～ス**は，いずれかの時期に地区で生じていた現象を述べたものである。**Ｊ～Ｌ**と**サ～ス**との組合せとして最も適当なものを，後の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2022年度地理Ｂ追試験第３問問６）



国勢調査などにより作成。

図６

サ　この地区で生まれ育った人たちが就職・結婚などを機に転出し，学校の統廃合の議論が活発化した。

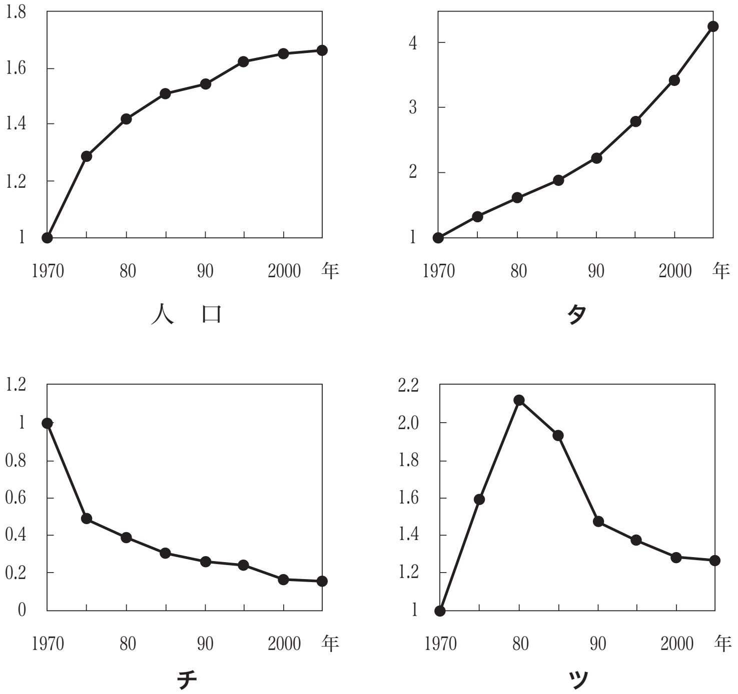
シ　住宅の建設が同時期に集中し，公共サービスの供給が追いつかず，学校が新設・増設された。

ス　住宅の老朽化や空き家の発生といった住環境の悪化が生じ，学校の跡地利用が進んだ。

	①	②	③	④	⑤	⑥
Ｊ	サ	サ	シ	シ	ス	ス
Ｋ	シ	ス	サ	ス	サ	シ
Ｌ	ス	シ	ス	サ	シ	サ

［6］ アスカさんとヤマトさんは，統計資料を使って橿原市(編者注：奈良県)の人口などを調べた。次の図６は，1970年～2005年の橿原市の人口とそれにかかわる指標の推移を1970年の値を１として示したものであり，図６中の**タ**～**ツ**は，小学校児童数，農業就業者数，65歳以上人口のいずれかである。**タ**～**ツ**と指標との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2010年度地理Ｂ追試験第２問問６）



『奈良県統計年鑑』により作成。

図６

	①	②	③	④	⑤	⑥
小学校児童数	タ	タ	チ	チ	ツ	ツ
農業就業者数	チ	ツ	タ	ツ	タ	チ
65歳以上人口	ツ	チ	ツ	タ	チ	タ

［７］　次の表１は，全労働力人口に占める女性の割合(＊)と出生率を示したものであり，①～④はエジプト，スウェーデン，日本，フィリピンのいずれかである。日本に該当するものを，表１中の①～④のうちから一つ選べ。

(＊)就業者と失業者の合計である労働力人口のうち，女性の占める割合。

(2004年度地理Ａ本試験第２問問７)

表１

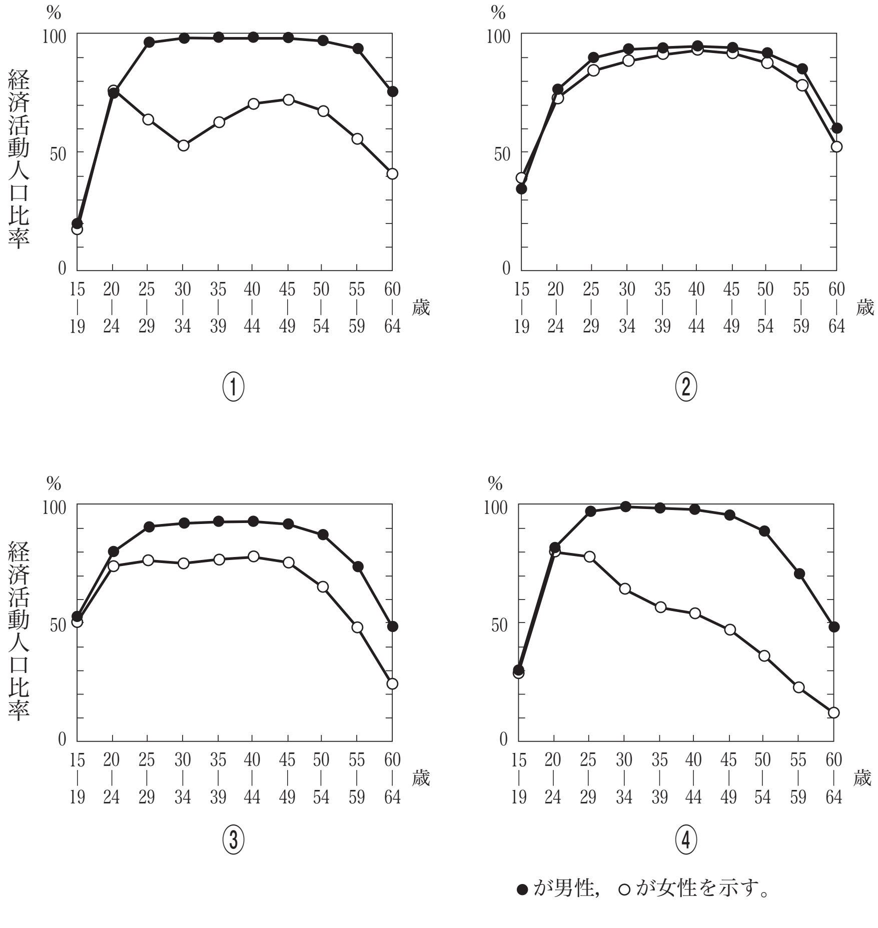
	女性の割合（%）	出生率（‰）
①	47.7	10.2
②	40.7	9.5
③	37.8	28.6
④	21.0	27.5

『世界国勢図会』により作成。

統計年次は，女性労働力の割合についてはエジプトが1999年，出生率についてはエジプトが1998年，フィリピンが1995～2000年の平均。他は2000年。

［8］　次の図１は，カナダ・シンガポール・スウェーデン・日本の４か国について，経済活動に従事する人口の割合を年齢階層別・男女別に示したものである。日本に該当するものを，図１中の①～④のうちから一つ選べ。

（1997年度地理Ｂ本試験第３問問２）

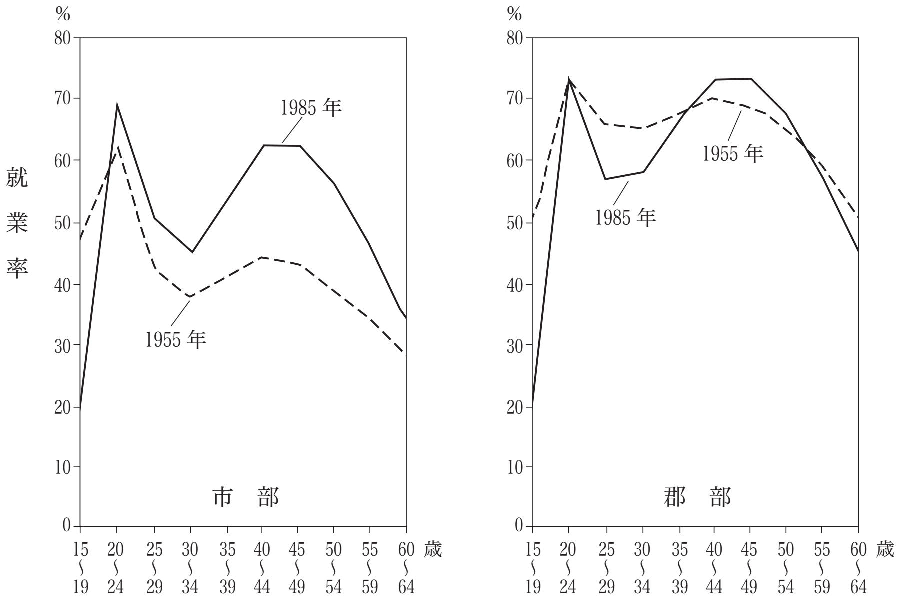


統計年次は1992年。『国際労働経済統計年鑑』により作成。

図１

［９］　次の図１は，1955年と1985年における日本の女性の就業率を，年齢階層別に市部と郡部に分けて示したものである。就業率の変化の説明として**誤っているもの**を，下の文①～④のうちから一つ選べ。

（1998年度地理Ｂ本試験第２問問３）



市部は都市地域，郡部は農山漁村地域におおむね相当すると考えてよい。
『国勢調査報告』により作成。

図１

① 市部で20歳代後半と30歳代前半の就業率が増加したのは，主として晩婚化が進むとともに，結婚しても就業を続ける女性が増えたためである。

② 郡部で10歳代後半の就業率が低下したのは，主として，雇用機会の減少により失業者が増えたためである。

③ 市部で40歳代の就業率が大幅に上昇したのは，主として，パートタイム就業者が増えたためである。

④ 郡部で20歳代後半と30歳代前半の就業率が低下したのは，主として，農業従事者が減ったためである。

［10］　文化・社会規範は，経済発展とともに，女性が社会で活躍できる環境や政治的意志決定過程への参加に影響を与えていると考えられる。次の表２は，いくつかの国における人口１人当たりＧＮＩ（国民総所得），女性の労働力率（＊），女性国会議員の割合を示したものであり，①～④は，インド，デンマーク，日本，ベトナムのいずれかである。日本に該当するものを，表２中の①～④のうちから一つ選べ。

（＊）15 ～ 64 歳人口に対する就業者と求職者の合同の割合。

（2018 年度地理Ａ追試験第２問問７）

表２

	人口１人当たりＧＮＩ（ドル）	女性の労働力率（%）	女性国会議員の割合（%）
①	53,389	75.3	38.0
②	35,939	66.8	11.6
③	1,962	78.9	24.3
④	1,595	24.4	12.2

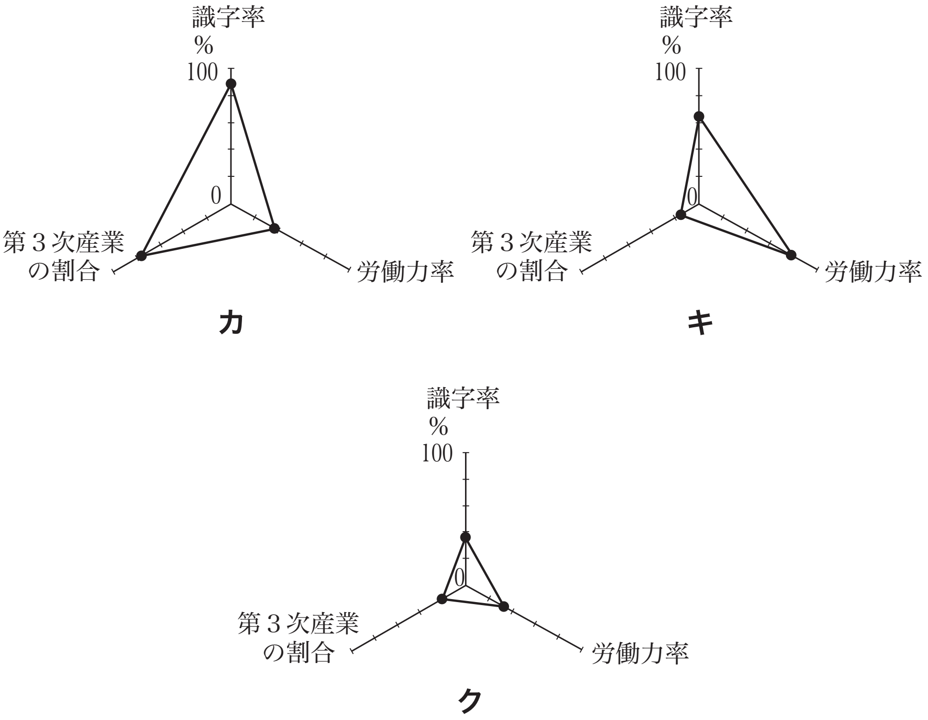
統計年次は 2015 年。ただし，インドの女性の労働力率は 2012 年。

ILOSTAT などにより作成。

［11］　女性の社会進出は各国の経済状況や宗教，文化などの影響を受ける。次の図４中の**カ**～**ク**は，カンボジア，パキスタン，メキシコのいずれかの国における女性の識字率，女性の労働力率(＊)，女性労働人口に占める第３次産業の割合を示したものである。図４中の**カ**～**ク**と国名との正しい組合せを，次の①～⑥のうちから一つ選べ。

(＊)労働力率は，15歳以上人口に対する労働力人口の割合。

(2009年度地理Ｂ本試験第６問問５)



統計年次は，女性の識字率と女性労働人口に占める第３次産業の割合が2000年～2004年のいずれか，女性の労働力率が2004年。
World Development Indicators などにより作成。

図４

	カ	キ	ク
①	カンボジア	パキスタン	メキシコ
②	カンボジア	メキシコ	パキスタン
③	パキスタン	カンボジア	メキシコ
④	パキスタン	メキシコ	カンボジア
⑤	メキシコ	カンボジア	パキスタン
⑥	メキシコ	パキスタン	カンボジア

［12］　次の図２中の**カ**～**ク**は，図１中の**E**～**G**地点付近のいずれかでみられる伝統的な住居を示している。**カ**～**ク**と**E**～**G**との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2008年度地理Ｂ追試験第３問問２）

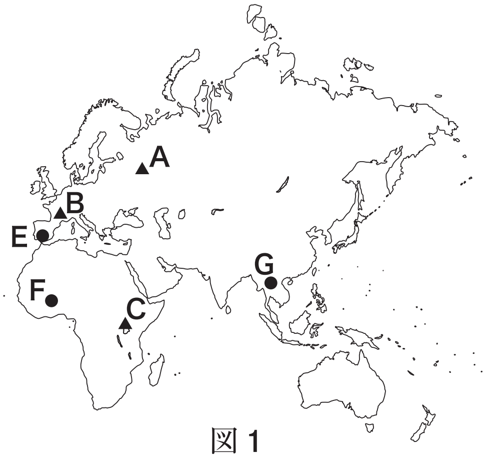


図１

カ　石積みの壁を白く塗った住居

キ　竹で編んだ壁をもつ高床式住居

ク　日干しレンガの壁を土で塗った住居

図２

（編集部　追記：編集上の都合により代替写真に差し替えております。）

	①	②	③	④	⑤	⑥
カ	E	E	F	F	G	G
キ	F	G	E	G	E	F
ク	G	F	G	E	F	E

［13］　写真２は北緯約71度に位置するバロー（アメリカ合衆国）でみられる建物である。高い床とする理由について述べた文として最も適当なものを，下の①～④のうちから一つ選べ。

（2010年度地理Ａ本試験第２問問７）

写真２

（編集部　追記：編集上の都合により代替写真に差し替えております。）

① 海岸に近いので津波や高潮に備えるため。

② 湿気が多いので風通しを良くするため。

③ 建物からの熱で永久凍土が融けて建物が傾くのを防ぐため。

④ 保管している穀物をネズミなどの害から守るため。

［14］　次の表１は，１人１日当たり食料供給熱量，太りすぎ（＊）人口の割合，１人当たり医療関連支出について国別に示したものであり，①～④は，アメリカ合衆国，韓国，日本，ニュージーランドのいずれかである。日本に該当するものを，次の表１中の①～④のうちから一つ選べ。

（＊）体重(kg)を身長(m)の２乗で割って算出される値が25以上の状態。

（2010年度地理Ｂ追試験第６問問４）

表１

	１人１日当たり食料供給熱量（kcal）	太りすぎ人口の割合（%）		１人当たり医療関連支出（ドル）
		男性	女性	
①	3691	73.3	61.5	6714
②	3397	62.2	50.2	2448
③	3039	34.0	27.0	1480
④	2838	28.6	22.0	2474

統計年次は，2003～2006年のいずれか。

『世界国勢図会』などにより作成。

［15］　次の表1は，図1中のA～Dのいずれかの国における1人1日当たりの供給栄養量(熱量)とその内訳を示したものである。C国に該当するものを，表1中の①～④のうちから一つ選べ。

(2006年度地理A追試験第4問問3)

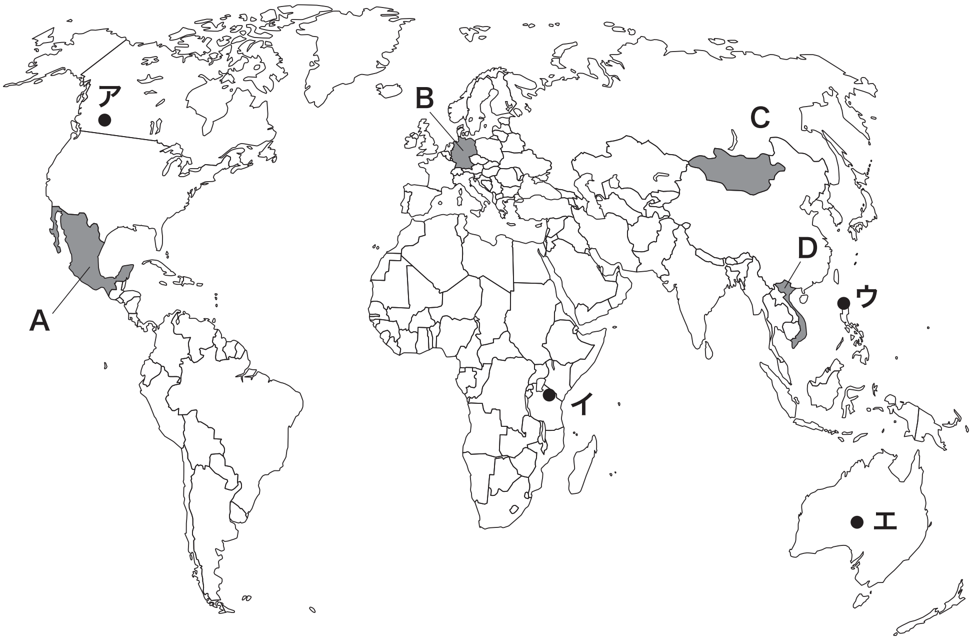


図1

表1

	熱量（kcal）	でん粉質食料の割合(%)	動物性食料の割合（%）
①	3567	26.4	29.0
②	3160	47.2	19.0
③	2533	74.1	10.5
④	1974	44.9	40.2

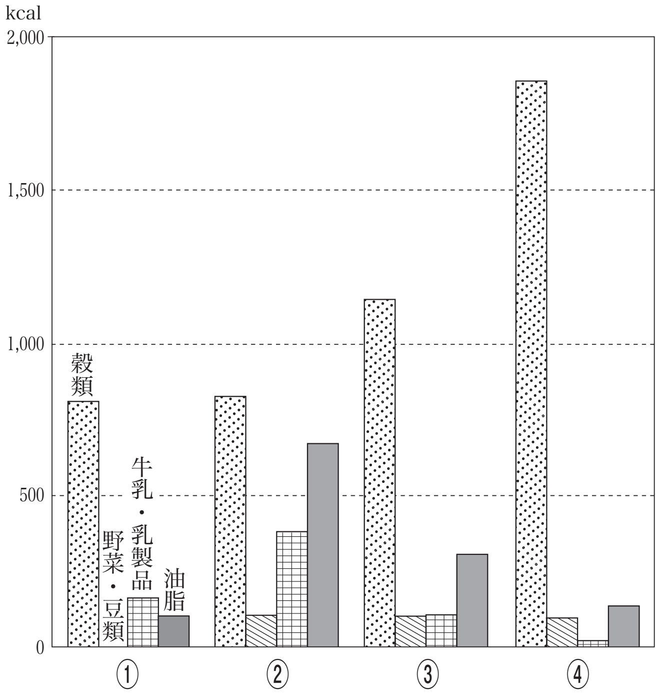
数値は，人間の消費に向けられた食料の1人1日当たり供給量。

でん粉質食料は穀類・いも類・でん粉の合計。動物性食料にはすべての動物性油脂類を含む。

統計年次は2001年。『世界国勢図会』により作成。

［16］　次の図２は，アメリカ合衆国，中国，日本，モンゴルの４か国について，穀類，野菜・豆類，牛乳・乳製品，油脂の四つの食品群を取り上げ，１人１日当たりカロリー供給量を示したものである。日本に該当するものを，図２中の①～④のうちから一つ選べ。

（1998年度地理Ａ本試験第３問問４）



統計年次は1992年。『世界国勢図会』により作成。

図２

第 19 講
日本社会の変容・生活文化［確認問題］

［１］　アキラさんは，大都市圏郊外の将来について考えるため，次の図５と図６を作成した。図５は，入間市における 1965 年から 2015 年の人口と，2020 年から 2040 年までの推計人口を５年ごとに示したものである。また，図６は，1995 年と 2015 年における入間市の年齢別人口構成を示したものである。図５と図６から，この地域で今後生じると予想される問題と，それを食い止める自治体の対策としては**適当でないもの**を，後の①～④のうちから一つ選べ。

（2024 年度地理Ｂ追試験第５問問６）

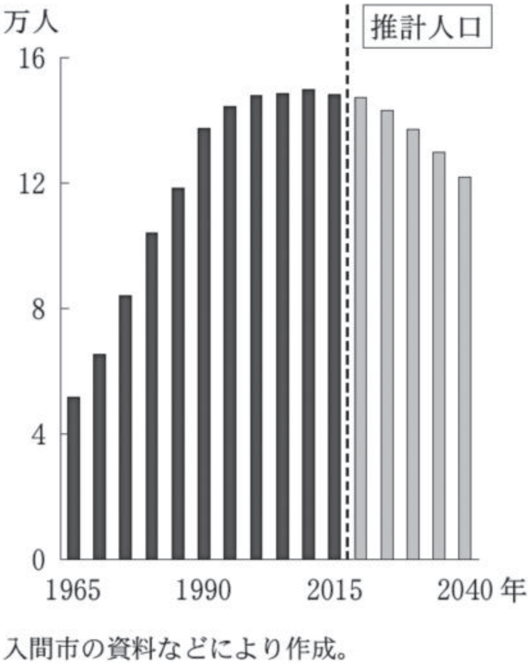


図５

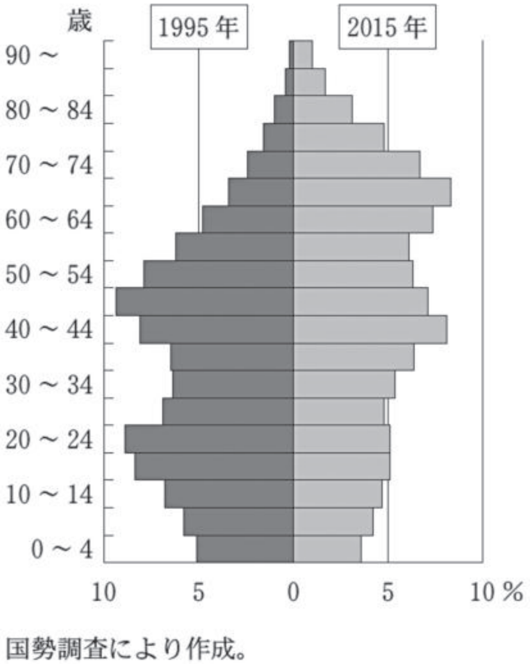


図６

	予想される問題	問題を食い止める自治体の対策
①	空き家の増加	家主と入居希望者のマッチング事業を展開する
②	高齢者医療体制のひっ迫	近隣地域の病院と連携して医療体制を構築する
③	地域コミュニティの衰退	生涯学習と福祉の機能を複合した施設を整備する
④	年少人口の減少	小規模な公園を撤去して防災拠点を整備する

［２］ 1980年代以降における日本の産業の動向について述べた文として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。

（2011年度地理Ｂ本試験第２問問５）

① 1980年代に入ると，貿易摩擦問題が顕在化したため，自動車関連の企業が北アメリカやヨーロッパにおいて現地生産を行うようになった。

② 1980年代半ば以降には，円高の影響もあり，電機・電子関連の工場が安価な労働力を求めてアジア諸国へ進出した。

③ 1990年代に入ると，IT技術の進展にともない，これに関連するベンチャー企業が大都市圏に立地するようになった。

④ 1990年代半ば以降には，原料輸送費の削減のため，鉄鋼関連の工場が南アメリカやオーストラリアに進出した。

［３］ 自動車の普及は，人々の行動空間を大きく変えた。日本における自家用乗用車の普及とその利用について述べた次の文①～④のうちから，正しいものを一つ選べ。

（1998年度地理Ｂ本試験第２問問６）

① 現在の自家用乗用車の１世帯当たり保有台数は，大都市ほど多い。

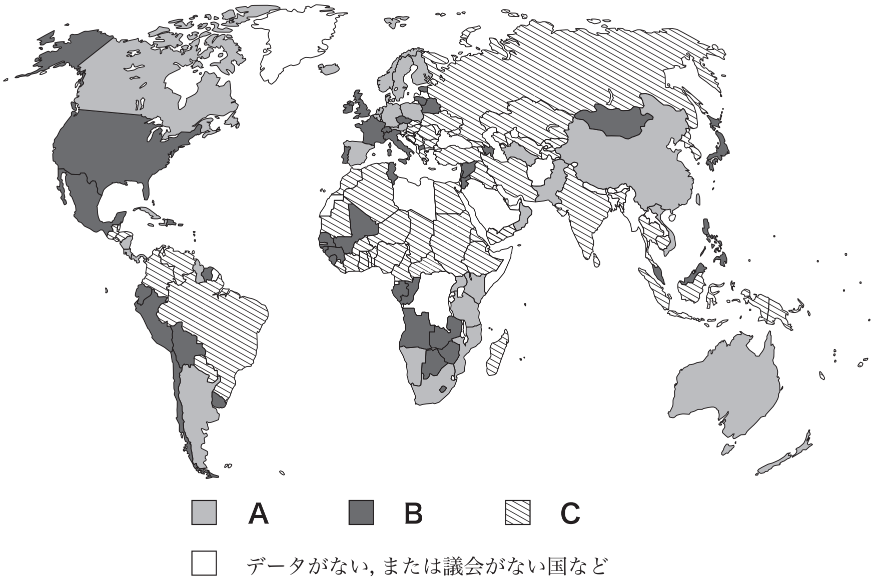
② 女性の自動車運転免許の保有率が急上昇し，男性の保有率を上回った。

③ 自家用乗用車の普及は，古くからある商店街の活性化につながった。

④ 農村地域では，自家用乗用車の普及によって通勤が容易になり，兼業化が進んだ。

［4］ 次の図1は，国会の議席に占める女性議員の割合を示したものであり，A～Cは，割合が10％未満，10～20％未満，20％以上のいずれかである。A～Cと割合との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2008年度地理Ｂ本試験第５問問１）



統計年次は2003年。
『人間開発報告書2003』により作成。

図1

	①	②	③	④	⑤	⑥
10％未満	A	A	B	B	C	C
10～20％未満	B	C	A	C	A	B
20％以上	C	B	C	A	B	A

［５］　次の写真２中の①～④は，カナダ西部，タイ北部，中国北部，マリ（西アフリカ）のいずれかにおいてみられる伝統的な家屋である。中国北部においてみられる家屋として最も適当なものを，写真２中の①～④のうちから一つ選べ。

（2004年度地理Ａ本試験第２問問６）

①

②

③

④

写真２

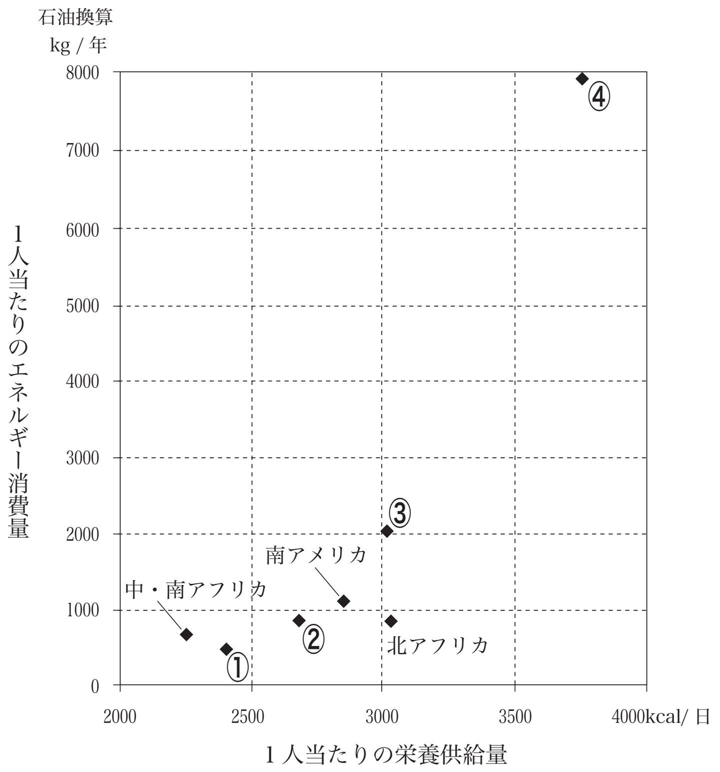
（編集部　追記：編集上の都合により図版を代替写真に差し替えております。）

［6］　次の図２は，１人当たりの栄養供給量と１人当たりのエネルギー消費量との関係を地域別に示したものであり，①～④は，北アメリカ(＊)，東南アジア，西アジア(＊＊)，南アジアのいずれかである。西アジアに該当するものを，図２中の①～④のうちから一つ選べ。

(＊)メキシコを含まない。

(＊＊)アゼルバイジャン，アルメニア，グルジア(ジョージア)を含む。

(2008年度地理Ａ追試験第４問問３)



統計年次は2003年。

World Bankの資料などにより作成。

図２

〈***Note***〉

第20講
民族・宗教

「言語・民族・宗教」のジャンルを苦手とする受験生は多いと思う。系統的に全体を学習するよりも，共通テストの出題傾向に合わせて，要点事項だけ絞って学習することが大切である。また，少数派の民族の問題や，民族・宗教の違いに起因する対立なども頻出の出題ポイントとなるが，ある程度パターン化されているので，出題例を通じ，重要事項を整理していこう。

２０．１　言語系統

世界の人々は多様な言語を使用し，その言語はいくつかのグループに分けることができる。語族や諸語といったグループ化がなされる。主な語族・諸語を見てみよう。

語族・諸語	主な言語
インド・ヨーロッパ語族	ヨーロッパの主な言語，イランの言語(ペルシャ語)，南アジアの主な言語(ヒンディー語やベンガル語)。
アフリカ・アジア語族	アラブ人(西アジアから北アフリカ)のアラビア語，ユダヤ人(イスラエル)のヘブライ語。
シナ・チベット語族	中国語(母語として使用する人口は世界最大)。
インディアン諸語	南北アメリカの先住民の言語。

他には，ウラル語族(ハンガリー)，アルタイ諸語(トルコやモンゴル)，ニジェール・コルドファン諸語(サハラ以南アフリカ)，オーストロネシア語族(東南アジアやオセアニア)などがある。

＜チェック！＞

語族の出題例は少ないので，以下の二つのポイントを必ず知っておこう。

１）インドの言語はヨーロッパと同じ系統である。

　南アジアの広い範囲で使用される言語はインド・ヨーロッパ語族に含まれ，英語などヨーロッパで主に使われている言語と同じ系統にある。

２）アフリカはサハラ砂漠を境界として言語グループが異なる。

　サハラ以北の北アフリカはアフリカ・アジア語族のアラビア語が使われ，アラブ民族が分布する。サハラ以南の中南アフリカはニジェール・コルドファン諸語が使用され，両地域には明確な違いがある。

２０．２　ヨーロッパの言語分布

ヨーロッパでは主にインド・ヨーロッパ語族の言語が使用されており，さらに３つの系統に細分化されている。

言語系統	分布地域
ゲルマン系言語	北西部で使用される。英語やドイツ語，北ヨーロッパの言語など。
ラテン系言語	南西部で使用される。フランス語やスペイン語，イタリア語など。
スラブ系言語	東部で使用される。旧ユーゴスラビア地域の言語，ロシア語など。

＜チェック！＞

ヨーロッパには多民族国家も多く，複数の言語系統に属する言語を公用語とする国もある。

国名	公用語
ベルギー	オランダ語・ドイツ語(ゲルマン系)やフランス語(ラテン系)。
スイス	ドイツ語(ゲルマン系)やフランス語・イタリア語(ともにラテン系)など。

[知っておこう]

ヨーロッパでは他にも多様な系統の言語が話されている。

言語	特徴・分布地域
ケルト系言語	インド・ヨーロッパ語族で，アイルランドやイギリス北部など。
マジャール語	ウラル語族でアジアからの影響が強い。ハンガリー。
バスク語	言語分類不明。フランスとスペインの国境。

20.3　宗教の概要

宗教は発祥地の自然環境によって乾燥地域の宗教と湿潤地域の宗教に分けられる。さらに特定の民族のアイデンティティと結びつく民族宗教と，民族や地域を超えて広い範囲に伝播する世界宗教がある。

種類	宗教名	特徴
民族宗教	ユダヤ教	イスラエルのユダヤ人，世界中に離散したユダヤ系の人々によって信仰される。
	ヒンドゥー教	インド特有の宗教で，カースト制度や牛を神聖視するインド古来の文化と結びつく。
世界宗教	キリスト教	ヨーロッパに広がり，さらに植民地支配の過程で中南アメリカをはじめとする世界中に広がった。
	イスラーム	商人の宗教であり，交易路沿いにユーラシア内陸部や東南アジアにも広がった。
	仏教	主に農業地域に広がる。日本などに伝わった大乗仏教，インドシナ半島に伝わった上座仏教がある。

[知っておこう]

６世紀ごろに生まれたイスラームは世界宗教の中で最も新しく，現在でも信者数を大きく増やしている。教典コーランがアラビア語で書かれていることもあり，まずアラブ民族に広がったが，さらにアラブ商人たちによって交易路沿いに世界各地に広がっていった。主な伝播地域をチェックしよう。

１）ユーラシア大陸内陸部

東西を結ぶ交易路であるシルクロードに沿って交易都市が並び，イスラーム化されていった。ステップや砂漠が広がる乾燥地域であり，交易の盛んな地域である。中央アジア（ウズベキスタンなど）や中国北西部のウイグル地方などのトルコ系の民族にムスリム（イスラーム教徒）が多い。

２）東南アジア島嶼部

現在のインドネシアにあたる地域で栽培されていた香料を売買するための交易路が東南アジアのインド洋沿岸部に発達していた。アラブ商人たちにより港や都市へとイスラームが伝えられる。なお，一部にはバリ島（インドネシア）のように，より古い時代に信仰されていたヒンドゥー教の文化が残る地域もある。

３）サヘル地帯

サハラ砂漠の南縁のステップ地域がサヘル地帯であるが，ニジェール川沿い

などに多くの交易都市が発達し，やはりアラブ商人によってイスラームが伝えられた。乾燥地域の岩塩や，ギニア湾岸の熱帯産物などが取引された。

なお，イスラームにはアルコールの摂取や豚肉を食することを禁忌とする文化があるが，これはイスラーム発祥地のみに限らず，世界中のイスラーム地域でも教義として守られている。

２０．４　キリスト教の宗派とヨーロッパにおける分布地域

キリスト教は伝統的な宗派(エチオピア正教など)も存在するが，ヨーロッパに伝播したものは大きく３つの宗派に分かれた。

宗派	分布地域
正教	東部に分布し，ロシアに信者が多い。
カトリック(旧教)	主に南西部のラテン系の人々に信者が多い。スペインやポルトガルの植民地支配により，中南アメリカはカトリック化された。
プロテスタント(新教)	北西部に分布。イギリス系の人々が移住した北アメリカでも比較的信者が多い。

＜チェック！＞

ヨーロッパでは言語分布とキリスト教宗派の分布は大まかに重なっている。

・北西部(イギリスやドイツなど)・・・ゲルマン系言語の使用地域であり，プロテスタントが信仰されている。

・南西部(スペインやイタリアなど)・・・ラテン系言語の使用地域であり，カトリックが信仰されている。

・東部(ロシアなど)・・・スラブ系言語の使用地域であり，正教が信仰されている。

[知っておこう]

上記のような言語系統と宗派の対応が見られるヨーロッパだが，例外も多い。

国・地域	言語系統・宗教(宗派)
ドイツ南部	ゲルマン系言語・カトリック。第265代のローマ教皇ベネディクト16世はドイツ南部出身。
ポーランド	スラブ系言語・カトリック第264代のローマ教皇ヨハネ・パウロ２世はポーランド出身。
旧ユーゴスラビア	主にスラブ系言語が使用され，東部のセルビアでは正教徒が多いが，西部のクロアチアはカトリックであり，中部のボスニア・ヘルツェゴビナではムスリム(イスラーム教徒)が多数派。

アイルランド	ケルト系言語であり，カトリック。イギリスの北アイルランド地方では，カトリックのアイルランド系住民とプロテスタントのイギリス系住民の間で対立が生じている。

２０．５　南北アメリカ大陸の先住民

南北アメリカ大陸の先住民は，かつてユーラシア大陸から移動してきた人々の末裔と言われている。その時代は現在より海面高度が低く，ベーリング海峡(ユーラシア大陸と北アメリカ大陸の間)が陸化していた。

北極海沿岸やカナダ北部はイヌイット，カナダ南部からアメリカ合衆国へはネイティブアメリカン，カリブ海地域・中央アメリカから南アメリカへはインディオが，それぞれ先住民として独自の文化を有し，生活の基盤を築いていた。

[知っておこう]

彼らの伝統的言語は，いずれもインディアン諸語に区分される。現在はそれぞれの国の言語が基本的には使用されているが，カナダのヌナブト準州ではイヌイットの言語が使用されたり，ペルーやボリビアではインディオの言語が公用語とされたりするなど，伝統的な文化の尊重もみられる。

２０．６　アメリカ合衆国の歴史と先住民の迫害

北アメリカではイギリス(カナダ東部ではフランス)による進出が盛んとなり，開発が進められた。東部の森林地帯など湿潤地域において狩猟や採集生活を行なっていた先住民(ネイティブアメリカン)が住処を奪われ，時には多くの命が失われるといった迫害も生じていた。

18世紀にはアメリカ合衆国が独立し，19世紀に太平洋岸で金鉱が発見され(ゴールドラッシュ)，さらに大陸横断鉄道が完成すると，ヨーロッパ系の人々の西部への進出が盛んとなった。フロンティア(開拓前線)の西進である。しかし，同時に先住民への弾圧はさらに激しくなり，彼らは土地を失い，主に西部の乾燥地域に設けられた居留地へと封じ込められることになった。

現在は先住民の文化も尊重され，自由や権利も回復しつつある一方で，社会的地位は低く，未だに居留地に住む人々も少なくない。

２０．７　アメリカ合衆国の民族と社会

アメリカ合衆国で長く社会的地位の高い立場を占めていたエリート層が「WASP

（ワスプ）」である。白人・アングロサクソン系・プロテスタントの頭文字を取ったもの。アングロサクソン系とはイギリス系のことであり，彼らが建国の祖となった。独立後にはアイルランドやイタリアなどからの移民も増え，彼らはカトリックを信仰する。

このようにヨーロッパ系の人々によって形づくられたアメリカ合衆国ではあるが，多くの移民を迎え入れるなど，地域によって民族構成は多様である。

・アフリカ系・・・南部（南東部）のプランテーションでの労働力としてアフリカ大陸から連れてこられた人々の子孫。南東部諸州で割合が高いが，奴隷解放後は北部の工業都市へと移住した人々も多く，デトロイトなど工業都市においてはアフリカ系の割合がひときわ高い。社会的地位は概して低い。

・ヒスパニック・・・スペイン語を母語とする人々。メキシコやカリブ海地域からの移住者とその子孫。1980年代以降に急増し，現在ではアメリカ合衆国全人口の６分の１以上を占めている。フロリダ半島やメキシコとの国境沿いの州で割合が高く，ヒスパニックの人口が過半数に達する州も一部にはある。都市部に住む人々も多いが，小麦地帯などの農業地域で労働力として重用される人々も少なくない。

・アジア系・・・人口は少ないものの，2000年代に入り高い増加率を示している。伝統的な都市内部の集住地区（チャイナタウンなど）で商業や金融業に従事する者もいるが，現在はICT技術者として先端産業地区で働く者も多い。太平洋岸の諸州で割合が高い。

［知っておこう］

「民族のサラダボウル」という言葉がある。アメリカ合衆国における民族の多様性を示す言葉であると同時に，それぞれの民族が独自の文化を守りつつお互いが尊重されるべきであるという考え方を示す言葉でもある。「民族のサラダボウル」はとくに大都市において顕著である。ヨーロッパ系の人々が多数を占めるアメリカ社会ではあるが，チャイナタウンやユダヤ人街，さらにはアフリカ系の人々やヒスパニックの集住地区など，多様な民族が大まかな居住範囲を策定し，各々の文化の中で暮らしている。ニューヨークやシカゴなど大都市においてはヨーロッパ系の人々以外の割合も比較的高く，一部では旧市街地に社会的地位の低い少数民族が集まるスラムも形成されている。

２０．８　さまざまな民族・宗教問題

民族や宗教の違いに起因する対立は多い。実際の出題例を通じて，それらを整理していこう。

練習問題[11]

①；北アイルランド地方(イギリスの一部)について。アングロサクソン(ゲルマン)系プロテスタントと，アイルランド(ケルト)系カトリックとの対立。

②；シンガポールはマレー半島の先端に位置する都市国家。近接しているマレーシアと，かつて連邦国家を形成していた。いずれも旧イギリス植民地だが，マレー系住民中心の国づくりを進めるマレーシアと，英語も公用語とするなどより国際的な国家を目指すシンガポールとで考え方の相違があり，連邦は解消されている。

③；南アジアは国ごとに宗教構成がはっきりしている。インドを挟んでパキスタンとバングラデシュは同じ宗教の信者が多い。

④；ピレネー山脈西部のバスク地方には独自の言語を使用するバスク人が分布。

<チェック！>

南アジアは全域がイギリスによって支配されていたが，主に宗教分布によって国境線が策定された。国ごとに信仰される主な宗教は重要。

国名	宗教
インド	ヒンドゥー教徒が多数。ただし，ムスリムも１億人以上。
パキスタン	イスラーム。かつてバングラデシュと連邦を構成。
バングラデシュ	イスラーム。かつてパキスタンと連邦を構成。
スリランカ	多数派のシンハリ人は仏教徒，少数派のタミル人はヒンドゥー教徒

※ネパールはヒンドゥー教，ブータンはチベット仏教，モルディブはイスラーム。

インド北部からパキスタン北部に広がるカシミール地方は両国が帰属を争う地域。藩王はヒンドゥー教徒，領民はムスリムであり，宗教構成が複雑。

[知っておこう]

東南アジアは欧米によりほとんどの地域が植民地化され，現在もその影響が大きく残る。テストで出題されやすいところであるので，簡単にまとめておこう。

国・地域	植民地支配の歴史
フィリピン	スペイン植民地時代にカトリックが広まり，アメリカ合衆国植民地時代に英語が使われるようになった。
インドシナ半島	東部（ベトナムなど）は旧フランス領，西部（ミャンマー）は旧イギリス領。中央のタイは緩衝国として独立を維持。
マレー半島	旧イギリス領。マレーシアとシンガポールはかつて連邦を構成。
インドネシア	重要な海上の交易路であり，商業国家オランダによって植民地とされた。なお東ティモールはポルトガルに支配され，カトリック化。

練習問題［12］

A：ヨーロッパ南東部に位置する国がセルビア。かつてこの地域に存在していた連邦国家ユーゴスラビアの中心的地位にあった。セルビア成立後も国内の混乱は続き，とくに南部のコソボ自治州はムスリムが多く，独立運動もさかんだったが，その一方でセルビア政府からの弾圧も行われていた。やがて2008年にコソボは独立を宣言し，日本とも国交が結ばれている。

B：西アジアのパレスチナ地方に位置する国がイスラエル。かつてはアラブ系のパレスチナ人が居住していたが，19世紀以降世界中からユダヤ人が大量に移住。第二次世界大戦後にユダヤ人によってイスラエル建国が宣言された。現在もユダヤ人とパレスチナ人との間で対立が続いている。

C：スリランカの主要民族は仏教徒のシンハリ人であるが，北部にはインド半島から移住してきたヒンドゥー教徒のタミル人が居住し，対立が生じている。

練習問題［13］

K：旧ユーゴスラビア。スラブ系言語が使われる地域である。北西部はスロベニアやクロアチアなどのカトリックの多い地域，南東部はセルビアや北マケドニアなど正教徒の多い地域。中央部のボスニア・ヘルツェゴビナはムスリムが多い地域であるが，クロアチア系住民（カトリック），セルビア系住民（正教）も比較的多く，複雑な宗教構成となっている。

　またセルビア南部にはアルバニア系のコソボ人が居住。現在は分離独立を果たしている。

L：イスラエルを中心とした地域で，パレスチナ地方と呼ばれる。ユダヤ人によるイスラエル建国の際には元々この地に住んでいたアラブ系のパレスチナ人が土地を失い，難民として周辺のシリアやヨルダンなどに流出した。

M：ソマリア。「アフリカの角（つの）」と称される地域。無政府状態が続き，国内に混乱が生じている。自然環境の厳しい地域で国民の生活は豊かではない。一

部では沿岸のインド洋で海賊行為もみられる。

練習問題[14]

P：イギリスの北アイルランド地方。アイルランド島はイギリスに植民地支配された歴史があり，アイルランド独立の際にこの北アイルランド地方のみイギリスに残された。アイルランド系住民とイギリス系住民との対立がみられる。

Q：バスク地方。ピレネー山脈西部のフランスからスペインの国境にまたがる地域。独自の言語を用いるバスク人が居住。

R：キプロス。ギリシャ系住民(キリスト教徒)が多数を占める国だが，北部には対岸から渡ってきたトルコ系(ムスリム)も多く，実質的な分裂国家となっている。ＥＵ加盟国ではあるが，キプロスをめぐってギリシャとトルコは国際的に友好とは言い難い関係にあり，このことがトルコのＥＵ加盟の一つの障害であると言われている。

＜チェック！＞

トルコは貿易や工場進出など経済や産業分野でのヨーロッパとの関係が深く，将来的なＥＵ加盟への動きもある。しかし，いくつかの民族問題がＥＵへのスムーズな加盟の障害になっている。

一つがキプロス問題。キプロスではギリシャ系住民による「南キプロス」とトルコ系住民による「北キプロス」の対立がみられ，国際的にもギリシャは南キプロスを，トルコは北キプロスを支援しており，両国の関係は微妙なものとなっている。すでにＥＵの一員であるギリシャやキプロスの立場を尊重するならば，その対立勢力であるトルコをＥＵへと迎え入れるには困難な状況にある。

もう一つがクルド人問題。トルコ東部からイラン，イラクなどの山岳地帯に広く居住する人々がクルド人。イラン系のクルド語を使用するムスリムである。トルコ国内においては少数派であるクルド人が差別され，ときに迫害されるなど，彼らの立場は危ういものであり，一部にはテロ行為などが生じる場合もある。こうした未解決の民族問題をＥＵの内側に持ち込むことはリスクが大きく，その平和的な解決がみられるまで，トルコのＥＵ加盟は遅れるのではないかと言われている。

ワンポイント

出題率は高くないが，旧ユーゴスラビアについて取り上げておこう。

かつてユーゴスラビアだった範囲は，現在は表に示した７つの国に分かれている。コソボを除きいずれもスラブ系の国である。宗教は東側のセルビアなどで東方正教，西側のクロアチアなどでカトリックが信仰されているが，ボスニア・ヘルツェゴビナ中央部やコソボなどのようにイスラム教徒が多数を占める地域も存在している。

国	言語	宗教
スロベニア クロアチア	スラブ系言語	カトリックが信仰される
ボスニア・ヘルツェゴビナ	スラブ系言語	ムスリムが多数派だが，クロアチア系住民はカトリック教徒，セルビア系住民は正教徒
セルビア モンテネグロ 北マケドニア	スラブ系言語	東方正教が信仰される
コソボ	アルバニア系言語	イスラームが信仰される

第 20 講
民族・宗教［練習問題］

［1］ インドにおける文化や人々の生活について説明した文として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。

（2003 年度地理Ｂ本試験第３問問７）

① インドのうち北・中部で話されている言語の大部分は，インド・ヨーロッパ語族に属する。

② カースト制度は，インドに多いヒンドゥー教徒の生活に大きな影響を与えているが，カーストによる差別は憲法で禁止されている。

③ 国際的にみて賃金水準が低く，英語を理解する技術者が多いため，輸出向けコンピュータソフト産業が発展している。

④ 欧米化の進展とともに伝統的な価値観が崩れ，農村でも人々の食生活が肉食中心に変わってきた。

［2］　次のX～Zの文章は，アフリカからの三人のノーベル賞受賞者とその出身国の状況について説明したものであり，図1中のカ～クは，受賞者のいずれかの出身国である。X～Zとカ～クとの正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2007年度地理Ｂ本試験第４問問６）

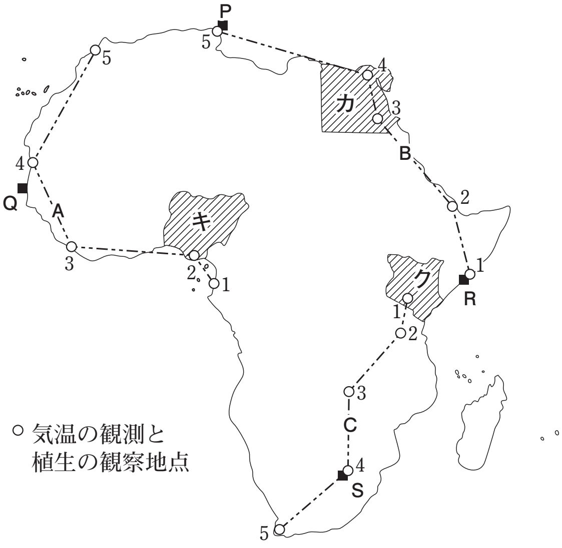


図1

X　ウォレ・ショインカの出身国は，多民族からなり，政治や石油利権をめぐって対立が続いている。彼は1967年に始まった内戦で，地方の民族主義を弾圧した軍事政権を厳しく批判し，投獄されたこともあった。

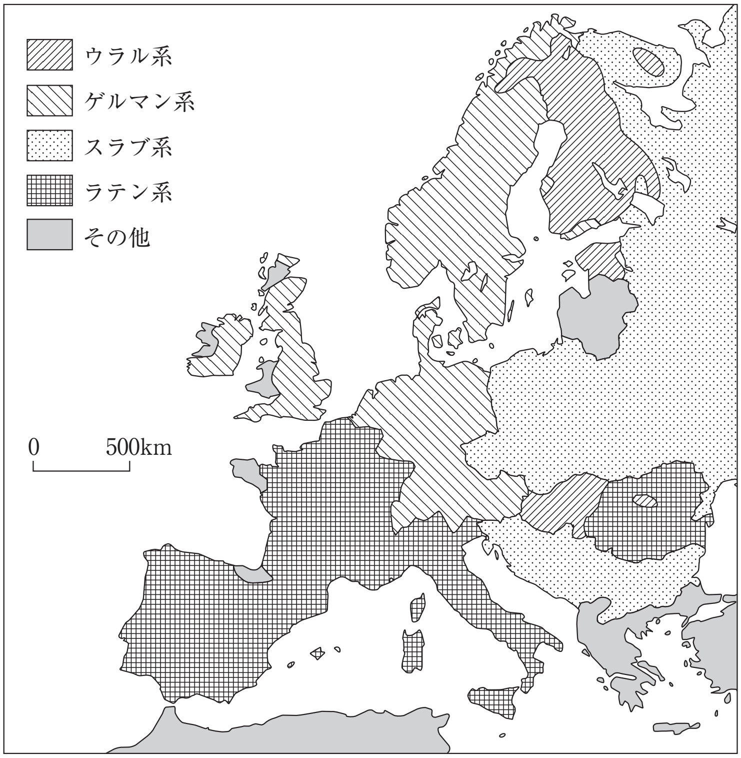
Y　ナギーブ・マフフーズの出身国は，アラブ世界の政治や文化における中心的国家である。彼の小説はイスラム教の教義に反するとして，発禁処分にされたこともあったが，アラブ世界で多くの読者をもち，映画化された。

Z　ワンガリ・マータイの出身国は，多様な野生動物が多く生息する。彼女は，砂漠化や薪の採取による森林の破壊が深刻であったため，植林によって農村女性の社会参加を実現する運動をアフリカ各地に広めた。

	①	②	③	④	⑤	⑥
X	カ	カ	キ	キ	ク	ク
Y	キ	ク	カ	ク	カ	キ
Z	ク	キ	ク	カ	キ	カ

［３］　次の図３は，ユーラシア大陸西部における言語分布を，ウラル系，ゲルマン系，スラブ系，ラテン系，その他の五つに大別して示したものである。この図を参考に，当地域の言語分布に関して述べた下の文①～④のうちから，**誤っているもの**を一つ選べ。

（1998年度地理Ａ追試験第１問問５）



「Diercke Weltatlas」により作成。

図３

①　ヨーロッパの言語分布には，複雑な民族移動の結果が反映されている。

②　ゲルマン系言語の分布とラテン系言語の分布の境界は，現在の国境と完全に一致する。

③　東ヨーロッパに孤立する形で分布しているラテン系言語は，ルーマニア語である。

④　図中に「その他」で示されている言語の分布には，ギリシャ語やトルコ語の分布地域が含まれている。

［４］　世界にはおびただしい数の言語が存在するが，それらは，系統の異なるいくつかの言語群に分類することができる。また，言語は思考やコミュニケーションの基礎となるため，民族を識別する際の重要な指標の一つとなる。ある言語を共有する社会集団が特定の宗教・宗派と結びつく例もしばしばみられるが，三大宗教のように，民族や国家の枠を越えて広い範囲で受容された宗教もある。

下線部の例として適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。
（1997年度地理Ａ本試験第２問問３）

① チベット語とヒンドゥー教　② ヘブライ語とユダヤ教
③ ポルトガル語とギリシア正教　④ マレー語と仏教

［５］　多様な自然環境と密接に結びついた，さまざまな宗教が生み出された。それらの宗教の中には，民族の範囲を越えて世界宗教となり，他地域との交流の過程で，発祥地とは異なる環境を持つ地域に伝えられ，そこに定着する場合もあった。

下線部に関して，宗教が発祥地とは異なる環境を持つ地域に伝えられ，そこに定着した例として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。
（1998年度地理Ａ追試験第１問問７）

① インドネシアのイスラム教　② フィリピンのキリスト教
③ ブラジルのキリスト教　④ リビアのイスラム教

［６］ 次の写真２は，それぞれある宗教にみられる建築様式を示している。これらの宗教のおもな伝播範囲について述べた次の文①～⑤のうちから，写真２中の**ア**・**イ**に該当するものをそれぞれ一つずつ選べ。

（1997年度地理Ａ本試験第２問問４）

ア

イ

写真２

（編集部　追記：編集上の都合により代替写真に差し替えております。）

① 東アジア・東南アジアのモンスーン地域のほか，アジア内陸の高地やステップ地域にも及んでいる。

② 中央アジアを除く旧ソ連地域と東ヨーロッパの一部が中心となる。

③ 西アジア・中央アジア・北アフリカの乾燥気候地域が中心だが，東南アジアの一部の国にも広がっている。

④ 北ヨーロッパと北アメリカのアングロサクソン系住民の分布範囲とよく対応する。

⑤ 南アメリカ大陸を含むラテン系言語の使用地域のほとんどが含まれる。

［7］　次の①～⑥の文は，図1中のA～Fのいずれかの国（＊）の言語と宗教の特徴について述べたものである。図1中のB国とF国の特徴を述べた文として最も適当なものを，次の①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選び，記号で答えよ。

（＊）図1の範囲外にある各国の領土は含まない。

（2006年度地理A本試験第4問問3）

Alexander Weltatlas などにより作成。

図1

① 主にウラル系の言語が話され，カトリックやプロテスタントが信仰されている。

② 主にゲルマン系の言語が話され，北部では主にプロテスタント，南部ではカトリックが信仰されている。

③ 主にゲルマン系の言語が話され，ほぼ全域でプロテスタントが信仰されている。

④ 主にスラブ系の言語が話され，ほぼ全域でカトリックが信仰されている。

⑤ 主にスラブ系の言語が話され，イスラム教や東方正教が信仰されている。

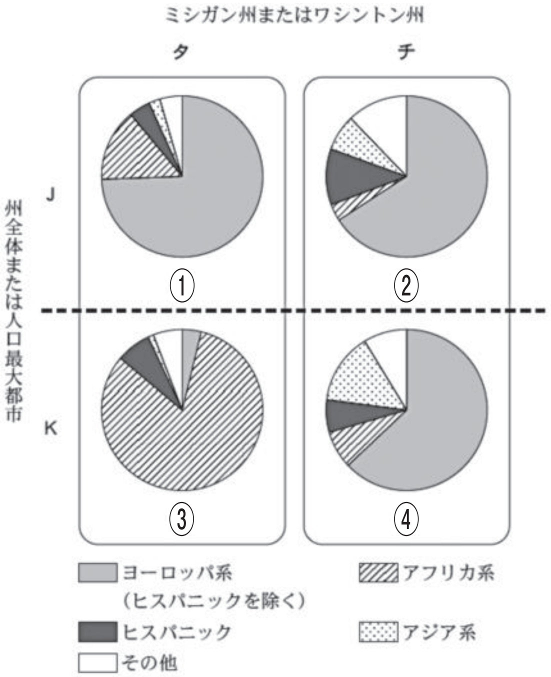
⑥ 主にラテン系の言語が話され，ほぼ全域でカトリックが信仰されている。

［8］　次の図３は，ミシガン州とワシントン州の州全体，およびミシガン州とワシントン州の人口最大都市であるデトロイト市とシアトル市における，人種・民族別割合を示したものである。図３中のタとチは，ミシガン州とワシントン州のいずれか，ＪとＫは，州全体と人口最大都市のいずれかである。ミシガン州の州全体に該当するものを，図３中の①～④のうちから一つ選べ。

（2021 年度地理Ｂ本試験第４問問４）

U.S. Census Bureau の資料などにより作成。

図１

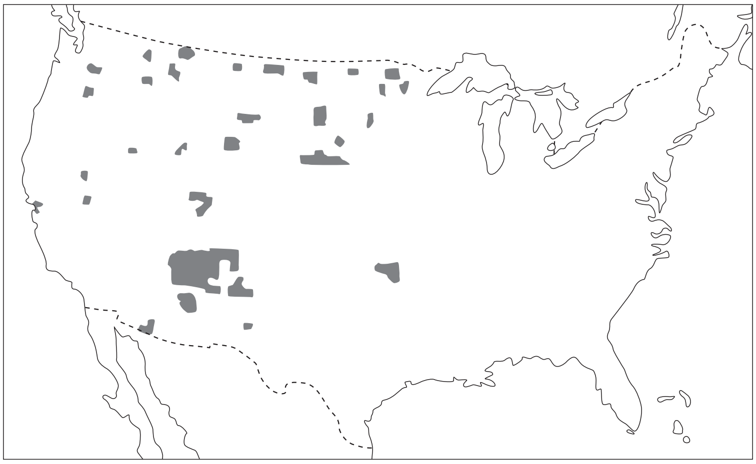


統計年次は 2010 年。U.S. Census Bureau の資料により作成。

図３

［９］　次の図２中の黒地部分は，アメリカ合衆国の先住民であるネイティブアメリカンの主な保留地の分布を示したものである。この保留地の分布について説明した下の文①～④のうちから，正しいものを一つ選べ。

（1997年度地理Ａ追試験第２問問５）



「Diercke Weltatlas」などにより作成。

図２

① ネイティブアメリカンを農業労働力として利用するため，新たに開拓された農業地帯の周辺に保留地が与えられた。

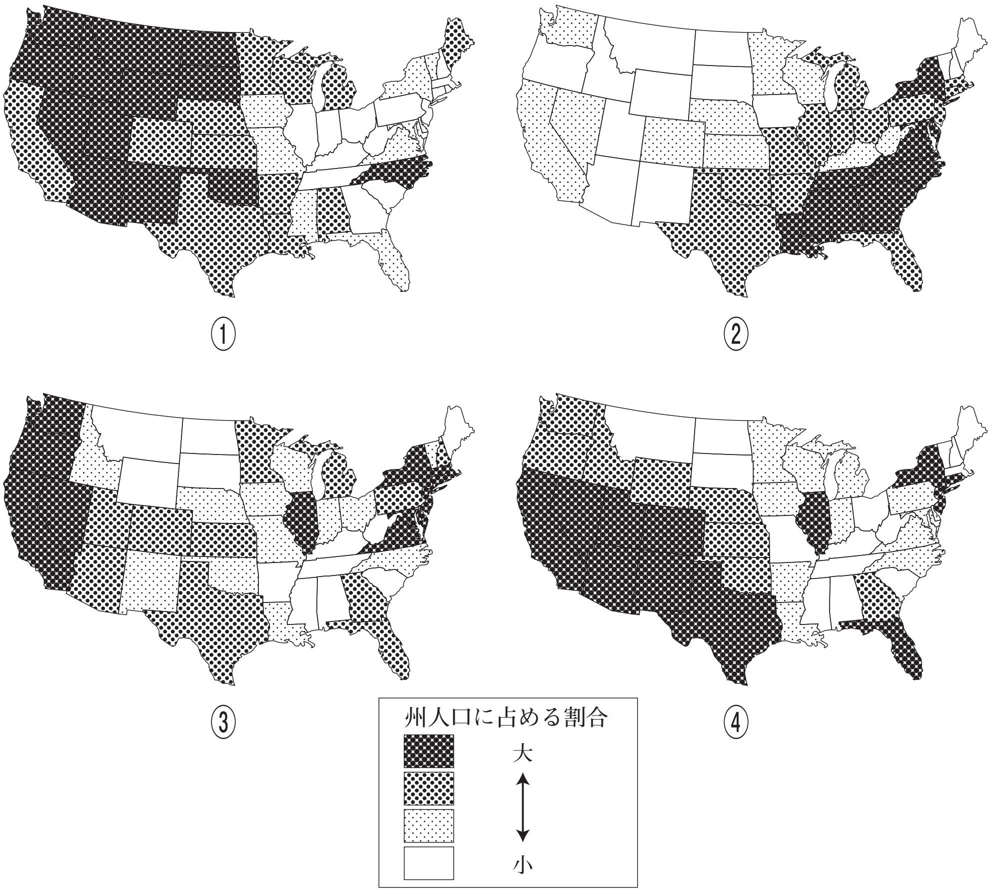
② ネイティブアメリカンの多くが都市的生活を希望したので，大都市の郊外に保留地が設定された。

③ ネイティブアメリカンの大部分がもともと生活の場としていた砂漠や荒地が，保留地として返還された。

④ 農牧業に適した土地，鉱産資源に富む土地などが，白人によって占められた結果，生活には不便な土地が，保留地としてネイティブアメリカンに残された。

［10］　次の図２は，アメリカ合衆国（アラスカ州とハワイ州を除く）の各州の人口に占めるネイティブアメリカン，黒人，中国系，ヒスパニックのいずれかの割合を相対的に示したものである。中国系の割合を示したものとして最も適当なものを，図２中の①～④のうちから一つ選べ。

（2003年度地理Ａ追試験第２問問５）



統計年表は2000年。アメリカ合衆国センサス局の資料により作成。

図２

［11］　世界各地で発生してきた国家の独立や自治権拡大を求める運動について述べた文として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

（2001年度地理Ｂ本試験第４問問３）

①　北アイルランドでは，少数派のプロテスタントが，カトリックの多いイギリスからの分離とアイルランドへの帰属を求める動きがある。

②　華人の割合が高いシンガポールは，マレー系住民の割合が高いインドネシアから分離して独立した。

③　ヒンズー教徒が多数を占めるバングラデシュは，イスラム教徒が多いパキスタンから独立した。

④　フランスとスペインの国境地帯にまたがるバスク地方には，独立国家の建設や自治権拡大を求める動きがある。

［12］　民族の文化的・歴史的背景の違いが，時として紛争に結びつくことがある。下の**カ**～**ク**の文は，次の図**３**中の**A**～**C**のいずれかにおける地域紛争を説明したものである。**A**～**C**と**カ**～**ク**との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2017 年度地理Ｂ追試験第３問問５）

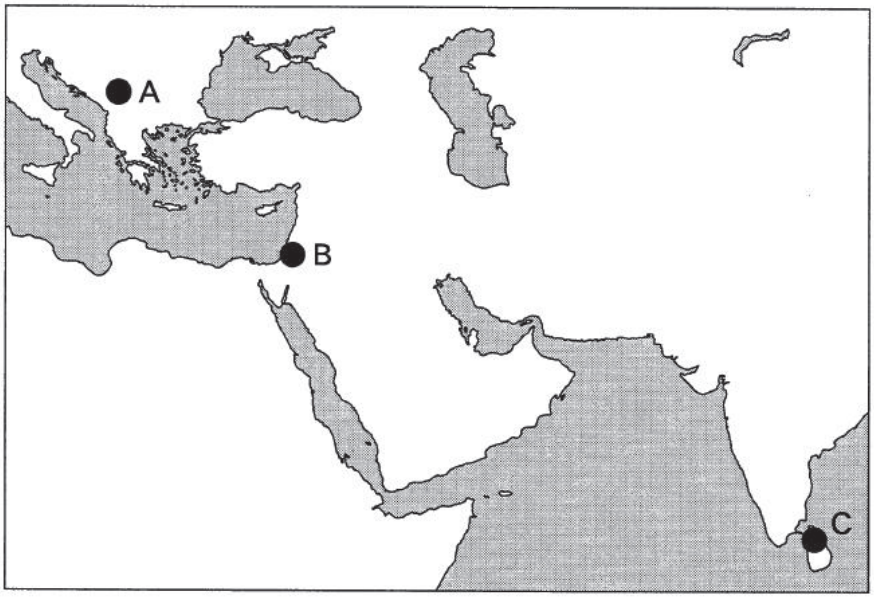


図３

カ　1948 年に建国を宣言した民族と，これに反対する周辺諸国との間で，紛争が起きている。

キ　ヒンドゥー教徒であるタミル人と，仏教徒であるシンハリ（シンハラ）人との間で，紛争が起きた。

ク　ムスリム（イスラム教徒）を中心とした民族が独立運動を起こし，紛争を経て独立に至った。

	①	②	③	④	⑤	⑥
A	カ	カ	キ	キ	ク	ク
B	キ	ク	カ	ク	カ	キ
C	ク	キ	ク	カ	キ	カ

［13］　下の**カ**～**ク**の文は，次の図４中に示した**K**～**M**のいずれかの範囲の中で発生した難民に関して述べたものである。**カ**～**ク**と**K**～**M**との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2008年度地理Ｂ本試験第５問問６）

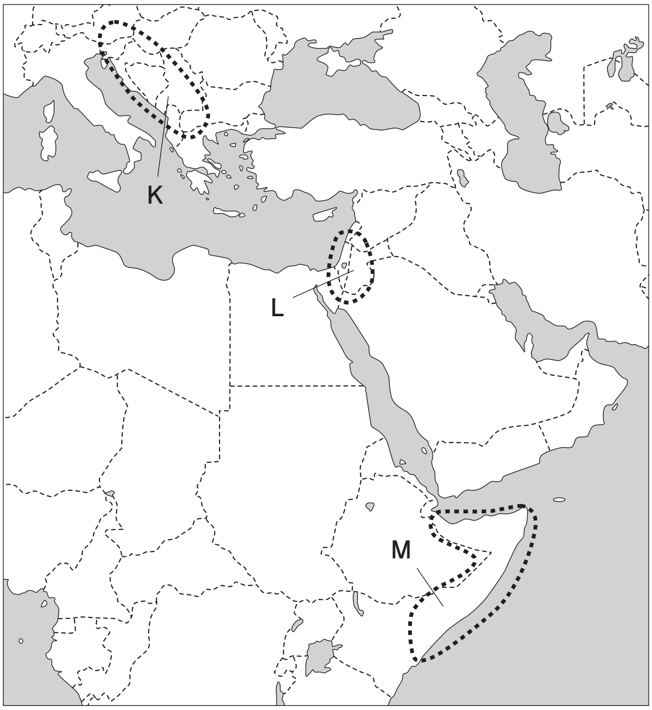


図４

カ　ユダヤ人国家の建国にともなって難民が発生した。

キ　国の体制が崩壊し，複数の民族・国家間紛争が生じて難民が発生した。

ク　干ばつなどの災害のほか，度重なる内戦の対立で難民が発生した。

	①	②	③	④	⑤	⑥
カ	K	K	L	L	M	M
キ	L	M	K	M	K	L
ク	M	L	M	K	L	K

［14］　次の**カ**～**ク**の文は，下の図３中の**P**～**R**のいずれかの地域でみられる民族紛争について述べたものである。**カ**～**ク**と**P**～**R**との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2009年度地理Ｂ追試験第６問問４）

カ　カトリック系住民とプロテスタント系住民が対立してきた。

キ　キリスト教系住民とイスラム教系住民が対立してきた。

ク　独自の言語を使う民族が独立国家の建設をめざす運動を展開してきた。

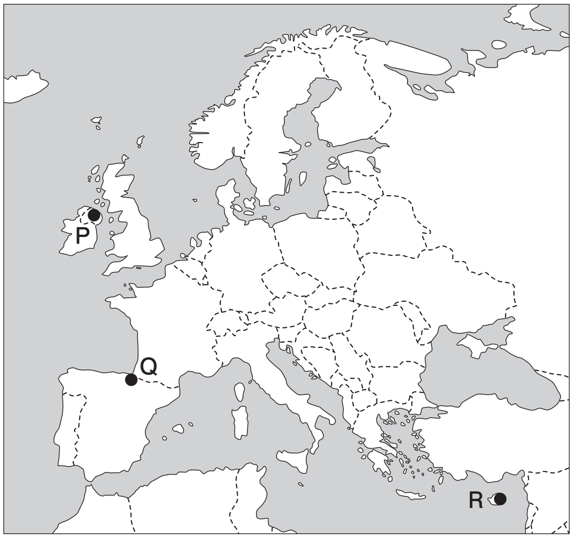


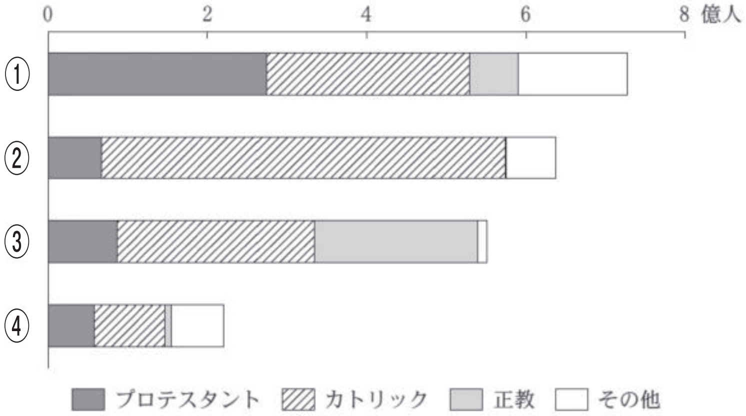
図３

	カ	キ	ク
①	P	Q	R
②	P	R	Q
③	Q	P	R
④	Q	R	P
⑤	R	P	Q
⑥	R	Q	P

第20講
民族・宗教［確認問題］

［１］　次の図５は，世界のいくつかの地域におけるキリスト教の人口について，宗派別に示したものである。図５中の①～④は，アフリカ，北アメリカ，中央・南アメリカ，ヨーロッパのいずれかである。アフリカに該当するものを，図５中の①～④のうちから一つ選べ。

（2024年度地理Ｂ追試験第３問問６）



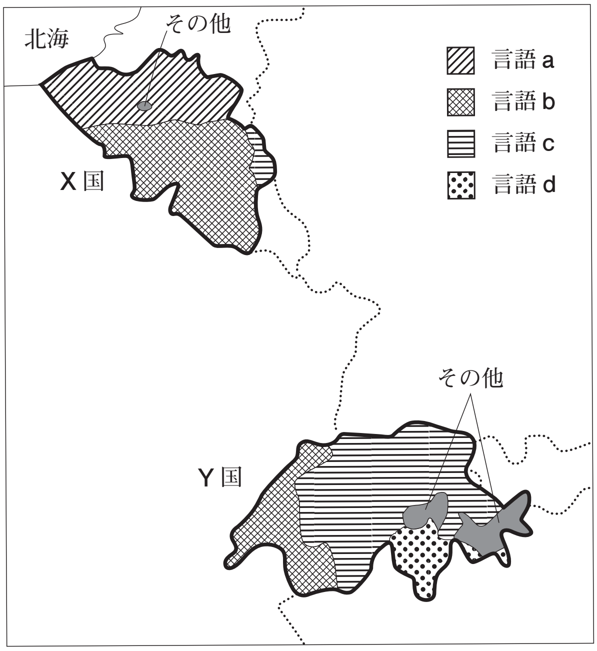
ヨーロッパの数値にはロシアを含む。統計年次は2022年。
The World Almanac and Book of Facts により作成。

図５

［2］　次の図３は，図１中のＸ国とＹ国における言語による地域区分を示したものである。Ｘ国とＹ国の言語にかかわる特徴について説明した下の文章中の空欄タとチに当てはまる語の正しい組合せを，下の①～④のうちから一つ選べ。

（2010年度地理Ｂ本試験第５問問５）

図１



点線と太線は国境を示している。
Statesman's Yearbook などにより作成。

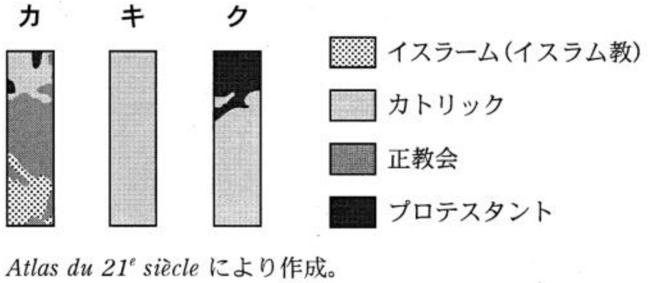
図３

言語 a と c はともに（　タ　）語派に属し，言語 b と d はともにラテン語派に属する。X 国と Y 国とは，国内で複数の言語が用いられている点で共通している。Y 国では公用語を（　チ　）制定している。

① タ－ゲルマン　チ－一つ
② タ－ゲルマン　チ－複数
③ タ－スラブ　　チ－一つ
④ タ－スラブ　　チ－複数

［３］　次の図３中の**カ**～**ク**は，ヨーロッパにおける宗教の分布図から，異なる三つの範囲を切り取って示したものである。範囲**カ**～**ク**の位置は，下の図４中の**A**～**C**のいずれかである。**A**～**C**と**カ**～**ク**との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2012年度地理Ｂ本試験第３問問４）



Atlas du 21ᵉ siècle により作成。

図３

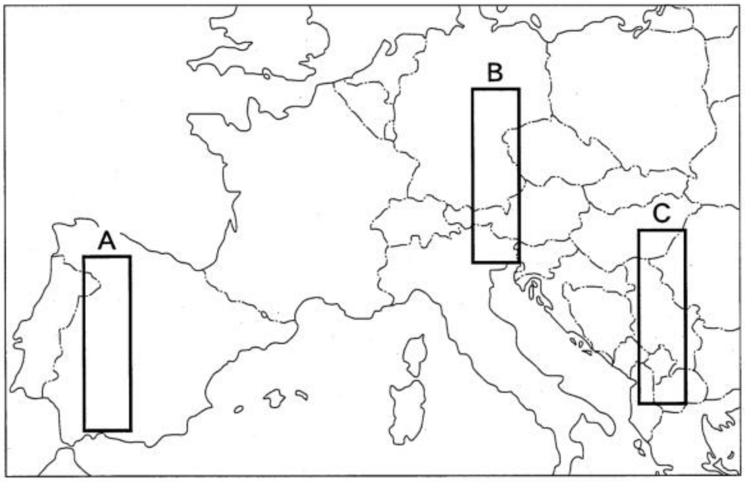


図４

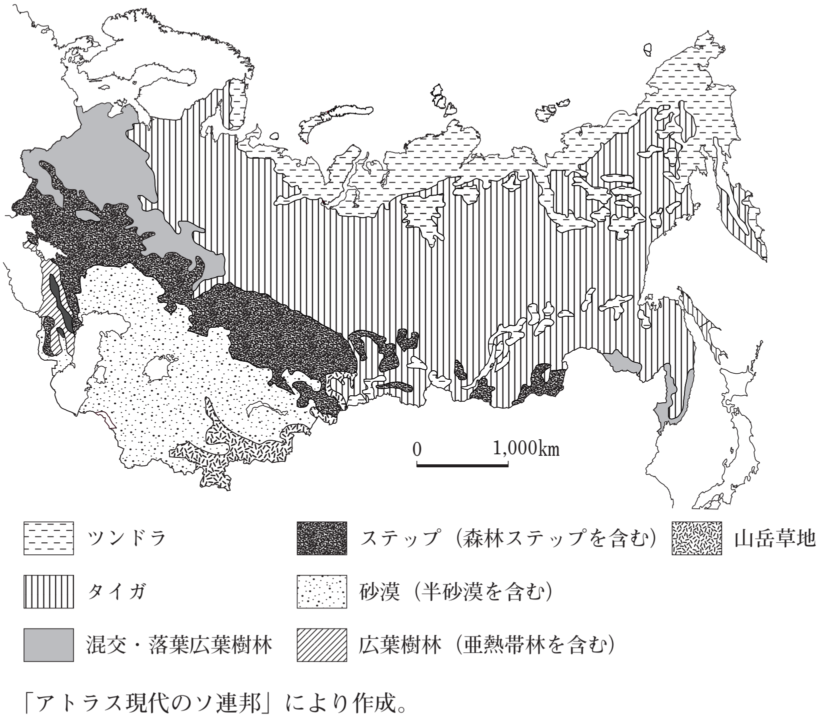
	①	②	③	④	⑤	⑥
A	カ	カ	キ	キ	ク	ク
B	キ	ク	カ	ク	カ	キ
C	ク	キ	ク	カ	キ	カ

［4］　次の写真２は，下の図１中の砂漠地帯のあるオアシス都市で写したものである。この写真あるいはその付近の説明として最も適当なものを，下の文①〜④のうちから一つ選べ。

（1998年度地理Ａ追試験第２問問７）

写真２

（編集部　追記：編集上の都合により代替写真に差し替えております。）



「アトラス現代のソ連邦」により作成。

図１

① シルクロードの交易で栄えた時代の伝統を受け継ぐバザールであり，ときおりコーランの一節をよむ声が聞こえていた。

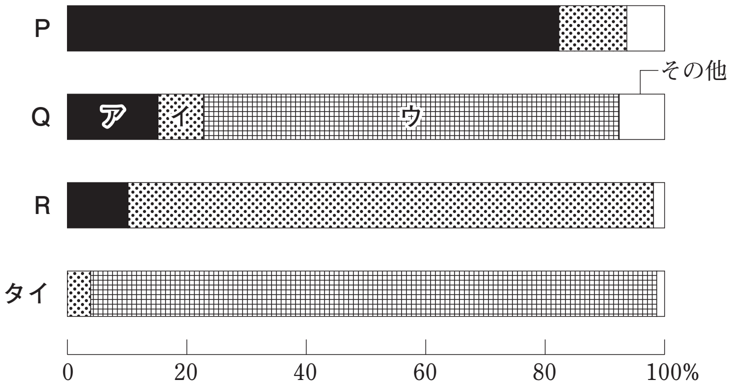
② 衣料品や食器などに加えて，香辛料やマンゴー，パイナップルなどの特産品も売られていた。

③ 羊肉や鶏肉などが大量に並べられ，名物の豚の串焼きは人気が高かった。

④ 付近は社交場であり，その土地に住む年老いた男性が数人ずつまとまり，酒を飲みながらおしゃべりしていた。

［５］　次の図４は，インド，スリランカ，バングラデシュのいずれかの国とタイで信仰されている宗教について，宗教別の人口割合を示したものである。図４中のア～ウはイスラム教，ヒンドゥー教，仏教のいずれかであり，下の写真１のア～ウはそれらの宗教に関する写真を示している。Ｐ～Ｒに該当する国名の組合せとして正しいものを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2002年度地理Ｂ本試験第３問問４）



外務省『アジア・オセアニア各国要覧』などにより作成。

図４

ア

イ

ウ

写真１

（編集部　追記：編集上の都合により代替写真に差し替えております。）

	P	Q	R
①	インド	スリランカ	バングラデシュ
②	インド	バングラデシュ	スリランカ
③	スリランカ	インド	バングラデシュ
④	スリランカ	バングラデシュ	インド
⑤	バングラデシュ	インド	スリランカ
⑥	バングラデシュ	スリランカ	インド

［6］ 次の図1中のA～Dのいずれかの地域でみられる紛争問題について述べた文として**適当でないもの**を，下の①～④のうちから一つ選べ。

（2012年度地理Ｂ追試験第５問問１）

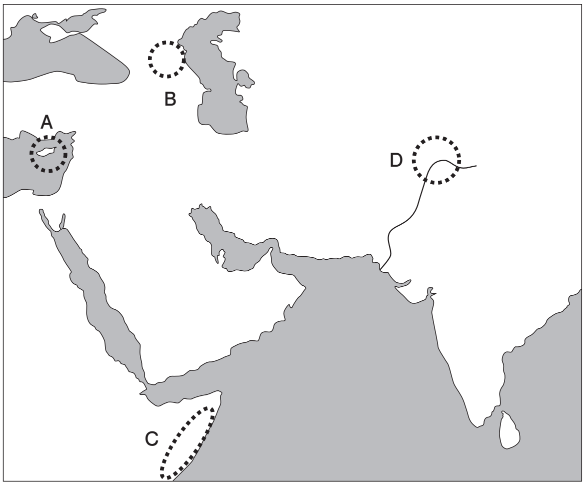


図1

① A地域では，ギリシャ系住民とアラブ系住民との間で，国を二分する対立がみられる。

② B地域では，ムスリム（イスラム教徒）が多数を占める民族による，ロシア連邦からの分離独立を求める運動がある。

③ C地域では，政府の支配力が衰退し，多様な軍事勢力による戦闘が拡大し，内戦状態が続いている。

④ D地域では，国境をめぐり，ムスリムが多数を占める国とヒンドゥー教徒が多数を占める国との間で対立がみられる。

〈 ***Note*** 〉

[写真・映像提供元]
アフロ，AP，Alamy，AFP/WAA，毎日新聞社，REX，ロイター

練習問題解答

第 10 講　ホイットルセー農牧業区分　解答

[１]正解；④

[２]正解；②

[３]正解；①

[４]正解；③

[５]正解；④

[６]正解；①

[７]正解；④

[８]正解；④

[９]正解；③

[10]正解；④

[11]正解；④

[12]正解；②・④

[13]正解；④

第11講　農畜産物統計・農業の問題点　解答

[１]正解；②

[２]正解；①

[３]正解；⑥

[４]正解；③

[５]正解；②

[６]正解　Ｘ；⑤　Ｙ；②

[７]正解；①

[８]正解　ア；③　オ；④

[９]正解；①

[10]正解；②・③

[11]正解；②

[12]正解；①

[13]正解；①

[14]正解；③

第12講　資源エネルギー・発電　解答

[１]正解；③

[２]正解；③

[３]正解；④

[４]正解；⑤

[５]正解；①

[６]正解；③

[７]正解；④

[８]正解　すず；⑨　銅；①

[９]正解；④

[10]正解；③

[11]正解；②

[12]正解；①

[13]正解；⑤

第 13 講　工業・工業製品統計　解答

[１]正解；④

[２]正解　文；①・⑥　語群；②

[３]正解；③

[４]正解；①

[５]正解；②

[６]正解；②

[７]正解；④

[８]正解　［１］②　［２］⑤

[９]正解；⑥

[10]正解；③

[11]正解；③

[12]正解；②

[13]正解；⑤

[14]正解；②

[15]正解；①

第 14 講　貿易・国際関係　解答

[１]正解；②

[２]正解；⑥

[３]正解；②

[４]正解；②

[５]正解；⑤

[６]正解；①

[７]正解；④

[８]正解；⑥

[９]正解；③

[10]正解；①

[11]正解；④

[12]正解；②

[13]正解；①

[14]正解　日本；①　フランス；⑥

第15講　都市構造　解答

[1]正解；④

[2]正解；①

[3]正解　[1]②　[2]⑧　[3]①　[4]④　[5]①　[6]⑦
[7]③　[8]⑥

[4]正解　(1)⑤　(2)①

[5]正解；④

[6]正解；④

[7]正解；④

[8]正解；②

[9]正解　(1)⑤　(2)②

[10]正解；②

[11]正解；②

[12]正解；①

第16講　東京大都市圏・国内の人口流動　解答

[１]正解；④

[２]正解；④

[３]正解；②

[４]正解；⑥

[５]正解；①

[６]正解；②

[７]正解；③

[８]正解；④

[９]正解；②

[10]正解；②

[11]正解；③

第17講　先進国と発展途上国の都市　解答

[１]正解；⑥

[２]正解；②

[３]正解；②

[４]正解；④

[５]正解；②

[６]正解；①・④

[７]正解；③

[８]正解；②

[９]正解；④

[10]正解；④

[11]正解；①

[12]正解；②

[13]正解；④

第 18 講　環境問題・災害　解答

[１]正解；②

[２]正解；①

[３]正解；①

[４]正解；①

[５]正解；①

[６]正解；②

[７]正解；③

[８]正解；②

[９]正解；③

[10]正解；④

第19講　日本社会の変容・生活文化　解答

[１]正解；③

[２]正解；③

[３]正解；②

[４]正解；②

[５]正解；⑥

[６]正解；⑥

[７]正解；②

[８]正解；①

[９]正解；②

[10]正解；②

[11]正解；⑤

[12]正解；②

[13]正解；③

[14]正解；④

[15]正解；④

[16]正解；③

第20講　民族・宗教　解答

[１]正解；④

[２]正解；③

[３]正解；②

[４]正解；②

[５]正解；④

[６]正解　ア；①　イ；③

[７]正解　Ｂ；②　Ｆ；⑥

[８]正解；①

[９]正解；④

[10]正解；③

[11]正解；④

[12]正解；⑤

[13]正解；③

[14]正解；②

確認問題解答

第10講　ホイットルセー農牧業区分　解答

［1］正解；②

まず，サとシから判定する。北アメリカとヨーロッパではいずれも商業的な農業が行われていることから，小麦などの穀物においては輸出地域であると考えられる。GとHともに値が大きいシが「輸出」。対照的に，自給的な農業地域であるアジアとアフリカで値が大きくなっているサが「輸入」である。

次に，GとHを判定する。ここは，「同一地域内の各国間の輸出入量も含まれる」という注釈に着目する。ヨーロッパは，全体としては小麦の輸出地域ではあるが，地域によって農業の生産物に違いがあり，穀物を輸入に依存する国もある。フランスなど小麦の重要な輸出国がある一方で，オランダ（園芸農業が中心であり，野菜や花卉の生産は多いが穀物は少ない）やスペイン，イタリア（いずれも降水量がやや少ない地域であり，小麦の生産は人口規模に対して多くない）などの輸入国も存在する。地域内での穀物の貿易は盛んに行われており，輸入量は比較的大きくなると考えられる。よって，Gが「ヨーロッパ」。一方，北アメリカのアメリカ合衆国とカナダは両国とも小麦の輸出が多い国であり，輸入は少ない。Hが「北アメリカ」となる。

［2］正解；①

北アメリカに注目したらいいだろう。とくに商業的な農業地域であり，農産物の輸出がさかんに行われている反面，輸入量は少ない。北アメリカの値が大きいキが「輸出量」，小さいクが「輸入量」。残ったカが「生産量」であるが，アジアの値が大きいことについては人口規模の大きさを考える。人口が多い分だけ，生産も多いのだ（そして輸入量も多い）。

［3］正解；①

オアシス農業は伝統的な灌漑農業。図１中のＤ地点（アフガニスタン）のような乾燥地域においては，用水路の整備などによって灌漑農業が成り立っている。

②について。集約的稲作農業は年降水量1000mm以上の多雨地域において行われており，乾燥地域は該当しない。

③について。企業的穀物農業は主に新大陸。肥沃な土壌と結びつく小麦農業である。また，センターピボット農法による耕地は円形となり，写真の耕地とは形

状が異なる。

④について。粗放的牧畜とは企業的牧畜のこと。主に新大陸で行われている。また，三角州は沿岸部に形成されるもので(河川の作用による)，Ｄ地点のような内陸部は適当でない。

［4］正解；④

「灌漑用に多数の掘り抜き井戸」が利用されているのは，グレートアーテジアン盆地の企業的牧畜(牧羊)。Ｓの地域はオーストラリアの代表的な企業的穀物農業地帯であるマリー川流域であるが，スノーウィーマウンテンズ計画によって灌漑用水を得ている。東岸の多雨地域を流れるスノーウィー川をせき止め，山脈の東西を結ぶトンネルによって導水し，マリー川流域へと流し込む。この大規模な開発によりＳ地域において小麦作が行われているのだ。

［5］正解；③

オランダに注目しよう。オランダは主に園芸農業が行われている国。野菜や花卉，乳製品などの集約的な生産に重きが置かれ，穀物については外国(フランスなど)からの輸入に依存している。穀物自給率が極めて低いイがオランダ。

一方，ウの国は穀物自給率が200％を超え，穀物栽培がさかんなハンガリーである。ハンガリー盆地は肥沃な土壌であるレスに恵まれ，小麦やトウモロコシの栽培が広く行われている。レスは，かつてヨーロッパ北半部を覆っていた大陸氷河の末端に集められた土砂が，風によって周囲に散布されることで形成された土壌である。ハンガリーは比較的温暖な国でもあり，小麦だけでなく，トウモロコシの生産も多いことが特徴。

なお，他の指標は考慮しなくていいが，興味深いところのみ拾ってみよう。「国際観光収入」についてはアのスペインに注目。ヨーロッパではバカンスで地中海沿岸に滞在する観光客が多く，スペインは他の地中海沿岸諸国同様に国際観光収入の値が大きいものとなっている。また，「製造業就業者率」についてはハンガリーに注目。2000年代にＥＵに加盟した国であるが，賃金水準が低いことからドイツなどから多くの工場が移動。そのため，製造業に就く者の数が増加している。

［６］正解；③

マレーシアは旧イギリス植民地。イギリス人の手によって多くの天然ゴムのプランテーションが開かれた。

①について。プランテーションはそもそもが民営である。独立後，多くのプランテーションの経営はオランダ人の手を離れ，インドネシア国家もしくはインドネシア人のものとなった。

②について。天然ゴムは極めて高温多雨の気候に適応するものであり，高地ではない。低地である。

④について。天然ゴムの原産地はアマゾン低地。

第11講　農畜産物統計・農業の問題点　解答

［１］正解；③

まず，aとbを判定する。アとイは羊もしくは豚で，いずれもaの地域での飼育頭数が多くなっている。統計を考えた場合，羊も豚もともに飼育頭数が世界最大なのは中国である。また，アジアは人口規模が大きな地域であり，これらの家畜が食用にもされていることを考えれば，アジアでの飼育頭数が多いと判断できる。aがアジアとなり，一方のbがヨーロッパとなる。

次に，アとイを判定する。豚と羊は生育に適した自然環境に明確な違いがある。豚は穀物やイモ類などの農作物を飼料として育てられるため，農業地域で多く飼育されている。農業の盛んな湿潤地域に多い家畜である。一方の羊は，厳しい自然環境に耐えることができ，主に牧草を食べることで成長する。羊の体を覆う毛は皮膚からの過度な水分蒸発を防ぐものであり，水の乏しい乾燥地域に適応する家畜である。図中の地域のうち，乾燥気候が広い範囲を占めるのはオセアニア（主にオーストラリア）とアフリカ（北部のサハラ砂漠など）である。アは両地域の割合が極めて低いのに対し，イは両地域が世界全体の40％ほどを占めている。イは乾燥に強い家畜と判断され，こちらが羊となる。一方のアが豚であるが，こちらはヨーロッパの値が比較的大きいことにも着目する。ヨーロッパには大陸氷河によって削られたやせた土地が広がり，家畜の排泄物を肥料として農業が行われてきたが，この際に必要な家畜として豚が飼育された。とくに北部ヨーロッパのドイツやポーランドでは混合農業が行われ，エン麦やテンサイなどを飼料として豚が飼育されている。

［２］正解；②

まず小麦の生産順位を確認しておこう。１位・中国，２位・インド，３位・ロシア（2020年時点）。人口大国である中国とインドが１位２位。アメリカ合衆国では商業的に小麦栽培がなされている。

表１を参照。「生産量」に注目し，表中で最大の①がアメリカ合衆国であると考えられる。①は輸出量も多く，これが世界最大の食料輸出国のアメリカ合衆国と考えることは妥当。

②について。「１ha当たり収量」が際立って高い。集約的な農業が営まれていることがうかがえる。選択肢中，他は新大陸の国であるのにフランスのみがヨー

ロッパ。土地面積に余裕がある新大陸では粗放的な農業が主であるのに対し，国土面積がそもそも狭く小麦栽培地の面積も他の国に比べれば広くない。フランスで土地生産性の高い集約的な農業が営まれていることは十分に想像でき，これが正解となる。

③について。アメリカ合衆国とオーストラリアに並んで，日本の小麦輸入先として重要な国である。カナダに該当。カナダでは春小麦が栽培され，収穫時期は秋である。小麦の輸出量が多いのは，このように世界各地で栽培され，収穫時期がずれていることにも理由がある。

④が残ったアルゼンチン。ブラジルに主に輸出されている。

［3］正解；④

農作物の栽培限界。それぞれの農作物の栽培されている地域の北限を表す。

①は小麦。ほぼヨーロッパ全域が含まれる。バルト海(ボスニア湾)の奥，ほぼ北極圏南限の線(北緯66.6度)に近い。ここより北の地域では大麦・エン麦など耐寒性の穀物ならば栽培できるのだが，主に針葉樹林となっている。またラップランドと呼ばれる地方でもあり，ラップ人(サーミ)がトナカイの遊牧などを行っている。

②はブドウの栽培北限。フランス北部パリ盆地を通過していることに注意。

③はオリーブ。地中海に沿っている。フランスはコートダジュールなど海岸沿いでのみ栽培されており，生産量は多くない。

以上より，消去法により④がかんきつ類に該当。かなり温暖な気候が必要とされる。統計でオレンジ類の生産を見ておこう。ヨーロッパでの栽培量は少ないが，スペインが５位以内にランクインしているはず。

［4］正解；①

「用材」とは主にパルプ・紙に利用されるものであると考える。紙の消費量が多い先進国で需要が拡大する。

「薪炭材」とは燃料用の木材のことで，これは発展途上国で使用される。電気やガスの普及が進まない地域で需要が多い。

「針葉樹」については冷涼な地域の指標。この割合が高い国は亜寒帯(冷帯)で，低い国は熱帯。

選択肢中，用材の方が多い①と②が先進国でアメリカ合衆国かカナダ，薪炭材の方が多い③と④が発展途上国でインドかブラジル。

①と②については，さらに針葉樹の割合に注目。寒冷で国土の広い範囲に亜寒帯（冷帯）林が広がっているカナダは針葉樹の割合が高い国だろう。②がカナダとなる。一方，アメリカ合衆国は比較的温暖な地域もあり，針葉樹だけでなく広葉樹の割合も高いと思われる。針葉樹の割合が60％程度にとどまる①がアメリカ合衆国になる。

ちなみに，①と②の木材伐採量に注目するのだが，①の方がかなり多くなっている。アメリカ合衆国は人口規模も大きく，それだけ多くの木材を必要としているのだろう。一方，カナダは伐採量は少ないものの，アメリカ合衆国との人口比（10分の１）を考えれば，人口規模に比して伐採量は多いとも言える。カナダは木材の輸出量が大きい国である。

③と④の判定は不要だが，③がブラジル，④がインドである。発展途上国の両国であるが，それでもブラジルの方が１人当たりＧＮＩは高く，用材と薪炭材の差は小さい。インドは１人当たりＧＮＩの極めて低い国であるため電気やガスの普及の遅れた地域も多く，また人口規模も大きいため薪炭材の利用が多くなっている。

［５］正解；③

グレートプレーンズというのはアメリカ合衆国中央部の大平原。年降水量500mmの等値線とほぼ一致する西経100度の一帯に広がっている。南部では乾燥の度合いが高いが，この地域は地下水が豊富で，その灌漑によって農業が行われている。

灌漑方式として重要なものが本問の写真にある「センターピボット農法」。中央から地下水を取水し，アームを回転させながら散水するため，円形の農地となる。選択肢③の文にもあるように，乾燥気候下でありながらさまざまな農作物の栽培が可能となっている。

ただし，灌漑による塩害の発生，地下水の過剰なくみ上げに起因する地盤沈下など，深刻な環境問題が生じることもある。自然に負荷を与える農業方式ともいえるのだ。

［６］正解；③

塩害を防ぐためにはどうするか。もちろん灌漑を止めるのがベストなのだが，しかしそれではそもそも農業ができない。より自然と調和した形で，バランスよく灌漑が行われなくてはいけない。代表的な方策が「点滴灌漑」。水を少量ずつ与

えることによって植物の根に過不足なく水分を吸収させ，土そのものは乾いた状態に保つという節水農法である。このような慎重な灌漑によってこそ塩害は防がれるのだ。

このことを念頭に各選択肢を検討していくと，選択肢③が気になる。「土壌の塩類化（塩性化）」を防ぐために「大規模な灌漑施設の導入」を行うということなのだ。「大規模」とはいかにも粗放的であるし，「施設」ということは機械化を大幅に進めるということなのだろうか。上述のように塩害を進行させない「適切な灌漑」とは慎重かつ丁寧に行われる節水農法である。粗放的つまり雑な灌漑を行えば，塩害は深刻になるばかり。③が誤りとなる。

他の選択肢についてもそれぞれ重要なので読み込んでおこう。

①について。アグロフォレストリーとは，熱帯林を伐採し農業を行う場合，耕地や樹園地の間に植林をして，森林の育成も行うこと。

②について。アフリカの発展途上国の多くでは商品作物の生産が優先され，自給作物の生産が十分でない地域が多い。食料不足のリスクを軽減するためにも，将来的には自給作物の生産を拡大することが重要。

④について。難民受入国や，国内避難民のキャンプなどに対する国連の食料援助のことを述べている。

第12講　資源エネルギー・発電　解答

［**1**］正解；④

まず，Ｊ～Ｌから判定する。１人当たりＧＤＰ（１人当たりＧＤＰは，１人当たりＧＮＩと同じものとみなす）の高低から検討すると，この値が低いのがベトナム，高いのがシンガポールとカナダである。よって，Ｊはベトナムとなる。

シンガポールとカナダについては，輸出依存度が「輸出額をＧＤＰで割った値」であることに着目する。輸出依存度は分母となるＧＤＰに反比例する指標であり，ＧＤＰが小さい国で高く，ＧＤＰが大きい国で低くなる傾向がある。ＧＤＰ（ＧＮＩ）は国の経済規模を表す指標であり，１人当たりＧＤＰ（１人当たりＧＮＩ）および人口に比例する。シンガポールとカナダはいずれも１人当たりＧＤＰの高い国だが，シンガポールが人口500万人程度の小国であるのに対し，カナダの人口は約4,000万人と多い。つまり，ＧＤＰもシンガポールよりカナダの方が大きい。よって，輸出依存度が「50％未満」と低くなっているＫがカナダ，「50％以上」と高いＬがシンガポールと仮定できる。さらに国の特徴をみてみると，シンガポールは中継貿易が発達した巨大な港湾を有する都市国家であり，東南アジアの物流の中心地となっている。したがって，国の経済規模（ＧＤＰ）に対して貿易額が大きくなると考えられる。このことから，Ｌがシンガポール，Ｋがカナダと確定できる。

次に，タ～ツを判定する。ベトナムは賃金水準が低く，安価な労働力を期待する多くの外国企業が工場を進出させている。労働集約型の安価な工業製品としては，衣類が考えられる。電気機器もまた単純労働力に依存する工業製品であり，ベトナムでの生産が拡大している。よって，チがＪのベトナムに該当する。

シンガポールは，中継貿易の発達した商業国であり，石炭や肉類などの一次産品の輸出に特徴があるとは考えられない。国土面積は狭く，農業もあまり行われず，資源の産出もみられない。よって，タがＬのシンガポールに該当する。シンガポールは，高い研究開発力を活かした知識集約型産業が発達しており，集積回路や医薬品などの輸出も多くなっている。

消去法で，ツがＫのカナダとなる。豊かな自然環境に恵まれ，資源を豊富に産出し，企業的な農牧業による商品作物や畜産物が多く生産されている。日本へは，石炭や肉類が主な輸出品目となっている。

［2］正解；⑥

A；天然ガスは冷却し液化されるわけだが，この際に不純物である硫黄などが取り除かれる。燃料効率が上がるだけでなく，硫黄酸化物のような大気汚染物質の排出も防がれる。誤文。

B；例として中国を考える。石油の消費量は，工業化や生活水準の上昇に伴って増加している。正文。

C；イタリアは原子力発電を行っていない代表的な国。他にはオーストラリア，ニュージーランドも知っておくといい。誤文。

［3］正解；⑤

選択肢にアルジェリアがある時点でフランスに注意。イをアルジェリアとする。輸出量自体はアメリカ合衆国の方が大きいが（1264万トン），しかしそれはアメリカ合衆国が中国に次ぐ世界２位の原油輸入国であり，輸入量そのものが大きいから当然のこと。フランスだけに注目すれば，アからは14万トン，ウからはほぼゼロなわけで，いかにフランスにとってこのイという国の存在意義が大きいかが理解できよう。アルジェリアは旧フランス領であり，現在でもつながりが深いのだ。

アとウについては，主にアメリカ合衆国に原油を輸出しているアと，主に日本に輸出しているウという区別ができれば十分。輸送コストなど考慮すれば，できるだけ近くの国から輸入したいと思うのは当然。同じアメリカ地域に含まれるベネズエラの原油は主にアメリカ合衆国に輸出され，同じアジアに位置するインドネシアの原油は日本に送られる。アがベネズエラ，ウがインドネシア。

［4］正解；④

フィンランドに注目。フィンランドはスウェーデンと同様に水力発電が行われている国であるが，冬季は河川や発電施設が凍結してしまう（亜寒帯の国であり，温帯のノルウェーとは違う），不足する電源を補うために原子力発電が行われている。石炭よりも原子力が高い値を示すＱがフィンランドとなる。さらにＱについてはバイオマスにも注目しよう。フィンランドでは豊富な森林資源を有効にバイオマス（生物資源）に利用している。パルプ工業や製材業の際に廃棄される枝葉や樹皮はそのまま燃料とされ，あるいは樹木そのものから油脂を採取することもある。バイオマスの活用国といえば，トウモロコシのアメリカ合衆国，サトウキビのブラジルが有名だが，フィンランドも重要なバイオマスの活用国の一つなの

である。

さらにＰはノルウェー。北海油田に面する国で原油(石油)と天然ガスの西ヨーロッパ最大の生産国である。ただしこれらの化石燃料は発電にはもちいられず，ノルウェー自体は豊富な降水量と傾斜の急な地形を活かした水力発電国である。

最後のＲはアイスランド。火山島であるアイスランド島では地熱が重要なエネルギー源となっている。氷河の国でもあり，水に恵まれているため，水力の割合も比較的高い。

［５］正解；④

「原子力」に依存する割合の高い国がフランスであることには間違いない。「原子力」÷「総量」を考える。イが最も高い。まず，イがフランスとなる。

で，ここからはインドとカナダの判定だが，カナダについては，水力に依存する割合が高いイメージが持てればいいのではないか。ゆえにアが該当。またインドは石炭の産出量も多く(統計で確認)火力発電の割合が高いとみて適当。よってウとなる。

ところで，総発電量(「水力」+「火力」+「原子力」+「その他」)を求め，それと「人口百万人当たり発電量」とを照らし合わせることによって人口が計算できる。余裕があったら試してみよう。人口は，インド＞フランス＞カナダ　である。

［６］正解；④

アメリカ合衆国や中国，日本のようなそもそもの発電量が大きな国に注目するのは得策ではない。特色ある発電が行われている，比較的規模の小さな国がポイントとなってくる。

最も分かりやすいものが地熱。イタリア，アイスランド，そして環太平洋地域など火山国で行われている。フィリピンとインドネシアに着目し，アが地熱である。

風力は偏西風の影響が強い西ヨーロッパの大西洋沿岸諸国での発電量が多いはず。ただし，イにはドイツ，スペイン，ウにはドイツ，スペイン，イタリアとそれぞれ西ヨーロッパの国が含まれていて判定が難しい。しかし，ここで考えてみよう。イタリアはどういった国だろうか。たしかに西ヨーロッパとはいえるのだが，大西洋に面している国ではなく，偏西風の影響はさほど強いものではないと思われる。新期造山帯の山岳国であり，複雑な地形は風力発電に有利なものでない(平坦な土地の方が安定した風が得られ，風力発電に適する)。イタリアが含ま

れているウを風力発電の候補から外し，イを風力，ウを太陽光とする。スペインやイタリアは地中海性気候で晴天日数が多く，太陽光エネルギーを利用しやすい環境にある。

第 13 講　工業・工業製品統計　解答

［1］正解；④

カとキから判定する。キを確認すると，フィリピン，インドネシア，ニュージーランドなど，造山帯に沿った環太平洋の国々での値が大きい。また，ヨーロッパでも活火山が多いイタリアや，アイスランド（プレートの広がる境界上にある）が確認できる。よって，キは活火山の周辺で行われる地熱発電と判断できる。東アフリカのケニアの値も大きいが，ここもアフリカ大地溝帯に沿う地域であり，活火山が多い。

一方のカが風力発電となる。中国やアメリカ合衆国の値が大きいが，特徴的な地域として西ヨーロッパに注目する。偏西風の影響がはっきりした地域であり，風力の利用が進んでいる。総発電量に占める風力発電量の割合がとくに高い国としては，デンマークがある。水深の浅い海域が多く，洋上風力発電施設が多くつくられている。

ＡとＢの判定では，Ａの「季節変化」という言葉に着目する。季節によって発電量の変化がみられるのは風力発電である。日本を例にすると，日本は季節風帯に位置するので，夏と冬とで風向が逆転する。そのため，年間を通じて一定方向からの風（偏西風）が吹き込み続ける西ヨーロッパに比べると，風力発電には不向きな地域といえる。また夏から秋にかけて台風の上陸もみられ，発電施設の破損の危険もある。

一方のＢが地熱発電となる。地熱発電に適した活火山周辺の土地は，自然環境に恵まれた国立・国定公園内であることも多く，開発が制限されている。また，地熱利用による温泉の枯渇を懸念する声もあり，反対運動がみられることもある。

［2］正解；②

日本にとって最大の工業種は機械工業。よって高い割合を占めているカは「機械」。また軽工業である繊維工業はすでに国内では衰退している。割合の低いキが「繊維」となる。「金属」はクとなるが，重工業であり，それなりの値となっている。

［３］正解；③

製鉄所の数は減少している。原料産地付近に立地していた工場の中には閉鎖を余儀なくされるものもある。また銑鉄工場と鋼鉄工場を一体化することで施設の数そのものは減少する。さらに生産性の低い小規模工場は淘汰され，規模の大きな製鉄所に生産が集約化されていく。

①について。セメント工場が原料指向型であり，原料の得られる石灰岩産地の場所が変わらない以上，セメント工場の立地にも変化はない。

②について。高度経済成長期には安価な原油を利用した火力発電によって低コストの電力が得られ，アルミニウムがさかんに製錬されていた。しかしオイルショックで原油価格が高騰すると，電力も同様に高価格となり，製錬が安価にて行えなくなったため，国内からアルミニウム工場がなくなっていった。

④について。衣服製造業は労働集約型工業であり，さらに製品価格も安いので，とくに安価な労働力が得られる地域で成り立つ。海外の低賃金国に工業が進出。

［４］正解；②

カについて。レンガ工業はセメント工業と同様に窯業･土石工業の一種である。原料の土石は運びにくいが，製品のレンガは運びやすい。輸送コストを抑えるために，原料地を指向した工業指向型となる。

キについて。表から読み取ろう。「従業員数÷事業所数」で１事業所あたりの従業者数が求められ,「出荷額÷事業所数」で１事業所あたりの出荷額が求められる。窯業・土石工業はいずれの値も低くなる。従業員の数が少なく，出荷額も小さい小規模の工場が多いということ。

［５］正解；③

合成繊維（化学繊維）の生産は，「先進国→アジアＮＩＥｓ→発展途上国」という遷移がとくに明確なものである。先進国だけでなく，アジアＮＩＥｓでの生産が拡大したことは正しい。

①・②について。イギリスとオーストラリアは綿花の生産国ではない。

④について。「熟練」ではなく「単純」。

［６］正解；⑩

a；大都市圏はたくさんの人が住み経済規模も大きい。大市場である。

b；大都市圏のとくに都心部には官公庁や金融機関が集中している。

c；大都市圏は地価が高い。土地に余裕があり，地価が安いのは地方である。

d；大都市圏にこそ多くの企業が集まり，部品製造など関連工場も多い。

e；重量減損型の工業。セメント工業やパルプ工業など原料指向型工業である。石灰岩や木材など原料が得られるのは，一般に大都市圏ではない。

f；例えば１人当たり都道府県民所得が最も高いのは東京都である。大都市圏において賃金水準が高く，地方において安いと考えるのが妥当。

第14講　貿易・国際関係　解答

［1］正解；①

輸出に関する問題である。工業製品の場合は生産が多い国で輸出も多くなる傾向があるので，生産と関連づけて考える。

まず，航空機から確認する。航空機は，アメリカ合衆国とフランスでの生産に特徴がある。とくに，フランスのトゥールーズには航空機の共同工場があり，ヨーロッパ各地でつくられた部品がこの地に集められ，完成品として航空機が組み立てられる。そしてその航空機が各地に輸出されている。よって，アメリカ合衆国とフランスで輸出の割合が高いキが航空機。

次に，衣類について考える。中国やインドが主な生産国であるが，ここでは東南アジアのベトナムとインドの東側に接するバングラデシュにも注目する。いずれも１人当たりＧＮＩが低い国であり，低賃金での労働力が豊富に得られるため，外国から衣類縫製工場が多数進出している。その結果，衣類の輸出が多くなっている。よってカが衣類である。

残ったクがテレビとなる。中国で輸出が多いことを確認するとともに，東ヨーロッパやメキシコで輸出が多いことにも着目する。電気機械工業は労働集約型であるので，安価な労働力が得られる中国で生産が多い。しかし，近年生産が増えている薄型テレビなどは重量が大きく遠距離輸送に適さない。そのため，欧米の大市場に比較的近く，かつ賃金水準の低い東ヨーロッパやメキシコでの生産も増えている。それぞれ西ヨーロッパやアメリカ合衆国から工場が進出している。

［2］正解；⑥

Ｂは「自動車」が上位。ドイツである。

Ｃは「衣類」などファッション関連品目が上位。イタリア。

Ａが残ったフランス。「ぶどう酒類」とはワインのこと。

［3］正解；③

原則としてＧＮＩと貿易額は比例する。３か国中でＧＮＩが最大なのは，もちろんアメリカ合衆国。世界最大のＧＮＩを有する。それに次ぐのはカナダ。人口は少ないが，１人当たりＧＮＩが高いため，ＧＮＩも大きく算出される。一方メキシコは人口１億を有する人口大国ではあるが，１人当たりＧＮＩは低く，ＧＮ

ＩはＮＡＦＴＡ(現ＵＳＭＣＡ)調印国中最下位となる。

図を参照。ＸとＹの間の貿易額が最も大きいようだ。それに次ぐのはＹとＺ。そしてＸとＺの間が最も小さい。このことから３か国間の貿易をリードしているのは間違いなくＹであり，これをアメリカ合衆国と判定する。次いでＸの貿易額が大きいが，カナダであろう。Ｚは最も貿易額が小さく，メキシコと判定される。

ちなみに，アメリカ合衆国は貿易赤字国なのだが，カナダとメキシコの間の貿易でもしっかり「輸出＜輸入」の貿易赤字となっている。

輸出品目としては，カナダの自動車・小麦・原油，アメリカ合衆国の航空機，メキシコの自動車・原油などが重要。それぞれ図中ではどの貿易品目に該当しているか確認してみよう。

［４］正解；①

一つ一つ選択肢を検討していこう。

最も分かりやすいのが③。チリは銅鉱の産出量が世界最大の国。「金」ではなく「銅」である。

さらに④。ＮＡＦＴＡ(現ＵＳＭＣＡ)がカギとなる。カナダ･アメリカ合衆国･メキシコ３か国の間に自由貿易が実現しており，これらの国々の間の貿易は非常にさかんに行われている。メキシコにとって，輸出の80％，輸入の50％はアメリカ合衆国相手のものであり，経済的な結びつきは強い。アメリカ合衆国からメキシコにさかんに電気機械組立工場が進出していることを考える。アメリカ合衆国からみれば安価な賃金の労働者を雇用できるというメリットがあり，メキシコとしても多くの雇用を確保でき，さらに優れた技術を学べるというメリットがある。「ブラジル」を「アメリカ合衆国」に入れ替える。

この２つの選択肢の判定は比較的容易なのだが，残る２つが難しい。ぜひとも統計表で確認しておいてもらいたい。アルゼンチンは非常に特徴的な国であり，主な輸出品目が穀物を中心とした農作物とその加工品となっている。輸出品目上位は大豆油かす，トウモロコシ，大豆油である。工業製品や鉱産資源，プランテーション作物が主要輸出品目の国は多いが，アルゼンチンはその例にあてはまらない。正解は①である。

残った②であるが，エクアドルはかつてＯＰＥＣ(石油輸出国機構)にも加盟していた産油国であり，原油が最大の輸出品目となっている。この国は，バナナの輸出で知られ，また寒流に面することから漁獲量も多く，魚は飼料として重要な輸出品となっている。しかしそれでもやはり原油の輸出が最大であることには変

わらない。「バナナ」ではなく「原油」である。②は誤り。

［５］正解；②

日系企業の進出数は，１位中国，２位アメリカ合衆国，３位タイ。ＧＮＩが大きな中国とアメリカ合衆国に日本企業の現地法人が多いのは当然なのだが，だからこそ人口７千万人の中堅国に過ぎないタイとの交流密度の高さが印象的。①がタイとなり，まずこれを除外する。

さらに②から④については，内容(割合)を見ていこう。②のみ「製造業」の割合が低く，「商業」の割合が高いことに注目しよう。シンガポールは１人当たりＧＮＩが高い高賃金国であり，しかもそもそもの人口も少ないのだから単純労働力も得にくい。②をシンガポールと判定する。

③がインドネシア，④がベトナム。今後の高い成長が期待される国々である。

［６］正解；①

アフガニスタンはアメリカ合衆国が軍隊を派遣していた国。援助額も大きい。アがアフガニスタン。

日本は近隣のアジア諸国への開発援助をさかんに行っており，インドネシアもその一つ。イがインドネシア。

ヨーロッパ諸国はかつて植民地として支配していた国々への援助額が大きくなるという特徴がある。ガーナは旧イギリス領であり，イギリスの値が大きいウが該当。

第15講　都市構造　解答

［1］正解；②

ここであげられている「問題」は，スプロール現象について述べたものである。これは都市の郊外における乱開発のことで，農地や林地の中に住宅地などが無秩序に散らばり虫食い状になる現象をさす。点在するそれぞれの住宅地に対しインフラ（都市施設）の整備を行う必要が生じるため，コストは高くなり，整備時期は遅れる。

スプロール現象に対する概念が「ニュータウン」の建設である。分散する住宅地を１か所にまとめ，そこに対して道路や鉄道の建設，下水道や送電施設の整備，さらには学校や病院など公共性の高い施設の設置など，集中的に投資を行う。これによりインフラの整備を効率的に行うことができ，コストの削減や，建設のための期間の短縮につながる。現代の日本では，住宅地の開発が計画的に行われており，スプロール現象の問題は軽減されている。

次に，図１を左から順に⑴，⑵，⑶，⑷とし，それぞれを日本における段階に当てはめて分析する。

⑴高度経済成長期以前。都市の発達のスピードは緩慢で，それほど人口も増加していない。土地にも余裕があり，まだ地価も安く中心都市でのみ人口が増加する。

⑵高度経済成長期の初期。地方から大都市圏へと人口が流入し始める。従来の市街地の範囲（中心都市）でも人口は増加傾向にあるが，その外側に市街地が形成され，都市圏が拡大している。郊外における住宅地開発が盛んに行われるようになる。

⑶高度経済成長期の中期以降。さらに多くの人口が大都市圏へと流入。郊外ではより大規模に住宅地の建設が進み，人口増加率が極めて高い。鉄道や道路などのインフラ整備も行われている。一方で都心部の旧市街地では，地価の高騰や居住環境の悪化によって旧来の住人たちが転出し，ドーナツ化現象が生じる。

⑷2000年以降。バブル崩壊によって都心部の地価が下落し，家賃も下がる。また再開発が積極的に行われることで，タワーマンションなどの集合住宅の建設も進む。都心部における人口増加率がとくに高い。「人口の都心回帰」である。

以上の分析とスプロール現象が郊外で生じることをあわせて，選択肢を検討する。まず，地点ｃとｄは中心都市（都心部）にあるので該当しない。次に地点ａ

を確認する。位置的には郊外にあるが，(1)の段階では都市圏の成熟はみられず市街地の範囲は中心都市に限定されるため，地点ａから中心都市への通勤はほぼないと考えられる。スプロール現象における郊外とは，その居住者が都心部へと通勤することが条件である。

よって，典型的な「郊外」にある地点ｂが該当する。大都市圏への人口流入によって農地や林地に住宅地が建設されるが，都市計画などは進んでおらず，虫食い状の乱開発がみられると考えられる。

［２］正解；③

広大な敷地面積が必要であるため，地価が高い場所には立地しえない。主に郊外の地価が安いところ。

［３］正解；④

奈良は「郊外」である。他の指標はともかくとして，「昼夜間人口比率」については絶対に100を下回る。④が正解となる。

他は②にも注目しておこう。金沢である。金沢は北陸地方の中枢的な都市であり，経済の中心地となる。他の同規模の都市に比べ，銀行の数が多いことにそれが表れている。①と③は判定不要。

なお，人口増加率がいずれの都市でも高くなっているが，現在は人口の伸びが鈍化しているところもあり，あまり参考にならない。

［４］正解；①

「都心部」である大阪市，「郊外」である宝塚市のキャラクターが重要。

Ｚがわかりやすい。「昼夜間人口比率」が大きく１を下回っている。昼間人口が夜間（常住）人口より小さいのは，郊外における傾向。都心部への通勤・通学が多いのだ。Ｚが郊外の宝塚市に該当。

さらに大阪市を考えてみる。大阪大都市圏の都心部に位置し，昼間に流入する人口はたいへん多い。昼間人口は大きく夜間人口を上回ると考えられ，「昼夜間人口比率」が1.46と極めて高い値となっているＸが大阪府。正解は①となる。

なお，Ｙが釧路となる。釧路のような地方都市の中には独立した都市圏を有している例も多い。人口流動はあくまで釧路市の内側に限定され，都心部への通勤者や買い物客も同じ市の住人である。

［５］正解；③

わが国の人口は約１億2000万人であり，この数値に大きな変化はない。その一方で，都市部では人口増加が著しいところがあったり，逆に農村では過疎化が深刻になっているなど，地域によって人口増加・減少の様子に大きな差がある。これらは主に転入や転出によって生じる人口増加率の差異である。つまり，日本の地域ごとの人口増加については，自然増加より社会増加を主体として考えるべき。

図３において左の図は「出生率」「死亡率」からわかるように自然増加に関する図となっている。一方，右側のものは「転入率」「転出率」から社会増加の図。日本国内の人口流動の問題であるので，右の社会増加を表す図を中心に考えていくことにする。

Ｐについて。転入率は65‰，転出率は60‰。転入率の方が高い数値を示しているために社会増加はプラスとなっているとみていい。このことからこの地域はキの「人口増加が著しい」都市と判断できる。

それに対し，ＱとＲであるが，それぞれ転入率35‰・転出率40‰，転入率30‰・転出率45‰と，ともに社会増加率はマイナスとなっており，Ｐとは異なっている。ただしこの２つの都市については社会増加率から読み取れる差異は明確ではなく，これらの判別については自然増加率を表す図を見ながら考えていこう。

図３の左側の図参照。Ｑについては出生率が死亡率を上回り，自然増加はプラスとなっている。一方，Ｒは出生率が大きく死亡率を下回っており，自然増加はマイナス。とくに死亡率が高いことから，高齢者の数が相対的に多いことが想像される。若年層が転出したことにより高齢者が町に取り残され，出生率の低下と死亡率の上昇が生じた。人口の減り方が大きいＲが「人口減少が進んでいる」クに該当し，それほど深刻な状況でもないＱが「人口は伸び悩んでいる」カに該当。

［６］正解；②

言葉の定義は確実に。スプロール現象は郊外における無秩序な開発。「大規模なニュータウン」は計画的に建設されるものであり，これには該当しない。

第16講　東京大都市圏・国内の人口流動　解答

［1］正解；③

「人口分布の時系列変化」に関する問題。各地域で年代ごとに人口の増え方（減り方）がどのように変化するのかを考える。

図５では「1925年の人口密集地」が示されている。古い年代であるので，図から読み取ることのできる範囲で考えればよい。図５から，Ａは1925年の人口密集地の中心に位置し，市街地である「都心部」にあったことがわかる。一方，Ｂはその外縁に沿い，「郊外」的な特徴を有する地域に位置していたことが読み取れる。Ｃはそのはるか外側にあって，周辺は農村や原野だったことが想像される。これが「都市圏外」である。

次に表１を見ると，取り上げられている年代は戦前である「1925～1930年」，高度経済成長期にあたる「1965～1970年」，そして「2005～2010年」となっている。これに沿ってＡ～Ｃで生じている人口変化について考える。表では，サ～スについて人口が大きく増加した（している）時期が異なっている。そこで，2005年以降に人口増加率が高いシにまず着目する。

2000年以降にみられる日本の典型的な人口変化の傾向として，「人口の都心回帰」がある。再開発や高層住宅建設，ウォーターフロント開発によって都心部の人口が急増した。富裕層を中心に比較的若い世代の移入も目立ち，ジェントリフィケーション（住民階級の高度化。より高い所得層が新たな住民となる）が生じている。このことから，2005年以降の人口増加率が極めて高い地域としては都心部にあたるＡが考えられ，これがシに該当する。シは，高度経済成長期に大きく人口を減らしていることも表から読み取れるが，これは1960年代のドーナツ化現象による。過密による地価の高騰や居住環境の悪化（騒音や大気汚染など）により，多くの住民が郊外に転居した。

次はサとスの違いに注目する。まず，サは戦前に大きく人口が増加していることから，この時期に住宅地として開発されたと推察できる。Ａを中心とした旧来の市街地に対してＢは1920年代にようやく開発の手が及んだ段階で，「郊外」として宅地開発がなされ，もともと人口が少ないところに人口の流入があったと考えられる。よって，サに該当するのはＢとなる。

残ったスがＣである。Ａから30㎞ほど離れたこの地点は，1965年頃の高度経済成長期に大きな変化があった。地方から東京周辺へと多くの人口が流入し，鉄

道などのインフラが整備されることで東京大都市圏が大きく拡大した。これによりAを含む都心部から数十kmも離れたCの地域にまで通勤圏が及ぶこととなり，この地域にニュータウンが建設され，多くの人々（とくに地方から転居してきた若い世代）が流入した。2005～2010年の人口増加率は極めて低いものとなっているが，これは子ども世代が流出し，老年人口の割合が急激に上昇したことによる。なお，高度経済成長期には，前述のように都心部（A）で大きく人口が減少し,都心部に近接した住宅地（B）では微増にとどまっている点もおさえておく。

［2］正解；①

カは仙台市。地方中枢都市であり，昼夜間人口比率が100を超えている。東北地方の経済の中心地であるので，銀行の数も多い。

キは千葉市。東京大都市圏の郊外に位置する都市であり，昼夜間人口が100を下回る。

残ったクが浜松市。こちらは輸送用機械工業の発達した工業都市であり，第2次産業就業者の割合が高いことが特徴となっている。

［3］正解；⑥

まず地価について考えよう。駅前の一等地のような都心部において最も高く，そこから周辺に向けて等高線を描くように次第に地価は低下していく。シが地価となる。

さらに老年人口率。都市圏を考えた場合，地価が高く，人口増加率が低い都心部で高くなる。さらに都市圏の外側では人口が大きく減少し，やはり老年人口率は高くなる。高地価の都心部で高いことに加え，周辺部にも高い地域が散見されるサが老年人口率になる。周辺部の老年人口率の高いエリアは，札幌都市圏外つまり通勤圏から外れた地域なのだろう。都心部のオフィスへと通勤できないため，若年層を中心とした人口が流出する。図2と比較しても，そうした地域はあまり都市化が進まず，農村となっている。また交通網の配置をみても，やはり通勤に適した場所ではない。

残ったスが人口密度となる。図2をみても，人口密度の高い地域には住宅地が広がっている。地下鉄や路面電車の路線沿いに多くの人々が居住している様子が伺え，これら公共交通は都心部への通勤の手段として利用されていることが明らか。

[4]正解；③

1970年代後半は，オイルショック後の低成長期。高度経済成長期の活発な人口流動は沈静化し，むしろ地方へと人口が逆流するＵターン現象もみられた。

[5]正解；④

練習問題［３］が参考になるだろう。1955～1960年の高度経済成長初期は，東京都心部から比較的近い範囲で人口増加が顕著であった。しかし，高度経済成長が続くと，より多くの人口が東京大都市圏へと流入するようになり，それらの人口を受け入れるために都心部から比較的離れたところへと開発の手が及んだ。大都市圏の範囲は東京都心部から半径50kmの円が目安となる。1955～1960年がキ，1975～1980年がクであるが，大都市圏の拡大の様子を読み取ろう。

それに対し，2000～2005年は人口流動は落ち着きをみせ，極端に人口増加率が高い地域はほとんどみられなくなった。大きな人口変化がないカが最も新しい時代の図である。しかし，ここで注目してほしいのは東京都特別区部の中心部。それまではドーナツ化現象によって人口が減少し続けてきたのだが，その反動であるかのように，現在は人口増加率の極めて高い地点となっている。再開発や高層マンションの建設などにより，人口が都心に回帰しているのだ。若年層だけではなく，比較的年配の富裕層の割合が高いとも言われている。最新のデータで，東京都の人口増加率の高さを確認しておこう。

[6]正解；①

広島市は中国・四国地方の中枢的な都市である。流通の中心として卸売業が発達し，１人当たりの卸売業販売額が大きい。他の都市については判定の必要なし。

第17講　先進国と発展途上国の都市　解答

［1］正解；④

両都市圏の「貧困が問題となっている地区」の分布を図から読み取る。フィラデルフィアでは都心地区の周辺に集まっているのに対し，メキシコシティでは市街地を取り巻くように周辺地区へと拡大している。いずれも「高速道路に沿って放射状に」広がっているわけではないので，④は適当でない。

①について。フィラデルフィア都市圏の貧困が問題になっている地区は都心地区に近接しており，この地区が古くからの市街地であったことが想像できる。このような旧市街地では，建物の老朽化や産業の衰退，治安の悪化といったインナーシティ問題が往々にして生じている。

②について。メキシコシティ都市圏の貧困が問題になっている地区は大きく市街地を取り巻くように広がっている。発展途上国の都市においては，資本力が豊かでないことから都心付近に比べて周辺部でのインフラ整備が進まず，電気や水道，ガスなどの普及率も低い場合が多い。

③について。「貧困が問題となっている地区」についてはスラム（不良住宅地区）が考えられるが，スラムは「先進国では都心付近に集まり，発展途上国では市街地の周辺に拡大する」という傾向が強い。先進国の古くからある大都市では都心付近の旧市街地が老朽化し，富裕層の流出や産業の衰退が生じる。家賃が下がり，社会的地位の低い貧困層（少数民族や移民が多い）が流入し，スラムを形成する。一方，発展途上国の都市は近年開発されたものが多く，資本力が乏しいこともあり，整備された市街地の範囲は限られる。農村から流入する多くの労働者には十分な仕事がなく所得が少ないため，彼らは土地を不法占拠し，市街地の周辺へとスラムを拡大させていく。フィラデルフィアは先進国であるアメリカ合衆国の都市，メキシコシティは発展途上国であるメキシコの都市であり，上記のような傾向がはっきりと見てとれる。

［2］正解；②

トルコは人口最大都市と首都が一致しない国の代表例。人口最大都市は国土西部の海峡都市イスタンブール。非常に規模が大きいが，大都市の基準として「人口1000万人」という数字は非常に重要。アジアなら東京，ソウル，ペキン，シャンハイ，ムンバイなど。新大陸ならニューヨーク，メキシコシティ，サンパウロ

など。ヨーロッパでもロンドン，モスクワの規模が圧倒的に大きく，いずれも都市圏人口はおよそ800万人を超え，1000万人をはるかに超える都市もみられる。イスタンブールもその一つで，正解は②。首都のアンカラは人口規模がイスタンブールに及ばない。

また選択肢中に他にも人口最大都市と首都が一致しない国がある。それがオーストラリア。こちらは③に該当。人口2500万人の小国であり，さすがに一つの都市だけで人口が1000万人に達することはないが，シドニーとメルボルンは規模が大きな都市である（ともに450万人超）。

①がメキシコ。首都メキシコシティは巨大な都市。④がイタリア。ヨーロッパは（スイスなどを除いて）人口最大都市と首都が一致しているが，ローマもその一つ。ただし，人口はパリやロンドンといった巨大都市の比ではない。

［３］正解；⑤

分かりやすいものから。ウの「グリーンベルト」はロンドンのキーワード。20世紀前半から半ばにかけて，大ロンドン計画という開発が行われた。人口過密のロンドンの都市問題を解決するため，ロンドンの市街地を緑地帯（グリーンベルト）で囲み，郊外にいくつものニュータウンを建設した。Ｐに該当。

イはニューヨークのＲ。「数多くの民族」は民族のサラダボウルであるアメリカ合衆国のキーワード。都心付近の旧市街地がスラム化しているが，その一部では再開発によって活気を取り戻している地区もみられる。

残ったアがＱに該当。発展途上国における大都市の状況を説明した文であることがわかるだろうか。発展途上国はとくに農村と大都市との経済格差が大きく，人口移動の流れが顕著である。しかし彼らに十分な仕事はなく，都市周辺にスラム（不良住宅地区）が拡大していくのみ。

［４］正解；⑤

「歴史的建造物の保全」が最大のポイント。パリは歴史の古い町であり，市街地には歴史的な街区も多くみられ，開発が制限されている。日本で言えば京都を考えてみるといいだろう。ウがパリに該当する。「周辺部には高層ビルからなる副都心」とあるが，これはラ・デファンス地区という場所。パリの郊外にはこうした副都心が新たに設けられ，パリに集中する都市機能の一部が移動している。

アとイについて。ここでは「政府機関」がポイント。このキーワードからアを首都と考えていいだろう。アがロシアの首都モスクワとなり，消去法でイがシカゴ。

アメリカ合衆国の首都はワシントンD.C.である。

［５］正解；②

パリは都心部の歴史的地区の再開発は制限されている。むろん「高層化」も進まない。この辺りは，市街地における建物の高さ制限のある京都に似ている。

［６］正解；①・⑤

それぞれの選択肢を検討していこう。

①について。人口は経済レベルの低いところから高いところへと移動する。これは時代を問わず場所を問わず，経済に関する普遍の法則。とくに中国のように同じ国内で経済的に大きな格差がある場合，その人口移動は極端なものになる。貧しい内陸部から豊かな沿海部への人口移動は民工潮と呼ばれるほど大きなうねりとなっている。正文。

②について。一般的な発展途上国の大都市を考えればいい。先進国である日本ですら東京圏に人口が集まる傾向が強いのだ。大都市と地方の経済格差が大きい発展途上国ならいっそうその傾向は強くなる。誤文。

③について。スラムの原則「先進国は都心に，発展途上国では都市周辺に，スラムが形成される」というセオリーそのまま。アメリカ合衆国の大都市におけるスラムは都心部に形成され，郊外ではない。誤文。

④について。ロンドンは歴史の古い都市であり，都心部のドックランズ地区は老朽化が激しくスラム化した。それをインナーシティ問題という。その解決のため，近年再開発が行われ，オフィスビルやレジャー施設，集合住宅などが建設されている。誤文。

⑤について。発展途上国においては特定の大都市に諸機能が集中し，一極集中となりやすい（プライメートシティ）。人口が過度に集まり，さまざまな都市問題も生じる。インフラが整備されていないことに起因する交通渋滞や，急速な自動車の普及による大気汚染のもその一つ。正文。

⑥について。都市への人口集中が進まないということは都市人口割合が低いということであり，つまり農村人口割合が高いということ。そもそも農村人口割合の高い地域とはどんなところか。それは豊かな自然環境の存在。温暖で湿潤で農業がさかんに行われる。モンスーンアジアなどを思い浮かべればいい。都市人口割合の低い国（それは同時に農村人口割合が高い国ということになる）の例としてタイがまず挙げられる。それに対し，乾燥国サウジアラビアには豊かな農村が存

在しない。一部の遊牧民やオアシスの定住者以外は都市生活者となるだろう。自然環境の厳しい国では都市人口割合が高いと認識しておく。そもそも石油産業で潤い，１人当たりＧＮＩも低くないサウジアラビアにおいて，遊牧民がさほど多いとは思えない。誤文である。

第18講　環境問題・災害　解答

［1］正解；③

窒素酸化物は主に自動車の排ガスに含まれている大気汚染物質である。交通量が多い都市部，とくに所得水準が高く経済活動が活発な先進国において人口当たりの自動車保有台数が多く，単位面積当たりの窒素酸化物排出量も多くなると考えられる。ヨーロッパにおいては西部で１人当たりＧＮＩが高く，東部に向かうにつれ低くなる傾向がある。図中では北西部に位置するドイツやオランダで１人当たりＧＮＩが高く，東部に位置するポーランドがやや低く，南東部に位置するルーマニアやブルガリアでさらに低い。よって，西部で値が高く，東部で値が低くなっているチを「単位面積当たり窒素酸化物排出量」と考える。一方のタが「森林の被害状況」となる。

次に，Ｐの「偏西風」と「輸送」，Ｑの「盆地」と「滞留」というキーワードをおさえたうえでＰとＱを検討する。ドイツとポーランドに着目すると，窒素酸化物の排出においてはドイツの方が値が高いが，森林の被害状況はポーランドの方が深刻である。窒素酸化物の排出地域と森林が被害を受けている地域が異なっているということは，「滞留」は該当しない。大気汚染物質がドイツからポーランドへと風によって輸送されている様子が想像できるので，Ｐが適切な文章となる。中緯度から高緯度に位置するヨーロッパは偏西風が卓越する緯度帯である。年間を通じて西から吹く風により，西ヨーロッパ（ドイツなど）で発生した窒素酸化物が，東ヨーロッパ（ポーランドなど）へと運ばれる。その結果，強い酸性雨が東ヨーロッパで観測されることとなり，土壌が強酸性化し，広い範囲で森林の立ち枯れが起こる。

［2］正解；③

アについて。「砂漠化」は世界中の乾燥地域で生じている環境問題であるが，とくに図中のＢのサヘル地帯で最も顕著。「干ばつ」がしばしば発生する地域であり，その影響で砂漠化が進むが，「過放牧」など人為的な要因もみられる。

イについて。アメリカ合衆国サンノゼのシリコンバレーは，戦後になりハイテク産業が集積した地域であるが，化学薬品の流出による土壌汚染が深刻となっている。

ウについて。Ｃに位置する湖沼であるアラル海では湖水が減少し，塩分濃度上昇による生態系の破壊，細砂が呼吸器に入ることによる健康被害など，様々な問

題が生じている。周辺で綿花栽培が大規模に行われ，アラル海に流入する河川から過剰に取水が行われたことが原因である。

［３］正解；④

①について。「マングローブ」は熱帯の沿岸部でみられる植生。バルト海沿岸のような冷涼な地域には分布しない。

②について。「中国西部の標高3000ｍを超える高原地帯」はチベット。チベット民族および漢民族が居住しているが，このような地域で際立った「人口増加」がみられるだろうか。工場や自動車も少なく，大気汚染物質の排出が多いとは思えない。

③について。土壌の塩類集積は乾燥地域のキーワード。過度な蒸発作用が一因となり，地下の塩類が地表面まで持ち上げられるのだ。冷帯のスウェーデンは蒸発量の少ない湿潤国。土壌の塩類集積はみられないだろう。

なお，スウェーデンで深刻な環境問題は，酸性雨を原因とする土壌や湖水の強酸性化。一方，乾燥地域の塩類集積については土壌が強アルカリ性になることが植物の生育を阻害する。塩類には水酸化カルシウムが含まれており，アルカリ性を呈するのだ。「湿潤地域＝酸性，乾燥地域＝アルカリ性」という大まかなイメージを持っておくといい。

以上，①～③は全て誤文であるので，④が正解となる。ウクライナ北部のチェルノブイリ原発は旧ソ連時代の1986年に事故を起こし，周辺地域が放射能によって汚染されている。

［４］正解；④

「農業の休閑期間を短縮」すれば土地に負担がかかってしまい「地力を回復」できない。土地は十分に休ませないといけない。なお，連作を行うなどして地力を低下させることを過耕作というが，農業の生産性を下げるだけでなく，植生喪失すなわち砂漠化の原因にもつながる。

他の選択肢は②が重要。一般の灌漑によっては塩類集積を助長するだけであり，その方法は工夫されないといけない。植物に吸収されない水分が土中に浸透することで塩類集積が発生するのであり，余剰水分を生じないような灌漑方法が必要となる。その主なものが点滴灌漑のような節水農法である。農地に最小限の水しか与えず，農作物には生育に必要な水分が与えられる一方で，土壌は乾いた状態に保たれる。「適切な灌漑」が重要。

［５］正解；②

「高潮」とは低気圧による海面上昇。低気圧に向かって吹き込む風や強い上昇気流の作用によって海面が持ち上がり，洪水をもたらす。選択肢②にあるように，地震が原因ではない。

［６］正解；①

上流から運ばれる土砂がダムによってせき止められ，下流へと土砂が流下しない。砂浜海岸や三角州など河川からの土砂の供給によって形成された地形が成長せず，むしろ波の侵食によって縮小する。砂防ダムは比較的小規模のダムであるが，こういった問題は顕在化する。

第19講　日本社会の変容・生活文化　解答

[１]正解；④

図５から，入間市では1960年代から1990年ごろにかけて大幅な人口増加がみられる。大都市圏（東京大都市圏）の郊外地域に該当することから，農地や山地を開き，多くの住宅地（ニュータウン）が開発されたと考えられる。その後，1990年代から2015年にかけては人口は停滞傾向にある。新たな住宅地開発やニュータウンへの新しい入居者は少なかったと想像できる。ここからは推計になるが，2040年まで人口は減少の一途である。住民の高齢化が進み，老年人口の増加によって死亡率が上昇する一方，相対的な年少人口・若年層の減少によって出生率も低下し，死亡率が出生率を上回る人口の自然減少の状態へと移っていくことが予想される。

次に図６を確認する。1995年は，入間市でニュータウンが盛んに建設された時期が一区切りしたタイミングで，1960年代から1980年代にかけて開発された住宅地に転入した20～30代の若い世代が40～50代となり，住民構成においてボリュームゾーンとなっている。その子どもたちは10代から20代で，ここもボリュームゾーンとなっている。1960年代以前の都市化が進んでいない時代には人口が少なかったため,65歳以上の高齢者の割合は低い。20年後の2015年には，60～70代がボリュームゾーンとなっている。これは，1995年の40～50代がそのまま持ち上がったということである。子の世代に当たる1995年当時の10～20代も，2015年には30～40代となっている。

一方で，さらにその子の世代であるはずの2015年の年少人口についてはさほど大きな値となっていない。晩婚化や非婚化をはじめとする日本全体にみられる少子化の傾向が,この都市においても生じていると考えられる。以上を踏まえて，予想される問題とその対策を検討する。

①について。少子高齢化が進み，死亡率の上昇が予想される地域であることから，空き家の増加は十分に考えらえる。空き家の有効活用のためには，新たに転居する人のために空き家を紹介するシステム作りが重要である。よって，マッチング事業の展開は有効な対策となる。正文である。

②について。高齢化によって医療施設や病床数の必要性もより高くなり，現状のままではそれらが足りなくなることも予想される。その対策として，医療施設の増設に加えて近隣地域の医療施設との連携も重要で，よりスムーズに治療や入

院が必要な高齢者を引き受ける体制づくりも行政の責務となる。こちらも正文。

③について。地域コミュニティを牽引するのは，主に60代までのいわゆる「現役世代」と考えられる。しかし，住民構成が高齢化し「現役世代」が減少することで，地域の活動が行えなくなるなどの問題が生じてくる。住民間の交流も少なくなり，やがて地域コミュニティの衰退へと繋がってしまう。この対策の一つとして，高齢者でも参画しやすい新たな地域文化の創出がある。具体的には，生涯学習の教室を開いたり福祉や介護が一体化した高齢者が集まりやすい施設をつくったりすることで，地域住民の交流の場を増やすことができる。地域コミュニティを保ち，より活性化させるための対策としては非常に有効だろう。正文である。

④について。年少人口率の大幅な低下への対策としては，若い世代の転入者を増やし出生率を上げること，若い世代が出産や子育てをしやすい環境をつくるための支援が挙げられる。それに対し，「小規模な公園を撤去して防災拠点を整備する」は有効な対策とは考えられない。「小規模な公園」が点在することは，小さな子どものいる世帯にとって好ましい環境であり，「子どもを産んで育てやすい環境」と結びつく。「防災」も非常に重要な課題ではあるが，本問で取り上げられている人口減少および少子高齢化の問題と結びつくものではない。よって，④が誤りとなる。

［２］正解；④

現代日本の工業に関する総合問題になっている。正解（誤文）は④。「誤り方」がおもしろいので分析していこう。

まず一つ目のポイントは，「資本集約型工業と労働集約型工業」の違い。資本集約型工業には鉄鋼業，石油化学工業，セメント工業などがあり，労働集約型工業には繊維（衣服）工業と機械工業がある。資本集約型工業は巨大な工場設備への投資が必要な工業。労働集約型工業は，製造費に占める労働費の割合が高い工業。

重要な点は，両者が反対語であること。つまり労働集約型工業が労働力に依存する工業ならば，資本集約型工業においては労働力は重要視されない。労働集約型工業の多くが安価な労働力を求めて発展途上国（１人当たりＧＮＩの低い国）に移動する（＊）のに対し，資本集約型工業は先進国内にとどまる。選択肢④では「鉄鋼」が取り上げられているが，これは資本集約型工業であり，海外に生産の拠点を移すようなことはされない。原料である鉄鉱石と石炭を輸入することによって，日本は現在でも世界有数の鉄鋼生産国の地位を保っている。

もう一つのポイントは，「日本の工場が海外に進出する理由」。これには２つあっ

て，１人当たりＧＮＩの低い国については安価な労働賃金を求めて。選択肢④の「オーストラリア」は１人当たりＧＮＩの高い先進国であり，これに該当しない。一方，もう一つの理由として，先進国に工場が進出する場合もあり，これは現地生産を目的として。アメリカ合衆国やヨーロッパにおける日系の自動車工場など。現地で生産し，現地で販売する。このようにその国で販売することを目的に生産活動を行うことを現地生産といい，発展途上国における生産活動と区別すること。現地生産にとって絶対的に必要なことは「国内市場（マーケット）の大きさ」である。ＧＮＩ（経済規模）が大きな国だからこそ，モノをたくさん買ってくれるということ。１人当たりＧＮＩが高いだけではいけない。人口規模も大きいことが条件。ＧＮＩの大きさは，１人当たりＧＮＩだけではなく人口規模にも比例するのだから。

そういう観点でみると，オーストラリアはどうなのだろうか。人口はわずか2500万人程度。１人当たりＧＮＩは高いものの，人口が少ないのだから，国内市場（マーケット）は少なく，現地販売にはメリットがない。オーストラリアで生産活動を行う日本の工場はありえないことになる。このように論理的に考えて，④を誤文とする。

ちなみに選択肢④には南アメリカについても触れられている。１人当たりＧＮＩが低い国が多いので，現地生産を目的とした工場が進出しない。労働力は安価だろうが，いかんせん遠距離すぎる。商品の価格は労働コストと輸送コストの和によって決められるわけだが，輸送コストが大きくなってしまい，これら南アメリカで作ったものを日本に輸送して販売しようとしても採算が合わない。

（＊）機械工業の多くが発展途上国へと進出しているが，これは単純労働に依存する工業種のみ。機械組立など。熟練労働力に依存する工業（精密機械など）は高度な技術の存在する先進国にとどまる。

［３］正解；④

消去法で考える。

①について。都市部では自動車保有率が低く，例えば東京都や大阪府は世帯当たりの乗用車保有台数が最低レベルにある。地価の高さによる駐車場確保の難しさ，公共交通機関の普及が進んでいることなどさまざまな要因がある。

②について。近年女性の運転免許保有率は上昇しているが，さすがに男性の保有率は超えていないだろう。タクシーやトラックの運転手に女性が少ないことなど考え合わせてみよう。

③について。自家用車の普及によって栄えたのはショッピングセンター。巨大な駐車場を備えた郊外型のショッピングセンターに買い物に出かける者が増えた。古くからある商店街はむしろ廃れていく。駅前商店街はシャッター通りとなっている。

以上より，正解は④。「自家用乗用車の普及によって通勤が容易に」なったことも理由の一つなのだろう。専業農家が減って兼業農家が増えたことは間違いない。

［4］正解；⑥

こういった世界全体を表す図においては，日本に注目するのが最重要。具体的にイメージしやすい。本図においては日本はＢのグループに属している。これは高中低（＊）のいずれなのだろうか。日本は経済レベルの高い先進国である。先進国では一般的に福祉が充実し，女性の社会進出も盛んなはず。このことからＢを「高」とまず考えてみる。しかし，本当にそうなのか。日本の状況を考えてみるに，そんなに女性議員の割合は高いだろうか。イギリスのテリーザ・メイやドイツのメルケルのようにすでに世界には女性の首相が何人もいるわけだが，日本では未だにそういった人物は現れていない。経済的には先進国であっても，女性の地位が確立されているかといえば，必ずしもそうではないような気もするのだ。

そこでもう一度図を確認してみよう。日本以外に，経済レベルの高さに特徴がある地域として北ヨーロッパを考える。人口規模が小さいために，相対的に１人当たりＧＮＩが高くなるという理由はあるものの，世界で最も福祉が充実し，弱者を保護するための政策もいたるところで実施されている国々である。たしかに北欧諸国を図中で確認してみると，そろって日本とは異なりＡとなっているのだ。こうした国々でこそ，女性が社会に深く参画し，そして議員の数も増えているのではないか。Ａを「高」，Ｂを「中」とする。

Ｃを「低」と判定するのは容易だろう。発展途上国というだけではなく，一般に女性の社会進出が制限されている西アジアや北アフリカのイスラム地域の多くがＣに分類されている。女性議員の数は限られているだろう。

（＊）便宜上，「20％以上」を「高」，「10～20％未満」を「中」，「10％未満」を「低」として説明している。

［5］正解；①

中国北部とはモンゴルに接する付近。モンゴル民族が居住する内モンゴル自治区を考える。ここでは移動式のテント住居を示す①が正解。家畜を連れて広い範囲を移動する遊牧民に適した住居なのだ。ちなみにモンゴルではこのようなテント住居をゲルといい，内モンゴルではパオというが，もちろん同じもの。

②について。乾燥地域のものだろう。日干しレンガで作られているようだ。西アフリカ。

③について。ネイティブアメリカンのものだろう。北アメリカ大陸のカナダ西部。

④について。風通しのいい高床式になっており，衛生的である。高温多湿な東南アジアの家屋の特徴。タイ北部。

［6］正解；③

１人当たりのエネルギー消費量の高低は，原則として１人当たりＧＮＩと比例する。しかし，エネルギー資源を産する国においてもそれなりに高い値になる。その様子がイメージできるか。

④が北アメリカ。１人当たりＧＮＩが高く，１人当たりのエネルギー消費量，１人当たりの供給栄養量ともに多い。

③が西アジア。ペルシャ湾岸の産油国が含まれ，比較的１人当たりＧＮＩが高い（サウジアラビアで約25000ドル／人）。北アメリカに次いで２つの指標の値が高い。産油量の豊富な地域であり，エネルギー消費に余裕があることも重ねて考えよう。

①と②については判定の必要がない。

第20講　民族・宗教　解答

［1］正解；①

最もわかりやすいのは中央・南アメリカである。ラテンアメリカとも称されるこの地域は，かつてスペインやポルトガルなどのラテン系諸国によって植民地支配された。植民地化の過程で宣教師が送られ，カトリック化された地域である。カトリックの割合がとくに高い②が中央・南アメリカに該当する。

次に，③が特徴的である。他の地域に比べ正教の割合が高い。正教が信仰される代表的な国に，人口１億人を超えるロシアがある。よって，③はヨーロッパと判定できる。

そして④については，この地域はキリスト教の人口が少ないという特徴が読み取れるが，そもそもの総人口が少ない地域であると考える。北アメリカに含まれる国はアメリカ合衆国とカナダのみであり，両国の人口を合計しても４億人を超えない。キリスト教の人口だけでも４億人を超える①～③は北アメリカには該当しないことからも，④を北アメリカと判定できる。アメリカ合衆国はイギリス系の移民により建国されたという歴史があり，イギリスで主な宗派であるプロテスタントが持ち込まれた。

よって，残った①がアフリカである。アフリカの人口規模は10億人を超え，他の３つの地域に比べ人口規模が大きいこともポイントになっている。①ではキリスト教の人口が約７億人となっており，これはアフリカ総人口の半分程度である。サハラ砂漠以北の北アフリカに分布するアラブ人や，西アフリカのサヘル地帯やナイジェリアなどに住む人々にイスラームの信徒が多いことを考えれば，キリスト教の人口が圧倒的に高い割合を占めるわけではないことは十分に想像できる。キリスト教が伝えられたのはヨーロッパ諸国に植民地支配された際である。イギリスなどに支配された地域はプロテスタント，ポルトガルなどに支配された地域ではカトリックが，それぞれ多くなっている。なお，エチオピアでは，ヨーロッパ諸国のアフリカ進出以前からエチオピア正教が信仰されている。

［2］正解；②

Xはベルギー，Yはスイス。ともにヨーロッパを代表する多民族(多言語)国家。

Xのベルギーでは，北半分の地域に住むフラマン人はゲルマン系の民族でオランダ語を使用し，南半分の地域に住むワロン人はラテン系の民族でフランス語を

使用している（一部にドイツ語使用地域も）。「北半分がゲルマン系の言語，南半分がラテン系の言語」である。このことから，ベルギー北部で使用されているａはオランダ語となり「ゲルマン」語派である。タが決定する。

Ｙのスイスは図からわかるように，４種類の言語が用いられている。公用語は４つあり，チには「複数」が当てはまる。スイスにおいて最も使用人口が大きいのがドイツ語であり，ｃがドイツ語となる。フランスに近い西部ではフランス語，イタリアに接する南東部ではイタリア語がそれぞれ用いられており，ｂがフランス語，ｄがイタリア語。その他の言語はロマンシュ（レートロマン）語である。ドイツ語がゲルマン系，他はラテン系。連邦国家であるスイスでは州ごとの独自性が強い。

［３］正解；④

とにかく民族と宗教の関係で最初に覚えておくのは「ラテン民族はカトリックである」というセオリー。カトリックはラテン民族以外にも信者は多いが，ラテン民族のほとんど全てがその信者であることは間違いない。ラテン民族を確実に知っておけば，カトリックも判別できる。ポルトガル，スペイン，フランス，イタリアの南西ヨーロッパがラテン民族の主な分布地域であり，もちろんカトリックである。キがＡに該当。

さらにＣに注目しよう。旧ユーゴスラビア東部の地域である。枠内の中央にセルビアが位置し，南の菱形の国がコソボ。コソボは旧ユーゴスラビアに含まれるが，民族系統はアルバニア系で宗教はイスラム教（ボスニア・ヘルツェゴビナはスラブ系民族でイスラム教徒が多い）。イスラム教徒の存在が極めて重要で，カがＣとなる。

残ったクはＢに該当。ドイツ北部はプロテスタント，ドイツ南部からオーストリア，イタリアはカトリックが主。

［４］正解；①

旧ソ連南部の乾燥地域にはカザフスタンやウズベキスタンなどの国々があり，これらをまとめて中央アジアという。問題文にある「砂漠地帯のオアシス都市」というのも，中央アジアに位置するものと考えていいだろう。

「中央アジア＝イスラム教」と考えるのが大原則。ここには古代にシルクロードが通じ，東西を往復するアラブ商人によってイスラム教が伝えられた。中央アジア以外にも，東南アジア島嶼部やアフリカ・サヘル地帯などイスラム地域がある

が，これらもアラブ商人たちが移動した交易ルートに沿っている。東南アジア島嶼部は香辛料，サヘル地帯は岩塩が主な商品。

誤っている部分を指摘していこう。

②について。パイナップルは熱帯・亜熱帯の湿潤地域の作物。タイやブラジルで生産がさかんで，日本でも沖縄で栽培される。中央アジアは乾燥地域でパイナップルの栽培に適さない。

③について。イスラム教では，不浄であるという理由で，ブタは食されることはない。

④について。イスラム教では飲酒は禁じられている。

よって①が正文。「コーラン」とはイスラム教の経典である。

［5］正解；①

まずは写真の判定。アはヒンドゥー教。聖なる川であるガンジス川への沐浴。ヒンドゥー教徒の生活はガンジスとともにある。

イはイスラム教。モスクの中の光景である。メッカの方向に向かって祈りを捧げている。

ウは仏教。体全体をゆるやかに覆うような衣服に身を包むのは仏教の僧侶。髪の毛を剃っているのも手がかりになるだろう。手に食器のようなものを持っているが，托鉢をしているところなのだろうか。

では，帯グラフの判定をしよう。南アジアは国ごとに宗教分布が明確な地域。インドは，少なからずイスラム教徒も存在するものの，ヒンドゥー教徒が圧倒的多数を占める国。バングラデシュは，パキスタンと同様にイスラム教国。スリランカは，北部のタミル人はヒンドゥー教徒だが(インドから移り住んできた)，国民の過半を占めるシンハリ人は仏教徒である。これより，Ｐがインド，Ｑがスリランカ，Ｒがバングラデシュである。

［6］正解；①

Ａのキプロスでは，南部のギリシャ系住民と北部のトルコ系住民との間で対立がみられる。「アラブ」を「トルコ」に改めよう。

②について。ロシア最南部のカフカス地域に位置するチェチェン共和国はイスラム教徒が多い。ロシアからの分離独立を求める動きがあり，武力衝突にも発展している。

③について。「アフリカの角」ソマリアである。無政府状態に陥り，国内の複数

の勢力が対立し内戦に発展した。なお，内戦の原因として民族や宗教の違いが挙げられることがあるが，それが全てではないことを認識しておこう。ソマリアの人口のほとんどはソマリ人であり，宗教もイスラム教が多数。民族や宗教の違いに起因した内戦ではないのだ。

④について。Ｄのインダス川上流域はカシミール地方。「ムスリムが多数を占める」パキスタンと「ヒンドゥー教徒が多数を占める」インドとの係争地。この地域の帰属を巡り紛争が生じた。

Ⓒ RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。